設置の趣旨等を記載した書類

目　次

1　設置の趣旨及び必要性・・・

①-2 本学における学術観光学と実務観光学の教育目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
②応用的な能力を育成する教育目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
③総合的な能力を育成する教育目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
1-10 本学のディプロマ・ポリシー（卒業認定と学位授与の方針）・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
1-11 研究組織の学問分野 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
1-12 教育研究上の到達目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
1-13 既設専門学校とのカリキュラム上の相違・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
(1) 建学の精神、教育理念、養成する人材像等の相違・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
(2) 本学の教育課程の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
2　せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
2-1 観光学教育・研究の歴史と動向を踏まえた学術観光学と実務観光学の融合・・・・・・・・・ 31
2-2 観光学の系統的かつ複合的な学び・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
2-3 本学の個性・特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
3　学科等の名称及び学位の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
(1) 本学の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
(2) 学科の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
(3) 学位の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
4　教育課程の編成の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
4-1 カリキュラム・ポリシー（CP）と科目区分・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
(1) 本学のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）・・・・・・・・・・・・・・・ 33
(2) 教育課程の科目区分と科目構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
(3) 職業専門科目群及び展開科目群における６つの観点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
① 職業専門科目群及び展開科目群における６つの観点に対応する科目・・・・・・・・・・・・ 40
①-1「観光理論」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
①-2「ホスピタリティ」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
①-3「地域」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
①-4「マネジメント」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
①-5「情報・統計」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
①-6「英語」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
4-2 科目群間の対応関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
4-3 科目群における各科目の対応関係と必修・選択科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
(1) 基礎科目群科目の他科目との対応関係及び必修・選択の区別・・・・・・・・・・・・・・・ 57
(2) 職業専門科目群（学術）における科目の対応関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
(3) 職業専門科目群（実務）における科目の対応関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
(4) 職業専門科目群（観光英語）の科目の対応関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
(5) 展開科目群における科目の対応関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
(6) 総合科目における科目の対応関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62

4-4 履修順序の考え方等・・・

8-3 図書等の資料及び図書館の整備計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
(1) 和書・一般図書の選定基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
(2) 和書・専門図書の選定基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
(3) 洋書・専門図書の選定基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
(4) 雑誌の選定基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
9　入学者選抜の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
9-1 学生受入れの方針　アドミッションポリシー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84
9-2 入学試験の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
(1) 一般選抜入試・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
(2) 総合型選抜入試・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 86
(3) 学校推薦型選抜入試・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88
9-3 選抜体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89
9-4 社会人、留学生及び帰国生徒の受け入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89
(1) 社会人の受入れと社会人の定義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89
(2) 留学生及び帰国生徒の受け入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 90
１０　取得可能な資格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
１１　臨地実務実習の具体的計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
11-1 実習の目的と臨地実務実習施設 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
(1) 臨地実務実習の統一的な目的及び実施時期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
(2) 「臨地実務実習Ⅰ」の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 93
(3) 「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス)」
の目的・・ 107
①「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス)」の実習の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 108
②「臨地実務実習Ⅲ（航空クラス)」の実習の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111
③「臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス)」の実習の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 112
④「臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス)」の実習の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 113
⑤「臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス)」の実習の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 114
⑥「臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス)」の実習の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 124
⑦「臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス)」の実習の目的・・・・・・・・・・・・・・・ 124
⑧「臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス)」の実習の目的・・・・・・・・・・・・・・・ 129
11-2 臨地実務実習科目とクラスの選択方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
11-3 実習施設の確保の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131
(1)教育課程に必要な実習施設の確保・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131
(2)今後の臨地実務実習の継続的かつ安定的な確保の方策とその体制・・・・・・・・・・・ 131
(3)臨地実務実習施設のさらなる充実の方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 132
(4)実習中の教員の指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 133
11-4 実習水準の確保の方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 136
(1) 実習の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 136
①「臨地実務実習Ⅰ」の到達目標と実習計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 136

①-1「臨地実務実習Ⅰ」の到達目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 136
①-2「臨地実務実習Ⅰ」の実習の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 136
①-3「臨地実務実習Ⅰ」の実習施設指導者の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 137
②「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（航空クラス)」の到達目標と実習計画・・・・・・・・・・・・・・ 138
②-1「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス)」の到達目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 138
②-2「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス)」の実習の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 138
②-3「臨地実務実習Ⅲ（航空クラス)」の到達目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 141
②-4「臨地実務実習Ⅲ（航空クラス)」の実習の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 142
②-5「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（航空クラス)」の実習施設指導者の評価・・・・・・・・・・・ 144
③「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（鉄道クラス)」の到達目標と実習計画・・・・・・・・・・・・・・ 145
③-1「臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス)」の到達目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 145
③-2「臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス)」の実習の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 145
③-3「臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス)」の到達目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 147
③-4「臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス)」の実習の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 147
③-5「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（鉄道クラス)」の実習施設指導者の評価・・・・・・・・・・・ 149
④「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（宿泊クラス)」の到達目標と実習計画・・・・・・・・・・・・・・ 149
④-1「臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス)」の到達目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 149
④-2「臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス)」の実習の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 150
④-3「臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス)」の到達目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 152
④-4「臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス)」の実習の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 153
④-5「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（宿泊クラス)」の実習施設指導者の評価・・・・・・・・・・・ 155
⑤「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（観光地域創生クラス)」の到達目標と実習計画・・・・・・・・・ 156
⑤-1「臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス)」の到達目標・・・・・・・・・・・・・・・ 156
⑤-2「臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス)」の実習の内容・・・・・・・・・・・・・・ 156
⑤-3「臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス)」の到達目標・・・・・・・・・・・・・・・ 157
⑤-4「臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス)」の実習の内容・・・・・・・・・・・・・・ 158
⑤-5「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（観光地域創生クラス)」の実習施設指導者の評価・・・・・・・ 159
(2)複数施設を実習施設とする場合の一定水準の確保方策・・・・・・・・・・・・・・・・ 159
(3)実習施設における指導者の配置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 159
(4)成績評価方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 159
(5)事前・事後の指導計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 160
(6)実習実施の学内体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 160
11-5 実習施設との連携体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 161
(1) 実習施設との実習前・実習後の協議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 161
(2) 実習中の連絡体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 162
(3) 実習における指導の方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 162
(4) 実習施設での教育の質保証の方策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 162
11-6 安全確保及びハラスメントの防止 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 163
11-7 守秘義務等のセキュリティー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 163

11-8 危機管理体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 164
11-9 学生に対する報酬及び交通費支給等の取扱い ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 164
11-10 臨地実務実習に関する全学的なサポート体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 164
11-11 実習指導体制に関するまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 164
(1)実習の学内体制の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 165
(2)実習の事前協議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 165
(3)実習の事前指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 165
(4)実習中の指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 165
(5)実習中の連絡体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 166
(6)実習の事後指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 166
(7)実習の事後協議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 166
１２　管理運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 166
12-1 教授会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 166
12-2 運営協議会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 166
12-3 委員会の設置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 167
１３　自己点検・評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 167
13-1 実施体制・方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 167
(1)評価項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 167
(2)評価結果の公表と活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 167
１４　情報の公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 168
14-1 公表の方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 168
14-2 公開する項目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 168
１５　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 168
１６　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 169
16-1 教育課程内の取組み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 169
16-2 教育課程外の取組みとその組織体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 169

１ 設置の趣旨及び必要性

1-1 学校法人穴吹学園の概要とせとうち観光専門職短期大学設置の趣旨

学校法人穴吹学園（以下、「本学園」という。）は、香川県高松市において、昭和 60（1985）年に四国情報ビジネス学院を開設し、それ以降も**中四国**地域の人材育成のニーズに応え、各種の専門学校を順次開設してきた。現在では、高松市内に 9 つの専門学校を設置している。また、姉妹校として、徳島県に 3 校、広島県に 6 校の専門学校がある。本学園の全専門学校は、企業の業務現場で即戦力となる有為な人材を育成する職業教育を 30 余年にわたり実践してきた。そして、姉妹校を含めた専門学校 18 校の 52 学科で文部科学大臣より職業実践専門課程の認定を受けている。平成 31（2019）年 3 月末現在で 18 校の卒業生累計 36,014 名が、専門技能業務の現場で活躍し実績を残すことで、地域社会の発展に貢献してきた。

一方、近年の我が国の大きな社会変革の一つが急激な**「観光振興」**である。とりわけ、我が国のインバウンドが平成 15（2003）年の観光立国宣言を契機に増大し始め、宣言時に 521 万人であった訪日観光客到着数が、特に平成 24（2012）年以降に急増して、平成 30（2018）年には過去最高の 3,119 万人となった。また、平成 28 年 3 月 30 日に明日の日本を支える観光ビジョン構想会議が報告した「明日の日本を支える観光ビジョン ―世界が訪れたくなる日本へ― 」によれば、訪日外国人旅行者数の目標を、2020 年には 4,000 万人、2030 年には 6,000 万人としている。これらのインバウンドの波は都市部だけではなく、すでに地方にも及んでいる。

そのような状況の中、香川県高松市を中心とする瀬戸内地域（以下「瀬戸内」という。）においては、観光産業が事業の拡大に尽力し、観光客入込み数の増大に成果を挙げている。特に、香川県においては、高松市内の中心商店街である高松丸亀町商店街で、観光振興に伴う大規模な商店街再開発が行われている。その商店街活性化によって、活気溢れる商店街が実現し、それが観光対象となって高松の観光振興全体に大きく寄与している。また、香川県小豆郡の小豆島でも、観光振興によって島の観光客入込み数が増大し、それとともに島民による地域活性化の事業が実績を上げつつある。

また、2010 年度から 3 年に 1 回、瀬戸内海の島々を舞台に、現代美術の国際芸術祭（瀬戸内国際芸術祭）が開催され、訪れる観光客は増加傾向にあるとともに、官民が連携して、来訪者の確保等に積極的に取り組んでいる。瀬戸内国際芸術祭は「海の復権」をテーマに掲げ、島の住人と世界中からの来訪者の交流により瀬戸内海の島々に活力を取り戻し、伝統文化や美しい自然を生かした現代美術を通して瀬戸内海の魅力を世界に発信し、地球上のすべての地域の「希望の海」となることをめざしている。海外からの注目度の高さについては、瀬戸内の島々が米国ニューヨーク・タイムズ誌の「2019 年に行くべき 52 か所」のうち第 7 位に選ばれていることからも明白である。さらに、香川県高松市が所在する四国地方には、四国に所在する空海（弘法大師）ゆかりの 88 か所の寺院（四国八十八箇所）を巡拝する「四国遍路」という巡礼の文化があり、それに伴い、巡拝するお遍路さんに対して、地元の人々が食べ物や飲み物などを無償で提供するという伝統的な習慣・文化（「お接待」と呼ばれている。）も生まれている。現在では、信仰だけでなく、さまざまな目的を持って四国巡礼に来訪するようになったが、来訪者の中には外国人も増加している。2015 年 4 月に「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～が、日本遺産に登録され、

自治体と各寺院が一体となって観光振興に取り組んでいる。(これらの瀬戸内における観光振興の現状については、「1-4 産業界等の社会的要請等から考察する必要性（2）瀬戸内における観光振興の現状（6 ページ)」において、資料を添付して改めて説明する。)

このように我が国のインバウンドの急増と観光振興の発展が見込まれる状況とこの時期において、観光振興と観光による地域振興の継続と発展を図るために、「行政（国・地方公共団体）が地域住民との協働で観光資源や地域資源を保護・管理するとともに観光振興策等を提言し、その提言のもと、個々の観光支援事業体である**「観光産業と観光による地域創生事業（民間企業・団体)」**（以下、略して「観光事業」という場合がある。）が、地域社会の観光資源（歴史・文化・自然等）や人的ネットワークを活かした創意工夫を行い、行政がそれらに対して支援等を行う」という仕組みが成立している。(ただし、最近では観光産業が地域住民に直接働きかけ、これをきっかけに連携・協働し、観光資源や地域資源の創造と利用に取り組む場合が増えてきていることにも注意が必要である。)**（資料 1　本学の観光振興及び地域振興のイメージ）**これは、大学改革を推進するための仕組みとして、「文部科学省がその方針等を示し、個々の大学が、保有する強み、特色、個性を活かし、地域との連携のもと教育内容・方法の改善・充実等のために創意工夫をし、それらに対して文部科学省が支援する」という仕組みがあるのと同様である。

上記のような仕組みをうまく循環させ継続させていくために、現在及び将来に向けては、**「観光産業と観光による地域創生事業」**において、**「観光振興」**の担い手となる**「エキスパート」**の養成が求められている。観光振興のエキスパートを養成するためには、「観光の理論と知識」と「観光実務の知識と技能」をバランスよく修得し、それらを融合させながら、観光事業の各現場において企画、運営、管理等におけるマネジメント能力や創造力、リーダーシップを発揮するとともに、各地で課題となり始めたオーバーツーリズムへの対策等にも従事することができる能力を修得させることが必要であるとともに、このような人材を比較的短期間のうちに養成することが、我が国の観光振興と地域社会の発展における喫緊の課題となっている。(これらの課題については「1-2 社会背景から考察する必要性（4 ページ)」及び「1-3 時期の課題（観光による地方創生）から考察する必要性（5 ページ)」において資料を添付して改めて説明する。)

この人材養成の課題に対する現状として、既存の四年制大学の観光学部等においては、学術的な理論を中心とした観光教育が行われており、観光が学際的な学問であることから、観光を入り口として幅広い教養と知識が身に付き、汎用性の高いジェネリックスキルが養成されるため、現実には、公務員や銀行等の他業種に進路を変更する学生もいるなど、卒業生が必ずしも観光産業や観光による地域創生事業の担い手になるとは限られていない状況にある。(参考までに、「和歌山大学観光学部 10 周年記念誌」によると、和歌山大学観光学部における、2010 年度から 2015 年度までの卒業生の観光関連業への就職実績は全体の 24%である。)

一方で、既存の専門学校等においては、接客や顧客サービスに関するビジネススキルの修得に重点が置かれ、あくまで就職先として観光産業を捉えてきたため、観光産業の現場で従事する人材の量的な充実は図られてきたが、我が国の観光振興や地域社会の発展を視野に入れた観光学の理論の修得や思考力の養成等についてはあまり注力されて来ず、「観光産業及び観光による地域創生事業」の現場において中核的な役割を果たす人材の質的な充実が図られていない状況にある。

このため「観光の理論と知識」と「観光実務の知識と技能」を相互に融合し、バランスよく修得し、その基礎となる人間力や思考力をも兼ね備え、その職務を通じて観光振興の中核的な担い手となる高度専門職業人を養成するとともに、**学生の卒業後の進路が観光産業や観光による地域創生事業に直結する新たな高等教育機関の設置の必要性が高まっている。**

以上のような我が国の観光振興とその担い手の養成の課題とそれに対する現状を踏まえ、瀬戸内を教育、研究の拠点として、「観光の理論と知識」と「観光実務の知識と技能」を相互に融合しながらバランスよく修得し、観光産業や観光による地域創生事業において、中核的な高度専門職業人となる人材の養成に、本学園が積極的に取り組み、我が国の大学における観光教育及び人材養成の一端を担うことは、我が国の高等教育の充実と発展に寄与するものであるとともに、香川県や高松市、瀬戸内の企業等からの期待や要望でもある。またこれは、観光を地方創生の切り札とし､GDP600 兆円達成への成長戦略の柱としている政府の施策とも軌を一にするものと思われる。

（資料 2 香川県知事要望書）（資料 3 高松市長要望書）

さらに、これらの趣旨を学校教育法に照らし合わせてみた場合、以下のとおり、第 108 条の各項の規定の趣旨に合致するものと考えられる。

学校教育法

第 108 条　大学は、第 83 条第 1 項に規定する目的に代えて、深く専門の学芸を教授研究し、職業又は実際生活に必要な能力を育成することを主な目的とすることができる。

2　前項に規定する目的をその目的とする大学は、第 87 条第 1 項の規定にかかわらず、その修業年限を２年又は３年とする。

3　前項の大学は、短期大学と称する。

4　第２項のうち、深く専門の学芸を教授研究し、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を育成することを目的とするものは専門職短期大学とする。

よって、今後も成長分野になると予想される「観光」を、教育研究上の目的及び学生が目指すべき職業・産業分野として、既存の四年制大学とも異なり、専門学校等とは次元の異なる、**「三年制の専門職短期大学」**を設置して、高度な実践力と豊かな創造力を兼ね備えた高度専門職業人を養成することとしたい。

なお、本設置計画（構想）においては、大学名称及び学科名称を「せとうち観光専門職短期大学（以下、「本学」という。）観光振興学科（以下、「本学科」という。）」とし、その理由等については「3　学科等の名称及び学位の名称（33 ページ）」において説明する。

また、本学が養成する人材像を下記のとおり定めることとし、その詳細や主な進路と将来像については、本学及び当該人材の必要性の考察と産業界や社会の要請等を通じて、観光振興とそれを支える観光産業及び観光による地域創生事業の将来的ビジョンをも踏まえて、「1-8 本学が養成する人材像（17 ページ）」において改めて説明する。

本学が養成する人材像の定義
観光振興のエキスパートとして、観光産業及び観光による地域創生事業を牽引しつつ、社会構造の変化やニーズを的確に捉えて事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる高度専門職業人

1-2 社会背景から考察する必要性

本学の設置が必要となる「社会背景」には、観光が世界の動向を左右するようになった現実がある。観光客数は、第二次大戦の戦禍から経済復興を遂げた先進諸国において昭和 40（1965）年代に激増し始め、さらに平成 7（1995）年頃以降には中進諸国からも急増して、現在に至るまで世界全体でほぼ右肩上がりに増大した。国連世界観光機関（以下「UNWTO」という）の統計によれば、先進国に大衆観光が出現した昭和 35（1960）年に年間 7000 万人であった国際観光客到着数は、平成 29（2017）年には 13 億 2,600 万人（前年比 7%増）となり、2030 年には 18 億人に達すると予測されている。さらに、国際観光収入総額は 1 兆 3,400 億米ドル（前年比 5%増）**（資料 4 UNWTO (2018) *Tourism Highlights,* p.2）**となった。観光は、今や地球規模の巨大な社会現象であり、観光の経済的規模は、2017 年に世界全体の GDP 総額（79 兆 8000 億米ドル）の 10.4%（8 兆 3,000 億米ドル）を占め、3 億 1,300 万件の雇用（全雇用の 9.9%）を生み出している。**（資料 5 WTTC (2018) *Travel & Tourism: Global Economic Impact & Issues 2018,* p.5）**

こうして、観光は、「21 世紀の基幹産業」であると評価されるが、同時に、世界中で観光地の社会、文化、環境等に多大な負の影響を及ぼすと批判もされた。そのような観光の負の影響にも拘わらず、観光客の「爆発的な増大」という事実から明白なように、観光は世界中の誰もが望む余暇活動であり、すべての人々が享受すべき「人権」である、と国際的に認識されている。**（資料 6 UNWTO(1999) *Global Code of Ethics for Tourism,* p.2）**

そこで、観光地に弊害をもたらす従来の観光に代わる新たな観光形態が、昭和 50（1975）年代以降に UNWTO 等の観光関係機関によって模索され、実践され始めた。その実績に基づいて、UNWTO は平成 4（1992）年に「持続可能な観光（sustainable tourism）」を提唱した。持続可能な観光とは、観光地に負の効果を与えず、むしろ観光を通して、観光地の自然・生態系を保護したり、文化を継承・創造したりする観光形態であり、それによって、観光地の持続可能性を実現すると同時に、観光それ自体の持続可能性をも具現する観光形態である。

持続可能な観光は、平成 16（2002）年の持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグ）において、世界が共有する開発政策の理念である持続可能性を実践した唯一の開発領域と評価された。**（資料 7 “Johannesburg Plan of Implementation of the World Summit on Sustainable Development” (2002), Chapter IV, Paragraph 43）**このような持続可能な観光は、観光客、観光産業及び観光による地域創生事業者、地域住民という全ての観光関係者が、それぞれに自らの役割を果たすことで実現される。**（資料 6 UNWTO (1999) *Global Code of Ethics for Tourism*）**

また、持続可能な観光の実践については、UNWTO によるトップ-ダウン型の開発ばかりでなく、昭和 55（1980）年代初めから、住民が主体となってボトム-アップ型の内発的地域創生を実践する、由布院や長浜といった多くの地域創生の事例が見られ始めた。そうした地域創生は、世界のとりわけ先進諸国の周辺地域において実践されている。我が国では、「観光まちづくり」の事例がそれに相当する。観光まちづくりは、地域住民が持続可能な観光の活用によって、地域の自然・生態系を保護したり、文化を継承・創造したりして、持続可能な地域活性化を実現した。さらに観光まちづくりの成果は、地方自治体や政府の開発政策に多大な影響を及ぼしている。

このような、現代観光の隆盛という地球規模の社会背景において、観光による地域創生や観光

まちづくりの観点から観光振興と地域社会の発展を実現することができる人材を速やかに育成することが、我が国の観光にとっても喫緊の課題となっている。これら課題に対応するため、本学を設置して、「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材」を養成する必要がある。

1-3 時期の課題（観光による地方創生）から考察する必要性

観光のグローバルな隆盛という社会背景を反映して、我が国のインバウンドが増加し、我が国の観光振興と観光事業が拡大する「時期」の課題に応じるため、本学の設置と「観光振興のエキスパートとして観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材」の養成が、我が国と、とりわけ観光振興による地域活性化に取り組む各地において切望される状況にある。

我が国のインバウンドが平成 15（2003）年の観光立国宣言を契機に増大し始め、宣言時に 521 万人であった訪日観光客到着数が、特に平成 24（2012）年以降に急増して、平成 30（2018）年には過去最高の 3,119 万人となった。**（資料 8 訪日外国人旅行者数の推移）**

また、平成 28（2016）年 3 月 30 日に明日の日本を支える観光ビジョン構想会議が報告した「明日の日本を支える観光ビジョン ―世界が訪れたくなる日本へ― 」によれば、訪日外国人旅行者数の目標を、2020 年には 4,000 万人、2030 年には 6,000 万人としている。さらに、訪日外国人旅行消費額の目標を、2020 年には 8 兆円、2030 年には 15 兆円。地方部での外国人延べ宿泊者数の目標を 2020 年には 7,000 万人泊、2030 年には 1 億 3,000 万人泊としている。さらに、国を挙げて、観光を我が国の基幹産業へと成長させ、「観光先進国」という新たな挑戦に踏み切る覚悟を示して、観光先進国への「３つの視点」と「１０の改革」を掲げた。その後、政府は着実に改革を推進している。**（資料 9 明日の日本を支える観光ビジョン（抄））**

また、観光立国宣言では、我が国の主要観光地の観光客入込数を増やす施策を講じると同時に、国土交通省が「魅力ある観光交流空間づくり」（平成 15（2003）年）で掲げた「一地域一観光」という標語のもとに、各地域に固有の観光資源を開発することで、観光による地域創生や振興を図る方針が掲げられた。この「一地域一観光」という観光振興の方針は、平成 7（1995）年頃から話題となった、前述（4 ページ）の「観光まちづくり」の動向と相応し、平成 26（2014）年に開始された地方創生政策とも関連する。このため、観光による地方創生を実践する人材の養成が必要な状況となっている。

このように、我が国のインバウンドの増加と、それに対応する観光事業や観光振興の発展が見込まれるこの「時期」には、観光振興のための即戦力となる人材への需要の増加が当然見込まれるが、さらに**「観光振興による地方創生」**の観点からも、その事業や開発を担う優秀な人材の迅速な育成が不可欠である。そのため、本学を設置して「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材」を養成する必要がある。

1-4 産業界等の社会的要請等から考察する必要性

(1) 産業界ニーズを踏まえた観光経営人材の育成強化（国の施策）

前述（5 ページ）の「明日の日本を支える観光ビジョン ―世界が訪れたくなる日本へ― 」に

よると、３つの視点のうちの「視点２ 観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に」の中で、標記の「産業界ニーズを踏まえた観光経営人材の育成強化」が盛り込まれ、観光産業人材の抜本的育成・強化に向け、以下の３つの取り組みを実施し、観光産業の担い手を３層構造により育成するとしている。**（資料 9 明日の日本を支える観光ビジョン（抄））**

① 観光経営を担う人材育成

・2020 年までにトップレベルの経営人材の恒常的な育成拠点を大学院段階（ＭＢＡを含む）に形成（まずは、新たな実践的・専門的プログラムの開発に着手）

② 観光の中核を担う人材育成の強化

・大学の観光学部のカリキュラム変革による、地域観光の中核を担う人材育成の強化（標準カリキュラムの開発に着手）

・2019 年度の開学を目指している実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化の際には、観光分野の人材についても産業界のニーズに対応して育成

③ 即戦力となる地域の実践的な観光人材の育成強化

・地域の観光分野の専修学校の活用等による人材育成の強化

上記の「明日の日本を支える観光ビジョン ―世界が訪れたくなる日本へ― 」は平成 28（2016）年 3 月 30 日に報告され、その後、専門職大学制度が施行されたが、令和元（2019）年 10 月現在、②に掲げる、観光分野の人材育成を行う専門職大学及び専門職短期大学は設置されていない。

また、観光庁が設置した「産学連携による実務人材育成ワーキンググループ」の報告によると、観光系大学・学部において、以下のような人材の育成が求められている。

①変化やニーズを分析できる人材

（背景：インバウンドの拡大、IT/AI 技術の進展、ビッグデータの活用）

②新しい価値を創造できる人材

（背景：ニーズの多様化、ポジショニングの重要性、ビッグデータも活用）

③地域の魅力を伝え、活用できる人材

（背景：地域創生の必要性、魅力の発見、活用はますます重要に）

⑵瀬戸内における観光振興の現状

先にも述べたように我が国の観光が発展するこの時期に、本学の設置を予定している瀬戸内では、観光産業が事業の拡大に尽力し、観光客入込み数の増大に成果を挙げている。香川県において、平成 29（2017）年の県外観光客入込み数は 946 万人となり、これは、瀬戸大橋が開通して過去最大となった昭和 63（1988）年の 1,035 万人に次いで、2 番目の入込数となった。増加の要因は、四国ディスティネーションキャンペーンが開催されたことや、インバウンド観光客が増加したこと等が考えられる。**（資料 10 香川県交通機関別県外観光客入込数）**さらに対岸の岡山県では、平成 28（2016）年の県外観光客入込み数が 969 万人となり、対前年比 13.8％の増加となっている。**（資料 11 岡山県県内・県外別の観光客数）**

また、香川県では、高松空港が平成 30（2018）年 4 月より民営化したのを契機に、格安航空会社（LCC）の誘致によって、国内線を現在の 2 路線から 6 路線に、国際線を現在の 4 路線から 7 路

線に増便し、現在の旅客数 180 万人（平成 27（2015）年実績）が、15 年後に 7 割増の 307 万人に到達すると見込まれ**（資料 12 高松空港株式会社マスタープラン）**、この増加に対応した四国及び瀬戸内の観光振興が喫緊の課題となっている。さらに、高松市内では、平成 29（2018）年 11 月に高松駅前にＪＲクレメントイン高松が新たに開業したのを始め、ホテルの新規開業や改修等による事業拡大が続いている。

本学が立地する瀬戸内においては、観光振興による地域振興事業が数多く実践され、成果を挙げている。特に高松市内の中心商店街である高松丸亀町商店街では、観光振興に伴う大規模な商店街再開発が行われている。その商店街活性化によって、活気溢れる商店街が実現し、それが観光対象となって高松の観光振興全体に大きく寄与している。また、香川県小豆郡の小豆島でも、観光振興によって島の観光客入込み数が増大し、それとともに島民による地域活性化の事業が実績を上げつつある。高松丸亀町商店街と小豆島の両事例は、瀬戸内地域の他の観光や地域の振興事業とともに多くのメディアで紹介され、国内外から高い評価を広く受けてきた。

また、2010 年度から 3 年に 1 回、瀬戸内海の島々を舞台に、現代美術の国際芸術祭（瀬戸内国際芸術祭）が開催され、訪れる観光客は増加傾向にあるとともに、官民が連携して、来訪者の確保等に積極的に取り組んでいる。瀬戸内国際芸術祭は「海の復権」をテーマに掲げ、島の住人と世界中からの来訪者の交流により瀬戸内の島々に活力を取り戻し、瀬戸内の伝統文化や美しい自然を生かした現代美術を通して瀬戸内海の魅力を世界に発信し、地球上のすべての地域の「希望の海」となることをめざしている。海外からの注目度の高さについては、瀬戸内の島々が米国ニューヨーク・タイムズ誌の「2019 年に行くべき 52 か所」のうち第 7 位に選ばれていることからも明白である。**（資料 13 米国ニューヨーク・タイムズ誌の「2019 年に行くべき 52 か所」）**

さらに、香川県高松市が所在する四国地方には、四国に所在する空海（弘法大師）ゆかりの 88 か所の寺院（四国八十八箇所）を巡拝する「四国遍路」という巡礼の文化があり、それに伴い、巡拝するお遍路さんに対して、地元の人々が食べ物や飲み物などを無償で提供するという伝統的な習慣・文化（「お接待」と呼ばれている。）も生まれている。現在では、さまざまな目的で四国巡礼に来訪する者がいるが、なかには外国人も増加している傾向が見られる。また、2015 年 4 月に「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～が、日本遺産に登録され、自治体と各寺院が一体となって観光振興に取り組んでいる。**（資料 14 日本遺産リスト）**

このような瀬戸内における観光振興による地域社会の発展の実績は、今後ますますの観光振興の広がりを喚起していると思われる。

(3)我が国の観光産業の現状

現行の日本標準産業分類（総務省　平成２６年４月施行）に観光業という分類は存在しない。鉄道業、航空運輸業、宿泊業、旅行業、娯楽業などがそれに当たるものと考えられるが、観光業という明確な分類がないという状況から、観光産業には複合的な要素が多く含まれているものと考えられる。**（資料 15 日本標準産業分類（総務省　平成２６年４月施行））**

日本経済新聞社が出版した「2019 年版日経業界地図」には、178 業界、3,900 企業・団体の現状と展望について述べられているが、その中に取り上げられている観光関連産業は、旅行、レジ

ャー施設、ホテル、農ビジネス、航空運輸、鉄道の６業界である。産業界等のニーズを分析するための参考として、以下、簡単に記述する。

①旅行業

日本人の宿泊旅行者数はほぼ横ばい、出国者数は伸び悩むが、訪日客は観光立国をめざす政府の施策や格安航空会社（LCC）の普及で 2020 年に 4,000 万人という計画に着々と近づいている。一方で訪日客の多くがオンライン系の旅行会社（OTA）を利用しており、国内旅行会社は取り込みに苦労している。各社は茶道体験や相撲観戦など「コト消費」につながるチケットの取り扱いなどで顧客の呼び込みに取り組んでいる。また、店舗系旅行会社もネット対応を急いでいる。

②レジャー施設

体験を重視する「コト消費」の人気や訪日外国人客の増加を受けて市場全体の集客は増加している。東京ディズニーランドとユニバーサル・スタジオ・ジャパンが市場全体を牽引している。経済産業省によると、2017 年度のテーマパーク・遊園地の市場規模は 2016 年比で 3.8%増の 6,832 億円と 6 年連続の増加となった。

③ホテル

宴会場や婚礼施設があるフルサービスのシティホテル、ビジネスホテル、リゾートホテルに大別されるが、ビジネスホテルは観光利用が増加し、宿泊主体（特化）ホテル、バジェットホテルとも呼ばれている。厚生労働省によるとホテルは 2016 年度に約 1 万軒と 10 年で 1 割の増加となり、室数は約 87 万室の 2 割の増加となり、減少する旅館と対照的に訪日客を獲得している。外資を含む新設競争や民泊の合法化で、供給過剰の懸念もあるが、人手不足は深刻である。

④農ビジネス

農ビジネスを担う農村は高齢化と衰退が続いている。親の農業を子が継がず、世代交代時に廃業するケースが多い。また、農業参入企業の大半が拡大戦略を描けていない。経営体力のある法人がどれだけ参入するかが浮上の鍵になる。観光関連の事業としての取り組みの例としては、日本航空が農業関連ビジネス手掛ける和郷と共同出資会社を設立し、成田空港の近郊で農業体験ができる観光農園を 2020 年に開設する計画であり、イチゴやさつまいもの収穫体験などができる観光農園に空港を訪れる訪日客の需要を取り込む計画とのことである。

⑤航空運輸

我が国の航空需要は堅調で、国内線と国際線ともに増加傾向にある。訪日外国人客の増加や企業業績が良いことから出張需要が高いことが背景にあり業績は好調である。地方空港を結ぶ格安航空会社（LCC）が潜在需要の掘り起こしに一役を買っており、今後も LCC の動向が鍵となるが、企業の統合や新設が予定されており、競争が激しくなると考えられる。

⑥鉄道

JR、私鉄各社のビジネスモデルは主力の鉄道事業のほか、百貨店・スーパーなどの流通、不動産、ホテル・レジャーなど多岐にわたる。鉄道需要は、都市部を中心に東京オリンピック・パラリンピックが開催される 2020 年までは堅調に推移する見込みである。リピーターの訪日外国客が団体ツアーから鉄道を利用した観光にシフトしていることも影響している。

以上のような状況から、航空運輸、鉄道、ホテル、レジャー施設においては今後も人材需要が堅調に推移すると考えられている。

(4)本学に対する産業界（観光産業）等の人材ニーズと雇用等の現状

上記(1)(2)及び(3)のとおり、産業界（観光産業）等からの本学が養成する人材への期待は大きいものと思われるが、本学において、第三者機関に委託して行った調査等によれば、これら多種多様な業種の中で、とりわけ、瀬戸内内外を結ぶ交通業と宿泊業から、「観光の理論と知識」と「観光実務の知識と技能」をバランス良く修得した観光事業における中核的な高度専門職業人の養成を求める要望が大きい。またそれ以外の業種（分野）では、地域の観光を担う伝統産業や観光施設などから観光振興と地域振興を同時に見据えた企画・運営、地域活動の組織化、人的ネットワークの構築等を担う若い人材が必要とされ、そのニーズに対応する人材育成が、長期的かつ喫緊の課題として求められている。**（資料 16　受容性調査結果報告書（抄））（資料 17　せとうち観光専門職短期大学設立の賛同書）**

また、瀬戸内内外を結ぶ航空運輸業、瀬戸内のホテル業、伝統産業及び観光施設の雇用等の現状については以下のとおりである。

① 瀬戸内内外を結ぶ航空運輸業の雇用等の現状

特に航空業界においては切迫した人材不足の状況にあり、空港スタッフにおいてはハードな勤務状況となっているため、定着率は全体として低下傾向にあり、職務に対する強い意欲と高度な能力を有する個々の従業者の資質に頼るところが大きい。キャリアパスについては、入社後、空港における各部門の業務を一定期間経験した後、個々の意欲や適性に応じて特定部門に配置される。その後数年の実務経験を経て、リーダー、スーパーバイザー等に昇任し、リーダーシップを発揮する業務を担当する。それらを複数経験した後、管理職としての人事運用が図られる。

求められる能力としては、人への対面サービスが中心であるため、社員個人あるいは企業自体のホスピタリティの水準を向上させるための制度や仕組みを構築する企画創造力・応用力など、サービス産業としての能力が求められる。一方で、極めて厳格なレベルの安全確保命題や全ての顧客への公平な対応を担保するためのアサーティブなコミュニケーション能力が求められる。また、サービスの対象となる顧客の属性（国籍・文化・宗教・価値観等）が多様で広範囲にわたるため、異なる文化や価値観に対する高いレベルでの理解・協調・共感能力が求められる。さらに、自社内だけでなく、他社や他の交通産業、または異業種と連携した新たなマーケットの創出などを推進するための情報力や創造力が欠かせない。

② ホテル業の雇用等の現状

ホテル業においては、人材不足が著しく、数年後には外国人の人材を頼りにする必要が生じると思われる。このことは、2017 年度 10 月末現在の厚生労働省調べで、宿泊業・飲食業に従事する外国人労働者が 157,866 人、全業種に占める割合 12.3%であることにも表れており、さらに 2018 年 12 月の出入国管理法及び難民認定法改正に伴い、宿泊業が「特定技能 1 号」の 14 業種に含まれ、在留資格が最長 5 年となったことになどから、今後もこの傾向は続くものと思

われる。また、ビジネスホテルが台頭するなかで、都市部ではシティホテルやリゾートホテルの人材も不足している。2020 年の東京オリンピック、2025 年の大阪万博、豪華クルーズ客船の就航などにあわせて、国内外の VIP や富裕層を受け入れる施設と人材も求められており、総じてホテル業における人材は不足している。

しかしながら、ホテル業に就職しても、５年までを目途に退職する者が多い。理由としては週末、年末年始、連休、夏休み、深夜、早朝などの勤務シフトに耐え切れない、ホテルの社員教育についていけない、安い賃金、スタッフや顧客との間に起きる人的ストレス、過労、結婚を機に退職する者も多い。

今後のホテル業に必要な人材としては、既存のイベント（例：正月、バレンタイン、クリスマスなど）にとらわれず、顧客や時代が求める新規のイベントの立案ができる能力が必要である。また、原価率を考慮した宿泊や飲食のパッケージの立案ができる、館内表示やスタッフの語学力向上などインバウンド受け入れ対応に積極的であることや、高齢者や障がい者などに対する配慮ができること、食や宿泊の安全など顧客の安全を第一に考えることができるなどの能力が必要であるが、以上のようなことを自らが考え、周囲との調和を大切にしながら丁寧に提案や説明ができる人材を養成することが重要である。

③ 伝統産業及び観光施設等における雇用等の現状

企業や団体等の内容や規模により異なるが、瀬戸内の伝統産業等においては総じて人材不足が進んでいる。例えば、小豆島の場合には産業として醤油づくりに携わる職人が少なくなり杉桶が老朽化する、オリーブの収穫期に採取する人が少なくなり実が落ち腐敗するなど、貴重な観光資源である地域の食文化や伝統産業を継承できるのか、今後５年から１０年先への不安が目に見える形となって表れてきている。一方で国際化の波は地域の観光業界にも確実に及んでいる。

瀬戸内の伝統産業及び観光施設等は、ほとんどが中小企業や小規模な団体等であり、明確なキャリアパスを描くことは難しいが、実務の経験を重ねることにより高度な実践力が生まれる。また、将来性においては、地域や社会における人と人との繋がりが大切であり、それが財産となる。その土地の産業、文化、観光に対する愛着と興味を持って、長く持続できることが重要である。地域の観光業界では、顧客対応をその場の個々の従事者の判断にゆだねるケースが多いため、日々の業務をこなすだけでなく、周囲にどれだけ興味を持ち、配慮し、目を向けることができるかが重要である。現代において求められているものは何かを常に考え、周囲から求められている「あるべき経営像」、「あるべき人材像」をいかに豊かに創造できるかが重要になると思われる。

(5) 産業界等のニーズを踏まえた必要性

先に述べたとおり、我が国のインバウンドの急増と、それに対応する観光事業や観光振興の発展が見込まれる社会状況と時期において、「観光の理論と知識」と「観光実務の知識と技能」をバランスよく修得し、それらを融合させて、観光事業の各現場において企画、運営、管理等におけるマネジメント能力やリーダーシップを発揮することができる観光分野における中核的な高度専

門職業人材を比較的短期間のうちに養成することが、我が国の観光施策、観光振興と地域社会の発展における喫緊の課題となっているが、上記(1)～(4)で見たように、我が国の各地においても、また、本学が立地する瀬戸内においても観光産業や観光による地域創生事業に関わる人材のニーズが今後も長期的に増大すると予測されるため、本学を設置して「観光振興のエキスパートとして観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材」を養成する必要がある。

1-5 三年制の専門職短期大学として設置する必要性

本設置構想（計画）では、本学を三年制の専門職短期大学として設置する計画であるが、これは既存の四年制大学とも異なり、専門学校等とは次元の異なる、専門職短期大学の制度を踏まえた特色ある教育課程で、「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材」を養成する新たな高等教育機関として設置したいと考えているからである。ここでは、まず既存の四年制大学における教育課程について、その事例を確認しておきたい。

(1) 国立大学における観光教育

国立大学では、①和歌山大学観光学部、②山口大学経済学部観光政策学科、③琉球大学国際地域創造学部観光地域デザインプログラム（平成 29 年度までは、観光産業科学部観光科学科）の 3 大学で学部または学科レベルでの観光学教育が行われている。以下、参考までに、簡単にまとめてみたい。

① 和歌山大学観光学部

和歌山大学では、観光学部に学科を置かず、「観光経営コース」「地域再生コース」「観光文化コース」の３コースを設置して、「観光経営コース」では、観光産業でリーダーになれる人材の養成を、「地域再生コース」では、観光に精通しつつ地域再生に貢献できる人材の養成を、「観光文化コース」では、観光を求める心や観光から生まれる観光客と住民の出会いなどの観光現象を文化という視点から読み解くことを教育の目的として、コースごとの授業科目を設置しているが、これらを複合的に学ぶことができるよう主コース科目に加えて他コース科目も履修できる柔軟な教育プログラムとなっている。これは、先に述べた（5 ページ）「明日の日本を支える観光ビジョン」において、観光の中核を担う人材の育成強化のひとつの事例として紹介されている。

② 山口大学経済学部観光政策学科

山口大学では、経済学部観光政策学科に「観光経済分析コース」と「観光コミュニケーションコース」を設置している。「観光経済分析コース」では、観光活動を科学的に分析する手法が分かり、観光政策に関する諸問題を実践的に解決できる人材の養成を目的として、基幹科目に観光経済学など経済学を基礎とする科目を配置し、展開科目として観光経済を検証するための観光統計学のほか、学生の進路等に応じて、エコツーリズム、ヘルスツーリズムなどの科目を配置している。「観光コミュニケーションコース」では、多言語を駆使できる高いコミュニケーション能力を持ち、観光立国を目指す我が国に必要とされる人材を養成することを目的として、基幹科目に観光コミュニケーション能力の向上のための語学や社会コミュニケーションに関す

る科目を、展開科目には日本文化や宗教、山口の歴史と文化に関する科目を配置している。

③　琉球大学国際地域創造学部観光地域デザインプログラム

琉球大学では、平成３０年度から「観光地域デザインプログラム」を開設し、グローバル化時代を見据え、持続可能な開発に資する人材、高い学士力を身につけ、現代社会で創造的に活躍できる人材を育成することを目的として、サステナブルツーリズムのコンセプトを基盤に、「ツーリズム・ビジネス」「ツーリズム・デベロップメント」「ツーリズム・リソースマネジメント」の 3 領域を中心として、文理融合型の学際的アプローチによって観光と地域に関する探究を深めている。

(2) 私立大学における観光教育の事例

私立大学では、立教大学、東洋大学、玉川大学、東海大学、阪南大学など多数の大学に、観光学部あるい国際観光学部といった学部が設置されている。ここでは、その一部の事例について簡単にまとめてみたい。

①立教大学観光学部

立教大学観光学部では、観光関連分野に関する広範囲で高度な学識を持ち、諸問題の解決を担う総合的な判断力と優れたリーダーシップを備えた有為な人材を育成することを目的として、１年次には観光学概論や観光史などの必修科目、観光事業論などの選択科目、２年次以降は「観光ビジネス」と「地域づくり」の２つの柱から授業科目が構成されている。

②東洋大学国際観光学部

東洋大学国際観光学部は、グローバル市場化した観光産業・政策のエキスパートとして活躍できる人財の輩出を目的として、産業界の実情に即した講義と豊富な国内外でのインターンや実習の経験で観光産業を推進する人材育成を目指す「観光産業分野」、倫理観と持続可能性を踏まえ地方・国・世界の三視点から観光政策を具現化する人材育成を目指す「観光政策分野」の 2 つの分野を柱に、学生の進路を踏まえ、「ツーリズムコース」「エグゼクティブマネジメントコース」「サービスコミュニケーションコース」「観光プロフェッショナルコース」「観光政策コース」の 5 コースを設置している。

③玉川大学観光学部

玉川大学観光学部では、現代における観光の意義と役割と課題を的確に把握し、適切な情報の収集と分析を通して、また、異文化に対する理解を基礎に、高度な英語力を駆使してグローバル時代の観光産業と地域の活性化に貢献できる人材を養成することを目的として、「観光ビジネス」「観光による地域振興」「観光を通した国際交流」の 3 つの履修モデルを想定し、多様な専門科目を体系的に配置している。

④東海大学観光学部

東海大学観光学部では、学びの場を通して多角的思考力や行動力を身につけ、変化に対して柔軟に対応できる観光人材を養成することを目的として、専門科目を「観光文化科目群」「サービス・マネジメント科目群」「レジャーレクリェーション科目群」「地域デザイン科目群」の４つの専門領域で構成し、幅広い領域に対応している。

⑤阪南大学国際観光学部

阪南大学国際観光学部では、鋭い国際感覚と幅広い視野をもち、国際観光の多面的な特性を活かして社会に貢献できる実行力のある観光人材の養成を目的として、専門科目は「観光文化」「観光計画」「観光事業」の 3 つの教育研究領域から構成されている。「観光文化」は観光を異文化間の文化的な交流という人々の営みとして捉え、文化の多様性や、自文化と他文化を歴史背景も含め理解しようとする領域、「観光計画」は観光を社会的・政策的に活用する方法を探り、地域資源を活かして地域社会を活性化する方策を考えようとする領域、「観光事業」は観光を産業的・経済的に活用する方法を探り、それによって生じる多様な問題の解決を考えようとする領域と説明されている。

(3) 三年制の専門職短期大学として設置する理由

先に述べたような観光産業及び観光による地域創生事業等における観光の現状に照らしてみると、これらの観光事業や観光振興を担う人材の育成は、長期的な課題であると同時に、焦眉の急な課題である。そこで、本学は、既存の四年制大学の観光学部等に比して、凝縮された無駄のないカリキュラム（必修科目が卒業単位の 4 分の 3 以上）により、観光の専門的知識と観光実務の実践能力を兼ね備えた人材を効率的かつ速やかに育成するために、**「三年制の専門職短期大学」**として設置したい。また、専門職短期大学の特色の一つである教育課程連携協議会の設置とその活用により、観光事業者や地域振興団体と連携・協力しながらその課題を早急に解決しつつ、中長期に渡って有為の人材を多数輩出する必要があると考えている。

加えて、香川県では大学・短期大学の整備が十分とは言えない。都道府県別 100 万人当りの大学・短期大学数を見ると、香川県は 6.11 校（全国 37 位）と全国平均 8.75 校に対して 2.64 校少ない状況である。**（資料 18 都道府県別大学と短期大学数と人口）**平成 30（2018）年学校基本調査「出身高校の所在地県別大学入学者数」によると、香川県の県内進学率は 13.5%（全国 37 位）であり、全国平均の 27.2%と比較して非常に少ない状況である。香川県は大学・短期大学進学者の県外流出が著しい県であり、このことは若年層の県外流失だけでなく、その若年者層が県外において就労する現実を顧みれば、香川県の地域経済、さらには地域社会そのものの衰退を惹起しかねない。**（資料 19 出身高校の所在地県別県内進学率）**

従って、香川県高松市における本学の設置は、香川県内の大学進学者が県外に流出するのを止める一助となり得ると同時に、本学を卒業した学生が香川県内の地域振興に貢献し得る可能性を大いに有する。本学の設置により、県内の高校生等の進路選択の幅を拡大し、香川県の高等教育の発展と向上に寄与することは、この地において長年にわたり専門学校の設置・運営を行ってきた本学園の責務であり、使命である。この点においても、本学を設置して「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材」を養成する必要がある。

1-6 既存の高等教育機関との相違から考察する必要性

(1) 建学の精神と教育理念に基づく、教育課程及び教育体制

本学は、以下のとおり「建学の精神」及び「教育理念」に基づき、従来の高等教育機関とは異

なる「教育課程」及び「教育体制」の構築と実践によって、「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材」の養成及び研究や地域連携を新たに提供する。これまでにも高等教育機関は、教養教育や専門教育から成る学術教育を通して、社会に有為な人材の輩出に努めてきたが、従来型の学術教育を中心とする教育課程では、社会の動向が急変するために、社会が求める専門職業人材に対応する教育が難しくなってきている。この課題を解決するため、既存の大学とは異なる臨地実務実習を中心とした即戦力養成のための実務教育を行うとともに、専門学校等とは異なり、観光実務に生かすことのできる観光の学術理論を体系的に学んだうえで、瀬戸内の観光振興や地域社会の発展の事例等を学修することが可能な新たな高等教育機関を設置する必要がある。また、これらの実現を目指すための指針として、本学の設置にあたり、本学園の建学の精神とは別に、独自の建学の精神を定めるものとする。

本学は、**「三年制の専門職短期大学」**の特色を発揮し、教育課程に、観光の理論に基づく知識を深め、その上で、実務教育を重点的に編成しながら社会の動向に対応した理論教育と実務教育を体系的に結び付ける教育を実践する。

せとうち観光専門職短期大学の建学の精神

観光と社会や人類との関わりを深く探究し、観光を通じて、地域社会の発展と諸外国との交流と共生に貢献する人材を育成する。

本学の建学の精神における「地域社会」は瀬戸内地域や四国地域だけを指すものではなく、各地の地域社会を指す。本学の言う「地域社会」あるいは「地域」とは、その外延が人間社会全体の一部のある範域に特定される場所である。また、「地域社会」あるいは「地域」の概念の内包は、経済的・社会的・文化的環境などの社会学的意味によって特徴づけられる社会状況とみなされる。このような「地域社会」あるいは「地域」の現実の一端は、人間社会全体、その場に暮らす人々を取り巻く自然ないしは人間生態系を含む人為的環境などと相互に影響を及ぼしつつ、地域に活動する人々によって生み出されると考えられる。

本学は、そうした「地域社会」あるいは「地域」において実践される観光振興と地域振興の現実を理論的・実証的に研究し、その研究成果を教育や地域貢献に反映させる。

せとうち観光専門職短期大学の教育理念

①教員、職員、学生が、小規模な組織において一体となった教育の場を構築する。
②大学教育で修得されるべき思考力を涵養する。
③産業界との教育連携を拡充し、理論に裏付けられた実践力を育成することにより、高度専門職業人の徹底的な実務教育を実践する。
④地域連携を深化させ、多様な地域貢献のあり方を模索し実現する。

本学は、専門職短期大学として、後に「1-9 本学が養成する人材に必要な資質・能力と教育上の目標（19 ページ）」で詳細に説明するように、「人間力」の育成、「観光の理論と知識」

及び「観光実務の知識と技能」の修得、といった教育目標を掲げ、その目標達成のために教育課程連携協議会から教育課程の再編成や授業科目の開設等について意見を聞き、地域内外の諸団体等と連携・協働して、教育研究を実践する体制を構築する。**（資料 20 せとうち観光専門職短期大学の教育･研究･地域（連携）貢献の体制）**

学生の「人間力」を開発するという教育目標は、個人が社会生活を送る際に不可欠な能力の育成として想定されるが、本学の教育は、「人間力」をとりわけ「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材」に要求される重要な資質の素地として育成することによって、産業界等や社会が望む人材の輩出に寄与する。

しかし、世界が激変する時代にあって、地域社会や地域内外の諸団体の動向もまた急速に展開する。そこで本学はそれらの変化やニーズを柔軟に取り込み、人材の養成と観光と観光産業、観光による地域創生事業に関する研究を積み重ねながら、学生が有意義な社会生活を送り、社会に有為な高度専門職業人材となるための教育を、独自の教育理念と教育課程によって実現したい。

そして先に述べたように、本学の教育と研究は、本学と、瀬戸内内外の諸団体との協働体制において実践される。元より学生教育には本学が一切の責任を持つのであるが、教育課程の編成と運営について、本学は、教育課程連携協議会や臨地実務実習施設との連携等によって、瀬戸内内外の団体の見解や意向等を、特に実務教育に取り入れ、連携し協働する。

(2) 既存の高等教育機関と相違する本学の強みと特色

本学には、以下のとおり、既存の高等教育機関との相違する強み・特色がある。

① 立地条件

瀬戸内の穏やかで温暖な気候、豊かな自然や美しい景色に囲まれた特色ある立地であり、屋島、高松城跡、栗林公園、金刀比羅宮など文化財の宝庫でもある。観光産業や観光地域創生事業の成功例も多く、これらを活用した実践的・実務的な観光教育・研究の確立が可能である。

② 規　　模

本学は小規模な専門職短期大学である。小規模の優位性を活用し、豊富な演習や実習科目だけでなく、講義においても常に双方向にコミュニケーションを取りながらの教育が実践できる。また、オフィスアワーやクラス担任制等を活用して、教員と学生の距離が近くなる。さらに、学生相互、事務職員とのコミュニケーションも活発化し、学生と教職員が一体となった大学運営を行うことができる。

③ 実績と信頼度

本学園は香川県高松市内に９校の専門学校を設置し、姉妹校とし徳島県に３校、広島県に６校の専門学校がある。昭和６０年の開設以来、**中四国**地域の人材育成に寄与し、高等教育の発展に努めてきたことから、**中四国**地域における信頼度は高い。

④ 支援体制

このたびの設置構想の策定にあたっては、香川県、高松市をはじめ地方自治体や観光事業者等、計５１団体から要望書等が提出された。特に高松市からは、校地、校舎となる旧高松

テルサの借用を許可されるなどの支援を受けている。設置後も、これらの企業・団体等からの様々な支援と連携体制が期待できる。**（資料 17 せとうち観光専門職短期大学設置の賛同書）**

以上のような強み・特色を活かし、(1)に述べた建学の精神の具現化と教育理念の確立に向けて、本学は、従来の高等教育機関とは相違する三年制の専門職短期大学としての教育理念、教育課程、教育体制を構築する。このように新たな高等教育機関のあり方を実践するという観点からも、本学を設置して、「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材」を養成する必要がある。（「教育課程」については「４ 教育課程の考え方及び特色（33 ページ）」において、「教育体制」については「５ 教員組織の編成の考え方及び特色（67 ページ）」において詳細に説明する。）

1-7 研究及び地域貢献の観点から考察する本学の設置の必要性

そして最後に、本学が観光学の理論と実践を通して、地域社会に貢献することが、本学の設置を必要とする理由として挙げられる。我が国と瀬戸内における観光と観光産業の振興は、前述のとおりすでに進展しているが、今後はこのような、産学官が組織的・体系的に連携して実践する観光振興の実態を把握し、それらを整理・分析して人材の養成に活用・反映させるとともに、これらを基に瀬戸内をはじめ地域社会に対して必要な提案や提言を行っていく必要がある。

そこで、本学は「せとうち観光学研究所（Setouchi Research Center for Tourism Studies）」を学内に設置する。同研究所は、瀬戸内を中心として、国際的視野から観光と観光産業の研究を推進し、その研究成果から観光振興や地域創生の様々な課題について、提案や提言を行う。

（資料 21 せとうち観光学研究所規程）

「せとうち観光学研究所」の専従スタッフには、本学の専任教員の全員が着任する。本学には、観光学を専攻してその研究に専心する学術系専任教員 5 名と、観光の実務に従事してその実績に高い社会的評価を受けた実務系専任教員 8 名が就任予定である。実務系専任教員には、観光事業で国際的に活動し、高い実績を残した教員 3 名の他に、長年、運輸省（現国土交通省）に勤務し、観光政策や航空政策に携わり、国際観光振興会のニューヨーク事務所長やパリ事務所長も務め国際的にも活動し、現在、大学で教鞭をとっている者 1 名、また、高松丸亀町商店街再開発と小豆島観光開発をそれぞれに主導して、全国的に高い社会的評価を受けている 2 名の教員がいる。さらに、同研究所の客員研究員として、瀬戸内と四国地方の観光関係者の招聘を予定している。

それらのスタッフによって、「せとうち観光学研究所」は、瀬戸内地域の豊かな歴史、文化、自然を背景に、観光学の理論に基づき、観光と観光産業の持続可能な発展の実践に取り組む。このように、同研究所は、観光振興と地域振興に尽力する瀬戸内及び地域社会の期待に応えることができる。また、同研究所は、シンポジウム、市民向けの講演会や関連講座を企画し開催する。それらの講演会や講座によって、市民に観光振興や地域振興についての知識や理解を普及させたい。

さらに、「せとうち観光学研究所」は、理論的研究と実践的活動とを通して、「実践の学としての観光学」を構築し、観光学「せとうち学派」の創設を目指したい。**（資料 20 せとうち観光専門職短期大学の教育・研究・地域（連携）貢献の体制）**

「せとうち観光学研究所」は本学校舎４階の各教員の研究室と同じフロアに設置し、44.2 ㎡の面積を有する。パソコン、プロジェクター、図書・資料等必要な機器を整備し、データベースの作成作業や小規模な研究会・集会等の開催が可能な場とする。

このように、本学の設置によって観光学の研究と教育及び実践における地と知の拠点となり、瀬戸内に様々な貢献をもたらすと期待される。この点からも、本学を設置して、「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材」を養成することが必要である。

1-8 本学が養成する人材像

(1) 本学が養成する人材像の定義

これまでに述べてきたように、社会背景、時期、既存の高等教育機関との相違等の各観点から考察した結果、本学の設置及び「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材」の養成の必要性は高いと判断している。

また、観光振興の将来的見通しについては、現代観光の隆盛という地球規模の社会的背景の中において、我が国では、先に述べた（5 ページ）ように、平成 28（2016）年 3 月 30 日に明日の日本を支える観光ビジョン構想会議が報告した「明日の日本を支える観光ビジョン ―世界が訪れたくなる日本へ― 」によれば、訪日外国人旅行者数の目標を、2020 年には 4,000 万人、2030 年には 6,000 万人としている。さらに、訪日外国人旅行消費額の目標を、2020 年には 8 兆円、2030 年には 15 兆円。地方部での外国人延べ宿泊者数の目標を 2020 年には 7,000 万人泊、2030 年には 1 億 3,000 万人泊としている。さらに、国を挙げて、観光を我が国の基幹産業へと成長させ、「観光先進国」という新たな挑戦に踏み切る覚悟を示して、観光先進国への「３つの視点」と「１０の改革」を掲げている。その後、政府は着実に改革を推進していることや東京オリンピック、大阪万博など世界規模のイベントが継続することから考えても、今後も長期的に右肩上がりの堅調な推移が期待される。しかしながら、これらの観光振興の継続と発展のためには、先に述べた（2 ページ）ように観光振興の継続と発展を図る仕組みの中における創意工夫が不可欠であり、そのためには、観光振興と観光による地域振興を牽引していく高度専門職業人の存在が不可欠である。

そこで、本学の建学の精神及び教育理念に基づき、本学の強みや特色を活かした教育課程及び教育体制により、産業界や社会の要請等に対応した人材養成を行っていくために、本学が養成する人材像を下記のとおり定義し、「観光振興専門職」と呼ぶ。**（資料 22　本学が養成する人材像）**

本学が養成する人材像

観光振興のエキスパートとして、観光産業及び観光による地域創生事業を牽引しつつ、社会構造の変化やニーズを的確に捉えて事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる高度専門職業人

（主な進路）
交通産業（航空会社、鉄道会社）、宿泊産業（ホテル・旅館）、旅行会社、観光による地域振興を担う団体、ＤＭＯ、ＮＰＯ等において、以下の役割を担う総合職
◎ チームリーダーや部門の責任者等中核的な役割を担う。
◎ 現場の人材管理等マネジメントの役割を担う。
◎ 業務改善や新規事業開発、新商品販売に関する企画・立案・実行を担う。
◎ 地域内の観光産業や観光による地域創生事業の連携・協力を図る。
◎ インバウンド対応やオーバーツーリズム対策などの課題解決に取り組む。

（将来像）
将来的には職務経験や社会経験を積み、就業した企業・団体等の規模により、観光業界のトップマネジメント、あるいはミドルマネジメントを担う人材、または自ら起業して経営者・代表者となる人材。

(2) 本学が養成する人材の主な進路と将来像

先に述べたとおり（7 ページ）、現行の日本標準産業分類（総務省　平成 26 年 4 月施行）に観光業という分類は存在しない。鉄道業、航空運輸業、宿泊業、旅行業、娯楽業などがそれに当たるものと考えられる。その中において、航空運輸、鉄道、ホテル、レジャー施設においては今後も人材需要が堅調に推移すると考えられている。

一方、本学において、第三者機関に委託して行った調査等によれば、これら多種多様な業種の中で、とりわけ、瀬戸内内外を結ぶ交通業と宿泊業。また、それ以外の業種（分野）では、地域の観光を担う伝統産業や観光施設などからの人材ニーズに関する要請があったことから、観光振興専門職として、学生の卒業直後の進路を概ね以下のとおり設定し、３つのポリシーや教育課程や臨地実務実習のクラス分けや実習内容等に反映する。**（資料 16　受容性調査結果報告書（抄））（資料 17　せとうち観光専門職短期大学設立の賛同書）**

交通産業（航空会社、鉄道会社）、宿泊産業（ホテル・旅館）旅行会社、観光による地域振興を担う団体、ＤＭＯ，ＮＰＯ等において、以下の役割を担う総合職
◎ チームリーダーや部門の責任者等中核的な役割を担う。
◎ 現場の人材管理等マネジメントの役割を担う。
◎ 業務改善や新規事業開発、新商品販売に関する企画・立案・実行を担う。
◎ 地域内の観光産業や観光による地域創生事業の連携・協力を図る。
◎ インバウンド対応やオーバーツーリズム対策などの課題解決に取り組む。

また、将来的には職務経験や社会経験を積み、就業した企業・団体等の規模により、観光業界のトップマネジメント、あるいはミドルマネジメントを担う人材、または自ら起業して経営者・代表者となる人材を想定しており、それらの養成に必要な要素を３つのポリシーや教育課程等に反映する。**（資料 23 本学が養成する人材像と教育課程との関連）**

ただし、学生の個性や特性を尊重することは非常に重要であり、仮にこれ以外の職業を選択する場合があっても、キャリアセンターを始め、教職員が一体となって支援を行う。

本学においては、養成する人材像を具現化するために、職業専門科目群及び展開科目群を「観光理論」「ホスピタリティ」「地域」「マネジメント」「情報・統計」「英語」の６つの観点から系統的かつ複合的に学修することが可能となるように配置する。（詳細については、「4 教育課程編成の考え方及び特色（33 ページ)」において説明する。）

学生は進路に応じて必要な授業科目を必修科目あるいは選択科目として選択するが、「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材」を養成するという観点から、卒業単位 96 単位以上のうち、73 単位を必修科目、17 単位を選択必修科目として、すべての学生が必要な授業科目を学修することができる教育課程を構築する。**（資料 24 せとうち観光専門職短期大学の学び）**

また、学生の学修を支援するため、カリキュラムツリー及び進路別の履修モデルを作成し、入学時に学生に提示し、履修上の指針とする。また、学生は本学における自らの学修の目標を明確にするため、履修ガイダンスや相談会等を経て、「学びのプログラム（仮称)」を作成し、提出する。**（資料 25「学びのプログラム（仮称)」書式 ）**

学生は、本学の教育課程全体において、「観光振興専門職」の能力獲得において素地となる「人間力」という資質を鍛錬しながら、「観光の理論と知識」、「観光実務の知識と技能」、「観光英語力」及び「事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる応用的能力」を修得する。本学は教育上の特色のひとつとして、クォーター制を採用するが、「観光の理論と知識」と「観光実務の知識と技能」を相互に関連付けて有効な学修が可能となるよう履修順序等を体系的に組み立てる。（教育課程の詳細については、「4 教育課程編成の考え方及び特色（33 ページ)」において説明する。）

1-9 本学が養成する人材像に必要な資質・能力と教育上の目標

本学が養成する「観光振興専門職」に求められる資質と能力は、(1)「観光振興専門職」の能力獲得において素地となる「人間力」という資質、(2)「人間力」を支える３つの基本的能力である「思考力」「実践力」「協働力」、そして(3) ３つの基本的能力を教育課程で形成するための「観光の理論と知識」「観光実務の知識と技能」「観光英語力」「事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる応用的能力」という４つの能力である。以下では、それぞれの資質と能力及びそれらの教育目標を説明する。

(1) 人間力の意味とその涵養

①ホスピタリティマネジメント能力とその素地としての人間力

本学が養成する「観光振興専門職」には、根本的な能力として、「ホスピタリティマネジメント能力」の体得が求められる。なぜなら、観光事業の基幹業務は、他者との対面的社会関係を築いたり、他者を接遇して、あらゆる状況で職務に主体的かつ創造的に取り組む「ホスピタリティマネジメント」と深く結び付いているからである。

学生の進路の内、交通産業、宿泊産業、旅行会社などの業務において、顧客接遇のホスピタリティマネジメントが基幹業務であることは言うまでもないが、DMO、観光関連団体、NPO 等の職員などの業務においては、顧客接遇のホスピタリティに従事する機会が少ない場合があり、顧客対応のホスピタリティマネジメントが基幹業務というわけではない。しかしながら、観光地づくりや観光による地域創生等において、当地がホスピタリティを提供する体制を構築することが主要業務の一つとなっており、それらの業務においても、ホスピタリティマネジメントの能力を体得することが不可欠となる。

このように観光産業及び観光による地域創生事業において求められる「ホスピタリティ」とは、一般的に、社会一般を含む利用者の役に立つことを意図した職業的行為、及びそのためのしくみを意味する。このような「ホスピタリティ」は、元々「サービス」と称されたが、平成 2（1990）年頃から「サービス」に代わって広く多用されるようになった。本来、「ホスピタリティ」は、庶民が無償性と自主性に基づき「他者を歓待する精神とその行動」の総称であるが、現在では組織的に提供される商品の 1 つと、世界中で見なされている。

そうしたビジネス用語としての「ホスピタリティ」を、本学は、他者にとって好ましい応対をする「対面的サービス」として捉えたうえで、従来の「サービス」の用語に代えて、教育研究等において適用することとする。ただし、「サービス」という用語についても、特に慣例的な用法や説明等の脈絡に応じて適宜使用する。

このようにホスピタリティを主要業務とする「観光振興専門職」は、あらゆる場面の多様な条件下で、多様な他者との対面的関係や社会状況に的確な対処をしなければならず、主体的かつ創造的な業務遂行が求められるため、その人材依存度は極めて高い。そこで、観光産業及び観光による地域創生事業に従事する人材には、その素地として高度な「人間力」が求められることになる。そのため、「人間力」（human resourcefulness）の涵養は、本学の学生が 3 年間の教育課程全体を通して修得すべき資質であり、その涵養は本学の教育全体を通した最終的目標となる。

②人間力の涵養という教育目標

「人間力」（human resourcefulness）は、上述のように社会的に有為な全ての人材に求められる能力であり、とりわけ「観光振興専門職」にとって不可欠の資質である。

「人間力」の形成について、本学はクリス・アージリスの「パーソナリティの成長（personality development）モデル」に倣い、7 つのパーソナリティ次元のそれぞれを、学生が到達すべき基礎的能力の目標として設定する。それらのパーソナリティの成長次元は、次のとおりである（次元名は本学の定義による）。

①自己率先性　受身の状態から、働きかけを増してゆく状態へ。
②相互依存性　他人に依存する状態から他人の健全な独立を承認しつつ自らも独立する状態へ。
③行動多様性　数少ないやり方でしか行動できない状態から多様なやり方で行動できる状態へ。
④興味深化性　当座の浅い移り気なすぐに弱くなる興味の状態から、深い興味をもてる状態へ。
⑤長期展望性　短期的展望しかもてない状態から、長期的展望をもてる状態へ。
⑥地位志向性　従属的な地位にいる状態から、同等または上位の位置を望む状態へ。

⑦自己統制性　自己意識の欠乏した状態から、自己統制のできる状態へ。
（Chris Argyris 1957 *Personality and Organization: The Conflict between System and the Individual*, Harper & Row, pp. 49-51）

本学は、これらの７つのパーソナリティ次元を全て高めた個人を、「人間力」を有する主体的かつ創造的な態度の備わる社会人と見なす。

この「人間力」形成を各年次の教育課程の成果として測定するために、本学は「学修態度測定表」を開発している。**（資料 26　学修態度測定表）**「学修態度測定表」は、流通経済大学名誉教授香川眞がアージリスの 7 つのパーソナリティ次元にもとづいて作成した「P-D（Personality Development）テスト」を、香川の了解をえたうえで参考にしながら開発された。

「人間力」形成を測定する「学修態度測定」の調査は、本学の入学時、２年次進級時、３年進級時、そして卒業時の４回、全学生を対象として実施し、統計的に処理し分析する。その調査結果を、成績評価等と合わせて、学生各自の教育指導に活用することとしたい。「学修態度測定表」は、調査結果を毎年度集積して、適宜改訂する予定である。

この「人間力」の涵養という教育目標は、学生が本学の３年間の教育課程全体を通した学修全体において土台づくりとして、教育課程のディプロマとは別次元の目標であるが、「人間力」の育成の準備となる土台づくりとして、本学教育課程の基礎科目群では、自学自修の態度形成と思考法の修得を教育目標とする。

これは、人生 100 年時代を生き抜く基本的態度であり、同時に人間力を養成する土台づくりであるとともに、3 つの基本的能力である「思考力」、「実践力」、「協働力」を発揮するための前提条件となる。本学は、3 年間という凝縮した教育内容・学修期間で集中的に、社会に有意な「観光振興専門職」を養成するので、学生が、人生 100 年時代において、生涯に渡り「人間力」の涵養を追求するためには、とりわけ「自学自修の態度」を身に付けることが非常に重要である。このため、本学の教育課程の基礎科目群に 1 年次に「基礎演習」と 2 年次に「キャリアデザイン論」を配置する。

なお、基礎科目群では、社会人としての一般常識もまた不可欠な能力であるため、上記の「基礎演習」と「キャリアデザイン論」において、一般常識の必要性についても学生に啓発する。同時に、生涯にわたるキャリア形成の一助となる「キャリア形成必読書リスト 100 冊」を作成し、そのリストの中から特に 3 冊を選定し、そのうち一般常識関連の 1 冊については基礎演習で、また職業専門科目関連の 2 冊については専門演習で、それぞれの必読書の読み方等を指導する。**（資料 27 キャリア形成必読書 100 冊）**このようにして、学生が社会人の一般常識を自ら日常的に学修し続ける態度を育成する。**「キャリア形成必読書 100 冊」は日本十進分類法の類目表及び要目表により整理し、基礎演習の対象となるものと専門演習の対象となるものの区分を明示するとともに、推奨年次についても表記する。**

⑵本学が養成する人材像に必要な３つの具体的能力「思考力」「実践力」「協働力」

「観光振興専門職」に必要な資質である「人間力」は、「思考力」、「実践力」、「協働力」という3つのより具体的な次元の能力を育成することによって構成される。

これら3つの能力は、文部科学省によって示された①基礎的な知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、という高大接続改革における「学力の３要素」を包含している。また、経済産業省が提唱した社会人基礎能力の「考え抜く力」「前に踏み出す力」「チームで働く力」とそれぞれに概ね一致する。ただし、社会人基礎力は相互に均等な関係にある 3 つの能力として想定されているが、本学が「人間力」を形成する教育課程は、「思考力」の養成を土台に据えて、その上に「実践力」と「協働力」を錬成するように編成する。

①「思考力」の育成と学術科目

「思考力」の修得によって、学生が観光の現実や観光事業における業務現場の状況を的確に認識できるようにする。「思考力」は、教育課程の基礎科目群がその基礎となり、職業専門科目群、総合科目、及び展開科目群の一部の「学術科目」において、「思考法」、「理論」と「知識」の理解等によって育成する。

「思考法」の育成では、学生が現実を認識する際の「演繹的思考法」（理論やモデルに基づく思考法）と「帰納的思考法」（積み重ねた事実に基づく思考法）を体得して、それらの思考法を実際にあらゆる場面で日常的に適用できるようにする。

また、「理論」と「知識」の理解については、学生が「理論」を通して対象事象が認識・説明される際の考え方、及び理論から導き出された「知識」の考え方等を学ぶことによって、学生の思考力が高められる。

②「実践力」と「協働力」の養成と実務科目

前述（22 ページ）の「思考力」を土台として、その学修と並行しながら、職業専門科目群や総合科目の特に実習や演習という授業形態で行う科目によって、学生は「実践力」と「協働力」を体得する。職業専門科目群の授業科目では、「観光実務の理論」に基づいて、「実務知識」や「実務技能」が、講義内や演習内において、アクティブ・ラーニングや PBL の手法を用いて教授される。そして、それらの実務知識と実務技能は、「実践力」と「協働力」の教育訓練となり、「臨地実務実習」の予備的な科目となる。

「実践力」は、「観光実務の理論」としての「ホスピタリティマネジメント論」、「観光リスクマネジメント」を基礎として、「臨地実務実習」、「実習の事前・事後学修」（授業計画の一部）、「専門演習」（授業計画の一部）において育成される。臨地実務実習では、従来、観光関連事業の実習や 0JT 等で一般的に行われた職場内訓練に相当する人間形成訓練が、本学と実習施設の教育連携で作成されるプログラムによって、本学の授業として実施される。人間形成訓練とは、従来なされてきた技能訓練や、服装、挨拶、視線や声の調子等の態度訓練に加え、さらに観光振興専門職に求められる、自尊心、自信、価値観、状況判断、意志決定、レジリエンス（ストレス管理等）、

目標設定、等々といった心理訓練を学生に課す教育訓練である。臨地実務実習の計画と実施については、後述の「11 臨地実務実習の具体的計画（91 ページ）」で説明する。

「協働力」については、「実践力」と同様に「観光実務の理論」としての「ホスピタリティマネジメント論」、「観光リスクマネジメント」を基礎として、「臨地実務実習」、「臨地実務実習の事前・事後学修」（授業計画の一部）、「専門演習」（授業計画の一部）において、特に「対人関係技能」と「コミュニケーション能力」を重点的に養成する。

「実践力」及び「協働力」を養成する授業科目の履修は、その土台である「思考力」のさらなる向上と発展を図るものとなる。

(3)基礎的能力・応用的能力・総合的能力

「観光振興専門職」には、個々の観光産業及び観光による地域創生事業の運営方針等を理解しながら、自身の職務とそれを取り巻く現実全体を捉えた意志決定や問題解決が求められるため、「観光の理論と知識」「観光実務の知識と技能」「観光英語力」「事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる応用的能力」の修得が必要である。学生には、ディプロマ・ポリシーを通して学修の意図が理解できるよう周知徹底する。

①基礎的能力としての「観光の理論と知識」「観光実務の知識と技能」「観光英語力」

①-1「観光の理論と知識」と「観光実務の知識と技能」の考え方

ア　観光の学術と実務の国際的な動向

観光学の教育と研究には、「学術」と「実務」という、一部に重なるが、相互に独立する２つの分野が並立する。

一方の現行の「学術」観光学の研究は 1970 年代初め頃から漸次的に始まり、その大学教育は 1970 年代半ば頃以降に関連の講座が少しずつ設置され始めた。したがって、学術観光学の歴史は、半世紀を経過したに過ぎない。

ただし、観光の大衆化の徴候がみられた西欧諸国、特にイタリア、ドイツ、スイス等では 1930 年代頃から「学術」観光研究が体系化し始めた。しかし、第二次大戦によって観光の発展が頓挫したため、観光研究も途切れ、その当時の研究成果は、現行の学術的観光研究において継承されることはなかった。

もう一方の「実務」観光学の研究と大学教育は、「学術」観光学に比べてかなり早くからスタートしていて、ホテル経営やホスピタリティの職業教育で伝統を築き、その職業教育の業績にいまもなお評価の高い大学がいくつか存在する。例えば、コーネル大学ホテル経営スクールは 1922 年に、またミシガン州立大学ホテル経営スクールは 1927 年に創設されている。また、ローザンヌホテルスクールは、1893 年に創設された。

このように、職業教育を目指す「実務」観光学の研究と大学教育は、第二次大戦後における観光の大衆化によって、欧米諸国において戦前と戦後を通して展開されている。また、1980 年代以降には、マス・ツーリズムに対応するホテル経営やホスピタリティマネジメントを主流とする高等機関の実務観光教育が世界中で発展してきた。

このように個別に展開してきた観光学の「学術」と「実務」の二分野を連携する課題は、欧米で 1970 年代から 80 年代にかけて、大学に両分野を併設する観光学部が創設されて以来、ずっと議論されている。観光学の国際的学術誌 *Annals of Tourism Research* 第 8 巻 1 号（1981 年）の特集で「観光の研究と教育の連携」が主題とされたが、そのなかで大学教育における「学術」観光学と「実務」観光学の乖離という問題が主に議論された。その後、特集から 40 年を経た現在も、観光学の「学術」と「実務」の連携は、研究においても教育においても有効になされていない。

イ　日本観光学の大学教育における学術分野と実務分野

我が国の本格的な観光の大学教育は、1967 年に立教大学社会学部観光学科の開設によって始まった。立教大学の観光学科が設置される母体には、第二次世界大戦後まもない 1947（昭和 22）年４月に開講された「立教大学ホテル講座」というオープンスクールがあり、これが観光学科の創設まで続いていた。1964 年に東京オリンピック大会が開催された際には、オリンピック準備委員会からの要望により、立教大学ホテル講座が、1940 年に開設されていた東京ＹＭＣＡホテルスクールと共に大会運営に協力を依頼され、当該講座の受講者が食堂等の施設で活動した。

1964 年の東京オリンピック開催を契機として、当時、我が国に出現し始めた「マス・ツーリズム」の現実に対応するために、観光の大学教育の設置が広く社会から要請され、観光教育の基盤をもつ立教大学に観光学科が設置されることとなった。

このように、日本観光学が形成される起点となって、今日もなおその形成に影響を及ぼしている立教大学の観光学は、主にホテル経営からスタートした経緯があるため、かなり実務志向であったが、学科の設立によって学術中心の教育課程を体制的に整え、むしろ 1980 年代以降には学術の観光学を追求してきた。こうした動向は、我が国の大学教育が、理論的志向が近年まできわめて強く、例えば米国では職業教育とみなされる法学、経営学、教育学といった学問分野でも、教育課程の構成が学術中心であったことにも方向づけられてきた、と考えられる。

1990 年代後半から大学の教育課程にインターンシップ等の職業教育科目を積極的に導入する動向が広く見られ、また実務系教員がとりわけ観光関連学部・学科で増員される傾向も見られるようになった。専門職大学・専門職短期大学の創設は、実務と従来の学術との考え方を根本的に見直す契機となりうると考えられる。

ウ　観光実務における観光の理論と知識の必要性

本学が養成する「観光振興専門職」が就労する観光産業や観光による地域創生事業の現場では、トップマネジメントの判断を待たず、個々の従事者が各自で意思決定し、実行しなければならない状況が頻発する。特にホスピタリティの業務に関わる現場では、個々の従事者のホスピタリティが、顧客によって瞬時に評価され、その評価が低ければ、同時に従業員の所属する企業全体の評価も低下する事態となる。このようなホスピタリティ評価の特徴と、それに関連する状況について、ヤン・カールソンは、「真実の瞬間」と呼び、その考え方に基づき、自らが就任した企業のホスピタリティマネジメント体制を再構築し、経営難に陥っていた当企業の業績を回復した（『真実の瞬間 ― スカンジナビア航空のサービス戦略はなぜ成功したか』初版 1985 年）。カールソン

が再構築したホスピタリティマネジメント体制の主要な特徴の 1 つは、現場で顧客に対面してホスピタリティを提供する個人が、業務に問題の生じた状況で、自身が問題解決法の意志決定をして実行する体制であった。

この事例のように、ホスピタリティを提供する観光産業や、ホスピタリティマネジメント体制を構築する観光による観光創生事業の現場が円滑に運営されるためには、一方で、「観光実務の知識と技能」に精通する職務能力と、もう一方で、現場のホスピタリティに関する業務遂行にトップマネジメントの方針が反映できるような、「観光の理論と知識」に精通した職務能力とが、不可欠となる。

①-2 本学における学術観光学と実務観光学の教育目標

本学は、観光学における学術と実務のそれぞれの研究成果に基づき、教育課程の職業専門科目群において、学術の「観光の理論と知識」と実務の「観光実務の知識と技能」という二つの科目構成グループを配置する。**（資料 28 職業専門科目（学術・実務）の科目構成と関連性）**

一方の学術「観光の理論と知識」科目構成群では、学生は学術観光学の理論と知識を講義で学ぶことによって、社会現象としての観光の現実を捉える考え方や方法を修得し、また観光産業や観光による地域創生事業が実践される仕組みやその実態を講義、実習、演習等を通して理解する。これには、瀬戸内の観光に関する成功事例や歴史、文化等を学ぶ授業科目が含まれる。

また他方の実務「観光実務の知識と技能」科目構成群では、実務の基礎理論と基礎知識を講義で学び、観光事業における業務の仕組みや実態を理解して、当該業務の技能やその実践力等を、臨地実務実習によって体得する。**（資料 28 職業専門科目（学術・実務）の科目構成と関連性）**

さらに、先に述べたような我が国のインバウンド観光の増大に対応するため、「観光振興専門職」に求められる国際共通語としての観光英語力を修得することが必要である。

②応用的な能力を育成する教育目標

「観光振興専門職」が、観光産業や観光による地域創生事業に従事しかつ牽引しながら、事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することできる応用的な能力の育成を教育目標とする。観光庁の「産学連携による実務人材育成ワーキンググループ」の報告に示された観光系大学・学部の特色を生かした教育の６つの視点のうち、「経営」「情報」「計数感覚」に着目して、本学では、「マネジメント」「情報・統計」の観点から、以下のような能力を育成するための授業科目を配置する。

①企業やＮＰＯ法人、地域社会等における組織及び事業運営能力（マネジメント力）

②事業イノベーションや地域社会の魅力を創出するための情報力や創造力（情報力・創造力）

これらの能力は、職業専門科目群の授業科目の履修を通じてその基盤が築かれるが、さらに隣接する他分野の学修を通じて、それらの能力を発展・向上させ、より実践的・創造的な能力を育成することができることから、展開科目群において応用的能力として育成するものである。

③総合的な能力を育成する教育目標

3 年間で学修した全教科の成果を統括する専門演習において、他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、総合力と課題解決力を身に付けて、観光振興と地域社会の発展のための課題解決に取り組むことができる能力を育成することを教育上の目標とする。

以上を整理すると本学が養成する人材に必要な資質・能力とその教育方針は以下のとおりとなる。

【人間力の基礎】「ホスピタリティ」の素地となる「人間力」を、3 年間の教育課程を通して涵養するために、その基礎となる「自学自修の態度形成」「思考法の修得」を基礎科目で育成する。

【基礎的能力】基礎科目群で「思考法」の基礎を築き、そのうえで「観光の理論と知識」、「観光実務の知識と技能」、「観光英語力」に関する職業専門科目を中心に育成する。

【応用的能力】「マネジメント力」「情報力・創造力」
職業専門科目においても一部その基盤が築かれるが、展開科目を中心に発展させる。

【総合的能力】上記の能力を統合・拡充して、総合科目（専門演習）にて育成する。

1-10 本学のディプロマ・ポリシー（卒業認定と学位授与の方針）

本学は、これまでに述べてきた本学が養成する人材像に必要な能力と教育目標に鑑み、卒業認定と学位授与の方針であるディプロマ・ポリシーを次のように定める。

せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科　ディプロマ・ポリシー
（卒業認定・学位授与の方針）

せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科の教育は、観光による交流が世界規模に拡大し、観光が 21 世紀の基幹産業となった時代において、卒業後に観光産業や観光による地域創生事業において活躍しながら、観光振興と地域社会の発展に貢献できる観光振興専門職の育成を目的としている。

そのためには、「自学自修の態度」や「思考法」を身に付けたうえで、「観光の理論と知識」「観光実務の理論と技能」を学修し、「事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる応用的能力」の修得に努めなければならない。そのために以下の要件を修得したうえで、本学が定める卒業要件を充たし、本学の教育課程を修了した者に対して、本学は学位を授与する。

DP1（自学自修の態度形成）

「自学自修の態度」を養い、理論や実務を学ぶために重要な基礎技能を身に付け、生涯に渡り充実した日常生活と有意義なキャリアデベロップメントを実現することができる。

DP2（思考法の修得）

基礎科目における学術科目によって「思考力」を養い、基礎的な思考法を身に付けて、現実を的確に捉えることができる。

DP3（観光の理論と知識の理解）

観光学の理論と観光に関連する知識を身に付け、観光振興専門職としての「思考力」を磨き上げながら、観光事象の実態とその変化を学ぶことによって、社会現象としての観光の現実を捉えることができる。

DP4（観光実務の知識と技能の修得）

観光産業や観光による地域創生事業の実務に関連する理論・知識を学んだうえで、観光実務を体験的に学び、「思考力」を土台として、「実践力」と「協働力」を身に付けることによって、観光振興専門職として職場の状況や問題を分析でき、チームワークで問題を解決できる。

DP5（観光英語力の修得）

観光英語力を身に付けることによって、インバウンド観光の多様な状況に対応できる。

DP6（他分野の応用的な能力の修得）

観光関係以外の異分野から、次のような「応用的な能力」を身に付けて、観光振興専門職として実践的かつ創造的な職務に積極的に取り組むことができる。

① 企業やＮＰＯ法人、地域社会等における組織及び事業運営能力（マネジメント力）

② 事業イノベーションや地域社会の魅力を創出するための情報力や創造力（情報力・創造力）

DP7（観光振興専門職としての総合力の育成）

3 年間で学修した全教科の成果を統括する専門演習において、他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、観光振興専門職としての総合力と課題解決力を身に付けて、観光振興と地域社会の発展のための課題に果敢に挑戦することができる。

（資料 63 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、教育課程の対比表）

1-11 研究組織の学問分野

本学の教育を支える研究組織の学問分野は、「観光学」である。ただし、観光学は学際的であり、異なる多くのディシプリンからアプローチされるので、研究組織は社会科学分野を中心に、観光事象を研究する社会学、地理学、文化人類学等を専攻する研究者の教員で構成する。さらに、観光学では研究と実践の連携が重視されるので、当該研究組織には、実務の第一線で活躍した後に大学教育に携わる経歴を有したり、現場の主要ポジションで現在も活躍したりする実務家の専任教員が所属する。研究者と実務家の教員が協働しながら研究組織を創設して、緊密に連携を取りつつ研究と教育に取り組む。

こうした研究組織の状況にもとづき、全専任教員が「教育研究開発会議」に所属する。教育研究開発会議の研究成果は、2 ヶ月毎に開催される教育研究開発会議の場で議論され、全専任教員が共有する。**（資料 29 教育研究開発会議規程）**

1-12 教育研究上の到達目標

本学本学科の教育の到達目標のひとつは、教育研究開発会議が教育の方法論や実践論を検討しながら FD 活動を推進し、それらの成果と課題を教育研究報告書にまとめることである。この会議においては、教育研究報告書『せとうち観光振興専門職教育』（*Setouchi Yearly Report on*

Professional Education for Tourism Promotion）（仮称）を 3 年に 1 本以上発刊するものとする。**（資料 30　教育研究報告書規程・執筆要領）**

さらに教育の到達目標として、①卒業時に学生に対する満足度調査を行い、その中で本学科の教育に対して、概ね９割以上から「満足した」との回答を得ることができるよう努めること、②この報告書及び「せとうち観光学研究所」における実践的な研究及び地域連携の成果を踏まえて、教育課程連携協議会の意見を聞きつつ、少なくとも 3 年に１度、複数の新たな授業科目を開設すること、の 2 点を掲げるものとする。

また、学生が到達すべき教育目標については、ディプロマ・ポリシーに対応して、以下のとおり定めることとする。

①自学自修の態度形成（DP1）

基礎科目における、「基礎演習」や「キャリアデザイン論」を履修し、生涯学び続ける姿勢を身につけ、卒業後も自学自修を継続することができる。

②思考法の修得（DP2）

基礎科目における学術科目を履修し、情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。

③観光の理論と知識の理解（DP3）

職業専門科目群における、観光学の基礎となる理論や地域に関する基礎を学び、観光及び観光事業の発展や地域振興について、自分なりの意見をまとめ、表現することができる。

④観光実務の知識と技能の修得（DP4）

職業専門科目群における、観光実務の基礎となる理論や調査法、技能を修得し、情報や知識を論理的に分析し、自分なりの意見をまとめ、表現をすることができる。

⑤観光英語力の修得（DP5）

観光基礎英語Ⅰ、Ⅱ及び観光英語Ⅰ～Ⅳを履修することにより、観光事業で必要な英語を用いて、「読み」、「書き」、「聞き」、「話す」ことができる。

⑥他分野の応用的能力の修得（DP6）

展開科目を積極的に履修することにより、他分野の応用的能力を身につけ、問題解決に向けた方策の発見や事業イノベーションの創出に向けた企画案を作成することができる。

⑦総合力の育成（DP7）

3 年間で学修した全教科の成果を統括する専門演習において、他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、観光振興専門職としての総合力と課題解決力を身に付けて、みずからの研究成果を発表することができる。

一方、研究の到達目標としては、本学本学科の各教員は、本学紀要（年 2 回発行）である『せとうち観光学フォーラム』（*Setouchi Forum for Tourism Studies* ）誌（仮称）に、3 年間で 1 本以上の論文等、または各教員が所属する査読付学会誌等や業界誌等に 3 年間で 1 本以上の論文等を投稿することを目標とする。**（資料 31　紀要編集規程・執筆要領）**

各教員は、各自の教育研究上の計画について、科研費等をはじめとする外部資金の獲得にも努めることとする。

1-13 既設専門学校とのカリキュラム上の相違

本学園が設置する既設の専門学校で、本学と類似しているものは、穴吹ビジネスカレッジホテル学科（2019 年度末募集停止）であるが、本学のカリキュラムは、穴吹ビジネスカレッジホテル学科のカリキュラムを一切踏襲することなく、開学時の採用予定教員等が検討・協議し、構築したものであり、建学の精神、養成する人材像や教育目標、授業科目の内容や到達目標、教育上の特色において顕著な相違点がある。

(1)建学の精神、教育理念、養成する人材像等の相違

本学園は、「専門学校」において各種の専門技能を身に付け、地域の事業所に従事し、地域に貢献する人材を輩出してきたが、その建学の精神、教育理念、教育目標は以下のとおりである。

（建学の精神）

地域の学生を地域で育て、高い専門性と豊かな人間性を育み、地域社会から信頼され貢献できる人材を育成する。

（注）専門学校で言う「地域」は「中四国地域」を指し、また「地域社会」は「中四国の地域社会」を指す。よって本学の「地域」及び「地域社会」の概念とは異なる。

（教育理念）

職業教育を通じて、地域社会に貢献する人材を養成する。

（教育目的）※専門学校においては養成する人材像を定めていない。

様々なビジネスの業界と連携を図り、各業界で求められる専門力を修得させ実践的な専門能力を発揮できる人材を養成する。

本学は**「三年制の専門職短期大学」**として、新たな高等教育機関の創設を目指しており、専門学校とは建学の精神、教育理念、教育目標において明らかに異なる。

（建学の精神）

観光と社会や人類との関わりを深く探究し、観光を通じて、地域社会の発展と諸外国との交流と共生に貢献する人材を育成する。

（教育理念）

①教員、職員、学生が、小規模な組織において一体となった教育の場を構築する。

②大学教育で修得されるべき思考力を涵養する。

③産業界との教育連携を拡充し、理論に裏付けられた実践力を育成することにより高度専門職業人の徹底的な実務教育を実践する。

④地域連携を深化させ、多様な地域貢献のあり方を模索し実現する。

（養成する人材像）

観光振興のエキスパートとして、観光産業及び観光による地域創生事業を牽引しつつ、社会構造の変化やニーズを的確に捉えて事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる高度専門職業人

本学と既存の専門学校との最も際立つ相違は、専門学校の教育が観光産業等の現場におけるビジネススキルの訓練に特化しているのに対して、本学の専門職教育の目的は、本学が養成する人

材像に鑑み、ただ単に観光産業等における専門技能を錬成するだけでなく、大学教育で修得されるべき思考力の涵養を素地として「観光の理論と知識」と「観光実務の知識と技能」をバランス良く修得し、「事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる応用的能力」を兼ね備え、「観光振興専門職」としての総合的な能力を身に付けるための教育を行うことである。このように教育の基本となる拠り所が異なることから、その教育課程における授業科目の内容や特色も自然と異なっている。

⑵ 本学の教育課程の特色

本学の教育課程は専門職短期大学設置基準に従い、基礎科目、職業専門科目、展開科目、総合科目から構成している。また、各科目群の授業科目については、先に述べた（17 ページ）養成する人材像とその人材に必要な能力を分析したうえで、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを作成し、それに応じた授業科目を構成している。

まず、基礎科目において、観光学の理論を学ぶための基礎となる「地理学」と「文化論」を必修科目として開設するとともに、選択科目には、「企業の社会的責任」「法と社会」「災害と防災の科学」「信仰の歴史」「異文化理解」「ビジネスコミュニケーション」を配置し、大学教育において重要な「思考力」を涵養するとともに、職業専門科目における観光学の理論を学修する基礎を築いている。また、観光振興においては、高齢者や障がい者への適切な対応が重要となってくるため、その基礎的な知識と技能を学修するため「介助実務実習」を必修科目として配置している。

次に、職業専門科目においては「観光の理論と知識」を学修する学術科目と「観光実務の知識と技能」を学修する実務科目をバランスよく配置しているが、学術科目では「観光学概論」を起点として、「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」「観光行動論」「観光政策論」の観光基礎理論を学修する科目を配置し、それらが「国際観光論」「観光文化施設論」「観光メディア論」「観光データ整理実習」「エコツーリズム実習」の観光応用理論を学修する科目に繋がっていくように配置している。一方で地域の観光についても学修するため、「地域資源論」「地域観光基礎実習」の地域観光論基礎科目を配置し、それらが「せとうち観光アート論」「せとうち観光資源論」「四国巡礼研究」「四国観光史」のせとうち観光研究科目群に繋がっていくように配置している。この２つの系統は相互に関連しており、これにより系統的かつ複合的な学びを担保している。なお、「観光振興・地域創生論」は、これらのせとうち観光研究科目群を学ぶ前提条件となる必修科目である。このように観光の理論を体系的に学びつつ、瀬戸内や四国の観光事業の成果や成功事例を教材にした学修と研究が可能であり、これにより、理論に裏付けられた実務を学修するために必要な観光学の理論の幅を広げ、かつ深化させるものとなっている。

一方の実務科目では、「ホスピタリティマネジメント論」「観光リスクマネジメント」「観光事業論」という観光実務理論や観光事業理論を必修科目として学修した後、「ホスピタリティ実務実習Ａ・Ｂ」を学内実習として学修し、「臨地実務実習Ⅰ」「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」及び「臨地実務実習Ⅲ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」により、それぞれ目的が異なり、多彩な実習施設における臨地実務実習が展開される。それぞれの臨地実務実習には事前学修として関連する実務の内容や留意点

を講義にて学修する「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」「観光実務応用論」と、事後学修として実習後の振り返りや知識・技能の定着と展開やマネジメント能力の強化を図るための「観光支援ビジネス実務発展論」「観光実務発展論」「観光実務マネジメント論」を必修科目として配置するとともに、実務科目の締めくくりとして、「交通産業論」「宿泊産業論」「地域創生事業論」を配置しており、「観光実務の知識と技能」が系統的に学修できるという特色がある。本学はクォーター制を採用しており、臨地実務実習科目の前後のクォーターにおいては、先に述べた「観光の理論と知識」を学修し、相乗効果が発揮されるよう授業科目を配列している。

展開科目においては、①企業やＮＰＯ法人、地域社会等における組織及び事業運営能力（マネジメント力)、②事業イノベーションを生み出すための情報力や創造力（情報力・創造力）の育成を目的として、経営関係科目と情報関係科目を中心に配置する。講義科目では、「経営学」「マーケティング論」「コミュニティデザイン論」「中小企業論」「起業論」「ＩＣＴとＩｏＴ」「人工知能概論」の 7 科目を配置している。また、実習科目では、「ＩＣＴ実習」「人工知能プログラミング実習」「メディアコンテンツ実習」「マップデザイン実習」「ファシリテーション実習」の５科目を配置して、「事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる応用的能力」を育成する。これにより、学生が卒業直後の進路のみを意識するのではなく、職業経験や社会経験を経た後の将来像を見据えた総合的な教育を展開することができる。

最後に、総合科目に「専門演習」を設置するが、本演習は、これまでに学んだ全科目及び、本演習と同時に学んでいる全科目との学修成果を、学生自身で総括する目的を持ち、学生は、「観光地研究」という統一テーマについて、担当教員による指導の下で、他の学生と協力しながら調査研究を行う。この演習のフィールドワークやワークショップを通して、観光振興専門職にとって不可欠となる新たな課題を自ら発見する力、その課題を主体的に学ぶ力、課題に協働で取り組む力、課題を解決する力を身に付けるものである。

以上のように、本学の教育課程は、既存の専門学校のカリキュラムとは、次元を異にするものである。**（資料 32 専門職短期大学と専門学校のカリキュラムの比較）**

２　せとうち観光専門職短期大学 観光振興学科の特色

2-1 観光学教育・研究の歴史と動向を踏まえた学術観光学と実務観光学の融合

「観光学教育・研究の世界的な歴史と動向」及び「日本観光学の大学教育における学術分野と実務分野」については、先に「1-9 本学が養成する人材像に必要な資質・能力と教育上の目標の(3)の①（23 ページ)」において説明したとおりであるが、本学はそれらを踏まえ、観光学における学術と実務のそれぞれの研究成果に基づき、教育課程の職業専門科目群において、学術の「観光の理論と知識」と実務の「観光実務の知識と技能」という二つの科目構成グループを配置する。**（資料 28 職業専門科目（学術・実務）の科目構成と関連性）**

一方の学術「観光の理論と知識」科目構成群では、学生は学術観光学の理論と知識を講義で学ぶことによって、社会現象としての観光の現実を捉える考え方や方法を修得し、また持続可能な観光や観光による地域創生が実践される仕組みやその実態を講義、実習、演習等を通して理解する。これには、瀬戸内の観光に関する成功例や歴史、文化を学ぶ授業科目が含まれる。

また他方の実務「観光実務の知識と技能」科目構成群では、実務の基礎理論と基礎知識を講義で学んで、観光事業における業務の仕組みや実態を理解して、当該業務の技能やその実践力等を、臨地実務実習によって体得する。**（資料 28 職業専門科目（学術・実務）の科目構成と関連性）**

このように、学術の「観光の理論と知識」と実務の「観光実務の知識と技能」をバランス良く、相互に関連させながら学修できることが、本学の教育研究上の特色である。

2-2 観光学の系統的かつ複合的な学び

本学は、「観光振興のエキスパートとして、観光産業及び観光による地域創生事業を牽引しつつ、社会構造の変化やニーズを的確に捉えて事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる高度専門職業人」を養成するため、今や世界の基幹産業であると同時に、あらゆる開発施策の中で持続可能な開発を適正に実践した事業である「観光」を研究対象としながら、その「観光」を主たる教材として、人材養成のための教育を実践する。そのため、本学では、職業専門科目群及び展開科目群を「観光理論」「ホスピタリティ」「地域」「マネジメント」「情報・統計」「英語」の６つの観点から配置し、学生が進路に応じて「観光」を系統的かつ複合的に学修することが可能となるように配置する。学生は進路に応じて必要な授業科目を必修科目あるいは選択科目として選択するが、卒業単位 96 単位以上のうち、73 単位を必修科目、17 単位を選択必修科目として、すべての学生が必要な授業科目をすべて学修する教育課程を構築する。学生にとっては「厳しいが、必ず身に付く教育」がもう一つの本学の教育研究上の特色である。

（資料 24 せとうち観光専門職短期大学の学び）

2-3 本学の個性・特色

本学は、我が国において面積が最小県の香川県に位置し、定員 80 名という小規模な専門職短期大学であるが、個々の学生が観光振興専門職として、将来に限りなく大きく飛躍できるような、小さくて大きな高等教育機関を目指している。本学は、その立地と規模を優位性として、学生が観光振興専門職を志す修学の期待に応えると同時に、学生の就職を受け入れる観光産業及び観光による地域創生事業が求める人材育成の期待にも応えてゆく。本学は、小さい規模を活かした、学生の大きな成長の実現を個性とし、その個性を体現するために教職員と学生と地域が連携して新たな本学の伝統を築く体制をその特色とする。そうした本学の個性と特性を実現するために、「1-6 既存の高等教育機関との相違から考察する必要性（13 ページ）」に示した、建学の精神、教育理念及び本学の強み・特色を活かした教育と細やかな学生支援に取り組む。

なお、本学では急速な社会変化や産業界のニーズに対応することを目的とし、クォーター制（4 学期制、8 週間で完結する短期集中型の授業形態）を導入する。これにより多様なカリキュラム編成が可能となり、集中的に学修に取り組むことによる教育効果が期待できる。**（資料 33 学年暦）**

３　学科等の名称及び学位の名称

本学の名称、学科と学位の名称は次のとおりであり、また、そのように称する理由もそれぞれに以下のとおりである。

(1)本学の名称　せとうち観光専門職短期大学　/　Setouchi Vocational College of Tourism

本学は、本学の建学の精神である「観光と社会や人類との関わりを深く探究し、観光を通じて地域社会の発展と諸外国との交流と共生に貢献する人材を育成する」の具現化に向けて、本学が立地する瀬戸内（せとうち）**地域**を研究、教育、地域貢献の拠点として、**瀬戸内（せとうち）地域を支え、支えられ、また、愛される存在としてレゾンデートルを確立していきたい。また、瀬戸内（せとうち）地域に根差した教育を受け、研究を進め、地域貢献に参画した学生が、瀬戸内（せとうち）地域をはじめとして広く各地の地域社会の観光振興に資する人材となり、活躍することを期待する。**

そのため、観光を系統的かつ複合的に深く教授研究する**ことを目的として、**「観光の知識と理論」及び「観光実務の知識と技能」を系統的に学修できるよう授業科目を、「観光理論」「ホスピタリティ」「地域」「マネジメント」「情報・統計」「英語」の６つの観点を踏まえて配置する。このように観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材に必要な観光の理論に基づいた実践的かつ応用的な能力を育成することを教育研究上の目的としていることから、学校教育法第 108 条及び専門職短期大学設置基準第 51 条第 1 項、第 2 項に基づき、本学の名称を「せとうち観光専門職短期大学」とする。

(2)学科の名称　観光振興学科　/　Department of Tourism Promotion

上記の建学の精神に基づき、「観光の理論と知識」と「観光実務の知識と技能」、及び「事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる応用的能力」を兼ね備えて、「観光振興のエキスパートとして、観光産業及び観光による地域創生事業を牽引しつつ、社会構造の変化やニーズを的確に捉えて事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる高度専門職業人」を養成するという教育研究上の目的にふさわしいものとするため、専門職短期大学設置基準第 51 条第 2 項に基づき、学科の名称を「観光振興学科」とする。

(3)学位の名称　観光短期大学士（専門職）/　Associate Degree of Tourism

本学の学生が本学の教育課程を修了して取得する学位の対象となる職業・産業分野が、観光分野であることから、短期大学士（専門職）に「観光」を付し「観光短期大学士（専門職）」とする。

４　教育課程の編成の考え方及び特色

4-1 カリキュラム・ポリシー（CP）と科目区分

(1)本学のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学の卒業認定及び学位授与の方針であるディプロマポリシー（DP）に定めた教育目標（DP1「自学自修の態度形成」、DP2「思考法の修得」、DP3「観光の理論と知識の理解」、DP4「観光実務の知識と技能の修得」、DP5「観光英語力の修得」、DP6「応用力の修得」、DP7「観光振興専門職としての総合力の育成」）を実現するため、教育課程編成及び実施の方針であるカリキュラム・ポリシー（CP　教育課程編成方針）を以下のように定め、実施する。

CPⅠ(教育課程の編成)

ディプロマ・ポリシーで定めた７つの教育目標を達成するため、「基礎科目群（自学自修)」、「基礎科目群（思考法)」「職業専門科目群（学術)」、「職業専門科目群（実務)」、「職業専門科目群（観光英語)」「展開科目群」、という６つの科目群と、「総合科目」という１つの科目から成る教育課程を編成する。各科目群に配置される科目は、履修の順序に従って、その内容が「基礎から応用へ」ないしは「初級から上級へ」と配列する。

CP1「基礎科目群（自学自修)」

「自学自修の態度」を養い、理論や実務を学ぶために重要な基礎知識や技能を修得するための授業科目として、「基礎科目群（自学自修)」に「基礎演習」及び「キャリアデザイン論」を配置し、講義及び演習形式で授業を行う。

CP2「基礎科目群（思考法)」

「思考力」を養い、基礎的な思考法を修得するための授業科目として、「基礎科目（思考法)」に「文化論」「地理学」「企業の社会的責任」「法と社会」「ビジネスコミュニケーション」「信仰の歴史」「異文化理解」「災害と防災の科学」「介助実務実習」を配置し、講義及び実習形式により、授業を行う。

CP3「職業専門科目群（学術)」

観光学の理論と観光に関連する知識を身に付け、観光振興専門職としての「思考力」を磨き上げながら、観光事象の実態とその変化を学ぶための授業科目として、「職業専門科目群（学術)」に観光の理論と知識を学ぶ学術科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。

①観光学入門科目

観光振興専門職の基礎知識として身につけるべき主要な観光事象と、それらの事象を捉える理論や方法を修得するための授業科目として「観光学概論」を配置し、講義形式により授業を行う。

②地域観光論入門科目群

「地域資源」や「地域社会」に関する理解を深め、課題の発見や解決の方策の必要な思考法や調査手法を修得するために必要な授業科目として、「地域資源論」を講義形式により、「地域観光基礎実習」を実習形式により配置する。

③観光基礎理論科目群

観光学術理論の基礎的理論について考察し、観光研究に関する理論と方法論を修得することにより、観光学術理論の基盤を形成するための講義科目として「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」「観光行動論」「観光政策論」を配置し、講義形式により授業を行う。

④観光応用理論科目群

観光学術理論の応用的理論について考察し、観光振興専門職としての飛躍を図るために必要な能力を修得するための授業科目として「国際観光論」「観光文化施設論」「観光メディア論」を配置し、講義形式により授業を行う。

⑤せとうち観光研究科目群

瀬戸内地域における観光の現実や課題、観光振興及び観光による地域振興に対する理解を深め、地域における観光振興の方法論と課題解決方策の発見等に必要な能力を修得するため「せとうち観光アート論」「せとうち観光資源論」「四国巡礼研究」「四国観光史」を配置し、講義形式により授業を行う。

CP4「職業専門科目群（実務）」

観光産業や観光による地域創生事業の実務に関連する理論及び知識を修得するとともに、観光実務を体験的に学び、「思考力」を土台として、「実践力」と「協働力」を修得するための授業科目として「職業専門科目群（実務）」に観光実務の理論と技能を学ぶ実務科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。

①観光実務理論科目群

観光事業において重要な経営施策であり、また観光振興専門職にとっても不可欠な能力・技能であるホスピタリティ及びリスクマネジメントに関する能力を修得するための講義科目として、「ホスピタリティマネジメント論」「観光リスクマネジメント」を配置し、講義形式により授業を行う。

②観光事業論科目群

観光実務の実践のための基盤となる能力を修得するとともに、臨地実務実習後の観光実務に関する理論と知識の総まとめと定着を図るための授業科目として、「観光事業論」「交通産業論」「宿泊産業論」「地域創生事業論」を配置し、講義形式により授業を行う。

③臨地実務実習事前学修科目群

ホスピタリティ業務に関わる「技能訓練」の基礎を修得するための授業科目として「ホスピタリティ実務実習Ａ・Ｂ」を配置し、学内における実習形式により授業を行う。また、臨地実務実習における実習の目的、内容、日程、留意事項などを体系的に指導し、学生が臨地実務実習で効果的な学修成果を達成するために必要な授業科目として、「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」「観光実務応用論」を配置し、演習形態を含む講義形式により授業を行う。

④臨地実務実習科目群

観光実務の基礎から応用、マネジメントに至るまでのスキルを修得するとともに、観光振興、観光による地域創生の観点から観光事業を企画・立案・運営するために必要な能力を修得するための授業科目として「臨地実務実習Ⅰ」「臨地実務実習Ⅱ」「臨地実務実習Ⅲ」を配置し、学外における実習形式により授業を行う。

⑤臨地実務実習事後学修科目群

臨地実務実習の実践的学修の成果を振り返り、それらを理論的に整理しながら、今後の学修に有機的につなげることを目的として、「観光支援ビジネス実務発展論」「観光実務発展論」「観光実務マネジメント論」を配置し、演習形態を含む講義形式により授業を行う。

CP5「職業専門科目群（観光英語)」

インバウンド観光の多様な状況に対応するための観光英語力を修得するための授業科目として、初級から応用へと段階的に「観光基礎英語Ⅰ～Ⅱ」「観光英語Ⅰ～Ⅳ」を配置し、演習形式により授業を行う。

CP6「展開科目群」

観光関係以外の異分野から、「①企業やＮＰＯ法人、地域社会等における組織及び事業運営能力（マネジメント力)」及び「②事業イノベーションや地域社会の魅力を創出するための情報力や創造力（情報力・創造力)」に関する応用的な能力を修得するための授業科目として、「経営学」「中小企業論」「コミュニティデザイン論」「マーケティング論」「起業論」「ICT と IoT」「人工知能概論」を配置し、講義形式により授業を行うとともに、「ファシリテーション実習」「ICT 実習」「人工知能プログラミング実習」「マップデザイン実習」「メディアコンテンツ実習」を配置し、実習形式により授業を行う。

CP7「総合科目」

3 年間で学修した全教科の成果を統括し、他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、観光振興専門職としての総合力と課題解決力を修得するため、「専門演習」を通年で配置し、演習形式により授業を行う。

CPⅡ（学修形態）

学修の形態は、授業の内容によって、講義形式と演習形式及び実習形式に分かれる。なお、講義形式においてもグループワークやワークショップ等の演習形態が取り入れられる場合がある。

CPⅢ（成績評価の在り方）

授業時間と事前・事後学修時間を確保し、各科目の到達目標毎に対応する成績評価基準で適正な成績評価を行うことによって、卒業要件・学位授与のための単位を実質化する。成績評価の方針と基準については、シラバスに明記する。

CPⅣ（教育の質の保証）

各科目のディプロマ・ポリシー及び成績評価の在り方をシラバスにおいて学生に提示し、学生による授業評価アンケートを実施し、教職員と学生が相互に協力して点検しながら、教育研究開発会議及び教育課程連携協議会が、教育改善をＰＤＣＡサイクルによって不断に推進・点検する。

（資料 63 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、教育課程の対比表）

(2) 教育課程の科目区分と科目構成

本学の教育課程は、カリキュラム・ポリシー（CP）に基づき、ディプロマ・ポリシー（DP）を達成するために、科目区分がなされ、それぞれの科目区分にディプロマ・ポリシー（DP）に示し

た教育目標ごとに、次のような科目を配置する。(それぞれの科目には「科目コード」を付し、教育目的、履修年次、履修クォーター、難易度、履修順序等が分かるようにする。)

(資料 34 養成する人材像、３つのポリシー、教育課程の対応表)(資料 35 せとうち観光専門職短期大学観光振興学科カリキュラムマップ)(資料 36 せとうち観光専門職短期大学観光振興学科カリキュラムツリー)(資料 63 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、教育課程の対比表)

CP1 基礎科目群(自学自修)の科目構成

「DP1 自学自修の態度形成」に対応する科目

基礎演習(必修)　キャリアデザイン論(必修)

CP2 基礎科目群(思考法)の科目構成

「DP2 思考法の修得」に対応する科目

文化論(必修)　地理学(必修)

企業の社会的責任　法と社会　ビジネスコミュニケーション
信仰の歴史　異文化理解　災害と防災の科学
} ３科目選択必修

介助実務実習(必修)

CP3 職業専門科目群(学術)の科目構成

「DP3 観光の理論と知識の理解」に対応する科目

①観光学入門科目

観光学概論(必修)

②地域観光論入門科目群

地域資源論(必修)　地域観光基礎実習(必修)

③観光基礎理論科目群

観光社会文化論(必修)　観光振興・地域創生論(必修)

観光行動論(必修)観光政策論(必修)

④観光応用理論科目群

国際観光論　観光文化施設論

観光メディア論

観光データ整理実習(必修)　エコツーリズム実習(必修)

⑤せとうち観光研究科目群

せとうち観光アート論　せとうち観光資源論
四国巡礼研究　四国観光史
} ２科目選択必修

CP4 職業専門科目群(実務)の科目構成

「DP4 観光実務の知識と技能の修得」に対応する科目

①観光実務理論科目群

ホスピタリティマネジメント論（必修）　観光リスクマネジメント（必修）

②観光事業論科目群

観光事業論（必修）

交通産業論　宿泊産業論
地域創生事業論
｝１科目選択必修

③臨地実務実習事前学修科目群

ホスピタリティ実務実習Ａ　ホスピタリティ実務実習Ｂ（いずれか１科目選択必修）

観光支援ビジネス実務基礎論（必修）

観光実務基礎論（必修）

〔航空クラス　鉄道クラス　宿泊クラス　観光地域創生クラス〕

観光実務応用論（必修）

〔航空クラス　鉄道クラス　宿泊クラス　観光地域創生クラス〕

④臨地実務実習科目群

臨地実務実習Ⅰ（必修）

臨地実務実習Ⅱ（必修）

〔航空クラス　鉄道クラス　宿泊クラス　観光地域創生クラス〕

臨地実務実習Ⅲ（必修）

〔航空クラス　鉄道クラス　宿泊クラス　観光地域創生クラス〕

⑤臨地実務実習事後学修科目群

観光支援ビジネス実務発展論（必修）

観光実務発展論（必修）

〔航空クラス　鉄道クラス　宿泊クラス　観光地域創生クラス〕

観光実務マネジメント論（必修）

〔航空クラス　鉄道クラス　宿泊クラス　観光地域創生クラス〕

CP5 職業専門科目群（観光英語）の科目構成

「DP5 観光英語力の修得」に対応する科目

観光基礎英語Ⅰ（必修）　観光基礎英語Ⅱ（必修）

観光英語Ⅰ　観光英語Ⅱ　観光英語Ⅲ　観光英語Ⅳ

CP6 展開科目群の科目構成

「DP6 他分野の応用的な能力の修得」

経営学（必修）

中小企業論　コミュニティデザイン論
マーケティング論　起業論
｝２科目選択必修

ファシリテーション実習（必修）

ＩＣＴとＩｏＴ（必修）　人工知能概論（必修）

ＩＣＴ実習（必修）　人工知能プログラミング実習（必修）
マップデザイン実習（必修）　メディアコンテンツ実習（必修）

CP7 総合科目
「DP7. 観光振興専門職としての総合力の育成」に対応する科目
専門演習（必修）

以上のような科目群によって、本学科の教育課程が体系的に編成される。**（資料 34 養成する人材像、３つのポリシー、教育課程の対応表）（資料 35 せとうち観光専門職短期大学観光振興学科カリキュラムマップ）（資料 36 せとうち観光専門職短期大学観光振興学科カリキュラムツリー）（資料 63 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、教育課程の対比表）**

この教育課程において、ディプロマポリシー（DP）に掲げた教育目標と身に付けるべき能力である、DP1. 自学自修の態度形成、DP2. 思考法の修得、DP3. 観光の理論と知識の理解、DP4. 観光実務の知識と技能の修得、DP5. 観光英語力の修得、DP6. 応用力の修得、DP7. 観光振興専門職としての総合力の育成のための学修が行われ、その学修によって、「観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引する人材」の基本的な能力である「人間力」の素地を育成し、「観光の理論と知識」「観光実務の知識と技能」を修得し、さらに「事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる応用的能力」を修得しつつ、これらを統括して観光振興専門職としての総合力を育成する。

各科目の授業目標は、ディプロマ・ポリシー（DP）の各項目に従って科目毎に到達目標として設定する。また科目の成績評価は、カリキュラム・ポリシー（CP）の CPⅢに従って、科目毎にシラバスに提示された授業目標の到達度に対応する成績評価基準により、適正な成績評価を行う。

(3) 職業専門科目群及び展開科目群における６つの観点

本学本学科の教育課程では、職業専門科目群及び展開科目群において、「観光理論」「ホスピタリティ」「地域」「マネジメント」「情報・統計」「英語」の６つの観点から授業科目を配置する。これは、観光振興専門職の養成にあたり、観光振興のエキスパートをめざしつつ、進路や将来像に応じて「観光」を系統的かつ複合的に学修することができるよう考慮したものである。

上記(2)で述べた科目区分は、「観光学の知識と理論」、「観光実務の知識と技能」、「事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる応用的能力」に関する授業科目を科目の関連性と難易度を明確にするために配列したものであるが、これを縦軸とし、「観光理論」「ホスピタリティ」「地域」「マネジメント」「情報・統計」「英語」の６つの観点を横軸として、学生が進路や学生の個性に応じて、複合的な領域にわたる教育研究が可能な教育課程を整備する。**（資料 37 科目群と６つの観点）**

なお、コース等は設けないが、学生には、これらの授業科目を有効かつ効果的に学修するためカリキュラムツリーと進路ごとの履修モデルを提示する。また、進路別履修モデルに対応する時間割表において、各年次、各クォーターの授業科目数や事前学修・事後学修に無理がなく、単位の実質化を図ることが可能であることを確認している。**（資料 36 せとうち観光専門職短期大学観**

光振興学科カリキュラムツリー）（資料 38 進路別履修モデル）（資料 39 進路別履修モデルに対応する時間割表）

CP4 職業選択科目（実務）において、学生は進路に応じて、臨地実務実習科目及びその事前・事後学修科目を履修することにより、学生が卒業後に就職する観光産業及び観光による地域創生事業の現場に直結することになるが、2 年次第 1 クォーターの「観光実務基礎論」の履修選択から進路を明確にし、それに対応した「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）（鉄道クラス）（宿泊クラス）（観光地域創生クラス)」及び「観光実務発展論（航空クラス）（鉄道クラス）（宿泊クラス）（観光地域創生クラス)」を履修し、2 年次第 2 クォーターの「観光実務応用論」の履修選択により、それに対応した「臨地実務実習Ⅲ（航空クラス）（鉄道クラス）（宿泊クラス）（観光地域創生クラス)」及び「観光実務マネジメント論（航空クラス）（鉄道クラス）（宿泊クラス）（観光地域創生クラス)」を履修することになる。「臨地実務実習Ⅱ」は観光実務の基礎を、「臨地実務実習Ⅲ」は観光実務の応用とマネジメントについて、実習を通して学修する科目であるが、クラスごとの授業の特性として、「臨地実務実習Ⅱ」では、航空クラスは「国内線航空事業実務」、鉄道クラスは「地方民営鉄道事業実務」、宿泊クラスは「宿泊事業実務（基礎)」、観光地域創生クラスは「地域創生事業実務（基礎)」について学修し、「臨地実務実習Ⅲ」では、航空クラスは「国際線航空事業実務」、鉄道クラスは「広域連携鉄道事業実務」、宿泊クラスは「宿泊事業実務（応用・マネジメント)」、観光地域創生クラスは「地域創生事業実務（応用・マネジメント)」について学修する。

このため、学生は、原則として同じクラスを選択すべきと考えるが、その基礎となる観光理論やホスピタリティマネジメントについては共通する部分があり、また臨地実務実習の前後には、事前・事後学修科目を配置して学習効果を高める工夫をしていることにより、学生の進路変更や将来的な産業構造の変化への対応力を育成する観点から、クラス変更も可能な体制を構築する。具体的には、航空クラスにおいては、実習で体得すべき業務内容が複雑多岐に渡るため、Ⅱ、Ⅲとも航空クラスを選択することが望ましいが、鉄道クラス、宿泊クラス、地域創生クラスにおいては、相互にⅡとⅢでクラスを変更することも可能とする。

このことについては、学生の理解を図るため、入学時の履修ガイダンスや個人面接等において、その趣旨を徹底する。

① 職業専門科目群及び展開科目群における６つの観点に対応する科目

先に述べたように、職業専門科目群及び展開科目群では、観光学の知識と理論や観光事業の実務と知識及び事業イノベーションや地域社会の魅力を創出できる応用的能力を育成する科目を学修する際に、「観光理論」「ホスピタリティ」「地域」「マネジメント」「情報・統計」「英語」の６つの観点から系統的かつ複合的に履修する。それぞれに、対応する科目及びその概要は以下のとおりである。

①-1 「観光理論」

観光学概論（必修科目）　※①-2「ホスピタリティ」と重複する。

この授業では、現代観光の関連領域に生じる現実の中から、観光振興専門職の基礎知識と

して身につけるべき主要な観光事象と、それらの事象を捉える理論や方法を講義形式で学ぶ。現代観光の関連領域を学修するにあたり、まず、「観光とは何か」（観光の定義と歴史）を理解する。次に、現代観光の領域全体を、「観光事象と社会が影響を及ぼし合う領域」（観光と社会・経済・文化・環境等の関連領域）と、「観光事象を支える仕組みの領域」（観光と国際機関・観光行政・観光事業等の関連領域）との 2 つに分け、それぞれの領域にアプローチした観光学の研究成果を修得する。

観光社会文化論（必修科目）

この授業では、社会学や文化人類学などがとらえた「社会文化現象にかかわる観光」の研究を理解しながら、その研究で用いられる理論や方法も修得する。社会文化現象にかかわる観光は、1960 年代に出現した「大衆観光」が、世界中の国々に多くの重大な社会経済的影響を及ぼすにつれて認識され始めた。大衆観光は、観光客受け入れ社会の文化や自然にさまざまな負の影響を及ぼしたので、大衆観光に代わる新しい観光の形態が、1980 年代以降に模索され、その後の 1990 年代に、観光によって地域の文化や自然をまもり、「持続可能な地域社会」を構築する観光が実践された。その観光は、「持続可能な観光」と呼ばれる。このように再構築された「社会文化現象にかかわる観光」について、社会学や文化人類学が何をどのように考察したのかを学ぶ。

観光振興・地域創生論（必修科目）※①-3「地域」と重複する。

この授業では、観光振興が地域創生と共振して「持続可能な地域社会」の形成をめざす現実と、その現実をとらえる研究の理論や方法とを学ぶ。少子高齢化の時代が到来し「地方消滅」の社会状況が予測されるなかで、観光振興と地域創生のそれぞれの新たなあり方が交差して、地域を活性化し持続可能な地域社会を形成しようとする事例がいくつかみられるようになった。そのような事例が生じた経緯を、まず、一方で戦後の地域開発政策から現在の地方創生政策までの地域振興の変遷と、もう一方で大規模な観光地開発から持続可能な観光開発までの観光振興にかかわる変遷とをたどって明らかにする。そして、事例が発生した経緯の分析結果を踏まえて、観光振興と地域創生が結びつく持続可能な地域社会の形成が、いかに実現するかを考える。

観光行動論（必修科目）

この授業は、観光行動の社会心理学的なメカニズム、および観光行動と観光対象の関係について講義形式で学ぶ。経済的に豊かな社会では、観光が個人の日常生活の一部となり、個人や集団の観光行動が現代社会に広く普及した結果として、観光行動が現代社会のさまざまな領域で大きな影響を及ぼすようになった。そうした観光行動がどのような社会心理学的な仕組みで発生し、また観光行動がどのような社会的現実をいかに生みだしているのかについても、観光研究の知見を通して解説される。観光行動の研究は、観光研究における主要な課題の一つなので、その研究成果は観光に関連する多くの研究課題に応用される。

観光政策論（必修科目）

この授業では、観光政策において、観光行政が実施に至る政策的プロセスや事業実施の財政的な支援スキーム等について学ぶ。本講義は、観光行政が取り組む「４つの施策」を主題

とする。その「４つの施策」とは、①外貨獲得や自国に対する理解の増進等といった国益の実現をめざす「インバウンド観光の振興」、②社会政策的視点から余暇生活の充実による国民福祉の向上をめざす「国内観光旅行やアウトバウンド観光の振興」、③一国経済政策の視点から国内産業の活性化や雇用の増大等をめざす「観光関連産業の振興」、そして④地方経済政策の視点から地域経済の活性化や地域の経済格差是正等をめざす「地域観光関連産業の振興」である。この４つの主題が、①政策の現実と変遷、②観光行政の手法、そして③「観光政策事例研究」という３つの切り口から解説される。

国際観光論（選択科目）

この授業では、国際観光の歴史と現実を学び、国際観光が地球規模でもたらす影響や問題点について考える。大衆化した国際観光は 1960 年代から出現し、その規模は今日までに急速に拡大し続けている。1960 年に 7000 万人であった年間国際観光客数は、2017 年に 13 億 2000 万人にまで増大した。このように規模が拡大する国際観光は、いまや世界の動向に重大かつ多様な影響を及ぼす。国際観光がもたらす影響は、収益の増大といった正の効果ばかりでなく、観光公害、文化変容、自然破壊といった、深刻な負の効果も生み出してきた。そうした重大な影響力をもつ国際観光の動向や本質を明らかにして、現代日本における国際観光の現実と問題点についても考えていく。

観光文化施設論（選択科目）

この授業は、数ある観光施設（宿泊施設、飲食施設、土産物店などの物販施設、観光案内施設、交通施設等）の中でも、特にレジャー・文化関連の施設を「観光文化施設」とし、その成り立ちを中心に学ぶ。観光文化施設には、例えば博物館や動物園、テーマパークなどが挙げられ、これらは身近なレジャー施設であると同時に、それ自体が観光目的となり遠方から人々を呼び込む観光資源にもなりうる。多くは明治以降に作られたものであるが、その源流は江戸時代からたどることが可能である。近世の人々の文化や習慣、娯楽等が、西洋の影響や近代化を経てどのような形で今日のレジャー施設・文化施設へと転じていったのかを示しながら、これらの施設の現在の状況や機能について事例を用いながら学ぶ。

観光メディア論（選択科目）　※①-5「情報・統計」と重複する。

観光や観光振興は、メディアと深いかかわりがある。この授業では、ガイドブックや旅番組など、旅行情報を提供する広報ツールとしてのメディアの一面を取り扱うだけでなく、メディアがもたらす地域への影響や地域住民へのアイデンティティへの波及、観光客同士の情報交換など、さまざまな観点から観光とメディアの関係性を学ぶ。それにより、学生自身が各々に馴染みのある地域を題材に、その地の観光とメディアの関係について具体的に考察できるようになることを目指す。

エコツーリズム実習（必修科目）※①-2「ホスピタリティ」と重複する。

「エコ」という言葉の由来は「エコロジー（生態学)」にあるが、近年では「環境に配慮している」ことを意味することが多い。エコツーリズムは、**特定のエリア**の環境保全にも貢献する観光の一形態であり、言い換えれば「持続可能な観光（サステイナブルツーリズム)」の一つである。この実習では、地域資源やそれらを取り巻く環境を理解し、その保全および観

光における活用を目的としたエコツアーを作成することを主眼とする。また、事業として成り立たせるために必要なガイドとして修得すべき技術（心構え、コミュニケーション、知識の修得方法、伝え方等の技術等）、フィールドを活用したプログラムの企画・運営・改善方法等について、実践しながら学び修得する。

観光事業論（必修科目）※①-2 「ホスピタリティ」と重複する。

従来の観光事業論は、観光産業論ともよばれ、観光関連企業が利潤を追求する諸活動を研究したが、最新の観光事業論は、政府、自治体や公益団体が主体となって、観光関連企業とも連携・協働し、地場産業、地元企業や地域住民にとって有益な「社会的価値」を生み出す諸活動の総体を研究するようになった。そこで、この授業では、政府や自治体が自ら、あるいは民間企業と連携して、地域住民の福利厚生や地域全体の活性化を目指して実践する全ての観光事業活動について学ぶ。その際、我が国の観光事業の具体的なプログラムを観光政策のジャンルごとに説明し、世界の観光主要国の観光事業とも比較しながら検討する。

交通産業論（選択必修科目）※①-2 「ホスピタリティ」と重複する。

この授業では、人員の移動や運送にかかわる全ての産業、すなわち陸運・水運・空運全般とその関連分野を対象として、それぞれの発祥期から現代に到るまでの発展の歴史や、社会的・経済的な役割、現在の課題や今後の展開、さらには現在特に社会的な注目度が高い個別の関連テーマなどについて学ぶ。また、これらの学修結果を踏まえた上で、後半では特に「公共の利益の視点」「観光業振興の視点」等、多角的な視点から交通産業について考察を深める。

宿泊産業論（選択必修科目）※①-2 「ホスピタリティ」と重複する。

この授業の目的は、宿泊産業の古来から現代に至る歴史的な役割をたどり、地域産業としての宿泊業の重要性を認識することである。そこで、宿泊産業が歴史的に発展してきた経緯を概観したうえで、日本の外資系ホテルと国内系ホテルにおける宿泊パッケージプラン、料金宿泊形態、収益部門などの特徴から、両系のホテルの経営方法、顧客フォロー、経営の現状などについて比較検討しながら、宿泊産業全体の動向をとらえる。また、近年の宿泊産業が、各事業所の所在地域の観光振興や地域連携を模索し実践する状況を探り、そうした状況を踏まえて、今後の宿泊産業の長期的な課題や展望について考える。

地域創生事業論（選択必修科目）※①-3 「地域」と重複する。

この授業では、地域創生事業の理論と実践について、特に中心商店街活性化による地域創生を事例として学ぶ。授業では、まず地域創生の実践において多くの地域が抱える一般的な諸課題を理解**するとともに、地域経済の実態や地域行政組織の仕組みや役割について考察する。なお、地域行政組織の仕組みや役割については、学生が、授業全般に渡る主担当教員の実践的理論に加え、その基盤となる高度な学術的理論を学修することができるよう、学術系の兼任教員を補充して行う。**

そのうえで、次にそれらの課題を解決するための、地域創生の理論と方法を考察して、さらにそうした取り組みが地域にもたらす影響についての知識も修得する。具体的には、成功事例と評価される、実在する商店街の地域創生事業を題材として、その事業コンセプト、事業プロセス、事業の特長、などを理解したうえで、地域創生事業の結果として地域経済がい

かに活性化し、また持続可能な観光振興が地域創生事業にいかに寄与するかについての仕組みを学修する。

①-2 「ホスピタリティ」

観光学概論（必修科目）　※①-1 「観光理論」と重複する。【再掲】

この授業では、現代観光の関連領域に生じる現実の中から、観光振興専門職の基礎知識として身につけるべき主要な観光事象と、それらの事象を捉える理論や方法を講義形式で学ぶ。現代観光の関連領域を学修するにあたり、まず、「観光とは何か」（観光の定義と歴史）を理解する。次に、現代観光の領域全体を、「観光事象と社会が影響を及ぼし合う領域」（観光と社会・経済・文化・環境等の関連領域）と、「観光事象を支える仕組みの領域」（観光と国際機関・観光行政・観光事業等の関連領域）との 2 つに分け、それぞれの領域にアプローチした観光学の研究成果を修得する。

エコツーリズム実習（必修科目）※①-1 「観光理論」と重複する。【再掲】

「エコ」という言葉の由来は「エコロジー（生態学)」にあるが、近年では「環境に配慮している」ことを意味することが多い。エコツーリズムは、**特定のエリア**の環境保全にも貢献する観光の一形態であり、言い換えれば「持続可能な観光（サステイナブルツーリズム)」の一つである。この実習では、地域資源やそれらを取り巻く環境を理解し、その保全および観光における活用を目的としたエコツアーを作成することを主眼とする。また、事業として成り立たせるために必要なガイドとして修得すべき技術（心構え、コミュニケーション、知識の修得方法、伝え方等の技術等)、フィールドを活用したプログラムの企画・運営・改善方法等について、実践しながら学び修得する。

ホスピタリティマネジメント論（必修科目）

「ホスピタリティ」は、とくに事業経営において、1990 年代から「サービス」に代わって使われる用語となり、また経営活動に不可欠な職業的行為やその仕組みとなった。このようなホスピタリティを管理・運営する「ホスピタリティマネジメント」は、観光事業において重要な経営施策であり、また観光振興専門職にとっても不可欠な能力･技能である。そこで、この授業では、「ホスピタリティ」の意味を理解したうえで、品質の高いホスピタリティを管理し提供するための「ホスピタリティマネジメント」を学修する。なお、授業は講義形式で展開する。

観光リスクマネジメント（必修科目）

観光の 3 要素は安全性・経済性・快適性とされている。その中でも、最重要課題は「安全性」である。楽しみと危険は表裏の関係にあるが、例えば観光地で素晴らしい景色や美味しい料理を満喫しても、帰路で交通事故に遭ったらどうだろうか。その旅全体が暗いものとなってしまうことであろう。観光分野では、常に安全を最優先にした対応が求められる。つまり、観光業に携わる人材は、想定される危険（リスク）を極小化する努力を、常に行わなければならない。この授業では、安全とは何か、安全になるとはどういうことなのか、観光客を歓待するホストとして守るべきものは何かを学び、観光業に必要なリスク

マネジメント能力を修得する。なお、授業は講義形式で展開する。

観光事業論（必修科目）※①-1 「観光理論」と重複する。【再掲】

従来の観光事業論は、観光産業論ともよばれ、観光関連企業が利潤を追求する諸活動を研究したが、最新の観光事業論は、政府、自治体や公益団体が主体となって、観光関連企業とも連携・協働し、地場産業、地元企業や地域住民にとって有益な「社会的価値」を生み出す諸活動の総体を研究するようになった。そこで、この授業では、政府や自治体が自ら、あるいは民間企業と連携して、地域住民の福利厚生や地域全体の活性化を目指して実践する全ての観光事業活動について学ぶ。その際、我が国の観光事業の具体的なプログラムを観光政策のジャンルごとに説明し、世界の観光主要国の観光事業とも比較しながら検討する。

交通産業論（選択必修科目）※①-1 「観光理論」と重複する。【再掲】

この授業では、人員の移動や運送にかかわる全ての産業、すなわち陸運・水運・空運全般とその関連分野を対象として、それぞれの発祥期から現代に到るまでの発展の歴史や、社会的・経済的な役割、現在の課題や今後の展開、さらには現在特に社会的な注目度が高い個別の関連テーマなどについて学ぶ。また、これらの学修結果を踏まえた上で、後半では特に「公共の利益の視点」「観光業振興の視点」等、多角的な視点から交通産業について考察を深める。

宿泊産業論（選択必修科目）※①-1 「観光理論」と重複する。【再掲】

この授業の目的は、宿泊産業の古来から現代に至る歴史的な役割をたどり、地域産業としての宿泊業の重要性を認識することである。そこで、宿泊産業が歴史的に発展してきた経緯を概観したうえで、日本の外資系ホテルと国内系ホテルにおける宿泊パッケージプラン、料金宿泊形態、収益部門などの特徴から、両系のホテルの経営方法、顧客フォロー、経営の現状などについて比較検討しながら、宿泊産業全体の動向をとらえる。また、近年の宿泊産業が、各事業所の所在地域の観光振興や地域連携を模索し実践する状況を探り、そうした状況を踏まえて、今後の宿泊産業の長期的な課題や展望について考える。

ホスピタリティ実務実習Ａ（選択必修科目）

ホスピタリティ(歓待）の概念は、古来より互酬性、共生関係の中で存在していたが、産業化社会以降のビジネス経済の世界では、サービスの実施としてその捉え方にも変化が見られた。生活環境がグローバル化と多様化の時を迎えた中で、観光実務においても、ホスピタリティや日本的なもてなしの価値観をどのように実践・発揮するかが問われている。この授業は、コミュニケーション、基本的なソーシャルスキルといった人とのかかわり方が重要となる観光振興専門職においての参加型実務実習である。実習では、場面とスキル項目が設定され、段階的にわかりやすく学修でき、個人・グループ・チームで実習を繰り返すことで相互のフィードバックも得られる。ホスピタリティの知識や周辺概念の講義と共に、観光地での日常における来訪者（ゲスト）のもてなしや、接遇、接客スキルを発揮するための実践内容でもある。

ホスピタリティ実務実習Ｂ（選択必修科目）

この実習では、料飲業務の現場を事例として、高品質のホスピタリティを提供できる知識や技能を学び、チームで働く協働力を養い、率先して行動する実践力を身につける。ホスピタリティを基幹業務とするサービス業従事者の実務において求められる、正しい立ち居振る舞い、言葉遣い、マナー、プロトコル、サービス等を学んだ後、クレーム対応やチームでのサービスなど、臨地実務実習で想定されるさまざまなシーンへの対応についても学修する。個人・グループ・チームで実習を繰り返すことで相互のフィードバックも得られる。なお本実習は、ホスピタリティの知識と技能の修得を目的とするが、同時に、臨地実務実習の学修をより効果的なものとするための実習でもある。

観光支援ビジネス実務基礎論（必修科目）

この授業の目的は、「臨地実務実習Ⅰ」の学修をより効果的なものとするため、当実習の事前学修科目として、観光振興・地域創生の重要な実践主体である観光支援ビジネス施設の実務と、そのビジネス施設による観光振興・地域創生の実践とに関連する基本的な知識や技能を学修することにある。「臨地実務実習Ⅰ」の実習地域は、香川県内の①高松・東讃、②中讃、③西讃、④小豆島、⑤直島の５エリアであり、また実習施設は、それぞれのエリアに所在する観光支援ビジネス施設であるので、本授業はこの５エリアの観光および観光振興の現状と、各エリアの観光支援ビジネス施設の特徴などについて、講義やグループワーク、学生のプレゼンテーションなどの授業形式で学修する。

臨地実務実習Ⅰ（必修科目）

この実習は、観光をさまざまな形態で支援する地域の交通、宿泊、その他の観光関連諸施設において、各施設の実務を体得し、また同時に各施設がその立地する地域の観光振興・地域創生とどのように連携しているかを実践的に学ぶ。実習先の施設は、本学が定める香川県内の①高松・東讃、②中讃、③西讃、④小豆島、⑤直島の５エリアにおいて観光支援ビジネスに従事する各施設である。各施設での実習を通して、それぞれの実務を身につけると同時に、その施設の事業が当地域の観光振興・地域創生事業といかに関係し、また他の諸施設といかに連携しているか、といった地域の観光振興・地域創生にかかわる状況を理解する。

観光支援ビジネス実務発展論（必修科目）

この授業は、「臨地実務実習Ⅰ」の学修成果を振り返り、その効果を理論的に整理して自身の能力に定着させ、さらに今後の学修全体に体系的につなげることを目的とする。振り返りのポイントは３つある。第一に、実習施設で実践的に学んだ観光支援ビジネス実務に関する理解度を確認する。第二に、当該実習施設で体得した各自の学修の成果と課題を自身で再検討する。そして第三に、学生各自が各エリアにおける各施設の実習で体得した観光支援ビジネスの状況について、エリアごとにグループ内で情報を交換しながら各エリアの観光振興・地域創生の全体像を統合する。授業は、講義にくわえて、グループワークやプレゼンテーションなどの授業形式によって進められる。

観光実務基礎論（必修科目）

本授業の目的は、「臨地実務実習Ⅱ」の学びを円滑かつ効果的にするため、実習先の観光支援ビジネスの業務を想定して、あらかじめ身につけておくべき知識と技能を修得するこ

とにある。授業では、実習先の観光支援ビジネスのうち、航空、鉄道、宿泊、観光地域創生について、各事業の歴史や特性、経営と課題、事業所の組織、部門別業務概要などの総括的知識にくわえ、それぞれの事業において近年特に重要性が増している地域観光振興への取り組みなどについても学修する。授業は主に講義形式で展開されるが、グループワーク、パワーポイントを使用した発表などの機会も設ける。また、「臨地実務実習Ⅱ」において体験することとなる部門別実務への予行演習として、観光支援ビジネス施設の各業務部門での具体的な職務手順や関連する専門知識などについて、ロールプレイも交えながら実践的に学修する。

臨地実務実習Ⅱ（必修科目）

この実習では、観光支援ビジネスで高い実績をあげ地域の観光振興にも寄与する事業体を実習先として、観光支援ビジネスの現場のフロントラインからバックヤードまで、基礎的な実務を実践的に学修する。具体的には、各事業体が従事する基礎的実務、つまり「覚えて遂行する実務」と、業務や地域観光振興・地域連携業務にかかわる基礎知識を修得する。実習先となる観光支援ビジネスの事業体は、①航空、②鉄道、③宿泊、④観光地域創生という４分野のクラスに分けられる。この４クラスの中から学生は自身で実習先となる事業体を選択して、観光支援ビジネスの基礎的実務の実習を行い、思考力、実践力、協働力を実践的に身につける。本実習は、学生各自が実社会の現場における実際の活動に身を置いて学ぶので、普段よりいっそうの真摯な学修態度が求められる。

観光実務発展論（必修科目）

本授業では、「臨地実務実習Ⅱ」における実践的学修の成果を、理論的に整理しながら今後の学びに有機的につなげることを目的として、主に実習の各ステップにおける学びの振り返りを行う。振り返りのポイントは４つある。第一に、「臨地実務実習Ⅱ」での各自の実践的学修の成果と課題を確認する。第二に、「臨地実務実習Ⅱ」における観光支援ビジネスの基本実務について、各自の理解度を確認する。第三に、観光支援ビジネス全般にかかわる事業特性と業務の課題などについて、ケーススタディで理解を深める。そして第四に、観光支援ビジネスの事業体が、その立地する地域の観光振興にどのような活動をしているかを確認する。なおこの授業は、講義とともに、グループワークやプレゼンテーションによって行われる。

観光実務応用論（必修科目）※①-4「マネジメント」と重複する。

本授業の目的は、「臨地実務実習Ⅲ」の学びを円滑かつ効果的にするため、実習先の観光支援ビジネスの主にマネジメント業務を想定して、あらかじめ身につけておくべき知識と技能を修得することにある。授業では、実習先の観光支援ビジネスのうち、航空、鉄道、宿泊、観光地域創生について、事業体の経営理念、各事業のマネジメントとその課題などの総合的知識にくわえ、それぞれの事業において重要性が増している地域観光振興への理念や実践管理などについても学修する。授業は主に講義形式で展開されるが、グループワーク、パワーポイントを使用した発表などの機会も設ける。また、「臨地実務実習Ⅲ」において体験することとなる部門別実務への予行演習として、観光支援ビジネス施設の各業務部門での具体的

なマネジメント手法や関連する専門知識などについて、ケーススタディも交えながら実践的に学修する。

臨地実務実習Ⅲ（必修科目）※①-4「マネジメント」と重複する。

この実習では、観光支援ビジネスで高い実績をあげ地域の観光振興にも寄与する施設を実習先として、観光支援ビジネスの現場とオフィスにおいて、基礎的実務にくわえ、高度な応用的実務も実践的に学修する。具体的には、「臨地実務実習Ⅱ」で学修した基礎的実務とともに、各事業体における応用的実務、つまり「考えて実践する実務・計画して実践する実務」と、業務や地域観光振興・地域連携にかかわるマーケティングやマネジメントなどの応用的知識を修得する。実習先となる観光支援ビジネスの事業体により、①航空、②鉄道、③宿泊、④観光地域創生という４分野のクラスに分けられる。この４クラスの中から学生は自身で施設を選択して実習を行い、思考力、実践力、協働力を実践的に身につける。本実習は、学生各自が実社会の現場における実際の活動に身を置いて学ぶので、普段よりいっそうの真摯な学修態度が求められる。

観光実務マネジメント論（必修科目）※①-4「マネジメント」と重複する。

本授業では、「臨地実務実習Ⅲ」における実践的学修の成果を、理論的に整理しながら今後の学びに有機的につなげることを目的として、主に実習の各ステップにおける学びの振り返りを行う。振り返りのポイントは４つある。第一に、「臨地実務実習Ⅲ」での各自の実践的学修の成果と課題を確認する。第二に、「臨地実務実習Ⅲ」における観光支援ビジネスの基本実務と発展実務について、各自の理解度を確認する。第三に、観光支援ビジネス全般にかかわる事業特性と経営管理の課題などについて、ケーススタディによって理解を深める。そして第四に、観光支援ビジネスのマネジメントにおいて、観光振興やインバウンド観光の事業がいかに位置づけられているかを理解する。なおこの授業は、講義とともに、グループワークやプレゼンテーションによって行われる。

①-3 「地域」

地域資源論（必修科目）

学問の系譜において、「地域資源」という言葉は、観光の分野ではなく、地域資源管理あるいは生態資源との関連で用いられてきた。ところが今では、社会的な要請により、まちづくりや地域づくりとの関連で、建物や暮らし、文化、産業など、地域を特徴づけるさまざまな資源を「地域資源」として広く認識するようになった。この授業では、まず（1）地域資源そのものを学術的に検討する。次いで、（2）地域資源を生み出す地域の気候や地形などの自然的要素および地域の技術や交通などの人文的要素について検討する。さらに、（3）そうした地域の構成要素が「地域資源」としていかに見出されたのかについても批判的に検討することで、地域資源という概念の問題点についても考察する。なお、授業は講義形式で進める。

地域観光基礎実習（必修科目）

特定の集団・組織や地域社会を理解したり、課題の発見や解決の方策を考えたりするに

は、その対象の現状を把握するための調査手法や対象と向き合う心構えの修得が不可欠である。この実習では、研究はもとより、社会生活においても必要不可欠なスキルである、社会調査の手法と心構えについて、実践を交えながら学修する。授業では、調査手法について学修したのち、実際にフィールドワークを行い、リサーチのプロセス（計画準備～実施～データ整理・分析～成果報告）を実践する。調査はグループワークで行う。フィールドワークは校舎近隣の観光関連施設（例：公園・文化施設、門前町・商店街・ショッピングセンター・道の駅、空港・港・駅・バスターミナル、うどん店等）を予定している。なお、第 14 回と第 15 回の授業では、パワーポイント等を用いたプレゼンテーションにより、成果報告を行う。

観光振興・地域創生論（必修科目）※①-1「観光理論」と重複する。【再掲】

この授業では、観光振興が地域創生と共振して「持続可能な地域社会」の形成をめざす現実と、その現実をとらえる研究の理論や方法とを学ぶ。少子高齢化の時代が到来し「地方消滅」の社会状況が予測されるなかで、観光振興と地域創生のそれぞれの新たなあり方が交差して、地域を活性化し持続可能な地域社会を形成しようとする事例がいくつかみられるようになった。そのような事例が生じた経緯を、まず、一方で戦後の地域開発政策から現在の地方創生政策までの地域振興の変遷と、もう一方で大規模な観光地開発から持続可能な観光開発までの観光振興にかかわる変遷とをたどって明らかにする。そして、事例が発生した経緯の分析結果を踏まえて、観光振興と地域創生が結びつく持続可能な地域社会の形成が、いかに実現するかを考える。

せとうち観光アート論（選択必修科目）

本授業においては、近年瀬戸内海を代表する著名な観光地となった「直島」の開発及びその活動の経緯について、複数の視点からアプローチすることで、観光のもつ本来的な意義や可能性及び課題について学ぶ。具体的な視点としては、直島を軸とした地域の現状分析、行政のリーダーシップによる観光開発、企業の文化活動としての地域開発、地域に根差した現代アート活動、現代アート活動による地域の活性化、地域型芸術祭の現状等を中心とする。講義による学修に加え、事前のテーマ設定の上、直島現地の視察を行うと共に、視察結果に基づく課題及び提案については、討議や相互フィードバックなどのグループワークを行い、相互発表する機会を設けるものとする。

せとうち観光資源論（選択必修科目）

観光の対象となる観光資源の分類には、海、島、山岳などの「自然観光資源」と、社寺、城郭、公園などの「人文観光資源」、郷土景観、歴史景観などの「複合型観光資源」といった 3 つがある。本講義では、瀬戸内地域におけるそれぞれの観光資源について知識を深めるとともに、日本国内だけでなく、インバウンド観光客を受け入れられる地域とするためには、これらの観光資源をどのように磨き上げ、その魅力等をどのような形で発信していくかを考察する。

四国巡礼研究（選択必修科目）

四国遍路には、長い歴史、幾多の変遷があるが、現代においては、1990 年頃から、原点

回帰の「歩き遍路」が復活し耳目を集めている。外国人お遍路さんの急増は史上初の現象といえる。現代において、わが国のみならず、世界中が四国遍路の魅力を発見・再発見するようになったのはなぜか。本講義では、これを中心テーマに据える。四国遍路の現代的意義を考察するには、多数出版されている遍路体験記が役立つ。多くの時間とお金を費やして遍路道を歩く理由は何か。遍路体験記から明らかになるのは、ものの豊かさより、スピリチュアルな価値を求める現代人の姿である。やや誇張した言い方になるが、四国遍路は、スピリチュアル・ツーリズムといえよう。講義では、四国遍路のそのような側面に焦点を当てるが、予備知識として四国遍路の歴史や遍路の思想的背景についても学ぶ。また、体験的理解も有効なので、可能な限り遍路体験を授業の中に取り入れたい。

四国観光史（選択必修科目）

本講義では、これまで四国地域が観光においてどのように発展してきたか、近代から現代までの四国の観光の歴史を学修する。また、これまでの四国の観光の歴史を理解した上で、これから四国の観光がどのような方向に向かおうとしているのか、また現在どのようなことが必要とされていて、そうしたニーズにこれからどのように対応していくのかについて、四国の各地域の自然、社会、文化・芸術、人物、インフラなどさまざまな観点からアプローチし、考察する。

地域創生事業論（選択必修科目）※①-1「観光理論」と重複する。【再掲】

この授業では、地域創生事業の理論と実践について、特に中心商店街活性化による地域創生を事例として学ぶ。授業では、まず地域創生の実践において多くの地域が抱える一般的な諸課題を理解**するとともに、地域経済の実態や地域行政組織の仕組みや役割について考察する。なお、地域行政組織の仕組みや役割については、学生が、授業全般に渡る主担当教員の実践的理論に加え、その基盤となる高度な学術的理論を学修することができるよう、学術系の兼任教員を補充して行う。**

そのうえで、次にそれらの課題を解決するための、地域創生の理論と方法を考察して、さらにそうした取り組みが地域にもたらす影響についての知識も修得する。具体的には、成功事例と評価される、実在する商店街の地域創生事業を題材として、その事業コンセプト、事業プロセス、事業の特長、などを理解したうえで、地域創生事業の結果として地域経済がいかに活性化し、また持続可能な観光振興が地域創生事業にいかに寄与するかについての仕組みを学修する。

①-4 「マネジメント」

観光実務応用論（必修科目）※①-2「ホスピタリティ」と重複する。【再掲】

本授業の目的は、「臨地実務実習Ⅲ」の学びを円滑かつ効果的にするため、実習先の観光支援ビジネスの主にマネジメント業務を想定して、あらかじめ身につけておくべき知識と技能を修得することにある。授業では、実習先の観光支援ビジネスのうち、航空、鉄道、宿泊、観光地域創生について、事業体の経営理念、各事業のマネジメントとその課題などの総合的知識にくわえ、それぞれの事業において重要性が増している地域観光振興への理

念や実践管理などについても学修する。授業は主に講義形式で展開されるが、グループワーク、パワーポイントを使用した発表などの機会も設ける。また、「臨地実務実習Ⅲ」において体験することとなる部門別実務への予行演習として、観光支援ビジネス施設の各業務部門での具体的なマネジメント手法や関連する専門知識などについて、ケーススタディも交えながら実践的に学修する。

臨地実務実習Ⅲ（必修科目）※①-2「ホスピタリティ」と重複する。【再掲】

この実習では、観光支援ビジネスで高い実績をあげ地域の観光振興にも寄与する施設を実習先として、観光支援ビジネスの現場とオフィスにおいて、基礎的実務にくわえ、高度な応用的実務も実践的に学修する。具体的には、「臨地実務実習Ⅱ」で学修した基礎的実務とともに、各事業体における応用的実務、つまり「考えて実践する実務・計画して実践する実務」と、業務や地域観光振興・地域連携にかかわるマーケティングやマネジメントなどの応用的知識を修得する。実習先となる観光支援ビジネスの事業体により、①航空、②鉄道、③宿泊、④観光地域創生という４分野のクラスに分けられる。この４クラスの中から学生は自身で施設を選択して実習を行い、思考力、実践力、協働力を実践的に身につける。本実習は、学生各自が実社会の現場における実際の活動に身を置いて学ぶので、普段よりいっそうの真摯な学修態度が求められる。

観光実務マネジメント論（必修科目）※①-2「ホスピタリティ」と重複する。【再掲】

本授業では、「臨地実務実習Ⅲ」における実践的学修の成果を、理論的に整理しながら今後の学びに有機的につなげることを目的として、主に実習の各ステップにおける学びの振り返りを行う。振り返りのポイントは４つある。第一に、「臨地実務実習Ⅲ」での各自の実践的学修の成果と課題を確認する。第二に、「臨地実務実習Ⅲ」における観光支援ビジネスの基本実務と発展実務について、各自の理解度を確認する。第三に、観光支援ビジネス全般にかかわる事業特性と経営管理の課題などについて、ケーススタディによって理解を深める。そして第四に、観光支援ビジネスのマネジメントにおいて、観光振興やインバウンド観光の事業がいかに位置づけられているかを理解する。なおこの授業は、講義とともに、グループワークやプレゼンテーションによって行われる。

経営学（必修科目）

現代社会において欠かすことのできない「企業」とは、どのような存在か？そして、この「企業」を対象とする社会科学である経営学は、どのようにして生まれ、そして発展してきたのか。この授業では、経営学の基礎を講義するとともに、企業の目標、存在意義を検討するとともに、誰が「企業」を経営し、それを監視・監督するのかという企業統治の問題と、「企業」は誰に対して社会的責任を負っているのかを明らかにする。

中小企業論（選択必修科目）

日本の中小企業は企業全体の 99.7%を占めるにもかかわらず、中小企業の実態については十分な理解がされていない。一方、ベンチャー企業はイノベーションを実用化することにより雇用の創出となり、日本の経済・産業の発展に貢献する。本講義では、日本の経済・産業における中小企業の位置づけと役割、さらに中小企業の特徴、ベンチャーや起業の実態につ

いての現状を学修する。中小企業に関する理論と実態を理解し、中小企業の今後の動向を探る。授業は毎回１テーマを取上げ、レジュメに基づき進める。講義形式を基本とし、必要に応じて議論を交える。

コミュニティデザイン論（選択必修科目）

コミュニティデザインとは、ある地域やコミュニティのなかで、人と人のつながり方やその仕組みをデザインすることである。別の言い方をすれば、地域の課題解決に向けたコミュニティの主体づくり、ともいえる。まちづくりや地域振興をめぐる社会的状況は刻々と変化しており、コミュニティデザインという概念や取り組み自体も、そうした社会的な動きとリンクしながら浸透してきている。この授業では、講義形式での学修を中心に、コミュニティデザインの理念や歴史的な経緯を把握したうえで、一部グループワーク等を通じて、コミュニティデザインで求められるファシリテーションやチームづくりについて学びを深めていく。

マーケティング論（選択必修科目）

この授業は、マーケティングの基礎的な概念や理論枠組みを理解し、それらの知識を活用できるようになることを目的とする。そのために、企業と市場との関係やマーケティング意思決定に関して特に焦点を当てる。授業計画としては、企業と市場との関係について５回分、マーケティング意思決定について８回分、マーケティングの応用領域について２回分という配分で講義を行う。応用領域では、国際マーケティングやサービスマーケティングに関する説明を行う。また、授業は基本的に講義の形式をとるが、理解促進のためにグループワーク等も行う。

起業論（選択必修科目）

本講義は、ベンチャー・ビジネス（VB）の現状と展望、および起業のために不可欠な知識や能力などについて、政策立案者の立場やベンチャー・ビジネス実践の視点から概説する。VBの現状と展望については、ベンチャー企業の特性、起業の環境や制度、地域振興、グローバル競争に勝つ方策等が分析され、その分析を踏まえて、自身の起業や社内起業のビジネスプラン作成に必要な企画能力や、科学技術政策、産業政策、資金調達、知的資産の権利化（特許等）、ベンチャーキャピタルなどの基礎知識を学修する。この授業は、アクティブ・ラーニングによって、教員－学生間の双方向学修で進められる。

ファシリテーション実習（必修科目）

ますます多様化する顧客のニーズを満たし、激しい競争の中で生き残っていくためには、人材を育て、組織を活性化していくための手法が必要である。時代の変化とともに、リーダーシップのスタイルも変容してきた。指示、命令するトップダウン型のリーダーシップのスタイルに加え、チームメンバーから意見を引き出し、コンセンサスを取る「ファシリテーション型リーダー」が求められている。本実習では、相手の思考と行動を促すコミュニケーションスキル「コーチング」と、チーム活動や会議運営を促進する「ファシリテーション」について学び、組織を活性化するための人材戦略の上でどのように活用すべきかを実践的に学ぶ。同じ学修目標を共有する「チーム活動」として、ファシリテーション実践の場としたい。

①-5 「情報・統計」

観光メディア論 （選択科目）※①-1「観光理論」と重複する。【再掲】

観光や観光振興は、メディアと深いかかわりがある。この授業では、ガイドブックや旅番組など、旅行情報を提供する広報ツールとしてのメディアの一面を取り扱うだけでなく、メディアがもたらす地域への影響や地域住民へのアイデンティティへの波及、観光客同士の情報交換など、さまざまな観点から観光とメディアの関係性を学ぶ。それにより、学生自身が各々に馴染みのある地域を題材に、その地の観光とメディアの関係について具体的に考察できるようになることを目指す。

観光データ整理実習（必修科目）

情報やデータの収集・処理・加工・分析は、観光の分野にとどまらず、現代社会では基礎的かつ必須の素養である。UNWTO（World Tourism Organization of the United Nations 国連世界観光機関）の観光統計を含め、観光関連の統計データは国内外で整備が遅れていた。それが近年、観光に関するデータや統計の整備が進みつつあり、こうした情報を利用することで、**観光振興**の問題点などを洗い出しやすくなった。そこで、この実習では、主として観光に関連するデータを収集、整理し、さらに図表化することで、観光にかかわる諸現象を総合的・学術的に把握し、さらに観光と地域の特徴をわかりやすく説明する能力を獲得することを目標とする。なお、データの整理、分析、図表化には、表計算ソフト Excel を使用する。また、観光にかかわるアンケート調査のデータ整理についても基本的な知識を身につけることを目標とする。

ＩＣＴとＩｏＴ（必修科目）

コンピューターの進歩、インターネット環境や通信技術の発展により、現在 ICT（情報通信技術）は至る所で利用されており、生活するうえで欠かせない存在となっている。このような状況の中で、ICT に関する知識を修得することの重要性は年々高くなっており、さらに今後は、情報サービスの価値向上に向けて、IoT（Internet of Things）の活用も必要となる。こうした流れを踏まえ、本講義では、学生がセルフサービスを活用し情報サービスを構築できるよう、ICT と IoT の基礎知識、ICT と IoT の API（Application Programming Interface）に関する知識、API を利用するための最低限のプログラミングの知識を学ぶ。

人工知能概論（必修科目）

人工知能（AI：Artificial Inteligence）の研究は 1950 年代から続いているが、現在は第三次人工知能ブームと言われ、新聞やニュースなどでも人工知能に関する話題を見聞きする機会が増えた。本講義ではまず、人工知能とは何か、人工知能にはどのような歴史があるのかについて述べる。その後、人工知能に関する基礎知識や実現するための仕組みについて概観する。また、ビジネスの現場で人工知能はどのように導入されているのか、人工知能をどのように活用すべきか、今後人工知能の進化が社会にどのような影響を及ぼすのかなどについても俯瞰する。授業は原則、講義形式で実施するが、人工知能に関するテーマについてグループ内で議論し、それを報告する機会も設ける。

ＩＣＴ実習（必修科目）

我々が日々接する情報サービスは、インターネットなどICT（情報通信技術）の活用を前提に作られている。近年では、エンドユーザー自身の手によって情報サービスを構築する「セルフサービス」が注目されており、ICTやIoT(Internet of Things)のAPI(Application Programming Interface）を組み合わせる（マッシュアップ）ことで、ICTとIoTの専門知識をもたないエンドユーザーであっても、情報サービスを高速に開発できるようになってきた。本実習は、講義科目「ICTとIoT」で学修した知識を実践することにより、知識の定着・深化を図るとともに、実際にセルフサービスを活用し情報サービスを構築できる力を身につける。具体的には、ICTとIoTのAPIを活用した情報サービスを企画・設計・開発する一連の過程を実践で学ぶ。

人工知能プログラミング実習（必修科目）

人工知能（AI：Artificial Inteligence）は今、第三次ブームを迎えており、新聞やニュースなどを通じて、人工知能に関する話題を日々見聞きするようになった。人工知能は、身近な家電や各種サービスにも導入されつつあり、さまざまな分野への応用や、人工知能を活用した新しいビジネスの創出などが期待されている。本実習ではまず、人工知能を実装するためのプログラミング言語のひとつである Ptyhon（パイソン）を利用して、基礎的なプログラミング方法（条件分岐と繰り返し、関数）について学ぶ。そして、回帰と分類、クラスタリングといった統計的機械学習の基礎概念を学んだ後、簡単なデータ分析を通じて人工知能プログラミングの活用方法を身につける。

マップデザイン実習（必修科目）

近年、スマートフォンなどのデジタル機器が普及したこともあり、Google Mapsをはじめとして地図が身近な存在となっている。また、企業や行政などのさまざまな組織の現場においても、地図の作成やデジタルマップの利用が重要となっている。この授業は、基本的な地図の作成やその表現方法を身につけ、目的に応じて地図を作成できる手法の修得を目的とする。実習では、Adobe Illustratorを用いてベースマップのトレースや地図表現の方法といった基本的な製図法に習熟し、そのうえで課題の発見や地図の作成目的などの設定操作の方法を修得する。その際には、教員の指定した地域を対象とし、その地域の課題に応じた地図を作成することとする。

メディアコンテンツ実習（必修科目）

この実習は、メディアコンテンツが展開する実相やそれに伴う課題について、調査研究を通して体験的に理解を深めるものである。近年、紙媒体の漫画作品がアニメ化されたり、実写ドラマ化されたり、さらにそれが映画化されたりするなど、メディアコンテンツの積極的な展開が目立っている。また、一つの作品が他言語に吹替えられたり、設定や物語の一部に改変が加えられたりして他国で受容されるのも、コンテンツ展開の一側面である。このように、生み出された作品がそれだけで完結せず、さまざまなメディアや文化を越えて広まっていく状況について、学生各自が題材を選びながら追試することで、コンテンツの流通について知見を深めることを本実習の目的とする。実習準備でメディアコンテンツの流通について

体験的に学び、実習では学生自らが任意のコンテンツを選び、その展開について調査をし、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う。

①-6 「英語」

観光基礎英語Ⅰ（必修科目）

一般英語の修得を基本としつつ、ESP（English for Specific Purposes、特定目的のための英語）と呼ばれる領域の一つである観光英語においてよく用いられる英語表現を修得し、これを活用する能力を伸ばすことを主目標とする。今日、海外に出かける日本人が増加し、日本に観光目的でやってくる外国人の数も増えているが、いずれの場合においても英語でコミュニケーションが行われる場合が多く、そこにはおのずと典型的に用いられる英語表現や定型表現が見られる。本授業では、これらの表現を中心に、観光英語に慣れ親しむことを目指し、教科書及びCD等の補助教材を用いた演習形式による学修を展開する。授業の進行は、教科書の構成に従い、課を追って進めることを基本とする。

観光基礎英語Ⅱ（必修科目）

「観光基礎英語Ⅰ」の学修をもとに、観光分野において用いられる英語表現を幅広く学び、これを活用する能力を一層伸ばすことを主目標とする。各々の場面・文脈において用いられる英語表現には一定の定型表現があるが、その幅は、比較的限定されたものから、豊かなヴァリエーションを持つものまでさまざまであり、これらのヴァリエーションに親しむとともに、類似する場面にも対応できる応用力の修得を目指す。授業は、教科書及びCD等を用いた演習形式による学修を中心とし、適宜、応用的場面を織り込み、そうした場面に対応するにはどのような表現を用いれば良いかといった課題について、ペアやグループで討議するなど、コミュニケーション活動に展開していく。教科書は課を追って進めることを基本とする。

観光英語Ⅰ（選択科目）

観光英語では「読む・書く・聴く・話す」技能が重要である。特に、この4つの技能の中でも、言語が確立していく出発点は「聴く」能力である。本授業では、「観光基礎英語Ⅰ」及び「観光基礎英語Ⅱ」で修得した英語力をもとに、聴くトレーニングを中心に徹底的に学修し、「聴く」能力を向上させることで、英語を通してより高度なコミュニケーションができる力を身に付ける。主な学修方法としては、「単語・句・文」を繰り返し聴き、その後、声を出してシャドーイング練習をする。次に、ある程度の長さの文章をシャドーイング練習することにより、集中力を養うと同時にリスニング力を向上させる。

観光英語Ⅱ（選択科目）

「観光英語Ⅰ」の場合と同様に「単語・句・文」を繰り返し聴き、シャドーイング練習をするが、より高度なレベルの内容となる。聞き取れない部分は、発音とその前後の意味や内容から推測し、リスニングをする。こうしたシャドーイング練習を繰り返すことにより、集中力をさらに高め、英文を聴きながら推測し理解する能力を身に付ける。これは日本人が日本語を聴くときに無意識のうちに行っている作業である。シャドーイングの技能

の向上はトレーニングしかなく、それに費やした時間で決まる。言い換えればシャドーイングの日常化で決まる。なお本授業の履修には、「観光英語Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。

観光英語Ⅲ（選択科目）

通訳案内士は日本の歴史・文化・地理・アートその他様々なことについて語らなければならないが、同時にニュースにも精通していなければならない。そこでこの授業は、英語ニュースを教材にして授業を進めていく。まずは優しい内容のニュースを繰り返し聴き、その内容のアウトラインを英語で述べる。次にニュース内容をディクテーションし、聴こえない部分と聴き間違えた部分を学生自身に気づかせる。同時に「発音と意味内容の両方から聴き取れない部分を推測する」ことの重要性に気付かせ、実践させる。ニュース内で用いられた単語のテストも実施する。なお本授業の履修には、「観光英語Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。

観光英語Ⅳ（選択科目）

「観光英語Ⅲ」より単語・構文・内容ともにレベルが高い英語ニュースを教材にする。学生は繰り返し聴き、内容のアウトラインを英語で説明し、ニュース内容をディクテーションする。内容を理解できた段階で、その内容についてどう思うかといった、感想・意見等のコメントを各自述べる。このとき他の学生は、発表する学生のコメント内容をよく聴く。これらを繰り返すことで、他人の話を聴きながら自分の意見を考え、述べることができるように訓練する。ニュース内で用いられた単語のテストも実施する。なお本授業の履修には、「観光英語Ⅲ」を履修済みであることが望ましい。

4-2 科目群間の対応関係

カリキュラムポリシー（CP）にある各科目群の内容に基づいて、各科目群の対応関係は次のように特徴づけられる。

「基礎科目群」は、全科目群の各科目を学修するための基礎となる知識、技能、自学自修の態度と思考法を育成するので、この科目群は、全科目群における「基礎」科目群となる。

「職業専門科目群」は、「基礎科目群」の学修成果に基づき、あるいはその学修と並行しながら、観光振興専門職としての、特に「観光の理論と知識の理解」「観光実務の知識と技能の修得」を学修する科目群である。

「観光英語力の修得」は、「職業専門科目群」の学修と並行して、「職業専門科目群」の学修成果を踏まえながら国際共通語である観光英語力を修得する科目群である。

「展開科目群」は、「職業専門科目群」を構成する基礎学問としての観光学以外の分野の知識や技能を活用して、「職業専門科目群」においてもその基礎が育成される、観光振興専門職の応用的能力を発展・強化する科目群である。

「総合科目」は、全科目群の学修成果を受けながら、特に「職業専門科目群」と「展開科目群」の学修成果を、それらの学習進度に応じて統合・拡充する科目である。

4-3 科目群における各科目の対応関係と必修・選択科目

科目群全体における科目の対応関係は、基本的に学期（クォーター制）と修学年次が進むに従って、「基礎から応用へ」「初級から上級へ」「準備から実習へ」と段階的に配列された内容の科目によって構成される。それぞれの科目の主たる対応関係と必修科目と選択科目、及びそのように設定する理由は、以下のとおりである。

(1) 基礎科目群科目の他科目との対応関係及び必修・選択の区別

基礎科目群は、教育課程において、高度専門職業人としての態度や能力を形成する基礎となる科目群である。それらの科目の対応関係は、次のとおりである。

「基礎演習」と「キャリアデザイン論」は、「自学自修の態度」を形成する教育課程全体の基礎科目として配置される。「基礎演習」は、新入生が大学での学び方や大学生活の過ごし方を学び、その開講期に同時に学生が履修する諸科目の学修成果を統合・拡充する科目であり、また、「キャリアデザイン論」は、１年次の学修成果を踏まえて、学生が卒業後の職業生活や社会生活におけるキャリアデベロップメントの考え方や技法を学ぶ科目である。

以上のように「基礎演習」と「キャリアデザイン論」の教育内容は、DP1（自学自修の態度形成）を育成する基幹科目であるので、両科目は「必修科目」である。

「文化論」「地理学」「企業の社会的責任」「法と社会」「災害と防災の科学」「信仰の歴史」「異文化理解」「ビジネスコミュニケーション」「介助実務実習」は、「思考法の修得」を目的として、職業専門科目群の「観光の理論と知識の理解」を目的とする科目の基礎科目となる。また、「介助実務実習」は、高齢者や障がい者に対して的確に対応する能力を育成する目的で配置する。今後の観光振興には、高齢者や障がい者への適切な対応が欠かせないため、職業専門科目群の「観光実務の知識の技能」を目的とする科目の基礎科目となる。

以上のように「文化論」「地理学」及び「介助実務実習」は、DP2（思考法の修得）を育成する授業科目であるので、「必修科目」である。

「企業の社会的責任」「法と社会」「災害と防災の科学」「信仰の歴史」「異文化理解」「ビジネスコミュニケーション」は、一般教養として個別のテーマに特化し、社会人及び職業人としての幅を広げることを目的として配置するため、学生の個性や進路に応じて、６科目のうち３科目を選択する選択必修科目である。

(2) 職業専門科目群（学術）における科目の対応関係

職業専門科目群における科目の対応関係は、当該科目群のなかで、「基礎から応用へ」と構成されている。それらの科目の対応関係は次のとおりである。**（資料 28 職業専門科目（学術・実務）の科目構成と関連性）**

職業専門科目群は、観光振興専門職としての能力を修得するために、「学術」と「実務」の２系統に分けられる。一方の「学術」科目群は、社会現象としての観光の現実を捉える考え方や方法を修得し、観光振興や観光による地域創生が実践される仕組みやその実態を考察するための「DP3 観光の理論と知識の理解」を目的として配置する。

また他方の「実務」科目群は、観光実務の理論と知識を学んで観光業務の仕組みや実態を理解

し、観光実務の技能やその実践力を臨地実務実習等で体得するための「DP4 観光実務の知識と技能の修得」を目的として配置する。

職業専門科目群の両系統における学修成果は、最終的には、総合科目としての専門演習で統合・拡充され、それによって観光振興専門職の総合的な能力を育成する。

職業専門科目群の「学術」科目群は、「①観光学入門科目」、「②地域観光論入門科目群」、「③観光基礎理論科目群」、「④観光応用理論科目群」、「⑤せとうち観光研究科目群」という５つの科目群から構成する。この「学術」科目群は、「観光学学術系」と「地域観光論系」という２系統の学習過程を構成し、両系統の学習成果の総合によって「DP3 観光の理論と知識の理解」の教育目標を達成する。**（資料 28 職業専門科目（学術・実務）の科目構成と関連性）**

それぞれの学習過程においては、学修が基礎から応用へと展開される。一方の「観光学学術系」では、①観光学入門科目→③観光基礎理論科目群（⇔②地域観光論入門科目群）→④観光応用理論科目群（←⑤せとうち観光研究科目群）の順序と、それと並行して、他方の「地域観光論系」では、①観光学入門科目→②地域観光論入門群（⇔③観光基礎理論科目群）→⑤せとうち観光研究科目群（←④観光応用理論科目群）の順序で各科目を構成する。

「①観光学入門科目」として観光学概論を配置し、「②地域観光論入門科目群」に、「地域資源論」「地域観光基礎実習」の２科目を配置する。「③観光基礎理論科目群」に、「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」「観光行動論」「観光政策論」の４科目を配置し、「④観光応用理論科目群」に、「国際観光論」「観光文化施設論」「観光メディア論」「観光データ整理実習」「エコツーリズム実習」の５科目を配置し、そして「⑤せとうち観光研究科目群」には、「せとうち観光アート論」「せとうち観光資源論」「四国巡礼研究」「四国観光史」の４科目を配置する。

職業専門科目群・「学術」科目群における①観光学入門科目としての「観光学概論」は、その他の学術系全科目群（②せとうち観光論入門科目群、③観光学基礎理論科目群、④観光応用理論科目群、⑤せとうち観光研究科目群）における全科目への導入科目となり、また「実務」科目群全体への導入科目ともなる。すなわち、「観光学概論」は、職業専門科目群全体の導入科目でもあることから、「必修科目」であるとともに、主要授業科目として専任教員のうち教授また准教授が担当する。

職業専門科目群・「学術」科目群における②地域観光論入門科目群の「地域資源論」「地域観光基礎実習」は講義内容について、③観光基礎理論科目群の４科目（観光社会文化論、観光振興・地域創生論、観光行動論、観光政策論）と理論的・実践的に相補関係にあり、また⑤せとうち観光研究科目群の４科目（せとうち観光アート論、せとうち観光資源論、四国巡礼研究、四国観光史）の理論的な基礎科目となる。「地域観光基礎実習」と「地域資源論」の両科目は、せとうち観光論研究の導入科目であるので、「必修科目」とする。

職業専門科目群・「学術」科目群における③観光基礎理論科目群の「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」「観光行動論」「観光政策論」は、②地域観光論入門科目群の 2 科目（地域資源論、地域観光基礎実習）と講義内容において理論的・実践的に相補関係であり、④観光応用理論科目群の 5 科目（国際観光論、観光文化施設論、観光メディア論、観光データ整理実習、エコツーリズム実習）及び⑤せとうち観光研究科目群の 4 科目（せとうち観光アート論、せとうち観光

資源論、四国巡礼研究、四国観光史）の理論的な基礎科目となる。**特に「観光振興・地域創生論」は、⑤せとうち観光研究科目群の４科目（せとうち観光アート論、せとうち観光資源論、四国巡礼研究、四国観光史）を学ぶ前提として重要な科目である。**「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」「観光行動論」「観光政策論」は観光振興を学ぶための基礎となる重要な授業科目であるので、「必修科目」であるとともに、主要授業科目として専任教員のうち教授また准教授が担当する。

職業専門科目群・「学術」科目群における④観光応用理論科目群の「国際観光論」、「観光文化施設論」「観光メディア論」、「観光データ整理実習」「エコツーリズム実習」は、①観光学入門科目（観光学概論）と③観光基礎理論科目群（観光社会文化論、観光振興・地域創生論、観光行動論、観光政策論）の応用科目であり、⑤せとうち観光研究科目群（せとうち観光アート論、せとうち観光資源論、四国巡礼研究、四国観光史）の基礎科目である。「国際観光論」、「観光文化施設論」「観光メディア論」は応用的科目であり個別のテーマに特化していることから、学生の個性や進路に応じて履修する「選択科目」である。「観光データ整理実習」「エコツーリズム実習」は観光振興専門職の応用的能力の基盤を築くための実践的な実習科目であるため、「必修科目」である。

職業専門科目群・「学術」科目群における⑤地域観光研究科目群の「せとうち観光アート」「せとうち観光資源論」「四国巡礼研究」、「四国観光史」は、瀬戸内において実務実績や教育実績を有し、現在も現場で活躍中の兼任教員を招へいして、瀬戸内の観光に関する実情を把握し、成功事例の分析や実践を行うことを目的としている。この科目群は、①観光学入門科目（観光学概論）、②せとうち観光論入門科目群（地域資源論、せとうち観光基礎実習）、③観光基礎理論科目群（観光社会文化論、観光振興・地域創生論、観光行動論、観光政策論）、④観光応用理論科目群（国際観光論、観光文化施設論、観光メディア論、観光データ整理実習、エコツーリズム実習）を基礎科目とする応用科目であり、個別のテーマに特化していることから、学生の個性や進路に応じて、４科目から２科目を選択する「選択必修科目」である。

(3)職業専門科目群（実務）における科目の対応関係

職業専門科目群の「実務」科目群は、「①観光実務理論科目群」「②観光事業論科目群」「③臨地実務実習事前学修科目群」「④臨地実務実習科目群」「⑤臨地実務実習事前学修科目群」という 5 つの科目群で構成する。**（資料 28 職業専門科目（学術・実務）の科目構成と関連性）**

この「実務」科目群は、実務理論に裏付けられた実践力を養成するために、「①観光実務理論科目群」及び「②観光事業論科目群」の「観光事業論」によって実務理論を修得したうえで、「④臨地実務実習科目群」で観光振興専門職の実践力を体得する。その際、実務理論と臨地実務実習を効果的に繋げ、また臨地実務実習の終了後には、学生個々人が実習の学修成果を自身の実力として定着させるための理論的・実践的科目群として「③臨地実務実習事前学修科目群」と「⑤臨地実務実習事後学修科目群」を配置する。さらに「②観光事業論科目群」の「交通産業論」「宿泊産業論」「地域創生事業論」において、個別の観光産業及び観光による地域創生事業に対する理解を深め、実践力を高めることにより、職業専門科目群の「実務」科目群の履修を完結する。

「①観光実務理論科目群」に「ホスピタリティマネジメント論」「観光リスクマネジメント」の

２科目を配置し、「②観光事業論科目群」には、「観光事業論」「交通産業論」「宿泊産業論」「地域創生事業論」の４科目を配置し、「③臨地実務実習事前学修科目群」に、「ホスピタリティ実務実習Ａ」「ホスピタリティ実務実習Ｂ」「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」「観光実務応用論」の５科目を配置し、「④臨地実務実習科目群」に、「臨地実務実習Ⅰ」「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」の３科目を配置する。

職業専門科目群・「実務」科目群における①観光実務理論科目群の「ホスピタリティマネジメント論」、「観光リスクマネジメント」は、その他の実務全科目群（②観光事業論科目群、③臨地実務実習事前学修科目群、④臨地実務実習科目群、⑤臨地実務実習事後学修科目群）における全科目への導入科目となる。「ホスピタリティマネジメント論」、「観光リスクマネジメント」の２科目は、全ての実務科目群の導入科目であるので、「必修科目」である。

職業専門科目群・「実務」科目群における②観光事業論科目群の「観光事業論」は、③臨地実務実習事前学修科目群、④臨地実務実習科目群、⑤臨地実務実習事後学修科目群の基礎科目となるため必修科目である。「交通産業論」「宿泊産業論」「地域創生論」は先にも述べたとおり、臨地実務実習と連動し、個別の観光産業及び観光による地域創生事業に対する理解を深め、実践力を高めることにより、職業専門科目群の「実務」科目群の履修を完結する科目であるため、学生の進路別に３科目から１科目を選択する「選択必修科目」である。

職業専門科目群・「実務」科目群における③臨地実務実習事前学修科目群の「ホスピタリティ実務実習Ａ」「ホスピタリティ実務実習Ｂ」「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」、「観光実務応用論」は、①観光実務理論科目群（ホスピタリティマネジメント論、観光リスクマネジメント）及び②の観光事業論科目群の「観光事業論」の応用理論科目であり③臨地実務実習科目群（臨地実務実習Ⅰ、臨地実務実習Ⅱ、臨地実務実習Ⅲ）の事前学修として実務の知識や技能を修得する基礎科目となる。「ホスピタリティ実務実習Ａ」と「ホスピタリティ実務実習Ｂ」は、進路別に２科目から１科目を選択する「選択必修科目」であり、「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」「観光実務応用論」は「必修科目」であるとともに、主要授業科目であるため専任教員の教授または准教授が担当する。

職業専門科目群・「実務」科目群における④臨地実務実習科目群の「臨地実務実習Ⅰ」、「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」「臨地実務実習Ⅲ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」は、①観光実務理論科目群（ホスピタリティマネジメント論、観光リスクマネジメント）と②観光事業論科目群の「観光事業論」、実習の事前学修としての③臨地実務実習事前学修科目群（ホスピタリティ実務実習Ａ、ホスピタリティ実務実習Ｂ、観光支援ビジネス実務基礎論、観光実務基礎論、観光実務応用論事業実務論）の観光実務の知識と技能の学修を通して実施される実習科目となる。

「臨地実務実習Ⅰ」、「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」「臨地実務実習Ⅲ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」は、職業専門科目群において「観光振興専門職」の実践力を体得するための授業科目であるため「必修科目」であるとともに、主要授業科目であるため専任教員の教授または准教授が担当する。

職業専門科目群・「実務」科目群における⑤臨地実務実習事後学修科目群の「観光支援ビジネス実務発展論」「観光実務発展論」「観光実務マネジメント論」は、④臨地実務実習科目群の「臨地実務実習Ⅰ」、「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス)」「臨地実務実習Ⅲ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス)」の事後学修として実習の成果を発展・展開させ、マネジメント能力の基盤を築くものであり、③臨地実務実習事前学修科目群の「ホスピタリティ実務実習Ａ」「ホスピタリティ実務実習Ｂ」「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」、「観光実務応用論」の応用的実務理論科目である。「観光支援ビジネス実務発展論」「観光実務発展論」「観光実務マネジメント論」は「必修科目」であるとともに、主要授業科目であるため専任教員の教授または准教授が担当する。

(4)職業専門科目群（観光英語）の科目の対応関係

観光英語科目群における科目は、「初級から上級」へと 6 科目を配置する。「観光英語科目群」には、インバウンド観光に対応する「DP6 観光英語力の修得」を目的として、「観光基礎英語Ⅰ」、「観光基礎英語Ⅱ」、「観光英語Ⅰ」、「観光英語Ⅱ」、「観光英語Ⅲ」、「観光英語Ⅳ」の６科目を配置する。観光英語科目群の「観光基礎英語Ⅰ」及び「観光基礎英語Ⅱ」は、基礎的な実践的英語を学修する。「観光基礎英語Ⅰ」と「観光基礎英語Ⅱ」の両科目は、観光振興専門職に求められる国際共通語としての観光英語力を修得する重要な科目であるので、「必修科目」とする。

観光英語科目群の「観光英語Ⅰ」、「観光英語Ⅱ」、「観光英語Ⅲ」、「観光英語Ⅳ」は、「観光基礎英語Ⅰ」と「観光基礎英語Ⅱ」を学修した後に、さらに観光英語力を向上させようとする学生が履修する科目である。「観光英語」の授業レベルは、ⅠからⅣまで、段階的に「初級から上級へ」と上昇する。「観光英語Ⅰ」、「観光英語Ⅱ」、「観光英語Ⅲ」、「観光英語Ⅳ」は、観光英語力をさらに向上させようとする学生のための「選択科目」とする。

(5)展開科目群における科目の対応関係

展開科目群には、観光関連以外の学術分野から観光振興専門職の職務遂行に有効な応用能力として、以下の２つの教育目標を設定し、12 科目を配置する。

①企業やＮＰＯ法人、地域社会等における組織及び事業運営能力（マネジメント力）

②事業イノベーションや地域社会の魅力を創出するための情報力や創造力（情報力・創造力）

「①企業やＮＰＯ法人、地域社会等における組織及び事業運営能力（マネジメント力)」を育成する科目には、「経営学」「中小企業論」「コミュニティデザイン論」「マーケティング論」「起業論」「ファシリテーション実習」を配置する。「経営学」はその起点となるため「必修科目」である。また、「ファシリテーション実習」は対人関係のマネジメント能力の育成に大変有効なため「必修科目」である。「中小企業論」「コミュニティデザイン論」「マーケティング論」「起業論」は学生の個性や進路に応じて、４科目から２科目を選択する「選択必修科目」である。

「②事業イノベーションや地域社会の魅力を創出するための情報力や創造力(情報力・創造力)」を育成する科目には、「ＩＣＴとＩｏＴ」「人工知能概論」「ＩＣＴ実習」「人工知能プログラミング実習」「マップデザイン実習」「メディアコンテンツ実習」を配置する。観光産業や観光による

地域創生事業においては、情報や統計を正確に把握・分析し、企画・運営・管理することが重要であり、「ＩＣＴとＩｏＴ」「人工知能概論」「ＩＣＴ実習」「人工知能プログラミング実習」「マップデザイン実習」「メディアコンテンツ実習」はすべて「必修科目」である。

(6) 総合科目における科目の対応関係

総合科目としての「専門演習」は、職業専門科目群と展開科目群の全体を学修の進度に伴い学修効果を統合・拡充する演習の「応用科目」である。「専門演習」は、教育課程全体の学修過程において重要な科目であるので、「必修科目」とする。

以上のように、観光振興学科の教育課程は、「必修科目」と「選択必修科目」及び「選択科目」において体系的に完結され、それによって学生の学修効果は達成されるので、「自由科目」は設定していない。

4-4 履修順序の考え方等

本学本学科における教育課程の科目は、前述「4-3 科目群における各科目対応関係と必修・選択科目（57 ページ）で見たように、修学年次の各学期（クォーター制）の進行に従って、「基礎から応用へ」「初級から上級へ」と配置され、学生は、本学科が提示する履修ガイダンスや履修モデルに基づき、教育課程の方針・目標と履修順序の意味を十分に理解した上で学修に取り組むことになるが、必修科目が多く（卒業単位 93 単位以上のうち、73 単位)、１学年をＡクラスとＢクラスに分けて履修するため、２つのクォーターに分れて履修する場合がある。(資料 37 せとうち観光専門職短期大学観光振興学科クラス別科目配当・履修順序表)

授業科目の履修順序をクラス別に、基礎科目群、職業専門科目群、展開科目群、総合科目のそれぞれについて見ると、以下のとおりである。**（資料 40 せとうち観光専門職短期大学観光振興学科クラス別科目配当・履修順序表資料）**

(1) 基礎科目群の履修順序

（Ａクラス）

「基礎演習」（必修）は、入学直後の 1 年次生が本学科における教育課程の目標と方針を理解するための導入科目であるので、1 年次第 1 クォーターと第 2 クォーターにおいて、例外的にセメスターとして履修する。「文化論」（必修）と「地理学」（必修）は、それらを基礎として、応用科目となる職業専門科目群の「観光の理論と知識の理解」科目に繋がるので、「文化論」（必修）を 1 年次の第１クォーターに「地理学」（必修）第２クォーターに履修する。職業専門科目（実務）の第３クォーターの臨地実務実習Ⅰの後の第４クォーターに「企業の社会的責任」「法と社会」「災害と防災の科学」「介助実務実習」（必修)、2 年次の第１クォーターには「信仰の歴史」「異文化理解」「ビジネスコミュニケーション」を履修し、思考法の基盤を築くとともに、一般教養を深める。

「キャリアデザイン論」（必修）は、2 年次生が教育課程の目標と方針を改めて確認し、卒業と就

職に向けてさらに意識を高めることを目的とするので、2 年次の第 3 クォーターに履修する。

（Bクラス）

「基礎演習」（必修）は、入学直後の 1 年次生が本学科における教育課程の目標と方針を理解するための導入科目であるので、1 年次第 1 クォーターと第 2 クォーターに例外的にセメスターとして履修する。「文化論」（必修）と「地理学」（必修）は、それらを基礎として、応用科目となる職業専門科目群の「観光の理論と知識の理解」科目に繋がるので、「地理学」（必修）を 1 年次の第 1 クォーターに「文化論」（必修）第 2 クォーターに履修する。職業専門科目（実務）の第３クォーターの臨地実務実習Ⅰの後の第４クォーターに「企業の社会的責任」「法と社会」「災害と防災の科学」「介助実務実習」（必修）、2 年次の第１クォーターには「信仰の歴史」「異文化理解」「ビジネスコミュニケーション」を履修し、思考法の基盤を築くとともに、一般教養を深める。

「キャリアデザイン論」（必修）は、2 年次生が教育課程の目標と方針を改めて確認し、卒業と就職に向けてさらに意識を高めることを目的とするので、2 年次の第１クォーターに履修する。

(2) 職業専門科目群（学術）の履修順序

（Aクラス）

学術系科目群の観光学入門では、職業専門科目群全体の導入科目として「観光学概論」を 1 年次第 1 クォーターに履修する。また、地域観光基礎科目として「地域資源論」を第１クォーターで、地域観光実務実習を第２クォーターに履修する。さらに基礎理論科目として「観光社会文化論」を第２クォーターに履修し、１年次第３クォーターの臨地実務実習Ⅰを挟み、「観光振興・地域創生論」を第 4 クォーターに履修する。「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」は共に、観光振興専門職の養成には欠くことのできない重要な科目であり、それらを臨地実務実習Ⅰの前後に学修することは、履修順序の設定上有意義なことである。２年次第１クォーターには観光基礎理論科目の「観光行動論」と２年次第３クォーターには「観光政策論」を、２年次第２クォーターに履修する「臨地実務実習Ⅱ」と連携させて履修することにより、教育効果の増大が期待される。さらに２年次第１クォーターには、観光応用理論科目群の「観光文化施設論」「観光メディア論」履修することが選択科目として履修することが可能であるとともに、「観光データ整理実習」を必修科目として履修する。２年次第２クォーターの臨地実務実習を経て、２年次第３クォーター「国際観光論」を履修することが可能であり、「エコツーリズム実習」は必修科目として、全員が履修する。３年次には、第１クォーターに「せとうち観光アート論」、第２クォーターには「せとうち観光資源論」、第３クォーターには「四国巡礼研究」、第４クォーターには「四国観光史」を履修することが可能である。

（Bクラス）

学術系科目群の観光学入門では、職業専門科目群全体の導入科目として「観光学概論」を 1 年次第 1 クォーターに履修する。また、地域観光基礎科目として「地域資源論」を第１クォーターで、地域観光実務実習を第２クォーターに履修する。さらに基礎理論科目として「観光振興・地域創生論」を第２クォーターに履修し、１年次第３クォーターの臨地実務実習Ⅰを挟み、「観光社会文化論」を第４クォーターに履修する。「観光振興・地域創生論」「観光社会文化論」は共に、

観光振興専門職の養成には欠くことのできない重要な科目であり、それらを臨地実務実習Ⅰの前後に学修することは、履修順序の設定上有意義なことである。２年次第１クォーターには観光基礎理論科目の「観光政策論」と２年次第３クォーターには「観光行動論」を、２年次第２クォーターに履修する「臨地実務実習Ⅱ」と連携させて履修することにより、教育効果の増大が期待される。さらに２年次第１クォーターには、観光応用理論科目群の「観光文化施設論」「観光メディア論」を選択科目として履修することが可能であるとともに、「観光データ整理実習」を必修科目として履修する。２年次第２クォーターの臨地実務実習を経て、２年次第３クォーターに「国際観光論」を履修することが可能であり、「エコツーリズム実習」は必修科目として、全員が履修する。３年次には、第１クォーターに「せとうち観光アート論」、第２クォーターには「せとうち観光資源論」、第３クォーターには「四国巡礼研究」、第４クォーターには「四国観光史」を履修することが可能である。

(3) 職業専門科目群（実務）の履修順序

（Aクラス）

１年次の第１クォーターにおいては、職業専門科目群（実務）の基礎となる「ホスピタリティマネジメント論」と「観光事業論」を履修する。第２クォーターでは「観光リスクマネジメント」を履修し、これにより、職業専門科目群（実務）の基礎が固まる。さらに１年次第２クォーターでは臨地実務実習事前学習科目として「ホスピタリティ実務実習Ａ」または「ホスピタリティ実務実習Ｂ」のいずれかを履修する。１年次第３クォーターの前半では「観光支援ビジネス実務基礎論」を履修した後、「臨地実務実習Ⅰ」を履修し、１年次第４クォーターでは「観光支援ビジネス実務発展論」を履修することにより、臨地実務実習の教育効果を高める。

２年次の第１クォーターにおいて、「観光実務基礎論」を履修した後、第２クォーターにおいて「臨地実務実習Ⅱ」を履修し、その事後学修として第３クォーターに「観光実務発展論」を履修する。この３科目が三位一体の効果を発揮することにより、学生の観光振興専門職としての資質や能力が一層高まる。

さらに、２年次の第３クォーターに「観光実務応用論」を履修し、第４クォーターで「臨地実務実習Ⅲ」を履修し、その事後学修として３年次第１クォーターに「観光実務マネジメント論」を履修する。このように、事前学修→臨地実務実習→事後学修のセットを３回繰り返す教育により、学生には未知なる課題に挑み、絶対に解決するという勇気が生まれ、自信となり、最終的には人間力が強化されるものと思われる。

（Bクラス）

１年次の第１クォーターにおいては、職業専門科目群（実務）の基礎となる「観光リスクマネジメント」を履修する。第２クォーターでは、「ホスピタリティマネジメント論」と「観光事業論」を履修し、これにより、職業専門科目群（実務）の基礎が固まる。さらに１年次第２クォーターでは臨地実務実習事前学習科目として「ホスピタリティ実務実習Ａ」または「ホスピタリティ実務実習Ｂ」のいずれかを履修する。１年次第３クォーターの前半では「観光支援ビジネス実務基礎論」を履修した後、「臨地実務実習Ⅰ」を履修し、１年次第４クォーターでは「観光支援ビジネ

ス実務発展論」を履修することにより、臨地実務実習の教育効果を高める。

２年次の第１クォーターにおいて、「観光実務基礎論」を履修した後、第２クォーターにおいて「臨地実務実習Ⅱ」を履修し、その事後学修として第３クォーターに「観光実務発展論」を履修する。この３科目が三位一体の効果を発揮することにより、学生の観光振興専門職としての資質や能力が一層高まる。

さらに、２年次の第３クォーターに「観光実務応用論」を履修し、第４クォーターで「臨地実務実習Ⅲ」を履修し、その事後学修として３年次第１クォーターに「観光実務マネジメント論」を履修する。このように、事前学修→臨地実務実習→事後学修のセットを３回繰り返す教育により、学生には未知なる課題に挑み、絶対に解決するという勇気が生まれ、自信となり、最終的には人間力が強化されるものと思われる。

(4) 職業専門科目群（観光英語）の履修順序

「観光基礎英語Ⅰ」と「観光基礎英語Ⅱ」は、それぞれ１年次第１クォーターと第２クォーターに配置する。また、「観光英語Ⅰ」、「観光英語Ⅱ」、「観光英語Ⅲ」、「観光英語Ⅳ」は、「臨地実務実習」を配置する１年次第３クォーターと２年次第２クォーターと２年次第４クォーターを除いて、それぞれ１年次の第４クォーター、２年次の１クォーター、第３クォーターと３年次の第１クォーターにおいて配置され、学生はその個性と進路に応じて、順次履修する。

(5)展開科目群の履修順序

（Aクラス）

展開科目においては、２年次の第１クォーターに「経営学」を必修科目として履修する。これは、マネジメント能力を強化するためには、「経営学」が起点となり、その他の経営系科目を履修する必要があるからである。３年次の第１クォーターには「中小企業論」、第２クォーターには「コミュニティデザイン論」、第３クォーターには「マーケティング論」、第４クォーターには「起業論」を配当し、学生の個性や進路に応じて４科目から２科目を選択して履修することとなる。また、ファシリテーション実習は３年次第２クォーターに集中講義として履修する人間関係のマネジメントには欠かせない科目である。

一方で、観光振興専門職には、情報や統計を正確に把握し、事業イノベーションや地域社会の魅力の創出に活用していく必要があり、第１クォーターには「ＩＣＴとＩｏＴ」「マップデザイン実習」第２クォーターには「人工知能概論」「メディアコンテンツ実習」、第３クォーターには「ＩＣＴ実習」第４クォーターには「人工知能プログラミング実習」を必修科目として履修する。

（Bクラス）

展開科目においては、２年次の第３クォーターに「経営学」を必修科目として履修する。これは、マネジメント能力を強化するためには、「経営学」が起点となり、その他の経営系科目を履修する必要があるからである。３年次の第１クォーターには「中小企業論」、第２クォーターには「コミュニティデザイン論」、第３クォーターには「マーケティング論」、第４クォーターには「起業論」を配当し、学生はその個性や進路に応じて４科目から２科目を選択して履修することとなる。

また、ファシリテーション実習は３年次第２クォーターに集中講義として履修する人間関係のマネジメントには欠かせない科目である。

一方で、観光振興専門職には、情報や統計を正確に把握し、事業イノベーションや地域社会の魅力の創出に活用していく必要があり、第１クォーターには「人工知能概論」「メディアコンテンツ実習」第２クォーターには「ＩＣＴとＩｏＴ」「マップデザイン実習」、第３クォーターには「人工知能プログラミング実習」第４クォーターには「ＩＣＴ実習」を必修科目として履修する。

(6) 総合科目の履修順序

専門演習（必修）は、職業専門科目群と展開科目群の学修効果を統合・拡充する総合科目として、3 年次の第 1 クォーターから第 4 クォーターにかけて、職業専門科目群と展開科目群の進度に合わせて通年で履修する。

以上のように構成された本学教育課程について「観光振興専門職」の養成に関する基本的な履修順序を整理すると、学生はまず 1 年次前半に基礎科目群を学んで「自学自修の態度」を身に付け、同時に臨地実務実習の事前学修として「観光の理論と知識」と「観光実務の知識と技能」を学修する。

その学修成果に基づき、次に 1 年次第 3 クォーターでは、「臨地実務実習Ⅰ」によって、瀬戸内における観光振興専門職の実務の実態を学修する。2 年次第 2 クォーターでは、より専門性の高い、進路別の先進的な取り組みや手法を学修するための「臨地実務実習Ⅱ」を実施し、さらにその応用・マネジメント編として、2 年次第 4 クォーターでは、「臨地実務実習Ⅲ」を実施する。

そして、学生が臨地実務実習の学修成果を自身の実力として定着させながら強化するために、3 年次以降では、臨地実務実習の事後学修として、学生が「観光の理論と知識」と「観光実務の知識と技能」を深化できるようにする。3 年間における「職業専門科目群」と「展開科目群」の学修全体は、総合科目としての「専門演習」によって総括され、学生の「観光振興専門職」としての総合的な能力を育成することとなる。**（資料 40 せとうち観光専門職短期大学観光振興学科クラス別科目配当・履修順序表）**

4-5 教養科目の実施方針と教育課程編成上の具体的工夫

本学は、中央教育審議会による答申「新しい時代における教養教育の在り方について」（平成 14 年）の理念に則り、本学の教養教育の実施方針を定める。すなわち、本学における教養教育の実践方針は、「一般常識の自学自修の習慣化」を、本学の根本的な教育目標である「人間力」を養成するための素地であると位置づける。

この方針を実践するために、本学は教育課程の編成において、基礎科目群に一般常識科目として「文化論」、「地理学」、「法と社会」、「企業の社会的責任」「災害と防災の科学」「信仰の歴史」「異文化理解」「ビジネスコミュニケーション」「介助実務実習」を配置し、これらの科目の担当者は、教養教育としての目標を確実に共有し、連携しながら当該の各科目を担当する。また、基礎科目群には、以上の一般常識科目の教育効果を支援し補完する科目として、「基礎演習」と「キ

ャリアデザイン論」が配置される。一般常識の修得は、元より生涯に渡って続くのであるから、「基礎演習」と「キャリアデザイン論」は、学修の習慣を身に付けるための本学教育課程全体の基本科目となる。また、基礎演習では、各一般常識科目の学修成果を定着させつつ、基礎教育課程の意味を学生に浸透させ、一般常識の学修を深化し展開する役割を持たせる。

また、本学は、教養教育に関連する書籍を含め、「キャリア形成必読書リスト 100 冊」という推薦図書を選定し、そのうち 3 冊について、学生が在学期間中にそれらの図書を読破するように指導する。その指導は、書籍の内容に応じ、一般常識関連の書籍については「基礎演習」において、また、書籍の内容が職業専門科目に関連する書籍ついては「専門演習」において行う。**(資料 27 キャリア形成必読書 100 冊)「キャリア形成必読書 100 冊」は日本十進分類法の類目表及び要目表により整理し、基礎演習の対象となるものと専門演習の対象となるものの区分を明示するとともに、推奨年次についても表記する。**

4-6 教育課程の編成・授業科目を不断に見直す体制と仕組み

本学は、先に述べた「せとうち観光学研究所」(16 ページ）において、世界の動向とそれに伴う地域の社会経済の変動とを的確に分析し、同時に地域社会各界のニーズを的確に把握しながら、教育課程を不断に改善する体制づくりに取り組む。そうした教育課程の改善を教育理念に取り込むことによって、学生が有意義な社会生活を自ら創りだし、かつ観光産業や観光による地域創生事業に従事して、社会に有為な人材となりうる教育を実践したい。

そのために、本学は、学長、全専任教員、専任職員が参加する「教育研究開発会議」を設置し、同会議において教育課程を状況に応じて再編成し、授業科目を見直す体制を構築する。**(資料 29 教育研究開発会議規程)** また、学長は、「教育課程連携協議会」から本学教育課程の改善や課題を聴取する。「教育課程連携協議会」が学長に提示した意見は、「教育研究開発会議」において検討され、その後にこのプロセスが繰り返される。こうして、「教育研究開発会議」と「教育課程連携協議会」が、本学の教育課程を PDCA サイクルによって不断に見直す体制を構成する。この体制の下に、「教育研究開発会議」を、2 ヶ月毎に開催する。**(資料 20 せとうち観光専門職短期大学の教育・研究・地域(連携)貢献の体制)**

５　教育組織の編成の考え方及び特色

5-1　設置の趣旨、特色、教育課程等を踏まえた教員配置の考え方

本学本学科は、本学が養成する人材像が修得すべき能力と教育上の目標を、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー、それにより構成された教育課程によって達成するために、各科目の特性と他の科目との対応関係に基づき、「学術」系と「実務」系の専任教員、並びに兼任教員をそれぞれ適正に配置する。観光振興専門職の育成にあたっては、「思考力」、「実践力」、「協働力」という 3 つの基礎力が本学科の教育課程を通して修得されるので、理論的な思考力を涵養する科目については、主に学術系教員が、また実務的な「思考力」、「実践力」、「協働力」を鍛錬する科目については、主に実務系教員が担当する。学術系と実務系の教員は、「教育研究開発会議」での研究会等を通して緊密に連携し合い、教育・学生指導にあたる。それぞれの主要科目には専任教

員を配置する。

5-2 適切な教員配置の計画

(1) 基礎科目群の教員配置

基礎科目群の教育目標を達成するために、それぞれの教育目標に該当する主要科目に専任教員やみなし専任教員を中心に配置する。

「DP1（自学自修の態度形成)」に対応する授業科目である「基礎演習」及び「キャリアデザイン論」については専任教員が中心に担当し、「DP2（思考法の修得)」に対応する授業科目については学術系専任教員が担当するとともに、各科目に適任の能力を有する兼任教員を配置する。兼任教員が担当する場合には、シラバスの作成や学科長による定期的な会合等を通して、当該教員が本学の教育課程、教育目標、教育方針を的確に理解し共有できるようにする。

(2) 職業専門科目群の教員配置

職業専門科目群には、専任教員やみなし専任教員を中心に配置する。その際、「観光の理論と知識」を学修する科目については、学術系教員が主に担当し、また、「観光実務の知識と技能」を学修する科目については、主に実務系教員が担当する。

なお、「観光実務の知識と技能」を学修する科目については、みなし専任教員も担当するが、それらの科目運営にあたっては、実務専任教員とみなし専任教員の間で教育課程の目標を確認しながら適正に運営する。また、それらの科目の教育内容は、実務系専任教員とともに、みなし専任教員も参画して策定している。

また、職業専門科目群における教育目標の 1 つである「DP6 観光英語力の修得」英語科目は、兼任教員によって担当するが、英語科目の全ての授業は、当該兼任教員と学科長が本学の教育課程や教育目標等について綿密に打合せた上で運営する。

(3) 展開科目群の教員配置

「観光振興専門職」として職務でより実践的かつ創造的な役割を果たすために学ぶ展開科目群には、12 科目中の 2 科目を専任教員が担当し、また、残りの 10 科目に、各科目に適任の能力を有する兼任教員 7 名を配置する。兼任教員 7 名の内訳は、香川大学で経営系の授業を担当している教員 1 名、高松大学の専任教員で経営系の授業を担当している教員 2 名、早稲田大学ビジネススクールや岡山大学の非常勤講師として、ビジネスコーチングやファシリテーションに関する授業を担当している教員１名、吉備国際大学の非常勤講師として、経営系の授業を担当している教員１名、香川大学創造工学部において情報処理や人工知能を専門として、教育・研究を行っている教員２名である。展開科目群の教育目標とその運営方針は、学科長の主導によって担当全教員に共有する。

(4) 総合科目の教員配置

演習科目としての「専門演習」には、全クラスに専任教員とみなし専任教員を配置する。

5-3 授業科目の開発や教育課程の改善等を行う体制

本学では、全専任教員が「教育研究開発会議」に所属し、観光学の理論的・実践的研究の成果を踏まえて、教育の課題に取り組む。同会議は、学科長が議長となり、隔月で定期的に開催される。**(資料 29 教育研究開発会議規程)** 同会議は、授業科目と教育課程の運営状況を確認しながら、それらの開発や編成を不断に見直す。

また、研究組織の学術グループと実務グループは、研究活動と同時に、それぞれの領域の教育開発や FD 活動にも従事して、それぞれのグループには、統括者としての専任教授を配置する。その開設時の統括者には、学術系では観光学の研究と教育に豊富な業績を有し、博士（観光学）を取得した専任教員を配置し、また実務系では観光実務と行政について豊かな経験を有し、その業績が高い社会的評価を受けている専任教員を配置する。

さらに、開設時において、学術と実務の両グループの統括には、国内外で長い実務の経験と評価の高い実績を積み重ね、実務の引退後に国立大学観光学部での 10 年に渡る教育歴を有する学長候補がリーダーシップを執る。学長、学術統括者、実務統括者は、三者間に本学の教育の理念と実践方針が十二分に共有されて、本学の創設と運営に取り組む。この三者と全教職員もまた本学の教育理念とその実践方針を共有することによって、本学の専門職短期大学としての教育体制を築きあげたい。

また、「教育研究開発会議」は、FD の課題についても検討を行う。会議で検討された FD 運営を通して、とりわけ教育歴が比較的浅い若手教員やみなし専任教員に対しては、本学の教育理念や教育目標の共有を図り、さらに全専任教員によって、教育課程の運営に関する改善点や変更点を常に議論する。

5-4 実務家教員の配置

本学の実務家専任教員 8 名を、職業専門科目群の実務講義科目と、「専門職短期大学」教育課程の特に主要な特徴の 1 つとなる実習系科目を中心に配置する。当該教員は、豊かな実務経験を有する 6 名と、長年の実務経験を持ちながら現職においても活躍するみなし専任教員 2 名である。これらの実務家専任教員を、主に職業専門科目群の実習科目及び専門演習に配置する。

5-5 博士等の学位や研究業績を有する教員の配置

本学の教育課程においては、学位や研究業績を持つ学術系教員と、実務の豊かな経験と社会的評価が高い実績を有する実務系教員とが、それぞれに学術グループと実務グループに所属し、各グループで教育研究の研鑽を重ねつつ、相互に交流・協働して専門職教育を実践する。学術専任教員 5 名中 3 名（教授 1 名、准教授 1 名、助教 1 名）は博士号取得者であり、1 名（助教）は修士号取得者（1 年以内に博士号取得予定）である。また、実務家専任教員（研究）の 4 名は、高い実務実績と研究業績との両方を有する。このように、観光振興学科の研究機能を十分に果たしうる。

5-6 教員組織の年齢構成と定年に関する学内規程

本学科開設時における専任教員及びみなし専任教員の年齢構成については、70 歳代 2 名、60 歳代 5 名、50 歳代 3 名、40 歳代 1 名、30 歳代 2 名であり、60 歳以上の教員が占める割合が大きい。実務家教員については、長年の職務経験を必要とすることから、このような年齢構成になってしまうこともやむを得ないが、年齢構成が偏ることは教育の質の保証や持続性の観点から好ましいことではなく、完成年度以降は教員の年齢構成の均等化に努めたい。そのため、教育研究開発会議等の組織化を通して、より経験を有する教員が若い研究者に教育研究において助言・指導を行う体制を構築し、若手教員の育成にも力を入れることとする。

専任教員等定年規程**（資料 41 専任教員等定年規程）**により、定年を 65 歳と定め、定年を迎えた教員は、個人の能力と本人の希望、大学の状況等に応じて、70 歳まで在職できるものとすることとなっている。また特別の事情により、専任教員等定年規程**（資料 41 専任教員等定年規程）**により難い場合には、理事会の判断により柔軟に対応することが可能な体制を構築することとしており、開学時、完成年度、さらに中長期計画の策定を通じて、教員組織の年齢構成等の健全化については常に注意を傾けて参りたい。

5-7 今後の採用計画と教員組織編制の将来構想

完成年度以降の教員の採用計画については、全国公募により、40 歳以下の教員を積極的に採用するよう努める。また、定年退職する教員の後任としては、なるべく同一研究分野の学内の若手教員を育成してこれに充て、その補充として、全国公募により若手教員を採用することにより、教育研究の継続性を維持するための**「教育人材育成サイクル」**を構築することを理想とするが、本学の専任教員の規模からすると困難な場合もあり、その際には、全国公募による後任の採用や特任教員としての継続雇用により対応する場合もある。

特に 40 歳代以下の実務家教員の採用については、その実効性を高めるため、具体的に以下の方策を策定する。

① 今年度内に、公募（候補者及び応募者の発掘にあたり、教育課程連携協議会の構成員や臨地実務実習施設としての承諾を得ている企業等の協力を得る。）により、助手 2 名の採用を決定し、開学予定の 2021 年 4 月から採用する。当該助手は「ホスピタリティ実務実習」（学内実習）及び「臨地実務実習Ⅰ」において、実習担当教員をサポートする。（現在、候補者を 1 名確保している。）

② 2021 年 4 月以降、①と同様に、助手 2 名の採用を決定し、2022 年 4 月から採用する。当該助手 2 名は「臨地実務実習Ⅱ」及び「臨地実務実習Ⅲ」において、実習担当教員をサポートする。

③ 上記 4 名は、実習担当教員のサポートを行いながら、自らの教育・研究に励み、完成年度後に准教授または講師、あるいは助教として、現在の実習担当教員とともに、「ホスピタリティ実務実習」（学内実習）及び「臨地実務実習Ⅰ」「臨地実務実習Ⅱ」「臨地実務実習Ⅲ」の担当教員となることを前提として採用する。

④ 当該助手が准教授または講師、あるいは助教となった場合の、後任の助手については、

改めて公募（候補者及び応募者の発掘にあたり、教育課程連携協議会の構成員や臨地実務実習施設としての承諾を得ている企業等の協力を得る。）により採用する。

⑤ 上記①②～④のローテーションを繰り返すことにより、安定した実務家教員の採用システムを構築することができる。

本学科開設時における専任教員及びみなし専任教員の年齢構成は、70 歳代 2 名、60 歳代 5 名、50 歳代 3 名、40 歳代 1 名、30 歳代 2 名であり、教員の年齢構成が比較的高齢に偏っている。これは、実務系教員には長年の実務実績や研究実績が必要となることも影響しており、本学においても、実務系教員はすべて 50 歳代以上である。このため、学術系教員に若手教員を配置することとした。今後は、若手教員の育成と計画的な若手教員の採用を進め、将来的にはバランスの取れた教員組織を編成する。**（資料 64 教員採用の見通し）（資料 65 専任教員年代別分布グラフ）**

このため、教育研究開発会議を有効に機能させ、本学の建学の精神や教育理念を常に全教員に浸透させて FD 活動を促進することはもちろんのこと、より経験を有する教員が若手教員に教育研究において、常に助言・指導を行う体制と風土を構築し、若手教員の育成に積極的に取り組む。また、他大学との教育・研究交流を進め、教育人材の情報を常に把握し、教育人材の流動化に適切に対応できるよう努めるとともに、教育の到達目標である「3 年に 1 度、複数の授業科目を新規に開設する」ことに伴い、新規に開設する授業を担当する専任教員が担当していた授業科目の後任補充として、専任教員の新規採用を行う。**（資料 64 教員採用の見通し）（資料 65 専任教員年代別分布グラフ）**

現実には、完成年度に専任教員 13 名の内、6 名の教員が定年となる。内訳は、学術系教員 1 名と実務系教員 5 名であるが、学術系教員 1 名と実務系教員 1 名については、その実績から余人を以て代えがたく、専任教員等定年規程第 2 条第 4 項により、特任教員として定年延長する予定である。残りの実務系教員 4 名については、その後任には**先に述べた通り実効性のある方策を推進して、**40 歳代以下の教員を公募**（候補者及び応募者の発掘にあたり、教育課程連携協議会の構成員や臨地実務実習施設としての承諾を得ている企業等の協力を得る。）**により採用する計画である。実務家教員に 40 歳代以下の教員を確実に採用するため、本学を支援する観光業界の企業との連携をさらに強化して、常々、候補者の発掘に努め、積極的に応募を働きかけるなどの工夫により、教員の年齢構成の均等化に努めて参りたい。**（資料 64 教員採用の見通し）（資料 65 専任教員年代別分布グラフ）**

5-8 みなし専任教員の役割・責任等

本学のみなし専任教員は、職業専門科目群の「DP4 観光実務の知識と技能の養成」に該当する「地域創生事業論」「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」「観光実務応用論」「臨地実務実習Ⅰ」「臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）」「臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス）」「観光支援ビジネス実務発展論」「観光実務発展論」「観光実務マネジメント論」、総合科目の「専門演習」を主に担当する。これらのみなし専任教員は、臨地実務実習のプログラム作成に参画し、教授会や教育研究開発会議に所属して、上記の一連の実習科目の運営・管理に携わる。このように、みなし専任教員は、学科の重要な役割を履行し責任を担う教員である。

5-9 専任教員の負担

本学の専任教員の負担を確認するため、専任教員の個人別の時間割をクォーター及び週ごとに作成した。**（資料 66 専任教員個人別時間割）**

これに基づき、完成年次における各専任教員の授業担当コマ数を確認すると別添資料のとおりとなり、授業以外に想定される教授会や各委員会、研究会議やオフィスアワーに対応することや臨地実務実習に伴う巡回指導やその移動時間を確保することも可能であり、直ちに教員・研究に支障をきたすものではないと考えている。**（資料 67 専任教員担当授業コマ数一覧）**

臨地実務実習を担当する専任教員７名のうち、安本幸博、小島英夫、石床　渉、堀田明美、阿部有香の５名が多忙となると思われるが、この５名の平均年齢は、59.4 歳であり、本学の教員の定年規程の基準を５歳下回っている。

この５名のうち、65 歳以上となる者は小島英夫、堀田明美の２名である。小島英夫は、都市部の大規模ホテルでの実務経験を有し、かつ地元ホテルの経営者として、宿泊産業の現場における業務全般について精通しているだけでなく、経営的観点から総合的に業務を推進してきた経験を有しており、学生指導のための事前準備や評価等における負担は過度のものではない。また、現在も臨地実務実習施設への協力依頼や実習内容の打合せ等に事務職員とともに出向いており、遠隔地への巡回指導においても問題はないと考えている。また、堀田明美は、航空会社において長く客室乗務員として勤務した経験があり、航空産業の業務全般に精通しており、学生指導のための事前準備や評価等における負担は過度のものではなく、航空クラスの巡回指導のための遠隔地への巡回指導においても問題はないと考えている。

(1)学術系教員及び臨地実務実習を担当しない実務家教員の負担

※1 クォーターあたりのコマ数を記述する。また、1 週間の平均担当授業時間数は、1 授業時間数を 45 分として算出している。(2) についても同様。

① 安村克己は、１年間の担当授業コマ数が 120 コマであり、1 週当たりの平均担当コマ数 3.8 コマとなる。これを時間に換算すると週 7.6 時間となる。本学はクォーター制を採用しているが、第１クォーターは１年次「文化論 A」「観光学概論 A」2 年次「観光行動論 A」の 3 科目 45 コマを、第 2 クォーターは 1 年次の「観光社会文化論 A」「観光振興・地域創生論 B」の 2 科目 30 コマを、第 3 クォーターは、2 年次の「観光行動論 B」「国際観光論」の 2 科目 30 コマを、第 4 クォーターは 1 年次の「観光振興・地域創生論 A」の 1 科目 15 コマを担当する。

② 吉田雄介は、１年間の担当授業コマ数が 120 コマであり、1 週当たりの平均担当コマ数 3.8 コマとなる。これを時間に換算すると週 7.6 時間となる。本学はクォーター制を採用しているが、第１クォーターは１年次「基礎演習」「地域資源論 A」「地域資源論 B」2 年次の「異文化理解」3 年次の「専門演習」の 5 科目 61 コマを、第 2 クォーターは 1 年次の「基礎演習」「地理学 A」「地域観光基礎実習」3 年次の「専門演習」の 4 科目 45 コマを担当し、第 3 クォーターは 3 年次の「専門演習」1 科目 8 コマを、第 4 クォーターは 3 年次の「専門演習」の 1 科目 6 コマを担当する。

③ 田保　顕は、１年間の担当授業コマ数が 90 コマであり、1 週当たりの平均担当コマ数 2.8 コ

マとなる。これを時間に換算すると週 5.6 時間となる。本学はクォーター制を採用しているが、第１クォーターは１年次「基礎演習」3 年次「専門演習」の 2 科目 16 コマを、第 2 クォーターは１年次「基礎演習」「文化論 B」「地域観光基礎実習」の 3 科目 45 コマを、第 3 クォーターは、3 年次の「専門演習」の 1 科目 8 コマを、第 4 クォーターは１年次「観光社会文化論 B」3 年次の「専門演習」の 1 科目 21 コマを担当する。

④ 平　侑子は、１年間の担当授業コマ数が 120 コマであり、1 週当たりの平均担当コマ数 3.8 コマとなる。これを時間に換算すると週 7.6 時間となる。本学はクォーター制を採用しているが、第１クォーターは１年次「基礎演習」2 年次「観光文化施設論」「観光メディア論」3 年次の「専門演習」「メディアコンテンツ実習 B」の 5 科目 61 コマを、第 2 クォーターは 1 年次の「基礎演習」「地域観光基礎実習」3 年次の「専門演習」「メディアコンテンツ実習 A」の 4 科目 45 コマを担当し、第 3 クォーターは 3 年次の「専門演習」1 科目 8 コマを、第 4 クォーターは 3 年次の「専門演習」の 1 科目 6 コマを担当する。

⑤ 谷﨑友紀は、１年間の担当授業コマ数が 120 コマであり、1 週当たりの平均担当コマ数 3.8 コマとなる。これを時間に換算すると週 7.6 時間となる。本学はクォーター制を採用しているが、第１クォーターは１年次「基礎演習」「地理学 B」2 年次「信仰の歴史」3 年次の「専門演習」「マップデザイン実習 A」の 5 科目 61 コマを、第 2 クォーターは 1 年次の「基礎演習」「地域観光基礎実習」3 年次の「専門演習」「マップデザイン実習 B」の 4 科目 45 コマを担当し、第 3 クォーターは 3 年次の「専門演習」1 科目 8 コマを、第 4 クォーターは 3 年次の「専門演習」の 1 科目 6 コマを担当する。

⑥ 藤野公孝は、１年間の担当授業コマ数が 90 コマであり、1 週当たりの平均担当コマ数 2.8 コマとなる。これを時間に換算すると週 5.6 時間となる。本学はクォーター制を採用しているが、第１クォーターは１年次「観光事業論 A」2 年次「観光政策論 B」3 年次「専門演習」の 3 科目 38 コマを、第 2 クォーターは１年次「観光事業論 B」3 年次「専門演習」の 2 科目 23 コマを、第 3 クォーターは 2 年次「観光政策論 A」3 年次「専門演習」の 2 科目 23 コマを、第 4 クォーターは 3 年次の「専門演習」の 1 科目 6 コマを担当する。

⑵臨地実務実習を担当する実務家教員の負担

臨地実務実習を担当する実務家教員の負担については、週によりばらつきがあるため、各クォーターにおける１週あたりのコマ数について記述する。なお、学内における学生の活動報告書の確認等のために週に1コマを必要とし、巡回指導については移動時間を含めて、半日で実施する場合は3コマ、日帰りの場合には5コマ、1泊2日の場合は10コマ、2泊3日の場合は15コマを必要するものとして計算しているが、最大でも週に20コマを超えないように設定している。

① 安本幸博は、１年間の担当授業コマ数が206コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.4コマとなる。これを時間に換算すると週12.8時間となる。本学はクォーター制を採用しているが、第１クォーターは臨地実務実習がなく、1年次「観光リスクマネジメントB」、2年次「観光実務基礎論」（後半4週）、3年次「観光実務マネジメント論」（前半4週）「専門演習」の1週あたり4科目5コマ（8週目のみ4コマ）を担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」、の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大

で14コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「観光実務発展論」（前半4週）「観光実務応用論」（後半4週）、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても9コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。

② 小島英夫は、１年間の担当授業コマ数が216コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.8コマとなる。これを時間に換算すると週13.6時間となる。本学はクォーター制を採用しているが、第１クォーターは臨地実務実習がなく、3年次「専門演習」のみの1週あたり1科目1コマを担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、3年次「専門演習」の3科目を担当し、前半4週は3コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても12コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。

③ 石床　渉は、１年間の担当授業コマ数が208コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.5コマとなる。これを時間に換算すると週13.0時間となる。本学はクォーター制を採用しているが、第１クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「観光実務基礎論」（後半4週）、3年次「観光実務マネジメント論」（前半4週）「専門演習」の1週あたり3科目3コマを担当することとなる。第2クォーターは、1年次「ホスピタリティ実務実習B」2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」「宿泊産業論」の4科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「観光実務発展論」（前半4週）「観光実務応用論」（後半4週）、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。

④ 青木義英は、１年間の担当授業コマ数が102コマであり、1週当たりの平均担当コマ数3.2コマとなる。これを時間に換算すると週6.4時間となる。本学はクォーター制を採用しているが、第１クォーターは臨地実務実習がなく、1年次「ホスピタリティマネジメント論A」、2年次「キャリアデザイン論B」の1週あたり2科目4コマ（第8週目のみ2コマ）を担当することとなる。第2クォーターは、1年次「観光リスクマネジメントA」2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。第3クォーターは、2年次「キャリアデザイン論A」の1科目のみを担当する。第4クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）を担当するが、巡回指導には赴かないため、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は1コマとなっている。

⑤ 堀田明美は、１年間の担当授業コマ数が208コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.5コマとなる。これを時間に換算すると週13.0時間となる。本学はクォーター制を採用しているが、第１クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「キャリアデザイン論B」「ビジネスコミュニケーション」、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「キャリアデザイン論B」については、2、8、15コマ目を担当するのみであるため、1週あたり平均3.3コマを担当することになる。第2クォーターは、1年次「ホスピタリティ実務実習A」「ホスピタリティマネジメント論B」、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」の4科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「キャリアデザイン論A」、3年次「専門演習」の4科目を担当するが、「キャリアデザイン論A」については、2、8、15コマ目を担当するのみであるため、前半4週は1週あたり平均3.5コマであり、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。

⑥ 古川康造は、１年間の担当授業コマ数が87コマであり、1週当たりの平均担当コマ数2.7コマとなる。これを時間に換算すると週5.4時間となる。第１クォーター及び第3クォーターは担当する授業科目はない。第2クォーターは、3年次「地域創生事業論」と2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第4クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。

⑦ 阿部有香は、１年間の担当授業コマ数が188コマであり、1週当たりの平均担当コマ数5.9コマとなる。これを時間に換算すると週11.8時間となる。本学はクォーター制を採用しているが、第１クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「観光実務基礎論」（後半4週）、3年次「観光実務マネジメント論」（前半4週）「専門演習」の1週あたり3科目3コマを担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「観光実務発展論」（前半4週）「観光実務応用論」（後半4週）、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。

（資料 66 専任教員個人別時間割）（資料 67 専任教員の担当授業コマ数一覧）

観光分野における教員の１週間の平均担当授業時間数が適切な分量であるかを確認するため、私立大学で観光学部を設置している大学において、代表的な存在である立教大学における 2016 年度の教員の１週間の平均担当授業時間数を確認したところ、立教大学観光学部の教員の１週間の平均担当授業時間数は、職位別で、教授 14.5 時間、准教授 17.3 時間、講師データなし（隣接分野の経営学部では 13.0 時間）、助教 10.0 時間で、全体平均では 13.7 時間となっている。

本学教員の１週間の平均担当授業時間数とこれらを比較すると、本学の教員の１週間の平均担当授業時間数は、立教大学観光学部の職位別及び全体平均の時間数を下回っている。よって、本学の教員の 1 週間の平均担当授業時間数は適切な分量であると判断している。**（資料 73　立教大学大学基礎データ 2016 年度（抄））（資料 74　教員の１週間の平均担当授業時間数の比較表）**

5-10 教員組織における連携・協力体制の構築

本学観光振興学科の教員は、学術系教員５名のうち、豊富な教育経験を有する者３名と若手教員で博士号を有する助教２名により構成される。また、実務家教員は、研究実績を有する教員 3 名と実専及び実み５名により構成される。これらの四者はそれぞれに持ち得る知識、経験やノウハウがあり、相互にそれらを享受することにより、信頼関係や支援関係を構築することが可能である。本学はこれらのメリットを最大限に活用し、観光振興学科及び教育研究開発会議における交流や協議を通じて、相互に切磋琢磨し、相互に支援しあう体制を構築する。加えて、事務局学生課がこれらの動きを常に事務的にサポートし、その恩恵を学生が享受できるよう努力する。

具体的には、学術系ベテラン教員と研究実績を有する実務家教員は、学術研究と実務研究の交流を促進する。学術系ベテラン教員は、学術系若手教員に対して、教授法の伝授と研究への助言を行うと同時に、教材作成や学生対応の補助を得る。実専及び実み教員に対しては、研究ノウハウを提供しつつ、反対に観光現場の最新情報を取得する。研究実績を有する実務家教員は、実専及び実み教員に対しては、研究ノウハウを提供しつつ、反対に観光現場の最新情報を取得する。学術系の若手教員は、実専及び実み教員に対して教材作成や学生対応の支援を行い、反対に観光現場の最新情報を取得する。このような体制を構築する。**（資料 68 観光振興学科内の連携・協力体制）**

６　教育方法、履修指導方法及び卒業要件

6-1 授業方法及び教育方法

本学本学科は、ディプロマ・ポリシー(DP)によって卒業要件を定め、そのディプロマ・ポリシーを具現するために、カリキュラム・ポリシー(CP)に基づいて教育課程を編成して、その教育課程に各授業科目を配置する。各科目については、その内容と特性に応じて、講義、演習、及び実習の授業形態を取る。

各科目の受講生数は、最大 40 名とする。臨地実務実習科目は、実習施設における実習プログラムや実習条件等によって人数が異なり、おおよそ 2 人～20 人程度で実施する。基礎演習と専門演習については、10～20 名程度の規模で指導する。

6-2 入学時の学修計画の提出と臨地実務実習の選択方法

本学本学科の職業専門科目群において、学生は、カリキュラムツリーに従い、それぞれが 3 年間の学びの設計図を描く。学生の履修登録は、入学時の履修相談等を通じて、各自の「学びのプログラム（案)」を作成・提出した後、1 年次の第 1 クォーターにおいて行われる。その後は、クォーターごとの履修ガイダンスを経て、履修登録を行う。**（資料 25 「学びのプログラム（仮称)」**

書式）

また、臨地実務実習においては、1年次第3クォーターの「観光支援ビジネス実務基礎論」「臨地実務実習Ⅰ」のクラス選択を行う必要がある。また、2年次第2クォーターの進路別の臨地実務実習Ⅱにおいては、進路に合わせて2年次第1クォーターから始まる、臨地実務実習事前学修科目の授業科目（「観光実務基礎論（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」）及び「臨地実務実習Ⅱ（「航空クラス」「鉄道クラス」「宿泊クラス」「観光地域創生クラス」）」のクラスを選択する。さらに、2年次第4クォーターの進路別の臨地実務実習Ⅲにおいては、進路に合わせて2年次第3クォーターから始まる、臨地実務実習事前学修科目の授業科目（「観光実務応用論（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」）及び「臨地実務実習Ⅲ（「航空クラス」「鉄道クラス」「宿泊クラス」「観光地域創生クラス」）」のクラスを選択する。これらのスケジュールは、概ね以下のとおり予定している。

① 4月上旬　履修オリエンテーション時に合わせて、臨地実務実習Ⅰのガイダンスを実施する。
② 4月中旬　履修相談会（就職の希望に関する面談を含む）を開催
③ 4月下旬　学生が、個人の学修計画として「学びのプログラム（仮称）」を作成し、**教務・学生センター**に提出。同時に、臨地実務実習Ⅰのクラス選択希望を**教務・学生センター**に提出。
④ 5月中旬　臨地実務実習Ⅰのクラスを決定する。
⑤ 翌年1月中旬　臨地実務実習Ⅱのガイダンスを実施する。
⑥ 翌年2月上旬　臨地実務実習Ⅱのクラス選択希望を**教務・学生センター**に提出。
⑦ 翌年2月下旬　臨地実務実習Ⅱのクラスを決定する。（教務委員会→学長決定）
⑧ 翌年8月上旬　臨地実務実習Ⅲのガイダンスを実施する。
⑨ 翌年8月中旬　臨地実務実習Ⅲのクラス選択希望を**教務・学生センター**に提出。
⑩ 翌年8月下旬　臨地実務実習Ⅲのクラスを決定する。（教務委員会→学長決定）

クラス分けにおいては、学生のクラス選択の希望に応じてできるだけ受け入れる方針だが、1クラスの学生数の上限を40名と設定するとともに、クラス内のグループ分けは、臨地実務実習施設の受け入れの状況により調整する場合がある。この上限は、学修効果の保証と、臨地実務実習における実習施設の学生受入れ人数とを考慮して決定した。あるクラスの学生希望者が40名を越えた場合やグループの希望者が臨地実務実習施設の受入可能数を超える場合には、学生の選択理由や動機づけ、普段の学修態度、進路等を勘案して、一部の学生と相談の上で、該当学生に第一希望の選択クラスの変更を指導する。

以上のようなクラス分けの実務作業は、主に教務委員会と**教務・学生センター**の職員によって履行され、最終的なクラス分けの決定は、教授会の意見を聞いて学長が決定する。

6-3 科目の成績評価の統一的基準

授業科目の成績評価の方法については、講義、演習、実習等の授業形態によって相違もあるが、原則として、次のような成績評価の基準を設定する。

①授業の「到達目標」と、その目標に対応した「評価の方法」を、担当教員がシラバスと授業

において学生に明確に伝え、学生がそれらを理解できるようにする。

②成績評価の「種類」と「評価の割合」を、担当教員がシラバスと授業において学生に明確に伝え、学生がそれらを理解できるようにする。

③成績評価の方法毎に「評価の具体的な基準」を、担当教員がシラバスと授業において学生に明確に伝え、学生がそれらを理解できるようにする。

④成績評価の結果は、評価後に学生にフィードバックして、学生が成績評価の結果を的確に認知できるようにする。

なお、成績評価の方法と基準については、「教育研究開発会議」において、議論を継続する。

6-4 卒業要件の考え方

卒業要件は、専門職短期大学設置基準第 26 条第 1 項に基づき、本学のディプロマ・ポリシーの充足要件を勘案して、次のとおり、卒業要件 96 単位以上とする。

せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科　卒業単位

科目区分（要件）	必修科目	選択必修科目	選択科目
基礎科目（15単位以上）	９（　１）	６（　０）	０（　０）
職業専門科目（62単位以上）	４９（２３）	７（　１）	６（　０）
展開科目（15単位以上）	１１（　５）	４（　０）	０（　０）
総合科目（4単位以上）	４（　０）	０（　０）	０（　０）
小　計	７３（２９）	１７（　１）	６（　０）
合　計	９６（３０）		

※（　　）内は実習科目で内数。

6-5 履修指導の方法

学生が本学教育課程の教育目標と教育理念を把握したうえで、開設授業科目の目的や内容等を十分に理解し、適切な履修計画を策定できるように、以下の方法で履修指導を行う。

●履修要項の作成

履修要項を作成し、その要項を用いて履修オリエンテーションを開催する。履修要項には、観光振興学科における教育の理念と目標、教育課程の内容と特徴、履修手続、履修モデル等が記載される。単位の実質化についても、学生に十分に理解させ、予習・復習の時間をきちんと確保するよう指導するとともに、学生自習室や図書館の活用を勧める。

●履修モデルの作成

学生が観光振興学科の教育目標を的確に理解してその目標を体系的に達成するために、履修モデルを作成し学生に提示する。**（資料 38 進路別履修モデル）**

●シラバスの作成

学生が授業を履修するにあたって、授業の目的、内容、教育課程における位置付け等を把握できるようにシラバスを作成する。シラバスには、授業の概要、関連するディプロマ・ポリシー、キーワード、到達目標、授業計画、成績評価（評価の種類・評価割合・評価基準）、テキスト、参

考書、授業時間外学修、課題に対するフィードバックの方法、受講ルール、連絡先等を記載する。

●履修ガイダンス

履修要項やシラバス等を用いて、履修指導を目的とするオリエンテーションを実施する。履修ガイダンスは、各年次で、各クォーターの授業開始前の 4 月上旬、6 月上旬、9 月下旬、11 月下旬に行われる。

加えて、窓口における**教務・学生センター**の職員による履修手続の指導や教員のオフィスアワーにおける履修指導等によって、履修ガイダンスによる指導を補完する。

●事務局**教務・学生センター**の履修指導

履修登録の期間前と期間中に、履修登録の手続や方法、卒業要件等に関わる履修条件等について、学生が個別に相談できる機会を設ける。さらに、履修の状況や卒業要件等のような、履修に関わる事柄に不安を持つ学生には、窓口等において**教務・学生センター**の職員が随時相談を受け付ける。

6-6 履修科目の年間登録上限

本学では、専門職短期大学設置基準第 20 条第 1 項に基づき、履修科目の年間登録上限（CAP 制）を設ける。観光振興学科は、1 年間の課程にクォーター制（4 学期制）を採用**（資料 33 学年暦）**して、学修効果を高めるために 90 分の授業を週 2 回**（資料 42 せとうち観光専門職短期大学観光振興学科総合時間割）**行うため、1 学期当たりの開講科目数が限られ、学生の履修科目の選択肢は少なくなる。また必修科目である臨地実務実習が、1 年次の第 3 クォーター及び 2 年次の第 2・第 4 クォーターにおいて実施される。そのために、学生が履修する年間登録は限定されざるを得ない。このように、学生が履修する科目の選択肢はある程度制限されるものの、学生がより各年次にわたって適切に授業科目を履修できるよう考慮し、 1 年間の年間登録上限を 42 単位とする。

6-7 他大学における履修等

本学は、教育課程の実施にクォーター制を採用し、且つ臨地実務実習の期間が長期に渡るため、特にセメスター制を採用する他の多くの短期大学及び大学の授業科目を履修することは、実質的に難しい。ただし、専門職短期大学設置基準第 22 条及び本学学則 28 条に基づき、本学の学生の事情において、本学が当該学生に教育上有益と認めるときには、他の短期大学又は大学において履修した授業科目について修得した単位を、修業課程の 3 年間に 46 単位を超えない範囲で本学の授業科目の履修により修得したものと見なす。

7 教育課程連携協議会

本学は、専門職短期大学設置基準第 8 条及び本学学則第 20 条第 2 項に基づき、「教育課程連携協議会」を設置する。**（資料 43 教育課程連携協議会規程）**

専門職業教育において、産業界のニーズに沿った専門職の人材を輩出することが使命であるが、社会情勢が目まぐるしく変化し、産業界の課題も複雑化している中で、今後、職業の在り方や働

き方も大きく様変わりすることが予想される。教育機関だけで、産業界の人材ニーズに応じた教育を考えるには限界がある。

そこで、本学は、産業界等の意見や要望等を把握し分析して、教育課程の改善に活用するための組織として教育課程連携協議会を設置する。その主たる審議事項は、観光を取り巻く動向を踏まえて産業界に求められる授業科目の開発、産業界及び地域社会と連携した教育課程の再編成や授業科目の開設等である。

開設当初の教育課程連携協議会は、学長が指名する教員として学科長、航空会社での勤務経験が豊富な実務専任教員の２名（専門職短期大学設置基準第８条第２項の一)、本学が育成する観光振興専門職の受入先業種である鉄道会社、航空会社、ホテル、旅行業者等が多数会員となる香川県観光協会の役員１名（同第８条第２項の二)、地方公共団体等の幹部職員１名（同第８条第２項の三)、臨地実務実習施設の事業者から４名（同第８条第２項の四)、その他、香川県高松市を中心とする瀬戸内地域の産業界を代表する者として、高松空港を運営する会社から１名、地域の観光創生の分野で活躍するDMOの幹部職員を経て、現在は自らDMOの関連会社を経営する者１名（同第８条第２項の五）の合計10名で構成される。

学外委員の各氏は、産業界等で活躍するだけでなく、職歴上、地方公共団体や観光関連団体における豊富な経験と繋がりを有しており、産業界等との連携という役目を十分に果たすことができる組織となっている。また、構成員の任期を２年として、２年毎に見直すことで、新たな成長分野においても必要とされる人材等の養成に対応することができる。

本学学長は、教育課程連携協議会を年２回開催し、教育課程連携協議会から本学の教育課程等についての意見を聴取し、その意見を教育研究開発会議で検討・議論の上で、教育課程の改善等を決定し履行する。その結果は、次回の教育課程連携協議会に報告され、さらに協議されることによって、本学と教育課程連携協議会による教育課程改善のＰＤＣＡサイクルが構築される。

（資料20 せとうち観光専門職短期大学の教育・研究・地域（連携）貢献の体制）

８　施設・設備等の整備計画

8-1 校地、運動場の整備計画

本学の校地は、高松市屋島西町2366番１の高松市が所有する旧高松テルサの土地11467.86㎡を借り受けて、専門職短期大学用の校舎敷地とする。校地の最寄りには、ことでんバス株式会社「高松テルサ」のバス停があり、高松駅バスターミナルからは乗車して約17分で通学することができる。

さらに、校地がある屋島地区は、香川県有数の観光名所であり、観光を研究対象とする本学の設置場所に最適である。この地区には、昭和９（1934）年に瀬戸内海国立公園、並びに国の史跡及び天然記念物に指定された屋島があり、屋島山上からの多島海景観の眺望が優れている。また、四国霊場八十八箇所の八十四番札所である屋島寺があるほか、源平合戦等に関わる景観も豊富な場所である。

本学の運動場としては、高松市上天神町733番に学園が所有するグラウンド4,227㎡を既設の専門学校と共用で使用する。校地からは、車で約20分の場所にあり、学生が放課後又は休日に、

運動することで汗を流し、心身をリフレッシュできる環境にする。学生から送迎の希望がある場合は、学校のマイクロバスを用いることにより、学生に経済的負担をかけず、かつ安全に移動することができる。また学園が直接管理していることから、学生の安全・安心についても担保されている。**（資料 44 校舎と上天神グラウンドの位置関係）**

8-2 校舎等施設の整備計画

本学の校舎は、高松市屋島西町 2366 番地 1 の高松市が所有する旧高松テルサの建物 10896.32㎡を借り受けて、専門職短期大学用に改修して整備する。

校舎 1 階には、事務室、図書室、学生相談室、保健室、キャリア支援室、学生控室、学生自習室、講堂（511 人収容)、トレーニングルームを設置する。図書室、学生相談室、保健室、キャリアセンター、学生控室、学生自習室は、事務室を囲むように配置し、各種手続きや事務的相談に立ち寄りやすい場所に確保した。また、学生控室は、吹き抜け構造となっており、学生が自由に食事や歓談などの休息に使える開放的な空間にしている。学生自習室は、隣接する川の眺めに憩える空間であり、そこへ学生が自由に使える机・椅子を配置し、レポート作成などに利用できる部屋とする。キャリアセンターは、就職支援の相談・指導、資料保管の部屋とする。

2 階には、教室、情報処理室、宿泊・料飲・受付をロールプレイング形式で学修することができる実習室、そして、文化教養室（66 畳の和室)、エクササイズルームを配置する。また、情報処理室には、42 台のパソコンを整備し、授業時間以外の空いた時間には学生に開放し、学生がレポート作成等の自習に活用できるようにする。エクササイズルームは、1 階のトレーニングルームと共に、学生の健康維持促進のための施設とする。

次に 3 階には、教室、大講義室（100 名収容)、視聴覚室、会議室を配置する。講義や演習などの学修の主要なフロアとなる。2 階の教室 6 部屋と、3 階の教室 7 部屋と大講義室を合わせて 14 部屋の教室があり、本学の収容定員 240 名（40 名 6 クラス）の学生が、授業を受けるのに充分な教室数を確保している。大講義室は、マイク設備やモニターを設置することで、後ろに座る学生にも配慮した教室とする。視聴覚室は、プロジェクターや音響システムを設置し視聴覚教材などの資料を見ることができる教室とする。**（資料 42 せとうち観光専門職短期大学観光振興学科総合時間割）**

そして 4 階には、学長室、研究室、演習室、会議室、せとうち観光学研究所を配置する。せとうち観光学研究所は、本学の専任教員及び客員研究員等が、観光学の理論に基づき、瀬戸内地域の観光事業と観光産業について研究するための部屋（44.2 ㎡）となり、図書及び資料を設置・公開するための書棚や研究会開催のための机、椅子、プロジェクター、データベース作成のためのパソコン等を設置する。さらに、1 階から 4 階まで、無線 LAN 環境を整備し、学生はもとより、教職員も常時、どの教室でもインターネットへ繋げる環境にする。

(1)教員研究室の概要

教員研究室は、13名の専任教員に対して、学科長等の役職を持つ教員用の29.9㎡を3室と一般教員用の22.1㎡（1室のみパイプスペースの関係で19.4㎡）の10室の合計13室を整備している。

外から内部の状況が分かるように扉はガラス製としているが、各室に鍵を設置しているためセキュリティーは確保されている。鍵は各教員が管理するため、教員が不在の時に清掃等で部外者が立ち入ることはなく、事務局には万一の時のためにマスターキーがあるが厳重に管理されている。

研究室内には、教員の机、書棚、打ち合わせテーブルと椅子（一部の学科長等の役職を持つ教員室は応接セット）を設置する。学生は、教育上の指導やオフィスアワー等で気軽に教員研究室を訪ねることができるとともに､演習や研究の打ち合わせに使用することができる｡また、今後専任教員が増える場合には、演習室を教員研究室に振り替えることにより対応することが可能である。（資料 69 校舎４階及び教員研究室内部レイアウト図）

8-3 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学が掲げる教育目標、養成する人材像及び専門分野、教育課程などに照らして、観光分野の和書・洋書を含めて整備することとしており、その中には、瀬戸内を題材にした書籍も整備する予定であり、学生の探究心に充分に応える体制をとる。また、幅広い教養教育のために一般教養科目についても人文科学・社会科学・自然科学分野の図書を整備する。以上の観光専門分野、一般教養分野と、学術雑誌、データベース、視聴覚教材を含めた整備計画は次の内容で整備する。

1）観光専門分野　2,194 冊（和書 1,689 冊、洋書 505 冊）
2）一般教養分野　850 冊（社会科学 335 冊、自然科学 167 冊、人文科学 348 冊）
3）学術雑誌　38 種（国内雑誌 36 種、国外雑誌 2 種）
4）データベース　2 点
5）視聴覚教材　31 点

（資料 45 図書等購入計画）（資料 46 学術雑誌の購入計画一覧）

図書については、大きくは和書と洋書に分け、さらに和書は(1)一般図書と(2)専門図書に細分して整備する。なお、ここでの一般図書とは観光学および観光に直接関連しないと考えられる分野の図書のことを指し、専門図書とは広い意味で観光学および広く観光に関わると考えられる分野の図書のことである。(ただし、両者が重複する分野も多く厳密には二分できない場合がある。)各分野の図書選定基準は以下のとおりである。

なお、今回の選定基準は暫定的なものであり、開学後は、施設規模・研究内容および学生の学修内容に応じて柔軟に選定基準の見直しを行う予定である。

(1)和書・一般図書の選定基準

和書・一般図書に関しては、具体的には、人文分野、社会科学分野、自然科学分野の３分野に分け、哲学や宗教関係からコンピューター、プログラミング関係まで基本的な図書を幅広く選定する。整備に関して留意する事項は、学修・調査・研究に役立つ図書を収集することに努めるという点である。時代に即した新鮮な蔵書構成を配慮しつつ、各分野の図書を体系的に整備し、同時に各分野での学問の変遷に配慮しつつ評価の定まった代表的な研究書や古典の収集にも留意する。なお、各分野での個別の選定基準は以下のとおりである。

①情報・コンピューター関連の図書

技術の進歩が著しいため、現時点で最新の情報が収録されたものを整備する。また、一般的に使用されているソフトウエアについては、学生の利用に供するためにマニュアル本も整備する。さらに、近年の情報リテラシー教育の高まりから、コンピューターと社会の関わりに関する図書の整備にも配慮する。

②宗教・哲学の図書

特定の思想信条に関わることなく客観的に整備する。

③歴史・地理関係の図書

日本だけでなく世界全体あるいは主要国や主要地域の入門書・概説書を中心に整備し、さらにその分野で評価の高い研究書も整備する。

④社会科学関係の図書

特に経済や政治の分野は情勢の変化が激しいため、新しい情報が収録された図書を整備する。なお、政治的な対立がある事項に関しては、それぞれの観点に立った図書の整備に留意する。また、その分野で評価の高い研究書や評価の定まった古典的な図書も整備する。

⑤自然科学及び技術・工学関係の図書

研究の進展が著しく、しかも高度に細分化が進んでいるため、各分野の入門書・解説書を幅広く整備する。

⑥言語に関する図書

外国語学習のために、主要な言語の入門書や一般向けに書かれた図書を中心に整備する。また、会話のような実用書だけでなく、外国語学習の助けになるような言語の仕組みや歴史などの言語学の入門書や概説書の整備に努める。

⑦参考図書

近年はインターネット経由で一般的な参考図書を検索・閲覧することが多くなってきているが、できるだけ学内で各分野の基本事項の調査に対応できるように各分野の基本的な参考図書（統計・白書・事典・辞書・図録集など）を整備するように努める。

(2)和書・専門図書の選定基準

観光学は、歴史・文化をはじめ地域・交通・マネジメント等、隣接分野と広くかかわりがある。この点に留意しつつ、専門図書に関しては、学修・調査・研究に役立つように、観光学のみならず観光に関連する幅広い分野の専門図書を整備する。その際、本学の全学生が観光実務を身につけるための長期に渡る臨地実務実習を必修としていることから、実習の下調べおよび実習終了後の振り返り学修に役立つような図書の整備にも十分に配慮する。

なお、本学は香川県高松市に所在し、大学名にあるように瀬戸内に根差した教育機関である。そこで、香川県および瀬戸内に関する歴史や地誌、行政、自然科学、民俗などの調査・研究・学習に応えられるように専門図書の分野で網羅的に整備する。ただし、瀬戸内の市町村史・誌類に関しては、開学後に順次整備することとし、現時点では情報の整備に留めている。

(3)洋書・専門図書の選定基準

外国語図書に関しては、観光関連の学修・調査・研究に役立つ観光学関連の専門書を広く整備する。なお、専門書には当たらないが、Lonely Planet のガイドブックを包括的に整備する。これは、旅行ガイドブック自体を包括的な観光学の研究図書とするためである。

(4)雑誌の選定基準

観光学のみならず地理学や社会学など隣接分野の主要な学術雑誌を整備する。また、交通・運輸および観光関連の雑誌に関しては、学術雑誌のみならず柔軟に整備する。
なお、一般的な大学紀要については、現在では学術研究データベース・リポジトリで入手できるため、今回は整備しない。

図書館には、閲覧席 56 席（総定員 240 名の約 24%）を、主に窓側に向かって配置し、閲覧できる明るく開放的な空間とする。検索のためのパソコンや、個別学修できるブースタイプのキャレルデスク、複数の学生と一緒に話し合いながら書籍を閲覧することができるグループ閲覧室も配置し学生の研究・制作等に活用できる場とする。また、出入り口付近にカウンターを配置し、図書担当職員が常駐し、利用者からの様々な要望に対応できる体制を整える。図書の収納は、最大 14,640 冊を収容できるよう整備する。

９　入学者選抜の概要

9-1 学生受入れの方針　アドミッション・ポリシー

本学は、学生受入れの方針であるアドミッション・ポリシーを以下のとおり定める。

せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科　アドミッション・ポリシー

本学は、観光による交流が世界規模に拡大し、観光が 21 世紀の基幹産業となった時代に、観光振興専門職を目指して学修することを通じて、世界の動向を見渡しながら地域社会の発展に貢献する人材の育成を目的とする。そこで、本学は次のようなアドミッション・ポリシーを掲げ、本学で学ぶにふさわしい意欲・意志及び知識・能力を有する学生を受け入れる。

Ⅰ　入学者に求める意欲・意志

1　観光振興のエキスパートとしての技能を身に付け、世界の動向を見渡しながら、地域社会の持続可能な発展に貢献しようという意欲を持つ者

2　思考力、実践力、協働力の鍛錬という教育目標を理解し、自らのキャリアを形成しようという固い意志を持つ者

3　生涯に渡ってより充実した日常生活を送るための自己啓発の基礎を身に付けることに強い意欲を持ち、あらゆる状況で創造的に対応しようとする態度を有する者

Ⅱ　入学者に求める知識・能力

1　知識・技能

① これからの観光学の分野では、インバウンドへの対応が重要になってくる。このため、高等学校で習得すべき英語の基本的な知識と能力を身につけている学生を受け入れる。

② また、英語のみならず、日本文化を学び、世界とのかかわりの中で日本文化を広く紹介するための基礎となる国語及び日本史、世界史、地理のいずれかの科目を習得していること。

③ さらに、観光や美術、音楽、工芸技術等のいずれかの知識や技術を身につけていることが望ましい。

④ 専門高校卒業生においては、専門分野である観光や美術、音楽、工芸技術等に関する**いずれかの**知識や技術を身につけている**ことを重視し、評価するが、基礎学力として、国語及び日本史、世界史、地理のいずれかの科目を習得していることが必要である。**

⑤ 職業経験を有し、企業等に勤務していた社会人においては、当該職業経験から得られる知識及び技能も評価して受け入れる。

2　思考力・判断力・表現力等の能力

① みずから課題を発見し、みずから解決策を見出すことのできる基本的な思考力、判断力と問題解決能力

② 本学での学修や臨地実務実習等において、円滑に対応できる基本的な文章能力とコミュニケーション能力

3　主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

① 他者と協調しつつ、課題解決に向け効果的な議論ができる基本的な論理構成力

② みずからの意見を正確に、かつ有効に伝えることのできるプレゼンテーションの基本的能力

Ⅲ　入学者に求める知識・能力等の評価方法（以下の表のとおり）

入学試験区分	知識・能力 / 評価方法	1　知識・技能					2　思考力・判断力・表現力等		3　主体性を持って学ぶ態度		意欲・意志
		①	②	③	④	⑤	①	②	①	②	
一般選抜入学試験	調査書		◎	◎	◎						
	学科試験（英語）	◎									
	面接						◎	◎	◎	◎	◎
学校推薦型入学試験	調査書	◎	◎	◎	◎						
	小論文						◎	◎			◎
	面接						◎	◎	◎	◎	◎
総合型選抜入学試験	志望理由書						◎	◎			◎
	自己推薦書							◎		◎	
	活動実績書							◎		◎	
	調査書	◎	◎	◎	◎						
	小論文						◎	◎			◎
	面接						◎	◎	◎	◎	◎
社会人入学試験	志望理由書						◎	◎			◎
	職業経歴書					◎					
	成績証明書	◎	◎	◎	◎						
	小論文						◎	◎			◎
	面接						◎	◎	◎	◎	◎

9-2 入学試験の概要

本学は、アドミッション・ポリシー及び入学者選抜規程に従い、以下のとおり入学者選抜試験を実施する。学力の３要素を多様な入試で評価し、観光振興の専門家を養成するために必要な意欲・意志及び知識・能力を持つ学生を受け入れる。

観光振興学科		一般選抜 入学試験	総合型選抜 入学試験	学校推薦型選抜入試		社会人 入学試験
				指定校 推薦	公募 推薦	
入学定員	80 名	20	40	15	5	若干名

（各選抜方法の入学定員の考え方）

アドミッション・ポリシーに基づき、学力だけでなく、思考力・判断力・表現力等の能力や主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度及び観光振興専門職をめざす意欲や意志を多面的かつ総合的に評価して入学者選抜を行うこととしている。そのため、入学定員 80 名の 50%を多様な入学試験において入学させたいと考え、総合型選抜入学試験の定員を 40 名に設定した。残りの 40 名のうち、半分の 20 名を一般選抜入試とし、もう半分の 20 名を学校推薦型選抜入試に設定した。社会人入学試験については若干名とし、合計 80 名の定員の範囲内で調整する。

(1) 一般選抜入試

アドミッション・ポリシーに基づき、英語の学科試験を実施し、英語の能力を評価する。英語以外に必要な学科については、調査書により評価する。併せて面接では、「２ 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「３ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価し、総合的に合否を判定する。

具体の選抜方法は以下のとおりとする。

【一般選抜入学試験】

◎試験内容　学科試験「英語（択一式)」及び面接（日程は A 日程,B 日程,C 日程を予定。）

◎出願書類　「願書」「調査書」（高卒認定資格取得者は合格証と成績証明書）

◎配　点　学科試験「英語（択一式)」１００点、面接５０点、調査書５０点の２００点満点としその合計点により、合否を判定する。調査書については、アドミッション・ポリシーの「Ⅱ入学者に求める知識・能力の１知識・技能の①～④に該当する授業科目」に該当する教科の評定平均値を１０倍して、採点する。（高卒認定資格取得者の場合は、成績証明書により評定平均値を換算して採点する。）

◎選考方法　一般選抜入学試験の日程ごとに、得点上位者から順に配列した一覧表を作成し、教授会において総合的に判定し、合格ラインの案を策定する。最終的には、教授会の意見を聞いて学長が合格者を決定する。

(2) 総合型選抜入試

アドミッション・ポリシーに基づき、英語をはじめとする学力については学科試験を免除し、

調査書により評価するが、それ以外の重要な要素として、志望理由書による２―①、及び②の能力の評価、自己推薦書及び活動実績書による２―②、３―②の能力の評価、小論文による２―①、及び②の能力の評価、面接による「２ 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「３ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価を以て、合否を総合的に判定する。

具体の選抜方法は以下のとおりとする。

【総合選抜型入学試験】

◎試験方式　本入学試験は、以下の方式により行う。

方式１：本学教員の講義を受講のうえ、それに関する小論文を作成させ評価する方式

方式２：高等学校での活動や保有する成績、資格、特技等を評価する方式

◎出願資格

(1) 方式１については、通常の出願資格とする。

(2) 方式２については、通常の出願資格に加えて、以下の条件を満たすものとする。

下記の①～⑥のいずれかに該当し、その活動・成果などを自己推薦文、活動等を証明する書類及び面接で伝えることができる者

① 評定平均値が高く、学業成績が優秀な者

② 高等学校などの公認部活動団体に２年以上在籍して意欲的に取り組んだ者、または部活動以外で、文化、芸術、スポーツの分野で優れた成績を収めた者

③ 生徒会役員や各種学校行事の実行委員長等を努め、主体的かつ協働的に活動した特筆すべき実績を有する者

④ 観光、地域振興、文化振興、文化財の保存活用等の分野に興味があり、自主的な研究活動や継続的なボランティア活動に取り組んだ者

⑤ 実用英語検定試験準２級以上、「TOEIC L&R」400 点以上、および他の英語外部検定試験においてこれらと同等以上の成績と認められるスコアまたは資格を有している者。ただし 2019 年以後に取得したスコアまたは資格に限る。

⑥ 英語以外の検定試験、コンクール等において、特筆すべき成績や評価を収めた者

◎試験内容　小論文（方式１は講義の内容に関連する課題、方式２は自己の活動に関連する課題による）及び面接（方式１の日程はA日程,B日程,C日程を予定。）

◎出願書類　「願書」「自己推薦文」「活動等を証明する書類（方式２のみ）」

「調査書」（高卒認定資格取得者は合格証と成績証明書）

◎配　　点　出願資格(1)に該当する場合

自己推薦文 50 点、「調査書」（評定平均値を 10 倍する。）50 点、小論文 150 点、面接 50 点の 300 点満点とする。

出願資格(2)の①に該当する場合

自己推薦文 50 点、「調査書」（評定平均値を 20 倍する。）100 点、小論文 100

点、面接 50 点の 300 点満点とする。

出願資格(2)の①以外に該当する場合

自己推薦文 50 点、「活動を証明する書類」100 点、小論文 100 点、面接 50 点、（調査書は、採点の対象とはせず、総合判定の際に用いる。）の 300 点満点とする。

◎選考方法　総合型選抜入学試験の日程及び方式ごとに、得点上位者から順に配列した一覧表を作成し、教授会において総合的に判定し、合格ラインの案を策定する。最終的には、教授会の意見を聞いて学長が合格者を決定する。

(3) 学校推薦型選抜入試

① 指定校推薦

本学が指定する高等学校の現役生について、高等学校における調査書の評定平均値が 3.5 以上であり、本学を専願して、合格後には必ず入学することを確約できる者で、高等学校長等が推薦する者を対象とする。

学科試験を免除するが、アドミッション・ポリシーに基づき、小論文による２―①、及び②の能力の評価、面接による「２ 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「３ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価を以て、合否を総合的に判定する。**具体の選抜方法は以下のとおりとする。**

② 公募推薦

高等学校の現役生、及び高等学校卒業後 1 年以内の者で、高等学校の評定平均値が 3.7 以上であり、高等学校長が推薦する者を対象とする。

学科試験を免除するが、アドミッション・ポリシーに基づき、小論文による２―①、及び②の能力の評価、面接による「２ 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「３ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の評価を以て、合否を総合的に判定する。**具体の選抜方法は以下のとおりとする。**

【学校推薦型入学試験】

◎試験内容　小論文、面接

◎出願書類　「願書」「学校長の推薦書」「調査書」

◎配　　点　小論文 100 点、面接 100 点、調査書 50 点（評定平均値×10）の合計 250 点満点とする。

◎選考方法　学校推薦型入学試験の日程及び指定校・公募ごとに、得点上位者から順に配列した一覧表を作成し、教授会において総合的に判定し、合格ラインの案を策定する。最終的には、教授会の意見を聞いて学長が合格者を決定する。

9-3 選抜体制

入学試験については、専門職短期大学設置基準第３条及び大学入学者実施要項の規定に基づき、公正かつ妥当な方法により実施する。学科開設前は、学長の下に専任教員予定者等で構成する入試・広報委員会を設置し、その準備から実施、合否判定までを、公正かつ妥当な方法により行う。

9-4 社会人、留学生及び帰国生徒の受け入れ

(1)社会人の受入れと社会人の定義

① 社会人入学試験

本学が受け入れる社会人を「1 年以上の職業経験のある者で、学び直して観光振興専門職を目指す者であり、一般選抜と同様の大学入学資格を有して、入学年度の 4 月 1 日に満 22 歳以上である者」と定義し、社会人入学試験を実施する。職業経験については、出願書類として職業経歴書及び勤務先の在職証明書または勤務期間証明書を提出させて確認する。在職証明書または勤務期間証明書の提出が不可能な場合は、本人の申立書（本人の印及び家族、親類等の証明印を押印）を提出させる。

高等学校等在学時の成績証明書（卒業後５年以内の場合）でアドミッション・ポリシーに定める能力のうち１－①及び②、③を評価し、志望理由書で２－①及び②を評価し、職業経験やこれまでの職業経験で得た知識・技術（１－⑤）については職業経歴書で評価する。また、小論文により２－①及び②を評価する。さらに、面接により、「2 思考力・判断力・表現力等の能力」及び「3 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価し、総合的に合否を判定する。

具体の選抜方法は以下のとおりとする。

【社会人入試】

◎出願資格

本学の建学の精神とアドミッション･ポリシーを理解し､学び直して観光振興専門職をめざし､積極的に学修に取り組む意欲を有する者で、以下の(1)～(3)を満たす者

(1)2021 年 4 月 1 日現在で、満 22 歳以上である者

(2)1 年以上の職業経験のある者

(3)次の①～③のいずれかに該当する者

①高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者。または 2021 年 3 月卒業見込みの者

②通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者。または 2021 年 3 月修了見込みの者

③学校教育法施行規則第 150 条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者、または 2021 年 3 月 31 日までにこれに該当する見込みの者

◎試験内容 小論文、面接

◎出願書類 「願書」「自己推薦書」「職業経歴書」「勤務先の在職証明書または勤務期間証明書」

以下、該当する場合のみ。

「資格･検定試験等の成績を証明する書類」「高等学校等在学時の成績証明書(卒業後５年以内の場合のみ)」

◎配　　点　小論文 100 点、面接 100 点の 200 点満点とし、その他「資格・検定試験等の成績」等を考慮し総合的に合否を判定する。

◎選考方法　　社会人入学試験の得点上位者から順に配列した一覧表を作成し、教授会において総合的に判定し、合格ラインの案を策定する。最終的には、教授会の意見を聞いて学長が合格者を決定する。

(2)留学生及び帰国生徒の受け入れ

留学生の受け入れについては、入学定員に留学生枠を設けず、留学生特別入試等は行わないが、日本語による授業に対応することが十分に可能な日本語能力を有する留学生及び帰国生徒等を含む受験者の入学選抜は、高等学校卒業者と同一の選抜方式によって実施することにより行う計画である。その際の留学生受け入れ計画を下記のとおり設けるものとする。

（出願資格）

次の 1～3 のすべての条件を満たしている者

1.外国の国籍を有し、外国において日本の高等学校に相当する 12 年の教育課程を修了した者、および 2021 年 3 月修了見込みの者、またはそれと同等以上の資格を有すると本学が認めた者

※ 上記には、日本の教育制度に基づく中学校・高等学校の在籍期間が通算３年以内の者を含む。

2.「出入国管理および難民認定法」による「留学」の在留資格を取得できる者または、「留学」の在留資格を有し、更新できる者

3.次のいずれかに該当する者

(1)日本語能力試験 N2 合格以上または日本留学試験（日本語）200 点以上（記述問題の得点は含まない）で、就学に必要な日本語能力のある者

(2)本学において上記(1)と同等以上の学力があると認めた者

4. 経費支弁能力を別に定める書類等により証明できる者

※経費支払能力を証明する書類

本人が負担する場合：銀行の残高証明書、奨学金受給証明書など

海外から送金される場合：送金証明書、送金者の預金通帳の写し、本人との関係を証明する書類など

本人以外の国内居住者が支弁する場合：経費支弁者の在職証明書、所得証明書、本人との関係を証明する書類など

（受け入れ後の履修指導）

原則として、学生課において日本人学生と共に同様の履修指導を行うが、当該留学生の国籍や母国語等に応じて、外国語や異文化理解に精通した教員がサポートする体制を構築する。

（受け入れ後の生活指導等への配慮）

希望する留学生は、学校法人穴吹学園が所有する寮への入所が可能である。その他の生活指導やキャリア支援等については、原則として、学生課において日本人学生と共に同様の指導及び支援を行うが、当該留学生の国籍や母国語等に応じて、外国語や異文化理解に精通した教員

がサポートする体制を構築する。

（その他のサポート）

学校法人穴吹学園では、国際部留学生センターを設置し、既設の専門学校への留学生に対する各種サポートを行っているが、これらのノウハウも活用して留学生の円滑な修学及び生活支援に努める。

１０　取得可能な資格

本学の実務専任教員と就職予定先や臨地実務実習施設の事業者とが協議をした結果、観光振興専門職に求められる資格は、今のところ特に必要ないと判断された。そのために、本学の観光振興専門職の育成のための教育は、本学のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに基づく教育の履行に専念することとして、当面は、本学の教育課程には資格を取得するための科目を設置しない方針である。

１１　臨地実務実習の具体的計画

11-1 実習の目的と臨地実務実習施設

(1)　臨地実務実習の統一的な目的及び実施時期

臨地実務実習科目は、本学が養成する人材像「観光振興専門職」に必要な能力のうち、「観光実務の知識と技能」の修得（DP4）を目的として実施する。また、臨地実務実習は、カリキュラム・ポリシーに定める科目構成のうち、CP4「職業専門科目群（実務）」の③臨地実務実習科目群に、「臨地実務実習Ⅰ」（必修）と進路別に実施する「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」及び「臨地実務実習Ⅲ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」を配置する。それぞれの臨地実務実習の概要は以下のとおりである。

「臨地実務実習Ⅰ」

配当年次：１年次第３クォーターの後半

期　　間：３週間

実施方法：香川県内に設定する各エリアのなかから１エリアを選定し、エリア内の観光産業及び観光による地方創生事業から１社を選択して実施する。

実施目的：〇香川県内の観光振興及び地域振興の現状をエリアとして捉え、理解する。

〇香川県内の“観光振興×地域振興”が実践される現実を体得する。

〇観光実務の基礎スキルを修得する。

〇香川県内の観光産業や地域再生事業等をエリアとして捉え、観光振興、観光による地域創生の観点から観光事業をどのように、企画・立案・運営していくべきかを考察し、修得する。

「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」

配当年次：２年次第２クォーター

期　　間：６週間
実施方法：観光産業及び観光による地域創生事業のうち、進路に応じて１社を選択して実施する。
実施目的：〇実務にかかわる基礎的な知識や技能（基礎的実務＝覚えて行動する実務）を体得する。
〇観光支援事業体が実践する “観光振興×地域振興活動”や “地域連携活動”の実態を学修する。
クラスごとの授業の特性：
〇航空クラス「国内線航空事業実務」〇鉄道クラス「地方民営鉄道事業実務」
〇宿泊クラス「宿泊事業実務（基礎)」〇観光地域創生クラス「地域創生事業実務（基礎)」

「臨地実務実習Ⅲ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス)」
配当年次：２年次第４クォーター
期　　間：６週間
実施方法：観光産業及び観光による地域創生事業のうち、進路に応じて１社を選択して実施する。
実施目的：〇実務にかかわる、より高度な知識や技能（応用的実務＝考えて行動する実務・計画して実践する実務）を体得する。
〇インバウンド観光の現場の状況を学修する。
〇観光産業及び観光による地域創生事業の各事業体が実践する“観光振興×地域振興活動”や“地域連携活動”の実態を学修する。
クラスごとの授業の特性：
〇航空クラス「国際線航空事業実務」〇鉄道クラス「広域連携鉄道事業実務」
〇宿泊クラス「宿泊事業実務（応用・マネジメント)」
〇観光地域創生クラス「地域創生事業実務（応用・マネジメント)」

なお、基本的には、「臨地実務実習Ⅱ」は観光実務の基礎を、「臨地実務実習Ⅲ」は観光実務の応用とマネジメントを、実習を通して学修する科目であるが、クラスごとの授業の特性に応じて、「臨地実務実習Ⅱ」では、航空クラスは「国内線航空事業実務」、鉄道クラスは「地方民営鉄道事業実務」、宿泊クラスは「宿泊事業実務（基礎)」、観光地域創生クラスは「地域創生事業実務（基礎)」について学修し、「臨地実務実習Ⅲ」では、航空クラスは「国際線航空事業実務」、鉄道クラスは「広域連携鉄道事業実務」、宿泊クラスは「宿泊事業実務（応用・マネジメント)」、観光地域創生クラスは「地域創生事業実務（応用・マネジメント)」について学修する。

このため、学生は原則として同じクラスを選択すべきと考えるが、その基礎となる観光理論やホスピタリティマネジメントについては共通する部分があり、また臨地実務実習の前後には、事前・事後学修科目を配置して学習効果を高める工夫をしていることにより、学生の進路変更や将来的な産業構造の変化への対応力を育成する観点から、クラス変更も可能な体制を構築する。具

体的には、航空クラスにおいては、実習で体得すべき業務内容が複雑多岐に渡るため、Ⅱ、Ⅲとも航空クラスを選択することが望ましいが、鉄道クラス、宿泊クラス、地域創生クラスにおいては、相互にⅡとⅢでクラスを変更することも可能とする。このことについては、学生の理解を図るため、入学時の履修ガイダンスや個人面接等において、その趣旨を徹底する。

以上のように、それぞれに目的を持った臨地実務実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲという 3 つの実習を適切な時期に適切な間隔で繰り返すことにより、基礎から応用へ、応用からマネジメントへと徐々にその内容を高度化していくことを目的としている。１年次第３クォーターの前半では「観光支援ビジネス実務基礎論」を履修した後、第３クォーターの後半に「臨地実務実習Ⅰ」を履修し、１年次第４クォーターでは「観光支援ビジネス実務発展論」を履修することにより、臨地実務実習の教育効果を高める。

２年次の第１クォーターにおいて、「観光実務基礎論」を履修した後、第２クォーターにおいて「臨地実務実習Ⅱ」を履修し、その事後学修として第３クォーターに「観光実務発展論」を履修する。この３科目が三位一体の効果を発揮することにより、学生の観光振興専門職としての資質や能力を一層高めることを目的としている。

また、２年次の第３クォーターに「観光実務応用論」を履修し、第４クォーターで「臨地実務実習Ⅲ」を履修し、その事後学修として３年次第１クォーターに「観光実務マネジメント論」を履修する。このように、事前学修→臨地実務実習→事後学修のセットを３回繰り返す教育により、学生には未知なる課題に挑み、絶対に解決するという勇気が生まれ、生涯の自信となるものと思われる。**（資料 47 臨地実務実習関係科目カリキュラムマップ）**

さらに、臨地実務実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが実施されるクォーターの前後のクォーターには、CP3 職業専門科目（学術）科目群の②観光基礎理論科目である「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」「観光行動論」「観光政策論」、及び④観光応用理論科目である「観光国際論」「観光文化施設論」「観光メディア論」などを配置し、観光の理論と観光実務を有機的に連携させることも狙いとしている。**（資料 40 せとうち観光専門職短期大学観光振興学科クラス別科目配当・履修順序表）**

臨地実務実習により、CP2「基礎科目群（思考法）」や CP3「職業専門科目（学術）」で培った「思考力」を土台として「実践力」と「協働力」が養成されることとなるが、「実践力」の育成は、人間形成訓練として、「観光振興専門職」が現場で求められる「技能訓練」だけでなく、服装、挨拶、視線や声の調子等といった「態度訓練」、そして「観光振興専門職」の内面に求められる、自尊心、自信 、価値観、状況判断、意思決定、レジリエンス（ストレス管理等）、目標設定等々といった「心理訓練」等を総合的に実施する。また、「協働力」は、実習中に学生が様々な状況・環境に身をおき、接遇や与えられた課題の解決において、チームで取り組み、個人で多様な立場にある人とのコミュニケーションを図ることによって涵養する。

⑵「臨地実務実習Ⅰ」の目的

観光学及び観光事業の基本知識やコミュニケーション能力等を事前に学修した後に、瀬戸内の観光の最前線における現場で実習を行い、今後のグローバルな時代に求められる地域社会の中核的な観光人材の役割を主体的に学び、考える態度を身に付け、同時に実践力を養う。特に、今後

の地方の観光業界においては、地域資源の活用や観光のブランディング化を担う自治体、DMO 等が起点となって、地域内外を結ぶ航空・鉄道やホテル、観光施設、地域の食文化や様々な産業を支える伝統産業を関連付けた観光事業や地域創生事業を行い、「観光地域づくり」を推進する必要がある。ツーリストは観光地において、複数の観光事業者が提供する複数のサービスを享受しながら観光実践を重ねている。このため、ある観光地の観光現象や状況を的確にとらえようとするとき、個々の観光資源や、個々の観光事業者ならびに観光支援事業者の実践を学修することは言うまでもなく重要であるが、加えて、エリアを俯瞰し、個々の観光資源や観光（支援）事業の関連性や連続性、ツーリストの流動や滞留を把握することが求められる。

そこで、「臨地実務実習Ⅰ」は、実習施設における業務やマネジメントを学修することはもちろん、実習施設を５つの「エリア」（①東讃・高松、②中讃、③西讃、④小豆島、⑤直島）に区分し、本実習を事前学修（観光支援ビジネス実務基礎論）ならびに事後学修（観光支援ビジネス実務発展論）と有機的に結びつけることで、実習エリア、香川、ひいては瀬戸内における観光を面的に捉え、総合的に瀬戸内の観光の現状と課題を確認する。地域振興のための創造力を磨き、地域の人々と共に活動することによって、広い視野で地域の活性化に貢献できる実践力を修得することを目的とする。「臨地実務実習Ⅰ」の実習施設の概要（特色）及び教育上の効果は以下のとおりである。**（資料 48 臨地実務実習Ⅰクラス編成一覧）（資料 49　臨地実務実習施設一覧）**

〈「臨地実務実習Ⅰ」の実習施設の概要（特色）と教育上の効果〉

①高松・東讃

○石丸製麺株式会社

【概要（特色）】

明治 37 年創業、110 年以上にわたり讃岐が誇る“麺”を作り続けてきた老舗「石丸製麺」。自然豊かな環境のなかに突如現れる巨大なスケールの工場には、生地作りから箱詰めまで讃岐うどんが製品化する製造工程を見学できるコースが用意されている。讃岐うどんの製麺の歴史や讃岐の麺に関わる情報を展示したギャラリーも併設されており、郷土の伝統的な製麺技術を学び、発信する観光産業の施設として県内外からの学生を中心に非常に人気が高い。

【教育上の効果】

高松空港から近く、近年では台湾や香港を中心にインバウンド団体顧客も多く受け入れているため、地域資源の活用や食と農をインバウンドに取り込むという先駆的な取り組みの事例を学びながら文化施設としてのギャラリーの管理・運営についても学修することができる。

○かがわ物産館　栗林庵

【概要（特色）】

栗林公園は国の特別名勝に指定された江戸初期の回遊式大名庭園。東京ドーム 3.5 個分の広さは大名庭園の中でも最大級の広さを誇り、2009 年「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」にて、“わざわざ旅行する価値がある場所”を意味する最高評価の三ツ星を獲得した。その東門横にある「かがわ物産館 栗林庵」は郷土の定番商品から隠れた逸品までを備え、国内外の観光客が栗林公園を訪れた際には必ず訪問する施設であり、郷土の魅力を再発見して

もらうために重要な機能を備えた店舗である。

【教育上の効果】

日々、多くの顧客に郷土の土産品（伝統産業や食）を案内・提供する中で、特に外国人観光客に求められる地域の魅力を発見し、創出する方法論や新規の商品開発やコラボレーションの方法論を実践で学び、自ら考え、行動できる能力を身に付けることができる。

○クアパーク津田

【概要（特色）】

クアパーク津田は、さぬき市所有の国民宿舎として 1996 年に開業した。当該施設が位置する津田の松原には、七福神松とも呼ばれる樹齢六百年の老松をはじめ約３千本の松が約１キロメートルにわたって立ち並び、日本の渚百選にも選ばれた白砂青松の景勝地として多くの観光客が訪れている。また、事業推進部では、地域連携・地域振興に積極的に取り組んでおり、地域観光の拠点となっている施設である。

【教育上の効果】

香川県東部地域における代表的な観光地である津田の松原に位置する当該施設が中心となり、他の観光施設や地域住民、行政と連携し、東讃エリアの観光振興を図る取り組みが行われているため、その理念や実践方法を学ぶことができる。

○スカイファーム

【概要（特色）】

スカイファームは高松市飯田町に在る地域の食文化の魅力を国内外に発信している観光いちご農園である。訪日観光客が日本で体験したい観光として上位人気である“果物狩り”の体験施設としてだけでなく、「食育活動」にも積極的に取り組んでおり、地域の子供達が身近で学べる香川県を代表する農業体験施設の役割も持つ。地元の農家による田植え体験や稲刈り体験、洋菓子店とのタイアップによるスイーツ教室、市場のセリの見学等、その観光内容は多彩である。

【教育上の効果】

農業を基本として、観光による事業拡大やイノベーションの実践を学ぶことができ、また、地元大学や各国からの実習生も常時受け入れているため、地域の若い農業経営者や同世代の学生と幅広い意見交換等を行うことで観光振興に対する見識を深めることができる。

○セカンドステージ

【概要（特色）】

香川県高松市の奥座敷塩江温泉郷にあるホテルセカンドステージでは、豊かな自然の中で、讃岐うどん打ち体験や竹細工づくり、里山ならではの「あめごのつかみ取り体験」「地元漁師から学ぶいのしし丸焼き体験」など、地域住民と連携した数々の体験コンテンツを企画し、それを海外の旅行エージェントに直接販売している。同施設は香川県内有数のインバウンドに対して非常に積極的な宿であり、台湾や韓国からの旅行者を中心とした団体ツアー受け入れを行っている。また、日本各地のスポーツ少年団・修学旅行の合宿なども受け入れており、

外国人や子ども達が様々な体験をすることができる塩江温泉郷の中心的施設となっている。

【教育上の効果】

地域住民との連携による様々な体験コンテンツが実施されていることから、これらコンテンツの運営実務を経験することでインバウンド観光客への対応やホスピタリティの技能修得が期待できる。また、新しい体験コンテンツの企画開発に参画することで、地域の魅力を発見・創出する方法や、商品の開発、商品化のプロセスなどを、実践を通じて学ぶことができる。さらに、アジアからの学生インターンも常時受入れていることから、異なる文化背景を持つ同世代と協働するなかで、国際感覚を身に付けることもできる。

○瀬戸内こえびネットワーク

【概要（特色）】

瀬戸内こえびネットワークは、瀬戸内地域の一大イベントである「瀬戸内国際芸術祭」を支えるボランティアサポーター「こえび隊」の運営を中心に活動する事業者である。3 年に一度開催される瀬戸内国際芸術祭では、国内外から 100 万人を超える人々が瀬戸内の島々を訪れ、様々なアート作品や地元住民との交流を楽しんでいる。この芸術祭の現場での運営（作品制作補助、作品受付、港での誘導等）は、ボランティア（こえび）が担っており、これを取りまとめているのがこえびネットワークスタッフである。同ネットワークのスタッフは、会期外も「ART SETOUCHI」と題し、島々でおこなわれる様々なイベントの運営に従事したり、島の祭礼に参加するなどし、常に地元住民と関わりを持って活動している。

【教育上の効果】

国内外からの来訪者を迎える同芸術祭の作品制作補助や、芸術祭の PR 活動、芸術祭期間中の運営、各島での催しの補助などを行うこえび隊の活動に携わることで、地域におけるイベントで事業者が担う役割を学ぶことができるほか、地域外の人々からみた地域（資源）の魅力を理解することができる。また、地元住民との交流事業や、ガイド事業、他地域とのネットワーク構築事業などの実務を通し、地域と密着したアートによる地域振興の理念と方法論学修することができる。

○高松空港株式会社

【概要（特色）】

高松市の中心部から南へ約 15km の香南台地に、1989 年に開港した香川県の空の玄関口である。国管理空港では仙台に次ぐ第 2 号として、2018 年 4 月に民営化され、高松空港株式会社が滑走路やターミナルビル、貨物ビル、駐車場などを運営している。民営化に伴い、新千歳・成田・福岡空港等への新規就航・増便による LCC 拠点化や、東南アジアへの直行便の新規就航など航空ネットワークを拡大し、2022 年度には利用者数 260 万人、2032 年度には利用者数 307 万人を目指している。

【教育上の効果】

同社は高松空港を起点とした地域の魅力向上に取り組んでおり、地域と空港が共同で観光コンテンツの充実を図る取り組みを通じて、地域との連携について実践的に学修することができる。また「四国瀬戸内 No.1 の国際空港」を目標に複数の LCC の拠点化やターミナルビル

の拡張、交通アクセスの改善など積極的な事業展開を行っていることから、高松空港を起点とした新規事業や企画に関する実践方法やその理論を身に付けることができる。

○高松市美術館

【概要（特色）】

高松市美術館は、美術に関する市民の知識及び教養の向上と市民文化の発展に寄与するため、市街地中心部に位置する都市型美術館として昭和 63 年 8 月に開館した。高松市民のみならず、県内における優れた美術鑑賞の場として、また、美術作品の特集や美術に関する情報の提供を行い、市民の様々な文化芸術活動の場として利用され、地域における文化芸術の振興に大きな役割を担っている。

【教育上の効果】

中心商店街に近接した都市型美術館という立地条件を生かした地域との連携の強化により、にぎわいや交流の創出など、まちづくりと一体となった取り組みを推進しており、地域振興のための創造力を磨きながら、広い視野で地域の活性化に貢献できる実践力を修得することができる。

○高松丸亀町商店街振興組合

【概要（特色）】

高松市内の中心商店街である高松丸亀町商店街では、観光振興に伴う大規模な商店街再開発が行われている。その商店街活性化によって、活気溢れる商店街が実現し、それが観光対象となり、高松の観光振興全体に大きく寄与している。

【教育上の効果】

観光による地域創生事業を行う上で、多くの地域が抱える諸問題を理解し、それらの問題をどのように解決するかといった、地域再生の課題解決方法とそうした取り組みが地域にもたらす影響について、高松丸亀町商店街振興組合の成功事例を踏まえて、知識を深めることができる。

○史跡高松城跡　玉藻公園

【概要（特色）】

玉藻公園は国の指定史跡である。讃岐国領主・生駒家、高松藩主・松平家の居城であった高松城跡を整備した公園で、瀬戸内海の海水を堀に引き込んだ城は日本三大水城として知られ、園内には国の重要文化財に指定されている艮櫓、月見櫓、水手御門、渡櫓、披雲閣のほか、国の名勝に指定されている披雲閣の庭園がある。春は桜見物や植木市、秋は菊花展など多彩な催しも開催されており、地域住民の集う場となっている。また、高松城天守閣の復元に向けて積極的な活動を進めており、香川県の歴史と文化を伝える重要な施設である。

【教育上の効果】

JR 高松駅や高松港から近く、高松市の中心部に位置していることから、国内外からの多様な来訪者への対応を、実践的に学ぶことができる。城舟体験、堀にいる鯛の餌やり体験や案内ガイドなど、日々の観光施設としての実務を学ぶことはもちろん、高松城天守閣復元活動を通じて、地域における文化観光資源の保存と活用の両立を学修することができる。

○日本ドルフィンセンター

【概要（特色）】

日本ドルフィンセンターは、瀬戸内の海に設置されているイルカプールでイルカに触れ合うことができる観光レジャー施設である。自然の中で楽しむことができる「レクリエーションステージ」、ドルフィンセラピーとして支援を行う「セラピーステージ」、イルカを取り巻く環境を通して環境教育への啓蒙を行う「エデュケーションステージ」をテーマに活動を行っている。イルカとのふれあいを通して、幅広い世代が自然の中で楽しむことができる施設である。

【教育上の効果】

さまざまな体験型プログラムの実務に携わることで、非日常の体験・経験を提供する事業種の取り組みや、その方法論を学ぶことができる。また地域の観光振興において、レジャー施設が担う役割について、実践的に学ぶことができる。

○道の駅源平の里むれ

【概要（特色）】

源平の里むれは、高松市の東部・牟礼町に位置する道の駅である。源平合戦屋島古戦場として有名な場所であり、施設内の公園からは瀬戸内海を望むことができる。香川県や四国各地のさまざまな特産品を販売する特産品販売施設のほかに、地元の農家で採れた野菜・果物を販売する「源平やさい市」や、瀬戸内海で獲れた旬の味覚を味わえる「海鮮食堂じゃこや」があり、県内外から多くの人々が訪れている。さらに、この施設は地域の子どもたちの学修やその成果の発信の場としても積極的に利用されている。

【教育上の効果】

取り扱う商品の揃え方といった販売所の管理・運営やマーケティング、顧客への接客といった道の駅における基本的な実務を学ぶことができる。また、さまざまな企画を通じて、地域に根差した観光施設の在り方や、企画の立案、実行・運営を行う実践的な方法論を学修することができる。

○道の駅香南楽湯

【概要（特色）】

香南楽湯は、高松市南部の香南町に位置する天然温泉が付随した道の駅である。高松市の東西を横切る県道 13 号線に接し、高松空港へも車で 5 分という立地であり、地元の住民や観光客、空港利用者といった多くの人々が利用している。町内でとれた食材を活用したレストランや、土産物を販売するショップ、野菜や花などを販売する地域交流施設などがある。

【教育上の効果】

高松空港からも近く、さまざまな利用客を接客することから、地域に根差した観光関連施設の実務や、そのあり方について学修することができる。また、温泉施設が付随していることから、通常の道の駅で行う売店やレストランの運営に加えて、温泉施設でのフロント業務についても経験することができ、多様な職業観・勤労観を得ることができる。

○道の駅しおのえ

【概要（特色）】

道の駅しおのえは、温泉郷として賑わう塩江温泉郷の中央に位置する。地元の農産物を中心とした特産品を販売しており、日曜日には「日曜朝市」が開催され、多くの人で賑わう。農産物は地元の生産者から直に仕入れを行っており、地域に根差した道の駅である。塩江温泉郷の観光客数は、近年増加傾向にあり、道の駅の来場者数も平成 15 年から 14～15 万人と横ばいで推移している（平成 28 年）。塩江温泉郷観光活性化基本構想（平成 29 年）では、さらなる観光客誘致のため、温泉宿のブランディング化やイベントの企画、ご当地産品の開発といった具体的な施策を提示している。

【教育上の効果】

日々、多くの顧客に土産物を案内・提供するなかで、道の駅に必要である基本的な実務やホスピタリティだけではなく、地域において道の駅が担っている役割について学ぶことができる。また、地域ブランディングの方策（例：必要な商品の選択や販売の方法、地域内に複数存在する他施設や組織との連携）と地域活性化に必要な取り組みについて学修することができる。

○栗林公園観光事務所

【概要（特色）】

栗林公園は国の特別名勝に指定された江戸初期の回遊式大名庭園。東京ドーム 3.5 個分の広さは大名庭園の中でも最大級の広さを誇り、2009 年「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」にて、“わざわざ旅行する価値がある場所”を意味する最高評価の三ツ星を獲得した。本邦内外からの多様な来客にその歴史と文化を的確に伝えられるよう、日々研鑽を積む観光案内所は香川県の顔である。

【教育上の効果】

多言語音声ガイド、観光ボランティアガイドの管理、バリアフリー対応、手ぶら観光の推進等、訪日外国人の受入れ体制の整備状況及び関係者との連携方法等を、現場の指導者と共に実践的に学ぶことができ、顧客の多様性やスタッフシフト管理やマネジメントのノウハウを身に付けることができる。

②中讃

○琴参閣

【概要（特色）】

琴参閣は、「こんぴら温泉郷」を形成している旅館のひとつであり、四国最大級の規模を誇る。中讃エリアのなかでも、金刀比羅宮の門前町としての性格を持つ琴平町においては、このような旅館が観光地の中心的な役割を担っている。そのなかで、琴参閣は地元地域と連携して、地域の祭りやイベントと宿泊客を結びつける取り組みを行っている。また、金刀比羅宮の参詣客だけではなく、周辺地域（祖谷（徳島）、父母ヶ浜（三豊市）、観音寺市内等）への日帰り観光の拠点としても有効に機能している。

【教育上の効果】

老舗の大規模な旅館であるため、旅館における基本的な実務や、さまざまな宿泊客に対応

できるホスピタリティについて学修することができる。また、これまで地域に根差して営業してきたノウハウ、地域との連携において旅館の果たす役割や、その実践方法についても学ぶことができる。

○琴平バス（Kotori）

【概要（特色）】

琴平バス（通称：コトバス）は創業 60 余年のグループ企業で、貸切バス事業の展開をしており、子会社として新日本ツーリスト、四国巡拝センター、大庄屋を有している。本学実習生の受け入れ先はこのうち、琴平バス営業所（高松市）ならびに外国人観光客向け観光案内所 Kotori（ことり）（香川県琴平町）である。同営業所ではバスの管理や貸切バスによるバスツアー、団体バス旅行の企画運営業務を、同案内所では、金毘羅宮とその周辺の観光案内業務やガイドツアーのほか、近隣日帰りツアーバス（祖谷、父母ヶ浜等）やうどん検定合格の運転手が英語・日本語でガイドをするうどん屋めぐりのための UdonTaxi（うどんタクシー）の運行、レンタサイクルの貸し出しなどを行っている。

【教育上の効果】

移動手段のひとつであるバスを活用した、地域資源を最大限に生かした観光商品造成、販売、インバウンド観光客向けの商品提供に関わる業務に従事することから、実習を通じて、観光の複合的要素を視野に入れた観光事業の展開の必要性と、そのために観光振興専門職に必要な能力を理解し、修得することができる。

○讃岐まんのう公園

【概要（特色）】

讃岐まんのう公園は、350ha の面積を有する四国で唯一の国営公園であり、2013 年に開園した。国内最大級の農業用ため池である満濃池を望む丘陸地にあり、周辺には豊かな自然がある。広大な敷地内には、芝生広場、サイクリングコース、大型遊具広場、キャンプ場、ドッグラン、自然生態園、飲食・売店等の多くの施設があり、幅広い世代が四季を通じて多様なレクリエーション活動を行うことができる場となっている。

【教育上の効果】

讃岐まんのう公園では、広域で多様なレクリエーションの拠点として様々なイベントを行っており、その活動に携わることで、イベントの企画・運営といった実務を学修することができる。また、地域振興の拠点となる地域に密着した活動を行っているため、地域に根差した観光施設のあり方について学ぶことができる。

○敷島館

【概要（特色）】

敷島館は、国の登録有形文化財に指定されていた施設を 2019 年に共立リゾートがリノベーションした金刀比羅宮の表参道に位置する旅館である。リノベーションにあたっては旧敷島館の古材を用い、老舗旅館の雰囲気を残しつつも、時代に即した設備やサービスを兼ね備えている。共立リゾートは、全国に 31 棟のリゾートホテル・旅館を有しており、敷島館の経営が 32 棟目となる。古くから琴平町で営業している旅館と差別化をはかり、新たな客層を取り

込もうという試みを行っている。

【教育上の効果】

基本的な宿泊業の実務に加えて、1 週間に 1 度の実習担当者による講話を通じて、さまざまな地域で宿泊業を成功させてきた実績とその方法論について学ぶことができる。また、既存の観光地に新たな観光客を呼びこむ際の実践的な方法や、地域活性化を図る際に旅館の果たす役割についても学修することができる。

○中野屋

【概要（特色）】

中野屋グループは、金刀比羅宮やこんぴら温泉郷など多くの名所で知られる日本有数の伝統的な観光地・琴平町において、郷土産品販売、ドライブイン、うどん店「てんてこ舞」、道の駅などを運営し、2014 年に創業 100 年を迎えた老舗の観光事業者である。当事業者は、「見る観光から体験する観光へ」の標語をかかげ、讃岐うどんづくりを実体験する「中野うどん学校」を近年に刷新し、多くの集客交流に成功した。その活動と実績は、国内外のメディアに紹介されている。伝統的な観光地で革新的な観光ビジネスを展開しながら、観光振興の地域連携にも取り組む、今や琴平町の観光施設の「顔」のひとつと言っても過言ではない施設経営をする企業である。

【教育上の効果】

体験型観光コンテンツの企画・運営を実践的に学修でき、その体験型観光コンテンツを提供する現場では、国内観光客だけでなく、インバウンド観光客の接遇も体験して、ホスピタリティ業務の実状を理解しながら、ホスピタリティマネジメントの実践を修得できる。さらに、事業理念や経営方針を学ぶことで、観光振興の地域連携についても理解できる。

○にしきや

【概要（特色）】

にしきやは、金刀比羅宮近くに位置するドライブインである。特産品であるしょうゆ豆の製造販売、土産物の販売、レストランの運営に加え、和三盆作りの体験教室を運営している。この教室には、国内外から多くの観光客が訪れており、琴平町におけるインバウンド観光促進の一翼を担っている。また、観光協会との人事交流も行っている。観光協会では、地域の観光施設・情報の案内・発信、土産物・特産品の販売、宿の紹介、レンタサイクルの貸し出しを行っており、琴平町の観光振興に大きく寄与している。

【教育上の効果】

にしきやにおいては、観光関連施設における接客・販売といった基本的な実務に加えて、体験型観光の運営、インバウンド観光客への対応といった応用的な実務や、それに関連するホスピタリティを学ぶことができる。また、観光協会における実習も可能であることから、地域の観光振興を総合的に捉える力を養うこともできる。

○丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

【概要（特色）】

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館は、全国でも類を見ない「駅前美術館」として、丸亀市ゆか

りの画家である猪熊弦一郎の全面的な協力のもと 1991 年に開館した。猪熊弦一郎本人より寄贈された約 2 万点に及ぶ作品を所蔵し常設展示を行っているほか、現代美術を中心として年数回特別展示を開催している。令和 2 年 4 月にリニューアルオープンが予定されている。

【教育上の効果】

各種イベントの運営に携わることで、イベントの企画・運営の方法やその理論を学ぶことができる。また、地域の観光振興を考えるうえで、文化施設の果たす役割について、実務を通じて学修することができる。

○丸亀市観光協会

【概要（特色）】

丸亀市観光協会は、香川県丸亀市を訪れる人々に対する情報の提供を推進することで、来訪者の要望に応じたサービスの向上等を図り、快適で魅力ある観光地域づくりに寄与することを目的として、2017 年 7 月 3 日に設立された。平成 30 年度の会員数は 229 社であり、年々増加している。観光イベント等の開催や観光情報発信、観光資源開発、滞在型観光誘致促進等の活動に加え、重点事業として、丸亀版 DMO 推進事業、インバウンド対策事業、丸亀夜型観光推進事業等に注力し、丸亀市の観光振興に総合的に取り組んでいる。

【教育上の効果】

中讃エリアの中心都市である丸亀市には、丸亀城、テーマパーク、美術館、うどん、うちわ等の特色ある観光資源が多く存在するため、地域の資源をいかに活用・情報発信するかといった観光協会の実務を学ぶことができる。また、JR 丸亀駅と丸亀城内に観光案内書を設置しており、インバウンドにも対応した観光案内・ガイドなどの実践方法や、各種イベントの企画運営にも携わり、その方法論を学修することができる。

○レオマリゾート（株式会社レオマユニティー）

【概要（特色）】

レオマリゾートは、1991 年に開園したテーマパークであり、遊園地、レストラン、売店、ホテルの運営を行っている。中四国最大規模の規模を誇り、県内外から多くの人々が訪れる。遊園地であるニューレオマワールドでは、22 種類のライドアトラクションやグルメ、ショッピングを楽しむことができ、年間を通して様々なイベントも開催されている。

【教育上の効果】

遊園地、料飲・物販、ホテル等の総合的な観光レジャー施設としての様々な実務や、それに関わる方法論に加えて、多様な顧客に対応するためのホスピタリティを学ぶことができる。また、イベントの企画や運営等にも携わり、そのノウハウを学ぶことができる。さらに、実習を通じて、レジャー施設が地域の観光振興において担う役割についても理解する。

③西讃

○東邦レオ（父母ヶ浜）

【概要（特色）】

ハード・ソフト両面のグリーン・インフラ整備による居心地のよいまちづくりの実現を目指す関西に拠点を置く企業である。この企業は 2018 年に、香川県三豊市仁尾出身で同地で複

数の事業を展開する若手起業家と、三豊市地域商社「瀬戸内うどんカンパニー株式会社」代表と協働で「父母ヶ浜を受け継ぐ会」を組織し、三豊市父母ヶ浜海水浴場施設指定管理者に応募し選定され、2019 年 4 月より同施設に管理運営に携わっている（7 年契約)。同施設のある父母ヶ浜は 2017 年ごろより、「ウユニ塩湖」のような写真が撮れるインスタ映えスポットとして観光地化し、通年で数十万人に上る観光客が訪れる場所となったことから、ハード・ソフト両面の環境整備が観光者・地元住民から求められている。東邦レオはそれに応えるべく、自社の技術やネットワークを活かし、また、三豊市内の関係各所との連携を図りながら、同施設の整備と運営、イベント企画等を展開している。

【教育上の効果】

同社や「父母ヶ浜を受け継ぐ会」は、ここ数年で観光地化したこの地にリピーターが増え、かつ、地域に経済的な利益をもたらす仕組みを整備しようとしている。また、施設を運営しながら、その充実にも取り組んでいる。実習生は、発展過程にあり、異なる立場の事業者が共同運営する当該施設において運営業務に従事することで、新たな観光事業創出に必要なマネジメント能力を修得し、地域内ネットワークの必要性を理解することができる。

○株式会社 Draworth

【概要（特色)】

三豊市に拠点を置く、地元の宿泊・食・ツアーを提供する地域商社（DMC：Destination Management Company）である。同商社の設立は、同社代表取締役が 2015 年に会長に就任した、三豊市観光基本計画策定実行団体である「みとよ 100 年観光会議」の発展的解消が契機となっていて、同氏が複数の宿泊施設経営を、同会議の副会長だった社員が地域食アテンダントとして調理も含む地域食の提供を、そして、移住者で元自然保護官でエコツアーガイドでもあるもう一人の社員がツアー企画とアテンダントを担当している。同商社が運営するゲストハウスのいくつかは、Airbnb でも非常に稼働率が高く、欧米からの来訪者の利用も多い。地域資源を活かした新たなかたちの観光事業に取り組んでいる。

【教育上の効果】

同商社は、小規模の強みを生かし、来訪者が地域資源を満喫することができる商品を販売している。同商社代表取締役はじめ社員の業務補助をすることで、起業と個人事業主に必要となる技能や能力、ブランディングやマーケティング戦略、地域資源の活かし方について実践的に学修することができる。

○三豊市観光交流局

【概要（特色)】

2017 年 4 月に同市内の観光協会と国際交流協会が統合して新設された、観光事業の発展・振興を図り、地域経済の活性化・地域資源の開発と住民の交流に資することを目的に掲げた団体である。2017 年、ありふれた海水浴場であった三豊市仁尾にある父母ヶ浜（ちちぶがはま）を「日本のウユニ塩湖」と銘打ち、さまざまな仕掛けや仕組みを整備して、インスタ映えスポットとして、時の観光地に仕立て上げたのが同協会である。地域住民の地域への想いに配慮しながら、マーケティングを展開し、観光振興に寄与している。

【教育上の効果】

同協会が企画運営するイベントとその準備業務、地域資源発掘と情報発信のための同市内および周辺での取材活動、メディア取材対応等への補助的従事や、当協会窓口を訪れる観光客対応を行うことで、地域に配慮しながら観光客の期待にも応えるための観光マネジメントのあり方を考え、観光振興専門職に必要な力（思考力・行動力・協働力・知識など）を修得することができる。

○三豊鶴

【概要（特色）】

三豊鶴は約 130 年以上続き、2005 年に廃業した三豊市にある酒蔵の跡地をリノベーションした、周辺の観光施設の補完的機能（飲食、娯楽、土産品、体験など）を持った複合施設兼、コワーキングスペースのような交流とイノベーションを生み出す場所であり、地元若手事業者 5 名が共同出資し、運営している。この場所を活用した事業として、地域事業者や生産者と連携した地域の魅力発信イベントの企画運営、貸しスペース事業、酒蔵の雰囲気を味わうことのできる簡易宿泊施設運営、地域資源を活用した新規事業のプロデュースを展開している。2019 年 5 月から開催されている「地域食文化継承レストラン」は好評を博し、市内外から多くの利用者を獲得していて、リピーターが増えつつある。

【教育上の効果】

日々の業務や事業主の補助業務に従事することで、地域資源の利活用や再利用、商品開発とその販売に必要な能力や技能を理解し、修得することができる。また、小規模経営であるため事業主とも距離が近いことから、起業におけるポイントや経営手法などについて具体的な話を聞き、学ぶことが可能である。

④小豆島

○井上誠耕園

【概要（特色）】

井上誠耕園は、昭和 15 年に柑橘栽培を主として創業し、平成 9 年に井上誠耕園を設立した。現在は 60,000 坪の園地にてオリーブ及び柑橘類の栽培、加工、販売、体験プログラム、飲食など製造ならびにサービス事業を展開している。オリーブ園 47,000 坪、柑橘園 13,000 坪の耕作地にてオリーブやみかんを育て、オリーブオイルなど食品や化粧品として栽培から加工・販売まで一貫体制で行っている。平成２９年に店舗とレストランの複合施設「らしく園」を新設し、売店や飲食のほかハーバリウム（植物標本）やオリーブオイル作り等の「小豆島ならではの地域体験」と「島暮らしのストーリー」を国内外顧客に発信している。

【教育上の効果】

経営者の井上氏は農業による地域活性化の成功者として、全国の農業関係者や地方経済界での講演も多く、その理念に魅かれ、首都圏からの若い学生や移住者も多く働いている。活気ある職場風土の中で、地域産業が世界へ繋がる可能性を学ぶことができる。

○寒霞渓ロープウェイ

【概要（特色）】

小豆島総合開発株式会社は昭和 36 年に創業し、大正 12 年に国の名勝に指定され、昭和 9 年に日本初の国立公園に指定された寒霞渓にて、昭和 38 年にロープウェイを開通し、これまでに至っている。それ以後、５５年間にわたり延べ運転時間約 80,000 時間、延べ輸送人員約 23,000,000 人を数え、現在まで無事故運転を継続している。定期点検、救助訓練、人材教育を行い、安全の基本理念と安全目標を示し、索道事業における社内安全管理組織を構成している。索道事業のほか、324 席のレストラン、土産物の販売、観光案内などのサービス事業を展開している。小豆島観光のハイライトとして認知度も高く、国内外から多数の観光客を受け入れている施設である。

【教育上の効果】

安全の基本理念と安全目標を示し、索道事業における社内安全管理組織を構成していることから交通業としての基本となる安全・安心に関する理論と理念を学修することができるとともに、寒霞渓を中心とする広大な面積に及ぶ総合的な観光施設としてレベルの高いホスピタリティの修得が期待できる。

○小豆島オリーブ園

【概要（特色）】

小豆島オリーブ園は、瀬戸内海を見下ろす小高い丘にあり、園内には約 2,000 本のオリーブの木が栽培されている。1917 年に日本に初めて根付いた最も古い民間の「オリーブ園の原木」が現存している。また、園内で栽培したオリーブから採油したオリーブオイルをショップで販売しており、敷地内のレストランを運営している。さらに、世界で１つのオリジナルオリーブオイルのブレンド体験など、地域の特産であるオリーブの魅力を活かした観光事業を行っている。

【教育上の効果】

園内には多岐に渡る観光施設があり、その実務を幅広く学修することにより、観光施設の実務に精通することはもちろんのこと、それらを複眼的に視野に入れ、園全体の活性化と顧客の拡大という観点からも実践的な学びが可能である。また、新たな体験プログラムの企画等に携わることにより、イベントの企画・実践の方法論を学ぶことができる。

○小豆島観光協会

【概要（特色）】

一般社団法人小豆島観光協会は観光事業の振興、産業の発達、文化の発展を図り、公共の福祉に寄与することを目的とし、昭和 35 年に設立した。現在の会員数は正会員 171 社、賛助会員 3 社であり、年々増加している。主な事業は観光計画の立案、観光客誘致に関する総合計画・立案及び情報発信、観光従事者の資質向上及び島民の観光意識向上、観光に関する出版物の発行、観光情報の収集交換及び他の観光機関との連携、ホームページの管理運営、小豆島におけるフィルム・コミッション（映画・ドラマ・コマーシャル・プロモーションビデオ等の撮影現場誘致や撮影支援を行う公的機関）業務などである。

【教育上の効果】

フィルム・コミッションやインバウンド対応事業「YOKOSO SHODOSHIMA 英会話セミナー」

小豆島観光国際化チームのメンバーによるインバウンド客ほか来島者を対象にした小豆島各港での観光案内など、これまでの観光協会には見られなかった新規事業・企画に参画することが可能であり、実務の修得はもちろん、観光のブランド化や多業種によるコラボレーション事業の実践を通じて、マネジメント能力や創造力を身に付けることができる。

○土庄港観光センター

【概要（特色）】

小豆島の各港のうち約 60%の乗降客率を誇る土庄港すぐに位置し、親会社である小豆島オリーブ株式会社の商品ほか土産品の販売や観光案内を行っている。小豆島交通株式会社が運行する島めぐり観光バスの発着地点であり、小豆島の観光振興の起点となっている。「旅のコンビニエンスストア」をコンセプトに飲食やレンタサイクル事業も行い、小豆島観光のゲートウェイとして、国内外の顧客を多数受け入れている。

【教育上の効果】

近年のインバウンドの増大や瀬戸内国際芸術祭の影響で、外国人観光客への対応業務が増えており、ストレスの少ない観光の実現のために創意工夫や情報提供の方法論等について学修することができる。

○二十四の瞳映画村

【概要（特色）】

映画「二十四の瞳」ロケ地となった岬の分教場をはじめ、郷土の作家壺井栄の文献や調度品などを紹介した壺井栄文学館、大人の学習と子供たちの情操教育をテーマとした日本映画ギャラリー、映画館、売店、レストラン、ブックカフェ、渡し舟運航などを運営している。小豆島観光の柱として、また、小豆島におけるロケ誘致の窓口として、多岐にわたった活動を行っている。近年では、映画会社とともにインスタ映えするスポットやアート視点のギャラリーをオープンした。以上のような、多様なコンテンツと、積極的な宣伝・営業活動によって、年間 20 万人を集客する映画・文学のテーマパークである。

【教育上の効果】

映画村のなかには、多岐に渡る観光施設があるため、その実務を幅広く学修することにより、観光施設の基本的な実務を身につけることができる。また、来訪者を増やすための様々な試みについて実践を通して学ぶことにより、文化施設が地域の観光振興において担う役割について理解することができる。

○道の駅小豆島オリーブ公園

【概要（特色）】

一般財団法人小豆島オリーブ公園の施設であり、平成 2 年に開園し、年間約 300,000 人の来園者を迎えている。約 2,000 本のオリーブと約 120 種類のハーブやラベンダーの栽培、加工、店舗販売を行っている。そのほか園内にはレストラン 2 店舗、500 名収容の多目的ホール、自家源泉の天然温泉施設、料理教室などの体験施設、テニスコート 4 面があるほか、レンタサイクル事業も展開している。体験プログラムとして料理教室のほか、オリーブのリースづくり体験や幸せのオリーブの葉しおりづくり体験など、さまざまなプログラムを企画・

運営している。

【教育上の効果】

公園内には多岐に渡る観光施設があり、その実務を幅広く学習することにより、観光施設における基本的な実務を学ぶことができる。また、それらを複眼的に視野に入れ、公園全体の活性化と顧客の拡大という観点からも実践的な学びが可能である。さらに、体験プログラムの企画・実行などを通して、観光振興に必要な想像力・実践力を養うことができる。

○Mei PAM

【概要（特色）】

小豆島には、14 世紀頃に戦乱や海賊から逃れるため、細い路地を不規則に入り組ませた迷路のような町並みが残っている。Mei　PAM では、その独特な路地において、元呉服屋の蔵や倉庫といった古い建物を活かしたアートギャラリー「妖怪美術館」や、島の特産品を扱ったレストラン、カフェ、土産屋、雑貨屋を展開し、これらは小豆島の新たな観光名所となっている。

【教育上の効果】

地域の歴史や生活文化を守り、古い建物を利活用する取り組みを通して、地域の文化を再発見する観点や、それを活用する方法論を学ぶことができる。また、地域の魅力を活かしたブランディングによる地域活性化、観光誘致のプロセスについての学修が期待できる。

⑤直島

○直島町観光協会

【概要（特色）】

直島観光協会は、事務局を島の玄関口である直島家浦港（海の駅）に置き、島を訪れる国内外からの観光客の対応（案内、土産物販売、三菱マテリアル見学申込受付等）や観光商品（主に土産品）の商品化を行っている。同協会による道の駅施設内での土産品販売は、日本有数の売り上げ額を誇っている。また、数年前より、直島に面した瀬戸内海の海水を利用して天日による天然塩づくりに取り組んでおり SOLASHIO(ソラシオ)の名前で販売されている。これは多くの有名企業の株主優待商品等としても利用されて、人気を博している。同協会の運営は、直島町が直島アートサイトを運営するベネッセアートサイトや直島文化村と連携し行っている。アートの島として世界的に名を馳せるこの島には、近年、非常に多くの観光客が来訪しており、ここ最近は瀬戸内国際芸術祭の期間中であるかどうかにかかわらず、約 70 万人が来訪している。

【教育上の効果】

直島というさまざまな業種・形態がある観光事業者を結び付ける観光協会における実務や理念を学ぶことができる。また、地域のブランド化やその情報発信、新たな魅力の創出といった、地域の観光振興に必要な創造力、実践力を学修することができる。

(3)「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）」の目的

①「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）」の実習の目的

現代観光の大きな特徴である「旅行の大衆化」を可能にした要因のうち、主要な一つが公共交通機関の発達である。本実習ではそのうち、現代国内の主要な高速交通機関となるとともに、ハブ空港に到来したインバウンド旅客の地方送客機能の中核となり各地域の観光振興にも大きな役割を果たしている**国内線航空事業の実務**を、その主要な事業舞台となる地方空港において修得する。本実習の目的は、地方空港の**国内線ハンドリング**の現場において、実際の顧客に対するサービス業務により対人関係能力を体得しながら、国内旅客運送実務の基本的な流れとこれらを着実に実現するためのチームワーク・協調性の重要性を理解・修得すること、及びこのような旅客運送現場を円滑に管理運営するためのコミュニケーション能力やリーダーシップの手法を実地に学ぶことにあり、特にこれら事業の根幹であり且つ大前提となっている「安全」の確保に関わる考え方や仕組みについて理解し、自ら検証する姿勢を身に付けるとともに、地域連携に基づく観光振興に向けた航空会社の取り組みについて理解を深めることで、観光振興専門職として観光・地域振興の運営・管理に主体的に取り組む習慣と能力を涵養することを最優先の目的とする。同時に、あらゆる観光産業において普遍的に必要とされるホスピタリティを、極めて高いレベルで求められる航空会社のサービス専門担当者からの直接指導の下で経験することにより、高品質で実践的なレベルのホスピタリティを修得することを目指す。「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）」における実習施設の概要(特色)と教育上の効果は以下のとおりである。**（資料 49 臨地実務実習施設一覧）**

〈「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）」における実習施設の概要（特色）と教育上の効果〉

○ANA 沖縄空港株式会社（那覇空港国内線･国際線旅客ターミナルビル）

【概要（特色）】

ANA 沖縄空港株式会社は、2016 年 4 月にエア―沖縄グループの 2 社「株式会社エア―沖縄(旅客業務、オペレーション業務)」と「株式会社グランドシステム沖縄(グランドハンドリング業務)」を経営統合し ANA グループの 1 社となり、1,369 名のスタッフが旅客ハンドリング事業から貨物運送事業、自動車整備事業まで、空港オペレーション全般を担っている。

【教育上の効果】

現場における基本動作の実践を通じて、航空事業の大前提となる”安全”の重要性を体得しマネジメントの立場からも理解できる。また、内外の多様な乗客に対面でのサービス実践を通して、将来他の観光産業分野においても通用し得るレベルのホスピタリティを体得できる。さらに、航空事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等への取り組みを実践的に学修することができる。

○ANA 福岡空港株式会社（福岡空港旅客ターミナルビル）

【概要（特色）】

ANA 福岡空港株式会社は、2012 年 4 月に株式会社 ANA エアサービス福岡と、株式会社 ANA グランドサービス福岡が統合され発足された。従業員数は約 800 名で、福岡空港に

おける ANA 国内線、各外国航空会社の旅客サービス業務、グランドハンドリング業務、運行支援業務などを担当している。

【教育上の効果】

現場における基本動作の実践を通じて、航空事業の大前提となる”安全”の重要性を体得しマネジメントの立場からも理解できる。また、内外の多様な乗客に対面でのサービス実践を通して、将来他の観光産業分野においても通用し得るレベルのホスピタリティを体得できる。さらに、航空事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等への取り組みを実践的に学修することができる。

○株式会社エスエーエス福岡空港事務所（福岡空港旅客ターミナル）

○株式会社エスエーエス小牧空港事務所（名古屋空港ターミナルビル）

○株式会社エスエーエス富士山静岡空港事務所（富士山静岡空港旅客ターミナル）

【概要（特色）】

株式会社エスエーエスは、富士山静岡空港をはじめ、全国 11 拠点において旅客ハンドリング業務、ランプハンドリング、航務業務、給油業務、航空貨物・通関業務など空港地上業務を担っている。実習施設として本社がある富士山静岡空港及び旅客数が多い福岡空港、名古屋空港といった地域社会に密接に関わりをもつ空港を使用する。

【教育上の効果】

現場における基本動作の実践を通じて、航空事業の大前提となる”安全”の重要性を体得しマネジメントの立場からも理解できる。また、内外の多様な乗客に対面でのサービス実践を通して、将来他の観光産業分野においても通用し得るレベルのホスピタリティを体得できる。さらに、航空事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等への取り組みを実践的に学修することができる。

○株式会社Ｋスカイ（関西国際空港旅客ターミナル）

【概要（特色）】

株式会社Ｋスカイは、関西国際空港において約 720 名のスタッフが JAL グループが運航するフライト及び外国航空会社のフライトについて、搭乗手続き業務、ラウンジ業務、ゲート業務、航務業務、手荷物サービス業務、旅客デスク業務など旅客サービス業務を担っている。独自のプログラムによる教育機会を設けるなど社員の育成に力を入れている。また社員の 9 割以上を占める女性が活き活きと活躍できる環境整備に積極的である。

【教育上の効果】

現場における基本動作の実践を通じて、航空事業の大前提となる”安全”の重要性を体得しマネジメントの立場からも理解できる。また、内外の多様な乗客に対面でのサービス実践を通して、将来他の観光産業分野においても通用し得るレベルのホスピタリティを体得できる。さらに、航空事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション

等への取り組みを実践的に学修することができる。

○空港ターミナルサービス株式会社（成田国際空港）

【概要（特色）】

空港ターミナルサービス株式会社は、日本最大の国際線規模を有する成田国際空港において、航空会社のカウンター、ゲート、ラウンジ業務といった旅客ハンドリングなどのエアラインサービスや、案内カウンターや空港巡回案内といった旅客案内サービスまで幅広い業務を 480 名のスタッフで担当している。実習場所は同社が担当している成田国際空港第 1 ターミナル、第 2 ターミナルを使用する。

【教育上の効果】

現場における基本動作の実践を通じて、航空事業の大前提となる”安全”の重要性を体得しマネジメントの立場からも理解できる。また、内外の多様な乗客に対面でのサービス実践を通して、将来他の観光産業分野においても通用し得るレベルのホスピタリティを体得できる。さらに、航空事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等への取り組みを実践的に学修することができる。

○JAL スカイエアポート沖縄株式会社（那覇空港旅客ターミナルビル）

【概要（特色）】

JAL スカイエアポート沖縄株式会社は、那覇、石垣、宮古、久米島、与那国、多良間、南大東、北大東の沖縄県の 8 空港で、JAL グループの運航するすべてのフライトの旅客サービス業務、ステーションオペレーション業務、グランドハンドリング業務を担うとともに、外国航空会社 12 社からも上記業務を受託しており、1 日約 150 便を 1,100 名のスタッフで支えている。

【教育上の効果】

現場における基本動作の実践を通じて、航空事業の大前提となる”安全”の重要性を体得しマネジメントの立場からも理解できる。また、内外の多様な乗客に対面でのサービス実践を通して、将来他の観光産業分野においても通用し得るレベルのホスピタリティを体得できる。さらに、航空事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等への取り組みを実践的に学修することができる。

○ジェットスター・ジャパン株式会社成田空港支店（成田国際空港第 3 ターミナル）

【概要（特色）】

ジェットスター・ジャパン株式会社は、平成 24 年 7 月より日本国内線を就航し、平成 27 年 2 月から国際線の運航も開始した。国内 16 都市・24 路線、国際 4 都市・7 路線を 25 機のエアバス A320 型機で 1 日最大 130 便を運航している。成田国際空港は、国内線・国際線ともに同社の中で最大の路線をもつハブ空港であり、同社が所在する第 3 ターミナルで実習を実施する。

【教育上の効果】

現場における基本動作の実践を通じて、航空事業の大前提となる”安全”の重要性を体得しマネジメントの立場からも理解できる。また、内外の多様な乗客に対面でのサービス実践を通して、将来他の観光産業分野においても通用し得るレベルのホスピタリティを体得できる。さらに、航空事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等への取り組みを実践的に学修することができる。

○四国航空株式会社（高松空港旅客ターミナル）

【概要（特色）】

四国航空株式会社は、昭和 31 年に創業し、航空機事業や航空代理店・旅行代理店などサービス事業を展開しており、高松空港に発着する日本航空および日本航空が受託する航空機の旅客ハンドリング業務、貨物・ランプのハンドリング業務を受託している。高松空港は、国管理空港では仙台に続き 2 例目として平成 30 年に民営化され、2032 年までに旅客数を 110 万人増、国内 3 路線・国際 3 路線の新規就航を目指している。

【教育上の効果】

現場における基本動作の実践を通じて、航空事業の大前提となる”安全”の重要性を体得しマネジメントの立場からも理解できる。また、内外の多様な乗客に対面でのサービス実践を通して、将来他の観光産業分野においても通用し得るレベルのホスピタリティを体得できる。さらに、航空事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等への取り組みを実践的に学修することができる。

②「臨地実務実習Ⅲ（航空クラス）」の実習の目的

本実習では現代の海外旅行交通の中核となり、インバウンド需要喚起等を通じて地方の観光振興にも大きな役割を果たしている**国際線航空事業の実務**を、その主要な事業舞台となる空港の国際線現場において修得する。

本実習の目的は、空港の**国際線ハンドリングの現場**において、実際の顧客に対するサービス業務により対人関係能力を体得しながら、旅客運送実務の基本的な流れとこれらを着実に実現するためのチームワーク・協調性の重要性を理解・修得すること、及びこのような旅客運送現場を円滑に管理運営するためのコミュニケーション能力やリーダーシップの手法を実地に学ぶことにあり、特にこれら事業の根幹となっている「安全」の確保に関わる考え方や仕組みについて理解し、自ら検証する姿勢を身に付けるとともに、地域連携に基づく観光振興に向けた航空会社の取り組みについて理解を深めることで、観光振興専門職として観光・地域振興の運営・管理に主体的に取り組む習慣と能力を涵養することを最優先の目的とする。同時に、あらゆる観光産業において普遍的に必要とされるホスピタリティを、グローバル スタンダード レベルで常に求められる航空会社のサービス専門担当者から直接指導の下で経験することにより、インバウンド旅客対応を含めた高品質で実践的なホスピタリティの修得を目指す。

また、最先端の技術と国境を越えた新しいマーケット開拓を求められる航空会社という”場”

での実習経験を最大限活用して、社会のニーズを利用者視点で見極め、イノベーションを実現する能力の涵養を目指す。「臨地実務実習Ⅲ（航空クラス）」における実習施設は、以下のとおりであり、その概要（特色）と教育上の効果は前述の「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）」（107～109 ページに記載）と同様である。**（資料 49　臨地実務実習施設一覧）**

〇ANA 沖縄空港株式会社（那覇空港国内線･国際線旅客ターミナルビル）
〇ANA 福岡空港株式会社（福岡空港旅客ターミナルビル）
〇株式会社Ｋスカイ（関西国際空港旅客ターミナル）
〇空港ターミナルサービス株式会社（成田国際空港）
〇JAL スカイエアポート沖縄株式会社（那覇空港旅客ターミナルビル）
〇ジェットスター・ジャパン株式会社成田空港支店（成田国際空港第 3 ターミナル）

③「臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス）」の実習の目的

本実習では国内旅行交通の中核となっている鉄道事業のうち、**地域に密着し、観光振興を通じた地域創生の要となっている地方民営鉄道事業**の実務を、その主要な事業舞台となる駅や関連施設において修得する。

本実習の目的は、鉄道駅等の現場において、実際の顧客に対するサービス業務により対人関係能力を体得しながら、旅客運送実務の基本的な流れとこれらを着実に実現するためのチームワーク・協調性の重要性を理解・修得すること、及びこのような旅客運送現場を円滑に管理運営するためのコミュニケーション能力やリーダーシップの手法を実地に学ぶことにあり、特にこれら事業の根幹となっている「安全」の確保に関わる考え方や仕組みについて理解し、自ら検証する姿勢を身に付けるとともに、地域連携に基づく観光振興に向けた鉄道会社の取り組みについて理解を深めることで、観光振興専門職として観光・地域振興の運営・管理に主体的に取り組む習慣と能力を涵養することを最優先の目的とする。同時に、あらゆる観光産業において普遍的に必要とされるホスピタリティを、同社のサービス専門担当者からの直接指導の下で経験することにより実践的なホスピタリティの修得を目指す。「臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス）」における実習施設の概要（特色）と教育上の効果は以下のとおりである。

〈「臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス）」における実習施設の概要（特色）と教育上の効果〉

〇高松琴平電気鉄道株式会社（高松築港駅）
〇高松琴平電気鉄道株式会社（瓦町駅）
〇高松琴平電気鉄道株式会社（運転営業所）
〇高松琴平電気鉄道株式会社（栗林本社）
〇高松琴平電気鉄道株式会社（コトデン瓦町ビル）
〇ことでんバス株式会社（高松空港バス乗降場）
〇ことでんバス株式会社（高松駅バスターミナル）

【概要（特色）】

高松琴平電気鉄道株式会社は、香川県高松市を地盤として、琴平線、長尾線、志度線の３つの路線を持つ鉄道会社である。３路線とも高松市の中心部を起点とし、郊外へと放射状に

路線を延ばしている。通勤・通学を中心に１日当たり約６万人に利用されており、地域の動脈ともいえる鉄道である。実習施設としては、乗降客数の多い主要駅である高松築港駅と瓦町駅、乗務員や無人駅等の管理、遺失物の管理等を行う運転営業所や本社、３路線が集まるターミナル駅である瓦町駅に直結している駅ビル「コトデン瓦町ビル」、また鉄道と連結して運行されているバスターミナルを使用する。

【教育上の効果】

鉄道事業の大前提となる”安全”の重要性を体得し、マネジメントの立場からも理解できる。また、他の観光業現場でも通用するレベルのホスピタリティを体得した上で、地域の観光振興の視点から、鉄道事業の存在意義や課題を自ら考え解決する能力が身に付く。さらに、鉄道事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等についても実践を通じて学修することができる。

④「臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス）」の実習の目的

本実習では国内旅行交通の中核となっている鉄道事業のうち、**複数県に跨る広大な路線網を有し、広域連携観光振興を通じた地域創生の要**となっている四国旅客鉄道株式会社の実務とその経営理念を、その主要な事業舞台となる駅や関連施設、及び本社部門において修得する。

本実習では、先ず鉄道駅等の現場において、実際の顧客に対するサービス業務によりインバウンド対応を含めた対人関係能力を体得しながら、旅客運送実務の基本的な流れとこれらを着実に実現するためのチームワーク・協調性の重要性を理解・修得し、併せてこのような旅客運送現場を円滑に管理運営するためのコミュニケーション能力やリーダーシップの手法を実地に学ぶ。また同社のトップマネジメント層から鉄道事業の運営とこれを通じた地域創生への貢献、社会構造の変化に対応するイノベーション、そして特にこれら事業全ての根幹となっている「安全」の確保に関わる考え方や企業理念を学び、自ら検証する姿勢を身に付けるとともに、地域連携に基づく観光振興に向けた鉄道会社の取り組みについて理解を深めることで、観光振興専門職として観光・地域振興の運営・管理に主体的に取り組む習慣と能力を涵養することを最優先の目的とする。さらに臨地実務実習Ⅱにおいて修得したホスピタリティを、同社のサービス専門担当者からの直接指導の下で実務を経験することにより磨きをかけ、インバウンド対応を含め他のいかなる観光産業においても通用し得るレベルのホスピタリティの修得を目指す。「臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス）」における実習施設の概要（特色）及び教育上の効果は以下のとおりである。**（資料 49　臨地実務実習施設一覧）**

〈「臨地実務実習（鉄道クラス）」における実習施設の概要（特色）と教育上の効果〉

○四国旅客鉄道株式会社（高松駅）

○四国旅客鉄道株式会社（研修センター）

○四国旅客鉄道株式会社（本社）

○四国キヨスク株式会社 丸亀駅店

○四国キヨスク株式会社 坂出駅店
○四国キヨスク株式会社 宇多津駅店
【概要（特色）】
四国旅客鉄道株式会社は、四国における基幹的公共輸送機関としての鉄道事業を中心に、バス、ホテル、物販や IT ビジネスなど幅広い事業を展開している。新型特急車両や IC カードの導入、地域と連携した観光開発・誘客、鉄道以外のビジネス強化にも取り組んでいる。さらに安全・安心輸送を前提としつつ、四国への観光誘客の促進、地域と連携した観光需要の創出、「ものがたり列車」をはじめとする観光列車の運行、インバウンド事業等を積極的に展開している　実習施設としては、基幹駅である高松駅と駅に隣接する本社、高松運転所内に新設された研修センター及び駅構内にある四国キヨスクの店舗を使用する。
【教育上の効果】
鉄道事業の大前提となる”安全”の重要性を体得し、マネジメントの立場からも理解できる。また、他の観光業現場でも通用するレベルのホスピタリティを体得した上で、広域の観光振興の視点から、鉄道事業の存在意義や課題を自ら考え解決する能力が身に付く。さらに、鉄道事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等についても実践を通じて学修することができる。

⑤「臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス）」の実習の目的

宿泊事業においては、近年ますます進展する経済のグローバル化や、顧客ニーズの多様化などへの機動的な対応が求められている。本実習では、このような社会構造変化に柔軟に対応し、地域の観光振興にも貢献しているホテル・旅館等宿泊施設において、客室部門、料飲部門など各ライン部門の基本実務を実践的に経験することで、将来の主要な就職先候補となる事業分野において必要となる基本知識や技能を身に付けるとともに、宿泊施設が地域の観光振興に果たす役割の理解や、他の観光施設との連携・インバウンドを含む新規マーケットの開拓スキームなどの新しい動きについて、それぞれの現場で体験的に修得することにより、経済のグローバル化や顧客ニーズの多様化などに機動的に対応し得る人材の養成を推進する。

また、実習に先立ち実習先宿泊施設のマネジメント層より、当該企業の経営理念や基本方針などの説明を受け、その理念や方針を学生が理解することにより、実習をさらに有益なものとする。

「臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス）」における実習施設の概要（特色）と教育上の効果は以下のとおりである。**（資料 49　臨地実務実習施設一覧）**

〈「臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス）」における実習施設の概要（特色）と教育上の効果〉

○あえの風
【概要（特色）】
あえの風は、旅館・加賀屋の姉妹館であり、加賀屋と同じく石川県和倉温泉の中心部に位置している。食事をしながらイベントが楽しめる「茶寮」が特徴であり、若年層や女性に好評を得ている。客室が 129 室あるほか、400 畳の大宴会場を含む 17 の宴会場、750 ㎡のコン

ベンションホールを有し、プールも併設されている。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、日本独自の文化でもある「もてなす心」といった旅館ならではのサービスを通じて汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。ホスピタリティに関して全国的に高い評価を得ている当旅館での実習は、将来的な飛躍を期する学生にとっては、チャレンジ精神が試される絶好の機会である。

○アオアヲナルトリゾート

【概要（特色）】

アオアヲナルトリゾートは、平成 3 年開業の徳島県鳴門市にある徳島県を代表するリゾートホテル。瀬戸内海国立公園内に位置し、8 階建ての本館、9 階建ての南館はすべてオーシャンビューの客室が 208 室あり、7 つのレストラン・ラウンジ、5 つの宴会場、天然温泉、屋外プール、テニスコート、マーケットプレイス、エステサロンなどといった施設を有するため、国内外から多くの観光客が訪れている。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。

○淡路夢泉景

【概要（特色）】

淡路夢泉景は、淡路、京都、神戸、香川で１３のグループホテル・旅館を展開するホテルニューアワジグループが運営する兵庫県洲本市に所在する温泉旅館。ホテルニューアワジに隣接し、「お客様に上質なやすらぎとホスピタリティを感じていただける宿」をコンセプトに運営され、客室は 60 室。4 つの会食場やラウンジ、315 畳の大宴会場を有する。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。

○ウェスティンホテル淡路

【概要（特色）】

ウェスティンホテル淡路は、兵庫県淡路市夢舞台にあるリゾートホテルで、スターウッド・

ホテル＆リゾートの１つ。平成 12 年淡路花博の開催に伴い開業。安藤忠雄氏が全体設計した淡路夢舞台の施設の一つであり、淡路夢舞台国際会議場と直結してリゾート＆コンファレンスセンターを構成する。201 の客室、4 つのレストラン、婚礼施設などが充実している。隣接する「淡路島国営明石海峡公園」とあわせると 128ha にもなる壮大な土地をひとつ庭園として有する。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。

○ウェスティンホテル大阪

【概要（特色）】

ウェスティンホテル大阪は、「マリオット・インターナショナル」のプレミアムブランドの１つ「ウェスティン」の日本第 1 号ホテルとして、平成 5 年に開業した。梅田スカイビルとともに新梅田シティの一角を構成するシティホテルで、立地の良さから観光やビジネスの利用客が多い。地下 3 階・地上 30 階建、303 室の客室、6 つのレストラン、ラウンジバー、フィットネスクラブ等も有するラグジュアリーホテルである。

【教育上の効果】

当ホテルを経営しているのは、世界中に約 6500 のホテルを保有し、世界最大のホテルチェーンであるマリオット・インターナショナルである。マリオット・インターナショナルは、基本理念として、「何よりも人を大切にし、卓越性を追求し、変化を受け入れ、誠実に行動し、世界に奉仕すること」であり、顧客へのサービスに心を尽くすマリオットの姿勢は世界で定評があるとともに、常に顧客ニーズの変化や応える新ブランドや世界各地の新しいロケーションを開発しており、これまでに見てきた宿泊施設における教育上の効果に加え、最高級のホスピタリティと世界的なスケールメリットを活かした経営革新を体感することができる。将来的な飛躍を期する学生にとっては、チャレンジ精神が試される絶好の機会である。

○海のホテル島花

【概要（特色）】

海のホテル島花は、淡路、京都、神戸、香川で１３のグループホテル・旅館を展開するホテルニューアワジグループが運営する兵庫県洲本市に所在するホテル。地産地消にこだわり地元農家から届く旬の野菜を使った料理や、愛犬と旅する淡路島をテーマにしたドッグフレンドリールームなど顧客のニーズに合わせたプランを積極的に設定している。客室は 47 室。6 つのレストランやラウンジ、プールやドッグランも併設する。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多

様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。

○加賀屋

【概要（特色）】

加賀屋は、北陸を代表する温泉地、石川県和倉温泉の中心部に位置し、全国の旅行会社が投票する「プロが選ぶ日本のホテル・旅館 100 選」で 36 年連続日本一に選ばれた老舗温泉旅館である。創業から 100 年以上の歴史があり、温泉街の中でもひときわ存在感のある建物で、和倉温泉のシンボル的な存在にもなっている。客室係の教えのひとつである「笑顔で気働き」を実践により全国の観光客から絶大な支持を得ている。客室数は 232 室、420 畳の大宴会場を含め 42 の宴会場があり、最大 1,500 名収容可能なコンベンションホールを有する。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、日本独自の文化でもある「もてなす心」といった旅館ならではのサービスを通じて汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。ホスピタリティに関して全国的に高い評価を得ている当旅館での実習は、将来的な飛躍を期する学生にとっては、チャレンジ精神が試される絶好の機会である。

○喜代美山荘花樹海

【概要（特色）】

喜代美山荘花樹海は、香川県高松市の峰山緑地公園の東側面に位置する香川県を代表する温泉旅館。海抜 80ｍの高台にあり屋島を正面に高松市街及び瀬戸の島々が一望できる。客室は 40 室。100 畳の大宴会場を含む 5 つの宴会場、800 名収容可能なコンベンションホールを有し、県下で実施される主な行事や会議なども会場として利用される。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、日本独自の文化でもある「もてなす心」といった旅館ならではのサービスを通じて汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。

○琴平花壇

【概要（特色）】

琴平花壇は、香川県内有数の温泉地である琴平の金刀比羅宮門前町にある創業 400 年近くの温泉旅館。森鴎外、北原白秋、与謝野晶子など、名だたる往年の文人も 琴平花壇の宿帳に名を連ねている。2008 年にホテルニューアワジグループとして大規模リニューアルされ、近代建築と当旅館の象徴とされる数寄屋造りの離れ、回遊式日本庭園が見事に調和している。

客室は 43 室。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、日本独自の文化でもある「もてなす心」といった旅館ならではのサービスを通じて汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。

○琴平グランドホテル　桜の抄

【概要（特色）】

桜の抄は香川県内有数の温泉地である琴平にあり、金刀比羅宮に続く参道 22 段目に位置する香川県を代表する昭和 37 年創業の老舗温泉旅館。温泉は「琴平智光院温泉」を引いており、年間を通して訪れる参拝客に人気がある。客室は 72 室、215 畳の宴会場を含む 12 の宴会場があり、250 人収容のコンベンションホールを有する。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、日本独自の文化でもある「もてなす心」といった旅館ならではのサービスを通じて汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。

○こんぴら温泉湯元八千代

【概要（特色）】

こんぴら温泉湯元八千代は、香川県内有数の温泉地である琴平にあり、金刀比羅宮の表参道すぐ近くに位置する香川県を代表する温泉旅館。享保 10 年(1725 年)に「志らがや」として創業し、15 代続く老舗旅館である。また当旅館は「こんぴら温泉」湧出の地で湯元の宿となっている。客室は東館、西館含め 83 室。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、日本独自の文化でもある「もてなす心」といった旅館ならではのサービスを通じて汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。

○敷島館

【概要（特色）】

敷島館は、国の登録有形文化財に指定されていた施設を 2019 年に共立リゾートがリノベー

ションした金刀比羅宮の表参道に位置する旅館である。リノベーションにあたっては旧敷島館の古材を用い、老舗旅館の雰囲気を残しつつも、時代に即した設備やサービスを兼ね備えている。共立リゾートは、全国に 31 棟のリゾートホテル・旅館を有しており、敷島館の経営が 32 棟目となる。古くから琴平町で営業している旅館と差別化をはかり、新たな客層を取り込もうという試みを行っている。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、日本独自の文化でもある「もてなす心」といった旅館ならではのサービスを通じて汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。加えて、1 週間に 1 度の実習担当者による講話を通じて、さまざまな地域で宿泊業を成功させてきた実績とその方法論について学ぶことができる。

○ＪＲホテルクレメント高松

【概要（特色）】

ＪＲホテルクレメント高松は、ＪＲ高松駅より徒歩 1 分、高松港に近いサンポート高松に位置する四国最大規模のシティホテル。アクセスの良さから観光やビジネスでの利用客が多い。国際会議場サンポートホール高松を備えた高松シンボルタワーとデッキで結ばれており、一体となって高松のコンベンションセンターとしての役割を担っている。全 300 室の客室と県内屈指の宴会場を有し、宿泊はもちろん宴会やウェディングの利用も多い。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。

○小豆島国際ホテル

【概要（特色）】

小豆島国際ホテルは、香川県小豆郡土庄町にあるホテル。小豆島の有名な観光地である「エンジェルロード」がホテルの目の前ということもあり、国内外の観光客が多く訪れる。客室は全て、美しい瀬戸内海を望むことのできるオーシャンビューで、瀬戸内の多島美に四国屋島の雄大な姿も見ることができる小豆島を代表するリゾートホテルである。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修するこ

とができる。

○シェラトン都ホテル大阪

【概要（特色）】

シェラトン都ホテル大阪は、昭和 60 年に「都ホテル大阪」として開業し、平成 19 年にスターウッド・ホテル&リゾートのシェラトンブランドとしてリニューアルオープンした。近鉄大阪上本町駅に隣接し、大阪メトロ、ＪＲの駅も近く、立地の良さからビジネスや観光の利用客が多い。スイートルーム 24 室を含む 575 の客室、10 のレストラン、ラウンジバー、国際会議も可能な 3,000 名収容の大宴会場等を有する。

【教育上の効果】

当ホテルを経営しているのは、世界中に約 6500 のホテルを保有し、世界最大のホテルチェーンであるマリオット・インターナショナルである。マリオット・インターナショナルは、基本理念として、「何よりも人を大切にし、卓越性を追求し、変化を受け入れ、誠実に行動し、世界に奉仕すること」であり、顧客へのサービスに心を尽くすマリオットの姿勢は世界で定評があるとともに、常に顧客ニーズの変化や応える新ブランドや世界各地の新しいロケーションを開発しており、これまでに見てきた宿泊施設における教育上の効果に加え、最高級のホスピタリティと世界的なスケールメリットを活かした経営革新を体感することができる。将来的な飛躍を期する学生にとってはチャレンジ精神が試される絶好の機会である。

○高松国際ホテル

【概要（特色）】

高松国際ホテルは、昭和 39 年に高松の迎賓館として開業し、皇室をはじめとする多くの賓客をもてなししてきた伝統と実績がある香川県を代表するシティホテル。県内屈指の大宴会場を有し、宿泊だけでなくウェディングや宴会・法要等の利用も多い。ホテル内にある「レストランぐりる屋島」は、和食、洋食ともに人気があり、地元の利用客も多く、フルサービスのシティホテルの機能を有している。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。

○チサングランド高松

【概要（特色）】

チサングランド高松は、平成 30 年 7 月にリニューアルしさらに利用客が増えている。高松市の中心市街地に位置し、アクセスの良さからビジネスや観光での利用が多い。全国各地にあるチサンブランドの都市型ホテルの中で、最上級ブランドとなるチサングランドを冠するホテルである。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。

○ハイアットリージェンシー大阪

【概要（特色）】

ハイアットリージェンシー大阪は、大阪のベイエリアに位置し、海遊館やＵＳＪなど人気観光スポットへのアクセスも良く、観光の利用客が多い。ハイアットホテルグループということもあり世界各国からのインバウンド客の占める割合が高い。ラグジュアリーホテルとして世界中の主要都市やリゾート地に展開しているハイアットホテルグループとして、質の高いサービスを提供している。

【教育上の効果】

当ホテルを経営するハイアットホテルズアンドリゾーツは、世界で 54 か国、12 ブランド、667 施設を擁する世界有数のホスピタリティ企業であり、その一つである当ホテルの実習では、これまでに見てきた宿泊施設における教育上の効果に加えて、世界有数のホスピタリティを学修することができるとともに、世界的なスケールメリットを活用した経営方針や理念を実践を通して学修することができることである。将来的な飛躍を期する学生にとっては、チャレンジ精神が試される絶好の機会である。

○ハイアットリージェンシー京都

【概要（特色）】

ハイアットリージェンシー京都は、昭和 46 年に「京都パークホテル」として開業し、平成 18 年にハイアットホテル＆リゾーツグループのハイアットリージェンシー京都としてリニューアルオープンした。187 の客室、3 つのレストラン、バー、フィットネスセンター等を有する。京都国立博物館、三十三間堂に隣接する立地の良さから観光の利用客が多い。ラグジュアリーホテルとして世界中の主要都市やリゾート地に展開しているハイアットホテルグループとして、質の高いサービスを提供している。

【教育上の効果】

当ホテルを経営するハイアットホテルズアンドリゾーツは、世界で 54 か国、12 ブランド、667 施設を擁する世界有数のホスピタリティ企業であり、その一つである当ホテルの実習では、これまでに見てきた宿泊施設における教育上の効果に加えて、世界有数のホスピタリティを学修することができるとともに、世界的なスケールメリットを活用した経営方針や理念を実践を通して学修することができることである。将来的な飛躍を期する学生にとっては、チャレンジ精神が試される絶好の機会である。

○ベイリゾートホテル小豆島

【概要（特色）】

ベイリゾートホテル小豆島は、香川県小豆郡小豆島町にあるホテル。全室オーシャンビューの客室を備え、小豆島を代表する寒霞渓や瀬戸内海内湾を一望できる。温泉施設やレストラン、宴会施設も充実していることから、国内外の観光客が多く訪れる小豆島を代表するリゾートホテルである。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。

○ホテルニューアワジ

【概要（特色）】

ホテルニューアワジは、淡路、京都、神戸、香川で１３のグループホテル・旅館を展開するホテルニューアワジグループの中心施設で、兵庫県洲本市に所在し、淡路島では有数の総合ホテルとされており、地域の迎賓館的な役割を担っている。客室は 117 室、6 つの会食場やラウンジ、フィットネスクラブ、天然温泉、シーサイドプール、300 畳の大宴会場含む 19 の宴会場、最大 800 名収容可能なコンベンションホールも有する。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。

○ホテルニューオータニ大阪

【概要（特色）】

ホテルニューオータニ大阪は、昭和 61 年に開業し、国内 17 ヵ所、海外 2 ヵ所に展開するニューオータニホテルズの中核となるシティホテルである。大阪城公園のすぐ隣に位置し、立地の良さから観光やビジネスの利用客が多い。レストランも充実しており、15 のレストランやバーを有する。3、000 名収容の「鳳凰の間」の他に中小の宴会場が 17 あり、様々な宴会やウェディングに対応している。

【教育上の効果】

当ホテルを経営するニューオータニは海外に２つ、国内に１３の施設を有し、日本のホテル業界においては、ホテルオークラ、帝国ホテルと並び、御三家と称されている。当ホテルの実習においては、これまでに見てきた宿泊施設における教育上の効果に加えて、国内最高級のホスピタリティを学修することができることである、将来的な飛躍を期する学生にとっては、チャレンジ精神が試される絶好の機会である。

○湯元こんぴら温泉　華の湯　紅梅亭

【概要（特色）】

紅梅亭は香川県内有数の温泉地である琴平にあり、金刀比羅宮の表参道すぐ近くに位置する香川県を代表する老舗温泉旅館。２つの源泉に 15 種類の風呂があり、運営する 3 施設で年間約 10 万人の観光客が宿泊する。客室は 69 室、６つの会食場やラウンジがあり大小の宴会場も完備している。また当旅館のホームページ等で地域のイベント情報や、観光情報をリアルタイムに更新し、地域の魅力発信にも積極的に取り組んでいる。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、日本独自の文化でもある「もてなす心」といった旅館ならではのサービスを通じて汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。

○リーガホテルゼスト高松

【概要（特色）】

リーガホテルゼスト高松は、昭和 55 年に開業し、高松市の中心市街地に位置するアクセスの良さからビジネスや観光の利用客が多い。ホテル内に和食・洋食・中華のレストランを有し、宴会等の利用も多い。国内 11 ヵ所に展開するリーガロイヤルホテルグループとして、質の高いサービスを提供し、フルサービスのシティホテルの機能を有している。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。

○リゾートホテルオリビアン小豆島

【概要（特色）】

リゾートホテルオリビアン小豆島は、小豆郡土庄町の高台に敷地面積 16 万平方メートルを有するリゾートホテル。その広大な敷地には、多目的グランド、ミニゴルフコース、テニスコート、ドックラン等の屋外施設を備える。温泉は敷地内から湧き出る源泉「オリビアンの湯」で、瀬戸内海を一望できる天空の露天風呂は「夕日の美しい宿」全国 3 位に選ばれた小豆島を代表するリゾートホテルである。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要

やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。

○ロイヤルパークホテル高松

【概要（特色）】

ロイヤルパークホテル高松は、平成元年に開業し、平成 28 年にリニューアルしたシティホテル。高松市の中心市街地に位置するアクセスの良さからビジネスや観光の利用客が多い。ホテル内にある「日本料理 錦」では、日本の四季を感じる讃岐ならではの懐石料理を、大小様々な個室で利用できるなどフルサービスのシティホテルの機能を有している。

【教育上の効果】

実務に関する基本動作の実践を通じて、宿泊事業の大前提となる安全・安心の提供の重要性を理解し、汎用性の高いホスピタリティを学修することができる。また、今後ますます多様化が予想される顧客のニーズや社会構造の変化への対応力や地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、ＩＴ等を活用したイノベーション等について実践を通して学修することができる。

⑥「臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス）」の実習の目的

本実習では、臨地実務実習Ⅱで修得した宿泊・料飲部門などライン部門における専門知識・技能を更に深化させると共に、実習先現場での業務遂行体制の効率性・採算性・安全性などの確保・向上策について、実習施設の経営層より直接話を聞き、その理念や方針を学生が理解した上で、自らもマネジメントの視点に立ちその改善策を案出してみる等の訓練を通じて、宿泊事業経営の一端を体得する契機とする。

また、特に地域の観光振興の観点からインバウンド需要の獲得に焦点を当てて、インバウンド集客拡大を目指す実習先施設の実践的マーケティングについて、自らもアイデアを提供しながら参加実践することにより、ボラティリティが高い海外新規マーケット開拓やニーズの掘り起こし、或いは社会構造の変化を睨んだイノベーティブな新商品開発等に向けたスキルやノウハウの修得を目指す。「臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス）」における実習施設の概要（特色）及び教育上の効果は、臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス）と同様（114～124 ページに記載）である。**（資料 49　臨地実務実習施設一覧）**

⑦「臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）」の実習の目的

観光による地域創生の最前線である現場において、臨地実務実習Ⅰでの実務経験とその後の学修成果を活かし、業務遂行に必要な技能の体得、実習施設が実習地において担う役割、実習地における観光振興と地域創生に関する現状と課題の的確な把握はもとより、観光地経営や観光業の従事に際して必要不可欠となるマネジメントやマーケティングの基礎、新規の事業計画や実行組織の立ち上げ、進行管理等の基本的手法を理解することを目的とする。これらの知識・技能の修得とマネジメント等の手法の理解とは、このあとにつづく臨地実務実習Ⅲの前段階の学修であり、さらには卒業後に地域創生に取り組む観光振興専門職として現場で活躍する際に必須となる思考

力、実践力、協働力の土台構築にあたるものである。「臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）」における実習施設の概要（特色）及び教育上の効果は、以下のとおりである。

（資料 49　臨地実務実習施設一覧）

〈「臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）」における実習施設の概要（特色）及び教育上の効果〉

○穴吹トラベル

【概要（特色）】

株式会社穴吹トラベルは、2020 年に創業 30 周年を迎える中四国エリアを代表する旅行会社である。一般消費者より広く企画募集するオリジナル主催旅行「穴吹ツアー四季の旅」など、ユニークな取り組みを行っている。内容と質にこだわったワンランク上の企画商品や独自のサービスを展開している地域密着型の企業である。さらに近年では、四国運輸局や四国ツーリズム創造機構、四国各県の自治体と連携した様々なインバウンド事業にて、四国のランドオペレーターとして数々の実績を残している。また欧米富裕層をターゲットにした独自のブランド（Discover Shikoku）を立ち上げ、フランスカンヌでの商談会等にて四国／瀬戸内／お遍路の PR ブースを出展する等、訪日外国人観光客の誘致を積極的に行っている。

【教育上の効果】

オリジナルの主催旅行など内容と質にこだわった企画商品や独自のサービスを展開していることから、地域の魅力を発見・創出する方法やそれを活用した企画・商品化のプロセスなどを実践的に学ぶことができる。また、外国人向けのツアー企画の取り扱いも多いことから、インバウンド対応の実務やそれに関するホスピタリティを学ぶことができる。

○イーストとくしま観光推進機構

【概要（特色）】

イーストとくしま観光推進機構は、徳島県東部の 15 市町村と民間企業が連携した団体であり、「脱・行政主導」のもと、観光資源の洗練・強化と観光資源の発掘・磨き上げ、効果的な情報発信等を行い、観光による地域経済の活性化を図っている。また、地域住民の観光客に対するおもてなしの向上や、地域の魅力を再発見・再確認する取り組みを通じて、地域への愛着や誇りを醸成し豊かな地域社会の実現を目指している。

【教育上の効果】

多様な関係者、地域住民と連携・協力しながら、観光地域づくりを行うという地域連携 DMO の理念や実務を学ぶことができる。また、地域連携 DMO が地域の観光振興において担う役割について、理解を深め、地域資源のブランディングといった地域振興の実践を学修することができる。

○一般社団法人　そらの郷

【概要（特色）】

徳島県西部の美馬市・三好市・つるぎ町・東みよし町を活動エリアとする「そらの郷」は、「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」の観光地域づくりのプラットフォームとして 2011 年に設立され、2016 年 2 月に日本版 DMO 候補法人として登録された。急峻な傾斜地で畑作を営む中山間地において、「にし阿波のありのままが世界に誇れる桃源郷である」をコンセプトに、交

流体験の商品化など、地域に経済的な利益をもたらす仕組みを追及している。そば・雑穀といった郷土食や歴史について女性やシニア層が地域ガイドとなって案内することや、古民家を高級感ある農泊施設として整備するといった過疎地域において地域住民と交流し共感できる滞在型地域としてインバウンドを広く呼び込む手法など、祖谷・大歩危エリア全体での官民連携の取り組みは地方の成功事例として地域観光の手本となっている。

【教育上の効果】

観光による地域振興に必要なブランディングやマーケティングについて実践を通して学習することができる。また、ゼミ旅行をはじめとした教育旅行など、「農泊」主体の農山村におけるアクティブラーニングの開発にも取り組んでおり、地域資源を活用したさまざまな取り組みについて、その理念と方法論を学ぶことができる。

○井上誠耕園

【概要（特色）】

当該施設は、昭和 15 年に柑橘栽培を主として創業し、平成 9 年に現在の井上誠耕園を設立した。現在は 60,000 坪の園地にてオリーブ及び柑橘類の栽培、加工、販売、体験プログラム、飲食など製造ならびにサービス事業を展開している。オリーブ園 47,000 坪、柑橘園 13,000 坪の耕作地を保有しており、オリーブやみかんを育て、オリーブオイルなどの食品や、化粧品の加工など、栽培から加工・販売までを一貫体制で行っている。平成 29 年に店舗とレストランの複合施設「らしく園」を新設し、売店や飲食のほかハーバリウム（植物標本）やオリーブオイル作り等の「小豆島ならではの地域体験」と「島暮らしのストーリー」を国内外に発信している。

【教育上の効果】

経営者の井上氏は農業による地域活性化の成功者として、全国の農業関係者や地方経済界での講演も多いため、その理念に魅かれた首都圏の学生や移住者も多く働いている。活気ある職場風土のなかで、地域産業が地域で担う役割を学修し、地域資源を用いた商品の企画・開発、地域や産業のブランディングを行う方法論を学ぶことができる。

○金沢市経済局営業戦略部観光政策課(金沢市観光協会)

【概要（特色）】

金沢市は 30 余年前より、自然、継承された文化と新しい文化、伝統産業と先端産業、地域社会意識などが調和した、創造性に富み、国際性豊かな「国際的文化産業都市」を標榜している。観光に関しては、市民生活との調和を図りながら、アフター新幹線時代における産業観光の振興、交流人口と定住人口の増加、都市機能の発展との有機的つながりを意識した金沢市観光戦略プランに基づいた観光振興が展開されている。実習先である金沢市観光協会は、金沢版 DMO として、年間約 1000 万人が国内外から訪れる同地の観光地経営を担っている。同協会は DMO 発足以来、ウェブサイト「かなざわ自由時間」を公開し、金沢市の観光関連情報を網羅的に発信しているほか、観光客誘致のためのマーケティングやリサーチ、観光施設の整備拡充、観光資源の保存並びに利用・開発、観光客の利便に関する事業、旅行業法に基づく旅行業などの事業に従事している。

【教育上の効果】

実習では、国内外に名を馳せている多くの観光資源を有し、また、観光サービスも充実した金沢市の観光地経営を担う組織において、観光客応対や、地域と観光客を意識した観光事業業務に従事することから、個人ツーリストの来訪が非常に多い観光地の経営に求められる視点や技能・能力を涵養することができる。

○琴平バス

【概要（特色）】

琴平バス（通称：コトバス）は創業 60 余年のグループ企業で、貸切バス事業の展開をしており、子会社として新日本ツーリスト、四国巡拝センター、大庄屋を有している。本学実習生の受け入れ先はこのうち、琴平バス営業所（高松市）ならびに外国人観光客向け観光案内所 Kotori（ことり）（香川県琴平町）である。同営業所ではバスの管理や貸切バスによるバスツアー、団体バス旅行の企画運営業務を、同案内所では、金毘羅宮とその周辺の観光案内業務やガイドツアーのほか、近隣日帰りツアーバス（祖谷、父母ヶ浜等）やうどん検定合格の運転手が英語・日本語でガイドをするうどん屋めぐりのための UdonTaxi（うどんタクシー）の運行、レンタサイクルの貸し出しなどを行っている。

【教育上の効果】

移動手段のひとつであるバスを活用した、地域資源を最大限に生かした観光商品造成、販売、インバウンド観光客向けの商品提供に関わる業務に従事することから、実習を通じて、観光の複合的要素を視野に入れた観光事業の展開の必要性と、そのために観光振興専門職に必要な能力を理解し、修得することができる。

○セカンドステージ

【概要（特色）】

香川県高松市の奥座敷塩江温泉郷にあるホテルセカンドステージでは、豊かな自然の中で、讃岐うどん打ち体験や竹細工づくり、里山ならではの「あめごのつかみ取り体験」「地元漁師から学ぶいのしし丸焼き体験」など、地域住民と連携した数々の体験コンテンツを企画し、それを海外の旅行エージェントに直接販売している。同施設は香川県内有数のインバウンドに対して非常に積極的な宿であり、台湾や韓国からの旅行者を中心とした団体ツアー受け入れを行っている。また、日本各地のスポーツ少年団・修学旅行の合宿なども受け入れており、外国人や子ども達が様々な体験をすることができる塩江温泉郷の中心的施設となっている。

【教育上の効果】

地域住民との連携による様々な体験コンテンツが実施されていることから、これらコンテンツの運営実務を経験することでインバウンド観光客への対応やホスピタリティの技能修得が期待できる。また、新しい体験コンテンツの企画開発に参画することで、地域の魅力を発見・創出する方法や、商品の開発、商品化のプロセスなどを、実践を通じて学ぶことができる。さらに、アジアからの学生インターンも常時受入れていることから、異なる文化背景を持つ同世代と協働するなかで、国際感覚を身に付けることもできる。

○せとうち観光推進機構

【概要（特色）】

せとうち観光推進機構は、2013 年に瀬戸内沿岸の 7 県（兵庫県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県）により発足した瀬戸内ブランド推進連合を経て、日本政府の日本版 DMO 推奨により、2016 年 3 月に一般社団法人せとうち観光推進機構に発展改組された。マーケティングに基づく戦略を立て、瀬戸内の魅力を国内外の人々に発信することにより、新たな観光需要創造を目指している。

【教育上の効果】

ICT を活用したマーケティングや新規事業の開拓・企画、観光産業とのコラボレーションにより、地域の魅力を発見し発信するための方法論等について、実践を通じて、深く学修することができる。また、県内にとどまらず広域に活動しているため、広域の地域をブランディング・商品化して国内外に発信する手法を学び、地域の観光振興において DMO が担う役割を理解することができる。

○高松空港株式会社

【概要（特色）】

高松市の中心部から南へ約 15km の香南台地に、1989 年に開港した香川県の空の玄関口である。国管理空港では仙台に次ぐ第 2 号として、2018 年 4 月に民営化され、高松空港株式会社が滑走路やターミナルビル、貨物ビル、駐車場などを運営している。民営化に伴い、新千歳・成田・福岡空港等への新規就航・増便による LCC 拠点化や、東南アジアへの直行便の新規就航など航空ネットワークを拡大し、2022 年度には利用者数 260 万人、2032 年度には利用者数 307 万人を目指している。

【教育上の効果】

同社は高松空港を起点とした地域の魅力向上に取り組んでおり、地域と空港が共同で観光コンテンツの充実を図る取り組みを通じて、地域との連携について実践的に学修することができる。また「四国瀬戸内 No.1 の国際空港」を目標に複数の LCC の拠点化やターミナルビルの拡張、交通アクセスの改善など積極的な事業展開を行っていることから、高松空港を起点とした新規事業や企画に関する実践方法やその理論を身に付けることができる。

○直島町観光協会

【概要（特色）】

直島観光協会は、事務局を島の玄関口である直島家浦港（海の駅）に置き、島を訪れる国内外からの観光客の対応（案内、土産物販売、三菱マテリアル見学申込受付等）や観光商品（主に土産物）の商品化を行っている。同協会による道の駅施設内での土産物販売は、日本有数の売り上げ額を誇っている。また、数年前より、直島に面した瀬戸内海の海水を利用して天日による天然塩づくりに取り組んでおり SOLASHIO(ソラシオ)の名前で販売されている。これは多くの有名企業の株主優待商品等としても利用されて、人気を博している。同協会の運営は、直島町が直島アートサイトを運営するベネッセアートサイトや直島文化村と連携し行っている。アートの島として世界的に名を馳せるこの島には、近年、非常に多くの観光客

が来訪しており、ここ最近は瀬戸内国際芸術祭の期間中であるかどうかにかかわらず、約 70 万人が来訪している。

【教育上の効果】

直島というさまざまな業種・形態がある観光事業者を結び付ける観光協会における実務や理念を学ぶことができる。また、地域のブランド化やその情報発信、新たな魅力の創出といった、地域の観光振興に必要な創造力、実践力を学修することができる。

○三豊鶴

【概要（特色）】

三豊鶴は約 130 年以上続き、2005 年に廃業した三豊市にある酒蔵の跡地をリノベーションした、周辺の観光施設の補完的機能（飲食、娯楽、土産、体験など）を持った複合施設兼、コワーキングスペースのような交流とイノベーションを生み出す場所であり、地元若手事業者 5 名が共同出資し、運営している。この場所を活用した事業として、地域事業者や生産者と連携した地域の魅力発信イベントの企画運営、貸しスペース事業、酒蔵の雰囲気を味わうことのできる簡易宿泊施設運営、地域資源を活用した新規事業のプロデュースを展開している。2019 年 5 月から開催されている「地域食文化継承レストラン」は好評を博し、市内外から多くの利用者を獲得していて、リピーターが増えつつある。

【教育上の効果】

日々の業務や事業主の補助業務に従事することで、地域資源の利活用や再利用、商品開発とその販売に必要な能力や技能を理解し、修得することができる。また、小規模経営であるため事業主とも距離が近いことから、起業におけるポイントや経営手法などについて具体的な話を聞き、学ぶことが可能である。

○Mei PAM

【概要（特色）】

小豆島には、14 世紀頃に戦乱や海賊から逃れるため、細い路地を不規則に入り組ませた迷路のような町並みが残っている。Mei PAM ではその独特な路地において、元呉服屋の蔵や倉庫といった古い建物を活かしたアートギャラリー「妖怪美術館」や島の特産品を扱ったレストラン、カフェ、土産屋、雑貨屋を展開し、これらは小豆島の新たな観光名所となっている。

【教育上の効果】

地域の歴史や生活文化を守り、古い建物を利活用する取り組みを通して、地域の文化を再発見する観点や、それを活用する方法論を学ぶことができる。また、地域の魅力を活かしたブランディングによる地域活性化、観光誘致のプロセスについての学修が期待できる。

⑧「臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス）」の実習の目的

臨地実務実習ⅠおよびⅡでの実務経験とその後の学修成果を活かし、業務遂行に必要な高度な技能を修得することをめざす。本実習では、臨地実務実習Ⅱで基礎を築いた観光地経営とマネジメントやマーケティングに関わる知見や思考法を活用し、新規の事業計画や実行組織の立ち上げに実践的に挑戦することで、地域創生に関わる観光振興専門職として現場で活躍するのに必要不

可欠な思考力、実践力、協働力を養うことを目的としている。また、インバウンド観光客にも焦点をあて、応対に関する技術修得と、受入にあたっての課題把握と解決法などを実践的に学ぶ。「臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス)」における実習施設の概要（特色）及び教育上の効果は、「臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス)」と同様（125～130 ページに記載）である。

11-2 臨地実務実習科目とクラスの選択方法

本学本学科の臨地実務実習においては、1 年次第 3 クォーターの「観光支援ビジネス実務基礎論」「臨地実務実習Ⅰ」のクラス選択を行う必要がある。また、2 年次第 2 クォーターの進路別の臨地実務実習Ⅱにおいては、進路に合わせて 2 年次第 1 クォーターから始まる、臨地実務実習事前学修科目の授業科目（「観光実務基礎論（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス)」）及び「臨地実務実習Ⅱ（「航空クラス」「鉄道クラス」「宿泊クラス」「観光地域創生クラス」)」のクラスを選択する。さらに、2 年次第 4 クォーターの進路別の臨地実務実習Ⅲにおいては、進路に合わせて 2 年次第 3 クォーターから始まる、臨地実務実習事前学修科目の授業科目（「観光実務応用論（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス)」）及び「臨地実務実習Ⅲ（「航空クラス」「鉄道クラス」「宿泊クラス」「観光地域創生クラス」)」のクラスを選択する。これらのスケジュールは、概ね以下のとおり予定している。

① 4 月上旬　履修オリエンテーション時に合わせて、臨地実務実習Ⅰのガイダンスを実施する。
② 4 月中旬　履修相談会（就職の希望に関する面談を含む）を開催
③ 4 月下旬　学生が、個人の学修計画として「学びのプログラム（仮称)」を作成し、**教務・学生センター**に提出。同時に、臨地実務実習Ⅰのクラス選択希望を**教務・学生センター**に提出。
④ 5 月中旬　臨地実務実習Ⅰのクラスを決定する。
⑤ 翌年 1 月中旬　臨地実務実習Ⅱのガイダンスを実施する。
⑥ 翌年 2 月上旬　臨地実務実習Ⅱのクラス選択希望を**教務・学生センター**に提出。
⑦ 翌年 2 月下旬　臨地実務実習Ⅱのクラスを決定する。（教務委員会→学長決定）
⑧ 翌年 8 月上旬　臨地実務実習Ⅲのガイダンスを実施する。
⑨ 翌年 8 月中旬　臨地実務実習Ⅲのクラス選択希望を**教務・学生センター**に提出。
⑩ 翌年 8 月下旬　臨地実務実習Ⅲのクラスを決定する。（教務委員会→学長決定）

クラス分けにおいては、学生のクラス選択の希望に応じてできるだけ受け入れる方針だが、1 クラスの学生数の上限を 40 名と設定するとともに、クラス内のグループ分けは、臨地実務実習施設の受け入れの状況により調整する場合がある。この上限は、学修効果の保証と、臨地実務実習における実習施設の学生受入れ人数とを考慮して決定した。あるクラスの学生希望者が 40 名を越えた場合やグループの希望者が臨地実務実習施設の受入可能数を超える場合には、学生の選択理由や動機づけ、普段の学修態度、就職先の志向性等を勘案して、一部の学生と相談の上で、該当学生に第一希望の選択クラスの変更を指導する。

以上のようなクラス分けの実務作業は、主に教務委員会と**教務・学生センター**の職員によって履行され、最終的なクラス分けの決定は、教授会の意見を聞いて学長が決定する。

11-3 実習施設の確保の状況

(1)教育課程に必要な実習施設の確保

実習施設の数は、各臨地実務実習に割り振られる学生数の上限、実習全体のスケジュール、各団体の受け入れ可能人数等を勘案した結果として決定した。実習施設は、航空会社 8 社(10 施設)、鉄道会社 4 社（13 施設)、ホテル 13 社（16 施設)、旅館 8 社（11 施設)、旅行会社 1 社（1 施設)、その他の観光事業所 39 社（40 施設）の計 73 社（91 施設）であり、それらの実習施設は、本学が定める「臨地実務実習施設の選定基準」に基づき選定した。**(資料 49　臨地実務実習施設一覧)(資料 50 臨地実務実習施設の選定基準)**

臨地実務実習施設の実習指導者については、本学教育課程における臨地実務実習の目的と意義を理解したうえで、実習目的の実務に精通し、大学専門職業教育としての臨地実務実習を真摯に担当できる人材であることを条件とし、３年以上の実務経験を有することを確認したうえで、当該指導者が臨時実務教育の意味を理解し教育に対する適正な能力や姿勢等を具えているかを確認することとしている。（資料 70 臨地実務実習施設指導者の実務経験年数一覧）

いずれの実習施設においても、既に受け入れの「臨地実務実習施設使用承諾書」を得ている。実習の実施にあたっては、学生向けに実習の目的・目標、実習前から実習中、実習後に至るまでの学びの体系、実習時の服装や心構えなどの留意点、その他、緊急事態の対応やトラブル発生時の連絡先等を記載した実習要項（学生用）を作成する。また、実習施設に対しては、本学の教育理念や教育課程編成の考え方、養成する観光振興専門職の人材像、実習の目的、実習前から実習中、実習後に至るスケジュールの流れ、実習時間等の実習時の留意点、記録作成や評価方法、緊急連絡体制、実習期間中の担当教員による巡回指導、実習前及び実習後での意見交換等について記載した実習要項（実習施設用）を作成し、それぞれの実習施設に配布する。

(2)今後の臨地実務実習の継続的かつ安定的な確保の方策とその体制

今後の臨地実務実習の継続的かつ安定的な確保のための実習先に対する実習成果等の還元については、「専門職大学等の臨地実務実習の手引き」（文部科学省高等教育局専門教育課）にあるように、実習生の指導にあたる従業員にとっては、未経験の者に自らの知識や技術、勘やコツを教える経験がこれらの可視化・形式知化につながり、更なる能力向上の機会ともなり得ることや学生の自由なアイデア・発想は、組織の多様化・活性化の触媒ともなり、イノベーションの契機をもたらす可能性もあること、就職後のミスマッチの防止や企業・団体等の知名度・イメージの向上につながる可能性もあることなどが考えられるが、これらについては臨地実務実習施設の新規開拓の際に、丁寧に説明している。

本学では、これらに加えて、年１回程度、臨地実務実習施設懇談会（仮称）を開催し、企業・団体等がこれに参加することで、本学と企業・団体等とのコミュニケーションの円滑化を図ることはもとより、企業・団体等相互の連携強化の機会としていきたい。また、本学学生と企業・団体等が連携した新商品や旅行プラン、地域資源の掘り起こしや広報プランなどの開発が可能であることが考えられる。

これらをフォローする本学の体制については、以下の①～⑧のように体制を整備し、それぞれ

がその役割を果たし、責任を負う。**（資料 71 臨地実務実習等に関する組織体制図）**

①臨地実務実習を含む産学連携・地域連携に関する事項の統括責任は、大学運営本部及び本部長である学長が負うものとする。

②学長は、臨地実務実習の運営に関して教育課程連携協議会の意見を聞くものとする。

③副本部長である副学長及び学長補佐は、学長をサポートする。

④観光振興学科は、臨地実務実習施設の開拓から実施に関する企画・立案を行う。

⑤観光振興学科に、実習運営委員会を置き、臨地実務実習を実施し、現場としての責任を負う。実習運営委員会には、実務系の実習担当教員に加え、学術系の若手教員が参画し、その機動力を生かして実務系教員を側面から支援する。

⑥せとうち観光学研究所は、その専門的見地や研究成果を踏まえて、観光振興学科に対し臨地実務実習施設の選定及び開拓に関する助言を行うとともに、自治体・企業・団体等に対して、提案・提言を行い、有識者会議・協力者会議等への参画の要請に応える。

⑦産学連携・地域連携センターにおいては、自治体・企業・団体等の窓口となり、働きかけや説明から連携協定の締結及びそのフォローアップに関する現場責任を負う。

⑧臨地実務実習の実施に当たっては、本学教員と、企業・団体等の責任者及び指導者の間で実習調整会議を開催し、事前協議及び事後協議を行う。

⑶臨地実務実習施設のさらなる充実の方針

本学は、教職員のネットワークの活用や学校法人穴吹学園と関連する企業、産業団体や商工会議所等との連携を強化するとともに、教育課程連携協議会の構成員が所属する企業・団体等とも教育目標を共有しながら、臨地実務実習施設を今後も継続的に増やしていく。その際、以下のような方針とフォローアップ体制を構築する。

①観光振興学科においては、臨地実務実習の授業内容・方法と照合し、その改善を常に視野に入れて、随時、臨地実務実習施設の新規開拓候補のリストアップを行う。

②特に香川県以外を含めた瀬戸内地域においては、今後も道の駅等の開設計画があるため、これらを適時適切に捉えることにより、臨地実務実習施設の新規開拓に努めることとする。

③せとうち観光学研究所においては、瀬戸内地域内外の観光振興及び観光による地域創生事業の成功事例や調査・研究の成果を踏まえ、随時、観光振興学科に対して臨地実務実習施設の新規開拓のための助言を行う。

④学長が教育課程連携協議会（年2回）の意見等を聞いて、新規開拓候補を決定する。

⑤教員と職員が一体となった産学連携・地域連携センターが窓口となり、新規開拓候補の企業・団体等に対して、働きかけと説明を行い、先方の承諾を得る。

⑥先方から臨地実務実習への協力の申し出があった場合には、観光振興学科、せとうち観光学研究所、産学連携・地域連携センターがすみやかに調査・協議して、学長に対応を提案する。

(4)実習中の教員の指導

実習中は、各実習担当教員が実習施設に出向き、学生の実習現場を観察し、実習施設の担当者との意見を交換して、学生の実習状況を確認する。巡回頻度は実習内容によって異なり、臨地実務実習Ⅰにおいては、実習担当の全教員が分担し、２週間に１回巡回指導を行う。また、臨地実務実習Ⅱ及びⅢの航空クラスは３名の教員が、宿泊クラス、観光地域創生クラスにおいては、２名の教員が分担し、３週間に１回、実習施設にて巡回指導を行う。また、鉄道クラスでは２名の教員が週に１回実習施設にて巡回指導を行う。**(資料 51 せとうち観光専門職短期大学臨地実務実習 実施スケジュール)(資料 52 せとうち観光専門職短期大学臨地実務実習　巡回指導計画)**

なお、巡回指導を補うため、学生は実習期間中活動日誌を作成し、実習施設の指導者の確認の後、それらを写真等におさめ、本学の実習担当教員に、定期的にメール等で送信することとする。**(資料 53 臨地実務実習　活動日誌)**

実習担当教員は、実習施設担当者に実習運営上の課題等についても聞き取りをして、緊急性を要する課題については迅速に対応する。各実習の課題や実習全体の運営に関わる課題については、各実習担当教員間で情報を共有すると同時に、学科内に設置する「実習運営委員会」を随時開催して、課題の改善策を検討し、実習施設とも協議の上で、即座に改善策を実施する。また、実習担当教員は、巡回時に限らず、実習施設担当者と毎週定期的に電話やメール等で連絡を取り、実習の進捗状況を確認する。実習施設を巡回する移動方法は、香川県内や四国や小豆島といった近隣地域の実習施設については公用車を用い、成田、金沢、京阪、福岡、沖縄等の遠方地域については、鉄道や航空を利用する。

臨地実務実習を担当する専任教員７名のうち、安本幸博、小島英夫、石床　渉、堀田明美、阿部有香の５名が多忙となると思われるが、この５名の平均年齢は、59.4 歳であり、本学の教員の定年規程の基準を 5 歳下回っている。

この５名のうち、65 歳以上となる者は小島英夫、堀田明美の２名である。小島英夫は、都市部の大規模ホテルでの実務経験を有し、かつ地元ホテルの経営者として、宿泊産業の現場における業務全般について精通しているだけでなく、経営的観点から総合的に業務を推進してきた経験を有しており、学生指導のための事前準備や評価等における負担は過度のものではない。また、現在も臨地実務実習施設への協力依頼や実習内容の打合せ等に事務職員とともに出向いており、遠隔地への巡回指導においても問題はないと考えている。また、堀田明美は、航空会社において長く客室乗務員として勤務した経験があり、航空産業の業務全般に精通しており、学生指導のための事前準備や評価等における負担は過度のものではなく、航空クラスの巡回指導のための遠隔地への巡回指導においても問題はないと考えている。臨地実務実習を担当する専任教員の負担は、以下のとおりとなる。(資料 66 専任教員個人別時間割)（資料 67 専任教員の担当授業コマ数一覧)

臨地実務実習を担当する実務家教員の負担については、週によりばらつきがあるため、各クォーターにおける１週あたりのコマ数について記述する。なお、学内における学生の活動報告書の確認等のために週に1コマを必要とし、巡回指導については移動時間を含めて、半日で実施する場合は3コマ、日帰りの場合には5コマ、1泊2日の場合は10コマ、2泊3日の場合は15コマを必要する

ものとして計算しているが、最大でも週に20コマを超えないように設定している。また、このデータの１週間の平均担当時間数は、1授業時間数を45分で算出している。

① 安本幸博は、１年間の担当授業コマ数が206コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.4コマとなる。これを時間に換算すると週12.8時間となる。本学はクォーター制を採用しているが、第１クォーターは臨地実務実習がなく、1年次「観光リスクマネジメントB」、2年次「観光実務基礎論」（後半4週）、3年次「観光実務マネジメント論」（前半4週）「専門演習」の1週あたり4科目5コマ（8週目のみ4コマ）を担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」、の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「観光実務発展論」（前半4週）「観光実務応用論」（後半4週）、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても9コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。

② 小島英夫は、１年間の担当授業コマ数が216コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.8コマとなる。これを時間に換算すると週13.6時間となる。本学はクォーター制を採用しているが、第１クォーターは臨地実務実習がなく、3年次「専門演習」のみの1週あたり1科目1コマを担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、3年次「専門演習」の3科目を担当し、前半4週は3コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても12コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。

③ 石床　渉は、１年間の担当授業コマ数が208コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.5コマとなる。これを時間に換算すると週13.0時間となる。本学はクォーター制を採用しているが、第１クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「観光実務基礎論」（後半4週）、3年次「観光実務マネジメント論」（前半4週）「専門演習」の1週あたり3科目3コマを担当することとなる。第2クォーターは、1年次「ホスピタリティ実務実習B」2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」「宿泊産業論」の4科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「観光実務発展論」（前半4週）「観光実務応用論」（後半4週）、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。

④ 青木義英は、１年間の担当授業コマ数が102コマであり、1週当たりの平均担当コマ数3.2コマ

となる。これを時間に換算すると週6.4時間となる。本学はクォーター制を採用しているが、第１クォーターは臨地実務実習がなく、1年次「ホスピタリティマネジメント論A」、2年次「キャリアデザイン論B」の1週あたり2科目4コマ（第8週目のみ2コマ）を担当することとなる。第2クォーターは、1年次「観光リスクマネジメントA」2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で16コマに留めている。第3クォーターは、2年次「キャリアデザイン論A」の1科目のみを担当する。第4クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）を担当するが、巡回指導には赴かないため、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は1コマとなっている。

⑤ 堀田明美は、１年間の担当授業コマ数が208コマであり、1週当たりの平均担当コマ数6.5コマとなる。これを時間に換算すると週13.0時間となる。本学はクォーター制を採用しているが、第１クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「キャリアデザイン論B」「ビジネスコミュニケーション」、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「キャリアデザイン論B」については、2、8、15コマ目を担当するのみであるため、1週あたり平均3.3コマを担当することになる。第2クォーターは、1年次「ホスピタリティ実務実習A」「ホスピタリティマネジメント論B」、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」の4科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「キャリアデザイン論A」、3年次「専門演習」の4科目を担当するが、「キャリアデザイン論A」については、2、8、15コマ目を担当するのみであるため、前半4週は1週あたり平均3.5コマであり、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務発展論」（前半4週）、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で14コマに留めている。

⑥ 古川康造は、１年間の担当授業コマ数が87コマであり、1週当たりの平均担当コマ数2.7コマとなる。これを時間に換算すると週5.4時間となる。第１クォーター及び第3クォーターは担当する授業科目はない。第2クォーターは、3年次「地域創生事業論」と2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第4クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅲ」（6週）を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。

⑦ 阿部有香は、１年間の担当授業コマ数が188コマであり、1週当たりの平均担当コマ数5.9コマとなる。これを時間に換算すると週11.8時間となる。本学はクォーター制を採用しているが、第１クォーターは臨地実務実習がなく、2年次「観光実務基礎論」（後半4週）、3年次「観光実務マネジメント論」（前半4週）「専門演習」の1週あたり3科目3コマを担当することとなる。第2クォーターは、2年次「臨地実務実習Ⅱ」（6週）3年次「専門演習」の2科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅱ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。第3クォーターは、1年次「観光支援ビジネス実務基礎論」（前半4週）「臨地実務実習Ⅰ」（3週）、2年次「観光実務発展論」（前半4週）「観光実務応用論」（後半4週）、3年次「専門演習」の5科目を担当し、前半4週は5コマ、後半4週は臨地実務実習を含めても最大で14コマ以内に留めている。第4クォーターは、1年次

「観光支援ビジネス実務発展論」(前半4週)、2年次「臨地実務実習Ⅲ」(6週)、3年次「専門演習」の3科目を担当するが、「臨地実務実習Ⅲ」に係るコマ数は最大で11コマに留めている。

（資料 66 専任教員個人別時間割）（資料 67 専任教員の担当授業コマ数一覧）

観光分野における教員の１週間の平均担当授業時間数が適切な分量であるかを確認するため、私立大学で観光学部を設置している大学において、代表的な存在である立教大学における 2016 年度の教員の１週間の平均担当授業時間数を確認したところ、立教大学観光学部の教員の１週間の平均担当授業時間数は、職位別で、教授 14.5 時間、准教授 17.3 時間、講師データなし（隣接分野の経営学部では 13.0 時間)、助教 10.0 時間で、全体平均では 13.7 時間となっている。

本学の臨地実務実習を担当する実務家教員の１週間の平均担当授業時間数とこれらを比較すると、本学の臨地実務実習を担当する実務家教員の１週間の平均担当授業時間数は、立教大学観光学部の職位別及び全体平均の時間数を下回っている。よって、本学の臨地実務実習を担当する実務家教員の１週間の平均担当授業時間数は適切な分量であると判断している。**（資料 73　立教大学大学基礎データ 2016 年度（抄））（資料 74　教員の１週間の平均担当授業時間数の比較表）**

11-4 実習水準の確保の方針

(1) 実習の内容

①「臨地実務実習Ⅰ」の到達目標と実習計画

①-1「臨地実務実習Ⅰ」の到達目標

本実習の実習施設は、香川県内の観光地において観光産業を牽引する、地域性（歴史、風土、気候等）を色濃く反映した、一流の商品やサービス、体験を提供し続ける企業・施設である。本実習では、以下の実習内容に沿った実習を遂行することで、実習施設における業務と業務遂行に必要な技能を十分理解し、実習施設が実習地において担う役割と、実習地における観光に関する現状と課題を的確に把握することを目指す。これは、観光振興専門職に必要となる実践力と協働力、及びその土台となる思考力の涵養を目指すものである。

【到達目標 1】 事前学修した理論や知見、状況把握・課題発見の手法を活用し、実習施設が所在する地域と当該地における観光産業の特徴や現状と課題を的確に理解し、それについて他者にわかりやすく伝えることができる。

【到達目標 2】 実習施設業務の基本的な補助業務については単独で安全に遂行できる。

【到達目標 3】 各施設での様々な仕事の流れの中で自身の与えられた役割を理解し、周囲の人からの指示や示唆を受け入れ、的確に目標を遂行できる。

【到達目標 4】 提供されるオリジナル商品や観光サービスの製造工程ならびにそれを魅力ある商品・サービスとするための実行組織のあり方や役割分担について、実習により体得し、説明することができる。

【到達目標 5】 チームでのコミュニケーションを理解し、他者と協調・協働して行動できる。

①-2「臨地実務実習Ⅰ」の実習の内容

❶実務実習（1 週目）：実習施設に関する基礎的理解、業務遂行に必要な能力の理解

（初日）
・経営者ならびに実習指導者より施設の概要、経営理念について説明を受け、実習施設について理解を深める。実習参加学生は事前に同施設や同施設の事業について学修しているので、その情報との整合性を確認する。
・この実習中の到達点のすり合わせを行い、そのためにどのような実習に取り組むのか実習指導者と参加学生双方で確認する。実習施設の確認もあわせて行う。
（2 日目以降）
・実習施設の業務に補助的立場で関わることで、当該施設における業務の大枠とその業務遂行に必要な能力を理解する。その際、製造・サービス業の基礎である服装，挨拶，礼儀正しい周囲への態度に留意する。チームワークや適切なコミュニケーションの手段・報連相（報告・連絡・相談）を意識的に実践する。

❷実務実習 2 週目：業務遂行に必要な力の涵養、実習地における実習施設の役割・位置づけの理解、実習地に関する理解
・引き続き、実習施設の補助的業務に関わり、当該施設における業務遂行に必要な能力の基礎を学ぶ。
・実習施設の実習地での役割について分析する。そのための手がかりとして、第 2 週前半で、経営者もしくは実習指導者より（指導者から見た）実習施設の実習地での役割について説明を受ける。このほか、実習生が経営者、実習指導者をはじめとする地域関係者に適宜インタビューを行ったり、業務遂行をしながら観察をし、分析に必要なデータを収集する。
・実習地の特徴と課題把握のために、業務を遂行しながら、地域状況の観察も行う。可能な範囲で、自治体関係者より実習エリアに関するレクチャー（基礎情報、総合計画と現状、課題、観光施策等）を提供してもらい、現状把握を進める。
❸実務実習 3 週目：業務遂行に必要な力の修得、実習地における実習施設の役割・位置づけと実習地の特徴分析
・実習施設の補助的業務に関わり、当該施設における業務遂行に必要な能力の基礎を修得する。
・実習施設の実習地での役割と実習地の特徴や課題を自分なりに整理する。
・最終日の報告に向けたプレゼンテーション準備を行う。
（最終日：1～2 時間程度）
・実習の振り返りを行う。初日に確認した到達点への到達状況の確認をするほか、実習生より、実習地における実習施設の役割・位置づけと実習地の特徴の分析結果をプレゼンテーションし、実習指導者ほか受け入れに関わってくださった方々と意見交換を行う。

（資料 54 臨地実務実習クラス別実習計画書）

①-3「臨地実務実習Ⅰ」の実習施設指導者の評価

本学の「実習施設指導者による臨地実務実習の評価」については、実習施設の業種や業務に関わらず、学生が修得すべき能力を一般化して評価することを中心とする。具体的には、実習によ

り体得すべき「A 実践力」及び「B 協働力」を主体として、その土台となる「C 思考力」についても評価する。また、それぞれの能力の下には、具体的に修得すべき技能や知識を「実務知識技能」「安全確保」「ホスピタリティ」「チームワーク」「リーダーシップ」「変革と新しい価値創造」「職業倫理」「経営の視点」のように細分化して定める。臨地実務実習施設の業種や業務ごとの評価については、それぞれの到達目標の達成度を評価することにより行うものとする。

（資料 55　臨地実務実習施設指導者評価書）

②「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（航空クラス）」の到達目標と実習計画

②-1「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）」の到達目標

以下の各目標項目を達成することにより、「観光実務基礎論（航空クラス）」等の事前学修による理論に裏付けられた実践力を身に付け、将来、観光関連の就職先等において、ビジネスのイノベーション、並びに新たな需要/マーケット開発を牽引し得る能力を涵養する。

【到達目標１】空港における航空会社国内線旅客運送業務の専門知識を身に付けた上で、基本動作については単独で遂行するとともに問題解決の方向性について自分自身の考え方を説明することができる。

【到達目標２】現場における基本動作の実践を通じ、航空事業の大前提となる”安全”の重要性を体得した上で、航空事業の根幹としての”安全”の意味をマネジメントの立場からも理解できる。

【到達目標３】内外の多様な乗客に対面でのサービス実践を通して、将来他の観光産業分野においても通用し得るレベルのホスピタリティを体得した上で、地域観光振興の視点から、航空事業の存在意義や課題を自ら考察することができる。

【到達目標４】空港における実務体験を通して、航空事業全体における空港現場の位置づけ、各現業実務の重要性等を、マネジメントの立場からも理解することができる。

【到達目標５】国内線航空事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等について、自らの固有のアイデアを発表することができる。

②-2「臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）」の実習の内容

空港における実務実習① ― 国内線ディパーチャー実務（実習の期間：計３週間）

❶空港における国内線ディパーチャー実務体験準備（２日間）

空港国内線現場実習Ⅰ― 国内線ディパーチャー実務に向けて、受け入れ企業側のトップマネジメント（支社長・支店長など）より、エアラインビジネス全体における国内線事業の重要性や位置づけ、空港国内線実務実習を行う上での心構え等についてトップマネジメントの生の声を聴き、経営の視点から見たエアラインビジネスの基本理念やフィロソフィーを直接学ぶ。また、受け入れ企業側の実務リーダーの案内に基づき空港の官庁組織や各関連施設／設備等の実際の役割・機能を、事前学修した理論と照らし合わせ確認しながら更に理解を深化させる。

・国内線ディパーチャー実務の重要性や位置づけを、実務担当者のみならず経営者の立場からも

理解できるよう、経営としての考え方やフィロソフィー等を学修する。
・企業側の実務リーダーからの説明を、事前学修した理論に照らし合わせながら理解を深めるとともに、特に安全に関わる基本姿勢と注意事項を再確認する。
・空港内国内線ディパーチャー関連施設設備の概要、各組織別担務、空港到着からセキュリティエリア通過までの旅客の流れ，特に国内線ディパーチャー業務で留意すべき顧客サービス、その他の専門知識について、受入れ企業側の実務リーダーから説明を受ける。
・安全、安心に関わる事前実習として、非常時の緊急連絡、テロ/爆破予告等への対応、乗客の避難誘導、緊急看護、自己の身を守る技術等について、事前学修した理論に基づきながら実地訓練実習を実施する。また、日本語を解さない乗客、高齢者、ハンディキャップを持つ乗客等への対応をロールプレイ等も含めた実習で学修する。

❷空港における国内線ディパーチャー実務実習（実習の期間：３週間 ）

国内線ディパーチャー業務の中の各実務アクションを、事前学修した理論にひとつひとつ実際に照らし合わせながら、その機能や意味合いの理解を更に深化させる。
◎国内線ディパーチャー業務実務実習　（実習施設空港の国内線乗客到着から、チェックイン／出発案内／セキュリティエリア通過まで）
・空港に至る迄の旅客の流れ（営業→予約→航空券購入→空港）の基礎について、事前学修した理論に基づき国内線ディパーチャー現場での実習も交えながら実務を学修する。
・国内線予約業務全般（予約クラスの違いと特色、各種運賃の特性、プライオリティゲスト、ファミリーサービス、プロトコール、予約システム操作、オンライン予約等）の国内線基礎実務をディパーチャー現場での実習も交えながら学修する。
・航空券の種別、主な運賃体系、運賃種別毎の制限事項、旅行代理店への座席リリース、レベニューマネジメント、発券、受託・機内持ち込み手荷物の取り扱い、制限品・危険物の取り扱い、機種毎の航空機材特性等の国内線基礎実務をディパーチャー現場での実習も交えながら学修する。
・空港における出発時のセキュリティ検査、及び関連法規の基礎実務について、国内線ディパーチャー現場での実習も交えながら学修する。
・チェックインシステムの操作方法、及び座席仕訳及び団体の取り扱い等に関わる基礎実務について、国内線ディパーチャー現場での実習も交えながら学修する。
・実習施設実務指導者とともに、各自が国内線チェックインカウンターに立ち、旅客対応を含めたチェックインの実務を 0JT 方式で体験する。また、事前学修した理論を実際に乗客への対面サービスに活用し、ホスピタリティの実践能力を修得する。
・実務実習経験を踏まえた国内線に関わる新規事業/新たな需要・マーケット開発、並びにＩＴ等を活用したイノベーション等について、実習施設指導者を交えたブレーンストーミング/意見交換会を実施する。
・国内線ディパーチャー業務最終日：実務実習の振り返りと纏め

空港における実務実習② ― 国内線トラフィック・アライバル実務実習（実習の期間：計３週間）

❶空港における国内線トラフィック・アライバル実務体験準備実習（２日間）

空港現場実習 ― 国内線トラフィック・アライバル実務に向けて、受け入れ企業側のトップマネジメント（支社長・支店長など）より、国内線事業における地域振興への貢献、社会構造の変化を睨んだイノベーション、或いは経営の視点から見た国内線ビジネスの基本理念やフィロソフィー等を直接学び、事前学修した理論と照らし合わせ確認しながら更に理解を深化させる。

・国内線トラフィック・アライバル実務の重要性や位置づけを、実務担当者のみならず経営者の立場からも理解できるよう、経営としての考え方やフィロソフィーを学修する。
・受入れ企業側の実務リーダーからの説明を、事前学修した理論に照らし合わせながら理解を深めるとともに、特に安全に関わる基本姿勢と注意事項を再確認する。
・国内線に関わる空港内トラフィック・アライバル関連施設設備の概要、各組織別担務、国内線出発セキュリティ検査場通過から航空機搭乗、及び航空機降機から、受託手荷物の引き渡し、空港離脱までの乗客の流れ、特に国内線トラフィック・アライバル業務で留意すべき顧客サービス、その他の専門知識について、受入れ企業側の実務リーダーから説明を受ける。
・安全、安心に関わる実習前実習として、非常時の緊急連絡、テロ/爆破予告等への対応、乗客の避難誘導、緊急看護、自己の身を守る技術等について、事前学修した理論に基づきながら実地訓練実習を実施する。また、日本語を解さない乗客、高齢者、ハンディキャップを持つ乗客等への対応をロールプレイ等も含めた実習で学修する。

❷空港における国内線トラフィック・アライバル実務実習（実習の期間：３週間 ※前述の実務体験準備の２日と後述の実務体験後報告会１日間を含む）

国内線トラフィック・アライバル業務の中の各実務アクションを、事前学修した理論にひとつひとつ実際に照らし合わせながら、その機能や意味合いの理解を更に深化させる。

◎国内線トラフィック業務実務実習（実習空港の国内線セキュリティー検査場通過後から航空機搭乗まで）

・国内線トラフィック業務の主な活動領域となるエリア（上述）における留意事項等について、事前学修した理論を踏まえながら、トラフィック現場での実習を通して実践的に学修する。
・乗客の動線上国内線トラフィック業務の次行程となる航空機内（＝客室）の基礎実務について、トラフィック現場での実習を交えながら学修する。
・実務指導者とともに、実際の乗客対応を含めた国内線トラフィック実務を 0JT 形式で経験することで、ホスピタリティの実践能力を体得する。
・国内線トラフィック業務最終日：実務実習の振り返りと纏め

◎国内線アライバル業務実務実習　（実習施設空港の国内線航空機到着から、受託手荷物引き渡しエリア、到着案内、手荷物事故対応エリア、乗客の空港離脱までのエリアまで）

・空港における国内線到着時の諸手続き、及び関連法規の基礎実務について、事前学修した理論を再確認しながら、アライバル現場での実習も交え学修する。
・受託手荷物の引き渡し、ダメージ・ロスト受託荷物の取り扱いの基礎実務について、国内線アライバル現場での実習も交えながら学修する。

・実務指導者とともに、実際の乗客対応を含めた国内線アライバル実務を 0JT 形式で経験することで、ホスピタリティの実践能力を体得する。
・国内線到着旅客に対するゼネラルインフォメーション（観光案内、交通案内他、滞在中に必要な諸情報）提供を通して、事前学修した理論に照らしながらホスピタリティの実践を修得する。
・実務経験を踏まえた国内線トラフィック・アライバルの両業務に関わる新規事業/新たな需要・マーケット開発、並びにＩＴ等を活用したビジネスイノベーション等について、実習施設指導者を交えたブレーンストーミング/意見交換会を実施する。
・国内線アライバル業務最終日：実務実習の振り返りと纏め

❸空港国内線における実務体験後実習（1 日間）

空港国内線実務実習最終日：経験した各実務の意義、課題、反省点などについて報告会を行う。この報告会には、実習施設実務担当者を配置して、適宜助言や指導を実施する。また、受入れ企業の現場トップ（支店長、支社長等）からの訓話を受け、マネジメントとしての哲学、理念、考え方を学ぶ。 **（資料 54 臨地実務実習クラス別実習計画書）**

②-3「臨地実務実習Ⅲ（航空クラス）」の到達目標

以下の各目標項目を達成することにより、「観光実務応用論」等の事前学修による理論に裏付けられた実践力を身に付け、将来、観光関連の就職先等において、ビジネスのイノベーション、並びに新たな需要/マーケット開発を牽引し得る能力を涵養する。

【到達目標１】空港における航空会社国際線旅客運送業務の専門知識を身に付けた上で、基本動作については単独で遂行するとともに問題解決方法について自分自身の考え方を説明することができる。

【到達目標２】現場における基本動作の実践を通じ、航空事業の大前提となる”安全”の重要性を体得した上で、航空事業の根幹としての”安全”の意味をマネジメントの立場からも理解し、自ら行動することができる。

【到達目標３】インバウンド旅客を含めた多様な乗客への対面でのサービス実践を通して、他のいかなる観光産業分野においても通用するレベルのホスピタリティを体得した上で、広域観光振興の視点から、航空事業の存在意義や課題を自ら考察し説明することができる。

【到達目標４】空港における実務体験を通して、航空事業全体における空港現場の位置づけ、各現業実務の重要性等を、マネジメントの立場からも理解し、自分の言葉で説明することができる。

【到達目標５】安全・安心の確保、或いはハンディキャップを持つ乗客への対応、特に多国籍/多宗教の乗客への対応等、交通業の中でも特に航空業が高い水準で実現している分野の仕組み、考え方、現業部門のモチベーション等を現場で実践し、他の交通機関においても実践できる。

【到達目標６】国際線航空事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等につ

いて、自らの固有のアイデアを発表することができる。

②-4「臨地実務実習Ⅲ（航空クラス）」の実習の内容

空港における実務実習① ― 国際線ディパーチャー実務（実習の期間：計３週間）

❶空港における国際線ディパーチャー実務体験準備（２日間）

空港国際線現場実習Ⅰ― 国際線ディパーチャー実務に向けて、受け入れ企業側のトップマネジメント（支社長・支店長など）より、エアラインビジネス全体における国際線事業の重要性や位置づけ、空港国際線実務実習を行う上での心構え等についてトップマネジメントの生の声を聴き、経営の視点から見たエアラインビジネスの基本理念やフィロソフィーを直接学ぶ。また、受け入れ企業側の実務リーダーの案内に基づき国際空港のＣＩＱ（税関・出入国管理・検疫）組織や各関連施設／設備等の実際の役割・機能を、事前学修した理論と照らし合わせ確認しながら更に理解を深化させる。

・国際線ディパーチャー実務の重要性や位置づけを、実務担当者のみならず経営者の立場からも理解できるよう、経営としての考え方やフィロソフィー等を学修する。
・企業側の実務リーダーからの説明を、事前学修した理論に照らし合わせながら理解を深めるとともに、特に安全に関わる基本姿勢と注意事項を再確認する。
・空港内国際線ディパーチャー関連施設設備の概要、各組織別担務、空港到着からセキュリティ検査場／出国ＣＩＱ通過までの旅客の流れ，特に国際線ディパーチャー業務で留意すべき顧客サービス、その他の専門知識について、受入れ企業側の実務リーダーから説明を受ける。
・安全・安心に関わる事前実習として、非常時の緊急連絡、テロ/爆破予告等への対応、乗客の避難誘導、緊急看護、自己の身を守る技術等について、事前学修した理論に基づきながら実地訓練実習を実施する。また、日本語を解さない乗客、異なる文化を持つ乗客、高齢者、ハンディキャップを持つ乗客等への対応をロールプレイ等も含めた実習で学修する。

❷空港における国際線ディパーチャー実務実習（実習の期間：３週間 ※前述の実務体験準備２日を含む）

国際線ディパーチャー業務の中の各実務アクションを、事前学修した理論にひとつひとつ実際に照らし合わせながら、その機能や意味合いの理解を更に深化させる。

◎国際線ディパーチャー業務実務実習　（実習施設空港の乗客到着から、チェックイン／旅券・査証等の有効性確認／出国手続き案内／セキュリティ検査場／出国ＣＩＱ通過まで）

・空港に至る迄の旅客の流れ（営業→予約→航空券購入→空港）について、事前学修した理論に基づき国際線ディパーチャー現場での実習も交えながら実践面を学修する。
・国際線予約業務全般（予約クラス・クラス別機内サービスの違いと特色、各種運賃の特性、プライオリティゲスト、宗教・主義・健康上の制限等に配慮した特別機内食オーダー、ファミリーサービス、プロトコール、アライアンス・予約システム操作、オンライン予約等）の国際線基礎実務をディパーチャー現場での実習も交えながら学修する。
・航空券の種別、主な運賃体系、運賃種別毎の制限事項、旅行代理店への座席リリース、レベニューマネジメント、発券、受託・機内持ち込み手荷物の取り扱い、制限品・危険物の取り扱い、

機種毎の航空機材特性等の国際基礎実務をディパーチャー現場での実習も交えながら学修する。
・空港における国際線出発時のセキュリティ検査、及び出国に関わるＣＩＱ（税関・出国管理業務)、関連法規の基礎実務について、ディパーチャー現場での実習も交えながら学修する。
・搭乗旅客の旅券、国籍に応じた渡航先査証等の有効性を確認する。保有航空券と予約の整合性、特別機内食の有無、車椅子等特別支援の要否を確認し、必要に応じ手配する。
・乗継、途中降機、帰着等のスケジュールを確認し、必要に応じ座席・受託手荷物のスルーチェックを手配する。
・機内持ち込み手荷物の制限、セキュリティチェック、出国審査、搭乗ゲート、搭乗時刻等について案内する。
・チェックインシステムの操作方法、及び座席仕訳及び団体の取り扱い等に関わる基礎実務について、国際線ディパーチャー現場での実習も交えながら学修する。
・各自 0JT 形式で実際の国際線チェックインカウンターに立ち、旅客対応を含めたチェックインの実務を 0JT 実務指導者とともに経験する。また、事前学修した理論を実際に乗客への対面サービスに活用し、ホスピタリティの実践能力を修得する。
・実務実習経験を踏まえた国際線に関わる新規事業/新たな需要・マーケット開発、並びにＩＴ等を活用したイノベーション等について、実習施設指導者を交えたブレーンストーミング/意見交換会を実施する。
・国際線ディパーチャー業務最終日：実務実習の振り返りと纏め

空港における実務実習②―国際線トラフィック・アライバル実務実習（実習の期間：計３週間）

❶空港における国際線トラフィック・アライバル実務実習準備（２日間）

空港現場実習Ⅱ ― 国際線トラフィック・アライバル実務に向けて、受け入れ企業側のトップマネジメント（支社長・支店長など）より、国際線事業における地域振興への貢献、社会構造の変化を睨んだイノベーション等について生の声を聴き、経営の視点から見た国際線ビジネスの基本理念やフィロソフィーを直接学び、事前学修した理論と照らし合わせ確認しながら更に理解を深化させる。

・国際線トラフィック・アライバル実務の重要性や位置づけを、実務担当者のみならず経営者の立場からも理解できるよう学修する。
・受入れ企業側の実務リーダーからの説明を、事前学修した理論に照らし合わせながら理解を深めるとともに、特に安全に関わる基本姿勢と注意事項を再確認する。
・国際線に関わる空港内トラフィック・アライバル関連施設設備の概要、各組織別担務、出国セキュリティ検査場通過から航空機搭乗、及び航空機降機から空港離脱までの乗客の流れ，特に国際線トラフィック・アライバル業務で留意すべき顧客サービス、その他の専門知識について、受入れ企業側の実務リーダーから説明を受ける。
・安全・安心に関わる事前準備として、非常時の緊急連絡、テロ/爆破予告等への対応、乗客の避難誘導、緊急看護、自己の身を守る技術等について、事前学修した理論に基づきながら実地訓練実習を実施する。また、インバウンド旅客を中心とする日本語を解さない乗客、高齢者、ハンディキャップを持つ乗客等への対応をロールプレイ等も含めた実習で学修する。

❷空港における国際線トラフィック・アライバル実務実習（実習の期間：３週間 ※前述の実務体験準備の２日と後述の実務体験後報告会１日間を含む）

国際線トラフィック・アライバル業務の中の各実務アクションを、事前学修した理論にひとつひとつ実際に照らし合わせながら、その機能や意味合いの理解を更に深化させる。

◎国際線トラフィック業務実務実習（空港の国際線セキュリティ検査場／ＣＩＱ通過後から航空機搭乗まで）

・国際線トラフィック業務の主な活動領域となるエリア（上述）における留意事項等について、事前学修した理論を踏まえながら、トラフィック現場での実習を通して実践的に学修する。
・乗客の動線上国際線トラフィック業務の次行程となる航空機内（＝客室）の基礎実務について、トラフィック現場での実習を交えながら学修する。
・実務指導者とともに、実際の乗客対応を含めた国際線トラフィック実務を 0JT 形式で経験することで、ホスピタリティの実践能力を体得する。
・国際線トラフィック業務最終日：実務実習の振り返りと纏め

◎国際線アライバル業務実務実習　（実習施設空港の国際線航空機到着から、入国ＣＩＱ通過、手荷物引き渡しエリア、到着案内、手荷物事故対応エリア、乗客の空港離脱までのエリアまで）

・空港における到着時のＣＩＱ（税関・入国管理・検疫・動植物検疫）業務、及び関連法規の基礎実務について、事前学修した理論を再確認しながら、国際線アライバル現場での実習も交え学修する。
・受託手荷物の引き渡し、ダメージ・ロスト受託荷物の取り扱いの基礎実務について、国際線アライバル現場での実習も交えながら学修する。
・実務指導者とともに、実際の乗客対応を含めた国際線アライバル実務を 0JT 形式で経験することで、ホスピタリティの実践能力を体得する。
・国際線到着旅客に対するゼネラルインフォメーション（観光案内、交通案内他、滞在中に必要な諸情報）提供を通して、事前学修した理論に照らしながらホスピタリティの実践を修得する。
・国際線におけるアライバルの両実務実習経験を踏まえた新規事業/新たな需要・マーケット開発、並びにＩＴ等を活用したイノベーション等について、実習施設指導者を交えたブレーンストーミング/意見交換会を実施する。
・国際線アライバル業務最終日：実務実習の振り返りと纏め

❸空港国際線における実務体験後報告会（1 日間）

空港国際線実務実習最終日：経験した各実務の意義、課題、反省点などについて報告会を行う。この報告会には、実習施設実務担当者を配置して、適宜助言や指導を実施する。また、受入れ企業の現場トップ（支店長、支社長等）からの訓話を受け、マネジメントとしての哲学、理念、考え方を学ぶ。　**（資料 54 臨地実務実習クラス別実習計画書）**

②-5「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（航空クラス）」の実習施設指導者の評価

本学の「実習施設指導者による臨地実務実習の評価」については、実習施設の業種や業務に関

わらず、学生が修得すべき能力を一般化して評価することを中心とする。具体的には、実習により体得すべき「A 実践力」及び「B 協働力」を主体として、その土台となる「C 思考力」についても評価する。また、それぞれの能力の下には、具体的に修得すべき技能や知識を「実務知識技能」「安全確保」「ホスピタリティ」「チームワーク」「リーダーシップ」「他者への共感・受容・気配り」「変革と新しい価値創造」「職業倫理」「経営の視点」のように細分化して定める。臨地実務実習施設の業種や業務ごとの評価については、それぞれの到達目標の達成度を評価することにより行うものとする。 **（資料 55　臨地実務実習施設指導者評価書）**

③「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（鉄道クラス）」の到達目標と実習計画

③-1「臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス）」の到達目標

以下の各目標項目を達成することにより、「観光実務基礎論（鉄道クラス）」等の事前学修による理論に裏付けられた実践力を身に付け、将来、観光関連の就職先等において、ビジネスのイノベーション、並びに新たな需要/マーケット開発を牽引し、業界の中核となる能力を涵養する。

【到達目標１】鉄道駅における旅客運送業務の専門知識を身に付けた上で、駅業務における基本動作については単独で遂行するとともに問題解決の方向性について自分自身の考え方を説明することができる。

【到達目標２】現場における基本動作の実践を通じ、鉄道事業の大前提となる”安全”の重要性を体得した上で、鉄道事業の根幹としての”安全”の意味をマネジメントの立場からも理解できる。

【到達目標３】他の観光業現場でも通用するレベルのホスピタリティを体得した上で、地域の観光振興の視点から、鉄道事業の存在意義や課題を自ら考察することができる。

【到達目標４】駅における実務体験を通して、鉄道事業全体における駅の位置づけ、各現業実務の重要性等を、マネジメントの立場からも理解できる。

【到達目標５】国内交通産業において最も主要な役割を担う鉄道業において、安全･安心の確保、或いはハンディキャップを持つ乗客への対応、多国籍/多宗教のインバウンド乗客への対応等を事前学修した理論に照らしながら現場で実践し、他の交通機関においても実践できる。

【到達目標６】鉄道事業の新規需要/マーケット開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等について、自己のアイデアを発表することができる。

③-2「臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス）」の実習の内容

高松琴平電気鉄道（以下、ことでんと表記する）における実務実習（実習の期間：計６週間）

❶実務体験準備実習（実習の期間：２日間　　主たる実習場所：栗林本社）

・駅現場実習に向けて、実務実習の意義や心得、鉄道ビジネス全体における駅業務の位置づけ等を理解させるとともに、特に安全に関わる基本姿勢と注意事項を中心に、駅施設設備の概要、駅内の各組織、旅客の流れ、顧客サービスに関する考え方、その他の専門知識について、実務

を担当する実習施設の担当者から説明を受ける。

・安全・安心に関わる事前準備として、非常時の緊急連絡、テロ/爆破予告等への対応、乗客の避難誘導、緊急看護、自己の身を守る技術等に関わる実地訓練実習を、事前学修した理論を踏まえながら、実践学修する。また、日本語を解さない乗客、高齢者、ハンディキャップを持つ乗客等への対応をロールプレイ等も含めた実習で学修する。

❷実務実習 （実習の期間：(高松築港駅)４日間、(瓦町駅)４日間　　主たる実習場所：ことでん高松築港駅／同瓦町駅）

・鉄道事業における駅機能の位置づけ、重要性を学修した上で、高松築港駅、並びに瓦町駅において、それぞれ駅における改札・放送・案内（観光案内、交通案内他、滞在中に必要な諸情報提供）等をはじめとする駅業務の基礎実務について、事前学修した理論を踏まえながら順次実務実習を実施する。また、実際に乗客への対面サービス実施を通じて、ホスピタリティの実践能力を修得する。この実務実習は、実習施設実務担当者の指導の下、0JT 方式にて実施する。

❸運転営業所実習 （実習の期間：４日間　　主たる実習場所：運転営業所）

・鉄道事業における機動業務の位置づけ、重要性を学修した上で、実習施設実務担当者の指導の下、機動班に関わる業務、並びに無人駅等の管理、乗務員の管理、遺失物の管理等を実習する。また、これらの実務を通して顧客サービスの重要性を学修する。

❹本社管理業務実習（実習の期間：５日間　　主たる実習場所：栗林本社）

・鉄道事業における本社業務の役割、機能を事前学修した理論を再確認しながら、さらに深化させる観点で学修する。また栗林本社管理本部において、鉄道運行の統制、定時性確保への取り組み、乗客の安全性や利便性向上への取り組みなどについて、マネジメントの立場から理解出来るよう、実習施設実務担当者の指導に基づき学修する。

❺駅ビル複合商業施設業務実習（実習の期間：５日間　　主たる実習場所：コトデン瓦町ビル）

・鉄道事業における関連事業の必要性・位置づけ、及び駅関連施設運営とのシナジー効果等について学修した上で、実習施設実務担当者の指導の下、駅施設を含むビル（コトデン瓦町ビル）の運営管理業務の実務を実習する。

❻総合案内所業務・バス発着案内業務（実習の期間：５日間　　主たる実習場所：高松駅バスターミナル総合案内所・高松空港バス乗降場）

・前節で学修した鉄道事業における関連事業実習の第 2 弾として、実習施設実務担当者の指導の下、高松駅バスターミナル総合案内所もしくは高松空港バス乗降場にて、顧客に対する案内業務を実習するとともに、これら業務の意義及び鉄道事業とのシナジー効果について学修する。また、事前学修した理論を踏まえながら顧客への対面サービス実施等を通して、ホスピタリティの実践能力を修得する。

❼実習後報告会（実習の期間：１日間　　主たる実習場所：栗林本社）

・経験した各実務の意義、課題、反省点などについて報告会を行う。また、実務経験を踏まえたことでん事業に関わる新規事業/新たなマーケット開発、並びにＩＴ等を活用したイノベーション等について、ブレーンストーミング/意見交換会を実施する。この報告会/意見交換会には、実習施設実務担当者を配置して、適宜助言や指導を実施する。また、受入れ企業の現場トップ

（駅長、支社長等）からの訓話を受け、トップマネジメントとしての哲学、理念、考え方を学ぶ。 **（資料 54 臨地実務実習クラス別実習計画書）**

③-3「臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス）」の到達目標

以下の各目標項目を達成することにより、「観光実務応用論（鉄道クラス）」等の事前学修による理論に裏付けられた実践力を身に付け、将来、観光関連の就職先等において、インバウンド需要への的確な対応、社会構造の変化に対応するビジネスイノベーション、並びに新たな需要/マーケット開発を牽引し得る能力を涵養する。

【到達目標１】鉄道駅における旅客運送業務の専門知識を身に付けた上で、駅業務におけるインバウンド対応を含めた基本動作については単独で遂行するとともに問題解決方法について自分自身の考え方を説明することができる。

【到達目標２】現場における基本動作の実践を通じ、鉄道事業の大前提となる”安全”の重要性を体得した上で、鉄道事業の根幹としての”安全”の意味をマネジメントの立場からも理解し、自ら行動することができる。

【到達目標３】他のいかなる観光業現場でも通用するレベルのホスピタリティを体得した上で、広域の地域観光振興の視点から、鉄道事業の存在意義や課題を自ら考察することができる。

【到達目標４】駅における実務体験を通して、鉄道事業全体における駅の位置づけ、各現業実務の重要性等を、マネジメントの立場からも理解し、自分の言葉で説明することができる。

【到達目標５】国内交通産業において最も主要な役割を担う鉄道業において、安全・安心の確保或いはハンディキャップを持つ乗客への対応、多国籍/多宗教のインバウンド乗客への対応等を事前学修した理論に照らしながら現場で実践し、他の交通機関においても実践できる。

【到達目標６】鉄道事業の新規需要/マーケット開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等について、自己のアイデアを発表することができる。

③-4「臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス）」の実習の内容

JR 四国における実務実習（実習の期間：計６週間）

❶実務準備実習（実習の期間：２日間　主たる実習場所：本社研修センター ）

・駅現場実習に向けて、事前学修した理論を再確認しながら実務実習の意義や心得、鉄道ビジネスの地域社会における役割・位置づけ、観光振興を通じた地域発展への貢献等の理解を深化させるとともに、事前学修した理論を踏まえ特に安全に関わる基本姿勢と注意事項を中心に、駅施設設備の概要、駅内の各組織、乗客の流れ、顧客サービスに関する考え方、鉄道ビジネスにける本社の役割り等について、実務を担当する実習施設の担当者、及び同社のトップマネジメント層から説明を受ける。

・安全、安心に関わる事前準備として、非常時の緊急連絡、テロ/爆破予告等への対応、乗客の避難誘導、緊急看護、自己の身を守る技術等に関わる実地訓練実習を、事前学修した理論を踏まえながら実践面を学修する。また、日本語を解さない乗客、高齢者、ハンディキャップを持つ乗客等への対応をロールプレイ等も含めた実習で学修する。

❷実務実習（実習の期間：１週間　　主たる実習場所：JR 高松駅）

・駅における改札、構内放送、案内（観光案内、交通案内他、滞在中に必要な諸情報提供）等の各業務をはじめとする駅業務の基礎、及び駅業務固有の留意事項等について、実務実習を実施する。また、実際に乗客への対面サービス実施を通じて、ホスピタリティの実践能力を修得する。この実務実習は、実習施設実務担当者の指導の下、0JT 方式にて実施する。

❸JR 四国本社における商品企画実務実習（実習の期間：１週間　　主たる実習場所：JR 四国本社）

・鉄道旅行商品の沿革と種別、旅行商品のトレンド等を踏まえた事業イノベーションの考え方を学修するとともに、実習先実務担当者による指導の下、鉄道旅行商品の模擬企画実習を実施する。また、マネジメントの立場から、商品企画の重要性、意義等について理解出来るよう、実習先実務担当者の指導に基づき学修する。

❹旅行会社における実務実習（実習の期間：１週間　　主たる実習場所：高松駅[ワープ高松]）

・旅行業業務の概要について説明を受けた上で、旅行業務の種別、適用をうける法律、必要な資格等について学修する。また実習先実務担当者による 0JT 方式でカウンター業務実習を実施する。

❺観光列車乗務実習（実習の期間：２日間　　主たる実習場所：高松駅[JR 四国列車内　多度津～大歩危間]）

・実習施設実務担当者の指導の下、観光列車「四国まんなか千年ものがたり（多度津～大歩危間）」に乗務し、実際の旅客に対するサービス、並びにホスピタリティ実践を体験する。また観光列車の企画から運用までの計画業務の基礎、鉄道事業全体の中での位置づけ等についても学修する。

❻メンテナンス業務実習（実習の期間：１週間　　主たる実習場所：研修センター[車両基地]）

・関連事業として、実習施設実務担当者の指導の下、車両清掃業務をはじめとするメンテナンス業務を体験する。また鉄道事業全体の中でのメンテナンス業務の必要性・重要性について学修する。

❼キヨスク業務実習（実習の期間：１週間　主たる実習場所：四国キヨスク[高松銘品館、丸亀店、坂出店、宇多津店]）

・鉄道事業における関連事業の必要性・位置づけ・本業とのシナジー効果等を学修した上で、その一例として、駅構内での地元名産品販売を中心とするキヨスク業務を、実習施設実務担当者の指導の下、体験**するとともに、新規商品の模擬企画実習を実施する。また、マネジメントの立場から、商品企画の重要性、意義等について理解出来るよう、実習先実務担当者の指導に基づき学修する。これにより、**顧客への対面サービス実施等を通して、ホスピタリティの実践能力を修得し、**ブランディングやマーケティングに対する理解を深める。**

❽実習後報告会（実習の期間：１日間　　主たる実習場所：本社研修センター）

・経験した各実務の意義、課題、反省点などについて報告会を行う。また、実務経験を踏まえたＪＲ事業に関わる新規事業/新たなマーケット開発、並びにＩＴ等を活用したイノベーション等について、ブレーンストーミング/意見交換会を実施する。この報告会/意見交換会には、実習施設実務担当者を配置して、適宜助言や指導を実施する。また、受入れ企業の現場トップ（駅長、支社長等）からの訓話を受け、トップマネジメントとしての経営哲学、理念、考え方を学ぶ。 **（資料 54 臨地実務実習クラス別実習計画書）**

③-5「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（鉄道クラス）」の実習施設指導者の評価

本学の「実習施設指導者による臨地実務実習の評価」については、実習施設の業種や業務に関わらず、学生が修得すべき能力を一般化して評価することを中心とする。具体的には、実習により体得すべき「A 実践力」及び「B 協働力」を主体として、その土台となる「C 思考力」についても評価する。また、それぞれの能力の下には、具体的に修得すべき技能や知識を「実務知識技能」「安全確保」「ホスピタリティ」「チームワーク」「リーダーシップ」「他者への共感・受容・気配り」「変革と新しい価値創造」「職業倫理」「経営の視点」のように細分化して定める。臨地実務実習施設の業種や業務ごとの評価については、それぞれの到達目標の達成度を評価することにより行うものとする。 **（資料 55　臨地実務実習施設指導者評価書）**

④「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（宿泊クラス）」の到達目標と実習計画

④-1「臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス）」の到達目標

以下の各目標項目を達成することにより、「観光実務基礎論」等の事前学修による理論に裏付けられた実践力を身に付け、就職後の各宿泊業界におけるビジネスのイノベーション、並びに新たな需要/マーケット開発を、将来牽引し得る能力を修得する。

【到達目標１】宿泊施設における宿泊部門、料飲部門、顧客応対部門等の各業務の専門知識を身に付けた上で、各業務における基本動作については単独で遂行するとともに問題解決の方向性について自分自身の考え方を説明することができる。

【到達目標２】基本動作の実践を通じ、宿泊事業の大前提となる”安全・安心の提供”の重要性を理解することができる。

【到達目標３】他の観光業現場でも通用するレベルのホスピタリティを体得した上で、観光振興の視点から、宿泊事業の存在意義や課題を自ら考察することができる。

【到達目標４】宿泊施設における実務体験を通して、宿泊ビジネス全体における各実務の位置づけ、重要性等を、マネジメントの立場からも理解することができる。

【到達目標５】今後益々の多様化が予想される顧客ニーズ、社会構造の変化への対応等を事前学修した理論に照らしながら現場で実践し、他の観光産業においても応用可能な知見を身に付ける。

【到達目標６】宿泊施設が立地する各地域ならではの地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等について、自らの固有のアイデアを発表する

ことができる。

④-2「臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス）」の実習の内容

宿泊施設における宿泊事業実習（基礎）

❶宿泊施設の実務体験準備（２日間）

・宿泊施設現場実習に向けて、受け入れ企業側トップマネジメント（総支配人・運営会社社長など）より、宿泊ビジネス全般の中における実習先宿泊施設形態の位置づけや社会的機能（含む宿泊施設形態毎の特性理解)、あるいは経営の基本理念やフィロソフィー、更には新分野での需要/マーケット開発、異業種との協業や IT 活用によるイノベーション等について、トップマネジメントから生の声を聴き、経営の視点から見た宿泊施設マネジメントを直に学ぶ。また、受け入れ宿泊施設側の実務リーダーから、基本となる立ち居振る舞いや心構え/職業倫理、サービスマナー等について学修するほか、宿泊施設の各組織や施設／設備等の実際の役割・機能を、事前学修した理論と照らし合わせ確認しながら、更に実践面での理解を深化させる。

・宿泊事業の根幹となる”安全・安心の確保”については、事前学修した理論を踏まえながら、宿泊施設現場における実地実習として、火災、自然災害など非常時の緊急連絡、日本語を解さない顧客、高齢者、ハンディキャップを持つ顧客等特別な援助が必要な顧客を含めた避難誘導、緊急看護、スタッフ自身の身を守る技術等、ロールプレイを含めた実践的な実地訓練実習を実施する。

❷宿泊施設の実務実習 （6 週間 ※前述の実務体験準備の 2 日と後述の実務体験後報告会 1 日間を含む）

実習先宿泊施設形態の特性/労務マネジメント/基本実務（宿泊部門、料飲部門、顧客応対部門等の各業務）について、順次実務実習を実施する。この実務実習では、事前学修した理論を、実習施設実務担当者の指導の下ひとつひとつ確実に確認しながら、OJT 方式にて実施する。

◎宿泊部門フロント業務（2 週間）

・事前学修した理論のうち、特に宿泊部門のフロント（宿泊客受入れ登録手続き）業務に関わるホスピタリティに留意しながら、同部門での業務の基本について、実習施設指導者の指導に基づき実践的な実務実習を学修する。

・宿泊部門の人員配置/勤怠管理/教育研修/モチベーション維持活動のための諸施策等に関わる基本業務について、実習施設の担当管理職から学修する。

・当日の宿泊客受入れ登録/宿泊者出発や会議/コンベンション等の情報、或いは VIP やコンベンション参加者或いは特別なサービスを必要とする顧客等の諸情報をどのように収集し、これに基づく分析結果を自部門のみならず宿泊施設内全ての関係部門に如何に連絡/共有しているのかについて、現場での実習を中心に実践的に体験する。

・ゲストリレーション（顧客対応）業務として、その地域の歴史/文化/風土、周辺の観光/文化/飲食施設情報に加え、特に各ビジネスシーンに応じた周辺の飲食施設の情報提供、館内のビジネスセンターに設置されたパソコンや FAX などの OA 機器情報提供等、通訳や会議室の手配等、顧客層毎のニーズに応じきめ細かく的確に提供する仕組みとスキルを、現場での実習を中心に

実践的に学修する。

・宿泊事業の根幹となる”安全の確保と安心の提供”業務に関しては、その機能理解を踏まえた館内の非常口/非常階段/AED/中央監視室/防災センター等セキュリティに関わる施設/設備、並びにプール/アクティビティ等の施設設備の安全面での把握/確認の上、非常時対応の想定実習を行い、現場での実習を中心に実践的に学修する。

・館内各所のバリアフリー施設/設備については、その機能理解を踏まえた設置個所の現場確認に加え、ハンディキャップを持つ顧客への理解/尊重について、事前学修内容を再確認しながら、現場での実習を中心に実践的に学修する。

・顧客とのファーストコンタクト機能を担うロビー・エントランス（顧客歓迎）業務については、ブランド認知過程上の重要性を再確認しながら、現場実習を実践学修する。

・宿泊事業マネジメントにおける経理/出納業務の重要性について、事前学修した理論を復習しながら、キャッシャー業務を現場での実習を中心に実践学修する。

・今後益々重要性が増すインバウンド顧客については、事前理論を再確認しながら、語学面のみならず、宗教/文化/習慣等あらゆる面に配慮したきめ細かいサービスを提供出来るよう、現場での実習を中心に実践学修する。

・その他、クローク（荷物預かり）/ドア、ベル（仲居）等の各業務についても、事前学修した理論を再確認しながら、現場での実習を中心に実践学修する。

・上顧客、支援を必要とする顧客等、特別な取り扱いが必要な顧客へのサービス対応を、実習も交えながら学修する。

・業務最終日：実務実習の振り返りと纏め

◎料飲業務（2 週間）

・事前学修した理論のうち、特に料飲業務に関わるホスピタリティを再確認しながら、実習施設指導者の指導に基づき実践的な実務実習を学修する。

・宿泊部門の人員配置/勤怠管理/教育研修/モチベーション維持活動のための諸施策等に関わる基本業務について、実習施設の担当管理職から学修する。

・料飲の最重要課題である”安全の確保/安心の提供”の観点から、料飲現場の具体的な食品衛生管理手法を実践的に学修する。また、実習生自身の労働安全確保のため、実習施設の担当責任者より、高温の食器や用具、火気や刃物の取り扱いに関わる留意事項について良く説明を受け、労働災害発生の未然防止方法を学修する。

・当日の予約名簿や宿泊者名簿/催事計画等に基づき、喫食者数を想定するとともに、上顧客、並びに食材/料理法/アレルギー等を含め特別なサービスを必要とする顧客の把握とこれに基づく分析を行い、各顧客特性に応じた準備とサービスに関わる留意事項を各スタッフと共有する仕組みとスキルを、現場での実習を中心に実践的に学修する。

・レストラン（食堂）/カフェ（喫茶場）/宴会場/ルーム（客室料飲）サービスにて使用する器具備品/設備の特性や使用方法、並びにサービングスキル/プロトコール等について、事前学修した内容を再確認しながら、現場での実習を実践学修する。

・料飲業務最終日：実務実習の振り返りと纏め

◎ハウスキーピング（客室清掃／寝具等準備）業務（2 週間）

・事前学修した理論のうち、特にハウスキーピング（客室清掃／寝具等備品準備）業務に関わるホスピタリティを再確認しながら、実習施設指導者の指導に基づき実践的な実務実習を学修する。
・ハウスキーピング（客室清掃／寝具等備品準備）部門の実務遂行にあたり、実習施設の担当責任者より適切な作業姿勢や換気等、労働安全衛生上の留意事項について良く説明を受け、労働災害発生の未然防止方法を学修する。
・宿泊者到着/出発の顧客名簿等から、客室清掃／寝具等準備の客室特定と優先順位付け、作業者のスキルに応じた業務分担等、効率的なハウスキーピング（客室清掃／寝具等備品準備）業務手法を現場での実習を通して実践学修する。
・効率的な客室清掃と寝具等備品準備、あるいはアメニティー配備に関わる具体的な手順/ノウハウ等について、事前学修した理論を再確認しながら、現場での実習を実践学修する。
・ハウスキーピング（客室清掃／寝具等備品準備）業務最終日：実務実習の振り返りと纏め

❸宿泊施設における実務体験後報告会（1 日間）

・経験した各実務の意義、課題、反省点などについて実習施設において報告会を行う。また、実務経験を踏まえた宿泊事業に関わる新規事業/新たなマーケット開発、並びにＩＴ等を活用したイノベーション等について、ブレーンストーミング/意見交換会を実施する。この報告会/意見交換会には、実習施設実務担当者を配置して、適宜助言や指導を行う。

（資料 54 臨地実務実習クラス別実習計画書）

④-3「臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス）」の到達目標

以下の各目標項目を達成することにより、「観光実務応用論」や他の事前学修による理論に裏付けられた専門技能を深化させ、宿泊事業をはじめとする観光の各分野におけるビジネスのイノベーション、並びに新たな需要/マーケット開発を、将来牽引し得る能力を修得する。

【到達目標１】臨地実務実習Ⅱで身に付けた宿泊･料飲部門等の現業における専門知識･技能を、より高いレベルで修得するとともに、問題解決方法について自分自身の考え方を説明することができる。

【到達目標２】基本動作の実践を通じ、宿泊事業の大前提となる”安全・安心の提供”の重要性を、マネジメントの観点からも理解し、自ら行動することができる。

【到達目標３】他のいかなる観光業現場でも通用するレベルのホスピタリティを体得した上で、地域振興の一環としての観光振興の視点から、宿泊事業の存在意義や課題を自ら考察することができる。

【到達目標４】実習先宿泊施設でのグッドプラクティス体験等を通して、ブランディングの実践と基本構造を修得し、他の観光産業や地域振興や問題解決にも活用することができる。

【到達目標５】今後益々の進展が予想されるインバウンド観光/外国人材の国内活用等の社会情勢

を踏まえ、多様で広範囲にわたる国籍/文化/宗教/習慣/価値観等を持つ外国籍顧客への対応等を事前学修した理論に照らしながら現場で実践し、地域の観光振興にも広く実践できるようになる。

【到達目標６】宿泊事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等について、自らの固有のアイデアを発表することができる。

④-4「臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス）」の実習の内容

宿泊施設における宿泊事業実習（応用・マネジメント）

❶実務体験準備実習（２日間）

・宿泊施設現場実習に向けて、受け入れ企業側トップマネジメント（総支配人・女将・運営会社社長など）より、観光産業全般の中における宿泊施設の位置づけや社会的機能(含む宿泊施設の運営形態による差異理解)、あるいは経営の基本理念やフィロソフィー、更には新分野での需要/マーケット開発、異業種との協業や IT 活用によるビジネスイノベーション等について、トップマネジメントから生の声を聴き、経営の視点から見た宿泊施設マネジメントを直接学ぶ。また、受け入れ施設側の実務リーダーから、基本となる立ち居振る舞いや心構え/職業倫理、サービスマナー等について学修するほか、ホテルの各組織や施設／設備等の実際の役割・機能を、事前学修した理論と照らし合わせ確認しながら、更に実践面での理解を深化させる。

・宿泊事業の根幹となる”安全・安心の確保”については、事前学修した理論を踏まえながら、宿泊現場における実地実習として、火災、自然災害など非常時の緊急連絡、日本語を解さない顧客、高齢者、ハンディキャップを持つ顧客等特別な援助が必要な顧客を含めた避難誘導、緊急看護、スタッフ自身の身を守る技術等、ロールプレイを含めた実践的な実地訓練実習を実施する。

❷宿泊施設実務実習 （6 週間 ※前述の実務体験準備の 2 日と後述の実務体験後報告会 1 日間を含む）

以下の各目標項目を達成することにより、「臨地実務実習Ⅱ」や他の事前学修による理論に裏付けられた専門技能を深化させ、宿泊事業をはじめとする観光の各分野におけるビジネスのイノベーション、並びに新たな需要/マーケット開発を牽引し得る能力を修得する。

◎宿泊部門業務（2 週間）

・事前学修した理論のうち、特に宿泊部門の実務に関わるホスピタリティを中心に当該施設のブランディングとの整合性についても再確認しながら、実習施設指導者の指導に基づき実践的な実務実習を学修する。

・宿泊部門の人員配置/勤怠管理/教育研修/モチベーション維持活動のための諸施策等に関わるマネジメントの実務について、実習施設の担当管理職から学修する。

・当日の宿泊客受入れ登録/宿泊者出発予定者リストや会議/コンベンション等の開催予定、更には VIP やコンベンション参加者或いは特別なサービスを必要とする顧客等の諸情報を統合的に把握・分析し、これに基づいた機動的な要員配置と顧客特性毎の留意事項を自部門のみならず

宿泊施設内全ての関係部門に共有するマネジメントの仕組みとスキルを、現場での実習を中心に実践的に学修する。

・ゲストリレーション（顧客対応）業務として、その地域の歴史/文化/風土、周辺の観光/文化/飲食施設情報に加え、特に各ビジネスシーンに応じた周辺の飲食施設の情報提供、館内のビジネスセンターに設置されたパソコンや FAX などの OA 機器情報提供等、通訳や会議室の手配等、顧客層毎のニーズに応じきめ細かく的確に提供する仕組みとスキルを、現場での実習を中心に実践的に修得する。またこれらの機能が、特にインバウンド対応に重点を置いて、どのように強化されているのかを学修する。

・宿泊事業の根幹となる”安全の確保と安心の提供”業務に関しては、「臨地実務実習Ⅱ」で実践した館内の非常口/非常階段/AED/中央監視室/防災センター等セキュリティに関わる施設/設備、並びにプール/アクティビティ等の施設設備の安全面での把握、非常時対応の想定訓練結果等を再度確認するとともに、実習先企業の経営層が”安全の確保と安心の提供”に関して、どのような考え方を有し、具体的にどのような方策を講じているのかを直接聞き取る機会を設定し、マネジメントの視点からの”安全の確保と安心の提供”がどのように位置づけられているのかを学修する。

・館内各所のバリアフリー施設/設備については、その機能理解を踏まえた設置個所の現場確認に加え、ハンディキャップを持つ顧客への理解/尊重という社会的要請の意味を再確認しながら、マネジメントの視点を含めて実践的に学修する。

・顧客とのファーストコンタクト機能を担うロビー・エントランス（顧客歓迎）業務については、ブランド認知過程上の重要性を再確認しながら、現場実習を実践学修する。

・宿泊事業マネジメントにおける経理/出納業務に加え、マネジメントの観点からレベニューマネジメントの重要性について、事前学修した理論を復習しながら実践学修する。

・今後益々重要性が増すインバウンド顧客については、事前理論を再確認しながら、語学面のみならず、宗教/文化/習慣等あらゆる面に配慮したきめ細かいサービスの提供に向けて、マネジメントが具体的にどのような方策（例：研修／人材配置／ブランディング等）を執っているのかについて実践学修する。

・その他、クローク（荷物預かり）/ドア、ベル（仲居）等の各業務については、宿泊サービス全体の中での位置づけ、ＣＳ（顧客満足）の観点からの役割り等について、マネジメントの立場から学修する。

・国際儀礼（プロトコール）に基づいた国際的な儀礼やマナーなどの接遇対応を実習も交えながら学修する。

・業務最終日：実務実習の振り返りと纏め

◎料飲業務（2 週間）

・事前学修した理論のうち、特に料飲部門の実務に関わるホスピタリティを中心に当該施設のブランディングとの整合性についても再確認しながら、実習施設指導者の指導に基づき実践的な実務実習を学修する。

・料飲部門の人員配置/勤怠管理/教育研修/モチベーション維持活動のための諸施策等に関わるマ

ネジメントの実務について、実習施設の担当管理職から学修する。

・料飲の最重要課題である”安全の確保/安心の提供”について、マネジメントの観点から料飲現場要員の食品衛生管理教育／食品衛生管理施設設備管理／最新の食品衛生管理情報の収集と現場への徹底手法、並びに従業員の労働安全衛生確保に向けた各種方策を実践的に学修する。

・当日の予約名簿や宿泊者名簿/催事計画等に基づき、喫食者数を想定するとともに、上顧客、並びに食材/料理法/アレルギー等を含め特別なサービスを必要とする顧客の把握とこれに基づく分析を行い、各顧客特性に応じた準備とサービスに関わる留意事項を各スタッフと共有する仕組みとスキル等を、現場での実務実習に加えて実践的に学修する。

・料飲部門経営の観点から、料飲の原価管理/イールドマネジメント等、実際のメニュー構成や価格設定の考え方/食材の原価分析の手法について、現場で実習を実践学修する。

・料飲業務最終日：実務実習の振り返りと纏め

◎ハウスキーピング（客室清掃／寝具等準備）業務（2 週間）

・事前学修した理論のうち、特にハウスキーピング（客室清掃）業務に関わるホスピタリティを再確認しながら、実習施設指導者の指導に基づき実践的な実務実習を学修する。

・ハウスキーピング（客室清掃／寝具等準備）部門の安全衛生管理／人員配置/勤怠管理/教育研修/モチベーション維持活動のための諸施策等に関わるマネジメントの実務について、実習施設の担当マネジメントから学修する。

・宿泊者到着/出発の顧客予約状況等を踏まえた客室清掃／寝具等準備の客室特定と優先順位付け、作業者のスキルに応じた業務分担に基づく月間勤務割の作成業務手法等を、マネジメントの視点を通して実践学修する。

・客室の調度や寝具、アメニティー等の選定／配備方法を実践学修するとともに、これを契機に実習先のブランドマネジメント責任者の指導の下、宿泊ビジネスとブランディンの関係性について、事前学修したブランド理論等も再確認しながら考証する。

・ハウスキーピング（客室清掃／寝具等準備）業務最終日：実務研修の振り返りと纏め

❸宿泊施設における実務体験後報告会（1 日間）

・経験した各部門の実務、マネジメントの意義、課題、反省点などについて実習施設において報告会を行う。また、実務経験やマネジメントの視点を踏まえた宿泊事業に関わる新規事業/新たなマーケット開発、並びにＩＴ等を活用したイノベーション等について、ブレーンストーミング/意見交換会を実施する。この報告会/意見交換会には、実習施設実務担当者を配置して、適宜助言や指導を行う。また、受入れ宿泊施設のトップマネジメント（総支配人・女将・運営会社社長など）からの訓話を受け、マネジメントとしての哲学、理念、考え方を学ぶ。

（資料 54 臨地実務実習クラス別実習計画書）

④-5「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（宿泊クラス）」の実習施設指導者の評価

本学の「実習施設指導者による臨地実務実習の評価」については、実習施設の業種や業務に関わらず、学生が修得すべき能力を一般化して評価することを中心とする。具体的には、実習により体得すべき「A 実践力」及び「B 協働力」を主体として、その土台となる「C 思考力」について

も評価する。また、それぞれの能力の下には、具体的に修得すべき技能や知識を「実務知識技能」「安全確保」「ホスピタリティ」「チームワーク」「リーダーシップ」「他者への共感・受容・気配り」「変革と新しい価値創造」「職業倫理」「経営の視点」のように細分化して定める。臨地実務実習施設の業種や業務ごとの評価については、それぞれの到達目標の達成度を評価することにより行うものとする。 **（資料 55　臨地実務実習施設指導者評価書）**

⑤「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（観光地域創生クラス）」の到達目標と実習計画

⑤-1「臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）」の到達目標

本実習では、臨地実務実習Ⅰで掲げた到達目標の達成を踏まえ、これよりも一段上の到達目標を設定する。

【到達目標１】実習施設が所在する地域と当該地における観光事業の特徴を的確に理解し、それを他者に説明できる。

【到達目標２】「リスク・マネジメント」の考え方を身につけ、観光振興・地域振興過程の潜在的リスクの洗いだしと回避を実践できる。

【到達目標３】実習施設の当該地における役割、実習施設が提供する観光サービスや商品の特徴を的確に理解し、それについて他者にわかりやすく伝えることができる。

【到達目標４】実習施設業務の専門理論と基礎的技量を理解し、基本的な補助業務については単独で安全に遂行できる。

【到達目標５】観光振興・地域創生の過程と成果における“安全・安心”の考え方と技法を理解し、それらを実践できる。

【到達目標６】各施設での様々な仕事の流れの中で自身の与えられた役割を理解し、周囲の人からの指示や示唆を受け入れ、的確に目標を遂行できる。

⑤-2「臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）」の実習の内容

地域創生にかかる実習施設での実習（基礎）

❶実務実習（1 週目）：実習施設に関する基礎的理解、業務遂行に必要な能力の理解

（初日）

・経営者ならびに実習指導者より施設の概要、経営理念について説明を受け、実習施設について理解を深める。実習参加学生は事前に同施設や同施設の事業について学修しているので、その情報との整合性を確認する。

・この実習中の到達点のすり合わせを行い、そのためにどのような実習に取り組むのか実習指導者と参加学生双方で確認する。実習施設の確認もあわせて行う。

（2 日目以降）

・実習施設の業務に関わることで、当該施設における業務内容とその業務遂行に必要な能力を理解する。その際、製造・サービス業の基礎である服装、挨拶、礼儀正しい周囲への態度に留意する。チームワークや適切なコミュニケーションの手段・報連相（報告・連絡・相談）を意識的に実践する。

❷実務実習 2～3 週目：業務遂行に必要な力の涵養、実習地における実習施設の役割・位置づけの理解、実習地に関する理解

・引き続き、実習施設の業務に従事し、当該施設における業務遂行に必要な能力の基礎を修得する。

・実習施設の実習地での役割について分析する。そのための手がかりとして、第 2 週前半で、経営者もしくは実習指導者より（指導者から見た）実習施設の実習地での役割について説明を受ける。このほか、可能な範囲で、実習生が経営者、実習指導者をはじめとする地域関係者に適宜インタビューを行い、また、業務遂行をしながら観察をし、分析に必要なデータを収集する。

・実習地の特徴と課題把握のために、業務を遂行しながら、地域状況の観察も行う。可能な範囲で、自治体関係者、行政機関より実習エリアに関する情報（基礎情報、総合計画と現状、課題、観光施策等）を提供してもらい、現状把握を進める。

❸実務実習 4～5 週目：業務遂行に必要な力の涵養、マネジメント・ブランディング・マーケティング戦略に関する理解

・前週まで取り組んできた業務遂行に必要な能力の基礎修得、実習施設の実習地での役割と実習地の特徴に関する情報収集を継続して行う。

・実習施設におけるマネジメント、ブランディング、マーケティングのありようについて理解する。そのために、第 4 週目の前半で、実習指導者より、実習施設におけるこれらの戦略について説明を受けたのち、実務体験を通じて、情報収集を行い、実践状況と課題について検証を行う準備を進める。

❹実務実習 6 週目：業務遂行に必要な力の修得、リサーチ課題のまとめ・アウトプット

・実習施設の業務に関わり、当該施設における業務遂行に必要な能力の基礎を修得する。

・実習施設の実習地での役割と実習地の特徴や課題を自分なりに整理する。

・マネジメント、ブランディグ、マーケティング戦略の実践状況と課題に関する検証を行う。

・最終日の報告に向けたプレゼンテーション準備を行う。

（最終日）

・実習の振り返りを行う。初日に確認した到達点への到達状況の確認をするほか、実習生より、実習地における実習施設の役割・位置づけと実習地の特徴の分析結果、マネジメント、ブランディング、マーケティング戦略の実践状況と課題に関する検証をプレゼンテーションし、実習指導者ほか受け入れに関わってくださった方々と意見交換を行う。

（資料 54 臨地実務実習クラス別実習計画書）

⑤-3「臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス）」の到達目標

本実習では、実習終了時に、以下の到達目標に達成することを目指す。

【到達目標１】実習施設業務の専門理論と基礎的技量を身につけ、主要業務について単独で安全に遂行でき、問題を確実に解決できる。

【到達目標２】「リスク・マネジメント」の考え方と技法を身につけ、それを基本動作と、観光振興・地域振興の過程及び地域創生の目標において実践できる。

【到達目標３】インバウンド観光に対応できる能力を養い、その能力を実践で活用できる
【到達目標４】提供される商品・サービスを「ブランディング」、「マーケティング」、「マネジメント」の観点から理解し評価できる。
【到達目標５】ユニバーサルデザインなどの考え方や技法を身につけ、適正なホスピタリティ・マネジメントや観光振興・地域再生デザインを実践できる。
【到達目標６】統計データ等のエビデンスに基づいた計画・企画を通して新規事業や新規実行組織の立ち上げ提案を作成し、それを表現できる。

⑤-4「臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス）」の実習の内容

地域創生にかかる実習施設での実習（応用・マネジメント）

❶実務実習（1 週目）：企画提案

・この実習中の到達点のすり合わせを行い、そのためにどのような実習に取り組むのか実習指導者と参加学生双方で確認する。
・臨地実務実習Ⅰ、Ⅱの実践経験も活かし、当該施設における業務遂行に必要な高度な技能を修得するべく業務に従事する。その際、インバウンド観光客への応対にも積極的に関与し、必要な技能修得に努める。
・実習期間中に実施する企画提案の準備を行う。その際、施設の経営理念やマネジメント戦略に配慮した上で、統計データ等のエビデンスに基づいて、実現可能性と実施効果を勘案した提案を行うこととする。
・実習指導者をはじめとする施設関係者に企画を提案し、意見交換する。

❷実務実習 2,3 週目：業務遂行に必要な高度な技能の涵養、提案事業実施に向けた準備

・引き続き、当該施設における業務遂行に必要な高度な技能を修得するべく業務に従事する。
・提案事業の実施に向けた準備を行う。その際、チームワークや適切なコミュニケーションの手段・報連相（報告・連絡・相談）にも配慮する。
・3 週目後半で、ある程度の時間を割いて、実習指導者など実習施設関係者と、事業実施のための準備の進捗状況や課題の洗い出し、解決策の検討を行う。

❸実務実習 4,5 週目：業務遂行に必要な高度な技能の涵養、提案事業実施に向けた準備

・引き続き、当該施設における業務遂行に必要な高度な技能を修得するべく業務に従事する。
・提案事業の実施に向けた最終準備を行う。その際、チームワークや適切なコミュニケーションの手段・報連相（報告・連絡・相談）にも配慮する。

❹実務実習 6 週目：業務遂行に必要な高度な技能の涵養、提案事業の実施、事業の振り返り

・当該施設における業務遂行に必要な高度な技能を修得するべく業務に従事する。
・提案事業を実施する。
・実施事業の成果と課題を振り返り、実習責任者をはじめとする施設関係者と意見交換を行う。

（資料 54 臨地実務実習クラス別実習計画書）

⑤-5「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（観光地域創生クラス）」の実習施設指導者の評価

本学の「実習施設指導者による臨地実務実習の評価」については、実習施設の業種や業務に関わらず、学生が修得すべき能力を一般化して評価することを中心とする。具体的には、実習により体得すべき「A 実践力」及び「B 協働力」を主体として、その土台となる「C 思考力」についても評価する。また、それぞれの能力の下には、具体的に修得すべき技能や知識を「実務知識技能」「安全確保」「ホスピタリティ」「チームワーク」「リーダーシップ」「他者への共感・受容・気配り」「変革と新しい価値創造」「職業倫理」「経営の視点」のように細分化して定める。臨地実務実習施設の業種や業務ごとの評価については、それぞれの到達目標の達成度を評価することにより行うものとする。 **（資料 55　臨地実務実習施設指導者評価書）**

(2)複数施設を実習施設とする場合の一定水準の確保方策

本学の実習では、複数施設を実習施設とする。そこで、複数施設の実習を一定水準に確保するために、まず、「実習調整会議」において本学と実習施設が協議して、本学の実習目的と学修成果への期待を各実習施設に丁寧に説明し、その目的と実習内容を綿密に打ち合わせた上で、実習施設による受け入れの了解を得る。その際に、実習施設による実習への意見、受け入れ態勢、懸念事項等についてもヒアリングを行い、課題を洗い出した上で、それらの課題を協議の上で解決する。

次に、本学と実習施設との協議において実習計画を作成する。作成された実習計画について、本学の「実習運営委員会」が確認することで実習の一定水準を確保する。一定水準の確保に課題が見いだされる場合には、「実習運営委員会」の指摘を受けて、実習担当教員が実習施設指導者と意見交換をしながら、改善策を講じて実習水準の一定を確保する。

(3)実習施設における指導者の配置

実習施設との協議において、実習に際しては実習生の指導やケア等を行う実習施設の実習指導者を配置する。当該指導者は、本学と実習施設の間で作成した実習目的と実習プログラムに基づき、本学実習担当教員と連携して実習生の指導に当たる。

(4)成績評価方法

成績評価については、実習担当教員が行う。評価は、「1. 実習施設指導者による実習評価書」、「2. 実習直後に学生が提出する振り返りレポート」という 2 点の評価基準によってなされる。

本学の「実習施設指導者による臨地実務実習の評価」については、実習施設の業種や業務に関わらず、学生が修得すべき能力を一般化して評価することを中心とする。具体的には、実習により体得すべき「A 実践力」及び「B 協働力」を主体として、その土台となる「C 思考力」についても評価する。また、それぞれの能力の下には、具体的に修得すべき技能や知識を「実務知識技能」「安全確保」「ホスピタリティ」「チームワーク」「リーダーシップ」「他者への共感・受容・気配り」「変革と新しい価値創造」「職業倫理」「経営の視点」のように細分化して定める。臨地実務実習施設の業種や業務ごとの評価については、それぞれの到達目標の達成度を評価することにより

行うものとする。 **（資料 55　臨地実務実習施設指導者評価書）**

(5)事前・事後の指導計画

「実習」は、観光振興学科の教育課程において、本学ディプロマ・ポリシーの「DP4」を体験的・実践的に修得する主要教科として位置づけられ、また「実習」は、本学カリキュラム・ポリシーの CP4「職業専門科目群（実務)」において、④「臨地実務実習科目群」として配置し、実習の事前及び事後には、③「臨地実務実習事前学修科目群」と⑤「臨地実務実習事後学修科目群」を配置する。これらの科目によって、実習の事前・事後の指導を計画している。事前・事後の指導の概略は、次のとおりである。**（資料 40 せとうち観光専門職短期大学観光振興学科クラス別科目配当・履修順序表）**

① 実習の事前指導

学生は、CP4 の③「臨地実務実習事前学修科目群」の「ホスピタリティ実務実習Ａ・Ｂ」(いずれか１科目選択必修)、「観光支援ビジネス実務基礎論」(必修)、進路別にクラスに分かれて履修する「観光実務基礎論（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス)」(必修)、「観光実務応用論（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス)」(必修）によって、実習の事前指導を受ける。

「ホスピタリティ実務実習Ａ・Ｂ」(必修）では、実習現場で求められる特にホスピタリティ業務に関わる「技能訓練」の基礎が実習で修得される。また、「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」「観光実務応用論」では、各実習における実習の目的、内容、日程、留意事項などを体系的に指導し、学生が臨地実務実習で効果的な学修成果を達成できるよう指導する。

② 実習の事後指導

学生は、CP4 の⑤「臨地実務実習事後学修科目群」の「観光ビジネス実務発展論」(必修)、進路別にクラスに分かれて履修する「観光実務発展論（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域クラス)」(必修)、「観光実務マネジメント論（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域クラス)」(必修）によって、実習の事後指導を受ける。これらの科目は、それぞれの実習における学修成果について、「実習の振り返りプログラム」に従い、学生がワークショップや演習等を通して自覚できるように促し、また学生が、理論的に裏付けられた実習内容について、講義や演習で実習の意味を改めて理解できるようにする。

(6)実習実施の学内体制

実習の運営にあたり、学科内に「実習運営委員会」を設置する。本委員会は、学科長、学術専任教員 2 名、実習担当専任教員 7 名、実習担当職員 2 名で構成される。委員長は、学科長とする。実習担当専任教員は、実習の実質的な運営と成績評価を行い、学術専任教員は、実習をディプロマポリシー(DP)に沿った実習プログラムとするための授業設計支援を行う。職員は実習運営にかかる諸手続きを担う。

11-5 実習施設との連携体制

(1) 実習施設との実習前・実習後の協議

本学とそれぞれの実習施設が実習の運営について協議をするために、実習前に各実習施設において「実習調整会議」を開催する。当会議に出席するのは、本学の実習担当教員と、実習施設の責任者及び実習指導者とである。その協議において調整・確認される事項は、本学の教育理念と教育課程編成の考え方、養成する観光振興専門職の人材像、実習の目的、実習のスケジュール、実習要項に基づく指導方針と指導方法、実習の評価方法等である。

また、実習後には、アンケート調査及び本学において「成果報告会」を開催し、その後、各実習施設において「実習調整会議」を開催して、評価を行うとともに、反省点や課題を洗い出し、教育の質の保証と次年度以降の改善に努める。それぞれの詳細なプロセスは以下のとおりである。

【事前協議】

①認可後速やかに、本学が作成した実施計画案を「実習調整会議」を開催して、実習施設に提示し、実施日程及び手続の説明・調整に加えて、授業科目としての臨地実務実習のねらいや到達目標を踏まえた、学生個々人の学修期間中の目標や課題の設定等について協議するとともに、指導方法や評価方法について相互に確認する。また、実習施設の業務等に対して理解を深め、学生の事前指導に資するものとする。

②開学後速やかに、上記①の協議等に基づき、実施計画を本学で作成し、実習施設に対して実施計画を通知する。

③実習施設においては、実習計画に基づき、具体的な実習プログラムを作成し本学に報告する。

④本学において、学生の実習先の振り分けを行い、実習施設に通知する。

⑤実習施設においては、この通知に基づき学生の受け入れ体制を整備する。

⑥臨地実務実習の開始の直前、再度「実習調整会議」を開催し、実習の事前打ち合わせを行い、円滑な実習の運営に努めるとともに、事故や事件等への対応方針やハラスメントの防止のほか、企業秘密や個人情報の漏洩禁止やＳＮＳ等インターネットへの掲載の禁止等について確認する。また、学生の実習施設への事前の挨拶と指導者への紹介も同時に実施する。

⑦上記①及び⑥の「実習調整会議」での協議や確認事項を踏まえ、本学において、学生に対するオリエンテーション及び注意事項等の徹底を行う。

【事後協議】

①実習終了後、あらかじめ臨地実務実習に関するアンケートを学生、実習施設指導者、責任者、本学教員に対して実施し、分析する。

②本学において、臨地実務実習のクラスごとに実習成果報告会を開催し、実習施設ごとに学生に15分程度で成果報告をさせる。本学の臨地実務実習担当教員及び実習施設の指導者及び責任者は、「実習調整会議」の構成員として、報告会に参加し、実習の評価や今後の課題等について意見を述べ、指導する。

③後日、実習施設において「実習調整会議」を開催し、上記①及び②を踏まえて、以下の点について協議する。

ア 事前学修・実習内容・事後学修に対する評価（満足度）

イ 学生と実習施設の相互の満足度

ウ 学生の成長と実習施設としてのメリットや変化

エ 問題点や次年度以降の課題

オ 次年度以降の受け入れ実施の意向確認

カ その他、臨地実務実習の実施に当たり特に必要と認められる事項（ﾊﾗｽﾒﾝﾄの防止を含む）

④これらについて、教育課程連携協議会に報告し、意見を聞き、臨地実務実習の評価・改善を行い、授業科目としての臨地実務実習について不断の見直しを行う。

（資料 75 臨地実務実習における実習調整会議等のプロセス）

(2) 実習中の連絡体制

実習中の実習運営及び実習生管理等に関する連絡体制は､「実習調整会議」の協議結果に基づき、本学の各実習担当者と実習施設の責任者及び実習指導者との間で事前に整備する。連絡手段には、メール、電話、SNS 等を使用し、連絡にあたっては、本学と実習施設の間で窓口を整備し、情報の把握と共有を的確かつ迅速に実施できるようにする。

実習の運営に係る諸連絡は、実習担当教員と実習施設指導者の間でなされる。その際、実習担当教員による判断や対応の困難な問題等が発生した場合には、実習担当教員から実習運営委員会委員長（学科長）へ即座に報告する連絡体制を敷いて、実習運営委員会が迅速に対応できる体制を整備する。

「実習生の管理」に係る事項については、実習担当教員と実習施設指導者が全ての関連情報を共有する。学生の心身の不調、実習態度の不良、実習施設でのトラブル等によって、学生の実習継続が困難と推測される状況が生じた場合には、その問題の対応を実習担当者が迅速に判断し処理した上で、その状況を実習運営委員会に報告する。当該の問題が実習担当教員によって対応の困難な場合には、問題発覚後に実習運営委員会へ速やかに報告し、当委員会が検討の上、迅速に処置を講ずる。

(3) 実習における指導の方針

実習の指導方針は、本学と実習施設との間で協議を重ね、本学が教育理念と教育課程編成の考え方、養成する人材像、実習の目的等を先方に提示するとともに、実習施設の実習についての考え方や条件等についての提示を受けて、意見を交換しながら決定する。

(4) 実習施設での教育の質保証の方策

実習施設における教育の質保証については、実習前に実習調整会議で実習内容と実習計画が充実するように協議した上で、実習を実施する。実習施設における教育の質は適正に確保されると

考えられるが、実習開始後に、実習担当教員等が実習施設における教育の質に何らかの懸念を察知したり、そうした懸念が実習施設から提示されたりした場合には、本学が実習現場指導者の研修、実習受入れ体制の再構築、実習プログラムの再設計といった方策を実習施設に提言し、できる限り実習施設の実習体制を支援する。

実習担当教員は、実習施設を巡回する際、実習環境を視察するほか、実習指導者と意見を交換することによって、教育の質が担保されているのかを確認する。実習中と実習終了後の学生面談においても、教育の質の担保が確認される。質の保証が不十分と判断された実習施設については、実習施設の責任者と実習指導者等と協議をして以降の改善策を講じる。

11-6 安全確保及びハラスメントの防止

実習生は実習の参加にあたり、保険に加入する。保険加入は、実習参加の必須条件である。加入する保険は、学生教育研究災害傷害保険（略称：学研災）ならびに学研災付帯賠償責任保険（略称：学研賠）とし、保険料は本学が負担する。また、実習期間中における学生の安全確保について、実習施設が十分に留意するように、本学と実習施設が協議の上で、「同意書」を取り交わす。

（資料 56 臨地実務実習 同意書）

また、臨地実務実習における学生に対するハラスメントの防止については、「実習調整会議」等の調整過程に以下のとおり位置付け、万全を期すこととする。

①臨地実務実習開始前の、本学教員と実習施設の指導者及び責任者により学外で実施する「実習調整会議」において、事故や事件等への対応方針やハラスメントの防止、企業秘密や個人情報の漏洩禁止やＳＮＳ等インターネットへの掲載の禁止等について協議・確認するが、この過程において「ハラスメントの防止」について重点的に協議・確認する。

②上記①の「実習調整会議」を踏まえ、学内において学生に対して、オリエンテーションを実施する際に、「ハラスメントの防止」のために学生としての心構え及び注意すべき事項や万一、ハラスメントを受けた場合の臨地実務実習担当教員やハラスメント防止委員会への通報手段や相談方法等について事前指導する。

③万一、ハラスメントが発生し、臨地実務実習担当教員やハラスメント防止委員会が通報及び相談を受けた場合には、ただちにハラスメント防止委員会を開催し、事実確認を迅速に行い、実習施設との連絡調整や注意喚起を行う。場合によっては、臨地実務実習の中止や実習施設の変更等を行う場合もあり得る。

④臨地実務実習終了後に、本学教員と実習施設の指導者及び責任者により学外で実施する「実習調整会議」において、「ハラスメントの防止」について徹底を依頼し、確認する。万一、当該実習施設に「ハラスメントの防止」に関する誠意が見られない場合には、次年次以降、継続しないことも視野に入れることとする。

11-7 守秘義務等のセキュリティ

実習中に実習施設の重要情報や顧客等の個人情報に触れる可能性があるので、それらの情報の取り扱いについて、実習前の CP4 職業専門科目群（実務）③臨地実務実習事前学修科目群の観光

ビジネス実務基礎論」(必修)、「観光実務基礎論（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域クラス)」(必修)、「観光実務応用論（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域クラス)」（必修）の中で指導するほか、実習生と実習施設の間で「誓約書」を取り交わす。**（資料 57 臨地実務実習 誓約書）**

11-8 危機管理体制

実習中に天災や事故等のような不測の事態が生じた場合に備えて、本学と実習施設とが連携して、緊急連絡体制を整備する。**（資料 58 実習中の事故発生時の緊急連絡体制）**学内には学長の下に「危機管理本部」を設置し、事前に整備する危機管理マニュアルに従い、実習生の救出や安全確保等を迅速に行う。**（資料 59　臨地実務実習危機管理マニュアル）**

11-9 学生に対する報酬及び交通費支給等の取扱い

本学の臨地実務実習については、すべて非雇用型であり、原則として無償とする。また、交通費についても原則として、学生がすべて負担する。

11-10 臨地実務実習に関する全学的なサポート体制

本学の臨地実務実習については、産学連携・地域連携方策の中にしっかりと位置付けて、大学全体で推進していきたいと考えている。そのため、以下のような全学的なサポートを構築する。

(1)臨地実務実習の統括責任は、大学運営本部及び本部長である学長が負うものとする。

(2)学長は、臨地実務実習の運営に関して教育課程連携協議会の意見を聞くものとする。

(3)副本部長である副学長及び学長補佐は、学長をサポートする。

(4)観光振興学科は、臨地実務実習施設の開拓から実施に関する企画・立案を行う。

(5)観光振興学科に、実習運営委員会を置き、臨地実務実習を実施し、現場としての責任を負う。実習運営委員会には、実務系の実習担当教員に加え、学術系の若手教員が参画し、その機動力を生かして実務系教員を側面から支援する。

(6)せとうち観光学研究所は、その専門的見地や研究成果を踏まえて、観光振興学科に対し臨地実務実習施設の選定及び開拓に関する助言を行うとともに、自治体・企業・団体等に対して、提案・提言を行い、有識者会議・協力者会議等への参画の要請に応える。

(7)産学連携・地域連携センターにおいては、自治体・企業・団体等の窓口となり、働きかけや説明から連携協定の締結及びそのフォローアップに関する現場責任を負う。

(8)臨地実務実習の実施に当たっては、本学教員と、企業・団体等の責任者及び指導者の間で実習調整会議を開催し、事前協議及び事後協議を行う。

（資料71 臨地実務実習等に関する組織体制図）

11-11 実習指導体制に関するまとめ

これまで、臨地実務実習の計画について述べてきたが、その根幹となる指導体制について、改めて時系列に整理しなおし、各々の役割や責任を確認する。**（資料72 臨地実務実習に関する業**

務担当表）

(1)実習の学内体制の整備

① 実習の運営にあたり、学科内に「実習運営委員会」を設置する。本委員会は、学科長、学術系専任教員２名、実習担当専任教員７名、実習担当職員２名で構成する。委員長は、学科長とする。実習担当専任教員は、実習の実質的な運営と成績評価を行い、学術系専任教員は、実習をディプロマ・ポリシー(DP)に沿った実習プログラムとするための授業設計支援を行う。職員は実習運営にかかる諸手続きを担う。

(2)実習の事前協議

② 実習前に各実習施設において「実習調整会議」を開催する。当会議に出席するのは、本学の実習担当教員と、実習施設の責任者及び実習指導者である。

(3)実習の事前指導

③ CP4 の③「臨地実務実習事前学修科目群」の「ホスピタリティ実務実習Ａ・Ｂ」（いずれか１科目選択必修)、「観光支援ビジネス実務基礎論」（必修)、「観光実務基礎論」（必修)、「観光実務応用論」（必修）によって、実習の事前指導を行う。これらは担当実務系専任教員が指導する。

(4)実習中の指導

④ 臨地実務実習施設の実習指導者を配置し、実習指導者は、本学と実習施設の間で作成した実習目的と実習プログラムに基づき、本学実習担当教員と連携して実習生の指導に当たる。

⑤ 学生は実習期間中活動日誌を作成し、実習施設の指導者の確認の後、それらを写真等におさめ、本学の実習担当教員に、週に１回、メール等で送信することとする。

⑥ 実習中は、各実習担当教員が実習施設に出向き、学生の実習現場を観察し、実習施設の担当者との意見を交換して、学生の実習状況を確認する。巡回頻度は実習内容によって異なり、臨地実務実習Ⅰにおいては、実習担当の全教員が分担し、２週間に１回巡回指導を行う。また、臨地実務実習Ⅱ及びⅢの航空クラスは３名の教員が、宿泊クラス、観光地域創生クラスにおいては、２名の教員が分担し、３週間に１回、実習施設にて巡回指導を行う。また、鉄道クラスでは２名の教員が週に１回実習施設にて巡回指導を行う。

⑦「実習施設指導者による臨地実務実習の評価」については、実習施設の業種や業務に関わらず、学生が修得すべき能力を一般化して評価することを中心とする。具体的には、実習により体得すべき「A 実践力」及び「B 協働力」を主体として、その土台となる「C 思考力」についても評価する。また、それぞれの能力の下には、具体的に修得すべき技能や知識を「実務知識技能」「安全確保」「ホスピタリティ」「チームワーク」「リーダーシップ」「他者への共感・受容・気配り」「変革と新しい価値創造」「職業倫理」「経営の視点」のように細分化して定める。臨地実務実習施設の業種や業務ごとの評価については、それぞれの到達目標の達成度を評価することにより行うものとする。

⑧ 成績評価については、実習担当教員が行う。評価は、「1. 実習施設指導者による実習評価書」、「2. 実習直後に学生が提出する振り返りレポート」という２点の評価基準によってなされる。

(5)実習中の連絡体制

⑨ 実習の運営に係る諸連絡は、実習担当教員と実習施設指導者の間でなされるが、その際、実習担当教員による判断や対応の困難な問題等が発生した場合には､実習担当教員から実習運営委員会委員長（学科長）へ即座に報告する連絡体制を敷いて、実習運営委員会が迅速に対応できる体制を整備する。

(6)実習の事後指導

⑩ CP4の⑤「臨地実務実習事後学修科目群」の「観光ビジネス実務発展論」(必修)、「観光実務発展論」(必修)、「観光実務マネジメント論」(必修）によって、実習の事後指導を行う。これらは担当実務系専任教員が指導する。

(7)実習の事後協議

⑪ 実習終了後、「実習調整会議」において、実習の成果や教育の質の保証の確認を行い、改善策等を協議する。

１２　管理運営

12-1 教授会

本学学則第 39 条第 1 項・第 2 項及び教授会規程に則り、教育研究における重要事項を審議し、学長が意思決定を行うにあたり意見を述べることを目的として、教授会を設置する。教授会は専任教員及び事務局長をもって構成する。教授会は学長が招集し、学長が議長となり、以下を審議する。教授会は原則として月に１回、開催する。構成員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって教授会の意見とする。審議事項および意見を述べる事項は以下のとおりである。

①入学試験の合否判定に関する事項
②学生の入学（転入学及び再入学を含む。)、卒業に関する事項
③学生の進級、休学、復学及び願い出による退学に関する事項
④学位の授与に関する事項
⑤教育課程の編成に関する事項
⑥学生の除籍に関する事項
⑦学生の賞罰に関する事項
⑧教員の採用及び昇任に係る教育研究業績の審査に関する事項
⑨その他学長が教授会の意見を求める事項　**（資料 60 教授会規程）**

12-2 運営協議会

本学の運営、経営全般に関する重要事項を審議し、学長のガバナンスを適切に保持・支援するため、運営協議会を設置する。運営協議会は、学長、学科長、事務局長、事務局管理職により構成され、経営的観点、教学的観点を両立させつつ、バランスの取れた大学運営を行い、本学の運営管理を的確に担保するとともに、本学の持続的発展に資するものとする。また、運営協議会は、月１回、定期的に開催するほか、必要に応じて学長の招集により開催するものとする。

（資料 61 運営協議会規程）

12-3 委員会の設置

教授会及び運営協議会に対し、具体的かつ詳細な事項について、審議及び提案する機関として、以下の委員会を設置する。各委員会は専任教員及び事務局関係職員により構成され、事務局における業務と常に連動し、大学運営の実情及び学生・教職員の実態に即した審議及び提案を行うものとする。各委員会の所掌事項及びその他必要な事項については、各委員会規程に定める。

（資料 62　各委員会規程）

1 自己点検・評価委員会
2 入試・広報委員会
3 教務委員会
4 学生支援委員会
5 ハラスメント防止委員会
6 その他必要に応じて、学長が設置する委員会

１３　自己点検・評価

13-1 実施体制・方法

本学における建学の精神、教育目標に照らして、教育活動の状況を自ら点検・評価することにより、 現状を正確に把握、認識するとともに、その達成状況を評価し、評価結果に基づく改善の推進を図ることを目的として、自己点検・評価を実施する。

学則及び設置規程に基づき自己点検・評価委員会を設置する。委員会の構成は、学長を委員長として、専任教職員から選考されたものとする。原則として、3 年に一度、実施する。ただし、数値的な根拠については、毎年取りまとめを行い公表するとともに、教職員の利用に供するものとする。

(1)評価項目

自己点検・評価委員会は、以下の項目について、点検・評価する。

・理念・目的
・教育組織、教員組織
・教育内容・方法
・学生の受入れ、卒業後の進路
・学生の履修状況
・学生生活
・教員の研究状況
・地域連携、社会貢献
・情報公開、説明責任
・管理運営、事務組織、施設設備の状況、財務

(2)評価結果の公表と活用

結果は、自己点検・評価報告書にまとめ、ホームページで公開する。また、教育研究開発会議

（資料 29 教育研究開発会議規程）において共有し、改善策を運営協議会に提案する。運営協議会が改善案を決定･実施することにより､全学のＰＤＣＡサイクルを的確かつ円滑に機能させる。

１４　情報の公表

14-1 公表の方法

本学のホームページを活用し、「14-2 公開する項目」に掲げる内容を積極的に公開する。教育研究活動の成果については､紀要『せとうち観光学フォーラム』(年 2 回) 及び教育研究報告書『せとうち観光振興専門職教育』(3 年に 1 回) を発行する。

14-2 公開する項目

①建学の精神、教育理念
②アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー
③養成する人材像
④教員組織、事務組織
⑤各教員の職位、学位、研究分野、教育研究上の業績
⑥学生の入学、在籍、卒業に関する事項（入学試験、卒業生の就職・進路状況）
⑦授業料、入学料、その他の大学が徴収する費用に関する事項
⑧授業科目、授業の方法及び内容
⑨卒業要件
⑩学生生活支援に関する事項
⑪校地、校舎等の施設、設備など、学生の教育環境に関する事項
⑫財務・経営関連の情報
⑬自己点検・評価報告書
⑭その他、学長が必要と認めたもの

１５　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

教育内容・教育方法の改善、並びに教員の資質向上を図るため、教育研究開発会議を 2 か月毎に 1 回開催する。ＦＤ研修・活動においては、教員の資質の向上の方策について検討する。具体には、各教員の担当する教科のシラバスの検討、授業や臨地実習の参観を通じての改善指導、授業評価の実施と取りまとめ、教員研修会の企画・実行などを所掌する。

① シラバスの検討

各教員が構想し執筆するシラバスは、学生便覧に掲載する前に、教育研究開発会議がその内容を検討する。改善点があれば、勧告して訂正・追加などしてもらう。また、授業が実際にシラバスとおりに運用されているかどうか確認する。

② 授業、臨地実務実習の参観

年に数度、教育研究開発会議が授業（臨地実務実習を含む）を参観する。改善点があれば、勧告する。

③ 学生による授業評価

各学期末に学生による授業評価アンケートを全授業で実施する。集計結果は、各教員にフィードバックする。学生が自由記述欄に記入した意見に対しては、教員がコメントを返す取り組みを実施する。

④ 研修会の開催

教育力向上のため、学内外の講師による研修会を年1回程度実施する。

また、事務職員一人ひとりが、我が国の高等教育の現状を的確に認識し、企画・政策的な能力を有することにより、事務職員としての能力の向上を図るため、年２回SD研修を実施する。

１６　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

本学は、卒業後に観光産業及び観光による地域創生事業で活躍し、観光振興と地域社会の発展に貢献できる観光振興専門職の養成を目的としている。この目的を達成するため、社会的・職業的自立に関する「キャリア形成支援」においては、入学初年次から教育課程の内と外の連携と補完のもとに、学生の多様な個性・意欲に対応できる、きめ細やかな指導と手厚い支援体制を整備する。

16-1　教育課程内の取組み

本学の全ての学生は、入学初年次からの 3 年間の教育課程、特に職業専門科目において、観光振興専門職に必要な知識と技能を理論的かつ実践的に学び、自らの職業観、勤労観を培い、社会人として必要な資質能力を形成していく。

具体的には、1年次第2クォーターの「ホスピタリティ実務実習A・B」、1年次第3クォーターの「臨地実務実習Ⅰ」、2 年次第 2・4 クォーターに実施する進路別の「臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（航空クラス）（鉄道クラス）（宿泊クラス）（観光地域創生クラス）」という実習科目において、観光振興専門職としての実務体験を通じて、自己の目指す専門職の意義や役割を考えることを目的とし、実習指導者の指導のもと、社会人として必要な知識と技能を修得する。

また、2年次第1・3クォーターの「キャリアデザイン論」において、単に卒業時点の就職を目指すだけではなく、生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指す。3 年次を通して学修する「専門演習」においては、2 年次修了までに観光振興専門職を目指して学んだ全授業科目と、本演習と同時に学ぶ全授業科目との学修成果を総括し、自らの職業観・勤労観を醸成し、社会人として必要な資質能力の形成を図る。

16-2　教育課程外の取組みとその組織体制

学内にキャリアセンターを設置し、職員 1 名を配置し、学生の就職活動を支援する体制を整える。キャリアセンターでは、就職情報誌、求人票などの図書を常時閲覧可能な状態にしておくとともに、随時相談を受け付ける。また、入学時に専任教員と連携して学生全員と面談を行い、就職及び臨地実務実習に関する希望や事情を十分に聴取し、個人の適性などを踏まえて適切な指導を行う。

下記のような就職サポート講座を、希望者（ビジネスマナー基礎講座Ⅰ・Ⅱは全員に受講を義務付ける）を対象として、正規の教育課程外で開催する。

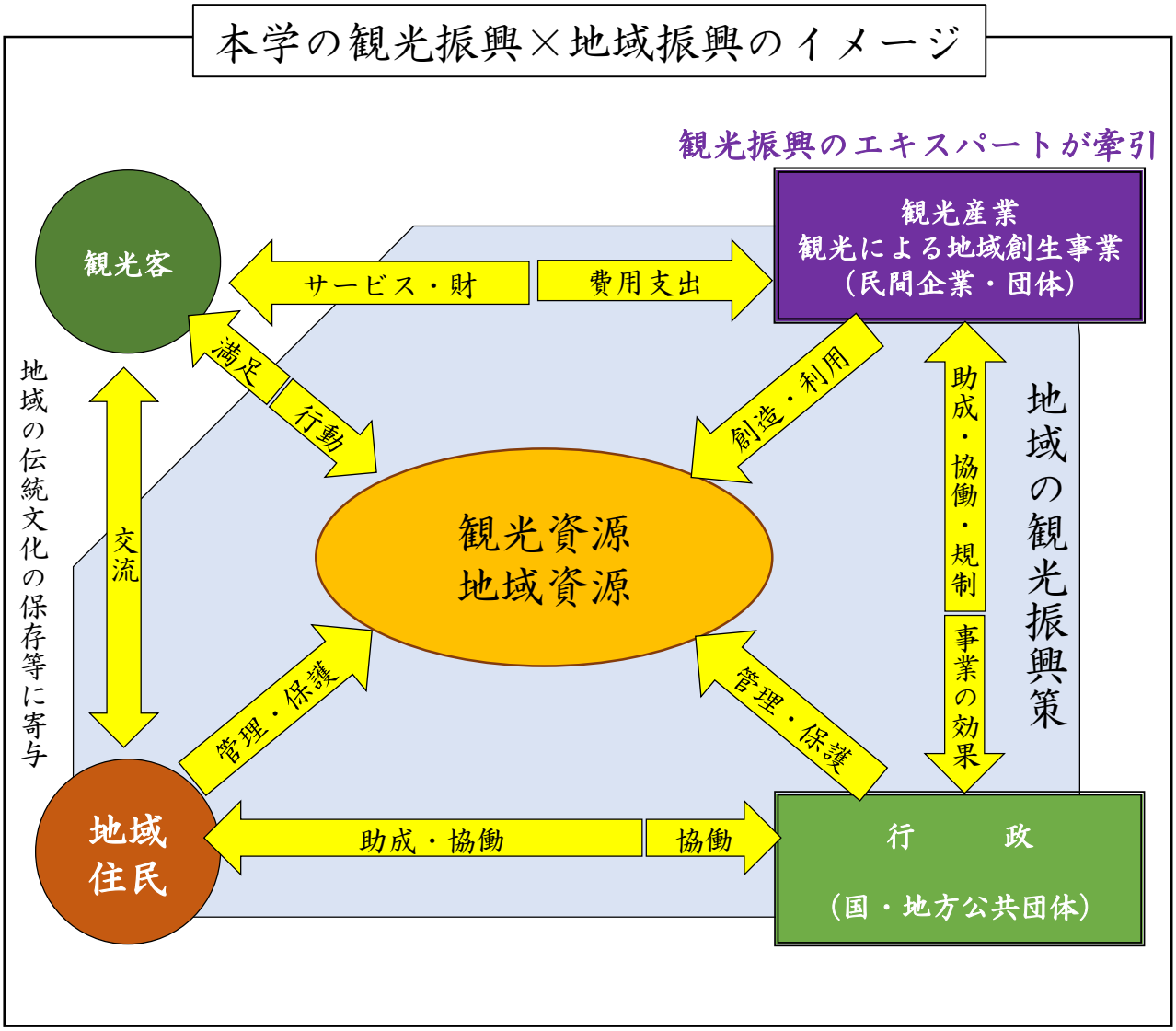
就職活動サポート講座①	ビジネスマナー基礎講座Ⅰ
就職活動サポート講座②	ビジネスマナー基礎講座Ⅱ
就職活動サポート講座③	エントリーシートの書き方
就職活動サポート講座④	小論文対策講座
就職活動サポート講座⑤	面接対策講座
就職活動サポート講座⑥	一般常識筆記試験対策講座

設置の趣旨等を記載した書類　【資料目次】

資料１　本学の観光振興及び地域振興のイメージ
資料２　香川県知事要望書
資料３　高松市長要望書
資料４　UNWTO(2018) Tourism Highlights, p.2
資料５　WTTC (2019) Travel & Tourism: Global Economic Impact & Issues 2019, p.5
資料６　UNWTO(1999) Global Code of Ethics for Tourism, p.2
資料７　“Johannesburg Plan of Implementation of the World Summit on Sustainable Development”(2002), Chapter IV, Paragraph 43
資料８　訪日外国人旅行者数の推移
資料９　明日の日本を支える観光ビジョン（抄）
資料 10 香川県交通機関別県外観光客入込数
資料 11 岡山県県内・県外別の観光客数
資料 12 高松空港株式会社マスタープラン
資料 13 米国ニューヨーク・タイムズ誌の「2019 に行くべき 52 か所」
資料 14 日本遺産リスト
資料 15 日本標準産業分類（総務省　平成２６年４月施行）
資料 16 受容性調査結果報告書（抄）
資料 17 せとうち観光専門職短期大学設立の賛同書
資料 18 都道府県別大学と短期大学数と人口
資料 19 出身高校の所在地県別県内進学率
資料 20 せとうち観光専門職短期大学の教育・研究・地域(連携)貢献の体制
資料 21 せとうち観光学研究所規程
資料 22 本学が養成する人材像
資料 23 本学の教育が養成する人材像と教育課程の関連
資料 24 せとうち観光専門職短期大学の学び
資料 25 「学びのプログラム（仮称)」書式
資料 26 学修態度測定表
資料 27 キャリア形成必読書 100 冊
資料 28 職業専門科目（学術・実務）の科目構成と関連性
資料 29 教育研究開発会議規程
資料 30 教育研究報告書規程・執筆要領
資料 31 紀要編集規程・執筆要領
資料 32 専門職短期大学と専門学校のカリキュラムの比較
資料 33 学年暦
資料 34 養成する人材像、３つのポリシー、教育課程の対応表
資料 35 せとうち観光専門職短期大学観光振興学科カリキュラムマップ
資料 36 せとうち観光専門職短期大学観光振興学科カリキュラムツリー

資料 37 職業専門科目と展開科目の科目群と６つの観点
資料 38 進路別履修モデル
資料 39 進路別履修モデルに対応する時間割表
資料 40 せとうち観光専門職短期大学観光振興学科クラス別科目配当・履修順序表
資料 41 専任教員等定年規程
資料 42 せとうち観光専門職短期大学観光振興学科総合時間割
資料 43 教育課程連携協議会規程
資料 44 校舎と上天神グラウンドの位置関係
資料 45 図書等購入計画
資料 46 学術雑誌の購入計画一覧
資料 47 臨地実務実習関係科目カリキュラムマップ
資料 48 臨地実務実習Ⅰクラス編成一覧
資料 49 臨地実務実習施設一覧
資料 50 臨地実務実習施設の選定基準
資料 51 せとうち観光専門職短期大学臨地実務実習　実施スケジュール
資料 52 せとうち観光専門職短期大学臨地実務実習　巡回指導計画
資料 55 臨地実務実習 活動日誌
資料 54 臨地実務実習クラス別実習計画書
資料 55 臨地実務実習施設指導者評価書
資料 56 臨地実務実習 同意書
資料 57 臨地実務実習 誓約書
資料 58 実習中の事故発生時の緊急連絡体制
資料 59 臨地実務実習 危機管理マニュアル
資料 60 教授会規程
資料 61 運営協議会規程
資料 62 各委員会規程
資料 63 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、教育課程の対比表
資料 64 教員採用の見通し
資料 65 専任教員の年代別分布グラフ
資料 66 専任教員個人別時間割
資料 67 専任教員の担当授業コマ数一覧
資料 68 観光振興学科内の連携・協力体制
資料 69 校舎４階及び教員研究室内部レイアウト図
資料 70 臨地実務実習施設指導者の実務経験年数一覧
資料 71 臨地実務実習等に関する組織体制図
資料 72 臨地実務実習に関する業務担当表
資料 73 立教大学 大学基礎データ 2016 年度（抄）
資料 74 教員の１週間の平均担当授業時間数の比較表
資料 75 臨地実務実習における実習調整会議等のプロセス

資料1　本学の観光振興及び地域振興のイメージ



元地域第３９７３８号
令和元年　９月２５日

文部科学大臣　萩生田　光一　様

せとうち観光専門職短期大学（仮称）の設置について（要望書）

香川県知事　浜田　恵造

人口減少、少子化、超高齢化に加え、グローバル化の一層の進展やＡＩに代表される技術の革新など、内外の情勢が著しく急速に変化する中、時代の変化に即応できる実践的な知識と高度な技術を有した若い人材を育てることが、一層重要となっています。

こうした中、香川県では、「信頼・安心の香川」、「成長する香川」、「笑顔で暮らせる香川」の三つの基本方針のもと、特に地震から渇水まで災害に耐えられる県土づくりや人口減少の克服、地域活力の向上に全力で取り組んでいます。

なかでも、「笑顔で暮らせる香川」では、大学等への進学や就職などを機に若者が県外に流出していることや、既存の県内大学・短期大学の入学定員も本県出身の大学・短期大学進学者に比べると少ない状況にあることなどから、若者の県外流出に歯止めをかけるため、県内大学等の魅力づくりなど、若者の県内定着に向け、積極的に取組みを進めています。

また、「成長する香川」では、県内を周遊する滞在型観光の推進や観光客の満足度を高めるための受け入れ環境の充実、強化を図るとともに、国内外からの観光客に向けた戦略的な情報発信や誘客活動を行うことにより、観光かがわの推進に取り組んでいます。

学校法人穴吹学園におかれては、専門学校としてコンピュータや医療、福祉など様々な分野の専門知識や技術を修得した地域を支える人材を多数輩出されており、地域の教育機関として重要な役割を担っております。

同法人では、令和３年４月の開学を目指し、「せとうち観光専門職短期大学（仮称）」の設置に向けた取組みを進められているところであり、本県における若者の県内定着促進や地域に根差した観光分野での人材育成が図られることに期待を寄せているところです。

ついては、同法人による「せとうち観光専門職短期大学（仮称）」の設置について、ご高配いただきますようお願い申し上げます。

文部科学大臣
萩生田　光一　様

せとうち観光専門職短期大学（仮称）の設置について（要望）

近年、人口減少、少子・超高齢社会の本格的な到来を迎える中、本市のまちづくりの最上位計画に位置付けております第６次高松市総合計画や、平成２７年１０月に策定した「たかまつ創生総合戦略」において、施策の基本的方向の一つに「大学等高等教育の充実」を掲げ、大学等の機能を強化し、魅力を向上させることで、高等学校卒業後の人材の流出を抑制し、若者の定着を図るとともに、地方への新たな人の流れをつくろうとしております。

また、近年、新規国際定期路線の誘致活動などが功を奏し、高松空港では定期路線利用者数が５年連続で過去最多を更新しているほか、県や関係団体と連携しての瀬戸内国際芸術祭の開催などによる知名度の向上などにより、県内における外国人延べ宿泊者数も増加を続けております。

本年１月には、ニューヨークタイムズで「２０１９年に訪れるべき５２か所」の第７位に「瀬戸内の島々」が日本で唯一選ばれるなど、世界的にも注目が集まっているエリアとなっております。

今後、本市を訪れた人々に、再び訪れてもらうとともに、本市の観光都市としてのブランドイメージを向上させ、観光客の更なる誘致を実現していくためには、満足度の高いサービスを提供できる、受入環境の整備が重要であり、地域の特性をいかした観光や四国が誇るべき要素である「おもてなしの心」を将来にわたって創造・実践できる人材の育成が課題となっております。

この度の穴吹学園による「せとうち観光専門職短期大学（仮称）」の設置構想は、そうした観光産業分野における創造力と実践力を有する人材の育成が期待され、また、本市が進める政策や施策など取組方針とも合致するもので、地元自治体といたしまして、一早くその構想推進に賛同の意思を表明し、現時点で行政として出来得る支援として、市議会の承認を得た上で、本年４月から市有施設の貸付けを行うとともに、今後２０年以上にわたる貸付けを確実に保証するための確認書も交わさせていただいております。

本市では、地域課題の解決に向けて、地元大学等と包括協定を締結し、調査研究・共同研究なども実施しており、穴吹学園による専門職短期大学には、地元高等教育機関として、特に観光分野における専門的立場から本市まちづくりに将来にわたり参画いただきたいとも考えており、その設置の早期実現を強く望むものでございます。

令和元年１０月４日

高松市長　大西　秀人　印

1. 設置の趣旨等を記載した書類

資料４　UNWTO(2018) Tourism Highlights p.2

2. 出典

UNWTO Tourism Highlights 2018 Edition 日本語版

3. https://www.e-unwto.org/doi/epdf/10.18111/9789284419951

1. 設置の趣旨等を記載した書類

資料５　WTTC(2018) Travel & Tourism: Global Economic Impact & Issues, 2018, p.5

2. 出典

World Travel & Tourism Council, TRAVEL & TOURISM GLOBAL ECONOMIC IMPACT & ISSUES, 2018

3. https://dossierturismo.files.wordpress.com/2018/03/wttc-global-economic-impact-and-issues-2018-eng.pdf

1. 設置の趣旨等を記載した書類

資料6　UNWTO(1999) Global Code of Ethics for Tourism, p.2

2. 出典

UNWTO, Global Code of Ethics for Tourism

3. https://webunwto.s3.eu-west-1.amazonaws.com/imported_images/37802/gcetbrochureglobalcodeen.pdf

1. 設置の趣旨等を記載した書類

資料7 “Johannesburg Plan of Implementation of the World Summit on Sustainable Development”(2002), Chapter IV, Paragraph 43

2. 出典

Plan of Implementation of the World Summit on Sustainable Development

3. https://www.un.org/esa/sustdev/documents/WSSD_POI_PD/English/WSSD_PlanImpl.pdf
P25-26

1.　設置の趣旨等を記載した書類

資料８　訪日外国人旅行者数の推移

2.　出典

国土交通省 観光庁 「訪日外国人旅行者数・出国日本人数の推移」

3. https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/in_out.html

1. 設置の趣旨等を記載した書類

資料9　明日の日本を支える観光ビジョン（抄）

2. 出典

明日の日本を支える観光ビジョン構想会議

3. https://www.mlit.go.jp/common/001126598.pdf

P1-5

資料10　香川県交通機関別県外観光客入込数

（単位：千人）

		平成29年	平成28年	前年比増減率
J　R　利　用		1,359	1,341	1.3%
船　舶　利　用		541	630	△14.0%
航　空　機　利　用		306	278	10.0%
自動車利用	瀬戸中央自動車道	3,377	3,283	2.8%
	神戸淡路鳴門自動車道	1,990	1,993	△0.2%
	西瀬戸自動車道	116	116	△0.1%
	四国3県より	1,775	1,727	2.8%
	小　計	7,258	7,119	1.9%
合　計		9,464	9,368	1.0%

※前年比増減率は千人単位ではなく、人単位で計算した数値

資料：香川県作成

資料11　岡山県県内・県外別の観光客数

（単位：千人、％）

区　　分	平成26年		平成27年		平成28年		対前年比
	観光客数	構成比	観光客数	構成比	観光客数	構成比	
県内観光客	5,561	39.1	5,970	41.2	7,707	44.3	129.1
県外観光客	8,659	60.9	8,518	58.8	9,697	55.7	113.8
計	14,220	100.0	14,488	100.0	17,404	100.0	120.1

資料：岡山県作成

1. 設置の趣旨等を記載した書類

資料 12　高松空港株式会社マスタープラン

2. 出典

マスタープラン　高松空港株式会社

3. https://www.takamatsu-airport.com/assets/docments/doc_footer_20180327-02.pdf, p.2

1. 設置の趣旨等を記載した書類

資料13　米国ニューヨークタイムズ誌の「2019年に行くべき52か所」

2. 出典

New York Times, TRAVEL 52 Places to Go in 2019

3. https://www.nytimes.com/interactive/2019/travel/places-to-visit.html

資料14　日本遺産リスト

日本遺産とは

「日本遺産（Japan Heritage）」は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」として文化庁が認定するものです。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を，地域が主体となって総合的に整備・活用し，国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより，地域の活性化を図ることを目的としています。

これまで67件を認定し，2020年までに100件程度認定していく予定です。

日本遺産一覧

ストーリー１　茨城県・栃木県・岡山県・大分県　近世日本の教育遺産群ー学ぶ心・礼節の本源ー
ストーリー２　群馬県　かかあ天下ーぐんまの絹物語ー
ストーリー３　富山県　加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡ー人、技、心ー
ストーリー４　石川県　灯（あか）り舞う半島　能登　～熱狂のキリコ祭り～
ストーリー５　福井県　海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～御食国（みけつくに）若狭と鯖街道～
ストーリー６　岐阜県　「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜
ストーリー７　三重県　祈る皇女斎王のみやこ　斎宮
ストーリー８　滋賀県　琵琶湖とその水辺景観ー祈りと暮らしの水遺産
ストーリー９　京都府　日本茶800年の歴史散歩
ストーリー10　兵庫県　丹波篠山　デカンショ節　-民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶
ストーリー11　奈良県　「日本国創成のとき～飛鳥を翔（かけ）た女性たち～」
ストーリー12　鳥取県　六根清浄と六感治癒の地～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～
ストーリー13　島根県　津和野今昔～百景図を歩く～
ストーリー14　広島県　尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市
ストーリー15　愛媛県・高知県・徳島県・香川県「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～
ストーリー16　福岡県　太宰府市　古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～
ストーリー17　長崎県　国境の島　壱岐・対馬・五島　～古代からの架け橋～
ストーリー18　熊本県　相良700年が生んだ保守と進取の文化　～日本でもっとも豊かな隠れ里-人吉球磨～
ストーリー19　宮城県 政宗が育んだ“伊達”な文化
ストーリー20　山形県 自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』
～樹齢300年を超える杉並木につつまれた2,446段の石段から始まる出羽三山～
ストーリー21　福島県 会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して観た往時の会津の文化～
ストーリー22　福島県 未来を拓いた「一本の水路」ー大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡　郡山・猪苗代ー
ストーリー23　千葉県　「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」
ー佐倉・成田・佐原・銚子：百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群ー
ストーリー24　神奈川県　江戸庶民の信仰と行楽の地～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～
ストーリー25　神奈川県　「いざ、鎌倉」～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～
ストーリー26　新潟県　「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焔型土器と雪国の文化
ストーリー27　石川県　『珠玉と歩む物語』小松　～時の流れの中で磨き上げた石の文化～
ストーリー28　長野県　木曽路はすべて山の中～山を守り山に生きる～
ストーリー29　岐阜県　飛騨匠の技・こころ　―木とともに、今に引き継ぐ1300年―
ストーリー30　兵庫県　『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人の営み
ストーリー31　奈良県　森に育まれ、森を育んだ人々の暮らしとこころ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～
ストーリー32　和歌山県　鯨とともに生きる
ストーリー33　鳥取県　地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市
ストーリー34　島根県　出雲國たたら風土記　～鉄づくり千年が生んだ物語～

ストーリー35　広島県・神奈川県・長崎県・京都府　～日本近代化の躍動を体感できるまち～
ストーリー36　愛媛県・広島県　“日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島
－よみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶－
ストーリー37　佐賀県・長崎県　日本磁器のふるさと　肥前　～百花繚乱のやきもの散歩～
ストーリー38　北海道 江差の五月は江戸にもない　―ニシンの繁栄が息づく町―
ストーリー39　北海道・青森県・秋田県・山形県・新潟県・富山県・石川県・福井県・京都府・大阪府・兵庫県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県
荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間　～北前船寄港地・船主集落～
ストーリー40　山形県　サムライゆかりのシルク　日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ
ストーリー41　埼玉県　和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田
ストーリー42　滋賀県・三重県　忍びの里　伊賀・甲賀―リアル忍者を求めて―
ストーリー43　京都府　300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊
ストーリー44　大阪府・奈良県　1400年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」～竹内街道・横大路（大道）～
ストーリー45　兵庫県　播但貫く，銀の馬車道　鉱石の道～資源大国日本の記憶をたどる73kmの轍～
ストーリー46　和歌山県　絶景の宝庫　和歌の浦
ストーリー47　和歌山県　「最初の一滴」醤油醸造の発祥の地　紀州湯浅
ストーリー48　島根県　日が沈む聖地出雲　～神が創り出した地の夕日を巡る～
ストーリー49　岡山県　一輪の綿花から始まる倉敷物語　～和と洋が織りなす繊維のまち～
ストーリー50　岡山県・福井県・愛知県・滋賀県・兵庫県
きっと恋する六古窯　―日本生まれ日本育ちのやきもの産地―
ストーリー51　高知県　森林鉄道から日本一のゆずロードへ　―ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化―
ストーリー52　福岡県・山口県　関門“ノスタルジック”海峡　～時の停車場、近代化の記憶～
ストーリー53　熊本県　米作り、二千年にわたる大地の記憶　～菊池川流域「今昔『水稲』物語」～
ストーリー54　大分県　やばけい遊覧～大地に描いた山水絵巻の道をゆく～
ストーリー55　北海道　カムイと共に生きる上川アイヌ　～大雪山のふところに伝承される神々の世界～
ストーリー56　山形県　山寺が支えた紅花文化
ストーリー57　栃木県　地下迷宮の秘密を探る旅　～大谷石文化が息づくまち宇都宮～
ストーリー58　栃木県　明治貴族が描いた未来　～那須野が原開拓浪漫譚～
ストーリー59　富山県　宮大工の聖一丁から生まれた木彫刻美術館・井波
ストーリー60　山梨県　葡萄畑が織りなす風景－山梨県峡東地域－
ストーリー61　長野県・山梨県　星降る中部高地の縄文世界―数千年を遡る黒曜石鉱山と縄文人に出会う旅―
ストーリー62　静岡県・神奈川県　旅人たちの足跡残る悠久の石畳道 ―箱根八里で辿る遥かな江戸の旅路
ストーリー63　和歌山県　「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～
ストーリー64　岡山県　「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま ～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～
ストーリー65　広島県　瀬戸の夕凪が包む　国内随一の近世港町～セピア色の港町に日常が溶け込む鞆の浦～
ストーリー66　大分県　鬼が仏になった里「くにさき」
ストーリー67　宮崎県　古代人のモニュメント ―台地に絵を描く　南国宮崎の古墳景観―

資料 15 日本標準産業分類（総務省　平成 26 年 4 月施行）

総務省
MIC Ministry of Internal Affairs and Communications
アクセシビリティ閲覧支援ツール
カスタム検索

日本標準産業分類(平成25年10月改定)(平成26年4月1日施行)ー目次

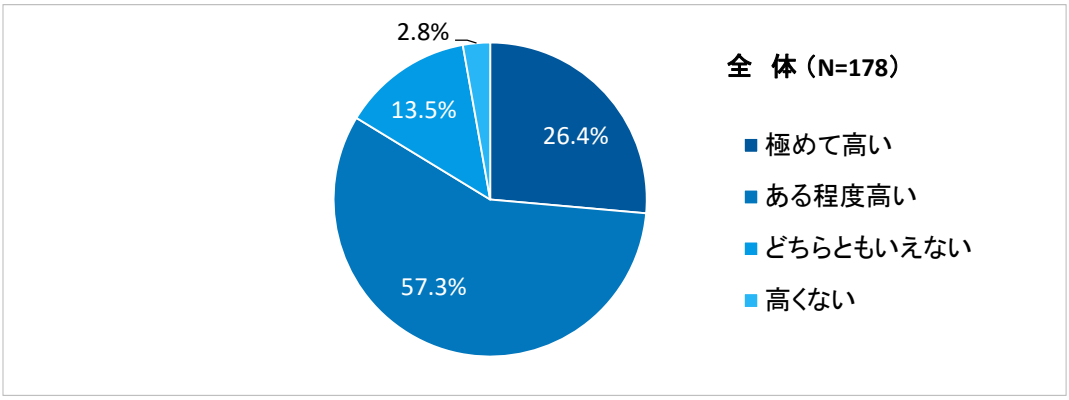
分類項目名，説明及び内容例示

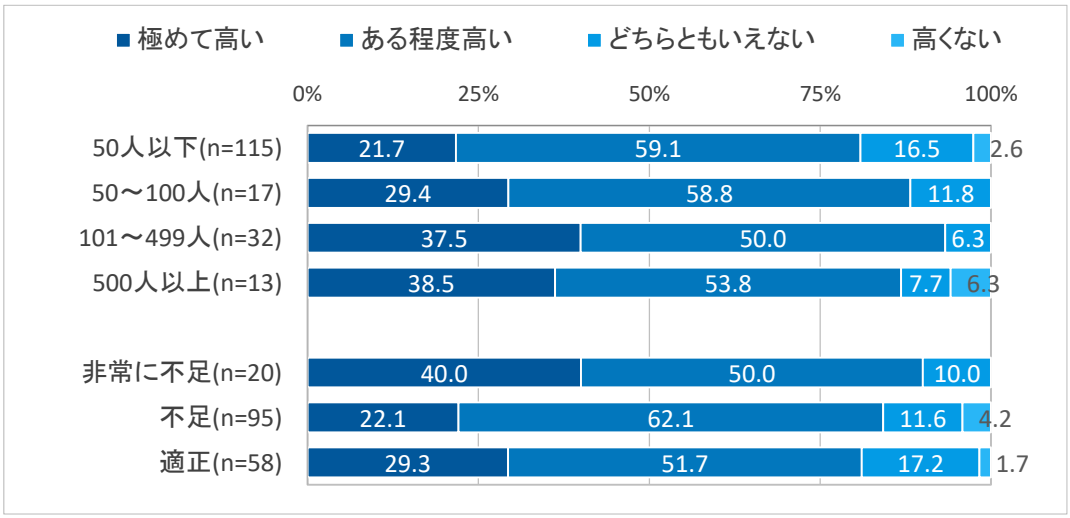
A. 農業，林業
B. 漁業
C. 鉱業，採石業，砂利採取業
D. 建設業
E. 製造業
F. 電気・ガス・熱供給・水道業
G. 情報通信業
H. 運輸業，郵便業
I. 卸売業，小売業
J. 金融業，保険業
K. 不動産業，物品賃貸業
L. 学術研究，専門・技術サービス業
M. 宿泊業，飲食サービス業
N. 生活関連サービス業，娯楽業
O. 教育，学習支援業
P. 医療，福祉
Q. 複合サービス事業
R. サービス業(他に分類されないもの)
S. 公務(他に分類されるものを除く)
T. 分類不能の産業

本学が養成する人材の社会的ニーズ

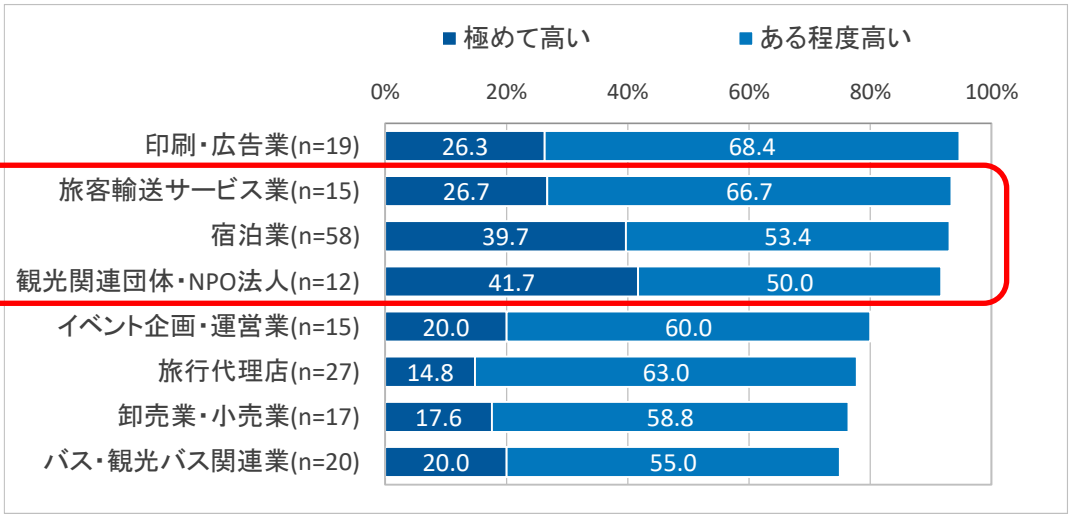
本学で計画中の観光振興学科（仮称）が養成する人材について、「極めて高い」との回答が 26.4%、「ある程度高い」が 57.3%。8 割以上の会社・団体が、本学の社会的ニーズが高いとする結果となった。

本学の観光振興学科（仮称）が養成する人材の社会的ニーズは高いと思いますか。（○は 1 つ）	件数	%
全　体	178	100.0
極めて高い	47	26.4
ある程度高い	102	57.3
どちらともいえない	24	13.5
高くない	5	2.8





業種別に「極めて高い」「ある程度高い」の合計値を降順に並び替えたところ、どの業種でも 75%を超えた。中でも印刷・広告業、旅客輸送サービス業、宿泊業、観光関連団体・NPO 法人で特に高く、9 割以上だった。



資料17　せとうち観光専門職短期大学設立の賛同書

	企業名・団体名	代表者	所在地
1	香川県（要望書）	知事　浜田　恵造	香川県高松市番町4丁目1-10
2	高松市（要望書）	市長　大西　秀人	香川県高松市番町1丁目8-15
3	香川県教育委員会	教育長　工代　祐司	香川県高松市天神前6-1
4	公益社団法人香川県観光協会	会長　三矢　昌洋	香川県高松市番町4丁目1-10
5	四国ツーリズム創造機構	会長　松田　清宏	香川県高松市サンポート2-1 高松シンボルタワータワー棟3階
6	公益財団法人高松観光コンベンションビューロー	理事長　佐野　正	香川県高松市サンポート１-１高松港旅客ターミナルビル７階
7	一般財団法人かがわ県産品振興機構	理事長　松尾　恭成	香川県高松市番町4丁目1-10
8	一般社団法人小豆島観光協会	会長　塩田　幸雄	香川県小豆郡小豆島町西村甲１８９６-１
9	一般社団法人香川経済同友会	代表幹事　矢野　年紀 代表幹事　宮本　吉朗	香川県高松市紺屋町1-3 香川紺屋町ビル6階
10	香川県中小企業団体中央会	会長　国東　照正	香川県高松市福岡町2丁目2-2　香川県産業会館4階
11	香川県商工会連合会	会長　篠原　公七	香川県高松市福岡町2丁目2-2　香川県産業会館３階
12	香川県商工会議所連合会	会長　渡邊　智樹	香川県高松市番町２丁目２-２
13	四国旅客鉄道株式会社	代表取締役社長　半井　真司	香川県高松市浜ノ町8-33
14	高松琴平電気鉄道株式会社	代表取締役社長　真鍋　康正	香川県高松市栗林町2丁目19-20
15	ことでんバス株式会社	代表取締役社長　真鍋　康正	香川県高松市朝日町4丁目1-63
16	四国航空株式会社	取締役社長　片岡　佳英	香川県高松市兵庫町8-1
17	ジェットスター・ジャパン株式会社	代表取締役社長　片岡　優	千葉県成田市成田国際空港 第3ターミナル内
18	空港ターミナルサービス株式会社	代表取締役　石橋　正二郎	千葉県成田市囲護台1-4-3　フィールドホーム第4ビル3階
19	JALスカイエアポート沖縄株式会社	代表取締役社長　岡　栄作	沖縄県那覇市鏡水150番地 那覇空港国内線旅客ターミナルビル内
20	ANA沖縄空港株式会社	代表取締役社長　小林　克巳	沖縄県那覇市鏡水150番地 那覇空港国内線旅客ターミナルビル内
21	ANA福岡空港株式会社	代表取締役社長　村部　由佳夫	福岡県福岡市博多区大字下臼井778-1　福岡空港内
22	株式会社エスエーエス	代表取締役社長　須川　鐵朗	静岡県牧之原市坂口3520-11富士山静岡空港旅客ターミナル別棟
23	株式会社Ｋスカイ	代表取締役社長　榎本　新也	大阪府泉南郡田尻町泉州空港中1番地 関西国際空港内 航空会社南ビル5階
24	株式会社ANAエアサービス松山	代表取締役社長　谷　光宏	愛媛県松山市南吉田町2731番地
25	穴吹エンタープライズ株式会社	代表取締役社長　冨岡　徹也	香川県高松市福田町11-1
26	株式会社ＪＲ四国ホテルズ	代表取締役社長　近藤　明生	香川県高松市浜ノ町1-1
27	株式会社小豆島国際ホテル	代表取締役　山田　建之	香川県小豆郡土庄町甲２４-６７
28	株式会社エンジェルベイ	代表取締役　久徳　博範	香川県小豆郡土庄町甲1360-1
29	株式会社ナクアホテル＆リゾーツマネジメント リゾートホテルオリビアン小豆島	総支配人　坂本　良英	香川県小豆郡土庄町屋形崎甲６３-１
30	高松丸亀町商店街振興組合	理事長　古川　康造	香川県高松市丸亀町13-2
31	高松まちづくり株式会社	代表取締役　古川　康造	香川県高松市丸亀町13-2
32	一般社団法人せとうち観光推進機構	会長　佐々木　隆之	広島県広島市中区基町１０-３
33	香川ニュービジネス協議会	会長　小野　兼資	香川県高松市瓦町2丁目2-13 新瓦町ビル3階
34	株式会社穴吹トラベル	代表取締役社長　阿部　有香	香川県高松市磨屋町2-8　あなぶきセントラルビル8階
35	金両株式会社	代表取締役　藤井　寿美子	香川県小豆郡小豆島町馬木甲842-1
36	一般財団法人岬の分教場保存会	専務理事　有本　裕幸	香川県小豆郡小豆島町田浦９３１
37	小豆島オリーブ株式会社	代表取締役社長　八木　勝	香川県小豆郡土庄町甲1360-95
38	一般財団法人小豆島オリーブ公園	理事長　塩田　幸雄	香川県小豆郡小豆島町西村甲1941-1
39	有限会社井上誠耕園	代表取締役　井上　智博	香川県小豆郡小豆島町池田2352
40	小豆島総合開発株式会社 寒霞渓ロープウェイ	代表取締役　佐伯　直治	香川県小豆郡小豆島町安田甲１４４-８８
41	株式会社中野屋	代表取締役　中野　吉貫	香川県仲多度郡琴平町796
42	銀四郎麺業株式会社	代表取締役　三枝　純	香川県小豆郡土庄町甲5165-94
43	株式会社オリーブ園	代表取締役社長　永井　順也	香川県小豆郡小豆島町西村甲2171
44	大歩危・祖谷いってみる会	会長　植田　佳宏	徳島県三好市西祖谷山村善徳33-1
45	祖谷渓温泉観光株式会社	代表取締役社長　植田　佳宏	徳島県三好市池田町松尾松本３６７-２８
46	石丸製麺株式会社	代表取締役社長　石丸　芳樹	香川県高松市香南町岡７０１
47	株式会社スカイファーム	代表取締役　川西　裕幸	香川県高松市飯田町656-1
48	宝生院	住職　高橋　寿明	香川県小豆郡土庄町北山412
49	有限会社京宝亭	代表取締役社長　川原　英治	香川県小豆郡小豆島町苗羽甲2211-28
50	まつもと農園	代表　松本　稔	香川県綾歌郡綾川町陶684-2
51	株式会社しおのえ	代表取締役　喜多　維昭	香川県高松市塩江町安原上761-1

資料18　都道府県別大学と短期大学数と人口

	都道府県名	大学数	短大数	大学と短大 合　計	人口 （単位：千人）	100万人当り の学校数
1	京　都	34	12	46	2,610	17.62
2	石　川	13	5	18	1,156	15.57
3	岡　山	17	9	26	1,924	13.51
4	東　京	138	37	175	13,390	13.06
5	山　梨	7	3	10	841	11.89
6	青　森	10	5	15	1,321	11.35
7	岐　阜	12	11	23	2,041	11.26
8	群　馬	14	8	22	1,976	11.13
9	奈　良	11	4	15	1,376	10.9
10	山　口	10	5	15	1,408	10.65
11	秋　田	7	4	11	1,037	10.6
12	福　岡	34	19	53	5,091	10.41
13	新　潟	19	5	24	2,313	10.37
14	福　井	6	2	8	790	10.12
15	北　海　道	38	16	54	5,400	10.00
16	兵　庫	37	17	54	5,541	9.74
17	愛　知	51	21	72	7,455	9.65
18	徳　島	4	3	7	764	9.16
19	長　野	10	9	19	2,109	9.00
20	大　阪	55	24	79	8,836	8.94
21	広　島	20	5	25	2,833	8.82
22	岩　手	6	5	11	1,284	8.56
23	大　分	5	5	10	1,171	8.53
24	宮　城	14	5	19	2,328	8.16
25	宮　崎	7	2	9	1,114	8.07
26	山　形	6	3	9	1,131	7.95
27	滋　賀	8	3	11	1,416	7.76
28	栃　木	9	6	15	1,980	7.57
29	長　崎	8	2	10	1,386	7.21
30	愛　媛	5	5	10	1,395	7.16
31	沖　縄	8	2	10	1,421	7.03
32	鳥　取	3	1	4	574	6.96
33	高　知	3	2	5	738	6.77
34	福　島	8	5	13	1,935	6.71
35	富　山	5	2	7	1,070	6.54
36	熊　本	9	2	11	1,794	6.13
37	香　川	4	2	6	981	6.11
38	三　重	7	4	11	1,825	6.02
39	鹿　児　島	6	4	10	1,668	5.99
40	佐　賀	2	3	5	835	5.98
41	千　葉	27	8	35	6,197	5.64
42	埼　玉	28	12	40	7,239	5.52
43	神　奈　川	30	14	44	9,096	4.83
44	静　岡	12	5	17	3,705	4.58
45	茨　城	10	3	13	2,919	4.45
46	島　根	2	1	3	697	4.30
47	和　歌　山	3	1	4	971	4.11
	合　計	782	331	1,113	127,082	8.75

資料：政府の統計総合窓口2018をもとに作成

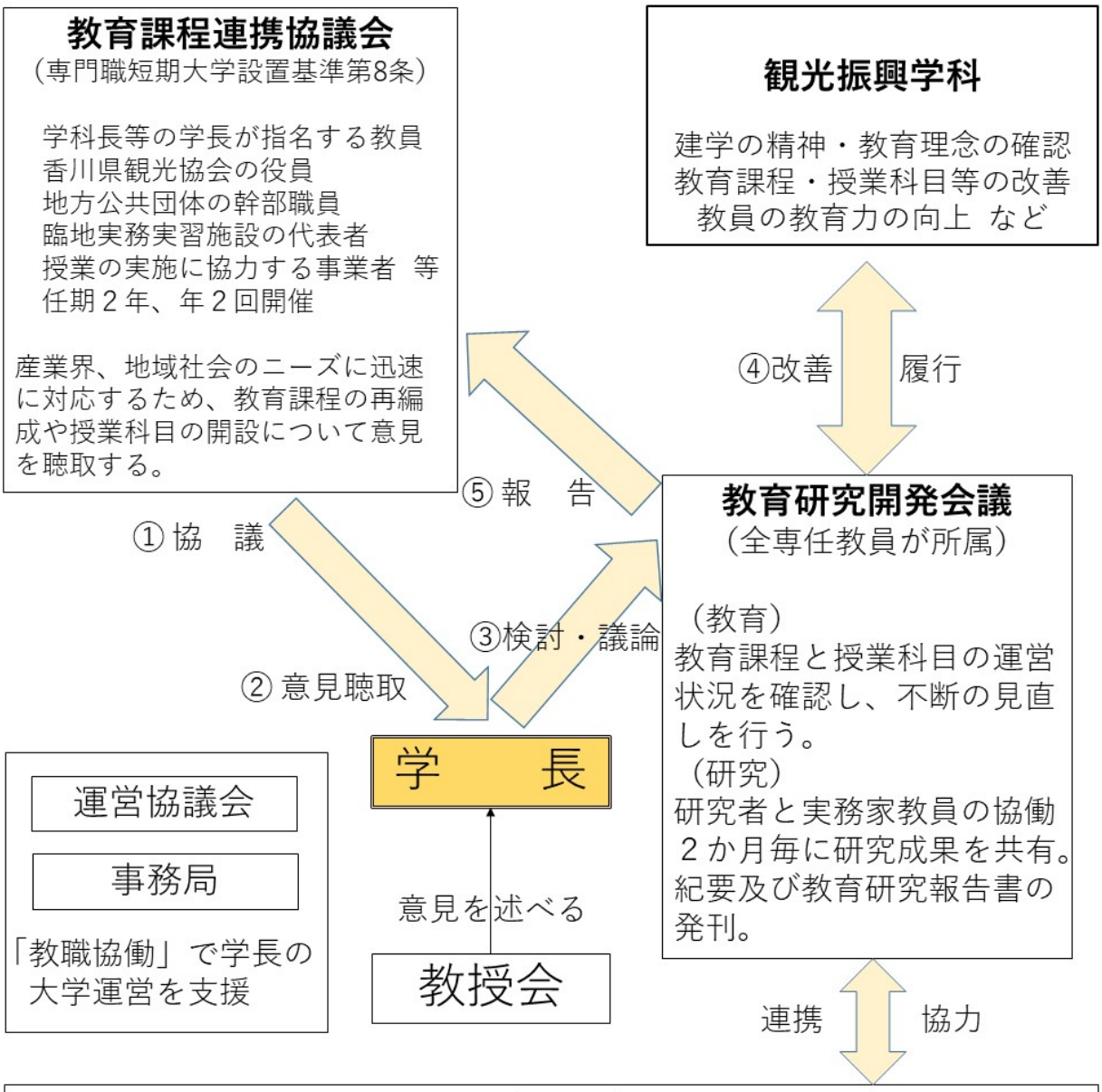
資料19　出身高校の所在地県別県内進学率

	都道府県名	高等学校（全日定時制）卒業者数	高等学校（通信制）卒業者数	卒業者数計①	県内大学入学者数	県内短大入学者数	県内大学県内短大入学者数②	県内大学県内短大進学率（②÷①）
1	東京	102,326	3,904	106,230	50,296	1,769	52,065	49.0%
2	愛知	65,204	2,240	67,444	27,941	2,525	30,466	45.1%
3	福岡	42,435	804	43,239	14,652	2,141	16,793	38.8%
4	大阪	75,858	5,233	81,091	26,860	3,253	30,113	37.1%
5	京都	23,480	600	24,080	8,059	764	8,823	36.6%
6	広島	23,780	730	24,510	7,790	567	8,357	34.0%
7	宮城	19,806	342	20,148	5,914	749	6,663	33.0%
8	北海道	42,484	6,968	49,452	13,836	2,112	15,948	32.2%
9	兵庫	47,201	1,412	48,613	13,864	1,634	15,498	31.8%
10	石川	10,550	141	10,691	2,674	536	3,210	30.0%
11	神奈川	66,400	1,172	67,572	17,631	1,976	19,607	29.0%
12	岡山	17,762	375	18,137	3,952	653	4,605	25.3%
13	沖縄	14,607	1,625	16,232	3,329	440	3,769	23.2%
14	熊本	15,622	831	16,453	3,426	349	3,775	22.9%
15	徳島	6,443	44	6,487	1,193	258	1,451	22.3%
16	千葉	49,330	1,700	51,030	9,941	1,119	11,060	21.6%
17	愛媛	11,480	970	12,450	2,076	531	2,607	20.9%
18	福井	7,564	59	7,623	1,321	261	1,582	20.7%
19	群馬	17,056	395	17,451	2,783	762	3,545	20.3%
20	埼玉	57,262	1,008	58,270	10,664	1,107	11,771	20.2%
21	青森	12,094	284	12,378	2,037	450	2,487	20.0%
22	新潟	19,427	586	20,013	3,358	581	3,939	19.6%
23	静岡	32,825	354	33,179	5,069	880	5,949	17.9%
24	山梨	8,229	1,220	9,449	1,361	328	1,689	17.8%
25	長崎	12,977	274	13,251	1,896	336	2,232	16.8%
26	鹿児島	14,765	3,390	18,155	1,956	988	2,944	16.2%
27	大分	10,102	245	10,347	1,041	625	1,666	16.1%
28	栃木	17,493	613	18,106	2,184	601	2,785	15.3%
29	岐阜	18,379	632	19,011	1,952	962	2,914	15.3%
30	高知	6,081	138	6,219	605	283	888	14.2%
31	岩手	11,558	260	11,818	1,350	320	1,670	14.1%
32	山口	11,321	911	12,232	1,339	361	1,700	13.8%
33	長野	18,898	894	19,792	1,577	1,141	2,718	13.7%
34	宮崎	10,329	259	10,588	1,109	344	1,453	13.7%
35	滋賀	12,884	333	13,217	1,426	376	1,802	13.6%
36	富山	9,115	54	9,169	820	426	1,246	13.5%
37	香川	8,662	194	8,856	837	362	1,199	13.5%
38	秋田	8,524	90	8,614	872	280	1,152	13.3%
39	三重	16,212	906	17,118	1,720	562	2,282	13.3%
40	山形	10,073	134	10,207	900	381	1,281	12.5%
41	福島	17,607	806	18,413	1,528	715	2,243	12.1%
42	鳥取	4,881	62	4,943	310	248	558	11.2%
43	奈良	12,061	1,728	13,789	1,268	215	1,483	10.7%
44	茨城	25,284	6,807	32,091	3,034	375	3,409	10.6%
45	佐賀	8,106	140	8,246	605	268	873	10.5%
46	島根	6,045	233	6,278	501	61	562	8.9%
47	和歌山	8,986	166	9,152	522	180	702	7.6%
	合　計	**1,069,568**	**52,266**	**1,121,834**	**269,379**	**36,155**	**305,534**	**27.2%**

資料：学校基本調査資料をもとに作成

1. 入学者数には,5月1日現在在籍しない者は含まない。
2. 大学・短期大学の所在地は,入学した学科の所在地による。
3. 平成29年度高等学校状況別卒業者数

資料20　せとうち観光専門職短期大学の教育・研究・地域（連携）貢献の体制



せとうち観光学研究所

（国際的視野から観光と観光産業の研究を推進し、観光振興や地域創生の様々な課題に対し、提案・提言する。地域連携・貢献の拠点）
全専任教員（研究員）及び瀬戸内地域、四国地方の観光関係者を客員研究員として招聘。
将来的には、観光学「せとうち学派」の創設を目指す。
研究成果をシンポジウム、市民向け講演会、公開講座により広く公開する。

資料 21　せとうち観光学研究所規程

せとうち観光専門職短期大学せとうち観光学研究所規程

（趣旨）

第１条 この規程は、せとうち観光専門職短期大学せとうち観光学研究所（以下「研究所」という。）の組織及び運営に関し，必要な事項を定める。

（目的）

第２条 研究所は、せとうち地域の豊かな歴史、文化、自然を背景とした観光事業や観光産業の振興に関する基礎的資料データの収集・整理・分析を行うとともに、地域と産業界等が一体となった各地の観光振興方策等に関するデータベースを作成、公開することにより、観光学における「地」と「知」の拠点を形成し、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

（業務）

第３条 研究所は、次の各号に掲げる業務を行う。

（１） せとうち地域の豊かな歴史、文化、自然を背景とした観光事業や観光産業の振興に関する基礎的資料データの収集・整理・分析

（２） 観光振興方策等データベースの作成と提供

（３） 研究成果の地域への情報発信と公開事業の実施

（４） その他研究所の目的達成に必要な業務

（企画運営委員会）

第４条 研究所に関する重要事項を審議するため、せとうち観光学研究所企画運営委員会（以下「企画運営委員会」という。）を置く。

２ 企画運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（職員）

第５条 研究所に、次の職員を置く。

（１） 所長

（２） 専任教員

（３） 客員研究員

（４） その他の職員

（所長）

第６条 所長は、学長が任命する。

２ 所長の任期は、２年とし、再任を妨げない。ただし、所長に欠員を生じた場合の後任

者の任期は、前任者の残任期間とする。

３ 所長は、研究所の業務を掌理する。

（専任教員）

第７条 専任教員は、研究所の専門的業務を処理する。

（客員研究員）

第８条 必要に応じて、学外の観光及び観光学に関する有識者を客員研究員として招へいすることができる。企画運営委員会の議に基づき、学長が任命する。

２ 客員研究員の任期は、２年とし、再任を妨げない。

３ 客員研究員は、企画運営委員会の議を経て、学長が任命する。

（研究計画）

第９条 企画運営委員会は、中長期の研究計画を策定し、企画運営委員会の議を経て、学長の承認を得るものとする。

（事務）

第 10 条 研究所の事務は、事務局において処理する。

（雑則）

第 11 条 この規則に定めるもののほか、研究所の管理運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

１ この規則は，2021 年４月１日から施行する。

本学が養成する人材像

観光振興のエキスパートとして、観光産業及び観光による地域創生事業を牽引しつつ、社会構造の変化やニーズを的確に捉えて事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる高度専門職業人（「観光振興専門職」という。）



事業イノベーションの創出や各地の観光ブランド化を推進することができる応用的能力

観光の理論と知識	観光実務の知識と技能

人　間　力

社会の要請等（本学の設置と「観光振興専門職」の必要性）

①現代観光の隆盛という地球規模の社会背景において、地域再生や観光まちづくりの観点から、観光と地域社会の発展を実現することができる人材

②我が国のインバウンドの増加と、それに対応する観光事業や観光振興の発展が見込まれるこの「時期」には、観光による地方創生の観点からも、その事業や開発を担う優秀な人材の迅速な育成が不可欠

③観光の中核を担う人材育成の強化（「明日の日本を支える観光ビジョン ―世界が訪れたくなる日本へ― 」平成28年3月30日）

④観光の専門的知識と実践能力を兼ね備えた観光振興の専門家を比較的短期間で育成（三年制の専門職短期大学として設置）することが必要。

⑤観光学の研究と教育及び実践における地と知の拠点整備

本学の強み・特色

①瀬戸内の温暖な気候、豊かな自然や美しい景色に囲まれた立地条件、文化財等貴重な観光資源に囲まれ、観光学を学修するために最適な環境がある。

②小規模であることの優位性を活用した双方向のコミュニケーションと細やかな学生支援が可能である。

③瀬戸内における学校法人穴吹学園の貢献実績と信頼度。

④香川県、高松市、瀬戸内の企業等からの支援を得ることができる。

教育理念

①教員、職員、学生が小規模な組織において一体となった教育の場を構築する。

②大学教育で修得されるべき思考力を涵養する。

③産業界との教育連携を充実し、理論に裏付けられた実践力を育成することにより、高度専門職業人の徹底的な実務教育を実現する。

④地域連携を深化させ、多様な地域貢献のあり方を模索し、実現する。

せとうち観光専門職短期大学　建学の精神

観光と社会や人類との関わりを深く探究し、観光を通じて、地域社会の発展と諸外国との交流と共生に貢献する人材を育成する。

資料23　本学が養成する人材像と教育課程（職業専門科目・展開科目）との関連

養成する人材像	定　　義	観光振興のエキスパートとして、観光産業及び観光による地域創生事業を牽引しつつ、社会構造の変化やニーズを的確に捉えて事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる高度専門職業人（「観光振興専門職」という。）					
	主な進路	観　光　産　業					観光による地域創生事業
		航空会社	鉄道会社	ホテル	旅館	旅行会社	DMO, 団体, NPO
		以上の進路先において、以下の役割を担う総合職 ◎ チームリーダーや部門の責任者等中核的な役割を担う。 ◎ 現場の人材管理等マネジメントの役割を担う。 ◎ 業務改善や新規事業開発、新商品販売に関する企画・立案・実行を担う。 ◎ 地域内の観光産業や観光による地域創生事業の連携・協力を図る。 ◎ インバウンド対応やオーバーツーリズム対策など課題解決に取り組む。					
	将来像	大企業	ミドルマネジメント				
		中小企業	トップマネジメント				
		起　業		経営者・代表者			

	教育課程	航空会社	鉄道会社	ホテル	旅館	旅行会社	DMO, 団体, NPO
職業専門科目・学術	観光学概論	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	地域資源論	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	地域観光基礎実習	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	観光社会文化論	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	観光振興・地域創生論	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	観光行動論	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	観光政策論	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	国際観光論	選択				選択	選択
	観光文化施設論		選択	選択	選択	選択	選択
	観光メディア論		選択	選択	選択		
	観光データ整理実習	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	エコツーリズム実習	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	せとうち観光アート論			２科目選択必修	２科目選択必修	２科目選択必修	２科目選択必修
	せとうち観光資源論	２科目選択必修	２科目選択必修				
	四国巡礼研究	２科目選択必修				２科目選択必修	２科目選択必修
	四国観光史		２科目選択必修	２科目選択必修	２科目選択必修		
職業専門科目・実務	ホスピタリティマネジメント論	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	観光リスクマネジメント論	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	観光事業論	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	ホスピタリティ実務実習A	１科目選択必修	１科目選択必修				
	ホスピタリティ実務実習B			１科目選択必修	１科目選択必修	１科目選択必修	１科目選択必修
	観光支援ビジネス実務基礎論	必修					
	臨地実務実習Ⅰ	必修					
	観光支援ビジネス実務発展論	必修					
	観光実務基礎論	（航空クラス）	（鉄道クラス）	（宿泊クラス）		（観光地域創生クラス）	
	臨地実務実習Ⅱ	（航空クラス）	（鉄道クラス）	（宿泊クラス）		（観光地域創生クラス）	
	観光実務発展論	（航空クラス）	（鉄道クラス）	（宿泊クラス）		（観光地域創生クラス）	
	観光実務応用論	（航空クラス）	（鉄道クラス）	（宿泊クラス）		（観光地域創生クラス）	
	臨地実務実習Ⅲ	（航空クラス）	（鉄道クラス）	（宿泊クラス）		（観光地域創生クラス）	
	観光実務マネジメント論	（航空クラス）	（鉄道クラス）	（宿泊クラス）		（観光地域創生クラス）	
	交通産業論	１科目選択必修	１科目選択必修				
	宿泊産業論			１科目選択必修	１科目選択必修		
	地域創生事業論					１科目選択必修	１科目選択必修
職業専門科目・英語	観光基礎英語Ⅰ	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	観光基礎英語Ⅱ	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	観光英語Ⅰ	選択	選択	選択	選択	選択	選択
	観光英語Ⅱ	選択	選択	選択	選択	選択	選択
	観光英語Ⅲ	選択					
	観光英語Ⅳ	選択					
展開科目	経営学	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	中小企業論	２科目選択必修		２科目選択必修	２科目選択必修		
	コミュニティデザイン論		２科目選択必修			２科目選択必修	２科目選択必修
	マーケティング論		２科目選択必修	２科目選択必修	２科目選択必修		
	起業論	２科目選択必修				２科目選択必修	２科目選択必修
	ファシリテーション実習	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	ＩＣＴとＩｏＴ	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	人工知能概論	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	ＩＣＴ実習	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	人工知能プログラミング実習	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	マップデザイン実習	必修	必修	必修	必修	必修	必修
	メディアコンテンツ実習	必修	必修	必修	必修	必修	必修

資料24　せとうち観光専門職短期大学の学び

養成する人材像「観光振興専門職」
観光振興のエキスパートとして、観光産業や観光による地域創生事業を牽引しつつ、事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる高度専門職業人

養成する人材像	定　義	観光振興のエキスパートとして、観光産業及び観光による地域創生事業を牽引しつつ、社会構造の変化やニーズを的確に捉えて事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる高度専門職業人（「観光振興専門職」という。）					
	主な進路	観光産業					観光による地域創生事業
		航空会社	鉄道会社	ホテル	旅館	旅行会社	DMO, 団体, NPO
		以上の進路先において、以下の役割を担う総合職 ◎ チームリーダーや部門の責任者等中核的な役割を担う。 ◎ 現場の人材管理等マネジメントの役割を担う。 ◎ 業務改善や新規事業開発、新商品販売に関する企画・立案・実行を担う。 ◎ 地域内の観光産業や観光による地域創生事業の連携・協力を図る。 ◎ インバウンド対応やオーバーツーリズム対策など課題解決に取り組む。					
	将来像	大企業	ミドルマネジメント				
		中小企業	トップマネジメント				
		起　業		経営者・代表者			





せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科　卒業単位

科目区分（要件）	必修科目	選択必修科目	選択科目
基礎科目（15単位以上）	９（　１）	６（　０）	０（　０）
職業専門科目（62単位以上）	４９（２３）	７（　１）	６（　０）
展開科目（15単位以上）	１１（　５）	４（　０）	０（　０）
総合科目（4単位以上）	４（　０）	０（　０）	０（　０）
小　計	７３（２９）	１７（　１）	６（　０）
合　計	９６（３０）		

※（　　）内は実習科目で内数。

必修科目が、
卒業単位の
４分の３以上。

職業専門科目（学術）
観光学概論
地域資源論
地域観光基礎実習
観光社会文化論
観光振興・地域創生論
観光行動論
観光政策論
国際観光論
観光文化施設論
観光メディア論
観光データ整理実習
エコツーリズム実習
せとうち観光アート論
せとうち観光資源論
四国巡礼研究
四国観光史

職業専門科目（実務）
ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論
観光リスクマネジメント
観光事業論
ﾎｽﾋﾟﾀﾘﾃｨ実務実習A･B
観光支援ビジネス実務基礎論
臨地実務実習Ⅰ（３週間）
観光支援ビジネス実務発展論
観光実務基礎論
臨地実務実習Ⅱ(6週間)
観光実務発展論
観光実務応用論
臨地実務実習Ⅲ(6週間)
観光実務マネジメント論
交通産業論
宿泊産業論
地域創生事業論

展開科目

（マネジメント力）
経営学
中小企業論
コミュニティデザイン論
マーケティング論
起業論

（情報力）
ＩＣＴとＩｏＴ
人工知能概論
ＩＣＴ実習
人工知能ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習

（創造力）
マップデザイン実習
メディアコンテンツ実習
ファシリテーション実習

総合科目

専門演習「観光地研究」

観光の理論と知識　＋　観光実務の知識と技能

事業イノベーション・地域社会の魅力を創出することができる応用的能力

基礎科目（自学自修）
基礎演習
キャリアデザイン論

基礎科目（思考法）
文化論、地理学
企業の社会的責任、法と社会、ビジネスコミュニケーション、信仰の歴史、異文化理解、災害と防災の科学、介助実務実習

職業専門科目（観光英語）
観光基礎英語Ⅰ
観光基礎英語Ⅱ
観光英語Ⅰ
観光英語Ⅱ
観光英語Ⅲ
観光英語Ⅳ



大学名称：せとうち観光専門職短期大学
学科名称：観光振興学科
学位名称：観光短期大学士（専門職）
入学定員：８０名（三年制　収容定員２４０名）

資料２５　　学びのプログラム（仮称）書式

学籍番号：	氏　　名：
ク ラ ス ：	担当教員：

あなたの学びをプログラムするため、下記の問に答えてください。

Ⅰ入学時（１年次）

問１）あなたはなぜ、せとうち観光専門職短期大学を選びましたか。

問２）将来の進路に対する希望はありますか。番号○を付け下さい。
①航空会社
②鉄道会社
③宿泊産業（ホテル・旅館）
④旅行会社
⑤観光地域創生事業
⑥まだ、わからない。
⑦その他（具体的に：　　）

問３）あなたは、せとうち観光専門職短期大学で特に何を学びたいですか。
①観光理論
②ホスピタリティ
③観光による地域創生
④経営。マネジメント
⑤情報・統計
⑥英語
⑦その他（具体的に：　　）

Ⅱ　２年進級時

問１）この１年間であなたは何を学びましたか。

問２）その学びを今年はどのように活かしますか。

問３）２年次には、重要な臨地実務実習があります。
進路は決まりましたか。また、変更はありませんか。

問４）今年の目標を立ててください。

Ⅲ　３年進級時

問１）この２年間であなたは何を学びましたか。

問２）その学びを今年はどのように活かしますか。

問３）臨地実務実習を終えて、何を学びましたか。また、自分が成長したと
感じられましたか。

問４）最終学年を有意義に過ごすために、目標を立ててください。

Ⅳ　卒業時アンケート

問１）せとうち観光専門職短期大学観光振興学科の教育に満足しましたか。
①大変満足した
②満足した
③普通
④不満である
⑤大変不満である

問２）その理由をお聞かせください。

問３）あなたの将来像を描いてください。

履修相談、実習クラス選択相談の記録

日時	令和　　年　　月　　日（　）　　：　　～　　：
対応者氏名	
相談内容	
回答	
日時	令和　　年　　月　　日（　）　　：　　～　　：
対応者氏名	
相談内容	
回答	
日時	令和　　年　　月　　日（　）　　：　　～　　：
対応者氏名	
相談内容	
回答	
日時	令和　　年　　月　　日（　）　　：　　～　　：
対応者氏名	
相談内容	
回答	

資料２５　学びのプログラム（仮称）書式

履修登録上のアドバイス	ディプロマ・ポリシー	教育課程																		卒業単位（以上）	科目選択欄（選択する授業科目に〇をつける）
	教育目標	授業科目群	授業科目	履修区分	履修単位	１年次クォーター				２年次クォーター				３年次クォーター							
						①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④				
「基礎演習」も「キャリアデザイン論」も必修科目です。しっかりと学んでください。（１年次第１、第２クォーター及び２年次）	**DP１自学自修の態度形成** **「自学自修の態度」を養い、理論や実務を学ぶために重要な基礎技能を身に付け、生涯に渡り充実した日常生活と有意義なキャリアデベロップメントを実現することができる。**	**CP１　基礎科目群（自学自修）**	基礎演習	必修	2	4	4													15	
			キャリアデザイン論	必修	2					B		A								
思考法の修得では、６科目の学術科目から３科目を選択して履修してください。教養はあなたの一生の財産です。あなたの興味・関心や将来を見据えて選択してください。また、介護実務実習は必修科目です。お年寄りや障がいのある方への適切な対応は、観光やホスピタリティを学ぶ上で基本となるので、しっかりと学んでください。（１年次及び２年次第１クォーター）	**DP２思考法の修得** **基礎科目における学術科目によって「思考力」を養い、基礎的な思考法を身に付けて、現実を的確に捉えることができる。**	**CP２　基礎科目群（思考法）**	文化論	必修	2	A	B													
			地理学	必修	2	B	A													
			企業の社会的責任	3科目必修選択	2				※											
			法と社会		2				※											
			ビジネスコミュニケーション		2					※										
			信仰の歴史		2					※										
			異文化理解		2					※										
			災害と防災の科学		2				※											
			介助実務実習	必修	1				A/B											
観光学の基礎と応用を講義で学ぶ重要な機会です。 必修科目はもちろん、選択科目もなるべく多く履修してください。 ３年次には特に、瀬戸内の観光を学ぶ授業科目がラインナップされています。 （担当教員アドバイス）	**DP３観光の理論と知識の理解** **観光学の理論と観光に関連する知識を身に付け、観光振興専門職としての「思考力」を磨き上げながら、観光事象の実態とその変化を学ぶことによって、社会現象としての観光の現実を捉えることができる。**	**CP３　職業専門科目群（学術）**																		62	
		①観光学入門科目	観光学概論	必修	2	A/B														
		②地域観光論入門科目群	地域資源論	必修	2	A/B														
			地域観光基礎実習	必修	1		4													
		③観光基礎理論科目群	観光社会文化論	必修	2		A		B											
			観光振興・地域創生論	必修	2		B		A											
			観光行動論	必修	2					A		B								
			観光政策論	必修	2					B		A								
		④観光応用理論科目群	国際観光論	選択	2							※								
			観光文化施設論	選択	2					※										
			観光メディア論	選択	2					※										
			観光データ整理実習	必修	1					A		B								
			エコツーリズム実習	必修	1							A/B								
		⑤せとうち観光研究科目群	せとうち観光アート論	2科目選択必修	2									※						
			せとうち観光資源論		2										※					
			四国巡礼研究		2											※				
			四国観光史		2												※			
ほとんどが必修科目ですが、進路に応じて、クラスを選択する必要があります。 将来に関わることですので、慎重に検討してください。 何か相談したいことがあれば、担当教員または教務課へご連絡ください。 （担当教員アドバイス）	**DP４観光実務の知識と技能** **観光産業や観光による地域創生事業の実務に関連する理論・知識を学んだうえで、観光実務を体験的に学び、「思考力」を土台として、「実践力」と「協働力」を身に付けることによって、観光振興専門職として職場の状況や問題を分析でき、チームワークで問題を解決できる。**	**CP４　職業専門科目群（実務）**																			
		①観光実務理論科目群	ホスピタリティマネジメント論	必修	2	A	B													
			観光リスクマネジメント	必修	2	B	A													
		②観光事業論科目群	観光事業論	必修	2	A	B													
			交通産業論	実習関連科目選択必修	2										※					
			宿泊産業論		2										※					
			地域創生事業論		2										※					
		③臨地実務実習事前学修科目群	ホスピタリティ実務実習A	実習関連1科目選択必修	1		※													
			ホスピタリティ実務実習B		1		※													
			観光支援ビジネス実務基礎論	必修	1			5												
			観光実務基礎論（航空クラス）	必修	1					※										
			観光実務基礎論（鉄道クラス）							※										
			観光実務基礎論（宿泊クラス）							※										
			観光実務基礎論（観光地域創生クラス）							※										
			観光実務応用論（航空クラス）	必修	1							※								
			観光実務応用論（鉄道クラス）									※								
			観光実務応用論（宿泊クラス）									※								
			観光実務応用論（観光地域創生クラス）									※								
		④臨地実務実習科目群	臨地実務実習Ⅰ	必修	4			※												
			臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）	必修	8						※									
			臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス）								※									
			臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス）								※									
			臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）								※									
			臨地実務実習Ⅲ（航空クラス）	必修	8								※							
			臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス）										※							
			臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス）										※							
			臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス）										※							
		⑤臨地実務実習事後学修科目群	観光支援ビジネス実務発展論	必修	1				5											
			観光実務発展論（航空クラス）	必修	1								※							
			観光実務発展論（鉄道クラス）										※							
			観光実務発展論（宿泊クラス）										※							
			観光実務発展論（観光地域創生クラス）										※							
			観光実務マネジメント論（航空クラス）	必修	1									※						
			観光実務マネジメント論（鉄道クラス）											※						
			観光実務マネジメント論（宿泊クラス）											※						
			観光実務マネジメント論（観光地域創生クラス）											※						
ｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞの進展に対応するため、英語は重要です。 選択科目も積極的に履修するようにしましょう。	**DP５　観光英語力の修得** **観光英語力を身に付けることによって、インバウンド観光の多様な状況に対応できる。**	**CP５　職業専門科目群（観光英語）**	観光基礎英語Ⅰ	必修	1	A/B														
			観光基礎英語Ⅱ	必修	1		A/B													
			観光英語Ⅰ	選択	1				※											
			観光英語Ⅱ	選択	1					※										
			観光英語Ⅲ	選択	1							※								
			観光英語Ⅳ	選択	1									※						
観光振興専門職に必要な応用力（経営・マネンジメント・情報等）を身に付けます。 経営学以外は３年次に配当されています。苦手な人がいるかもしれませんが、 しっかりと学んでください。 （担当教員アドバイス）	**DP６　他分野の応用的な能力の修得** **観光関係以外の異分野から、次のような「応用的な能力」を身に付けて、観光振興専門職として実践的かつ創造的な職務に積極的に取り組むことができる。**	**CP６　展開科目群**																		15	
		①マネジメント力	経営学	必修	2					A		B								
			中小企業論	2科目選択必修	2									※						
			コミュニティデザイン論		2										※					
			マーケティング論		2											※				
			起業論		2												※			
			ファシリテーション実習	必修	1											A/B				
		②情報力・創造力	ＩＣＴとＩｏＴ	必修	2									A	B					
			人工知能概論	必修	2									B	A					
			ＩＣＴ実習	必修	1											A	B			
			人工知能プログラミング実習	必修	1											B	A			
			マップデザイン実習	必修	1									A	B					
			メディアコンテンツ実習	必修	1									B	A					
３年間の総仕上げです。あなたは何を研究しますか。どのゼミを選びますか。 必修科目で通年です。あなたは担当教員を選択しなければなりません。	**DP７　観光専門職としての総合力の育成** **他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、観光振興専門職としての総合力と課題解決力を身に付けて、観光振興と地域社会の発展のための課題に果敢に挑戦することができる。**	**CP７　総合科目**	専門演習	必修	4									※	※	※	※	4		
																		卒業単位合計	96	

実習科目

１年次３Ｑ，２年次２Ｑ，４Ｑは臨地実務実習

入学時

せとうち観光専門職短期大学
学修態度の測定

学籍番号 | | | | | | | |

この調査は，皆さんに高校の3年間を振り返ってもらい，高校生活での学習態度や日頃の態度全般について，いくつかの質問をします。

本調査の目的は，皆さんの学修態度を含む日頃の態度（ある状況などにおいて行動を準備する心理的構え）を測定することです。調査の結果は，皆さんの専門職短期大学における学修指導などに活用されますが，それ以外に用いられることは，一切ありません。また，この調査はテストではないので，回答結果が成績評価に影響を与えることも全くありません。

以下のすべての質問や記述について，思いつくままに最後まで気楽に回答してください。

［1］ 次に5つの記述があります。それぞれの記述は，今のあなたにどれくらいあてはまりますか。回答欄からもっともあてはまると思うものを1つ選び，その番号に○をつけなさい。

	1 あてはまる	2 どちらかといえばあてはまる	3 どちらともいえない	4 どちらかといえばあてはまらない	5 あてはまらない
1 高校の3年間は全般的に充実していた。……	1	2	3	4	5
2 高校の3年間で自分なりに「成長した」と実感している。	1	2	3	4	5
3 高校の3年間，「学業」に全力で取り組めた。……	1	2	3	4	5
4 高校の3年間，「課外活動」に自分なりに力を注いだ。	1	2	3	4	5
5 高校の3年間で，「自分を高める努力」をした。……	1	2	3	4	5

［2］ 次に42の記述があります。それぞれの記述は，今のあなたにどれくらいあてはまりますか。回答欄からもっともあてはまると思うものを1つ選び，その番号に○をつけなさい。

	1 あてはまる	2 どちらかといえばあてはまる	3 どちらかといえばあてはまらない	4 あてはまらない
1） ものごとには積極的に取り組む方である。……	1	2	3	4
2） 人の力をあてにすることが多い。……	1	2	3	4
3） 自分のやり方にはこだわらない方である。……	1	2	3	4
4） かなり移り気である。……	1	2	3	4
5） かなり先の目標をもっている。……	1	2	3	4
6） ひっこみじあんである。……	1	2	3	4
7） 自分を冷静に見つめることができる。……	1	2	3	4
8） 他人の意見をうのみにすることが多い。……	1	2	3	4
9） いつも自分の考えや主張をもっている。……	1	2	3	4
10） 新しいものごとにはなかなかなじみにくい。……	1	2	3	4
11） 興味が長続きする方である。……	1	2	3	4
12） 将来のことはあまり深く考えない。……	1	2	3	4
13） 他の人の上に立ってみたい。……	1	2	3	4
14） その時の気分で行動することが多い。……	1	2	3	4
15） 何かにチャレンジする姿勢をもっている。……	1	2	3	4
16） 人の意見に左右されがちである。……	1	2	3	4

→ 次に進む

	1 あてはまる	2 あてはまるどちらかといえば	3 あてはまらないどちらかといえば	4 あてはまらない
17) 目標にたいしていろいろなやり方を試すことができる。…	1	2	3	4
18) あきっぽい。……	1	2	3	4
19) 自身の将来を思いえがいている。……	1	2	3	4
20) 指示されたことをきちんと行なう方が楽だ。……	1	2	3	4
21) どのような状況でも自身の立場をはっきりさせたい。……	1	2	3	4
22) 人の指示どおりに行動する方が楽でよい。……	1	2	3	4
23) 人と励まし合って目標を達成できる。……	1	2	3	4
24) 自分のやり方を押し通したい。……	1	2	3	4
25) 興味をもったことを深くつきつめる方だ。……	1	2	3	4
26) 先のことを考えるひまがない。……	1	2	3	4
27) 共同作業においてリーダーシップを発揮できる。……	1	2	3	4
28) 人の行動に流されやすい。……	1	2	3	4
29) 自分の考えを提案する機会をつくりたい。……	1	2	3	4
30) 人の間違いを指摘するのは苦手だ。……	1	2	3	4
31) 状況に応じて行動の仕方を変えられる。……	1	2	3	4
32) 集中できる興味があまりない。……	1	2	3	4
33) 将来の目標に向け努力している。……	1	2	3	4
34) 人に指示をあたえることが苦手だ。……	1	2	3	4
35) 正しい状況判断を心がけている。……	1	2	3	4

→ 次に進む

	1 あてはまる	2 あてはまるどちらかといえば	3 あてはまらないどちらかといえば	4 あてはまらない
36）自身の考えで行動することは少ない。……	1	2	3	4
37）人としっかり議論できる。……	1	2	3	4
38）状況に応じて柔軟に行動するのが苦手だ。……	1	2	3	4
39）興味のあることに集中できる。……	1	2	3	4
40）当面の課題に対処することがなにより大切だ。……	1	2	3	4
41）他の人と共同で行なう仕事が好きだ。……	1	2	3	4
42）状況によって感情的になりがちだ。……	1	2	3	4

［3］ これからの1年間の学校生活を、どのような気持ちで過ごしたいと思いますか。思いつくままに、自由に記述してください。

以上で終わりです。お疲れさまでした。

せとうち観光専門職短期大学
学修態度の測定

2年次

学籍番号 | | | | | | | |

この調査は，皆さんに本学1年次生として学んだこの1年間を振り返ってもらい，大学生活での学習態度や日頃の態度全般について，いくつかの質問をします。
本調査の目的は，皆さんの学修態度を含む日頃の態度（ある状況などにおいて行動を準備する心理的構え）を測定することです。調査の結果は，皆さんの専門職短期大学における学修指導などに活用されますが，それ以外に用いられることは，一切ありません。また，この調査はテストではないので，回答結果が成績評価に影響を与えることも全くありません。
以下のすべての質問や記述について，思いつくままに最後まで気楽に回答してください。

[1] 次に5つの記述があります。それぞれの記述は，今のあなたにどれくらいあてはまりますか。回答欄からもっともあてはまると思うものを1つ選び，その番号に○をつけなさい。

	1 あてはまる	2 あてはまるどちらかといえば	3 どちらともいえない	4 あてはまらないどちらかといえば	5 あてはまらない
1 本学の1年次生として学んだこの1年間は全般的に充実していた。	1	2	3	4	5
2 本学で1年次生として学んだこの1年間で，以前よりも自分なりに「成長した」と実感している。	1	2	3	4	5
3 本学で1年次生として学んだこの1年間，「学業」に全力で取り組むことができた。	1	2	3	4	5
4 本学で1年次生として学んだこの1年間，「学業以外」にも力を注いだ。	1	2	3	4	5
5 本学で1年次生として学んだこの1年間，自分を高める努力をした。	1	2	3	4	5

［2］ 次に42の記述があります。それぞれの記述は，今のあなたにどれくらいあてはまりますか。回答欄からもっともあてはまると思うものを1つ選び，その番号に○をつけなさい。

	1 あてはまる	2 どちらかといえばあてはまる	3 どちらかといえばあてはまらない	4 あてはまらない
1） ものごとには積極的に取り組む方である。……	1	2	3	4
2） 人の力をあてにすることが多い。……	1	2	3	4
3） 自分のやり方にはこだわらない方である。……	1	2	3	4
4） かなり移り気である。……	1	2	3	4
5） かなり先の目標をもっている。……	1	2	3	4
6） ひっこみじあんである。……	1	2	3	4
7） 自分を冷静に見つめることができる。……	1	2	3	4
8） 他人の意見をうのみにすることが多い。……	1	2	3	4
9） いつも自分の考えや主張をもっている。……	1	2	3	4
10） 新しいものごとにはなかなかなじみにくい。……	1	2	3	4
11） 興味が長続きする方である。……	1	2	3	4
12） 将来のことはあまり深く考えない。……	1	2	3	4
13） 他の人の上に立ってみたい。……	1	2	3	4
14） その時の気分で行動することが多い。……	1	2	3	4
15） 何かにチャレンジする姿勢をもっている。……	1	2	3	4
16） 人の意見に左右されがちである。……	1	2	3	4

→ 次に進む

	1 あてはまる	2 あてはまるどちらかといえば	3 あてはまらないどちらかといえば	4 あてはまらない
17) 目標にたいしていろいろなやり方を試すことができる。…	1	2	3	4
18) あきっぽい。……	1	2	3	4
19) 自身の将来を思いえがいている。……	1	2	3	4
20) 指示されたことをきちんと行なう方が楽だ。……	1	2	3	4
21) どのような状況でも自身の立場をはっきりさせたい。……	1	2	3	4
22) 人の指示どおりに行動する方が楽でよい。……	1	2	3	4
23) 人と励まし合って目標を達成できる。……	1	2	3	4
24) 自分のやり方を押し通したい。……	1	2	3	4
25) 興味をもったことを深くつきつめる方だ。……	1	2	3	4
26) 先のことを考えるひまがない。……	1	2	3	4
27) 共同作業においてリーダーシップを発揮できる。……	1	2	3	4
28) 人の行動に流されやすい。……	1	2	3	4
29) 自分の考えを提案する機会をつくりたい。……	1	2	3	4
30) 人の間違いを指摘するのは苦手だ。……	1	2	3	4
31) 状況に応じて行動の仕方を変えられる。……	1	2	3	4
32) 集中できる興味があまりない。……	1	2	3	4
33) 将来の目標に向け努力している。……	1	2	3	4
34) 人に指示をあたえることが苦手だ。……	1	2	3	4
35) 正しい状況判断を心がけている。……	1	2	3	4

→ 次に進む

	1 あてはまる	2 あてはまるどちらかといえば	3 あてはまらないどちらかといえば	4 あてはまらない
36）自身の考えで行動することは少ない。……	1	2	3	4
37）人としっかり議論できる。……	1	2	3	4
38）状況に応じて柔軟に行動するのが苦手だ。……	1	2	3	4
39）興味のあることに集中できる。……	1	2	3	4
40）当面の課題に対処することがなにより大切だ。……	1	2	3	4
41）他の人と共同で行なう仕事が好きだ。……	1	2	3	4
42）状況によって感情的になりがちだ。……	1	2	3	4

［3］ これからの1年間の学校生活を、どのような気持ちで過ごしたいと思いますか。思いつくままに、　自由に記述してください。

以上で終わりです。お疲れさまでした。

3年次

せとうち観光専門職短期大学
学修態度の測定

学籍番号 | | | | | | | |

この調査は，皆さんに本学2年次生として学んだこの１年間を振り返ってもらい，大学生活での学習態度や日頃の態度全般について，いくつかの質問をします。
本調査の目的は，皆さんの学修態度を含む日頃の態度（ある状況などにおいて行動を準備する心理的構え）を測定することです。調査の結果は，皆さんの専門職短期大学における学修指導などに活用されますが，それ以外に用いられることは，一切ありません。また，この調査はテストではないので，回答結果が成績評価に影響を与えることも全くありません。
以下のすべての質問や記述について，思いつくままに最後まで気楽に回答してください。

［1］ 次に5つの記述があります。それぞれの記述は，今のあなたにどれくらいあてはまりますか。回答欄からもっともあてはまると思うものを1つ選び，その番号に○をつけなさい。

	1 あてはまる	2 どちらかといえばあてはまる	3 どちらともいえない	4 どちらかといえばあてはまらない	5 あてはまらない
1 本学の2年次生として学んだこの１年間は全般的に充実していた。	1	2	3	4	5
2 本学で2年次生として学んだこの１年間で，以前よりも自分なりに「成長した」と実感している。	1	2	3	4	5
3 本学で2年次生として学んだこの1年間，「学業」に全力で取り組むことができた。	1	2	3	4	5
4 本学で2年次生として学んだこの1年間，「学業以外」にも力を注いだ。	1	2	3	4	5
5 本学で2年次生として学んだこの1年間，自分を高める努力をした。	1	2	3	4	5

［2］ 次に42の記述があります。それぞれの記述は，今のあなたにどれくらいあてはまりますか。回答欄からもっともあてはまると思うものを1つ選び，その番号に○をつけなさい。

	1 あてはまる	2 どちらかといえばあてはまる	3 どちらかといえばあてはまらない	4 あてはまらない
1） ものごとには積極的に取り組む方である。……	1	2	3	4
2） 人の力をあてにすることが多い。……	1	2	3	4
3） 自分のやり方にはこだわらない方である。……	1	2	3	4
4） かなり移り気である。……	1	2	3	4
5） かなり先の目標をもっている。……	1	2	3	4
6） ひっこみじあんである。……	1	2	3	4
7） 自分を冷静に見つめることができる。……	1	2	3	4
8） 他人の意見をうのみにすることが多い。……	1	2	3	4
9） いつも自分の考えや主張をもっている。……	1	2	3	4
10） 新しいものごとにはなかなかなじみにくい。……	1	2	3	4
11） 興味が長続きする方である。……	1	2	3	4
12） 将来のことはあまり深く考えない。……	1	2	3	4
13） 他の人の上に立ってみたい。……	1	2	3	4
14） その時の気分で行動することが多い。……	1	2	3	4
15） 何かにチャレンジする姿勢をもっている。……	1	2	3	4
16） 人の意見に左右されがちである。……	1	2	3	4

→ 次に進む

	1 あてはまる	2 あてはまるどちらかといえば	3 あてはまらないどちらかといえば	4 あてはまらない
17) 目標にたいしていろいろなやり方を試すことができる。…	1	2	3	4
18) あきっぽい。……	1	2	3	4
19) 自身の将来を思いえがいている。……	1	2	3	4
20) 指示されたことをきちんと行なう方が楽だ。……	1	2	3	4
21) どのような状況でも自身の立場をはっきりさせたい。……	1	2	3	4
22) 人の指示どおりに行動する方が楽でよい。……	1	2	3	4
23) 人と励まし合って目標を達成できる。……	1	2	3	4
24) 自分のやり方を押し通したい。……	1	2	3	4
25) 興味をもったことを深くつきつめる方だ。……	1	2	3	4
26) 先のことを考えるひまがない。……	1	2	3	4
27) 共同作業においてリーダーシップを発揮できる。……	1	2	3	4
28) 人の行動に流されやすい。……	1	2	3	4
29) 自分の考えを提案する機会をつくりたい。……	1	2	3	4
30) 人の間違いを指摘するのは苦手だ。……	1	2	3	4
31) 状況に応じて行動の仕方を変えられる。……	1	2	3	4
32) 集中できる興味があまりない。……	1	2	3	4
33) 将来の目標に向け努力している。……	1	2	3	4
34) 人に指示をあたえることが苦手だ。……	1	2	3	4
35) 正しい状況判断を心がけている。……	1	2	3	4

→ 次に進む

	1 あてはまる	2 あてはまるどちらかといえば	3 あてはまらないどちらかといえば	4 あてはまらない
36）自身の考えで行動することは少ない。……	1	2	3	4
37）人としっかり議論できる。……	1	2	3	4
38）状況に応じて柔軟に行動するのが苦手だ。……	1	2	3	4
39）興味のあることに集中できる。……	1	2	3	4
40）当面の課題に対処することがなにより大切だ。……	1	2	3	4
41）他の人と共同で行なう仕事が好きだ。……	1	2	3	4
42）状況によって感情的になりがちだ。……	1	2	3	4

［3］ これからの1年間の学校生活を、どのような気持ちで過ごしたいと思いますか。思いつくままに、　自由に記述してください。

以上で終わりです。お疲れさまでした。

卒業時

せとうち観光専門職短期大学
学修態度の測定

学籍番号 | | | | | | | |

この調査は，皆さんに本学で学んだ3年間を振り返ってもらい，大学生活での学習態度や日頃の態度全般について，いくつかの質問をします。
本調査の目的は，皆さんの学修態度を含む日頃の態度（ある状況などにおいて行動を準備する心理的構え）を測定することです。調査の結果は，皆さんの専門職短期大学における学修指導などに活用されますが，それ以外に用いられることは，一切ありません。また，この調査はテストではないので，回答結果が成績評価に影響を与えることも全くありません。
以下のすべての質問や記述について，思いつくままに最後まで気楽に回答してください。

［1］ 次に5つの記述があります。それぞれの記述は，今のあなたにどれくらいあてはまりますか。回答欄からもっともあてはまると思うものを1つ選び，その番号に○をつけなさい。

	1 あてはまる	2 どちらかといえばあてはまる	3 どちらともいえない	4 どちらかといえばあてはまらない	5 あてはまらない
1 本学で学んだ3年間は全般的に充実していた。	1	2	3	4	5
2 本学で学んだ3年間で，以前よりも自分なりに「成長した」と実感している。	1	2	3	4	5
3 本学で学んだ3年間，「学業」に全力で取り組むことができた。	1	2	3	4	5
4 本学で学んだ3年間，「学業以外」にも力を注いだ。	1	2	3	4	5
5 本学で学んだ3年間，自分を高める努力をした。	1	2	3	4	5

［2］ 次に42の記述があります。それぞれの記述は，今のあなたにどれくらいあてはまりますか。回答欄からもっともあてはまると思うものを1つ選び，その番号に○をつけなさい。

	1 あてはまる	2 どちらかといえばあてはまる	3 どちらかといえばあてはまらない	4 あてはまらない
1） ものごとには積極的に取り組む方である。……	1	2	3	4
2） 人の力をあてにすることが多い。……	1	2	3	4
3） 自分のやり方にはこだわらない方である。……	1	2	3	4
4） かなり移り気である。……	1	2	3	4
5） かなり先の目標をもっている。……	1	2	3	4
6） ひっこみじあんである。……	1	2	3	4
7） 自分を冷静に見つめることができる。……	1	2	3	4
8） 他人の意見をうのみにすることが多い。……	1	2	3	4
9） いつも自分の考えや主張をもっている。……	1	2	3	4
10） 新しいものごとにはなかなかなじみにくい。……	1	2	3	4
11） 興味が長続きする方である。……	1	2	3	4
12） 将来のことはあまり深く考えない。……	1	2	3	4
13） 他の人の上に立ってみたい。……	1	2	3	4
14） その時の気分で行動することが多い。……	1	2	3	4
15） 何かにチャレンジする姿勢をもっている。……	1	2	3	4
16） 人の意見に左右されがちである。……	1	2	3	4

→ 次に進む

	1 あてはまる	2 あてはまるどちらかといえば	3 あてはまらないどちらかといえば	4 あてはまらない
17) 目標にたいしていろいろなやり方を試すことができる。…	1	2	3	4
18) あきっぽい。……	1	2	3	4
19) 自身の将来を思いえがいている。……	1	2	3	4
20) 指示されたことをきちんと行なう方が楽だ。……	1	2	3	4
21) どのような状況でも自身の立場をはっきりさせたい。……	1	2	3	4
22) 人の指示どおりに行動する方が楽でよい。……	1	2	3	4
23) 人と励まし合って目標を達成できる。……	1	2	3	4
24) 自分のやり方を押し通したい。……	1	2	3	4
25) 興味をもったことを深くつきつめる方だ。……	1	2	3	4
26) 先のことを考えるひまがない。……	1	2	3	4
27) 共同作業においてリーダーシップを発揮できる。……	1	2	3	4
28) 人の行動に流されやすい。……	1	2	3	4
29) 自分の考えを提案する機会をつくりたい。……	1	2	3	4
30) 人の間違いを指摘するのは苦手だ。……	1	2	3	4
31) 状況に応じて行動の仕方を変えられる。……	1	2	3	4
32) 集中できる興味があまりない。……	1	2	3	4
33) 将来の目標に向け努力している。……	1	2	3	4
34) 人に指示をあたえることが苦手だ。……	1	2	3	4
35) 正しい状況判断を心がけている。……	1	2	3	4

→ 次に進む

	1 あてはまる	2 あてはまるどちらかといえば	3 あてはまらないどちらかといえば	4 あてはまらない
36）自身の考えで行動することは少ない。……	1	2	3	4
37）人としっかり議論できる。……	1	2	3	4
38）状況に応じて柔軟に行動するのが苦手だ。……	1	2	3	4
39）興味のあることに集中できる。……	1	2	3	4
40）当面の課題に対処することがなにより大切だ。……	1	2	3	4
41）他の人と共同で行なう仕事が好きだ。……	1	2	3	4
42）状況によって感情的になりがちだ。……	1	2	3	4

［3］ 卒業後の社会生活を、どのような気持ちで過ごしたいと思いますか。思いつくままに、自由に記述してください。

以上で終わりです。お疲れさまでした。

資料27 キャリア形成必読書100冊

日本十進分類表		番号	著者	タイトル	出版社	基礎演習	専門演習	推奨年次		
類目表	要目表							１年次	２年次	３年次
0総記（情報学、図書館、図書、百科事典、一般論文集、逐次刊行物、団体、ジャーナリズム、叢書）	002知識、学問、学術	1	梅棹忠夫	知的生産の技術	岩波書店		●		●	
	049雑著	2	西堀　栄三郎	石橋を叩けば渡れない	生産性出版			●		
	069博物館	3	松宮秀治	ミュージアムの思想	白水社					●
１哲学（哲学、心理学、倫理学、宗教学）	116論理学、弁証法、方法論	4	内田樹	寝ながら学べる構造主義	文藝春秋			●		
	121日本思想	5	和辻哲郎	『風土―人間学的考察 』	岩波文庫	●		●		
	140心理学	6	ロビン・ダンバー	友達の数は何人？　ダンバー数とつながりの進化心理学	インターシフト		●		●	
	141普通心理学、心理各論	7	外山滋比古	思考の整理学	筑摩書房	●		●		
	141普通心理学、心理各論	8	苅谷　剛彦	知的複眼思考法	講談社＋α				●	
	145異常心理学	9	ちきりん	自分のアタマで考えよう	ダイヤモンド社				●	
	146臨床心理学、精神分析学	10	岸見一郎、古賀史健	嫌われる勇気　自己啓発の源流「アドラー」の教え	ダイヤモンド社	●				●
	159人生訓、教訓	11	ｷｬﾛﾙ･Ｓ･ﾄﾞｳｴｯｸ	マインドセット「やればできる」の研究	草思社			●		
	159人生訓、教訓	12	クランボルツ	その幸運は偶然ではないんです	ダイヤモンド社			●	●	●
	159人生訓、教訓	13	瀧本哲史	僕は君たちに武器を配りたい	講談社文庫	●		●		
	159人生訓、教訓	14	吉野源三郎	君たちはどう生きるか	岩波文庫	●		●		
	164神話、神話学	15	阿刀田高	ギリシア神話を知っていますか	新潮社	●		●		
	167イスラム教	16	菊地達也	『図説イスラム教の歴史』	河出書房新社	●		●		
	193聖書	17	阿刀田高	旧約聖書を知っていますか	新潮文庫	●		●		
	198各教派、教会史	18	渡辺和子	置かれた場所で咲きなさい	幻冬舎			●		

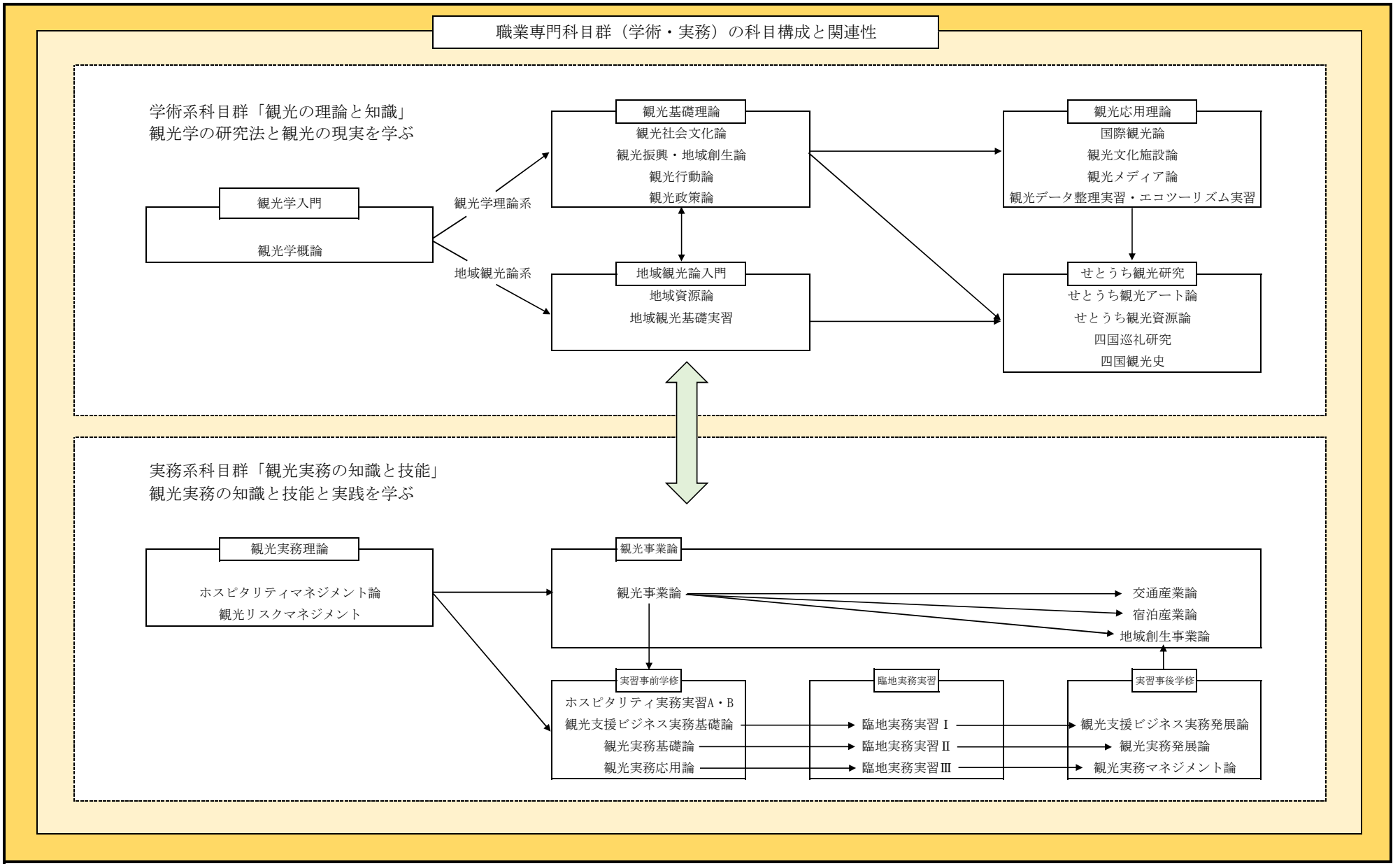
日本十進分類表		番号	著者	タイトル	出版社	基礎演習	専門演習	推奨年次		
類目表	要目表							１年次	２年次	３年次
２歴史（歴史、伝記、地理）	204論文集、評論集、講演集	19	梅棹忠夫	文明の生態史観	中公文庫		●			●
	204論文集、評論集、講演集	20	ジャレッド・ダイアモンド	銃・病原菌・鉄（上・下）	草思社文庫		●			●
	209世界史、文化史	21	ウィリアム・H.マクニール＆ジョン・R.マクニール（福岡洋一訳）	『世界史 １・２ 人類の結びつきと相互作用の歴史』	楽工社		●		●	●
	209世界史、文化史	22	ユヴァイル・ノア・ハラリ	サピエンス全史　文明の構造と人類の幸福（上・下）	河出書房新社		●		●	
	210日本史	23	大野晋・宮本常一他	『東日本と西日本 列島社会の多様な歴史世界』	洋泉社	●		●	●	
	210日本史	24	渡辺京二	逝きし世の面影	平凡社				●	
	210日本史	25	渡辺京二	江戸という幻景	平凡社				●	
	217日本史、中国地方	26	山内譲	中世 瀬戸内海の旅人たち	吉川弘文館		●		●	
	220アジア史、東洋史	27	エドワード・W.・サイード	オリエンタリズム＜上・下＞（平凡社ライブラリー）	平凡社		●			●
	221アジア史、朝鮮	28	八幡和朗	韓国と日本がわかる最強の韓国史	扶桑BOOKS 新書		●			●
	230ヨーロッパ史、西洋史	29	塩野七生	十字軍物語１	新潮社	●		●		
	289個人伝記	30	ネルソン・マンデラ（著）長田雅子（訳）	ネルソン・マンデラ　未来を変える言葉	明石書店	●		●		
	290地理、地誌、紀行	31	森島済ほか	マシューズ＆ハーバード　地理学のすすめ	丸善出版			●		
	291日本	32	西田正憲	瀬戸内海の発見―意味の風景から視覚の風景へ―	中公新書					●
	291日本	33	宮本常一	『私の日本地図12 瀬戸内海4』	未來社		●		●	
３社会科学（政治、法律、経済、統計、社会、教育、風俗慣習、国防）	302政治、経済、社会、文化事情	34	阿部謹也	「世間」とは何か（講談社現代新書）	講談社	●		●		
	302政治、経済、社会、文化事情	35	ダニエル・Ｊ．ブーアスティン	幻影の時代　マスコミが製造する事実	東京創元社		●		●	
	302政治、経済、社会、文化事情（361社会学）	36	マイケル・ピルズベリー	CHINA２０４９	日経BP社		●		●	
	304論文集、評論集、講演集	37	ジャック・アタリ	2030年ジャック・アタリの未来予測	プレジデント社		●			●
	311政治史、政治思想	38	ベネディクト・アンダーソン	定本　想像の共同体―ナショナリズムの起源と流行	書籍工房早川		●			●
	311政治史、政治思想	39	マックス・ウェーバー	職業としての政治／職業としての学問	日経ＢＰクラシックス				●	

日本十進分類表		番号	著者	タイトル	出版社	基礎演習	専門演習	推奨年次		
類目表	要目表							１年次	２年次	３年次
３社会科学（政治、法律、経済、統計、社会、教育、風俗慣習、国防）	318地方自治、地方行政	40	高松平蔵	ドイツの地方都市はなぜクリエイティブなのか―質を高めるメカニズム	学芸出版社		●		●	
	319外交、国際問題	41	河野雅治	和平工作	岩波書店	●			●	
	323憲法	42	佐藤功	日本国憲法概説	学陽書房	●			●	
	335企業・経営	43	澤田秀雄	思う、動く、叶う！	サンマーク出版		●		●	
	336経営管理	44	楠木建	ストーリーとしての競争戦略一優れた戦略の条件	東洋経済新報社		●		●	
	336経営管理	45	三島健二郎	企業危機管理：狼少年でなにが悪い	ダイヤモンド社		●		●	
	361社会学	46	エリック・ホブズボウム、テレンス・レンジャー	創られた伝統（文化人類学叢書）	紀伊国屋書店		●			●
	361社会学	47	山崎正和	社交する人間―ホモ・ソシアビリス（中公文庫）	中央公論新社		●		●	
	361社会学	48	山本七平	「空気」の研究	文藝春秋			●		
	361社会学	49	好井裕明	違和感から始まる社会学―日常性のフィールドワークへの招待（光文社新書）	光文社新書	●		●		
	361社会学	50	谷岡　一郎	「社会調査」のウソ	文春新書					●
	361社会学	51	平田オリザ	わかりあえないことから	講談社現代新書		●			●
	365生活・消費者問題	52	アラン・コルバン	レジャーの誕生（上・下）	藤原書店				●	
	367家族問題、男性・女性問題、老人問題	53	上間陽子	『裸足で逃げる 沖縄の夜の街の少女たち』	太田出版		●		●	●
	383衣食住の習俗	54	石毛直道	日本の食文化史―旧石器時代から現代まで	岩波書店		●		●	
	383衣食住の習俗	55	上野千鶴子	スカートの下の劇場	河出文庫	●		●		
	384社会・家庭生活の習俗	56	神崎宣武	江戸の旅文化	岩波書店				●	
	389民族学、文化人類学	57	小川さやか	「その日暮らし」の人類学ーもう一つの資本主義経済	光文社新書		●		●	
	389民族学、文化人類学	58	菅原和孝	フィールドワークへの挑戦―“実践”人類学入門	世界思想社	●		●		
４自然科学（数学、理学、医学）	448地球、天文地理学	59	伊藤智章	地図化すると世の中が見えてくる	ベレ出版			●		
	450地球科学、地学	60	水野一晴	『世界がわかる地理学入門―気候・地形・動植物と人間生活』	ちくま新書		●		●	●

日本十進分類表		番号	著者	タイトル	出版社	基礎演習	専門演習	推奨年次		
類目表	要目表							１年次	２年次	３年次
４自然科学（数学、理学、医学）	450地球科学、地学	61	富田啓介	はじめて地理学	ベレ出版			●		
	460生物科学、一般生物学	62	荒俣宏	想像力の地球紀行	角川書店			●		
	460生物科学、一般生物学	63	今西錦司	自然学の提唱	講談社学術文庫		●		●	
	481一般動物学	64	フランス・ドゥ・ヴァール	動物の賢さがわかるほど人間は賢いのか	紀伊国屋書店					●
５技術（工学、工業、家政学）	519環境工学、公害（７０９芸術政策文化財）	65	江良 直紀	社会科から楽しめる世界遺産	幻冬舎		●	●		
	521日本の建築	66	藤森照信、 藤塚光政	日本木造遺産 千年の建築を旅する	世界文化社		●		●	
	537自動車工学	67	相本　賢二	サービスの底力	PHP研究所			●	●	
６産業（農林水産業、商業、運輸、通信）	601産業政策・行政、総合開発	68	金丸弘美	田舎力 ヒト・夢・カネが集まる5つの法則	NHK出版	●		●		
	606団体	69	吉見俊哉	博覧会の政治学　まなざしの近代	中公新書	●				●
	629造園	70	中村良夫	風景学入門	中央公論社					●
	673商業経営、商店	71	新雅史	商店街はなぜ滅びるのか―社会・政治・経済紙から探る再生の道	光文社新書	●	●			
	673商業経営、商店	72	ﾍﾞｯﾂｨ・ｻﾝﾀﾞｰｽ	サービスが伝説になる時	ダイヤモンド社			●	●	
	673商業経営、商店	73	宮崎辰	世界一のおもてなし	中経出版		●		●	
	687航空運輸	74	ﾔﾝ･ｶｰﾙｿﾝ	真実の瞬間	ダイヤモンド社			●	●	
	689観光事業	75	阿部佳	わたしはコンシェルジュ	講談社文庫		●		●	
	689観光事業	76	ジョン・アーリー	観光のまなざし	法政大学出版局		●			●
	689観光事業	77	鈴木俊博	稼げる観光: 地方が生き残り潤うための知恵	ポプラ新書	●		●		
	689観光事業	78	高月璋介	基礎からわかるホテルマンの仕事	柴田書店	●		●		
	689観光事業	79	安田 亘宏	インバウンド実務論―インバウンドを1から学ぶ14章	全日本情報学習振興協会		●		●	
	689観光事業	80	澤田秀雄	運をつかむ技術 18年間赤字のハウステンボスを1年で黒字化した秘密	小学館		●		●	

日本十進分類表		番号	著者	タイトル	出版社	基礎演習	専門演習	推奨年次		
類目表	要目表							１年次	２年次	３年次
７芸術（美術、音楽、演劇、スポーツ、諸芸、娯楽）	702芸術史、美術史	81	岡田温司	グランドツアー　１８世紀イタリアへの旅	岩波書店					●
	702芸術史、美術史	82	立入正之	美術史への旅―文化と芸術の再考	インターパブリカ	●				●
	709芸術政策、文化財	83	北川フラム	ひらく美術―地域と人間のつながりを取り戻す	ちくま新書	●		●		
	718仏像	84	望月信成，佐和隆研，梅原猛	仏像―心とかたち	NHKブックス	●				●
	780スポーツ、体育	85	武田建	武田建のコーチングの心理学	創元社		●			●
	791茶道	86	岡倉天心	茶の本	講談社インターナショナル株式会社				●	
	791茶道	87	千宗屋	もしも利休があなたを招いたら 茶の湯に学ぶ”逆説”のもてなし	角川書店				●	
８言語	801言語学	88	長井鞠子	伝える極意	集英社新書	●		●		
９文学	911詩歌	89	大原富枝（著）岩崎ちひろ（イラスト）	万葉のうた（若い人の絵本）	童心社	●		●		
	913日本文学小説、物語	90	恩田陸	蜜蜂と遠雷	幻冬舎		●		●	
	913日本文学小説、物語	91	司馬遼太郎	空海の風景 上・下	中公文庫		●		●	
	913日本文学小説、物語	92	水野敬也	夢をかなえるゾウ 文庫版１	飛鳥新社	●		●		
	913日本文学小説、物語	93	吉村昭	大黒屋光太夫（上・下）	新潮文庫		●			●
	914評論、エッセイ、随筆	94	アレックス・カー	美しき日本の残像	朝日文庫	●		●		
	914評論、エッセイ、随筆	95	坂村真民	念ずれば花ひらく　随筆集	サンマーク出版	●		●		
	914評論、エッセイ、随筆	96	平野甲賀	きょうかたるきのうのこと	晶文社	●		●		
	914評論、エッセイ、随筆	97	谷崎潤一郎	『陰翳礼讃』	中公文庫		●		●	
	916記録、手記、ルポルタージュ	98	佐藤愛子	淑女失格　私の履歴書	集英社文庫	●		●		
	933英米文学小説、物語	99	ゴールズ・ワージー	林檎の樹	新潮文庫	●		●		
	933英米文学小説、物語	100	デイルドーテン	仕事は楽しいかね	きこ書房					●

資料28　職業専門科目（学術・実務）の科目構成と関連性



資料 29　教育研究開発会議規程

せとうち観光専門職短期大学　教育研究開発会議規程

（趣旨）
第１条 この規程は、せとうち観光専門職短期大学教育研究開発会議（以下「教育研究会議」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

（目的）
第２条 教育研究会議は、せとうち観光専門職短期大学観光振興学科における教育課程及び授業科目について、急速に変化する現代社会への対応状況や産業界等のニーズと合致した教育内容・方法であるか等の観点から、常に確認し見直しを行い、合わせて専任教員の研究内容の充実及び教育力の向上を図ることを目的とする。

（業務）
第３条 教育研究会議は、次の各号に掲げる業務を行う。
（１）観光振興学科の教育課程及び授業科目等の確認と見直し。
（２）教育課程連携協議会の意見を踏まえ、観光振興学科の教育課程及び授業科目等の改定案の作成、提言、履行に関すること。
（３）紀要『せとうち観光学フォーラム』（年２回）及び教育研究報告書『せとうち観光振興専門職教育』（３年に１回）の発行。
（４）せとうち観光学研究所と連携・協力し、研究成果の進化と地域への情報発信と公開事業の実施を行う。
（５）ファカルティー・ディベロップメントに関すること。
（６）その他、観光振興学科の教育力及び研究力の向上に関すること。

（構成）
第４条 教育研究会議は、次の教職員により構成され、学科長が議長となる。
（１） 学長
（２） 学科長
（３） 専任教員
（４） 事務局長
（５） 必要な事務局職員

（部会）
第５条　教育研究会議は、必要に応じて、目的別の部会を置くことができる。

（開催）
第６条　教育研究会議は、原則として年６回、２か月毎に開催する。

（事務）
第７条　教育研究会議の事務は、事務局において処理する。

附 則
１　この規則は、2021 年４月１日から施行する。

資料 30　教育研究報告書規程・執筆要領

せとうち観光専門職短期大学　教育研究報告書規程・執筆要領

（目的）

第１条　この規程は、せとうち観光専門職短期大学（以下、「本学」という）における観光振興専門職教育の方法論や実践論の検討状況及びその成果や FD 研修・活動等による教育力の向上策や課題等を取りまとめ、教育研究報告書（以下、「報告書」という）を作成にするために必要な事項を定めることを目的とする。

（教育研究報告書の名称及び発行）

第２条　本学の教育研究報告書の名称を『せとうち観光振興専門職教育』とし、3 年に１回以上発行する。

２　報告書については、本学の図書館及び研究室において随時公開するとともに、大学等関係機関に配布し、広く利用に供するものとする。

３　また、PDF ファイルに変換し、本学のホームページにて公開する。

（執筆者）

第３条　執筆者は、本学の専任教員及び兼任教員、せとうち観光学研究所の客員研究員のうちから、教育研究開発会議が執筆を依頼したものとする。

２　ただし、専任教員は必ず執筆しなければならない。

（報告書の構成）

第４条　教育研究報告書は、講義・演習報告、臨地実習報告、授業改善取り組み報告、研究報告、地域連携実践報告、その他の報告により構成するものとする。

２　発行ごとの構成及び執筆分担等については、教育研究開発会議で協議し、決定する。

（報告書の仕様）

第５条　報告書の仕様は次のとおりとする。

（１）　A4 判冊子　カラー印刷とし、ページ数及び発行部数は別に定める。

（２）　報告文のほか、必要なデータ、図、表、写真等を含めるものとする。

（原稿の提出）

第６条　教育研究開発会議において決定された執筆者は、依頼された内容、分量の原稿を作成して提出期日までに、教育研究開発会議に提出しなければならない。

（著作権）

第７条　本誌に掲載された著作物の著作権は本学及び執筆者に属する。

（引用に伴う著作権・肖像権等）

第８条　他者の著作物等からの引用に伴う著作権・肖像権等については、執筆者の責任において利

用許諾を得るものとする。

（執筆要領）

第９条　提出する原稿の執筆にあたっては、下記に留意する。

（１）　原則としてワープロまたはパソコンで作成し、縦置き A4 判用紙に横書きで、50 字×40 行とし、明朝体 10.5 ポイントを使用すること。

（２）　データ、図、表、写真等は、原則としてデータ上で原稿に貼り付けるものとする。

（３）　原稿１頁目には、①タイトル、②職名・氏名（連名の場合は全員）を記入する。

（４）　形式は、口語体、常用漢字を用いた現代仮名づかい（引用文等に旧かな を含む場合には、旧かな の使用も可とする。）を用いること。

（５）原稿に利用したデータや事例等については、研究倫理上必要な手続きを経ていることを倫理的配慮として明記すること。また、記述においてプライバシー侵害がなされないように、細心の注意を払うこと。

附　　則

この要項は、2021 年４月１日から施行する。

資料 31 紀要編集規程・執筆要領

せとうち観光専門職短期大学紀要編集規程・執筆要領

（趣旨）

第１条　この要項は、「せとうち観光学フォーラム」の投稿に関し、必要な事項を定めるものとする。

（発行・発行回数）

第２条　この紀要は、せとうち観光専門職短期大学における研究の成果を発表する学術研究誌であり、年２回の発行を原則とする。

（編集）

第３条　この紀要の編集は、教育研究開発会議内に設置する「せとうち観光学フォーラム」編集委員会（以下「編集委員会」という）において行うものとする。

（収録内容）

第４条　収録内容は、本学教員がまとめた論文、調査報告、研究ノート、書評、翻訳等で、学術的に価値のある未発表のものとする。なお，共同研究の場合、主たる研究代表者が本学の教員でなければならない。

（投稿者の例外）

第５条　教育研究開発会議が、特に、せとうち観光学の発展と充実に資すると判断した場合には、学外からの投稿を可能とすることができる。

２　学外からの投稿に関する詳細については、別に定める。

（原稿の提出方法）

第６条　原稿の提出は、別に定める期日までに編集委員会宛てに行うものとする。

（原稿の提出形式）

第７条　提出原稿は、完全原稿とし、電子化したもの１部と印刷されたもの１部を提出する。

（掲載の採否）

第８条　投稿論文の掲載の可否は教育研究開発会議が決定する。

２　審査は教育研究開発会議のうちの２名が査読（以下「査読者」とする。）を行うか、または外部の専門研究員による複数の査読を受けたうえで、査読者と執筆者の合議により行う。

資料 31 紀要編集規程・執筆要領

（原稿の修正）

第９条　提出原稿に不審な点がある場合、編集委員会は各専門分野の研究者に審査を依頼することができる。

（原稿の形式）

第 10 条　原稿の形式は次のとおりとする。

（１）本文の上限は 400 字詰め用紙で論文・調査報告 80 枚、研究ノート 40 枚、書評 20 枚、翻訳 40 枚とする。ただし、図表、参考文献、注等の一切を含む。

（２）図、表は印刷された提出原稿で大きさ及び掲載場所を赤字で明示すること。

（３）論文原稿は、学会等で通用する形式であること。

（４）共同研究者が本学教員でない場合、その所属、職名を本文末尾に付記すること。

（５）論文のタイトル・氏名には、英語等外国語表記を併記すること。

（校正）

第11条　構成は､編集委員会が指定した期日に執筆者の責任において行うこととする。なお、校正回数は２回とする。

（著作権）

第 12 条　紀要に記載された論文等の著作権は、執筆者に帰属する。ただし、本学から紀要の電子化及び電子的手段による配布に伴う行為に対しては、執筆者は予めこれに許諾を与えるものとする。

附　則

１．この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

資料 31 紀要編集規程・執筆要領

せとうち観光短期大学紀要執筆要領

せとうち観光専門職短期大学紀要編集規程第10条に則り、執筆原稿の形式を以下のように定める。

1　原稿の制限枚数（本文・註・図表等のすべてを含む）は、以下のとおりとする。

(1) 論文：印刷製本時の頁数換算で20頁以上25頁以内。（1頁42字×33行，但しタイトル・要約・キーワード1頁分を含む）

(2) 研究ノート・資料：印刷製本時の頁数換算で12頁程度。（1頁42字×33行）

(3) 書評：印刷製本時の頁数換算で6頁程度。

(4) 在内外研究報告：論文に準じる。

2　パソコン等による原稿は、プリントアウトした原稿および電子データを以下の方法で提出すること。

(1) プリントアウトした原稿には、1頁＝〇字×〇行と明記すること。

(2) 電子データは記憶媒体(USBメモリ，CD-R等)にて提出すること。

3　原稿には、欧文題目・欧文名を添えること。

4　原稿には、要約・キーワードを添えること。

5　図・写真・表等を転載・引用している場合は、執筆者が著作権者に転載・引用の許可をとっているものとする。

資料32　専門職短期大学と専門学校のカリキュラムの比較

せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
基礎演習	1	必	演習	15	この演習では、本学での学びに必要な基礎的技能を養うとともに、社会人の一般常識の必要性を理解し、「自学自修の態度」も身につける。まず、本学で効果的な学修ができるように、アカデミック・スキルズとして、ノートテイキング、リーディングスキル、ライティングスキルなどの学び方を修得する。次に、生涯に渡るキャリア形成の一助となり、本学が推薦する「キャリア形成必読書」のうち、教員が指定する一般常識関連の書籍1冊の読み方を修得する。演習全体を通し、本学の学生に求められる資質である「人間力」（human　resourcefulness）の涵養について、目安の１つとなる「パーソナリティの成長次元」という基礎概念を理解したうえで、自らのキャリア形成を有意義なものにする学び方を考える。なお本演習では、グループワークを適宜取り入れて学修を行う。
キャリアデザイン論	2	必	講義	15	人生100年時代と言われる現代は、これまでの時代よりもさらに、社会に出た後の人生に長期的な見通しが必要とされる。本学での学修期間は、多くの学生にとって社会に出る直前の段階にあたるため、本学での時間をどのように過ごすかによって、今後の人生が大きく変わることが予想される。この授業は、キャリアデザインにおけるさまざまな考え方、社会人基礎力について学修しながら、学生自身の今後の人生において課題となりうる物事を予測し、その解決方法を考察する。自らの手で主体的にキャリアを構想･設計することにより、これからの人生を長期的に見通し、より豊かなものとしていくためのキャリア形成の知識を身につけるのが、この授業の目的である。なお、授業は講義形式で展開する。
文化論	1	必	講義	15	文化とは何か？学問において文化はどう捉えられ、理解することができるのか？この授業では、日常的によく用いられるものの、捉えにくい「文化」について理解することを目指す。授業は、社会学・文化人類学の視点を軸に据えて展開する。文化研究の対象となり得るモノゴトは何であって、その対象をどう捉えるとどういった分析・考察ができるのか、という思考のプロセスを、具体的事例を織り交ぜながら示していく。授業は原則、講義形式で展開されるが、グループワークによるディスカッションで、学生が各テーマについて思考し、それをアウトプットする機会も設ける。授業の後半の回では、授業進度もみながら、各回のテーマ（テキスト）について要約・発表してもらうこともある。
地理学	1	必	講義	15	この授業では、人文地理学の基本的な事項・知識として修得すべき内容について、具体的な事例を紹介しながら講じる。まずは、基本的な地理学の考え方を学修したのち、日本における人口問題や農村・都市における諸問題、農業をはじめとした産業にかかわる地理学研究の基本的な概念や成果を理解する。さらに、現在の景観を形成してきた過去の景観や人々の営みやまなざしについても学び、各地で注目されているさまざまな観光現象について、地理学的な視点から得られた知見を把握する。また、近年盛んとなっている地理情報システム（Geographic　Information　System:GIS）や、防災・減災の地理学についての取り組みが紹介される。なお、授業は講義形式で展開される。
企業の社会的責任	1	選必	講義	15	企業が事業活動を続けていくうえでは、従業員だけでなく、顧客、取引先、消費者、株主、地域社会、自治体や行政など多様な利害関係者と関わっている。こうした利害関係者と良好な関係を保ちながら事業活動を継続していくことが企業の社会的責任である。本講義では、利益の追求にとどまらず、納税や法令順守、安心・安全な商品やサービスの提供、環境への取り組みなど多様な社会的責任の果たし方を学ぶことで、企業の社会的責任とは何か、組織とは何かを考察する。
法と社会	1	選必	講義	15	本講義では、現代社会における法律による規制の役割と機能を概説し、社会で働く上で必要となる法律の基礎的な知識を身につけ、運用することを目標とする。講義では、社会生活を営む上で、教養として知っておくべきである法律（憲法、民法、会社法、刑法、行政法など）に関するテーマについて扱う。なお、この授業は基本的には講義形式で進行するが、具体的な事例（過去の事例、時事問題）を提示し、その事例の法的問題、解決方法についてグループワークを行う時間を適宜設ける。
ビジネスコミュニケーション	2	選必	講義	15	この授業は、学生から社会人への円滑な移行のため、ビジネスでの基本的なコミュニケーション能力の養成、職業意識の修得、主体的なキャリアプランの明確化を目的とする。ビジネスコミュニケーションの基本部分は、社会人基礎力としての土台である日常生活でのマナーや、他者との関係づくりにおけるソーシャルスキルとも関わっている。関連項目は多岐に渡るが、本授業では、それらを体系的に学び、日常で実践できるレベルを学修の到達点とする。ペアワーク、グループワーク、ワールドカフェなど、さまざまな形式でアクティブラーニングを行うことで、ディスカッション・プレゼンテーション・ディベート等のスキルの基本を身につけ、多種多様な対人対応において、臨機応変で、問題解決ができる柔軟なコミュニケーション能力の実践を目指していく。また本授業は、社会人となる準備として、すべての実務実習・インターンシップにもすぐに役立つ学修とする。

専門学校穴吹ビジネスカレッジ　ホテル学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
社会人基礎講座Ⅰ	1	必	講義	10	就職活動を円滑に行うために、就職活動の一連の流れを理解し、積極的な活動ができるように準備する。そのために、就職に向けての動機付け（意義、目標）、自己分析（自己PR、長所・短所、セールスポイント）、企業研究（業種、事業内容、職種、職種内容、志望企業の選定）、履歴書作成（書き方、ルール、志望動機、自己PR）、面接対策（25問25答作成）、模擬面接、といった内容で就職活動に対する意識を上げる。
社会人基礎講座Ⅱ	2	必	講義	25	就職活動（動機付け、履歴書の作成、エントリーシートの作成、面接練習）、就職筆記試験対策（社会人常識マナー検定対策、SPI試験対策）、学び方を学ぶ（ノート術、聴き方、テキストの読み方、記憶術等の成績向上法）、PEPトーク（前向きな言葉遣い、ガマンする力）、ケースメソッド（聞く・考える・話す力の練習）、型から学ぶ文章術（ビジネス文書やその他の文章の書き方）、ロジカルシンキング（ロジカルシンキングを応用したディスカッション）、新入社員み向けて（自分が成長し続けるための心がけと習慣、認められる人材になるために）、といった就職活動の準備と社会人常識マナー検定3級合格を目指す。

資料32　専門職短期大学と専門学校のカリキュラムの比較

せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
信仰の歴史	2	選必	講義	15	信仰とは、神仏などを信じて崇めることをいい、日本では古くからさまざまな事物や事象がその対象となってきた。とくに近世には、伊勢・稲荷・観音・金毘羅といった社寺参詣を伴うものや、富士信仰をはじめとする山などの自然物を対象としたものなど、多様な信仰の形態がみられる。本講義では、このような過去における人々の営みについて、当時の出版物や絵画、人々が記した旅日記といったさまざまな歴史資料が紐解かれながら紹介される。そこで、近世の信仰のあり方についての理解を深めることを通じて、歴史資料から過去の現象の解明にアプローチする方法論を修得する。なお、授業は講義形式で展開する。
異文化理解	2	選必	講義	15	多様な文化的背景の人々が集まると、必ず葛藤が生じる。比較的同質とされる日本社会では、こうした文化間の葛藤や多文化共生の視点が苦手である。グローバル化した今日においてはこの種の葛藤は不可避であるが、逆にそれは文化の多様性や多文化共生を理解するチャンスでもある。異文化理解を検討する上で、この授業では、イスラーム教やイスラーム世界の文化・慣習を対象にする。それは、世界のイスラーム教徒人口が15億人を超え、イスラーム教やイスラーム諸国との日常的な接触が増えたにも関わらず、日本人の認識は必ずしも豊富といえないからである。しかも、イスラーム世界といっても一枚岩ではなく、各地で多様でもある。そこで、この授業では、イスラーム世界およびイスラーム教・文化について基本的な知識や理解を獲得することで、異文化理解の視点を養うことを目的とする（ただし、イスラーム世界の多様性にも十分に注意を払うことにする）。
災害と防災の科学	1	選必	講義	15	日本はプレート境界の地震火山列島である。また、夏には台風や梅雨前線による豪雨災害列島となり、冬季の日本海側は豪雪列島となる。このような災害列島における安全な生活のためには、地域の災害特性を知り、防災情報や防災施設を活用して、身の安全を確保する必要がある。本講義では、日本における主要な災害の発生メカニズムと被害の特徴、施設による防災・減災対策、ハザードマップや防災気象情報の入手と活用方法、災害時の避難方法、災害後の対処方法（縮災）、災害遺構等を学び、災害時の危機管理能力を育成する。
介助実務実習	1	必	実習	15	この授業では、ボディメカニクス（身体力学）にもとづき、介助を必要とする人と介助をする人との両者にとって安全かつ安楽な介助技術を修得する。そのさい、外出時における適切な介助の知識と技術を中心に学ぶ。また、技術だけでなく、高齢者や障害者福祉のサービス、高齢者や疾病を持つ人（視覚障害、知的障害、全身性障害）の心理状態、身体機能や生活障害と環境との関係などについての基礎知識も学修する。それらの学修を通して、介助を必要とする人との基本的なコミュニケーション技術やリスクマネジメントについての理解を深める。なお、この授業は、学生が実際に介助の動作を行うなど、実技を中心とした実習形式で展開する。

専門学校穴吹ビジネスカレッジ　ホテル学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
パソコン演習	1	必	演習	30	パソコンの基本操作（Windowsとは、データの保存等）、インターネットの基本操作（インターネットを利用した検索、入力練習）、Word2016（概要、画面構成、文書の作成、グラフィック機能、ブライダル・ホテルショーの案内はがき作成・印刷、表のある文書の作成）、Excel2016（概要、画面構成、データの入力、表の作成、グラフの作成、データの分析）、WordとExcel間でのデータの共有、新機能について、といったWord2016とWord2016の基本的な機能・操作法を理解し使用できるようにする。
プレゼンテーション(PP)	2	必	演習	15	PowerPointの特徴、内容作成（スライド作成、箇条書きの入力、アウトライン表示、スライド一覧表示、スライドの移動）、デザイン調整（テーマ、バリエーション、配色、フォント、ワードアートのスタイル）、表やグラフを挿入（表の挿入・スタイル、グラフの挿入・スタイル、グラフ要素、テキストボックス）、写真や図表を挿入（SmartArt、画像、トリミング、図のスタイル、スクリーンショット）、動画や音楽を挿入（ビデオの挿入、ビデオのトリミング、表紙画像、オーディオ挿入）、アニメーション設定、スライドショーの実行（拡大、任意のスライドを表示、蛍光ペン、非表示スライド、発表者ツール）、資料配付。PowerPointの基本操作を学習しグループでプレゼン発表。
ホテル概論	1	必	講義	15	ホテルの基礎知識、ホテル開業までのプロセス（開業条件）、ホテルの種類（シティ、リゾート、ビジネス、旅館等）、宿泊部門と料飲部門（客室の種類と料金体系、フロントセクションの業務内容、レストランの種類、ホテルのバーとお酒の知識）、ホテル企画イベント、ホテルブライダルと宴会（ホテルウェディングの概要、ブライダルセールス、ホテルでの宴会、会議の種類、宴会予約課の業務内容、宴会サービス課の概要、宴会設営に関する基礎知識）、安全管理、各セクションのコンピューターシステムの概要、ホテルサービス（ホスピタリティ、ホテルの将来展望）、ホテル業界の専門用語、これらの知識を修得する。

資料32　専門職短期大学と専門学校のカリキュラムの比較

せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
観光学概論	1	必	講義	15	この授業では、現代観光の関連領域に生じる現実の中から、観光振興専門職の基礎知識として身につけるべき主要な観光事象と、それらの事象を捉える理論や方法を講義形式で学ぶ。現代観光の関連領域を学修するにあたり、まず、「観光とは何か」（観光の定義と歴史）を理解する。次に、現代観光の領域全体を、「観光事象と社会が影響を及ぼし合う領域」（観光と社会・経済・文化・環境等の関連領域）と、「観光事象を支える仕組みの領域」（観光と国際機関・観光行政・観光事業等の関連領域）との2つに分け、それぞれの領域にアプローチした観光学の研究成果を修得する。
地域資源論	1	必	講義	15	学問の系譜において、「地域資源」という言葉は、観光の分野ではなく、地域資源管理あるいは生態資源との関連で用いられてきた。ところが今では、社会的な要請により、まちづくりや地域づくりとの関連で、建物や暮らし、文化、産業など、地域を特徴づけるさまざまな資源を「地域資源」として広く認識するようになった。この授業では、まず（1）地域資源そのものを学術的に検討する。次いで、（2）地域資源を生み出す地域の気候や地形などの自然的要素および地域の技術や交通などの人文的要素について検討する。さらに、（3）そうした地域の構成要素が「地域資源」としていかに見出されたのかについても批判的に検討することで、地域資源という概念の問題点についても考察する。なお、授業は講義形式で進める。
地域観光基礎実習	1	必	実習	15	特定の集団・組織や地域社会を理解したり、課題の発見や解決の方策を考えたりするには、その対象の現状を把握するための調査手法や対象と向き合う心構えの修得が不可欠である。この実習では、研究はもとより、社会生活においても必要不可欠なスキルである、社会調査の手法と心構えについて、実践を交えながら学修する。授業では、調査手法について学修したのち、実際にフィールドワークを行い、リサーチのプロセス（計画準備～実施～データ整理・分析～成果報告）を実践する。調査はグループワークで行う。フィールドワークは校舎近隣の観光関連施設（例：公園・文化施設、門前町・商店街・ショッピングセンター・道の駅、空港・港・駅・バスターミナル、うどん店等）を予定している。なお、第14回と第15回の授業では、パワーポイント等を用いたプレゼンテーションにより、成果報告を行う。
観光社会文化論	1	必	講義	15	この授業では、社会学や文化人類学などがとらえた「社会文化現象にかかわる観光」の研究を理解しながら、その研究で用いられる理論や方法も修得する。社会文化現象にかかわる観光は、1960年代に出現した「大衆観光」が、世界中の国々に多くの重大な社会経済的影響を及ぼすにつれて認識され始めた。大衆観光は、観光客受け入れ社会の文化や自然にさまざまな負の影響を及ぼしたので、大衆観光に代わる新しい観光の形態が、1980年代以降に模索され、その後の1990年代に、観光によって地域の文化や自然をまもり、「持続可能な地域社会」を構築する観光が実践された。その観光は、「持続可能な観光」と呼ばれる。このように再構築された「社会文化現象にかかわる観光」について、社会学や文化人類学が何をどのように考察したのかを学ぶ。
観光振興・地域創生論	1	必	講義	15	この授業では、観光振興が地域創生と共振して「持続可能な地域社会」の形成をめざす現実と、その現実をとらえる研究の理論や方法とを学ぶ。少子高齢化の時代が到来し「地方消滅」の社会状況が予測されるなかで、観光振興と地域創生のそれぞれの新たなあり方が交差して、地域を活性化し持続可能な地域社会を形成しようとする事例がいくつかみられるようになった。そのような事例が生じた経緯を、まず、一方で戦後の地域開発政策から現在の地方創生政策までの地域振興の変遷と、もう一方で大規模な観光地開発から持続可能な観光開発までの観光振興にかかわる変遷とをたどって明らかにする。そして、事例が発生した経緯の分析結果を踏まえて、観光振興と地域創生が結びつく持続可能な地域社会の形成が、いかに実現するかを考える。
観光行動論	2	必	講義	15	この授業は、観光行動の社会心理学的なメカニズム、および観光行動と観光対象の関係について講義形式で学ぶ。経済的に豊かな社会では、観光が個人の日常生活の一部となり、個人や集団の観光行動が現代社会に広く普及した結果として、観光行動が現代社会のさまざまな領域で大きな影響を及ぼすようになった。そうした観光行動がどのような社会心理学的な仕組みで発生し、また観光行動がどのような社会的現実をいかに生みだしているのかについても、観光研究の知見を通して解説される。観光行動の研究は、観光研究における主要な課題の一つなので、その研究成果は観光に関連する多くの研究課題に応用される。

専門学校穴吹ビジネスカレッジ　ホテル学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
ホテルマネジメント・観光論	2	必	講義	15	観光とは何かを理解し、各観光地の認識・理解を深める。また、ホテルマンになった際に、お客様から尋ねられる意識を持ち各観光地の概要を学習する。観光地とは、香川の観光地（高松、坂出、小豆島、琴平、善通寺、観音寺）、愛媛の観光地（松山、今治、石鎚山、南予）、徳島の観光地（鳴門、吉野川、祖谷）、高知の観光地（四万十川、高知城、仁淀川、足摺岬）、京都（地理、観光地）、大阪（地理、観光地）、兵庫県（地理、観光地）。またホテルマンとして知っておくべき会計の基本を学習し、原価意識を持ったホテルマンを目指す。ホテル会計（会計組織、収益会計、売上、費用会計、原価、人件費）。

資料32　専門職短期大学と専門学校のカリキュラムの比較

せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
観光政策論	2	必	講義	15	この授業では、観光政策において、観光行政が実施に至る政策的プロセスや事業実施の財政的な支援スキーム等について学ぶ。本講義は、観光行政が取り組む「４つの施策」を主題とする。その「４つの施策」とは、①外貨獲得や自国に対する理解の増進等といった国益の実現をめざす「インバウンド観光の振興」、②社会政策的視点から余暇生活の充実による国民福祉の向上をめざす「国内観光旅行やアウトバウンド観光の振興」、③一国経済政策の視点から国内産業の活性化や雇用の増大等をめざす「観光関連産業の振興」、そして④地方経済政策の視点から地域経済の活性化や地域の経済格差是正等をめざす「地域観光関連産業の振興」である。この４つの主題が、①政策の現実と変遷、②観光行政の手法、そして③「観光政策事例研究」という３つの切り口から解説される。
国際観光論	2	選	講義	15	この授業では、国際観光の歴史と現実を学び、国際観光が地球規模でもたらす影響や問題点について考える。大衆化した国際観光は1960年代から出現し、その規模は今日までに急速に拡大し続けている。1960年に7000万人であった年間国際観光客数は、2017年に13億2000万人にまで増大した。このように規模が拡大する国際観光は、いまや世界の動向に重大かつ多様な影響を及ぼす。国際観光がもたらす影響は、収益の増大といった正の効果ばかりでなく、観光公害、文化変容、自然破壊といった、深刻な負の効果も生み出してきた。そうした重大な影響力をもつ国際観光の動向や本質を明らかにして、現代日本における国際観光の現実と問題点についても考えていく。なお、授業は講義形式で展開する。
観光文化施設論	2	選	講義	15	この授業は、数ある観光施設（宿泊施設、飲食施設、土産物店などの物販施設、観光案内施設、交通施設等）の中でも、特にレジャー・文化関連の施設を「観光文化施設」とし、その成り立ちを中心に学ぶ。観光文化施設には、例えば博物館や動物園、テーマパークなどが挙げられ、これらは身近なレジャー施設であると同時に、それ自体が観光目的となり遠方から人々を呼び込む観光資源にもなりうる。多くは明治以降に作られたものであるが、その源流は江戸時代からたどることが可能である。近世の人々の文化や習慣、娯楽等が、西洋の影響や近代化を経てどのような形で今日のレジャー施設・文化施設へと転じていったのかを示しながら、これらの施設の現在の状況や機能について事例を用いながら学ぶ。なお、授業は講義形式で行う。
観光メディア論	2	選	講義	15	観光や観光振興は、メディアと深いかかわりがある。この授業では、ガイドブックや旅番組など、旅行情報を提供する広報ツールとしてのメディアの一面を取り扱うだけでなく、メディアがもたらす地域への影響や地域住民へのアイデンティティへの波及、観光客同士の情報交換など、さまざまな観点から観光とメディアの関係性を学ぶ。それにより、学生自身が各々に馴染みのある地域を題材に、その地の観光とメディアの関係について具体的に考察できるようになることを目指す。なお、授業は講義形式で展開し、基本的にはテキストの内容に準じて進める。
観光データ整理実習	2	必	実習	15	情報やデータの収集・処理・加工・分析は、観光の分野にとどまらず、現代社会では基礎的かつ必須の素養である。UNWTO（World Tourism Organization of the United Nations 国連世界観光機関）の観光統計を含め、観光関連の統計データは国内外で整備が遅れていた。それが近年、観光に関するデータや統計の整備が進みつつあり、こうした情報を利用することで、観光振興の問題点などを洗い出しやすくなった。そこで、この実習では、主として観光に関連するデータを収集、整理し、さらに図表化することで、観光にかかわる諸現象を総合的・学術的に把握し、さらに観光と地域の特徴をわかりやすく説明する能力を獲得することを目標とする。なお、データの整理、分析、図表化には、表計算ソフトExcelを使用する。また、観光にかかわるアンケート調査のデータ整理についても基本的な知識を身につけることを目標とする。
エコツーリズム実習	2	必	実習	15	「エコ」という言葉の由来は「エコロジー（生態学）」にあるが、近年では「環境に配慮している」ことを意味することが多い。エコツーリズムは、特定のエリアの環境保全にも貢献する観光の一形態であり、言い換えれば「持続可能な観光（サステイナブルツーリズム）」の一つである。この実習では、地域資源やそれらを取り巻く環境を理解し、その保全および観光における活用を目的としたエコツアーを作成することを主眼とする。また、事業として成り立たせるために必要なガイドとして修得すべき技術（心構え、コミュニケーション、知識の修得方法、伝え方等の技術等）、フィールドを活用したプログラムの企画・運営・改善方法等について、実践しながら学び修得する。

専門学校穴吹ビジネスカレッジ　ホテル学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容

資料32　専門職短期大学と専門学校のカリキュラムの比較

せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
せとうち観光アート論	3	選必	講義	15	本授業においては、近年瀬戸内海を代表する著名な観光地となった「直島」の開発及びその活動の経緯について、複数の視点からアプローチすることで、観光のもつ本来的な意義や可能性及び課題について学ぶ。具体的な視点としては、直島を軸とした地域の現状分析、行政のリーダーシップによる観光開発、企業の文化活動としての地域開発、地域に根差した現代アート活動、現代アート活動による地域の活性化、地域型芸術祭の現状等を中心とする。講義による学修に加え、事前のテーマ設定の上、直島現地の視察を行うと共に、視察結果に基づく課題及び提案については、討議や相互フィードバックなどのグループワークを行い、相互発表する機会を設けるものとする。
せとうち観光資源論	3	選必	講義	15	観光の対象となる観光資源の分類には、海、島、山岳などの「自然観光資源」と、社寺、城郭、公園などの「人文観光資源」、郷土景観、歴史景観などの「複合型観光資源」といった3つがある。本講義では、瀬戸内地域におけるそれぞれの観光資源について知識を深めるとともに、日本国内だけでなく、インバウンド観光客を受け入れられる地域とするためには、これらの観光資源をどのように磨き上げ、その魅力等をどのような形で発信していくかを考察する。
四国巡礼研究	3	選必	講義	15	四国遍路には、長い歴史、幾多の変遷があるが、現代においては、1990年頃から、原点回帰の「歩き遍路」が復活し耳目を集めている。外国人お遍路さんの急増は史上初の現象といえる。現代において、わが国のみならず、世界中が四国遍路の魅力を発見・再発見するようになったのはなぜか。本講義では、これを中心テーマに据える。四国遍路の現代的意義を考察するには、多数出版されている遍路体験記が役立つ。多くの時間とお金を費やして遍路道を歩く理由は何か。遍路体験記から明らかになるのは、ものの豊かさより、スピリチュアルな価値を求める現代人の姿である。やや誇張した言い方になるが、四国遍路は、スピリチュアル・ツーリズムといえよう。講義では、四国遍路のそのような側面に焦点を当てるが、予備知識として四国遍路の歴史や遍路の思想的背景についても学ぶ。また、体験的理解も有効なので、可能な限り遍路体験を授業の中に取り入れたい。
四国観光史	3	選必	講義	15	本講義では、これまで四国地域が観光においてどのように発展してきたか、近代から現代までの四国の観光の歴史を学修する。また、これまでの四国の観光の歴史を理解した上で、これから四国の観光がどのような方向に向かおうとしているのか、また現在どのようなことが必要とされていて、そうしたニーズにこれからどのように対応していくのかについて、四国の各地域の自然、社会、文化・芸術、人物、インフラなどさまざまな観点からアプローチし、考察する。
観光事業論	1	必	講義	15	従来の観光事業論は、観光産業論ともよばれ、観光関連企業が利潤を追求する諸活動を研究したが、最新の観光事業論は、政府、自治体や公益団体が主体となって、観光関連企業とも連携・協働し、地場産業、地元企業や地域住民にとって有益な「社会的価値」を生み出す諸活動の総体を研究するようになった。そこで、この授業では、政府や自治体が自ら、あるいは民間企業と連携して、地域住民の福利厚生や地域全体の活性化を目指して実践する全ての観光事業活動について学ぶ。その際、我が国の観光事業の具体的なプログラムを観光政策のジャンルごとに説明し、世界の観光主要国の観光事業とも比較しながら検討する。
交通産業論	3	選必	講義	15	この授業では、人員の移動や運送にかかわる全ての産業、すなわち陸運・水運・空運全般とその関連分野を対象として、それぞれの発祥期から現代に到るまでの発展の歴史や、社会的・経済的な役割、現在の課題や今後の展開、さらには現在特に社会的な注目度が高い個別の関連テーマなどについて学ぶ。また、これらの学修結果を踏まえた上で、後半では特に「公共の利益の視点」「観光業振興の視点」等、多角的な視点から交通産業について考察を深める。
宿泊産業論	3	選必	講義	15	この授業の目的は、宿泊産業の古来から現代に至る歴史的な役割をたどり、地域産業としての宿泊業の重要性を認識することである。そこで、宿泊産業が歴史的に発展してきた経緯を概観したうえで、日本の外資系ホテルと国内系ホテルにおける宿泊パッケージプラン、料金宿泊形態、収益部門などの特徴から、両系のホテルの経営方法、顧客フォロー、経営の現状などについて比較検討しながら、宿泊産業全体の動向をとらえる。また、近年の宿泊産業が、各事業所の所在地域の観光振興や地域連携を模索し実践する状況を探り、そうした状況を踏まえて、今後の宿泊産業の長期的な課題や展望について考える。

専門学校穴吹ビジネスカレッジ　ホテル学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
ホスピタリティマインド	2	必	講義	15	ホテルにおけるホスピタリティを様々な事例をもとにグループでディスカッションして発表する。お客様をおもてなしする心を常に持つこと、お客様に喜んでもらうことが仕事のやりがいにつながっていくことを理解する。様々な場面の事例検討を繰り返すことで、相手の立場・気持ちを考えたおもてなしの考え方が身につく。また、ひとそれぞれの様々なおもてなしの形があることを理解し、おもてなしの心を考察する。
HRS基礎	1	必	講義	30	ホテル業務関連知識（ホテルマンの心得、ホテル知識、旅館業法、食品衛生、建築基準法、消防法等、マーケティング、マナー、危機管理、ホテルの歴史、外国語）、レストラン・宴会部門（料飲部門の概要、備品類、メニュー、西洋料理、レストランサービス、宴会サービス、サービス技術）、フロント・サービス部門（フロントサービス、ドアマン、ベルマン、クローク、ハウスキーピングの業務と役割）に関する基礎知識を学習し、ホテル実務技能認定試験初級の合格を目指す。

資料32　専門職短期大学と専門学校のカリキュラムの比較

せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
地域創生事業論	3	選必	講義	15	この授業では、地域創生事業の理論と実践について、特に中心商店街活性化による地域創生を事例として学ぶ。授業では、まず地域創生の実践において多くの地域が抱える一般的な諸課題を理解するとともに、地域経済の実態や地域行政組織の仕組みや役割について考察する。なお、地域行政組織の仕組みや役割については、学生が、授業全般に渡る主担当教員の実践的理論に加え、その基盤となる高度な学術的理論を学修することができるよう、学術系の兼任教員を補充して行う。そのうえで、次にそれらの課題を解決するための、地域創生の理論と方法を考察して、さらにそうした取り組みが地域にもたらす影響についての知識も修得する。具体的には、成功事例と評価される、実在する商店街の地域創生事業を題材として、その事業コンセプト、事業プロセス、事業の特長、などを理解したうえで、地域創生事業の結果として地域経済がいかに活性化し、また持続可能な観光振興が地域創生事業にいかに寄与するかについての仕組みを学修する。

専門学校穴吹ビジネスカレッジ　ホテル学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
HRS応用	2	必	講義	40	食材・飲料等の基礎知識（基礎食品、食品の分類別特徴、食品の貯蔵）、家畜（仔牛肉・子羊肉・豚肉の部位）、パスタ・チーズの種類、デザート、西洋料理調理法（魚・肉の調理表現）、基本的料理法、飲料の種類・特徴（ワインの分類、主要ブドウ品種、６大ワイン産地、各国ワイン特徴）、ワインの法律・分類・管理、スピリッツ（コニャック、ウイスキー）、コーヒー、紅茶、ミネラルウォーター、メニュー、西洋料理用具（ガラス容器、銀食器）、宴会の種類・内容、リネン、テーブルセッティング、客席案内、伝票処理、片づけ、食中毒、売上分析、国際習慣、国旗・服装・食文化、施設管理、苦情対応、遺失物の取扱い、食品衛生、公衆衛生、等の幅広く学習し、HRS技能検定3級の学科試験合格を目指す。
HRS実践	2	必	演習	20	サービストレイの取扱い、プレートの持ち方、ワイン抜栓、カクテルサービス、テーブルセッティング、テーブルナプキン、テーブルマナー、食前酒、オードブルとスープのサービス、ワイン・カクテルのサービス、魚・肉料理のサービス、オレンジのカービング、キウイのカービング、コーヒー・紅茶サービス、婚礼のナプキンの折り方、婚礼のテーブルセッティング。また、これらの技術を体得することでHRS技能検定3級の実技試験合格を目指す。
フード知識	1	必	講義	15	飲食店の形式、メニュー（メニューチラシを用いて料理内容を理解する）、料理人の仕事（料理を扱う心構えと衛生観念をつける）、厨房環境（調理器具、機器を知る）、だしについて（だしの種類やそれぞれの香りと味を体験して学ぶ）、食材理論（調味料、香辛料、肉類、魚介類、野菜、果物類、乳製品、油脂類、穀物類）、栄養学（６つの基礎食品表を用い栄養バランスを考える）、といった実際の飲食業の現場で必要とされる基礎知識を学習する。
料飲実習	1	必	演習	30	元気のよい挨拶、ホテルの挨拶、ホテルの身だしなみ、ホテル・レストランにおける立ち方、歩き方、お辞儀の仕方を身に付ける、接客時の言葉遣い、接客用語を身に付ける、レストラン・宴会部門の組織形態、レストラン・宴会で使用する什器備品の名前・形・使用シーン・取扱い方法、トレイの扱い、食器（プレート、シルバー、グラス等）の取り扱い、ナプキンの折り方、テーブルセッティング、テーブルマナーの基礎知識、皿の持ち方・運び方・提供の仕方、下げ方、プラッターサービス、スープサービス、水の注ぎ方、ビールの注ぎ方、ワインの注ぎ方、ランチタイムを想定したロールプレイング、ディナータイムを想定したロールプレイング、といった実物を使用しての演習を中心に行う。
宿泊実務	1	必	演習	15	ホテルの宿泊部門の主な構成と役割、フロント業務（フロントサービス、キャッシャー、インフォメーション）の実際と実技、ロビーサービス業務の実際と実技、ハウスキーピング業務（客室管理、清掃業務、ベッドメイク）の実際と実技、といった宿泊部門の具体的な業務の役割と機能、サービス内容の理解、及び実務の実践を行う。
バー・ビバレッジ知識	1	必	演習	20	酒類の定義（各定義に沿っての製造方法、各酒類の説明）、ワイン概論（ワインの歴史）、ワインの分類（醸造法によるワインの種類）、主要産地の特徴（ブドウ品種及び産地）、バーラウンジ概要（バーラウンジの役割と管理）、バーラウンジの基礎知識（備品の取扱い、酒類の管理）、バー・サービスの基本（オーダーテイク、接客法、カクテルの作り方、カクテルの種類と作成演習、カクテルレシピについて、その他の飲料について、といったホテル及びレストラン、バーにおけるビバレッジ（飲料）サービスについての知識、オペレーションについて学修する。

資料32　専門職短期大学と専門学校のカリキュラムの比較

せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
ホスピタリティ実務実習A	1	選必	実習	15	ホスピタリティ(歓待）の概念は、古来より互酬性、共生関係の中で存在していたが、産業化社会以降のビジネス経済の世界では、サービスの実施としてその捉え方にも変化が見られた。生活環境がグローバル化と多様化の時を迎えた中で、観光実務においても、ホスピタリティや日本的なもてなしの価値観をどのように実践・発揮するかが問われている。この授業は、コミュニケーション、基本的なソーシャルスキルといった人とのかかわり方が重要となる観光振興専門職においての参加型実務実習である。実習では、場面とスキル項目が設定され、段階的にわかりやすく学修でき、個人・グループ・チームで実習を繰り返すことで相互のフィードバックも得られる。ホスピタリティの知識や周辺概念の講義と共に、観光地での日常における来訪者（ゲスト）のもてなしや、接遇、接客スキルを発揮するための実践内容でもある。
ホスピタリティ実務実習B	1	選必	実習	15	この実習では、料飲業務の現場を事例として、高品質のホスピタリティを提供できる知識や技能を学び、チームで働く協働力を養い、率先して行動する実践力を身につける。ホスピタリティを基幹業務とするサービス業従事者の実務において求められる、正しい立ち居振る舞い、言葉遣い、マナー、プロトコル、サービス等を学んだ後、クレーム対応やチームでのサービスなど、臨地実務実習で想定されるさまざまなシーンへの対応についても学修する。個人・グループ・チームで実習を繰り返すことで相互のフィードバックも得られる。なお本実習は、ホスピタリティの知識と技能の修得を目的とするが、同時に、臨地実務実習の学修をより効果的なものとするための実習でもある。
ホスピタリティマネジメント論	1	必	講義	15	「ホスピタリティ」は、とくに事業経営において、1990年代から「サービス」に代わって使われる用語となり、また経営活動に不可欠な職業的行為やその仕組みとなった。このようなホスピタリティを管理・運営する「ホスピタリティマネジメント」は、観光事業において重要な経営施策であり、また観光専門職にとっても不可欠な能力・技能である。そこで、この授業では、「ホスピタリティ」の意味を理解したうえで、品質の高いホスピタリティを管理し提供するための「ホスピタリティマネジメント」を学修する。なお、授業は講義形式で展開する。

専門学校穴吹ビジネスカレッジ　ホテル学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
ブライダル知識	2	必	講義	10	挙式スタイル（キリスト教式、神前式、人前式）、披露宴（進行、スタッフの仕事、BGM）、ブライダルパートナー企業について、婚礼衣装、婚礼集客とセールス（ブライダルフェア）、ペーパーアイテム（招待状、席次表、席札、メニュー等）、結納の知識、慶斗の知識等を学習し、ブライダルの基礎知識を持ち、プランナーの仕事も理解できるスタッフとしての知識を修得する。
ホテル・ブライダルプランニングⅡ	2	必	演習	20	ブライダル学科と共同で行う「ブライダル・ホテルショー」の企画と準備。ショーに向けての動機付け、グループ分け、役割分担、テーマ決定、グループごとに企画打ち合わせ、企画書作成、開催会場との打ち合わせ、予算立て、学校でリハーサル、本番会場でリハーサル、本番実施。ホテル・ブライダルの料飲サービスの仕事を疑似体験し、ホテルスタッフとしてのブライダルに関わる仕事を理解する。また、グループで協力し、各個人が達成感を得られるものにする。
フードサービス論(衛生含)	2	必	講義	15	各国の料理（日本の四季の料理、フランス、イタリア、ドイツ、スイス、イギリス、スペイン、中国、韓国、台湾等）の特徴・歴史・代表的な料理を学習する。また、食品衛生の関連法規を学習する。
日本型コンシェルジュ論	2	必	講義	10	帝国ホテルのサービス、ホテルコンシェルジュの役割、プラン提案、課題となる事例を決める、プラン企画の基礎（企画書の必要項目、分析・提案）、企画書の作成（現状分析、事例検討、目的、コンセプト、材料集め、PowerPointで作成）、発表準備、プレゼン発表。課題解決のための現状分析と改善提案をプレゼンするカを養う。
マナープロトコール	1	必	講義	15	好印象を与えるコミュニケーション（第一印象の重要性、話の聴き方、挨拶、お辞儀、表情、自己紹介）、各国のマナー・エチケット・礼儀・作法の違い（社交の場、国旗の扱い、日本の礼儀・作法の成り立ち、西洋のマナー、プロトコールの原則）、異文化コミュニケーション、身だしなみと立ち居振る舞い、丁寧な言葉遣いの実践、ビジネスシーンのマナー（礼装の基準、喜ばれる贈答、名刺、電話対応、手紙、会社の仕組み、プロ意識、報連相）、ビジネス文書（ビジネス文書の基本マナー、電子メールのマナー）、食事のマナー（和食のマナー、和室の作法、西洋料理や各国料理のマナー、お酒の基礎知識とマナー）、通過儀礼と冠婚葬祭（日本の主な通過儀礼、婚・葬・祭のしきたり）に関する基礎知識を学習し、マナープロトコール検定３級の合格を目指す。
ビジネスマナーⅠ	1	必	演習	25	サービス接遇検定3級の出題範囲である、サービススタッフの資質（心構え、所作、身だしなみ）、専門知識、サービスの種類、一般知識、対人技能、実務技能に関して対策授業を行うことで、社会人として仕事をする際に必要な知識・接遇を身に付け、サービス従事者としての接客マナーを学習する。また、面接練習の概要と対策、履歴書作成のための自己棚卸と自己分析を行い就職活動に向けた準備を行う。
ビジネスマナーⅡ	2	必	演習	15	旅館に求めるもの、旅館スタッフの心構え、立ち居振る舞い、言葉遣い、お客様対応、フロントと客室、予約、客室コントロール、お客様到着準備、出迎え、チェックイン、お食事提供、滞在中の対応、就寝前準備、布団上げ、清算、チェックアウト、見送り、といった旅館におけるおもてなし業務を中心に日本の接遇を学ぶ。また、おもてなし検定初球の合格を目指す。

資料32　専門職短期大学と専門学校のカリキュラムの比較

せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
観光リスクマネジメント	1	必	講義	15	観光の3要素は安全性・経済性・快適性とされている。その中でも、最重要課題は「安全性」である。楽しみと危険は表裏の関係にあるが、例えば観光地で素晴らしい景色や美味しい料理を満喫しても、帰路で交通事故に遭ったらどうだろうか。その旅全体が暗いものとなってしまうことであろう。観光分野では、常に安全を最優先にした対応が求められる。つまり、観光業に携わる人材は、想定される危険（リスク）を極小化する努力を、常に行わなければならない。この授業では、安全とは何か、安全になるとはどういうことなのか、観光客を歓待するホストとして守るべきものは何かを学び、観光業に必要なリスクマネジメント能力を修得する。なお、授業は講義形式で展開する。
観光支援ビジネス実務基礎論	1	必	講義	8	この授業の目的は、「臨地実務実習Ⅰ」の学修をより効果的なものとするため、当実習の事前学修科目として、観光振興・地域創生の重要な実践主体である観光支援ビジネス施設の実務と、そのビジネス施設による観光振興・地域創生の実践とに関連する基本的な知識や技能を学修することにある。「臨地実務実習Ⅰ」の実習地域は、香川県内の①高松・東讃、②中讃、③西讃、④小豆島、⑤直島の５エリアであり、また実習施設は、それぞれのエリアに所在する観光支援ビジネス施設であるので、本授業はこの５エリアの観光および観光振興の現状と、各エリアの観光支援ビジネス施設の特徴などについて、講義やグループワーク、学生のプレゼンテーションなどの授業形式で学修する。
観光実務基礎論	2	必	講義	8	本授業の目的は、「臨地実務実習Ⅱ」の学びを円滑かつ効果的にするため、実習先の観光支援ビジネスの業務を想定して、あらかじめ身につけておくべき知識と技能を修得することにある。授業では、実習先の観光支援ビジネスのうち、交通、宿泊、観光地域創生について、各事業の歴史や特性、経営と課題、事業所の組織、部門別業務概要などの総括的知識にくわえ、それぞれの事業において近年特に重要性が増している地域観光振興への取り組みなどについても学修する。授業は主に講義形式で展開されるが、グループワーク、パワーポイントを使用した発表などの機会も設ける。また、「臨地実務実習Ⅱ」において体験することとなる部門別実務への予行演習として、観光支援ビジネス施設の各業務部門での具体的な職務手順や関連する専門知識などについて、ロールプレイも交えながら実践的に学修する。
観光実務応用論	2	必	講義	8	本授業の目的は、「臨地実務実習Ⅲ」の学びを円滑かつ効果的にするため、実習先の観光支援ビジネスの主にマネジメント業務を想定して、あらかじめ身につけておくべき知識と技能を修得することにある。授業では、実習先の観光支援ビジネスのうち、交通、宿泊、観光地域創生について、事業体の経営理念、各事業のマネジメントとその課題などの総合的知識にくわえ、それぞれの事業において重要性が増している地域観光振興への理念や実践管理などについても学修する。授業は主に講義形式で展開されるが、グループワーク、パワーポイントを使用した発表などの機会も設ける。また、「臨地実務実習Ⅲ」において体験することとなる部門別実務への予行演習として、観光支援ビジネス施設の各業務部門での具体的なマネジメント手法や関連する専門知識などについて、ケーススタディも交えながら実践的に学修する。
臨地実務実習Ⅰ	1	必	実習	3週	この実習は、観光をさまざまな形態で支援する地域の交通、宿泊、その他の観光関連諸施設において、各施設の実務を体得し、また同時に各施設がその立地する地域の観光振興・地域創生とどのように連携しているかを実践的に学ぶ。実習先の施設は、本学が定める香川県内の①高松・東讃、②中讃、③西讃、④小豆島、⑤直島の５エリアにおいて観光支援ビジネスに従事する各施設である。各施設での実習を通して、それぞれの実務を身につけると同時に、その施設の事業が当地域の観光振興・地域創生事業といかに関係し、また他の諸施設といかに連携しているか、といった地域の観光振興・地域創生にかかわる状況を理解する。
臨地実務実習Ⅱ	2	必	実習	6週	この実習では、観光支援ビジネスで高い実績をあげ地域の観光振興にも寄与する事業体を実習先として、観光支援ビジネスの現場のフロントラインからバックヤードまで、基礎的な実務を実践的に学修する。具体的には、各事業体が従事する基礎的実務、つまり「覚えて遂行する実務」と、業務や地域観光振興・地域連携業務にかかわる基礎知識を修得する。実習先となる観光支援ビジネスの事業体は、①航空、②鉄道、③宿泊、④観光地域創生という４分野のクラスに分けられる。この４クラスの中から学生は自身で実習先となる事業体を選択して、観光支援ビジネスの基礎的実務の実習を行い、思考力、実践力、協働力を実践的に身につける。本実習は、学生各自が実社会の現場における実際の活動に身を置いて学ぶので、普段よりいっそうの真摯な学修態度が求められる。

専門学校穴吹ビジネスカレッジ　ホテル学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
インターンシップⅠ	1	必	実習	8週	関西のシティホテルにてインターンシップを行う。前半4週間と後半4週間でホテル内のセクションを変える。主に料飲部門（レストラン・カフェ・宴会）、宿泊部門（ハウスキーピング）、フロント部門（ドアマン、ベルマン、クローク）の中から２つの業務を各4週間のインターンシップを行う。各セクションで実習指導者がつき、日々の基本的な業務を理解し実行できるようにする。この半年間で学んだことを現場で活用することで今後の学習意欲向上につなげる。また、県外への就職を考えてる学生にとって、親元を離れ一人暮らしをすることで、仕事と生活の大変さを体験する機会となる。

資料32　専門職短期大学と専門学校のカリキュラムの比較

せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
臨地実務実習Ⅲ	2	必	実習	6週	この実習では、観光支援ビジネスで高い実績をあげ地域の観光振興にも寄与する施設を実習先として、観光支援ビジネスの現場とオフィスにおいて、基礎的実務にくわえ、高度な応用的実務も実践的に学修する。具体的には、「臨地実務実習Ⅱ」で学修した基礎的実務とともに、各事業体における応用的実務、つまり「考えて実践する実務・計画して実践する実務」と、業務や地域観光振興・地域連携にかかわるマーケティングやマネジメントなどの応用的知識を修得する。実習先となる観光支援ビジネスの事業体により、①航空、②鉄道、③宿泊、④観光地域創生という４分野のクラスに分けられる。この４クラスの中から学生は自身で施設を選択して実習を行い、思考力、実践力、協働力を実践的に身につける。本実習は、学生各自が実社会の現場における実際の活動に身を置いて学ぶので、普段よりいっそうの真摯な学修態度が求められる。
観光支援ビジネス実務発展論	1	必	講義	8	この授業は、「臨地実務実習Ⅰ」の学修成果を振り返り、その効果を理論的に整理して自身の能力に定着させ、さらに今後の学修全体に体系的につなげることを目的とする。振り返りのポイントは３つある。第一に、実習施設で実践的に学んだ観光支援ビジネス実務に関する理解度を確認する。第二に、当該実習施設で体得した各自の学修の成果と課題を自身で再検討する。そして第三に、学生各自が各エリアにおける各施設の実習で体得した観光支援ビジネスの状況について、エリアごとにグループ内で情報を交換しながら各エリアの観光振興・地域創生の全体像を統合する。授業は、講義にくわえて、グループワークやプレゼンテーションなどの授業形式によって進められる。
観光実務発展論	2	必	講義	8	本授業では、「臨地実務実習Ⅱ」における実践的学修の成果を、理論的に整理しながら今後の学びに有機的につなげることを目的として、主に実習の各ステップにおける学びの振り返りを行う。振り返りのポイントは４つある。第一に、「臨地実務実習Ⅱ」での各自の実践的学修の成果と課題を確認する。第二に、「臨地実務実習Ⅱ」における観光支援ビジネスの基本実務について、各自の理解度を確認する。第三に、観光支援ビジネス全般にかかわる事業特性と業務の課題などについて、ケーススタディで理解を深める。そして第四に、観光支援ビジネスの事業体が、その立地する地域の観光振興にどのような活動をしているかを確認する。なおこの授業は、講義とともに、グループワークやプレゼンテーションによって行われる。
観光実務マネジメント論	3	必	講義	8	本授業では、「臨地実務実習Ⅲ」における実践的学修の成果を、理論的に整理しながら今後の学びに有機的につなげることを目的として、主に実習の各ステップにおける学びの振り返りを行う。振り返りのポイントは４つある。第一に、「臨地実務実習Ⅲ」での各自の実践的学修の成果と課題を確認する。第二に、「臨地実務実習Ⅲ」における観光支援ビジネスの基本実務と発展実務について、各自の理解度を確認する。第三に、観光支援ビジネス全般にかかわる事業特性と経営管理の課題などについて、ケーススタディによって理解を深める。そして第四に、観光支援ビジネスのマネジメントにおいて、観光振興やインバウンド観光の事業がいかに位置づけられているかを理解する。なおこの授業は、講義とともに、グループワークやプレゼンテーションによって行われる。
観光基礎英語Ⅰ	1	必	演習	15	一般英語の修得を基本としつつ、ESP（English for Specific Purposes、特定目的のための英語）と呼ばれる領域の一つである観光英語においてよく用いられる英語表現を修得し、これを活用する能力を伸ばすことを主目標とする。今日、海外に出かける日本人が増加し、日本に観光目的でやってくる外国人の数も増えているが、いずれの場合においても英語でコミュニケーションが行われる場合が多く、そこにはおのずと典型的に用いられる英語表現や定型表現が見られる。本授業では、これらの表現を中心に、観光英語に慣れ親しむことを目指し、教科書及びCD等の補助教材を用いた演習形式による学修を展開する。授業の進行は、教科書の構成に従い、課を追って進めることを基本とする。
観光基礎英語Ⅱ	1	必	演習	15	「観光基礎英語Ⅰ」の学修をもとに、観光分野において用いられる英語表現を幅広く学び、これを活用する能力を一層伸ばすことを主目標とする。各々の場面・文脈において用いられる英語表現には一定の定型表現があるが、その幅は、比較的限定されたものから、豊かなヴァリエーションを持つものまでさまざまであり、これらのヴァリエーションに親しむとともに、類似する場面にも対応できる応用力の修得を目指す。授業は、教科書及びCD等を用いた演習形式による学修を中心とし、適宜、応用的場面を織り込み、そうした場面に対応するにはどのような表現を用いれば良いかといった課題について、ペアやグループで討議するなど、コミュニケーション活動に展開していく。教科書は課を追って進めることを基本とする。

専門学校穴吹ビジネスカレッジ　ホテル学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
インターンシップⅡ	2	必	実習	6週	本人の希望を元に、リゾートホテルもしくは旅館のどちらかでインターンシップを行う。前半3週間と後半3週間でホテル内のセクションを変える。主に料飲部門（レストラン・カフェ・宴会）、宿泊部門（ハウスキーピング）、フロント部門（ドアマン、ベルマン、クローク）の中から２つの業務を各3週間のインターンシップを行う。各セクションで実習指導者がつき、日々の基本的な業務を理解し実行できるようにする。1年次に行ったシティホテルでのインターンシップの経験を活かし、シティホテルとはまた違った、家族客や友人グループの客、レジャーの色がより強いリゾートホテルや旅館でのおもてなしを学ぶ。
英会話Ⅰ	1	必	演習	50	英語で自己紹介、レストラン業務に関わる英会話（席に案内する、オーダーテイク、レストランでの会計、レストランの予約を受ける）、バンケット業務に関わる英会話（館内の案内、クローク対応）、フロント・宿泊業務に関わる英会話（お部屋への案内と説明、観光案内、チェックイン、チェックアウト、モーニングコール、天気予報のお知らせ、両替・郵便物、電話番号調べの依頼を受ける、宿泊予約の受付、とっさの対応）といった様々なシーンでのキーフレーズを暗記する。また英語でリスニングのトレーニングを行う。
英会話Ⅱ	2	必	演習	45	英会話Ⅰで学習した内容と同様の内容で、より多くのシーンを想定し、より長いセンテンスのキーフレーズを覚える。様々なシーンを想定しロールプレイングをし、自然に言葉が出てくるように何回も繰り返す。

資料32　専門職短期大学と専門学校のカリキュラムの比較

せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
観光英語Ⅰ	1	選	演習	15	観光英語では「読む・書く・聴く・話す」技能が重要である。特に、この4つの技能の中でも、言語が確立していく出発点は「聴く」能力である。本授業では、「観光基礎英語Ⅰ」及び「観光基礎英語Ⅱ」で修得した英語力をもとに、聴くトレーニングを中心に徹底的に学修し、「聴く」能力を向上させることで、英語を通してより高度なコミュニケーションができる力を身に付ける。主な学修方法としては、「単語・句・文」を繰り返し聴き、その後、声を出してシャドーイング練習をする。次に、ある程度の長さの文章をシャドーイング練習することにより、集中力を養うと同時にリスニング力を向上させる。
観光英語Ⅱ	2	選	演習	15	「観光英語Ⅰ」の場合と同様に「単語・句・文」を繰り返し聴き、シャドーイング練習をするが、より高度なレベルの内容となる。聞き取れない部分は、発音とその前後の意味や内容から推測し、リスニングをする。こうしたシャドーイング練習を繰り返すことにより、集中力をさらに高め、英文を聴きながら推測し理解する能力を身に付ける。これは日本人が日本語を聴くときに無意識のうちに行っている作業である。カラオケ上達方法と同様に、シャドーイングの技能の向上はトレーニングしかなく、それに費やした時間で決まる。言い換えればシャドーイングの日常化で決まる。なお本授業の履修には、「観光英語Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。
観光英語Ⅲ	2	選	演習	15	通訳案内士は日本の歴史・文化・地理・アートその他様々なことについて語らなければならないが、同時にニュースにも精通していなければならない。そこでこの授業は、英語ニュースを教材にして授業を進めていく。まずは優しい内容のニュースを繰り返し聴き、その内容のアウトラインを英語で述べる。次にニュース内容をディクテーションし、聴こえない部分と聴き間違えた部分を学生自身に気づかせる。同時に「発音と意味内容の両方から聴き取れない部分を推測する」ことの重要性に気付かせ、実践させる。ニュース内で用いられた単語のテストも実施する。なお本授業の履修には、「観光英語Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。
観光英語Ⅳ	3	選	演習	15	「観光英語Ⅲ」より単語・構文・内容ともにレベルが高い英語ニュースを教材にする。学生は繰り返し聴き、内容のアウトラインを英語で説明し、ニュース内容をディクテーションする。内容を理解できた段階で、その内容についてどう思うかといった、感想・意見等のコメントを各自述べる。このとき他の学生は、発表する学生のコメント内容をよく聴く。これらを繰り返すことで、他人の話を聴きながら自分の意見を考え、述べることができるように訓練する。ニュース内で用いられた単語のテストも実施する。なお本授業の履修には、「観光英語Ⅲ」を履修済みであることが望ましい。
経営学	2	必	講義	15	現代社会において欠かすことのできない「企業」とは、どのような存在か？そして、この「企業」を対象とする社会科学である経営学は、どのようにして生まれ、そして発展してきたのか？この授業では、経営学の基礎を講義するとともに、企業の目標、存在意義を検討するとともに、誰が「企業」を経営し、それを監視・監督するのかという企業統治の問題と、「企業」は誰に対して社会的責任を負っているのかを明らかにする。
中小企業論	3	選必	講義	15	日本の中小企業は企業全体の99.7%を占めるにもかかわらず、中小企業の実態については十分な理解がされていない。一方、ベンチャー企業はイノベーションを実用化することにより雇用の創出となり、日本の経済・産業の発展に貢献する。本講義では、日本の経済・産業における中小企業の位置づけと役割、さらに中小企業の特徴、ベンチャーや起業の実態についての現状を学修する。中小企業に関する理論と実態を理解し、中小企業の今後の動向を探る。授業は毎回１テーマを取上げ、レジュメに基づき進める。講義形式を基本とし、必要に応じて議論を交える。
コミュニティデザイン論	3	選必	講義	15	コミュニティデザインとは、ある地域やコミュニティのなかで、人と人のつながり方やその仕組みをデザインすることである。別の言い方をすれば、地域の課題解決に向けたコミュニティの主体づくり、ともいえる。まちづくりや地域振興をめぐる社会的状況は刻々と変化しており、コミュニティデザインという概念や取り組み自体も、そうした社会的な動きとリンクしながら浸透してきている。この授業では、講義形式での学修を中心に、コミュニティデザインの理念や歴史的な経緯を把握したうえで、一部グループワーク等を通じて、コミュニティデザインで求められるファシリテーションやチームづくりについて学びを深めていく。

専門学校穴吹ビジネスカレッジ　ホテル学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
英会話Ⅲ	2	必	演習	30	英会話Ⅱの復習もしながら、より複雑で長いセンテンスにも挑戦していく。外国人講師とのリスニングとスピーキングによって、外国人とコミュニケーションをとることに対して慣れるとともに、「聴く力」と「話す力」に重点を置いた英会話力を伸ばしていく。
接客中国語Ⅰ	1	必	演習	15	中国概況、中国語の特徴、中国語の発音（発音の声調、短母音、子音、複合母音、鼻母音、発音のルール）、中国語文法の特徴、基本文法、日常フレーズ（数字、年月日）、全業種共通接客フレーズ（お客様を迎える言葉、よく言うひとこと、レジに案内する、電話対応、お客様を見送る、忘れ物の対応）、飲食業の接客フレーズ（レストランで席への案内、レストランのシステムを説明する、注文を受ける、特別な配慮をする、料理を運ぶ・下げる）、事例練習（ファーストフード店、カフェ、和食店、居酒屋、バー）、といった中国語の基礎を学び、よく使うフレーズっは使えるようにする。
接客中国語Ⅱ	2	必	演習	30	接客中国語Ⅰで学習した内容と同様の内容で、より多くのシーンを想定し、より長いセンテンスのキーフレーズを覚える。様々なシーンを想定しロールプレイングをし、自然に言葉が出てくるように何回も繰り返す。

資料32　専門職短期大学と専門学校のカリキュラムの比較

せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
マーケティング論	3	選必	講義	15	この授業は、マーケティングの基礎的な概念や理論枠組みを理解し、それらの知識を活用できるようになることを目的とする。そのために、企業と市場との関係やマーケティング意思決定に関して特に焦点を当てる。授業計画としては、企業と市場との関係について5回分、マーケティング意思決定について8回分、マーケティングの応用領域について2回分という配分で講義を行う。応用領域では、国際マーケティングやサービスマーケティングに関する説明を行う。また、授業は基本的に講義の形式をとるが、理解促進のためにグループワーク等も行う。
起業論	3	選必	講義	15	本講義は、ベンチャー・ビジネス（VB）の現状と展望、および起業のために不可欠な知識や能力などについて、政策立案者の立場やベンチャー・ビジネス実践の視点から概説する。VBの現状と展望については、ベンチャー企業の特性、起業の環境や制度、地域振興、グローバル競争に勝つ方策等が分析され、その分析を踏まえて、自身の起業や社内起業のビジネスプラン作成に必要な企画能力や、科学技術政策、産業政策、資金調達、知的資産の権利化（特許等）、ベンチャーキャピタルなどの基礎知識を学修する。この授業は、アクティブ・ラーニングによって、教員ー学生間の双方向学修で進められる。
ファシリテーション実習	3	必	実習	15	ますます多様化する顧客のニーズを満たし、激しい競争の中で生き残っていくためには、人材を育て、組織を活性化していくための手法が必要である. 時代の変化とともに、リーダーシップのスタイルも変容してきた. 指示、命令するトップダウン型のリーダーシップのスタイルに加え、チームメンバーから意見を引き出し、コンセンサスを取る「ファシリテーション型リーダー」が求められている. 本実習では、相手の思考と行動を促すコミュニケーションスキル「コーチング」と、チーム活動や会議運営を促進する「ファシリテーション」について学び、組織を活性化するための人材戦略の上でどのように活用すべきかを実践的に学ぶ. 同じ学修目標を共有する「チーム活動」として、ファシリテーション実践の場としたい。
ＩＣＴとＩｏＴ	3	必	講義	15	コンピューターの進歩、インターネット環境や通信技術の発展により、現在ICT（情報通信技術）は至る所で利用されており、生活するうえで欠かせない存在となっている。このような状況の中で、ICTに関する知識を修得することの重要性は年々高くなっており、さらに今後は、情報サービスの価値向上に向けて、IoT（Internet of Things）の活用も必要となる。こうした流れを踏まえ、本講義では、学生がセルフサービスを活用し情報サービスを構築できるよう、ICTとIoTの基礎知識、ICTとIoTのAPI（Application Programming Interface）に関する知識、APIを利用するための最低限のプログラミングの知識を学ぶ。
人工知能概論	3	必	講義	15	人工知能（AI：Artificial Inteligence）の研究は1950年代から続いているが、現在は第三次人工知能ブームと言われ、新聞やニュースなどでも人工知能に関する話題を見聞きする機会が増えた。本講義ではまず、人工知能とは何か、人工知能にはどのような歴史があるのかについて述べる。その後、人工知能に関する基礎知識や実現するための仕組みについて概観する。また、ビジネスの現場で人工知能はどのように導入されているのか、人工知能をどのように活用すべきか、今後人工知能の進化が社会にどのような影響を及ぼすのかなどについても俯瞰する。授業は原則、講義形式で実施するが、人工知能に関するテーマについてグループ内で議論し、それを報告する機会も設ける。
ＩＣＴ実習	3	必	実習	15	我々が日々接する情報サービスは、インターネットなどICT（情報通信技術）の活用を前提に作られている。近年では、エンドユーザー自身の手によって情報サービスを構築する「セルフサービス」が注目されており、ICTやIoT（Internet of Things）のAPI（Application Programming Interface）を組み合わせる（マッシュアップ）ことで、ICTとIoTの専門知識をもたないエンドユーザーであっても、情報サービスを高速に開発できるようになってきた。本実習は、講義科目「ICTとIoT」で学修した知識を実践することにより、知識の定着・深化を図るとともに、実際にセルフサービスを活用し情報サービスを構築できる力を身につける。具体的には、ICTとIoTのAPIを活用した情報サービスを企画・設計・開発する一連の過程を実践で学ぶ。
人工知能プログラミング実習	3	必	実習	15	人工知能（AI：Artificial Inteligence）は今、第三次ブームを迎えており、新聞やニュースなどを通じて、人工知能に関する話題を日々見聞きするようになった。人工知能は、身近な家電や各種サービスにも導入されつつあり、さまざまな分野への応用や、人口知能を活用した新しいビジネスの創出などが期待されている。本実習ではまず、人工知能を実装するためのプログラミング言語のひとつであるPtyhon（パイソン）を利用して、基礎的なプログラミング方法（条件分岐と繰り返し、関数）について学ぶ。そして、回帰と分類、クラスタリングといった統計的機械学習の基礎概念を学んだ後、簡単なデータ分析を通じて人工知能プログラミングの活用方法を身につける。なお本授業の履修には、「人工知能概論」を履修済みであることが望ましい。

専門学校穴吹ビジネスカレッジ　ホテル学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
サービス介助士	1	必	講義	15	サービス介助士の意義、基本理念、高齢社会の理解、高齢者への理解、障がい者への理解、障がい者の自立支援、ホスピタリティ・マインド、サービス介助士の接遇、といった内容を学習する。ホテル・レストラン棟のサービス業で、高齢者や障がい者の手伝いができるスタッフになるため、准サービス介助士の取得を目指す。また、おもてなしの心と介助技術を学ぶことで普段の生活の中でも学んだことを生かして積極的に関わることができる。

資料32　専門職短期大学と専門学校のカリキュラムの比較

せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
マップデザイン実習	3	必	実習	15	近年、スマートフォンなどのデジタル機器が普及したこともあり、Google Mapsをはじめとして地図が身近な存在となっている。また、企業や行政などのさまざまな組織の現場においても、地図の作成やデジタルマップの利用が重要となっている。この授業は、基本的な地図の作成やその表現方法を身につけ、目的に応じて地図を作成できる手法の修得を目的とする。実習では、Adobe Illustratorを用いてベースマップのトレースや地図表現の方法といった基本的な製図法に習熟し、そのうえで課題の発見や地図の作成目的などの設定操作の方法を修得する。その際には、教員の指定した地域を対象とし、その地域の課題に応じた地図を作成することとする。
メディアコンテンツ実習	3	必	実習	15	この実習は、メディアコンテンツが展開する実相やそれに伴う課題について、調査研究を通して体験的に理解を深めるものである。近年、紙媒体の漫画作品がアニメ化されたり、実写ドラマ化されたり、さらにそれが映画化されたりするなど、メディアコンテンツの積極的な展開が目立っている。また、一つの作品が他言語に吹替えられたり、設定や物語の一部に改変が加えられたりして他国で受容されるのも、コンテンツ展開の一側面である。このように、生み出された作品がそれだけで完結せず、さまざまなメディアや文化を越えて広まっていく状況について、学生各自が題材を選びながら追試することで、コンテンツの流通について知見を深めることを本実習の目的とする。実習準備でメディアコンテンツの流通について体験的に学び、実習では学生自らが任意のコンテンツを選び、その展開について調査をし、プレゼンテーションおよびディスカッションを行う。
専門演習	3	必	演習	30	この演習は、これまでに観光振興専門職を目指して学んだ全科目および、この演習と同時に学んでいる全科目との学修成果を、学生自身で総括する目的を持つ。学生は、「観光地研究」という統一テーマについて、担当教員による指導の下で、演習クラスの他の学生と協力しながら調査研究する。この演習のフィールドワークやワークショップを通して、観光振興専門職にとって不可欠となる、新たな課題を自ら発見する力、その課題を主体的に探究する力、課題に協働で取り組む力、課題を解決する力を身につける。また本演習では、生涯に渡るキャリア形成の一助となり、本学が推薦する「キャリア形成必読書」のうち、教員が指定する職業専門科目関連の書籍2冊の読み方を身につける。

専門学校穴吹ビジネスカレッジ　ホテル学科					
科目名	年次	必修選択	授業形態	授業回数	講義等の内容
茶道	2	必	演習	15	客の作法と道具（茶の飲み方、お菓子の食べ方、茶室に入る時の約束事、道具について）、盆略手前の割稽古（茶筅のふり方、茶巾のたたみ方、茶碗をふく、帛紗のさばき方、茶を点てる）、盆略手前の通し稽古、薄茶平手前（順序を理解する、運びの練習、稽古、茶を点て客になる、茶会形式、亭主と客に分かれて茶会形式で実践）。日本人が守り続けてきた茶道という伝統文化を通じて、人を敬う心、心配りの大切さを身に付ける。また自分の身体の振る舞いを大切にし、きれいな所作を身に付ける。

資料33 学年暦

令和3年度　せとうち観光専門職短期大学学年暦

授業日

土・日・祝・休業日

定期試験

授業時間					
1	9:00～10:30	4	14:40～16:10		
2	10:40～12:10	5	16:20～17:50		
3	13:00～14:30				

4　月			5　月			6　月			7　月			8　月			9　月			10　月			11　月			12　月			1　月			2　月			3　月		
1	木	前期(①②)開始	1	土		1	火	①－8週	1	木	②－3週	1	日		1	水		1	金	後期(③④)開始 ③－1週	1	月	③－4週	1	水	第3Q定期試験	1	土	元日	1	火	④－7週	1	火	
2	金	入学式 オリエンテーション	2	日		2	水	①－8週	2	金	②－3週	2	月	②－7週	2	木		2	土		2	火	③－5週	2	木	第3Q定期試験	2	日		2	水	④－7週	2	水	
3	土	履修ガイダンス 健康診断	3	月	憲法記念日	3	木	①－8週	3	土		3	火	②－8週	3	金		3	日		3	水	文化の日	3	金	第3Q定期試験	3	月		3	木	④－7週	3	木	
4	日		4	火	みどりの日	4	金	①－8週	4	日		4	水	②－8週	4	土		4	月	③－1週	4	木	③－5週	4	土		4	火		4	金	④－7週	4	金	
5	月	①－1週	5	水	こどもの日	5	土		5	月	②－4週	5	木	②－8週	5	日		5	火	③－1週	5	金	③－6週	5	日		5	水		5	土	臨地実務実習Ⅱクラス 選択希望提出日	5	土	
6	火	①－1週	6	木	①－4週	6	日		6	火	②－4週	6	金	②－8週	6	月		6	水	③－1週	6	土		6	月	④－1週	6	木		6	日	一般選抜入試	6	日	
7	水	①－1週	7	金	①－5週	7	月	第1Q定期試験	7	水	②－4週	7	土		7	火		7	木	③－1週	7	日		7	火	④－1週	7	金	冬季休業終了	7	月	④－7週	7	月	
8	木	①－1週	8	土		8	火	第1Q定期試験	8	木	②－4週	8	日		8	水		8	金	③－2週	8	月	③－5週	8	水	④－1週	8	土		8	火	④－8週	8	火	
9	金	①－1週	9	日		9	水	第1Q定期試験	9	金	②－4週	9	月	②－8週	9	木		9	土		9	火	③－6週	9	木	④－1週	9	日		9	水	④－8週	9	水	
10	土		10	月	①－5週	10	木	定期試験予備日	10	土		10	火	第2Q定期試験	10	金		10	日		10	水	③－5週	10	金	④－1週	10	月	成人の日	10	木	④－8週	10	木	
11	日		11	火	①－5週	11	金	履修ガイダンス	11	日		11	水	山の日	11	土		11	月	スポーツの日	11	木	③－6週	11	土	履修登録期限 履修登録確認	11	火	④－4週	11	金	建国記念の日	11	金	
12	月	①－2週	12	水	①－5週	12	土		12	月	②－5週	12	木	第2Q定期試験	12	日		12	火	③－2週	12	金	③－7週	12	日		12	水	④－4週	12	土		12	土	
13	火	①－2週	13	木	①－5週	13	日		13	火	②－5週	13	金	第2Q定期試験	13	月		13	水	③－2週	13	土	公募推薦入試	13	月	④－2週	13	木	④－4週	13	日		13	日	一般選抜入試
14	水	①－2週	14	金	①－6週	14	月	②－1週	14	水	②－5週	14	土		14	火		14	木	③－2週	14	日	公募推薦入試	14	火	④－2週	14	金	④－4週	14	月	④－8週	14	月	
15	木	①－2週	15	土		15	火	②－1週	15	木	②－5週	15	日		15	水		15	金	③－3週	15	月	③－6週	15	水	④－2週	15	土		15	火	④－8週	15	火	
16	金	①－2週	16	日		16	水	②－1週	16	金	②－5週	16	月	定期試験予備日	16	木		16	土		16	火	③－7週	16	木	④－2週	16	日		16	水	第4Q定期試験	16	水	
17	土		17	月	①－6週	17	木	②－1週	17	土		17	火	夏季休業開始	17	金		17	日	指定校推薦入試	17	水	③－6週	17	金	④－2週	17	月	④－4週	17	木	第4Q定期試験	17	木	
18	日		18	火	①－6週	18	金	②－1週	18	日		18	水		18	土		18	月	③－2週	18	木	③－7週	18	土		18	火	④－5週	18	金	第4Q定期試験	18	金	
19	月	①－3週	19	水	①－6週	19	土		19	月	海の日	19	木		19	日	総合型選抜入試開始	19	火	③－3週	19	金	③－7週（水曜日授業）	19	日		19	水	④－5週	19	土		19	土	
20	火	①－3週	20	木	①－6週	20	日		20	火	②－6週	20	金		20	月	敬老の日	20	水	③－3週	20	土	履修ガイダンス	20	月	④－3週	20	木	④－5週	20	日	一般選抜入試	20	日	
21	水	①－3週	21	金	①－7週	21	月	②－2週	21	水	②－6週	21	土		21	火		21	木	③－3週	21	日		21	火	④－3週	21	金	④－5週	21	月	春季休業開始	21	月	春分の日
22	木	①－3週	22	土		22	火	②－2週	22	木	②－6週	22	日		22	水		22	金	③－4週	22	月	③－7週	22	水	④－3週	22	土		22	火		22	火	
23	金	①－3週	23	日		23	水	②－2週	23	金	②－6週	23	月		23	木	秋分の日	23	土		23	火	勤労感謝の日	23	木	④－3週	23	日		23	水	天皇誕生日	23	水	
24	土	臨地実務実習Ⅰクラス 選択希望提出日	24	月	①－7週	24	木	②－2週	24	土		24	火		24	金		24	日		24	水	③－8週	24	金	④－3週	24	月	④－5週	24	木		24	木	
25	日		25	火	①－7週	25	金	②－2週	25	日		25	水		25	土		25	月	③－3週	25	木	③－8週	25	土		25	火	④－6週	25	金		25	金	
26	月	①－4週	26	水	①－7週	26	土		26	月	②－6週	26	木		26	日		26	火	③－4週	26	金	③－8週	26	日		26	水	④－6週	26	土		26	土	
27	火	①－4週	27	木	①－7週	27	日		27	火	②－7週	27	金		27	月		27	水	③－4週	27	土		27	月	授業予備日	27	木	④－6週	27	日		27	日	
28	水	①－4週	28	金	授業予備日	28	月	②－3週	28	水	②－7週	28	土		28	火	履修ガイダンス	28	木	③－4週	28	日		28	火	授業予備日	28	金	④－6週	28	月		28	月	
29	木	昭和の日	29	土		29	火	②－3週	29	木	②－7週	29	日		29	水		29	金	③－5週	29	月	③－8週	29	水	冬季休業開始	29	土					29	火	
30	金	①－4週	30	日		30	水	②－3週	30	金	②－7週	30	月		30	水	夏季休業終了	30	土		30	火	③－8週	30	木		30	日					30	水	
			31	月	①－8週				31	土		31	火					31	日					31	金		31	月	④－6週				31	木	春季休業終了 後期(③④)終了

随時、履修相談会

随時、履修相談

資料33 学年暦

令和4年度　せとうち観光専門職短期大学学年暦

授業日

土・日・祝・休業日

定期試験

授業時間					
1	9:00～10:30	4	14:40～16:10		
2	10:40～12:10	5	16:20～17:50		
3	13:00～14:30				

4　月			5　月			6　月			7　月			8　月			9　月			10　月			11　月			12　月			1　月			2　月			3　月		
1	金	前期(①②)開始	1	日		1	水	①－8週	1	金	②－3週	1	月	②－7週	1	木		1	土	後期(③④)開始	1	火	③－5週	1	木	第3Q定期試験	1	日	元日	1	水	④－7週	1	水	
2	土	入学式 オリエンテーション	2	月		2	木	①－8週	2	土		2	火	②－8週	2	金		2	日		2	水	③－5週	2	金	第3Q定期試験	2	月		2	木	④－7週	2	木	
3	日	履修ガイダンス 健康診断	3	火	憲法記念日	3	金	①－8週	3	日		3	水	②－8週	3	土		3	月	③－1週	3	木	文化の日	3	土		3	火		3	金	④－7週	3	金	
4	月	①－1週	4	水	みどりの日	4	土		4	月	②－4週	4	木	②－8週	4	日		4	火	③－1週	4	金	③－5週	4	日		4	水		4	土	臨地実務実習Ⅱクラス 選択希望提出日	4	土	
5	火	①－1週	5	木	こどもの日	5	日		5	火	②－4週	5	金	②－8週	5	月		5	水	③－1週	5	土		5	月	第3Q定期試験	5	木		5	日	一般選抜入試	5	日	
6	水	①－1週	6	金	①－4週	6	月	第1Q定期試験	6	水	②－4週	6	土		6	火		6	木	③－1週	6	日		6	火	④－1週	6	金		6	月	④－7週	6	月	
7	木	①－1週	7	土		7	火	第1Q定期試験	7	木	②－4週	7	日		7	水		7	金	③－1週	7	月	③－5週	7	水	④－1週	7	土	冬季休業終了	7	火	④－8週	7	火	
8	金	①－1週	8	日		8	水	第1Q定期試験	8	金	②－4週	8	月	②－8週	8	木		8	土	履修登録期限 履修登録確認	8	火	③－6週	8	木	④－1週	8	日		8	水	④－8週	8	水	
9	土		9	月	①－5週	9	木	定期試験予備日	9	土		9	火	第2Q定期試験	9	金		9	日		9	水	③－6週	9	金	④－1週	9	月	成人の日	9	木	④－8週	9	木	
10	日		10	火	①－5週	10	金	履修ガイダンス	10	日		10	水	第2Q定期試験	10	土		10	月	スポーツの日	10	木	③－5週	10	土		10	火	④－4週	10	金	④－8週	10	金	
11	月	①－2週	11	水	①－5週	11	土		11	月	②－5週	11	木	山の日	11	日		11	火	③－2週	11	金	③－6週	11	日	履修登録期限 履修登録確認	11	水	④－4週	11	土	建国記念の日	11	土	
12	火	①－2週	12	木	①－5週	12	日		12	火	②－5週	12	金	第2Q定期試験	12	月		12	水	③－2週	12	土	公募推薦入試	12	月	④－1週	12	木	④－4週	12	日		12	日	
13	水	①－2週	13	金	①－5週	13	月	②－1週	13	水	②－5週	13	土	臨地実務実習Ⅲクラス 選択希望提出日	13	火		13	木	③－2週	13	日	公募推薦入試	13	火	④－2週	13	金	④－4週	13	月	④－8週	13	月	一般選抜入試
14	木	①－2週	14	土		14	火	②－1週	14	木	②－5週	14	日		14	水		14	金	③－2週	14	月	③－6週	14	水	④－2週	14	土		14	火	第4Q定期試験	14	火	
15	金	①－2週	15	日	コース選択オリエン テーション	15	水	②－1週	15	金	②－5週	15	月	定期試験予備日	15	木		15	土		15	火	③－7週	15	木	④－2週	15	日		15	水	第4Q定期試験	15	水	
16	土		16	月	①－6週	16	木	②－1週	16	土		16	火	定期試験予備日	16	金		16	日	指定校推薦入試	16	水	③－7週	16	金	④－2週	16	月	④－4週	16	木	第4Q定期試験	16	木	
17	日		17	火	①－6週	17	金	②－1週	17	日		17	水	夏季休業開始	17	土		17	月	③－2週	17	木	③－6週	17	土		17	火	④－5週	17	金	春季休業開始	17	金	
18	月	①－3週	18	水	①－6週	18	土		18	月	海の日	18	木		18	日	総合型選抜入試開始	18	火	③－3週	18	金	③－7週	18	日		18	水	④－5週	18	土		18	土	
19	火	①－3週	19	木	①－6週	19	日		19	火	②－6週	19	金		19	月	敬老の日	19	水	③－3週	19	土		19	月	④－2週	19	木	④－5週	19	日	一般選抜入試	19	日	
20	水	①－3週	20	金	①－6週	20	月	②－2週	20	水	②－6週	20	土		20	火		20	木	③－3週	20	日		20	火	④－3週	20	金	④－5週	20	月		20	月	
21	木	①－3週	21	土		21	火	②－2週	21	木	②－6週	21	日		21	水		21	金	③－3週	21	月	③－7週	21	水	④－3週	21	土		21	火		21	火	春分の日
22	金	①－3週	22	日	コース選択希望届提出	22	水	②－2週	22	金	②－6週	22	月		22	木		22	土		22	火	③－8週	22	木	④－3週	22	日		22	水		22	水	
23	土	臨地実務実習Ⅰクラス 選択希望提出日	23	月	①－7週	23	木	②－2週	23	土		23	火		23	金	秋分の日	23	日		23	水	勤労感謝の日	23	金	④－3週	23	月	④－5週	23	木	天皇誕生日	23	木	
24	日		24	火	①－7週	24	金	②－2週	24	日		24	水		24	土		24	月	③－3週	24	木	③－7週	24	土		24	火	④－6週	24	金		24	金	
25	月	①－4週	25	水	①－7週	25	土		25	月	②－6週	25	木		25	日		25	火	③－4週	25	金	③－8週	25	日		25	水	④－6週	25	土		25	土	
26	火	①－4週	26	木	①－7週	26	日		26	火	②－7週	26	金		26	月		26	水	③－4週	26	土	履修ガイダンス	26	月	④－3週	26	木	④－6週	26	日		26	日	
27	水	①－4週	27	金	①－7週	27	月	②－3週	27	水	②－7週	27	土		27	火		27	木	③－4週	27	日		27	火	授業予備日	27	金	④－6週	27	月		27	月	
28	木	①－4週	28	土		28	火	②－3週	28	木	②－7週	28	日		28	水	履修ガイダンス	28	金	③－4週	28	月	③－8週	28	水	冬季休業開始	28	土		28	火		28	火	
29	金	昭和の日	29	日		29	水	②－3週	29	金	②－7週	29	月		29	木		29	土		29	火	③－8週（木曜授業）	29	木		29	日					29	水	
30	土		30	月	①－8週	30	木	②－3週	30	土		30	火		30	金	夏季休業終了	30	日		30	水	③－8週	30	金		30	月	④－6週				30	木	
			31	火	①－8週				31	日		31	水					31	月	③－4週				31	土		31	火	④－7週				31	金	春季休業終了 後期(③④)終了

随時、履修相談会

随時、履修相談会

資料33 学年暦

令和5年度　せとうち観光専門職短期大学学年暦

授業日

土・日・祝・休業日

定期試験

授業時間					
	1	9:00～10:30	4	14:40～16:10	
	2	10:40～12:10	5	16:20～17:50	
	3	13:00～14:30			

4　月			5　月			6　月			7　月			8　月			9　月			10　月			11　月			12　月			1　月			2　月			3　月		
1	土	前期(①②)開始	1	月	①－4週	1	木	①－8週	1	土		1	火	②－8週	1	金		1	日	後期(③④)開始	1	水	③－5週	1	金	第3Q定期試験	1	月	元日	1	木	④－7週	1	金	
2	日	入学式 オリエンテーション	2	火	①－4週	2	金	①－8週	2	日		2	水	②－8週	2	土		2	月	③－1週	2	木	③－5週	2	土		2	火		2	金	④－7週	2	土	
3	月	オリエンテーション 健康診断	3	水	憲法記念日	3	土	履修ガイダンス	3	月	②－4週	3	木	②－8週	3	日		3	火	③－1週	3	金	文化の日	3	日		3	水		3	土	臨地実務実習Ⅱクラス 選択希望提出日	3	日	卒業式
4	火	履修ガイダンス	4	木	みどりの日	4	日		4	火	②－4週	4	金	②－8週	4	月		4	水	③－1週	4	土		4	月	第3Q定期試験	4	木		4	日	一般選抜入試	4	月	
5	水	①－1週	5	金	こどもの日	5	月	第1Q定期試験	5	水	②－4週	5	土		5	火		5	木	③－1週	5	日		5	火	第3Q定期試験	5	金		5	月	④－7週	5	火	
6	木	①－1週	6	土		6	火	第1Q定期試験	6	木	②－4週	6	日		6	水		6	金	③－1週	6	月	③－5週	6	水	④－1週	6	土		6	火	④－8週	6	水	
7	金	①－1週	7	日		7	水	第1Q定期試験	7	金	②－4週	7	月	②－8週	7	木		7	土		7	火	③－6週	7	木	④－1週	7	日	冬季休業終了	7	水	④－8週	7	木	
8	土		8	月	①－5週	8	木	定期試験予備日	8	土		8	火	第2Q定期試験	8	金		8	日		8	水	③－6週	8	金	④－1週	8	月	成人の日	8	木	④－8週	8	金	
9	日		9	火	①－5週	9	金	定期試験予備日	9	日		9	水	第2Q定期試験	9	土		9	月	スポーツの日	9	木	③－6週	9	土		9	火	④－4週	9	金	④－8週	9	土	
10	月	①－1週	10	水	①－5週	10	土		10	月	②－5週	10	木	第2Q定期試験	10	日		10	火	③－2週	10	金	③－5週	10	日		10	水	④－4週	10	土		10	日	
11	火	①－1週	11	木	①－5週	11	日		11	火	②－5週	11	金	山の日	11	月		11	水	③－2週	11	土	公募推薦入試	11	月	④－1週	11	木	④－4週	11	日	建国記念日	11	月	
12	水	①－2週	12	金	①－5週	12	月	②－1週	12	水	②－5週	12	土	臨地実務実習Ⅲクラス 選択希望提出日	12	火		12	木	③－2週	12	日	公募推薦入試	12	火	④－1週	12	金	④－4週	12	月	振替休日	12	火	
13	木	①－2週	13	土		13	火	②－1週	13	木	②－5週	13	日		13	水		13	金	③－2週	13	月	③－6週	13	水	④－2週	13	土		13	火	④－8週（月曜授業）	13	水	一般選抜入試
14	金	①－2週	14	日		14	水	②－1週	14	金	②－5週	14	月	定期試験予備日	14	木		14	土		14	火	③－7週	14	木	④－2週	14	日		14	水	第4Q定期試験	14	木	
15	土		15	月	①－6週	15	木	②－1週	15	土		15	火	定期試験予備日	15	金		15	日	指定校推薦入試	15	水	③－7週	15	金	④－2週	15	月	④－4週	15	木	第4Q定期試験	15	金	
16	日		16	火	①－6週	16	金	②－1週	16	日		16	水	夏季休業開始	16	土		16	月	③－2週	16	木	③－7週	16	土		16	火	④－5週	16	金	第4Q定期試験	16	土	
17	月	①－2週	17	水	①－6週	17	土		17	月	海の日	17	木		17	日		17	火	③－3週	17	金	③－6週	17	日		17	水	④－5週	17	土	春季休業開始	17	日	
18	火	①－2週	18	木	①－6週	18	日		18	火	②－6週	18	金		18	月	敬老の日	18	水	③－3週	18	土		18	月	④－2週	18	木	④－5週	18	日	一般選抜入試	18	月	
19	水	①－3週	19	金	①－6週	19	月	②－2週	19	水	②－6週	19	土		19	火	総合型選抜入試開始	19	木	③－3週	19	日		19	火	④－2週	19	金	④－5週	19	月		19	火	
20	木	①－3週	20	土		20	火	②－2週	20	木	②－6週	20	日		20	水		20	金	③－3週	20	月	③－7週	20	水	④－3週	20	土		20	火		20	水	
21	金	①－3週	21	日		21	水	②－2週	21	金	②－6週	21	月		21	木		21	土		21	火	③－8週	21	木	④－3週	21	日		21	水		21	木	春分の日
22	土	臨地実務実習Ⅰクラス 選択希望提出日	22	月	①－7週	22	木	②－2週	22	土		22	火		22	金		22	日		22	水	③－8週	22	金	④－3週	22	月	④－5週	22	木		22	金	
23	日		23	火	①－7週	23	金	②－2週	23	日		23	水		23	土	秋分の日	23	月	③－3週	23	木	勤労感謝の日	23	土		23	火	④－6週	23	金	天皇誕生日	23	土	
24	月	①－3週	24	水	①－7週	24	土		24	月	②－6週	24	木		24	日		24	火	③－4週	24	金	③－7週	24	日		24	水	④－6週	24	土		24	日	
25	火	①－3週	25	木	①－7週	25	日		25	火	②－7週	25	金		25	月		25	水	③－4週	25	土		25	月	④－3週	25	木	④－6週	25	日		25	月	
26	水	①－4週	26	金	①－7週	26	月	②－3週	26	水	②－7週	26	土		26	火		26	木	③－4週	26	日		26	火	④－3週	26	金	④－6週	26	月		26	火	
27	木	①－4週	27	土		27	火	②－3週	27	木	②－7週	27	日		27	水		27	金	③－4週	27	月	③－8週	27	水	冬季休業開始	27	土		27	火		27	水	
28	金	①－4週	28	日		28	水	②－3週	28	金	②－7週	28	月		28	木	履修ガイダンス	28	土		28	火	③－8週（金曜授業）	28	木		28	日		28	水		28	木	
29	土	昭和の日	29	月	①－8週	29	木	②－3週	29	土		29	火		29	金		29	日		29	水	履修ガイダンス	29	金		29	月	④－6週	29	木		29	金	
30	日		30	火	①－8週	30	金	②－3週	30	日		30	水		30	土	夏季休業終了	30	月	③－4週	30	木	③－8週	30	土		30	火	④－7週				30	土	
			31	水	①－8週				31	月	②－7週	31	木					31	火	③－5週				31	日		31	水	④－7週				31	日	春季休業終了 後期(③④)終了

随時、履修相談会

随時、履修相談会

資料34　養成する人材像、３つのポリシー、教育課程等の対応表

本学が養成する人材像	本学が養成する人材に必要な資質と能力			ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目	履修区分	履修単位	教育課程 1年次クォーター ①	②	③	④	2年次クォーター ①	②	③	④	3年次クォーター ①	②	③	④	卒業単位（以上）	アドミッションポリシー
	資質	基本能力	育成する能力																			
本学の建学の精神 観光と社会や人類との関わりを深く探究し、観光を通じて、地域社会の発展と諸外国との交流と共生に貢献する人材を育成する。		思考力	「人間力」の基礎	**DP１（自学自修の態度形成）** **「自学自修の態度」を養い、理論や実務を学ぶために重要な基礎技能を身に付け、生涯に渡り充実した日常生活と有意義なキャリアデベロップメントを実現することができる。**	**CP１　基礎科目群（自学自修）** **「自学自修の態度」を養い、理論や実務を学ぶために重要な基礎知識や技能を修得するための授業科目として、「基礎科目群（自学自修）」に「基礎演習」及び「キャリアデザイン論」を配置し、講義及び演習形式で授業を行う。**	基礎演習	必修	2	4	4															Ⅰ-2,3
						キャリアデザイン論	必修	2					B		A									
				DP２（思考法の修得） **基礎科目における学術科目によって「思考力」を養い、基礎的な思考法を身に付けて、現実を的確に捉えることができる。**	**CP２　基礎科目群（思考法）** **「思考力」を養い、基礎的な思考法を修得するための授業科目として、「基礎科目（思考法）」に「文化論」「地理学」「企業の社会的責任」「法と社会」「ビジネスコミュニケーション」「信仰の歴史」「異文化理解」「災害と防災の科学」「介助実務実習」を配置し、講義及び実習形式により、授業を行う。**	文化論	必修	2	A	B															Ⅱ-1-②　Ⅱ-2
						地理学	必修	2	B	A														
						企業の社会的責任	3科目必修選択	2				※												
						法と社会		2				※												
						ビジネスコミュニケーション		2					※											
						信仰の歴史		2					※											
						異文化理解		2					※											
						災害と防災の科学		2				※												
						介助実務実習	必修	1				A/B												
			「観光の理論と知識」	**DP３（観光の理論と知識の理解）** **観光学の理論と観光に関連する知識を身に付け、観光振興専門職としての「思考力」を磨き上げながら、観光事象の実態とその変化を学ぶことによって、社会現象としての観光の現実を捉えることができる。**	**CP３　職業専門科目群（学術）** **観光学の理論と観光に関連する知識を身に付け、観光振興専門職としての「思考力」を磨き上げながら、観光事象の実態とその変化を学ぶための授業科目として、「職業専門科目群（学術）」に観光の理論と知識を学ぶ学術科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。**																			
					①観光学入門科目 **観光振興専門職の基礎知識として身につけるべき主要な観光事象と、それらの事象を捉える理論や方法を修得するための授業科目として「観光学概論」を配置し、講義形式により授業を行う。**	観光学概論	必修	2	A/B															
					②地域観光論入門科目群 **「地域資源」や「地域社会」に関する理解を深め、課題の発見や解決の方策の必要な思考法や調査手法を修得するために必要な授業科目として、「地域資源論」を講義形式により、「地域観光基礎実習」を実習形式により配置する。**	地域資源論	必修	2	A/B															
						地域観光基礎実習	必修	1		4														
					③観光基礎理論科目群 **観光学術理論の基礎的理論について考察し、観光研究に関する理論と方法論を修得することにより、観光学術理論の基盤を形成するための授業科目として「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」「観光行動論」「観光政策論」を配置し、講義形式により授業を行う。**	観光社会文化論	必修	2		A		B												
						観光振興・地域創生論	必修	2		B		A												
						観光行動論	必修	2					A		B									
						観光政策論	必修	2					B		A									
					④観光応用理論科目群 **観光学術理論の応用的理論について考察し、観光振興専門職としての発展を図るために必要な能力を修得するための授業科目として「国際観光論」「観光文化施設論」「観光メディア論」を配置し、講義形式により授業を行う。**	国際観光論	選択	2							※									
						観光文化施設論	選択	2					※											
						観光メディア論	選択	2					※											
						観光データ整理実習	必修	1					A		B									
						エコツーリズム実習	必修	1							A/B									
					⑤せとうち観光研究科目群 **瀬戸内地域における観光の現実や課題、観光振興及び観光による地域振興に対する理解を深め、地域における観光振興の方法論と課題解決方策の発見等に必要な能力を修得するため「せとうち観光アート論」「せとうち観光資源論」「四国巡礼研究」「四国観光史」を配置し、講義形式により授業を行う。**	せとうち観光アート論	2科目選択必修	2										※					
						せとうち観光資源論		2											※					
						四国巡礼研究		2												※				
						四国観光史		2													※			
		実践力	「観光実務の知識と技能」	**DP４（観光実務の知識と技能の修得）** **観光産業や観光による地域創生事業の実務に関連する理論・知識を学んだうえで、観光実務を体験的に学び、「思考力」を土台として、「実践力」と「協働力」を身に付けることによって、観光振興専門職として職場の状況や問題を分析でき、チームワークで問題を解決できる。**	**CP４　職業専門科目群（実務）** **観光産業や観光による地域創生事業の実務に関連する理論及び知識を修得するとともに、観光実務を体験的に学び、「思考力」を土台として、「実践力」と「協働力」を修得するための授業科目として「職業専門科目群（実務）」に観光実務の理論と技能を学ぶ実務科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。**																			
					①観光実務理論科目群 **観光事業において重要な経営監策であり、また観光振興専門職にとっても不可欠な能力・技能であるホスピタリティ及びリスクマネジメントに関する能力を修得するための講義科目として、「ホスピタリティマネジメント論」「観光リスクマネジメント」を配置し、講義形式により授業を行う。**	ホスピタリティマネジメント論	必修	2	A	B														
						観光リスクマネジメント	必修	2	B	A														
					②観光事業論科目群 **観光実務の実施のための基盤となる能力を修得するとともに、臨地実務実習後の観光実務に関する理論と知識の統合と定着を図るための授業科目として、「観光事業論」「交通産業論」「宿泊産業論」「地域創生事業論」を配置し、講義形式により授業を行う。**	観光事業論	必修	2	A	B														
						交通産業論	実習関連科目選択必修	2											※					
						宿泊産業論		2											※					
						地域創生事業論		2											※					
					③臨地実務実習事前学修科目群 **ホスピタリティ業務に関わる「技能訓練」の基礎を修得するための授業科目として「ホスピタリティ実務実習Ａ・Ｂ」を配置し、学内における実習形式により授業を行う。また、臨地実務実習における実習の目的、内容、目標、習得事項などを体系的に指導し、学生が臨地実務実習で効果的な学修成果を達成するために必要な授業科目として、「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」「観光実務応用論」を配置し、演習形態を含む講義形式により授業を行う。**	ホスピタリティ実務実習A	実習関連科目選択必修	1			※														
						ホスピタリティ実務実習B		1				※												
						観光支援ビジネス実務基礎論	必修	1				5												
						観光実務基礎論（航空クラス）	必修	1					※											
						観光実務基礎論（鉄道クラス）							※											
						観光実務基礎論（宿泊クラス）							※											
						観光実務基礎論（観光地域創生クラス）							※											
						観光実務応用論（航空クラス）	必修	1							※									
						観光実務応用論（鉄道クラス）									※									
						観光実務応用論（宿泊クラス）									※									
						観光実務応用論（観光地域創生クラス）									※									
					④臨地実務実習科目群 **観光実務の基礎から応用、マネジメントに至るまでのスキルを修得するとともに、観光振興、観光による地域創生の観点から観光事業を企画・立案・運営するために必要な能力を修得するための授業科目として「臨地実務実習Ⅰ」「臨地実務実習Ⅱ」「臨地実務実習Ⅲ」を配置し、学外における実習形式により授業を行う。**	臨地実務実習Ⅰ	必修	4				※												
						臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）	必修	8																
						臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス）									※									
						臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス）																		
						臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）																		
						臨地実務実習Ⅲ（航空クラス）	必修	8																
						臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス）																		
						臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス）																		
						臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス）																		
					⑤臨地実務実習事後学修科目群 **臨地実務実習の実施的学修の成果を振り返り、それらを理論的に整理しながら、今後の学修に有機的につなげることを目的として、「観光ビジネス実務発展論」「観光実務発展論」「観光実務マネジメント論」を配置し、演習形態を含む講義形式により授業を行う。**	観光支援ビジネス実務発展論	必修	1				5												
						観光実務発展論（航空クラス）	必修	1								※								
						観光実務発展論（鉄道クラス）										※								
						観光実務発展論（宿泊クラス）										※								
						観光実務発展論（観光地域創生クラス）										※								
						観光実務マネジメント論（航空クラス）	必修	1												※				
						観光実務マネジメント論（鉄道クラス）														※				
						観光実務マネジメント論（宿泊クラス）														※				
						観光実務マネジメント論（観光地域創生クラス）														※				
			「観光英語力」	**DP５（観光英語力の修得）** **観光英語力を身に付けることによって、インバウンド観光の多様な状況に対応できる。**	**CP５　職業専門科目群（観光英語）** **インバウンド観光の多様な状況に対応するための観光英語力を修得するための授業科目として、初級から応用へと段階的に「観光基礎英語Ⅰ～Ⅱ」「観光英語Ⅰ～Ⅳ」を配置し、演習形式により授業を行う。**	観光基礎英語Ⅰ	必修	1	A/B															Ⅱ-1-①
						観光基礎英語Ⅱ	必修	1		A/B														
						観光英語Ⅰ	選択	1				※												
						観光英語Ⅱ	選択	1					※											
						観光英語Ⅲ	選択	1							※									
						観光英語Ⅳ	選択	1											※					
		協働力	「事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる応用的能力」	**DP６（他分野の応用的な能力の修得）** **観光関係以外の異分野から、次のような「応用的な能力」を身に付けて、観光振興専門職として実践的かつ創造的な職務に積極的に取り組むことができる。** **① 企業やＮＰＯ法人、地域社会等における組織及び事業運営能力（マネジメント力）** **② 事業イノベーションや地域社会の魅力を創出するための情報力や創造力（情報力・創造力）**	**CP６　展開科目群** **観光関係以外の異分野から、「①企業やＮＰＯ法人、地域社会等における組織及び事業運営能力（マネジメント力）」及び「②事業イノベーションや地域社会の魅力を創出するための情報力や創造力（情報力・創造力）」に関する応用的な能力を修得するための授業科目として、「経営学」「中小企業論」「コミュニティデザイン論」「マーケティング論」「起業論」「ICTとIoT」「人工知能概論」を配置し、講義形式により授業を行うとともに、「ファシリテーション実習」「ICT実習」「人工知能プログラミング実習」「マップデザイン実習」「メディアコンテンツ実習」を配置し、実習形式により授業を行う。**	経営学	必修	2					A		B									
						中小企業論	4科目選択必修	2											※					
						コミュニティデザイン論		2												※				
						マーケティング論		2													※			
						起業論		2														※		
						ファシリテーション実習	必修	1													A/B			
						ＩＣＴとＩｏＴ	必修	2													A	B		
						人工知能概論	必修	2													B	A		
						ＩＣＴ実習	必修	1															A	B
						人工知能プログラミング実習	必修	1															B	A
						マップデザイン実習	必修	1													A	B		
						メディアコンテンツ実習	必修	1													B	A		
			「総合的な能力」	**DP７（観光振興専門職としての総合力の育成）** **3年間で学修した全教科の成果を統括する専門演習において、他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、観光振興専門職としての総合力と課題解決力を身に付けて、観光振興と地域社会の発展のための課題に果敢に挑戦することができる。**	**CP７　総合科目** **3年間で学修した全教科の成果を統括し、他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、観光振興専門職としての総合力と課題解決力を修得するため、「専門演習」を通年で配置し、演習形式により授業を行う。**	専門演習	必修	4												※	※	※	※	4	Ⅱ-2-①② Ⅱ-3-①②
本学の教育理念 ①教員、職員、学生が、小規模な組織において一体となった教育の場を構築する。 ②大学教育で修得されるべき思考力を涵養する。 ③産業界との教育連携を拡充し、理論に裏付けられた実践力を育成することにより高度専門職業人の徹底的な実務教育を実践する。 ④地域連携を深化させ、多様な地域貢献のあり方を模索し実現する。																					卒業単位合計	96

実習科目　　1年次３Ｑ、２年次２Ｑ、４Ｑは臨地実務実習

資料35　せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科　カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	DP1（自学自修の態度形成） 「自学自修の態度」を養い、理論や実務を学ぶために重要な基礎技能を身に付け、生涯に渡り充実した日常生活と有意義なキャリアデベロップメントを実現することができる。 DP2（思考法の修得） 基礎科目における学術科目によって「思考力」を養い、基礎的な思考法を身に付けて、現実を的確に捉えることができる。 DP3（観光の理論と知識の理解） 観光学の理論と観光に関連する知識を身に付け、観光振興専門職としての「思考力」を磨き上げながら、観光事象の実態とその変化を学ぶことによって、社会現象としての観光の現実を捉えることができる。 DP4（観光実務の知識と技能の修得） 観光事業の実務に関連する理論・知識を学んだうえで、観光実務を体験的に学び、「思考力」を土台として、「実践力」と「協働力」を身に付けることによって、観光振興専門職として職場の状況や問題を分析でき、チームワークで問題を解決できる。 DP5（観光英語力の修得） 観光英語力を身に付けることによって、インバウンド観光の多様な状況に対応できる。 DP6（他分野の応用的な能力の修得） 観光関係以外の異分野から、次のような「応用的な能力」を身に付けて、観光振興専門職として実践的かつ創造的な職務に積極的に取り組むことができる。 ① 企業やＮＰＯ法人、地域社会等における組織及び事業運営能力（マネジメント力） ② 事業イノベーションや地域社会の魅力を創出するための情報力や創造力（情報力・創造力） DP7（観光振興専門職としての総合力の育成） 3年間で学修した全教科の成果を統括する専門演習において、他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、観光振興専門職としての総合力と課題解決力を身に付けて、観光振興と地域社会の発展のための課題に果敢に挑戦することができる。
カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）	CPⅠ（教育課程の編成） ディプロマ・ポリシーで定めた7つの教育目標を達成するため、「基礎科目群（自学自修）」、「基礎科目群（思考法）」「職業専門科目群（学術）」、「職業専門科目群（実務）」、「職業専門科目群（観光英語）」「展開科目群」、という6つの科目群と、「総合科目」という１つの科目から成る教育課程を編成する。各科目群に配置される科目は、履修の順序に従って、その内容が「基礎から応用へ」ないしは「初級から上級へ」と配列する。**（CP1～CP7については、別紙を参照。）** CPⅡ（学修形態）学修の形態は，授業の内容によって，講義形式と演習形式及び実習形式に分かれる。講義形式においてもグループワークやワークショップ等の演習形態が取り入れられる場合がある。 CPⅢ（成績評価の在り方）授業時間と事前・事後学修学修時間を確保し，各科目の到達目標毎に対応する成績評価基準で適正な成績評価を行なうことによって，卒業要件・学位授与のための単位を実質化する。成績評価の方針と基準については，シラバスに明記される。 CPⅣ（教育の質の保証）各科目のディプロマポリシー及び成績評価の在り方をシラバスにおいて学生に提示し，学生による授業評価アンケートを行ない，教職員と学生が相互に協力して点検しながら，教育研究開発会議及び教育課程連絡協議会が教育改善を不断に推進点検する。

授業科目							学科の教育の目標						
科目コード	授業科目名	学年	クォーター				DP1：卒業後も自学自修を継続することができる。	DP2：情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。	DP3:観光及び観光事業の発展や地域振興について、自分なりの意見をまとめ、表現することができる。	DP4:情報や知識を論理的に分析し、自分なりの意見をまとめ、表現をすることができる。	DP5:観光業界で必要な英語を用いて、「読み」「書き」「話す」「聞き」ことができる。	DP6:状況に即応する能力を磨き、問題解決に向けた方策の発見や新サービスの開発、事業化に向けた企画案の作成を行うことができる。	DP7:観光振興専門職としての総合力と課題解決力を身に付けて、みずからの研究成果を発表することができる。
			①	②	③	④							
◎必修科目 ●選択必修科目　○学修成果を上げるために履修が強く求められる科目　△学修成果を上げるために履修することが望ましい科目													
基礎科目（自学自修型の態度形成）													
KJ112001A	基礎演習	1	※	※			◎						
KJ213002B	キャリアデザイン論	2	※		※		◎						
基礎科目（思考法）													
KS112001B	文化論	1	※	※				◎					
KS112003B	地理学	1	※	※				◎					
KSJ104001B	介助実務実習	1				※		◎					
KS104005B	企業の社会的責任	1				※		●					
KS104006B	法と社会	1				※		●					
KS104007B	災害と防災の科学	1				※		●					
KS201008B	ビジネスコミュニケーション	2	※					●					
KS201009B	信仰の歴史	2	※					●					
KS201010B	異文化理解	2	※					●					
職業専門科目（学術）													
SG101001B	観光学概論	1	※						◎				
SG101002B	地域資源論	1	※						◎				
SGJ101001B	地域観光基礎実習	1		※					◎				
SG124003C	観光社会文化論	1		※		※			◎				
SG124004C	観光振興・地域創生論	1		※		※			◎				
SG213005C	観光行動論	2	※		※				◎				
SG213006C	観光政策論	2	※		※				◎				
SG203007D	国際観光論	2			※				○				
SG201008D	観光文化施設論	2	※						○				
SG201009D	観光メディア論	2	※						○				
SGJ213002D	観光データ整理実習	2	※		※				◎				
SGJ203003D	エコツーリズム実習	2			※				◎				
SG301010C	せとうち観光アート論	3	※						●				
SG302011C	せとうち観光資源論	3		※					●				
SG303012C	四国巡礼研究	3			※				●				
SG304013C	四国観光史	3				※			●				
職業専門科目（実務）													
SJ112001B	ホスピタリティマネジメント論	1	※	※						◎			
SJ112002B	観光リスクマネジメント	1	※	※						◎			
SJ112003B	観光事業論	1	※	※						◎			
SJJ102001B	ホスピタリティ実務実習Ａ	1		※						●			
SJJ102002B	ホスピタリティ実務実習Ｂ	1		※						●			
SJ103004B	観光支援ビジネス実務基礎論	1			※					◎			
SJJ103003B	臨地実務実習Ⅰ	1			※					◎			
SJ104005B	観光支援ビジネス実務発展論	1				※				◎			
SJ2010061C	観光実務基礎論（航空クラス）	2	※							◎			
SJ2010062C	観光実務基礎論（鉄道クラス）												
SJ2010063C	観光実務基礎論（宿泊クラス）												
SJ2010064C	観光実務基礎論（観光地域創生クラス）												
SJJ2020041C	臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）	2		※						◎			
SJJ2020042C	臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス）												
SJJ2020043C	臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス）												
SJJ2020044C	臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）												

授業科目							学科の教育の目標						
科目コード	授業科目名	学年	クォーター				DP1：卒業後も自学自修を継続することができる。	DP2：情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。	DP3:観光及び観光事業の発展や地域振興について、自分なりの意見をまとめ、表現することができる。	DP4:情報や知識を論理的に分析し、自分なりの意見をまとめ、表現をすることができる。	DP5:観光業界で必要な英語を用いて、「読み」「書き」「聞き」「話す」ことができる。	DP6:状況に即応する能力を磨き、問題解決に向けた方策の発見や新サービスの開発、事業化に向けた企画案の作成を行うことができる。	DP7:観光振興専門職としての総合力と課題解決力を身に付けて、みずからの研究成果を発表することができる。
			①	②	③	④							
SJ2030071C	観光実務発展論（航空クラス）	2			※					◎			
SJ2030072C	観光実務発展論（鉄道クラス）												
SJ2030073C	観光実務発展論（宿泊クラス）												
SJ2030074C	観光実務発展論（観光地域創生クラス）												
SJ2030081D	観光実務応用論（航空クラス）	2			※					◎			
SJ2030082D	観光実務応用論（鉄道クラス）												
SJ2030083D	観光実務応用論（宿泊クラス）												
SJ2030084D	観光実務応用論（観光地域創生クラス）												
SJJ2020051D	臨地実務実習Ⅲ（航空クラス）	2				※				◎			
SJJ2020052D	臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス）												
SJJ2020053D	臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス）												
SJJ2020054D	臨地実務実習Ⅲ												
SJ3010091D	観光実務マネジメント論（航空クラス）	3	※							◎			
SJ3010092D	観光実務マネジメント論（鉄道クラス）												
SJ3010093D	観光実務マネジメント論（宿泊クラス）												
SJ3010094D	観光実務マネジメント論（観光地域創生クラス）												
SJ3020110D	交通産業論	3		※						●			
SJ3020111D	宿泊産業論	3		※						●			
SJ3020112D	地域創生事業論	3		※						●			
職業専門科目（観光英語）													
SE101001A	観光基礎英語Ⅰ	1	※								◎		
SE101002A	観光基礎英語Ⅱ	1		※							◎		
SE104003B	観光英語Ⅰ	1				※					△		
SE201004B	観光英語Ⅱ	2	※								△		
SE203005C	観光英語Ⅲ	2			※						△		
SE301006C	観光英語Ⅳ	3	※								△		
展開科目													
TK213001B	経営学	2	※		※							◎	
TK301002C	中小企業論	3	※									●	
TK302003C	コミュニティデザイン論	3		※								●	
TK303004C	マーケティング論	3			※							●	
TK304005C	起業論	3				※						●	
TK312006C	ＩＣＴとＩｏＴ	3	※	※								◎	
TK312007C	人工知能概論	3	※	※								◎	
TKJ334001C	ＩＣＴ実習	3			※	※						◎	
TKJ334002C	人工知能プログラミング実習	3			※	※						◎	
TKJ312003C	マップデザイン実習	3	※	※								◎	
TK312004C	メディアコンテンツ実習	3	※	※								◎	
TK323005C	ファシリテーション実習	3		※								◎	
総合科目													
SS31234001D	専門演習	3	※	※	※	※							◎

別　紙

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学の卒業認定及び学位授与の方針であるディプロマポリシー（DP）に定めた教育目標（DP1「自学自修の態度形成」、DP2「思考法の修得」、DP3「観光の理論と知識の理解」、DP4「観光実務の知識と技能の修得」、DP5「観光英語力の修得」、DP6「応用力の修得」、DP7「観光振興専門職としての総合力の育成」）を実現するため、教育課程編成及び実施の方針であるカリキュラム・ポリシー（CP　教育課程編成方針）を以下のように定め、実施する。

CPⅠ（教育課程の編成）

ディプロマ・ポリシーで定めた７つの教育目標を達成するため、「基礎科目群（自学自修）」、「基礎科目群（思考法）」「職業専門科目群（学術）」、「職業専門科目群（実務）」、「職業専門科目群（観光英語）」「展開科目群」、という６つの科目群と、「総合科目」という１つの科目から成る教育課程を編成する。各科目群に配置される科目は、履修の順序に従って、その内容が「基礎から応用へ」ないしは「初級から上級へ」と配列する。

CP1「基礎科目群（自学自修）」

「自学自修の態度」を養い、理論や実務を学ぶために重要な基礎知識や技能を修得するための授業科目として、「基礎科目群（自学自修）」に「基礎演習」及び「キャリアデザイン論」を配置し、講義及び演習形式で授業を行う。

CP2「基礎科目群（思考法）」

「思考力」を養い、基礎的な思考法を修得するための授業科目として、「基礎科目（思考法）」に「文化論」「地理学」「企業の社会的責任」「法と社会」「ビジネスコミュニケーション」「信仰の歴史」「異文化理解」「災害と防災の科学」「介助実務実習」を配置し、講義及び実習形式により、授業を行う。

CP3「職業専門科目群（学術）」

観光学の理論と観光に関連する知識を身に付け、観光振興専門職としての「思考力」を磨き上げながら、観光事象の実態とその変化を学ぶための授業科目として、「職業専門科目群（学術）」に観光の理論と知識を学ぶ学術科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。

①観光学入門科目

観光振興専門職の基礎知識として身につけるべき主要な観光事象と、それらの事象を捉える理論や方法を修得するための授業科目として「観光学概論」を配置し、講義形式により授業を行う。

②地域観光論入門科目群

「地域資源」や「地域社会」に関する理解を深め、課題の発見や解決の方策の必要な思考法や調査手法を修得するために必要な授業科目として、「地域資源論」を講義形式により、「地域観光基礎実習」を実習形式により配置する。

③観光基礎理論科目群

観光学術理論の基礎的理論について考察し、観光研究に関する理論と方法論を修得することにより、観光学術理論の基盤を形成するための講義科目として「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」「観光行動論」「観光政策論」を配置し、講義形式により授業を行う。

④観光応用理論科目群

観光学術理論の応用的理論について考察し、観光振興専門職としての飛躍を図るために必要な能力を修得するための授業科目として「国際観光論」「観光文化施設論」「観光メディア論」を配置し、講義形式により授業を行う。

⑤せとうち観光研究科目群

瀬戸内地域における観光の現実や課題、観光振興及び観光による地域振興に対する理解を深め、地域における観光振興の方法論と課題解決方策の発見等に必要な能力を修得するため「せとうち観光アート論」「せとうち観光資源論」「四国巡礼研究」「四国観光史」を配置し、講義形式により授業を行う。

CP4「職業専門科目群（実務）」

観光産業や観光による地域創生事業の実務に関連する理論及び知識を修得するとともに、観光実務を体験的に学び、「思考力」を土台として、「実践力」と「協働力」を修得するための授業科目として「職業専門科目群（実務）」に観光実務の理論と技能を学ぶ実務科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。

①観光実務理論科目群

観光事業において重要な経営施策であり、また観光振興専門職にとっても不可欠な能力・技能であるホスピタリティ及びリスクマネジメントに関する能力を修得するための講義科目として、「ホスピタリティマネジメント論」「観光リスクマネジメント」を配置し、講義形式により授業を行う。

②観光事業論科目群

観光実務の実践のための基盤となる能力を修得するとともに、臨地実務実習後の観光実務に関する理論と知識の総まとめと定着を図るための授業科目として、「観光事業論」「交通産業論」「宿泊産業論」「地域創生事業論」を配置し、講義形式により授業を行う。

③臨地実務実習事前学修科目群

ホスピタリティ業務に関わる「技能訓練」の基礎を修得するための授業科目として「ホスピタリティ実務実習Ａ・Ｂ」を配置し、学内における実習形式により授業を行う。また、臨地実務実習における実習の目的、内容、日程、留意事項などを体系的に指導し、学生が臨地実務実習で効果的な学修成果を達成するために必要な授業科目として、「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」「観光実務応用論」を配置し、演習形態を含む講義形式により授業を行う。

④臨地実務実習科目群

観光実務の基礎から応用、マネジメントに至るまでのスキルを修得するとともに、観光振興、観光による地域創生の観点から観光事業を企画・立案・運営するために必要な能力を修得するための授業科目として「臨地実務実習Ⅰ」「臨地実務実習Ⅱ」「臨地実務実習Ⅲ」を配置し、学外における実習形式により授業を行う。

⑤臨地実務実習事後学修科目群

臨地実務実習の実践的学修の成果を振り返り、それらを理論的に整理しながら、今後の学修に有機的につなげることを目的として、「観光支援ビジネス実務発展論」「観光実務発展論」「観光実

務マネジメント論」を配置し、演習形態を含む講義形式により授業を行う。

CP5「職業専門科目群（観光英語）」

インバウンド観光の多様な状況に対応するための観光英語力を修得するための授業科目として、初級から応用へと段階的に「観光基礎英語Ⅰ～Ⅱ」「観光英語Ⅰ～Ⅳ」を配置し、演習形式により授業を行う。

CP6「展開科目群」

観光関係以外の異分野から、「①企業やＮＰＯ法人、地域社会等における組織及び事業運営能力（マネジメント力）」及び「②事業イノベーションや地域社会の魅力を創出するための情報力や創造力（情報力・創造力）」に関する応用的な能力を修得するための授業科目として、「経営学」「中小企業論」「コミュニティデザイン論」「マーケティング論」「起業論」「ICT と IoT」「人工知能概論」を配置し、講義形式により授業を行うとともに、「ファシリテーション実習」「ICT 実習」「人工知能プログラミング実習」「マップデザイン実習」「メディアコンテンツ実習」を配置し、実習形式により授業を行う。

CP7「総合科目」

3 年間で学修した全教科の成果を統括し、他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、観光振興専門職としての総合力と課題解決力を修得するため、「専門演習」を通年で配置し、演習形式により授業を行う。

CPⅡ（学修形態）

学修の形態は、授業の内容によって、講義形式と演習形式及び実習形式に分かれる。なお、講義形式においてもグループワークやワークショップ等の演習形態が取り入れられる場合がある。

CPⅢ（成績評価の在り方）

授業時間と事前・事後学修時間を確保し、各科目の到達目標毎に対応する成績評価基準で適正な成績評価を行うことによって、卒業要件・学位授与のための単位を実質化する。成績評価の方針と基準については、シラバスに明記する。

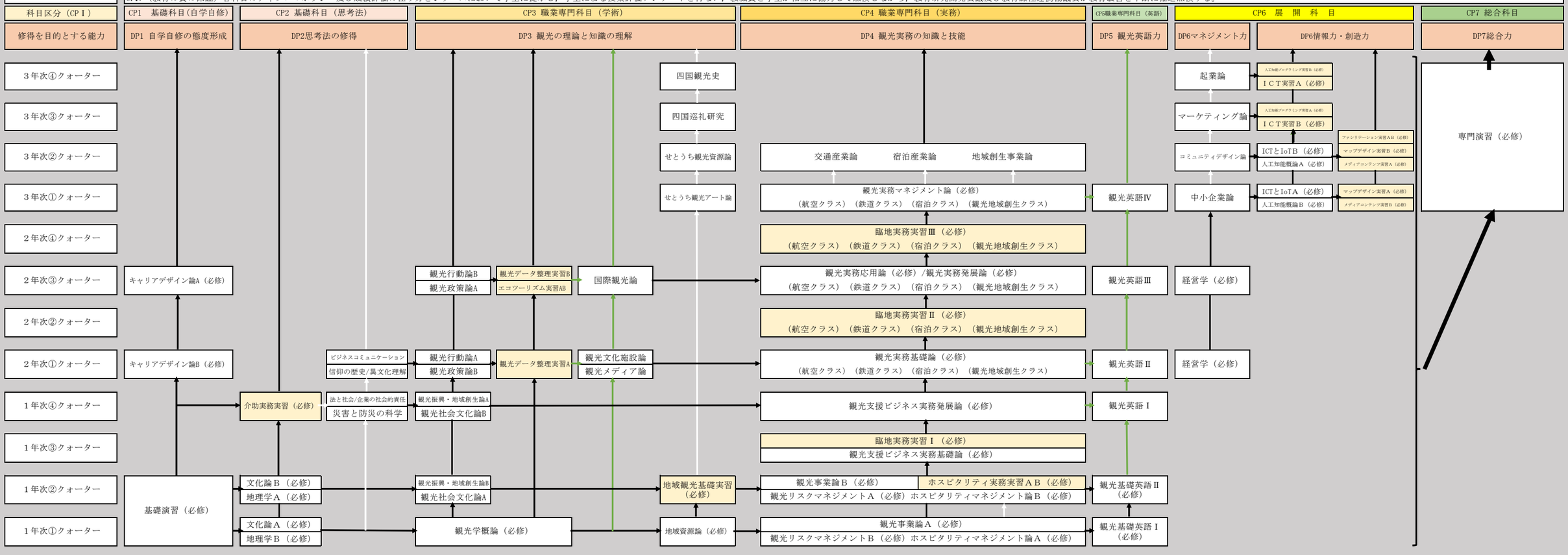
CPⅣ（教育の質の保証）

各科目のディプロマ・ポリシー及び成績評価の在り方をシラバスにおいて学生に提示し、学生による授業評価アンケートを実施し、教職員と学生が相互に協力して点検しながら、教育研究開発会議及び教育課程連携協議会が、教育改善をＰＤＣＡサイクルによって不断に推進・点検する。

資料36　せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科　カリキュラムツリー

養成する人材像	観光振興のエキスパートとして、観光産業及び観光による地域創生事業を牽引しつつ、社会構造の変化やニーズを的確に捉えて事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる高度専門職業人（「観光振興専門職」という。）

教育課程において育成する能力	人間力の基礎	観光の理論と知識	観光実務の知識と技能	観光英語力	事業イノベーションや地域社会の魅力を創出することができる能力	総合力
ディプロマ・ポリシー	DP1 自学自修の態度形成 「自学自修の態度」を養い、理論や実務を学ぶために重要な基礎技能を身に付け、生涯に渡り充実した日常生活と有意義なキャリアデベロップメントを実現することができる。	DP2思考法の修得 学術科目によって「思考力」を養い、基礎的な思考法を身に付けて、現実を的確に捉えることができる。	DP3 観光の理論と知識の理解 観光学の理論と観光に関連する知識を身に付け、観光振興専門職としての「思考力」を磨き上げながら、観光事象の実態とその変化を学ぶことによって、社会現象としての観光の現実を捉えることができる。	DP4 観光実務の知識と技能 観光産業及び観光による地域創生事業の実務に関連する理論・知識を学んだうえで、観光実務を体験的に学び、「思考力」を土台として、「実践力」と「協働力」を身に付けることによって、観光振興専門職として職場の状況や問題を分析でき、チームワークで問題を解決できる。	DP5 観光英語力の修得 観光英語力を身に付けることによって、インバウンド観光の多様な状況に対応できる。	DP6 他分野の応用的な能力の修得 観光関係以外の異分野から、次のような「応用的な能力」を身に付けて、観光振興専門職として実践的かつ創造的な職務に積極的に取り組むことができる。 ① 企業やＮＰＯ法人、地域社会等における組織及び事業運営能力（マネジメント力） ② 事業イノベーションや地域社会の魅力を創出するための情報力や創造力（情報力・創造力）	DP7 観光振興の専門家としての総合力の育成 3年間で学修した全教科の成果を統括する専門演習において、他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、観光振興専門職としての総合力と課題解決力を身に付けて、観光と瀬戸内地域を始めとする全国各地の観光地の課題に果敢に挑戦することができる。
カリキュラム・ポリシー	CPⅠ（教育課程の編成）ディプロマ・ポリシーで定めた７つの教育目標を達成するため，「基礎科目群（自学自修）」，「基礎科目群（思考法）」「職業専門科目群（学術）」，「職業専門科目群（実務）」，「職業専門科目群（観光英語）」「展開科目群」という６つの科目群と，「総合科目」という１つの科目から成る教育課程を編成する。各科目群に配置される科目は，履修の順序に従って，その内容が「基礎から応用へ」ないしは「初級から上級へ」と配列する。**（CP1～CP7については、別紙を参照。）** CPⅡ（学修形態）学修の形態は，授業の内容によって，講義形式と演習形式及び実習形式に分かれる。講義形式においてもグループワークやワークショップ等の演習形態が取り入れられる場合がある。 CPⅢ（成績評価の在り方）授業時間と事前・事後学修学修時間を確保し，各科目の到達目標毎に対応する成績評価基準で適正な成績評価を行なうことによって，卒業要件・学位授与のための単位を実質化する。成績評価の方針と基準については，シラバスに明記される。 CPⅣ（教育の質の保証）各科目のディプロマポリシー及び成績評価の在り方をシラバスにおいて学生に提示し，学生による授業評価アンケートを行ない，教職員と学生が相互に協力して点検しながら，教育研究開発会議及び教育課程連携協議会が教育改善を不断に推進点検する。						



アドミッション・ポリシーとの対応	Ⅰ－２，３	Ⅱ－１－②、２	Ⅱ－１－②、③、④、⑤	Ⅱ－１－②、③、④、⑤　Ⅱ－２－①、②、Ⅱ－３－①、②	Ⅱ－１－①	Ⅱ－２－①、②　　Ⅱ－３－①、②	Ⅱ－２－①、② Ⅱ－３－①、②

アドミッション・ポリシー

Ⅰ　入学者に求める意欲・意志
1　観光振興の専門家の技能を身に付け，世界の動向を見渡しながら，地域社会の発展に貢献しようという意欲を持つ者
2　思考力，実践力，協働力の鍛練という教育目標を理解し，自らのキャリア形成をしようという固い意志を持つ者
3　生涯に渡ってより充実した日常生活を送るための自己啓発の基礎を身に付けることに強い意欲を持ち，あらゆる状況で創造的に対応しようとする態度を有する者
Ⅱ　入学者に求める知識・能力
1　知識・技能
① これからの観光学の分野では、インバウンドへの対応が重要になってくる。このため、高等学校で習得すべき英語の基本的な知識と能力を身につけている学生を受け入れる。
② また、英語のみならず、日本文化を学び、世界とのかかわりの中で日本文化を広く紹介するための基礎となる国語及び日本史、世界史、地理のいずれかの科目を習得していること。
③ さらに、観光や美術、音楽、工芸技術等のいずれかの知識や技術を身につけていることが望ましい。
④ 専門高校卒業生においては、専門分野である観光や美術、音楽、工芸技術等に関するいずれかの知識や技術を身につけていることを重視し、評価するが、基礎学力として、国語及び日本史、世界史、地理のいずれかの科目を習得していることが必要である。
⑤ 職業経験を有し、企業等に勤務していた社会人においては、当該職業経験から得られる知識及び技能も評価して受け入れる。
2　思考力・判断力・表現力等の能力
① みずから課題を発見し、みずから解決策を見出すことのできる基本的な思考力、判断力と問題解決能力
② 本学での学修や臨地実務実習等において、円滑に対応できる基本的な文章能力とコミュニケーション能力
3　主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
① 他者と協調しつつ、課題解決に向け効果的な議論ができる基本的な論理構成力
② みずからの意見を正確に、かつ有効に伝えることのできるプレゼンテーションの基本的能力

【用　例】　必修科目　選択必修科目　選択科目

資料37　職業専門科目と展開科目の科目群と６つの観点

授業科目群	授業科目	履修区分	６　つ　の　観　点					
			①観光理論	②ホスピタリティ	③地域	④マネジメント	⑤情報・統計	⑥英語
CP３　職業専門科目群（学術）								
①観光学入門科目	観光学概論	必修	観光学概論	観光学概論				
②地域観光論入門科目群	地域資源論	必修			地域資源論			
	地域観光基礎実習	必修			地域観光実務実習			
③観光基礎理論科目群	観光社会文化論	必修	観光社会文化論					
	観光振興・地域創生論	必修	観光振興・地域創生論		観光振興・地域創生論			
	観光行動論	必修	観光行動論					
	観光政策論	必修	観光政策論					
④観光応用理論科目群	国際観光論	選択	国際観光論					
	観光文化施設論	選択	観光文化施設論					
	観光メディア論	選択	観光メディア論				観光メディア論	
	観光データ整理実習	必修					観光データ整理演習	
	エコツーリズム実習	必修	エコツーリズム実習	エコツーリズム実習				
⑤せとうち観光研究科目群	せとうち観光アート論	4科目選択必修			せとうち観光アート論			
	せとうち観光資源論				せとうち観光資源論			
	四国巡礼研究				四国巡礼研究			
	四国観光史				四国観光史			
CP４　職業専門科目群（実務）								
①観光実務理論科目群	ホスピタリティマネジメント論	必修		ホスピタリティマネジメント論				
	観光リスクマネジメント	必修		観光リスクマネジメント				
②観光事業論科目群	観光事業論	必修	観光事業論	観光事業論				
	交通産業論	実習関連１科目選択必修	交通産業論	交通産業論				
	宿泊産業論		宿泊産業論	宿泊産業論				
	地域創生事業論		地域創生事業論		地域創生事業論			
③臨地実務実習事前学修科目群	ホスピタリティ実務実習Ａ	実習関連１科目選択必修		ホスピタリティ実務実習Ａ				
	ホスピタリティ実務実習Ｂ			ホスピタリティ実務実習Ｂ				
	観光支援ビジネス実務基礎論	必修		観光支援ビジネス実務基礎論				
	観光実務基礎論（航空クラス） 観光実務基礎論（鉄道クラス） 観光実務基礎論（宿泊クラス） 観光実務基礎論（観光地域創生クラス）	必修		観光実務基礎論（航空クラス） 観光実務基礎論（鉄道クラス） 観光実務基礎論（宿泊クラス） 観光実務基礎論（観光地域創生クラス）				
	観光実務応用論（航空クラス） 観光実務応用論（鉄道クラス） 観光実務応用論（宿泊クラス） 観光実務応用論（観光地域創生クラス）	必修		観光実務応用論（航空クラス） 観光実務応用論（鉄道クラス） 観光実務応用論（宿泊クラス） 観光実務応用論（観光地域創生クラス）		観光実務応用論（航空クラス） 観光実務応用論（鉄道クラス） 観光実務応用論（宿泊クラス） 観光実務応用論（観光地域創生クラス）		
④臨地実務実習科目群	臨地実務実習Ⅰ	必修		臨地実務実習Ⅰ				
	臨地実務実習Ⅱ（航空クラス） 臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス） 臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス） 臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）	必修		臨地実務実習Ⅱ（航空クラス） 臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス） 臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス） 臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）				
	臨地実務実習Ⅲ（航空クラス） 臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス） 臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス） 臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス）	必修		臨地実務実習Ⅲ（航空クラス） 臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス） 臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス） 臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス）		臨地実務実習Ⅲ（航空クラス） 臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス） 臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス） 臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス）		
⑤臨地実務実習事後学修科目群	観光支援ビジネス実務発展論	必修		観光支援ビジネス実務発展論				
	観光実務発展論（航空クラス） 観光実務発展論（鉄道クラス） 観光実務発展論（宿泊クラス） 観光実務発展論（観光地域創生クラス）	必修		観光実務発展論（航空クラス） 観光実務発展論（鉄道クラス） 観光実務発展論（宿泊クラス） 観光実務発展論（観光地域創生クラス）				
	観光実務マネジメント論（航空クラス） 観光実務マネジメント論（鉄道クラス） 観光実務マネジメント論（宿泊クラス） 観光実務マネジメント論（観光地域創生クラス）	必修		観光実務マネジメント論（航空クラス） 観光実務マネジメント論（鉄道クラス） 観光実務マネジメント論（宿泊クラス） 観光実務マネジメント論（観光地域創生クラス）		観光実務マネジメント論（航空クラス） 観光実務マネジメント論（鉄道クラス） 観光実務マネジメント論（宿泊クラス） 観光実務マネジメント論（観光地域創生クラス）		
CP５　職業専門科目群（観光英語）	観光基礎英語Ⅰ	必修						観光基礎英語Ⅰ
	観光基礎英語Ⅱ	必修						観光基礎英語Ⅱ
	観光英語Ⅰ	選択						観光英語Ⅰ
	観光英語Ⅱ	選択						観光英語Ⅱ
	観光英語Ⅲ	選択						観光英語Ⅲ
	観光英語Ⅳ	選択						観光英語Ⅳ
CP６　展開科目群 **①マネジメント力** **②情報力・創造力**	経営学	必修				経営学		
	中小企業論	4科目選択必修				中小企業論		
	コミュニティデザイン論					コミュニティデザイン論		
	マーケティング論					マーケティング論		
	起業論					起業論		
	ファシリテーション実習	必修				ファシリテーション実習		
	ＩＣＴとＩｏＴ	必修					ＩＣＴとＩｏＴ	
	人工知能概論	必修					人工知能概論	
	ＩＣＴ実習	必修					ＩＣＴ実習	
	人工知能プログラミング実習	必修					人工知能プログラミング実習	
	マップデザイン実習	必修					マップデザイン実習	
	メディアコンテンツ実習	必修					メディアコンテンツ実習	
科目数			13	18	8	9	8	6
単位数			25	43	15	21	11	6

資料38　進路別履修モデル（Ａクラス：航空会社）

◎は必修科目、●は選択必修科目、○は選択科目

教育課程																	卒業単位
授業科目群	授業科目	履修区分	履修単位	1年次クォーター				2年次クォーター				3年次クォーター					
				①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④		
CP１ 基礎科目群（自学自修）	基礎演習	必修	2	◎	◎												15
	キャリアデザイン論	必修	2							◎							
CP２ 基礎科目群（思考法）	文化論	必修	2	◎													
	地理学	必修	2		◎												
	企業の社会的責任	3科目必修選択	2				●										
	法と社会		2														
	ビジネスコミュニケーション		2					●									
	信仰の歴史		2					●									
	異文化理解		2														
	災害と防災の科学		2														
	介助実務実習	必修	1				◎										
CP３ 職業専門科目群（学術）																	
①観光学入門科目	観光学概論	必修	2	◎													
②地域観光論入門科目群	地域資源論	必修	2	◎													
	地域観光基礎実習	必修	1		◎												
③観光基礎理論科目群	観光社会文化論	必修	2		◎												
	観光振興・地域創生論	必修	2				◎										
	観光行動論	必修	2					◎									
	観光政策論	必修	2							◎							
④観光応用理論科目群	国際観光論	選択	2							○							
	観光文化施設論	選択	2														
	観光メディア論	選択	2														
	観光データ整理実習	必修	1					◎									
	エコツーリズム実習	必修	1							◎							
⑤せとうち観光研究科目群	せとうち観光アート論	2科目選択必修	2														
	せとうち観光資源論		2										●				
	四国巡礼研究		2											●			
	四国観光史		2														
CP４ 職業専門科目群（実務）																	
①観光実務理論科目群	ホスピタリティマネジメント論	必修	2	◎													
	観光リスクマネジメント	必修	2		◎												
②観光事業論科目群	観光事業論	必修	2	◎													62
	交通産業論	実習関連1科目選択必修	2										●				
	宿泊産業論		2														
	地域創生事業論		2														
③臨地実務実習事前学修科目群	ホスピタリティ実務実習A	実習関連1科目選択必修	1		●												
	ホスピタリティ実務実習B		1														
	観光支援ビジネス実務基礎論	必修	1			◎											
	観光実務基礎論（航空クラス）	必修	1					◎									
	観光実務応用論（航空クラス）	必修	1							◎							
④臨地実務実習科目群	臨地実務実習Ⅰ（観光支援ビジネス実習）	必修	4			◎											
	臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）	必修	8						◎								
	臨地実務実習Ⅲ（航空クラス）	必修	8								◎						
⑤臨地実務実習事後学修科目群	観光支援ビジネス実務発展論	必修	1				◎										
	観光実務発展論（航空クラス）	必修	1							◎							
	観光実務マネジメント論（航空クラス）	必修	1									◎					
CP５ 職業専門科目群（観光英語）	観光基礎英語Ⅰ	必修	1	◎													
	観光基礎英語Ⅱ	必修	1		◎												
	観光英語Ⅰ	選択	1				○										
	観光英語Ⅱ	選択	1					○									
	観光英語Ⅲ	選択	1							○							
	観光英語Ⅳ	選択	1									○					
CP６ 展開科目群 ①マネジメント力②情報力・創造力	経営学	必修	2					◎									15
	中小企業論	2科目選択必修	2									●					
	コミュニティデザイン論		2														
	マーケティング論		2														
	起業論		2													●	
	ファシリテーション実習	必修	1										◎				
	ＩＣＴとＩｏＴ	必修	2									◎					
	人工知能概論	必修	2										◎				
	ＩＣＴ実習	必修	1											◎			
	人工知能プログラミング実習	必修	1												◎		
	マップデザイン実習	必修	1									◎					
	メディアコンテンツ実習	必修	1										◎				
CP７ 総合科目	専門演習	必修	4									◎	◎	◎	◎		4
履修単位の合計		クォーター		11	9	5	7	11	8	10	8	7	8	3	3		96
		セメスター		2													
		通年										4					
		合計		34				37				25					

資料38　進路別履修モデル（Ｂクラス：航空会社）

◎は必修科目、●は選択必修科目、○は選択科目

教育課程																	
授業科目群	授業科目	履修区分	履修単位	1年次クォーター				2年次クォーター				3年次クォーター				卒業単位
				①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	
CP１ 基礎科目群（自学自修）	基礎演習	必修	2	◎	◎											15
	キャリアデザイン論	必修	2					◎								
CP２ 基礎科目群（思考法）	文化論	必修	2		◎											
	地理学	必修	2	◎												
	企業の社会的責任	3科目必修選択	2				●									
	法と社会		2													
	ビジネスコミュニケーション		2					●								
	信仰の歴史		2					●								
	異文化理解		2													
	災害と防災の科学		2													
	介助実務実習	必修	1				◎									
CP３ 職業専門科目群（学術）																
①観光学入門科目	観光学概論	必修	2	◎												
②地域観光論入門科目群	地域資源論	必修	2	◎												
	地域観光基礎実習	必修	1		◎											
③観光基礎理論科目群	観光社会文化論	必修	2				◎									
	観光振興・地域創生論	必修	2		◎											
	観光行動論	必修	2							◎						
	観光政策論	必修	2					◎								
④観光応用理論科目群	国際観光論	選択	2							○						
	観光文化施設論	選択	2													
	観光メディア論	選択	2													
	観光データ整理実習	必修	1							◎						
	エコツーリズム実習	必修	1							◎						
⑤せとうち観光研究科目群	せとうち観光アート論	2科目選択必修	2													
	せとうち観光資源論		2										●			
	四国巡礼研究		2											●		
	四国観光史		2													
CP４ 職業専門科目群（実務）																
①観光実務理論科目群	ホスピタリティマネジメント論	必修	2		◎											
	観光リスクマネジメント	必修	2	◎												
②観光事業論科目群	観光事業論	必修	2		◎											
	交通産業論	実習関連1科目選択必修	2										●			
	宿泊産業論		2													
	地域創生事業論		2													
③臨地実務実習事前学修科目群	ホスピタリティ実務実習A	実習関連1科目選択必修	1		●											
	ホスピタリティ実務実習B		1													
	観光支援ビジネス実務基礎論	必修	1			◎										
	観光実務基礎論（航空クラス）	必修	1					◎								
	観光実務応用論（航空クラス）	必修	1							◎						
④臨地実務実習科目群	臨地実務実習Ⅰ（観光支援ビジネス実習）	必修	4			◎										
	臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）	必修	8						◎							
	臨地実務実習Ⅲ（航空クラス）	必修	8								◎					
⑤臨地実務実習事後学修科目群	観光支援ビジネス実務発展論	必修	1				◎									
	観光実務発展論（航空クラス）	必修	1							◎						
	観光実務マネジメント論（航空クラス）	必修	1									◎				
CP５ 職業専門科目群（観光英語）	観光基礎英語Ⅰ	必修	1	◎												
	観光基礎英語Ⅱ	必修	1		◎											
	観光英語Ⅰ	選択	1				○									
	観光英語Ⅱ	選択	1					○								
	観光英語Ⅲ	選択	1							○						
	観光英語Ⅳ	選択	1									○				
CP６ 展開科目群 ①マネジメント力②情報力・創造力																
	経営学	必修	2							◎						15
	中小企業論	2科目選択必修	2									●				
	コミュニティデザイン論		2													
	マーケティング論		2													
	起業論		2												●	
	ファシリテーション実習	必修	1										◎			
	ＩＣＴとＩｏＴ	必修	2										◎			
	人工知能概論	必修	2									◎				
	ＩＣＴ実習	必修	1												◎	
	人工知能プログラミング実習	必修	1											◎		
	マップデザイン実習	必修	1										◎			
	メディアコンテンツ実習	必修	1									◎				
CP７ 総合科目	専門演習	必修	4									◎	◎	◎	◎	4
履修単位の合計		クォーター		9	11	5	7	10	8	11	8	7	8	3	3	96
		セメスター		2												
		通年										4				
		合計		34				37				25				

資料38　進路別履修モデル（Ａクラス：鉄道会社）

◎は必修科目、●は選択必修科目、○は選択科目

教育課程																	卒業単位
授業科目群	授業科目	履修区分	履修単位	1年次クォーター				2年次クォーター				3年次クォーター					
				①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④		
CP１ 基礎科目群（自学自修）	基礎演習	必修	2	◎	◎												15
	キャリアデザイン論	必修	2							◎							
CP２ 基礎科目群（思考法）	文化論	必修	2	◎													
	地理学	必修	2		◎												
	企業の社会的責任	3科目必修選択	2				●										
	法と社会		2				●										
	ビジネスコミュニケーション		2					●									
	信仰の歴史		2														
	異文化理解		2														
	災害と防災の科学		2														
	介助実務実習	必修	1				◎										
CP３ 職業専門科目群（学術）																	62
①観光学入門科目	観光学概論	必修	2	◎													
②地域観光論入門科目群	地域資源論	必修	2	◎													
	地域観光基礎実習	必修	1		◎												
③観光基礎理論科目群	観光社会文化論	必修	2		◎												
	観光振興・地域創生論	必修	2				◎										
	観光行動論	必修	2					◎									
	観光政策論	必修	2							◎							
④観光応用理論科目群	国際観光論	選択	2														
	観光文化施設論	選択	2					○									
	観光メディア論	選択	2					○									
	観光データ整理実習	必修	1					◎									
	エコツーリズム実習	必修	1							◎							
⑤せとうち観光研究科目群	せとうち観光アート論	2科目選択必修	2														
	せとうち観光資源論		2										●				
	四国巡礼研究		2														
	四国観光史		2												●		
CP４ 職業専門科目群（実務）																	
①観光実務理論科目群	ホスピタリティマネジメント論	必修	2	◎													
	観光リスクマネジメント	必修	2		◎												
②観光事業論科目群	観光事業論	必修	2	◎													
	交通産業論	実習関連1科目選択必修	2										●				
	宿泊産業論		2														
	地域創生事業論		2														
③臨地実務実習事前学修科目群	ホスピタリティ実務実習A	実習関連1科目選択必修	1		●												
	ホスピタリティ実務実習B		1														
	観光支援ビジネス実務基礎論	必修	1			◎											
	観光実務基礎論（鉄道クラス）	必修	1					◎									
	観光実務応用論（鉄道クラス）	必修	1							◎							
④臨地実務実習科目群	臨地実務実習Ⅰ（観光支援ビジネス実習）	必修	4			◎											
	臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス）	必修	8						◎								
	臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス）	必修	8								◎						
⑤臨地実務実習事後学修科目群	観光支援ビジネス実務発展論	必修	1				◎										
	観光実務発展論（鉄道クラス）	必修	1							◎							
	観光実務マネジメント論（鉄道クラス）	必修	1									◎					
CP５ 職業専門科目群（観光英語）	観光基礎英語Ⅰ	必修	1	◎													
	観光基礎英語Ⅱ	必修	1		◎												
	観光英語Ⅰ	選択	1				○										
	観光英語Ⅱ	選択	1					○									
	観光英語Ⅲ	選択	1														
	観光英語Ⅳ	選択	1														
CP６ 展開科目群 ①マネジメント力②情報力・創造力																	15
	経営学	必修	2					◎									
	中小企業論	2科目選択必修	2														
	コミュニティデザイン論		2										●				
	マーケティング論		2											●			
	起業論		2														
	ファシリテーション実習	必修	1										◎				
	ＩＣＴとＩｏＴ	必修	2									◎					
	人工知能概論	必修	2										◎				
	ＩＣＴ実習	必修	1											◎			
	人工知能プログラミング実習	必修	1												◎		
	マップデザイン実習	必修	1									◎					
	メディアコンテンツ実習	必修	1										◎				
CP７ 総合科目	専門演習	必修	4									◎	◎	◎	◎		4
			クォーター	11	9	5	9	13	8	7	8	4	10	3	3		96
			セメスター	2													
			通年									4					
			合計	36				36				24					

資料38　進路別履修モデル（Ｂクラス：鉄道会社）

◎は必修科目、●は選択必修科目、○は選択科目

教育課程																	卒業単位
授業科目群	授業科目	履修区分	履修単位	1年次クォーター				2年次クォーター				3年次クォーター					
				①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④		
CP１ 基礎科目群（自学自修）	基礎演習	必修	2	◎	◎												15
	キャリアデザイン論	必修	2					◎									
CP２ 基礎科目群（思考法）	文化論	必修	2		◎												
	地理学	必修	2	◎													
	企業の社会的責任	3科目必修選択	2				●										
	法と社会		2				●										
	ビジネスコミュニケーション		2					●									
	信仰の歴史		2														
	異文化理解		2														
	災害と防災の科学		2														
	介助実務実習	必修	1				◎										
CP３ 職業専門科目群（学術）																	62
①観光学入門科目	観光学概論	必修	2	◎													
②地域観光論入門科目群	地域資源論	必修	2	◎													
	地域観光基礎実習	必修	1		◎												
③観光基礎理論科目群	観光社会文化論	必修	2				◎										
	観光振興・地域創生論	必修	2		◎												
	観光行動論	必修	2							◎							
	観光政策論	必修	2					◎									
④観光応用理論科目群	国際観光論	選択	2														
	観光文化施設論	選択	2					○									
	観光メディア論	選択	2					○									
	観光データ整理実習	必修	1							◎							
	エコツーリズム実習	必修	1							◎							
⑤せとうち観光研究科目群	せとうち観光アート論	2科目選択必修	2														
	せとうち観光資源論		2										●				
	四国巡礼研究		2														
	四国観光史		2												●		
CP４ 職業専門科目群（実務）																	
①観光実務理論科目群	ホスピタリティマネジメント論	必修	2		◎												
	観光リスクマネジメント	必修	2	◎													
②観光事業論科目群	観光事業論	必修	2		◎												
	交通産業論	実習関連1科目選択必修	2										●				
	宿泊産業論		2														
	地域創生事業論		2														
③臨地実務実習事前学修科目群	ホスピタリティ実務実習A	実習関連1科目選択必修	1		●												
	ホスピタリティ実務実習B		1														
	観光支援ビジネス実務基礎論	必修	1			◎											
	観光実務基礎論（鉄道クラス）	必修	1					◎									
	観光実務応用論（鉄道クラス）	必修	1							◎							
④臨地実務実習科目群	臨地実務実習Ⅰ（観光支援ビジネス実習）	必修	4			◎											
	臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス）	必修	8						◎								
	臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス）	必修	8								◎						
⑤臨地実務実習事後学修科目群	観光支援ビジネス実務発展論	必修	1				◎										
	観光実務発展論（鉄道クラス）	必修	1							◎							
	観光実務マネジメント論（鉄道クラス）	必修	1									◎					
CP５ 職業専門科目群（観光英語）	観光基礎英語Ⅰ	必修	1	◎													
	観光基礎英語Ⅱ	必修	1		◎												
	観光英語Ⅰ	選択	1				○										
	観光英語Ⅱ	選択	1					○									
	観光英語Ⅲ	選択	1														
	観光英語Ⅳ	選択	1														
CP６ 展開科目群 ①マネジメント力②情報力・創造力																	15
	経営学	必修	2							◎							
	中小企業論	2科目選択必修	2														
	コミュニティデザイン論		2										●				
	マーケティング論		2											●			
	起業論		2														
	ファシリテーション実習	必修	1										◎				
	ＩＣＴとＩｏＴ	必修	2										◎				
	人工知能概論	必修	2									◎					
	ＩＣＴ実習	必修	1												◎		
	人工知能プログラミング実習	必修	1											◎			
	マップデザイン実習	必修	1										◎				
	メディアコンテンツ実習	必修	1									◎					
CP７ 総合科目	専門演習	必修	4									◎	◎	◎	◎		4
			クォーター	9	11	5	9	12	8	8	8	4	10	3	3		96
			セメスター	2													
			通年									4					
			合計	36				36				24					

資料38　進路別履修モデル（Ａクラス：ホテル・旅館）

◎は必修科目、●は選択必修科目、○は選択科目

教育課程																	卒業単位
授業科目群	授業科目	履修区分	履修単位	1年次クォーター				2年次クォーター				3年次クォーター				
				①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	
CP１ 基礎科目群（自学自修）	基礎演習	必修	2	◎	◎											15
	キャリアデザイン論	必修	2							◎						
CP２ 基礎科目群（思考法）	文化論	必修	2	◎												
	地理学	必修	2		◎											
	企業の社会的責任	3科目必修選択	2													
	法と社会		2				●									
	ビジネスコミュニケーション		2													
	信仰の歴史		2													
	異文化理解		2					●								
	災害と防災の科学		2				●									
	介助実務実習	必修	1				◎									
CP３ 職業専門科目群（学術）																62
①観光学入門科目	観光学概論	必修	2	◎												
②地域観光論入門科目群	地域資源論	必修	2	◎												
	地域観光基礎実習	必修	1		◎											
③観光基礎理論科目群	観光社会文化論	必修	2		◎											
	観光振興・地域創生論	必修	2				◎									
	観光行動論	必修	2					◎								
	観光政策論	必修	2							◎						
④観光応用理論科目群	国際観光論	選択	2													
	観光文化施設論	選択	2					○								
	観光メディア論	選択	2					○								
	観光データ整理実習	必修	1					◎								
	エコツーリズム実習	必修	1							◎						
⑤せとうち観光研究科目群	せとうち観光アート論	2科目選択必修	2									●				
	せとうち観光資源論		2													
	四国巡礼研究		2													
	四国観光史		2												●	
CP４ 職業専門科目群（実務）																
①観光実務理論科目群	ホスピタリティマネジメント論	必修	2	◎												
	観光リスクマネジメント	必修	2		◎											
②観光事業論科目群	観光事業論	必修	2	◎												
	交通産業論	実習関連1科目選択必修	2													
	宿泊産業論		2										●			
	地域創生事業論		2													
③臨地実務実習事前学修科目群	ホスピタリティ実務実習A	実習関連1科目選択必修	1													
	ホスピタリティ実務実習B		1		●											
	観光支援ビジネス実務基礎論	必修	1			◎										
	観光実務基礎論（宿泊クラス）	必修	1					◎								
	観光実務応用論（宿泊クラス）	必修	1							◎						
④臨地実務実習科目群	臨地実務実習Ⅰ（観光支援ビジネス実習）	必修	4			◎										
	臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス）	必修	8						◎							
	臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス）	必修	8								◎					
⑤臨地実務実習事後学修科目群	観光支援ビジネス実務発展論	必修	1				◎									
	観光実務発展論（宿泊クラス）	必修	1							◎						
	観光実務マネジメント論（宿泊クラス）	必修	1									◎				
CP５ 職業専門科目群（観光英語）	観光基礎英語Ⅰ	必修	1	◎												
	観光基礎英語Ⅱ	必修	1		◎											
	観光英語Ⅰ	選択	1				○									
	観光英語Ⅱ	選択	1					○								
	観光英語Ⅲ	選択	1													
	観光英語Ⅳ	選択	1													
CP６ 展開科目群 ①マネジメント力②情報力・創造力																15
	経営学	必修	2					◎								
	中小企業論	2科目選択必修	2									●				
	コミュニティデザイン論		2													
	マーケティング論		2											●		
	起業論		2													
	ファシリテーション実習	必修	1										◎			
	ＩＣＴとＩｏＴ	必修	2									◎				
	人工知能概論	必修	2										◎			
	ＩＣＴ実習	必修	1											◎		
	人工知能プログラミング実習	必修	1												◎	
	マップデザイン実習	必修	1									◎				
	メディアコンテンツ実習	必修	1										◎			
CP７ 総合科目	専門演習	必修	4									◎	◎	◎	◎	4
			クォーター	11	9	5	9	13	8	7	8	8	6	3	3	96
			セメスター	2												
			通年									4				
			合計	36				36				24				

資料38　進路別履修モデル（Ｂクラス：ホテル・旅館）

◎は必修科目、●は選択必修科目、○は選択科目

教育課程																	卒業単位
授業科目群	授業科目	履修区分	履修単位	1年次クォーター				2年次クォーター				3年次クォーター				
				①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	
CP１ 基礎科目群（自学自修）	基礎演習	必修	2	◎	◎											15
	キャリアデザイン論	必修	2					◎								
CP２ 基礎科目群（思考法）	文化論	必修	2		◎											
	地理学	必修	2	◎												
	企業の社会的責任	3科目必修選択	2													
	法と社会		2				●									
	ビジネスコミュニケーション		2													
	信仰の歴史		2													
	異文化理解		2					●								
	災害と防災の科学		2				●									
	介助実務実習	必修	1				◎									
CP３ 職業専門科目群（学術）																62
①観光学入門科目	観光学概論	必修	2	◎												
②地域観光論入門科目群	地域資源論	必修	2	◎												
	地域観光基礎実習	必修	1		◎											
③観光基礎理論科目群	観光社会文化論	必修	2				◎									
	観光振興・地域創生論	必修	2		◎											
	観光行動論	必修	2							◎						
	観光政策論	必修	2					◎								
④観光応用理論科目群	国際観光論	選択	2													
	観光文化施設論	選択	2					○								
	観光メディア論	選択	2					○								
	観光データ整理実習	必修	1							◎						
	エコツーリズム実習	必修	1							◎						
⑤せとうち観光研究科目群	せとうち観光アート論	2科目選択必修	2									●				
	せとうち観光資源論		2													
	四国巡礼研究		2													
	四国観光史		2												●	
CP４ 職業専門科目群（実務）																
①観光実務理論科目群	ホスピタリティマネジメント論	必修	2		◎											
	観光リスクマネジメント	必修	2	◎												
②観光事業論科目群	観光事業論	必修	2		◎											
	交通産業論	実習関連1科目選択必修	2													
	宿泊産業論		2										●			
	地域創生事業論		2													
③臨地実務実習事前学修科目群	ホスピタリティ実務実習A	実習関連1科目選択必修	1													
	ホスピタリティ実務実習B		1		●											
	観光支援ビジネス実務基礎論	必修	1			◎										
	観光実務基礎論（宿泊クラス）	必修	1					◎								
	観光実務応用論（宿泊クラス）	必修	1							◎						
④臨地実務実習科目群	臨地実務実習Ⅰ（観光支援ビジネス実習）	必修	4			◎										
	臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス）	必修	8						◎							
	臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス）	必修	8								◎					
⑤臨地実務実習事後学修科目群	観光支援ビジネス実務発展論	必修	1				◎									
	観光実務発展論（宿泊クラス）	必修	1							◎						
	観光実務マネジメント論（宿泊クラス）	必修	1									◎				
CP５ 職業専門科目群（観光英語）	観光基礎英語Ⅰ	必修	1	◎												
	観光基礎英語Ⅱ	必修	1		◎											
	観光英語Ⅰ	選択	1				○									
	観光英語Ⅱ	選択	1					○								
	観光英語Ⅲ	選択	1													
	観光英語Ⅳ	選択	1													
CP６ 展開科目群 ①マネジメント力②情報力・創造力																15
	経営学	必修	2							◎						
	中小企業論	2科目選択必修	2									●				
	コミュニティデザイン論		2													
	マーケティング論		2											●		
	起業論		2													
	ファシリテーション実習	必修	1										◎			
	ＩＣＴとＩｏＴ	必修	2										◎			
	人工知能概論	必修	2									◎				
	ＩＣＴ実習	必修	1												◎	
	人工知能プログラミング実習	必修	1											◎		
	マップデザイン実習	必修	1										◎			
	メディアコンテンツ実習	必修	1									◎				
CP７ 総合科目	専門演習	必修	4									◎	◎	◎	◎	4
			クォーター	9	11	5	9	12	8	8	8	8	6	3	3	96
			セメスター	2												
			通年									4				
			合計	36				36				24				

資料38　進路別履修モデル（Aクラス：旅行会社、DMO、団体、ＮＰＯなど）

◎は必修科目、●は選択必修科目、○は選択科目

教育課程																	
授業科目群	授業科目	履修区分	履修単位	1年次クォーター				2年次クォーター				3年次クォーター				卒業単位
				①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	
CP１ 基礎科目群（自学自修）	基礎演習	必修	2	◎	◎											15
	キャリアデザイン論	必修	2							◎						
CP２ 基礎科目群（思考法）	文化論	必修	2	◎												
	地理学	必修	2		◎											
	企業の社会的責任	3科目必修選択	2													
	法と社会		2													
	ビジネスコミュニケーション		2													
	信仰の歴史		2					●								
	異文化理解		2					●								
	災害と防災の科学		2				●									
	介助実務実習	必修	1				◎									
CP３ 職業専門科目群（学術）																
①観光学入門科目	観光学概論	必修	2	◎												
②地域観光論入門科目群	地域資源論	必修	2	◎												
	地域観光基礎実習	必修	1		◎											
③観光基礎理論科目群	観光社会文化論	必修	2		◎											
	観光振興・地域創生論	必修	2				◎									
	観光行動論	必修	2					◎								
	観光政策論	必修	2							◎						
④観光応用理論科目群	国際観光論	選択	2							○						
	観光文化施設論	選択	2					○								
	観光メディア論	選択	2													
	観光データ整理実習	必修	1					◎								
	エコツーリズム実習	必修	1							◎						
⑤せとうち観光研究科目群	せとうち観光アート論	2科目選択必修	2									●				
	せとうち観光資源論		2													
	四国巡礼研究		2											●		
	四国観光史		2													
CP４ 職業専門科目群（実務）																
①観光実務理論科目群	ホスピタリティマネジメント論	必修	2	◎												62
	観光リスクマネジメント	必修	2		◎											
②観光事業論科目群	観光事業論	必修	2	◎												
	交通産業論	実習関連1科目選択必修	2													
	宿泊産業論		2													
	地域創生事業論		2											●		
③臨地実務実習事前学修科目群	ホスピタリティ実務実習A	実習関連1科目選択必修	1													
	ホスピタリティ実務実習B		1		●											
	観光支援ビジネス実務基礎論	必修	1			◎										
	観光実務基礎論（観光地域創生クラス）	必修	1					◎								
	観光実務応用論（観光地域創生クラス）	必修	1							◎						
④臨地実務実習科目群	臨地実務実習Ⅰ（観光支援ビジネス実習）	必修	4			◎										
	臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）	必修	8						◎							
	臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス）	必修	8								◎					
⑤臨地実務実習事後学修科目群	観光支援ビジネス実務発展論	必修	1				◎									
	観光実務発展論（観光地域創生クラス）	必修	1							◎						
	観光実務マネジメント論（観光地域創生クラス）	必修	1									◎				
CP５ 職業専門科目群（観光英語）	観光基礎英語Ⅰ	必修	1	◎												
	観光基礎英語Ⅱ	必修	1		◎											
	観光英語Ⅰ	選択	1				○									
	観光英語Ⅱ	選択	1					○								
	観光英語Ⅲ	選択	1													
	観光英語Ⅳ	選択	1													
CP６ 展開科目群 ①マネジメント力②情報力・創造力																15
	経営学	必修	2					◎								
	中小企業論	2科目選択必修	2													
	コミュニティデザイン論		2										●			
	マーケティング論		2													
	起業論		2												●	
	ファシリテーション実習	必修	1										◎			
	ＩＣＴとＩｏＴ	必修	2									◎				
	人工知能概論	必修	2										◎			
	ＩＣＴ実習	必修	1											◎		
	人工知能プログラミング実習	必修	1												◎	
	マップデザイン実習	必修	1									◎				
	メディアコンテンツ実習	必修	1										◎			
CP７ 総合科目	専門演習	必修	4									◎	◎	◎	◎	4
			クォーター	11	9	5	7	13	8	9	8	6	8	3	3	96
			セメスター	2												
			通年									4				
			合計	34				38				24				

資料38　進路別履修モデル（Ｂクラス：旅行会社、ＤＭＯ、団体、ＮＰＯなど）

◎は必修科目、●は選択必修科目、○は選択科目

教育課程																	卒業単位
授業科目群	授業科目	履修区分	履修単位	1年次クォーター				2年次クォーター				3年次クォーター					
				①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④		
CP１ 基礎科目群（自学自修）	基礎演習	必修	2	◎	◎												15
	キャリアデザイン論	必修	2					◎									
CP２ 基礎科目群（思考法）	文化論	必修	2		◎												
	地理学	必修	2	◎													
	企業の社会的責任	3科目必修選択	2														
	法と社会		2														
	ビジネスコミュニケーション		2														
	信仰の歴史		2					●									
	異文化理解		2					●									
	災害と防災の科学		2				●										
	介助実務実習	必修	1				◎										
CP３ 職業専門科目群（学術）																	
①観光学入門科目	観光学概論	必修	2	◎													
②地域観光論入門科目群	地域資源論	必修	2	◎													
	地域観光基礎実習	必修	1		◎												
③観光基礎理論科目群	観光社会文化論	必修	2				◎										
	観光振興・地域創生論	必修	2		◎												
	観光行動論	必修	2							◎							
	観光政策論	必修	2					◎									
④観光応用理論科目群	国際観光論	選択	2							○							
	観光文化施設論	選択	2					○									
	観光メディア論	選択	2														
	観光データ整理実習	必修	1							◎							
	エコツーリズム実習	必修	1							◎							
⑤せとうち観光研究科目群	せとうち観光アート論	2科目選択必修	2									●					
	せとうち観光資源論		2														
	四国巡礼研究		2											●			
	四国観光史		2														
CP４ 職業専門科目群（実務）																	
①観光実務理論科目群	ホスピタリティマネジメント論	必修	2		◎												62
	観光リスクマネジメント	必修	2	◎													
②観光事業論科目群	観光事業論	必修	2		◎												
	交通産業論	実習関連1科目選択必修	2														
	宿泊産業論		2														
	地域創生事業論		2										●				
③臨地実務実習事前学修科目群	ホスピタリティ実務実習A	実習関連1科目選択必修	1														
	ホスピタリティ実務実習B		1		●												
	観光支援ビジネス実務基礎論	必修	1			◎											
	観光実務基礎論（観光地域創生クラス）	必修	1					◎									
	観光実務応用論（観光地域創生クラス）	必修	1							◎							
④臨地実務実習科目群	臨地実務実習Ⅰ（観光支援ビジネス実習）	必修	4			◎											
	臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）	必修	8						◎								
	臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス）	必修	8								◎						
⑤臨地実務実習事後学修科目群	観光支援ビジネス実務発展論	必修	1				◎										
	観光実務発展論（観光地域創生クラス）	必修	1							◎							
	観光実務マネジメント論（観光地域創生クラス）	必修	1									◎					
CP５ 職業専門科目群（観光英語）	観光基礎英語Ⅰ	必修	1	◎													
	観光基礎英語Ⅱ	必修	1		◎												
	観光英語Ⅰ	選択	1				○										
	観光英語Ⅱ	選択	1					○									
	観光英語Ⅲ	選択	1														
	観光英語Ⅳ	選択	1														
CP６ 展開科目群 ①マネジメント力②情報力・創造力																	15
	経営学	必修	2							◎							
	中小企業論	2科目選択必修	2														
	コミュニティデザイン論		2										●				
	マーケティング論		2														
	起業論		2													●	
	ファシリテーション実習	必修	1										◎				
	ＩＣＴとＩｏＴ	必修	2										◎				
	人工知能概論	必修	2									◎					
	ＩＣＴ実習	必修	1													◎	
	人工知能プログラミング実習	必修	1											◎			
	マップデザイン実習	必修	1										◎				
	メディアコンテンツ実習	必修	1									◎					
CP７ 総合科目	専門演習	必修	4									◎	◎	◎	◎		4
			クォーター	9	11	5	7	12	8	10	8	6	8	3	3		
			セメスター	2													96
			通年									4					
			合計	34				38				24					

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Ａクラス：航空会社〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●1年次第１クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月		文化論Ａ①		ホスピタリティマネジメント論Ａ①	
火	基礎演習	観光学概論Ａ①	地域資源論Ａ①	観光事業論Ａ①	
水	観光基礎英語Ⅰ①	観光基礎英語Ⅰ②			
木		文化論Ａ②		ホスピタリティマネジメント論Ａ②	
金		観光学概論Ａ②	地域資源論Ａ②	観光事業論Ａ②	

●1年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	ホスピタリティ実務実習①		地理学Ａ①		観光リスクマネジメントＡ①
火	基礎演習	地域観光基礎実習①		観光社会文化論Ａ①	
水	観光基礎英語Ⅱ①	観光基礎英語Ⅱ②			
木	ホスピタリティ実務実習②		地理学Ａ②		観光リスクマネジメントＡ②
金		地域観光基礎実習Ａ②		観光社会文化論Ａ②	

●1年次第３クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	観光支援ビジネス実務基礎論① （前半のみ）	臨地実務実習Ⅰ			
火					
水	観光支援ビジネス実務基礎論② （前半のみ）				
木					
金					

●1年次第４クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月		企業の社会的責任①			観光振興・地域創生論Ａ①
火		観光支援ビジネス実務発展論①前半のみ	介護実務実習Ａ①		
水	観光英語Ⅰ①	観光英語Ⅰ②			
木		企業の社会的責任②			観光振興・地域創生論Ａ②
金		観光支援ビジネス実務発展論②前半のみ	介護実務実習Ａ②		

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Ａクラス：航空会社〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●２年次第１クォータ時間割表

	1限	2限	3限	4限	5限
	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
月				信仰の歴史①	ビジネスコミュニケーション①
火			観光行動論Ａ①		観光実務基礎論①後半のみ
水		観光英語Ⅱ①	観光英語Ⅱ②	経営学Ａ①	経営学Ａ②
木				信仰の歴史②	ビジネスコミュニケーション②
金			観光行動論Ａ②		観光実務基礎論②後半のみ

※観光データ整理実習Ａは集中

●２年次第2クォータ時間割表

	1限	2限	3限	4限	5限
	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
月	臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）				
火					
水					
木					
金					

●２年次第３クォータ時間割表

	1限	2限	3限	4限	5限
	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
月		観光政策論Ａ①	キャリアデザイン論Ａ①	観光実務発展論①前半のみ	
火		観光実務応用論①後半のみ		国際観光論①	
水	観光英語Ⅲ①	観光英語Ⅲ②	エコツーリズム実習Ａ	エコツーリズム実習Ａ	
木		観光実務応用論②後半のみ	キャリアデザイン論Ａ②	観光実務発展論②前半のみ	
金		観光政策論Ａ②		国際観光論②	

●２年次第４クォータ時間割表

	1限	2限	3限	4限	5限
	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
月	臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）				
火					
水					
木					
金					

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Ａクラス：航空会社〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●３年次第１クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月		ＩＣＴとＩｏＴ　Ａ①		中小企業論①	
火	観光実務マネジメント論①	観光英語Ⅳ①		マップデザイン実習Ａ①	
水		専門演習			
木		ＩＣＴとＩｏＴ　Ａ②		中小企業論②	
金	観光実務マネジメント論②	観光英語Ⅳ②		マップデザイン実習Ａ②	

●３年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月			人工知能概論Ａ①		
火			せとうち観光資源論①		メディアコンテンツ実習Ａ①
水		専門演習			
木			人工知能概論Ａ②		
金			せとうち観光資源論②		メディアコンテンツ実習Ａ②

※ファシリテーション実習**及び交通産業論**は集中

●３年次第３クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月			ＩＣＴ実習Ａ①		
火			四国巡礼研究①		
水		専門演習			
木			ＩＣＴ実習Ａ②		
金			四国巡礼研究②		

●３年次第４クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月				起業論①	
火				人工知能プログラミング実習Ａ①	
水		専門演習			
木				起業論②	
金				人工知能プログラミング実習Ａ②	

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Bクラス：鉄道会社〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●1年次第１クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月			地理学B①		観光リスクマネジメントB①
火	基礎演習	観光学概論B①			地域資源論B①
水	観光基礎英語Ⅰ①	観光基礎英語Ⅰ②			
木			地理学B②		観光リスクマネジメントB②
金		観光学概論B②			地域資源論B②

●1年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	ホスピタリティ実務実習①	文化論B①		ホスピタリティマネジメント論B①	
火	基礎演習	地域観光基礎実習①	観光事業論B①		観光振興・地域創生論B①
水	観光基礎英語Ⅱ①	観光基礎英語Ⅱ②			
木	ホスピタリティ実務実習②	文化論B②		ホスピタリティマネジメント論B②	
金		地域観光基礎実習②	観光事業論B②		観光振興・地域創生論B②

●1年次第３クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	観光支援ビジネス実務基礎論①（前半のみ）	臨地実務実習Ⅰ			
火					
水	観光支援ビジネス実務基礎論②（前半のみ）				
木					
金					

●1年次第４クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月		企業の社会的責任①			
火		観光支援ビジネス実務発展論①前半のみ		介護実務実習B①	観光社会文化論B①
水	観光英語Ⅰ①	観光英語Ⅰ②			
木		企業の社会的責任②			
金		観光支援ビジネス実務発展論②前半のみ		介護実務実習B②	観光社会文化論B②

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Bクラス：航空会社〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●2年次第1クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月		キャリアデザイン論B①		信仰の歴史①	ビジネスコミュニケーション①
火	観光政策論B①				観光実務基礎論①後半のみ
水		観光英語Ⅱ①	観光英語Ⅱ②		
木		キャリアデザイン論B②		信仰の歴史②	ビジネスコミュニケーション②
金	観光政策論B②				観光実務基礎論②後半のみ

●2年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）				
火					
水					
木					
金					

●2年次第3クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	エコツーリズム実習B	エコツーリズム実習B		観光実務発展論①前半のみ	
火		観光実務応用論①後半のみ	観光行動論B①	国際観光論①	
水	観光英語Ⅲ①	観光英語Ⅲ②		経営学B①	経営学B②
木		観光実務応用論②後半のみ		観光実務発展論②前半のみ	
金			観光行動論B②	国際観光論②	

※観光データ整理実習Bは集中

●2年次第4クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）				
火					
水					
木					
金					

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Ｂクラス：航空会社〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●３年次第１クォータ時間割表

	1限	2限	3限	4限	5限
	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
月			人工知能概論Ｂ①		
火	観光実務マネジメント論①	観光英語Ⅳ①			メディアコンテンツ実習Ｂ①
水		専門演習			
木			人工知能概論Ｂ②		
金	観光実務マネジメント論②	観光英語Ⅳ②			メディアコンテンツ実習Ｂ②

●３年次第2クォータ時間割表

	1限	2限	3限	4限	5限
	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
月		マップデザイン実習Ｂ①			
火		ＩＣＴとＩｏＴ　Ｂ①	せとうち観光資源論①		
水		専門演習			
木		マップデザイン実習Ｂ②			
金		ＩＣＴとＩｏＴ　Ｂ②	せとうち観光資源論②		

※ファシリテーション実習**及び交通産業論**は集中

●３年次第３クォータ時間割表

	1限	2限	3限	4限	5限
	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
月				人工知能プログラミング実習Ｂ①	
火			四国巡礼研究①		
水		専門演習			
木				人工知能プログラミング実習Ｂ②	
金			四国巡礼研究②		

●３年次第４クォータ時間割表

	1限	2限	3限	4限	5限
	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
月				起業論①	
火			ＩＣＴ実習Ｂ①		
水		専門演習			
木				起業論②	
金			ＩＣＴ実習Ｂ②		

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Ａクラス：鉄道会社〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●1年次第１クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月		文化論Ａ①		ホスピタリティマネジメント論Ａ①	
火	基礎演習	観光学概論Ａ①	地域資源論Ａ①	観光事業論Ａ①	
水	観光基礎英語Ⅰ①	観光基礎英語Ⅰ②			
木		文化論Ａ②		ホスピタリティマネジメント論Ａ②	
金		観光学概論Ａ②	地域資源論Ａ②	観光事業論Ａ②	

●1年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	ホスピタリティ実務実習①		地理学Ａ①		観光リスクマネジメントＡ①
火	基礎演習	地域観光基礎実習①		観光社会文化論Ａ①	
水	観光基礎英語Ⅱ①	観光基礎英語Ⅱ②			
木	ホスピタリティ実務実習②		地理学Ａ②		観光リスクマネジメントＡ②
金		地域観光基礎実習Ａ②		観光社会文化論Ａ②	

●1年次第３クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	観光支援ビジネス実務基礎論① （前半のみ）	臨地実務実習Ⅰ			
火					
水	観光支援ビジネス実務基礎論② （前半のみ）				
木					
金					

●1年次第４クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月		企業の社会的責任①	法と社会①		観光振興・地域創生論Ａ①
火		観光支援ビジネス実務発展論①前半のみ	介護実務実習Ａ①		
水	観光英語Ⅰ①	観光英語Ⅰ②			
木		企業の社会的責任②	法と社会②		観光振興・地域創生論Ａ②
金		観光支援ビジネス実務発展論②前半のみ	介護実務実習Ａ②		

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Ａクラス：鉄道会社〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●２年次第１クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	観光文化施設論①		観光メディア論①		ビジネスコミュニケーション①
火			観光行動論Ａ①		観光実務基礎論①後半のみ
水		観光英語Ⅱ①	観光英語Ⅱ②	経営学Ａ①	経営学Ａ②
木	観光文化施設論②		観光メディア論②		ビジネスコミュニケーション②
金			観光行動論Ａ②		観光実務基礎論②後半のみ

※観光データ整理実習Ａは集中

●２年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス）				
火					
水					
木					
金					

●２年次第３クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月		観光政策論Ａ①	キャリアデザイン論Ａ①	観光実務発展論①前半のみ	
火		観光実務応用論①後半のみ			
水			エコツーリズム実習Ａ	エコツーリズム実習Ａ	
木		観光実務応用論②後半のみ	キャリアデザイン論Ａ②	観光実務発展論②前半のみ	
金		観光政策論Ａ②			

●２年次第４クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス）				
火					
水					
木					
金					

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Ａクラス：鉄道会社〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●３年次第１クォータ時間割表

	1限	2限	3限	4限	5限
	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
月		ＩＣＴとＩｏＴ　Ａ①			
火	観光実務マネジメント論①			マップデザイン実習Ａ①	
水		専門演習			
木		ＩＣＴとＩｏＴ　Ａ②			
金	観光実務マネジメント論②			マップデザイン実習Ａ②	

●３年次第2クォータ時間割表

	1限	2限	3限	4限	5限
	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
月	コミュニティデザイン論①		人工知能概論Ａ①		
火			せとうち観光資源論①		メディアコンテンツ実習Ａ①
水		専門演習			
木	コミュニティデザイン論②		人工知能概論Ａ②		
金			せとうち観光資源論②		メディアコンテンツ実習Ａ②

※ファシリテーション実習**及び交通産業論**は集中

●３年次第３クォータ時間割表

	1限	2限	3限	4限	5限
	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
月			ＩＣＴ実習Ａ①		
火				マーケティング論①	
水		専門演習			
木			ＩＣＴ実習Ａ②		
金				マーケティング論②	

●３年次第４クォータ時間割表

	1限	2限	3限	4限	5限
	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
月			四国観光史①		
火				人工知能プログラミング実習Ａ①	
水		専門演習			
木			四国観光史②		
金				人工知能プログラミング実習Ａ②	

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Bクラス：鉄道会社〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●1年次第１クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月			地理学Ｂ①		観光リスクマネジメントＢ①
火	基礎演習	観光学概論Ｂ①			地域資源論Ｂ①
水	観光基礎英語Ⅰ①	観光基礎英語Ⅰ②			
木			地理学Ｂ②		観光リスクマネジメントＢ②
金		観光学概論Ｂ②			地域資源論Ｂ②

●1年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	ホスピタリティ実務実習①	文化論Ｂ①		ホスピタリティマネジメント論Ｂ①	
火	基礎演習	地域観光基礎実習①	観光事業論Ｂ①		観光振興・地域創生論Ｂ①
水	観光基礎英語Ⅱ①	観光基礎英語Ⅱ②			
木	ホスピタリティ実務実習②	文化論Ｂ②		ホスピタリティマネジメント論Ｂ②	
金		地域観光基礎実習②	観光事業論Ｂ②		観光振興・地域創生論Ｂ②

●1年次第３クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	観光支援ビジネス実務基礎論①（前半のみ）	臨地実務実習Ⅰ			
火					
水	観光支援ビジネス実務基礎論②（前半のみ）				
木					
金					

●1年次第４クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月		企業の社会的責任①	法と社会①		
火		観光支援ビジネス実務発展論①前半のみ		介護実務実習Ｂ①	観光社会文化論Ｂ①
水	観光英語Ⅰ①	観光英語Ⅰ②			
木		企業の社会的責任②	法と社会②		
金		観光支援ビジネス実務発展論②前半のみ		介護実務実習Ｂ②	観光社会文化論Ｂ②

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Ｂクラス：鉄道会社〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●２年次第１クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	観光文化施設論①	キャリアデザイン論Ｂ①	観光メディア論①		ビジネスコミュニケーション①
火	観光政策論Ｂ①				観光実務基礎論①後半のみ
水		観光英語Ⅱ①	観光英語Ⅱ②		
木	観光文化施設論②	キャリアデザイン論Ｂ②	観光メディア論②		ビジネスコミュニケーション②
金	観光政策論Ｂ②				観光実務基礎論②後半のみ

●２年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス）				
火					
水					
木					
金					

●２年次第３クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	エコツーリズム実習Ｂ	エコツーリズム実習Ｂ		観光実務発展論①前半のみ	
火		観光実務応用論①後半のみ	観光行動論Ｂ①		
水				経営学Ｂ①	経営学Ｂ②
木		観光実務応用論②後半のみ		観光実務発展論②前半のみ	
金			観光行動論Ｂ②		

※観光データ整理実習Ｂは集中

●２年次第４クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス）				
火					
水					
木					
金					

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Ｂクラス：鉄道会社〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●３年次第１クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月			人工知能概論Ｂ①		
火	観光実務マネジメント論①				メディアコンテンツ実習Ｂ①
水		専門演習			
木			人工知能概論Ｂ②		
金	観光実務マネジメント論②				メディアコンテンツ実習Ｂ②

●３年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	コミュニティデザイン論①	マップデザイン実習Ｂ①			
火		ＩＣＴとＩｏＴ　Ｂ①	せとうち観光資源論①		
水		専門演習			
木	コミュニティデザイン論②	マップデザイン実習Ｂ②	せとうち観光資源論②		
金		ＩＣＴとＩｏＴ　Ｂ②			

※ファシリテーション実習**及び交通産業論**は集中

●３年次第３クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月				人工知能プログラミング実習Ｂ①	
火			マーケティング論①		
水		専門演習			
木				人工知能プログラミング実習Ｂ②	
金			マーケティング論②		

●３年次第４クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月			四国観光史①		
火			ＩＣＴ実習Ｂ①		
水		専門演習			
木			四国観光史①		
金			ＩＣＴ実習Ｂ②		

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Aクラス：ホテル・旅館〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●1年次第１クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月		文化論A①		ホスピタリティマネジメント論A①	
火	基礎演習	観光学概論A①	地域資源論A①	観光事業論A①	
水	観光基礎英語Ⅰ①	観光基礎英語Ⅰ②			
木		文化論A②		ホスピタリティマネジメント論A②	
金		観光学概論A②	地域資源論A②	観光事業論A②	

●1年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	ホスピタリティ実務実習①		地理学A①		観光リスクマネジメントA①
火	基礎演習	地域観光基礎実習A①		観光社会文化論A①	
水	観光基礎英語Ⅱ①	観光基礎英語Ⅱ②			
木	ホスピタリティ実務実習②		地理学A②		観光リスクマネジメントA②
金		地域観光基礎実習A②		観光社会文化論A②	

●1年次第３クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	観光支援ビジネス実務基礎論①（前半のみ）	臨地実務実習Ⅰ			
火					
水	観光支援ビジネス実務基礎論②（前半のみ）				
木					
金					

●1年次第４クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月		企業の社会的責任①		災害と防災の科学①	観光振興・地域再生論A①
火		観光支援ビジネス実務発展論①前半のみ	介護実務実習A①		
水	観光英語Ⅰ①	観光英語Ⅰ②			
木		企業の社会的責任②		災害と防災の科学②	観光振興・地域再生論A②
金		観光支援ビジネス実務発展論②前半のみ	介護実務実習A②		

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Ａクラス：ホテル・旅館〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●２年次第１クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	観光文化施設論①		観光メディア論①		
火			観光行動論Ａ①	異文化理解①	観光実務基礎論①後半のみ
水		観光英語Ⅱ①	観光英語Ⅱ②	経営学Ａ①	経営学Ａ②
木	観光文化施設論②		観光メディア論②		
金			観光行動論Ａ②	異文化理解②	観光実務基礎論②後半のみ

※観光データ整理実習Ａは集中

●２年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス）				
火					
水					
木					
金					

●２年次第３クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月		観光政策論Ａ①	キャリアデザイン論Ａ①	観光実務発展論①前半のみ	
火		観光実務応用論①後半のみ			
水			エコツーリズム実習Ａ	エコツーリズム実習Ａ	
木		観光実務応用論②後半のみ	キャリアデザイン論Ａ②	観光実務発展論②前半のみ	
金		観光政策論Ａ②			

●２年次第４クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス）				
火					
水					
木					
金					

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Ａクラス：ホテル・旅館〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●３年次第１クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月		ＩＣＴとＩｏＴ　Ａ①		中小企業論①	
火	観光実務マネジメント論①		せとうち観光アート論①	マップデザイン実習Ａ①	
水		専門演習			
木		ＩＣＴとＩｏＴ　Ａ②		中小企業論②	
金	観光実務マネジメント論②		せとうち観光アート論②	マップデザイン実習Ａ②	

●３年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月			人工知能概論Ａ①		宿泊産業論①
火					メディアコンテンツ実習Ａ①
水		専門演習			
木			人工知能概論Ａ②		宿泊産業論②
金					メディアコンテンツ実習Ａ②

※ファシリテーション実習は集中。

●３年次第３クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月			ＩＣＴ実習Ａ①		
火				マーケティング論①	
水		専門演習			
木			ＩＣＴ実習Ａ②		
金				マーケティング論②	

●３年次第４クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月			四国観光史①		
火				人工知能プログラミング実習Ａ①	
水		専門演習			
木			四国観光史②		
金				人工知能プログラミング実習Ａ②	

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Bクラス：ホテル・旅館〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●1年次第１クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月			地理学Ｂ①		観光リスクマネジメントＢ①
火	基礎演習	観光学概論Ｂ①			地域資源論Ｂ①
水	観光基礎英語Ⅰ①	観光基礎英語Ⅰ②			
木			地理学Ｂ②		観光リスクマネジメントＢ②
金		観光学概論Ｂ②			地域資源論Ｂ②

●1年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	ホスピタリティ実務実習①	文化論Ｂ①		ホスピタリティマネジメント論Ｂ①	
火	基礎演習	地域観光基礎実習①	観光事業論Ｂ①		観光振興・地域創生論Ｂ①
水	観光基礎英語Ⅱ①	観光基礎英語Ⅱ②			
木	ホスピタリティ実務実習②	文化論Ｂ②		ホスピタリティマネジメント論Ｂ②	
金		地域観光基礎実習②	観光事業論Ｂ②		観光振興・地域創生論Ｂ②

●1年次第３クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	観光支援ビジネス実務基礎論①（前半のみ）	臨地実務実習Ⅰ			
火					
水	観光支援ビジネス実務基礎論②（前半のみ）				
木					
金					

●1年次第４クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月		企業の社会的責任①		災害と防災の科学①	
火		観光支援ビジネス実務発展論①前半のみ		介護実務実習Ｂ①	観光社会文化論Ｂ①
水	観光英語Ⅰ①	観光英語Ⅰ②			
木		企業の社会的責任②		災害と防災の科学②	
金		観光支援ビジネス実務発展論②前半のみ		介護実務実習Ｂ②	観光社会文化論Ｂ②

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Bクラス：ホテル・旅館〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●２年次第１クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	観光文化施設論①	キャリアデザイン論Ｂ①	観光メディア論①		
火	観光政策論Ｂ①			異文化理解①	観光実務基礎論①後半のみ
水		観光英語Ⅱ①	観光英語Ⅱ②		
木	観光文化施設論②	キャリアデザイン論Ｂ②	観光メディア論②		
金	観光政策論Ｂ②			異文化理解②	観光実務基礎論②後半のみ

●２年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス）				
火					
水					
木					
金					

●２年次第３クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	エコツーリズム実習Ｂ	エコツーリズム実習Ｂ		観光実務発展論①前半のみ	
火		観光実務応用論①後半のみ	観光行動論Ｂ①		
水					
木		観光実務応用論②後半のみ		観光実務発展論②前半のみ	
金			観光行動論Ｂ②		

※観光データ整理実習Ｂは集中

●２年次第４クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス）				
火					
水					
木					
金					

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Bクラス：ホテル・旅館〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●３年次第１クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月			人工知能概論Ｂ①	中小企業論①	
火	観光実務マネジメント論①		せとうち観光アート論①		メディアコンテンツ実習Ｂ①
水		専門演習			
木			人工知能概論Ｂ②	中小企業論②	
金	観光実務マネジメント論②		せとうち観光アート論②		メディアコンテンツ実習Ｂ②

●３年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月		マップデザイン実習Ｂ①			宿泊産業論①
火		ＩＣＴとＩｏＴ　Ｂ①			
水		専門演習			
木		マップデザイン実習Ｂ②			宿泊産業論②
金		ＩＣＴとＩｏＴ　Ｂ②			

※ファシリテーション実習は集中。

●３年次第３クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月				人工知能プログラミング実習Ｂ①	
火			マーケティング論①		
水		専門演習			
木				人工知能プログラミング実習Ｂ②	
金			マーケティング論②		

●３年次第４クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月			四国観光史①		
火			ＩＣＴ実習Ｂ①		
水		専門演習			
木			四国観光史②		
金			ＩＣＴ実習Ｂ②		

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Aクラス：旅行業、DMO、団体、NPOなど〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●1年次第１クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月		文化論A①		ホスピタリティマネジメント論A①	
火	基礎演習	観光学概論A①	地域資源論A①	観光事業論A①	
水	観光基礎英語Ⅰ①	観光基礎英語Ⅰ②			
木		文化論A②		ホスピタリティマネジメント論A②	
金		観光学概論A②	地域資源論A②	観光事業論A②	

●1年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	ホスピタリティ実務実習①		地理学A①		観光リスクマネジメントA①
火	基礎演習	地域観光基礎実習①		観光社会文化論A①	
水	観光基礎英語Ⅱ①	観光基礎英語Ⅱ②			
木	ホスピタリティ実務実習②		地理学A②		観光リスクマネジメントA②
金		地域観光基礎実習A②		観光社会文化論A②	

●1年次第３クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	観光支援ビジネス実務基礎論①（前半のみ）	臨地実務実習Ⅰ			
火					
水	観光支援ビジネス実務基礎論②（前半のみ）				
木					
金					

●1年次第４クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月				災害と防災の科学①	観光振興・地域創生論A①
火		観光支援ビジネス実務発展論①前半のみ	介護実務実習A①		
水	観光英語Ⅰ①	観光英語Ⅰ②			
木				災害と防災の科学②	観光振興・地域創生論A②
金		観光支援ビジネス実務発展論②前半のみ	介護実務実習A②		

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Ａクラス：旅行会社、DMO、団体、ＮＰＯなど〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●２年次第１クォータ時間割表

	1限	2限	3限	4限	5限
	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
月	観光文化施設論①			信仰の歴史①	
火			観光行動論Ａ①	異文化理解①	観光実務基礎論①後半のみ
水		観光英語Ⅱ①	観光英語Ⅱ②	経営学Ａ①	経営学Ａ②
木	観光文化施設論②			信仰の歴史②	
金			観光行動論Ａ②	異文化理解②	観光実務基礎論②後半のみ

※観光データ整理実習Ａは集中

●２年次第2クォータ時間割表

	1限	2限	3限	4限	5限
	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
月	臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）				
火					
水					
木					
金					

●２年次第３クォータ時間割表

	1限	2限	3限	4限	5限
	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
月		観光政策論Ａ①	キャリアデザイン論Ａ①	観光実務発展論①前半のみ	
火		観光実務応用論①後半のみ		国際観光論①	
水			エコツーリズム実習Ａ	エコツーリズム実習Ａ	
木		観光実務応用論②後半のみ	キャリアデザイン論Ａ②	観光実務発展論②前半のみ	
金		観光政策論Ａ②		国際観光論②	

●２年次第４クォータ時間割表

	1限	2限	3限	4限	5限
	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
月	臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）				
火					
水					
木					
金					

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Aクラス：旅行会社、DMO、団体、NPOなど〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●3年次第1クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月		ＩCTとIoT　A①			
火	観光実務マネジメント論①		せとうち観光アート論①	マップデザイン実習A①	
水		専門演習			
木		ＩCTとIoT　A②			
金	観光実務マネジメント論②		せとうち観光アート論②	マップデザイン実習A②	

●3年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	コミュニティデザイン論①		人工知能概論A①		
火				地域創生事業論①	メディアコンテンツ実習A①
水		専門演習			
木	コミュニティデザイン論②		人工知能概論A②	地域創生事業論②	
金					メディアコンテンツ実習A②

※ファシリテーション実習は集中。

●3年次第3クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月			ＩCT実習A①		
火			四国巡礼研究①		
水		専門演習			
木			ＩCT実習A②		
金			四国巡礼研究②		

●3年次第4クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月				起業論①	
火				人工知能プログラミング実習A①	
水		専門演習			
木				起業論②	
金				人工知能プログラミング実習A②	

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Bクラス：旅行会社、DMO、団体、NPOなど〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●1年次第1クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月			地理学B①		観光リスクマネジメントB①
火	基礎演習	観光学概論B①			地域資源論B①
水	観光基礎英語Ⅰ①	観光基礎英語Ⅰ②			
木			地理学B②		観光リスクマネジメントB②
金		観光学概論B②			地域資源論B②

●1年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	ホスピタリティ実務実習①	文化論B①		ホスピタリティマネジメント論B①	
火	基礎演習	地域観光基礎実習①	観光事業論B①		観光振興・地域創生論B①
水	観光基礎英語Ⅱ①	観光基礎英語Ⅱ②			
木	ホスピタリティ実務実習②	文化論B②		ホスピタリティマネジメント論B②	
金		地域観光基礎実習②	観光事業論B②		観光振興・地域創生論B②

●1年次第3クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	観光支援ビジネス実務基礎論①（前半のみ）	臨地実務実習Ⅰ			
火					
水	観光支援ビジネス実務基礎論②（前半のみ）				
木					
金					

●1年次第4クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月			法と社会①	災害と防災の科学①	
火		観光支援ビジネス実務発展論①前半のみ		介護実務実習B①	観光社会文化論B①
水	観光英語Ⅰ①	観光英語Ⅰ②			
木			法と社会②	災害と防災の科学②	
金		観光支援ビジネス実務発展論②前半のみ		介護実務実習B②	観光社会文化論B②

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Bクラス：旅行会社、DMO、団体、NPOなど〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●2年次第1クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	観光文化施設論①	キャリアデザイン論B①			
火	観光政策論B①			異文化理解①	観光実務基礎論①後半のみ
水		観光英語Ⅱ①	観光英語Ⅱ②		
木	観光文化施設論②	キャリアデザイン論B②			
金	観光政策論B②			異文化理解②	観光実務基礎論②後半のみ

●2年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）				
火					
水					
木					
金					

●2年次第3クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	エコツーリズム実習B	エコツーリズム実習B		観光実務発展論①前半のみ	
火		観光実務応用論①後半のみ	観光行動論B①	国際観光論①	
水					
木		観光実務応用論②後半のみ		観光実務発展論②前半のみ	
金			観光行動論B②	国際観光論②	

※観光データ整理実習Bは集中

●2年次第4クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）				
火					
水					
木					
金					

資料39　進路別履修モデルに対応する時間割表〔Bクラス：旅行会社、DMO、団体、NPOなど〕

【用例】 必修科目 | 選択必修科目 | 選択科目

●3年次第1クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月			人工知能概論B①		
火	観光実務マネジメント論①		せとうち観光アート論①		メディアコンテンツ実習B①
水		専門演習			
木			人工知能概論B②		
金	観光実務マネジメント論②		せとうち観光アート論②		メディアコンテンツ実習B②

●3年次第2クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月	コミュニティデザイン論①	マップデザイン実習B①			
火		ＩＣＴとＩｏＴ　B①		地域創生事業論①	
水		専門演習			
木	コミュニティデザイン論②	マップデザイン実習B②			
金		ＩＣＴとＩｏＴ　B②		地域創生事業論②	

※ファシリテーション実習は集中。

●3年次第3クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月				人工知能プログラミング実習B①	
火			四国巡礼研究①		
水		専門演習			
木				人工知能プログラミング実習B②	
金			四国巡礼研究②		

●3年次第4クォータ時間割表

	1限 9:00～10:30	2限 10:40～12:10	3限 13:00～14:30	4限 14:40～16:10	5限 16:20～17:50
月				起業論①	
火			ＩＣＴ実習B①		
水		専門演習			
木				起業論②	
金			ＩＣＴ実習B②		

資料40　せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科　クラス別科目配当・履修順序表（Aクラス）

科目区分	授業科目	履修区分	履修単位	教育課程 1年次クォーター ①	1年次クォーター ②	1年次クォーター ③	1年次クォーター ④	2年次クォーター ①	2年次クォーター ②	2年次クォーター ③	2年次クォーター ④	3年次クォーター ①	3年次クォーター ②	3年次クォーター ③	3年次クォーター ④
基礎科目	基礎演習	必修	2	基礎演習	基礎演習										
	キャリアデザイン論	必修	2							キャリアデザイン論					
	文化論	必修	2	文化論											
	地理学	必修	2		地理学										
	企業の社会的責任	3科目必修選択	2				企業の社会的責任								
	法と社会		2				法と社会								
	災害と防災の科学		2				災害と防災の科学								
	ビジネスコミュニケーション		2					ビジネスコミュニケーション							
	信仰の歴史		2					信仰の歴史							
	異文化理解		2					異文化理解							
	介助実務実習	必修	1				介助実務実習								
職業専門科目（学術）	観光学概論	必修	2	観光学概論											
	地域資源論	必修	2	地域資源論											
	地域観光基礎実習	必修	1		地域観光基礎実習										
	観光社会文化論	必修	2		観光社会文化論										
	観光振興・地域創生論	必修	2				観光振興・地域創生論								
	観光行動論	必修	2					観光行動論							
	観光政策論	必修	2							観光政策論					
	国際観光論	選択	2							国際観光論					
	観光文化施設論	選択	2					観光文化施設論							
	観光メディア論	選択	2					観光メディア論							
	観光データ整理実習	必修	1					観光データ整理実習							
	エコツーリズム実習	必修	1							エコツーリズム実習					
	せとうち観光アート論	2科目選択必修	2									せとうち観光アート論			
	せとうち観光資源論		2										せとうち観光資源論		
	四国巡礼研究		2											四国巡礼研究	
	四国観光史		2												四国観光史
職業専門科目（実務）	ホスピタリティマネジメント論	必修	2	ホスピタリティマネジメント論											
	観光リスクマネジメント	必修	2		観光リスクマネジメント										
	観光事業論	必修	2	観光事業論											
	ホスピタリティ実務実習A	実習関連1科目選択必修	1		ホスピタリティ実務実習A										
	ホスピタリティ実務実習B		1		ホスピタリティ実務実習B										
	観光支援ビジネス実務基礎論	必修	1			観光支援ビジネス実務基礎論									
	臨地実務実習Ⅰ（観光支援ビジネス実習）	必修	4				臨地実務実習Ⅰ								
	観光支援ビジネス実務発展論	必修	1				観光支援ビジネス実務発展論								
	観光実務基礎論（航空クラス） 観光実務基礎論（鉄道クラス） 観光実務基礎論（宿泊クラス） 観光実務基礎論（観光地域創生クラス）	必修	1					観光実務基礎論							
	臨地実務実習Ⅱ（航空クラス） 臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス） 臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス） 臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）	必修	8						臨地実務実習Ⅱ						
	観光実務発展論（航空クラス） 観光実務発展論（鉄道クラス） 観光実務発展論（宿泊クラス） 観光実務発展論（観光地域創生クラス）	必修	1							観光実務発展論					
	観光実務応用論（航空クラス） 観光実務応用論（鉄道クラス） 観光実務応用論（宿泊クラス） 観光実務応用論（観光地域創生クラス）	必修	1								観光実務応用論				
	臨地実務実習Ⅲ（航空クラス） 臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス） 臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス） 臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス）	必修	8								臨地実務実習Ⅲ				
	観光実務マネジメント論（航空クラス） 観光実務マネジメント論（鉄道クラス） 観光実務マネジメント論（宿泊クラス） 観光実務マネジメント論（観光地域創生クラス）	必修	1									観光実務マネジメント論			
	交通産業論	実習関連2科目選択必修	2										交通産業論		
	宿泊産業論		2										宿泊産業論		
	地域創生事業論		2										地域創生事業論		
職業専門科目（観光英語）	観光基礎英語Ⅰ	必修	1	観光基礎英語Ⅰ											
	観光基礎英語Ⅱ	必修	1		観光基礎英語Ⅱ										
	観光英語Ⅰ	選択	1				観光英語Ⅰ								
	観光英語Ⅱ	選択	1					観光英語Ⅱ							
	観光英語Ⅲ	選択	1							観光英語Ⅲ					
	観光英語Ⅳ	選択	1									観光英語Ⅳ			
展開科目	経営学	必修	2					経営学							
	中小企業論	2科目選択必修	2									中小企業論			
	コミュニティデザイン論		2										コミュニティデザイン論		
	マーケティング論		2											マーケティング論	
	起業論		2												起業論
	ファシリテーション実習	必修	1										ファシリテーション実習		
	ＩＣＴとＩｏＴ	必修	2									ＩＣＴとＩｏＴ			
	人工知能概論	必修	2										人工知能概論		
	ＩＣＴ実習	必修	1											ＩＣＴ実習	
	人工知能プログラミング実習	必修	1												人工知能プログラミング実習
	マップデザイン実習	必修	1									マップデザイン実習			
	メディアコンテンツ実習	必修	1										メディアコンテンツ実習		
総合科目	専門演習	必修	4									専門演習	専門演習	専門演習	専門演習

実習科目

1年次３Ｑ，２年次２Ｑ，４Ｑは臨地実務実習

資料40　せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科　クラス別科目配当・履修順序表（Ｂクラス）

科目区分	授業科目	履修区分	履修単位	教育課程 1年次クォーター ①	②	③	④	2年次クォーター ①	②	③	④	3年次クォーター ①	②	③	④
基礎科目	基礎演習	必修	2	基礎演習	基礎演習										
	キャリアデザイン論	必修	2					キャリアデザイン論							
	文化論	必修	2		文化論										
	地理学	必修	2	地理学											
	企業の社会的責任	3科目必修選択	2				企業の社会的責任								
	法と社会		2				法と社会								
	災害と防災の科学		2				災害と防災の科学								
	ビジネスコミュニケーション		2					ビジネスコミュニケーション							
	信仰の歴史		2					信仰の歴史							
	異文化理解		2					異文化理解							
	介助実務実習	必修	1				介助実務実習								
職業専門科目（学術）	観光学概論	必修	2	観光学概論											
	地域資源論	必修	2	地域資源論											
	地域観光基礎実習	必修	1		地域観光基礎実習										
	観光社会文化論	必修	2				観光社会文化論								
	観光振興・地域創生論	必修	2		観光振興・地域創生論										
	観光行動論	必修	2							観光行動論					
	観光政策論	必修	2					観光政策論							
	国際観光論	選択	2							国際観光論					
	観光文化施設論	選択	2					観光文化施設論							
	観光メディア論	選択	2					観光メディア論							
	観光データ整理実習	必修	1							観光データ整理実習					
	エコツーリズム実習	必修	1							エコツーリズム実習					
	せとうち観光アート論	2科目選択必修	2									せとうち観光アート論			
	せとうち観光資源論		2										せとうち観光資源論		
	四国巡礼研究		2											四国巡礼研究	
	四国観光史		2												四国観光史
職業専門科目（実務）	ホスピタリティマネジメント論	必修	2		ホスピタリティマネジメント論										
	観光リスクマネジメント	必修	2	観光リスクマネジメント											
	観光事業論	必修	2		観光事業論										
	ホスピタリティ実務実習A	実習関連1科目選択必修	1		ホスピタリティ実務実習A										
	ホスピタリティ実務実習B		1		ホスピタリティ実務実習B										
	観光支援ビジネス実務基礎論	必修	1			観光支援ビジネス実務基礎論									
	臨地実務実習Ⅰ（観光支援ビジネス実習）	必修	4			臨地実務実習Ⅰ									
	観光支援ビジネス実務発展論	必修	1				観光支援ビジネス実務発展論								
	観光実務基礎論（航空クラス） 観光実務基礎論（鉄道クラス） 観光実務基礎論（宿泊クラス） 観光実務基礎論（観光地域創生クラス）	必修	1					観光実務基礎論							
	臨地実務実習Ⅱ（航空クラス） 臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス） 臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス） 臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）	必修	8						臨地実務実習Ⅱ						
	観光実務発展論（航空クラス） 観光実務発展論（鉄道クラス） 観光実務発展論（宿泊クラス） 観光実務発展論（観光地域創生クラス）	必修	1							観光実務発展論					
	観光実務応用論（航空クラス） 観光実務応用論（鉄道クラス） 観光実務応用論（宿泊クラス） 観光実務応用論（観光地域創生クラス）	必修	1							観光実務応用論					
	臨地実務実習Ⅲ（航空クラス） 臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス） 臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス） 臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス）	必修	8								臨地実務実習Ⅲ				
	観光実務マネジメント論（航空クラス） 観光実務マネジメント論（鉄道クラス） 観光実務マネジメント論（宿泊クラス） 観光実務マネジメント論（観光地域創生クラス）	必修	1									観光実務マネジメント論			
	交通産業論	実習関連1科目選択必修	2										交通産業論		
	宿泊産業論		2										宿泊産業論		
	地域創生事業論		2										地域創生事業論		
職業専門科目（観光英語）	観光基礎英語Ⅰ	必修	1	観光基礎英語Ⅰ											
	観光基礎英語Ⅱ	必修	1		観光基礎英語Ⅱ										
	観光英語Ⅰ	選択	1				観光英語Ⅰ								
	観光英語Ⅱ	選択	1					観光英語Ⅱ							
	観光英語Ⅲ	選択	1							観光英語Ⅲ					
	観光英語Ⅳ	選択	1									観光英語Ⅳ			
展開科目	経営学	必修	2							経営学					
	中小企業論	2科目選択必修	2									中小企業論			
	コミュニティデザイン論		2										コミュニティデザイン論		
	マーケティング論		2											マーケティング論	
	起業論		2												起業論
	ファシリテーション実習	必修	1										ファシリテーション実習		
	ＩＣＴとＩｏＴ	必修	2										ＩＣＴとＩｏＴ		
	人工知能概論	必修	2									人工知能概論			
	ＩＣＴ実習	必修	1												ＩＣＴ実習
	人工知能プログラミング実習	必修	1											人工知能プログラミング実習	
	マップデザイン実習	必修	1										マップデザイン実習		
	メディアコンテンツ実習	必修	1									メディアコンテンツ実習			
総合科目	専門演習	必修	4									専門演習	専門演習	専門演習	専門演習

実習科目

１年次３Ｑ，２年次２Ｑ，４Ｑは臨地実務実習

資料 41　専任教員等定年規程

せとうち観光専門職短期大学　専任教員等定年規程

（目的）

第 1 条　この規程は、せとうち観光専門職短期大学の教授、准教授、講師及び助教並びに助手（以下「専任教員等」という。）の定年に関し必要な事項を定めるものとする。

（定年）

第 2 条　教授、准教授、講師の定年は満 65 歳とする。

2　助教及び助手の定年は満 60 歳とする。

3　専任教員等の退職の時期は、定年に達した日の属する年度の末日とする。

4　専門職短期大学設置の際に採用された専任教員等については、前全項の規定の限りではなく、個人の能力と本人の希望、本学の状況等に応じて満 70 歳まで在職できるものとする。

5　特別な事情があり、第 1 項から第 4 項により難い場合、理事会の議決を経て、満 70 歳を超えた者を採用することができる。

（再雇用）

第 3 条　専任教員等は定年退職後、再雇用することができる。再雇用の労働条件その他就業に関する事項については別途定める。

（適用除外）

第 4 条　学長の地位にある専任教員等については、その地位にある間は定年に関する規程を適用しない。

（改廃）

第 5 条　この規程の改廃は、理事会にて行う。

附則

1.この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

資料42　せとうち観光専門職短期大学　　観光振興学科　　総合時間割

第１クォーター

曜日	年次	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	1年次		文化論A① 担当教員 安村 教室 303	地理学B① 担当教員 谷﨑 教室 305	ホスピタリティマネジメント論A① 担当教員 青木 教室 301	観光リスクマネジメントB① 担当教員 安本 教室 303
	２年次	観光文化施設論① 担当教員 平 教室 304	キャリアデザイン論B① 担当教員 青木・堀田・福田 教室 301	観光メディア論① 担当教員 平 教室 304	信仰の歴史① 担当教員 谷﨑 教室 303	ビジネスコミュニケーション① 担当教員 堀田 教室 305
	３年次		ＩＣＴとＩｏＴ　Ａ　① 担当教員 米谷 教室 305	人工知能概論B① 担当教員 安藤 教室 307	中小企業論① 担当教員 山本 教室 306	
火	1年次	基礎演習 担当教員 吉田・田保・平・谷﨑口 教室 演習室３・４・５・６	観光学概論A・B① 担当教員 安村 **山崎** 教室 301 307	地域資源論A① 担当教員 吉田 教室 305	観光事業論A① 担当教員 藤野 教室 303	地域資源論B① 担当教員 吉田 教室 301
	２年次	観光政策論B① 担当教員 藤野 教室 302		観光行動論A① 担当教員 安村 教室 301	異文化理解① 担当教員 吉田 教室 305	観光実務基礎論① 担当教員 安本・石床・阿部 教室 ３０３・３０４・３０５
	３年次	観光実務マネジメント論① 担当教員 安本・石床・阿部 教室 ３０４・３０５・３０６	観光英語Ⅳ① 担当教員 宮西 教室 306	観光英語Ⅱ② 担当教員 宮西 教室 306	マップデザイン実習A① 担当教員 谷﨑 教室 ３０７またはＰＣ	メディアコンテンツ実習B① 担当教員 平 教室 ３０７またはＰＣ
水	1年次	観光基礎英語Ⅰ① 担当教員 竹中・武智 教室 ３０１・３０２	観光基礎英語Ⅰ② 担当教員 竹中・武智 教室 ３０１・３０２			
	２年次		観光英語Ⅱ① 担当教員 宮西 教室 306	観光英語Ⅱ② 担当教員 宮西 教室 306	経営学A① 担当教員 岡本 教室 303	経営学A② 担当教員 岡本 教室 303
	３年次		専門演習 担当教員 各教員 教室 演習室1～6、301～304			
木	1年次		文化論A② 担当教員 安村 教室 303	地理学B② 担当教員 谷﨑 教室 305	ホスピタリティマネジメント論A② 担当教員 青木 教室 301	観光リスクマネジメントB② 担当教員 安本 教室 303
	２年次	観光文化施設論② 担当教員 平 教室 304	キャリアデザイン論B② 担当教員 青木・堀田・福田 教室 301	観光メディア論② 担当教員 平 教室 304	信仰の歴史② 担当教員 谷﨑 教室 303	ビジネスコミュニケーション② 担当教員 堀田 教室 305
	３年次		ＩＣＴとＩｏＴ　Ａ　② 担当教員 米谷 教室 305	人工知能概論B② 担当教員 安藤 教室 307	中小企業論② 担当教員 山本 教室 306	
金	1年次		観光学概論A・B② 担当教員 安村 **山崎** 教室 301 307	地域資源論A② 担当教員 吉田 教室 305	観光事業論A② 担当教員 藤野 教室 303	地域資源論B② 担当教員 吉田 教室 301
	２年次	観光政策論B② 担当教員 藤野 教室 302		観光行動論A② 担当教員 安村 教室 301	異文化理解② 担当教員 吉田 教室 305	観光実務基礎論② 担当教員 安本・石床・阿部 教室 ３０３・３０４・３０５
	３年次	観光実務マネジメント論② 担当教員 安本・石床・阿部 教室 ３０４・３０５・３０６	観光英語Ⅳ② 担当教員 宮西 教室 306	せとうち観光アート論② 担当教員 笠原 教室 303	マップデザイン演習A② 担当教員 谷﨑 教室 ３０７またはＰＣ	メディアコンテンツ実習B② 担当教員 平 教室 ３０７またはＰＣ

※観光データ整理実習A（大井達雄）は集中。

資料42　せとうち観光専門職短期大学　　観光振興学科　　総合時間割

第２クォーター

曜日	年次	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	1年次	ホスピタリティ実務実習A・B①	文化論B①	地理学A①	ホスピタリティマネジメント論B①	観光リスクマネジメントA①
		担当教員 堀田 / 教室 301 ／ 担当教員 石床 / 教室 302	担当教員 田保 / 教室 303	担当教員 吉田 / 教室 305	担当教員 堀田 / 教室 304	担当教員 青木 / 教室 301
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）				
	３年次	コミュニティデザイン論①	マップデザイン実習B①	人工知能概論A①		宿泊産業論①
		担当教員 西成 / 教室 305	担当教員 谷﨑 / 教室 ３０７またはＰＣ	担当教員 安藤 / 教室 301		担当教員 石床 / 教室 302
火	1年次	基礎演習	地域観光基礎実習①	観光事業論B①	観光社会文化論A①	観光振興・地域創生論B①
		担当教員 吉田・田保・平・谷﨑□ / 教室 演習室３・４・５・６	担当教員 吉田・田保・平・谷﨑 / 教室 演習室３・４・５・６	担当教員 藤野 / 教室 303	担当教員 安村 / 教室 304	担当教員 安村 / 教室 302
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）				
	３年次		ＩＣＴとＩｏＴ　Ｂ　①	せとうち観光資源論①	地域創生事業論①	メディアコンテンツ実習A①
			担当教員 米谷 / 教室 301	担当教員 三谷 / 教室 305	担当教員 古川・藤原 / 教室 306	担当教員 平 / 教室 ３０４またはＰＣ
水	1年次	観光基礎英語Ⅱ①	観光基礎英語Ⅱ②			
		担当教員 竹中・武智 / 教室 ３０１・３０２	担当教員 竹中・武智 / 教室 ３０１・３０２			
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）				
	３年次		専門演習			
			担当教員 各教員 / 教室 演習室1～6、301～304			
木	1年次	ホスピタリティ実務実習A・B②	文化論B②	地理学A②	ホスピタリティマネジメント論B②	観光リスクマネジメントA②
		担当教員 堀田 / 教室 301 ／ 担当教員 石床 / 教室 302	担当教員 田保 / 教室 303	担当教員 吉田 / 教室 305	担当教員 堀田 / 教室 304	担当教員 青木 / 教室 301
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）				
	３年次	コミュニティデザイン論②	マップデザイン実習B②	人工知能概論A②		宿泊産業論②
		担当教員 西成 / 教室 305	担当教員 谷﨑 / 教室 ３０７またはＰＣ	担当教員 安藤 / 教室 301		担当教員 石床 / 教室 302
金	1年次		地域観光基礎実習②	観光事業論B②	観光社会文化論A②	観光振興・地域創生論B②
			担当教員 吉田・田保・平・谷﨑 / 教室 演習室３・４・５・６	担当教員 藤野 / 教室 303	担当教員 安村 / 教室 304	担当教員 安村 / 教室 302
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）				
	３年次		ＩＣＴとＩｏＴ　Ｂ　②	せとうち観光資源論②	地域創生事業論②	メディアコンテンツ実習A②
			担当教員 米谷 / 教室 301	担当教員 三谷 / 教室 305	担当教員 古川・藤原 / 教室 306	担当教員 平 / 教室 ３０４またはＰＣ

※ファシリテーション実習（谷益美）は集中。**交通産業論（古平浩）は集中。**

資料42　せとうち観光専門職短期大学　　観光振興学科　　総合時間割

第３クォーター

曜日	年次	１限 ９：００～１０：３０	２限 １０：４０～１２：１０	３限 １３：００～１４：３０	４限 １４：４０～１６：１０	５限 １６：２０～１７：５０
月	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論①前半のみ 担当教員：安本・堀田・阿部・石床・小島 教室：３０１～３０５	臨地実務実習Ⅰ			
	２年次		観光政策論A① 担当教員：藤野 教室：307	キャリアデザイン論A① 担当教員：青木・堀田・福田 教室：306	観光実務発展論(前半のみ)① 担当教員：安本・石床・阿部 教室：３０３・３０４・３０５	
		エコツーリズム実習Ｂ① 担当教員：横山 教室：306	エコツーリズム実習Ｂ② 担当教員：横山 教室：306			
	３年次			ＩＣＴ実習A① 担当教員：米谷 教室：ＰＣ	人工知能プログラミング実習B① 担当教員：安藤 教室：ＰＣ	
火	1年次	臨地実務実習Ⅰ				
	２年次		観光実務応用論（後半のみ）① 担当教員：安本・石床・阿部 教室：３０３．３０４．３０５	観光行動論B① 担当教員：安村 教室：301	国際観光論① 担当教員：安村 教室：302	
	３年次			四国巡礼研究① 担当教員：大賀 教室：303	マーケティング論① 担当教員：日笠 教室：305	
水	1年次	観光支援ビジネス実務基礎論①前半のみ 担当教員：安本・堀田・阿部・石床・小島 教室：３０１～３０５	臨地実務実習Ⅰ			
	２年次	観光英語Ⅲ① 担当教員：宮西 教室：307	観光英語Ⅲ② 担当教員：宮西 教室：307	エコツーリズム実習Ａ① 担当教員：横山 教室：305	経営学Ｂ① 担当教員：岡本 教室：303	経営学Ｂ② 担当教員：岡本 教室：303
					エコツーリズム実習Ａ① 担当教員：横山 教室：305	
	３年次		専門演習 担当教員：各教員 教室：演習室1～6、301～304			
木	1年次	臨地実務実習Ⅰ				
	２年次		観光実務応用論（後半のみ）② 担当教員：安本・石床・阿部 教室：３０３．３０４．３０５	キャリアデザイン論A② 担当教員：青木・堀田・福田 教室：306	観光実務発展論(前半のみ)② 担当教員：安本・石床・阿部 教室：３０３・３０４・３０５	
	３年次			ＩＣＴ実習A② 担当教員：米谷 教室：ＰＣ	人工知能プログラミング実習B② 担当教員：安藤 教室：ＰＣ	
金	1年次	臨地実務実習Ⅰ				
	２年次		観光政策論A② 担当教員：藤野 教室：307	観光行動論B② 担当教員：安村	国際観光論② 担当教員：安村 教室：302	
	３年次			四国巡礼研究② 担当教員：大賀 教室：303	マーケティング論② 担当教員：日笠 教室：305	

※１年次の第３クォーター前半は、観光支援ビジネス実務基礎論（月曜１限、水曜１限）**※観光データ整理実習B（大井達雄）は集中。**

資料42　せとうち観光専門職短期大学　　観光振興学科　　総合時間割

第４クォーター

曜日	年次	１限 ９：００～１０：３０	２限 １０：４０～１２：１０	３限 １３：００～１４：３０	４限 １４：４０～１６：１０	５限 １６：２０～１７：５０
月	1年次		企業の社会的責任① 担当教員：多田 教室：307	法と社会① 担当教員：吉川 教室：302	災害と防災の科学① 担当教員：長谷川 教室：303	観光振興・地域再生論A① 担当教員：安村 教室：305
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）				
	３年次			四国観光史① 担当教員：三谷 教室：306	起業論① 担当教員：山本 教室：307	
火	1年次		観光支援ビジネス実務発展論①前半のみ 担当教員：安本・堀田・阿部・石床・小島 教室：３０１～３０５	介助実務実習A① 担当教員：坂井 教室：204	介助実務実習B① 担当教員：坂井 教室：204	観光社会文化論B① 担当教員：田保 教室：305
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）				
	３年次			ＩＣＴ実習B① 担当教員：米谷 教室：ＰＣ	人工知能プログラミング実習A① 担当教員：安藤 教室：ＰＣ	
水	1年次	観光英語Ⅰ① 担当教員：宮西 教室：307	観光英語Ⅰ① 担当教員：宮西 教室：307			
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）				
	３年次		専門演習 担当教員：各教員 教室：演習室1～6、301～304			
木	1年次		企業の社会的責任② 担当教員：多田 教室：307	法と社会② 担当教員：吉川 教室：302	災害と防災の科学② 担当教員：長谷川 教室：303	観光振興・地域再生論A② 担当教員：安村 教室：305
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）				
	３年次			四国観光史② 担当教員：三谷 教室：306	起業論② 担当教員：山本 教室：307	
金	1年次		観光支援ビジネス実務発展論②前半のみ 担当教員：安本・堀田・阿部・石床・小島 教室：３０１～３０５	介助実務実習A② 担当教員：坂井 教室：204	介助実務実習B② 担当教員：坂井 教室：204	観光社会文化論B② 担当教員：田保 教室：305
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（航空クラス、鉄道クラス、宿泊クラス、観光地域創生クラス）				
	３年次			ＩＣＴ実習B② 担当教員：米谷 教室：ＰＣ	人工知能プログラミング実習A② 担当教員：安藤 教室：ＰＣ	

資料 43 教育課程連携協議会規程

せとうち観光専門職短期大学教育課程連携協議会規程

（目的）

第１条　この規程は、せとうち観光専門職短期大学学則第 20 条第２項に定めるせとうち観光専門職短期大学教育課程連携協議会（以下「協議会」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第２条　協議会は、次に掲げる委員をもって組織する。

（１）学長が指名する教職員

（２）本学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者であって、当該職業の実務に関し豊富な経験を有する者

（３）地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者等

（４）臨地実務実習その他の授業科目の開設又は授業の実施において協力する事業者

（５）本学の教職員以外の者であって、学長が必要と認める者

（任期）

第３条　委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、その欠員が生じた場合の補欠による委員の任期は、前任者の残存期間とする。

（審議事項）

第４条　協議会は、次に掲げる事項を審議し、学長に意見を述べるものとする。

（１）産業界及び地域社会との連携による授業科目の開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項

（２）産業界及び地域社会との連携による授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項

（議長）

第５条　協議会に、議長を置き、委員の互選とする。

２　議長は、協議会を招集し、協議会を代表する。

３　議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

（会議）

第６条　協議会は、委員の過半数の出席をもって成立する。ただし、委員に事故があるときは、代理の者が出席できるものとする。

２　協議会の決議は、出席委員の過半数をもって決する。

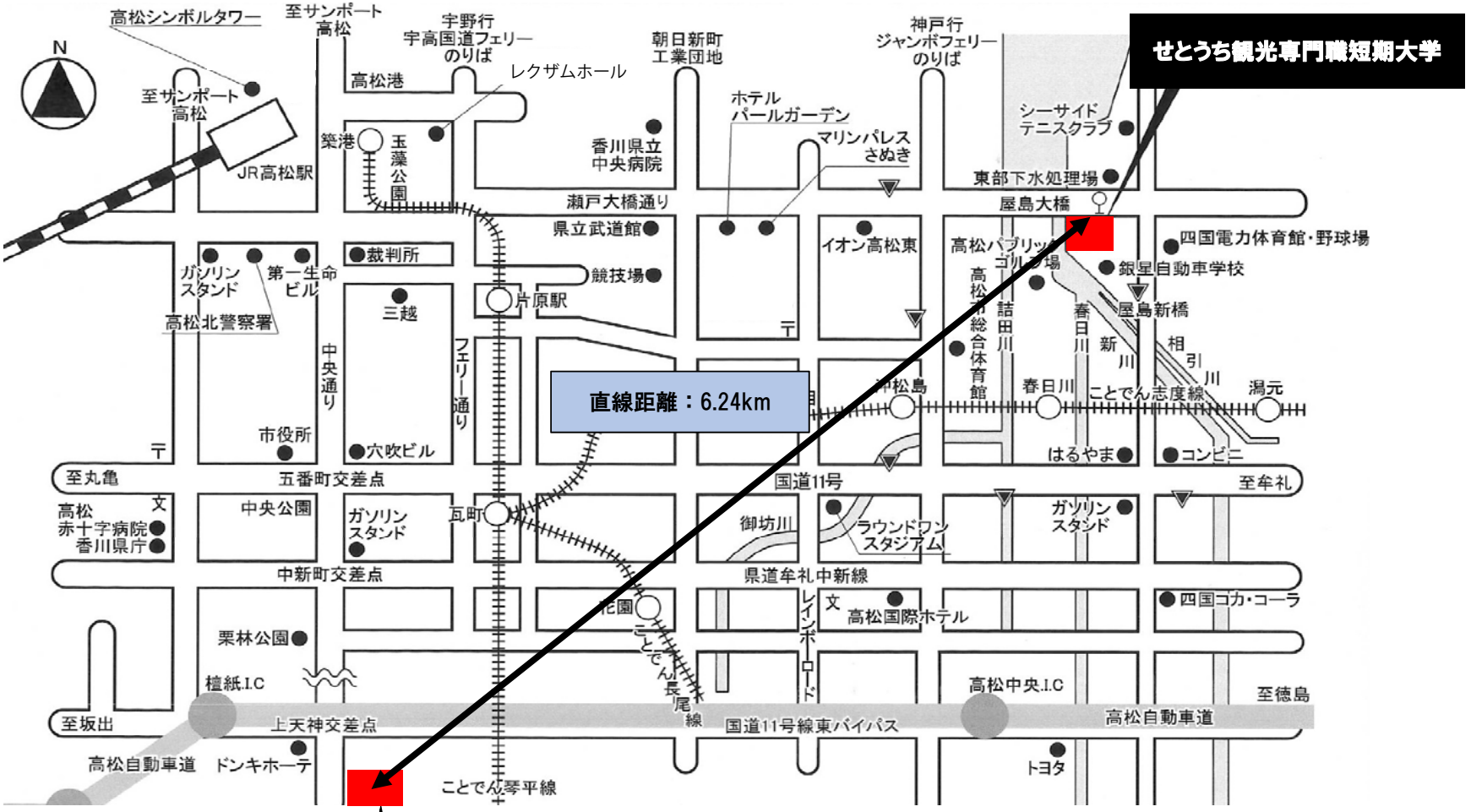
（守秘義務）

第７条　委員は、その職務に関して知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ又は不当な目的に利用してはならない。その職を引いた後も同様とする。

附則

１．この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

資料44　校舎と上天神グラウンドの位置関係



せとうち観光専門職短期大学キャンパスより

学園バスで約20分(8.4km)

資料45図書等購入計画

観光振興学科設置に係る図書等購入計画

せとうち観光専門職短期大学

【図書】

区　分		冊　数
専門分野	和　書	1,689
	洋　書	505
	専門分野小計	**2,194**
一般教養	社会科学	335
	自然科学	167
	人文科学	348
	一般教養小計	**850**
	合　計	**3,044**

【雑誌、データベース、視聴覚教材】

区　分	点　数
学術雑誌（国内）	36
学術雑誌（国外）	2
データベース	2
視聴覚教材	31
合　計	**71**

総　計	**3,115**

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1	コンテンツ産業論：コンテンツをマネジメントするための必須知識	高橋光輝	ボーンデジタル	201409	3,000	1	専門
2	デジタルアーカイブ：基点・手法・課題	笠羽晴夫	水曜社	201010	2,500	1	専門
3	地方自治と図書館：「知の地域づくり」を地域再生の切り札に	片山善博：糸賀雅児	勁草書房	201612	2,300	1	専門
4	持続可能な社会をつくる実践学：岩手大学からの発信	山崎憲治：中村哲雄	岩手日報社	201004	2,000	1	専門
5	共創空間開発学のすすめ：知のイノベーションの新技法	大場裕之：「共創空間」開発プロジェクトチーム	麗澤大学出版会(発売：広池学園事業部)	201503	2,000	1	専門
6	観光資源としての博物館	中村浩（考古学）：青木豊（博物館学）	芙蓉書房出版	201603	2,500	1	専門
7	博物館と地方再生：市民・自治体・企業・地域との連携	金山喜昭	同成社	201704	2,400	1	専門
8	ローカルメディアのつくりかた：人と地域をつなぐ編集・デザイン・流通	影山裕樹	学芸出版社（京都）	201606	2,000	1	専門
9	越境的学習のメカニズム：実践共同体を往還しキャリア構築するナレッジ・ブロー	石山恒貴	福村出版	201801	2,600	1	専門
10	ザ・マインドマップ：脳の無限の可能性を引き出す技術	トニー・ブザン：バリー・ブザン	ダイヤモンド社	201302	2,200	1	専門
11	宗教とツーリズム：聖なるものの変容と持続	山中弘	世界思想社	201207	2,100	1	専門
12	近世民衆宗教と旅	幡鎌一弘	法蔵館	201003	5,000	1	専門
13	京都古社寺辞典	吉川弘文館	吉川弘文館	201005	3,000	1	専門
14	京都の神社と祭り：千年都市における歴史と空間	本多健一	中央公論新社	201510	880	1	専門
15	地域愛を育てる物語のつくり方：「語りベシアター」の魅力	栗本智代：大阪ガスエネルギー・文化研究所	創元社（大阪）	201801	1,200	1	専門
16	戦国時代の京都を歩く：歴史の旅	河内将芳	吉川弘文館	201403	2,000	1	専門
17	筑波山から学ぶ：「とき」を想像・創造する	前川啓治	筑波大学出版会(発売：丸善出版)	201501	2,900	1	専門
18	草津温泉の社会史	関戸明子	青弓社	201805	2,400	1	専門
19	台湾人の歌舞伎町：新宿、もうひとつの戦後史	稲葉佳子：青池憲司	紀伊國屋書店	201709	1,800	1	専門
20	銀座歴史散歩地図：明治・大正・昭和	赤岩州五：原田弘	草思社	201507	2,600	1	専門
21	江戸東京の聖地を歩く	岡本亮輔	筑摩書房	201703	940	1	専門
22	歴史と観光：富山近代史の視座	富山近代史研究会	山川出版社（千代田区）	201407	2,000	1	専門
23	京都近代の記憶：場所・人・建築	中川理	思文閣出版	201509	2,200	1	専門
24	水系都市京都：水インフラと都市拡張	小野芳朗	思文閣出版	201509	5,400	1	専門
25	京都鴨川探訪：絵図でよみとく文化と景観	西野由紀：鈴木康久（水文化研究家）	人文書院	201103	2,400	1	専門
26	たからづか学：まちの姿と歴史文化が語る宝塚	定藤繁樹	関西学院大学出版会	201710	2,300	1	専門
27	南京町と神戸華僑	呉宏明：高橋晋一	松籟社	201509	2,200	1	専門
28	軍艦島の生活〈1952／1970〉：住宅学者西山夘三の端島住宅調査レポート	西山夘三記念すまい・まちづくり文庫：松本滋	創元社（大阪）	201506	2,500	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
29	近世刊行大坂図集成	脇田修：小野田一幸	創元社（大阪）	201507	45,000	1	専門
30	証言で学ぶ「沖縄問題」：観光しか知らない学生のために	松野良一：中央大学	中央大学出版部	201404	2,700	1	専門
31	韓国古い町の路地を歩く	韓弼元：萩原恵美	三一書房	201803	2,800	1	専門
32	古写真・絵葉書で旅する東アジア150年	村松弘一：貴志俊彦	勉誠出版	201803	3,800	1	専門
33	文明の基層：古代文明から持続的な都市社会を考える	長田俊樹：杉山三郎	大学出版部協会(発売：東京大学出版会)	201506	1,200	1	専門
34	西洋の都市と日本の都市どこが違うのか：比較都市史入門	斯波照雄	学文社	201501	1,800	1	専門
35	西洋都市社会史：ドイツ・ヨーロッパ温故知新の旅	斯波照雄	学文社	201801	1,900	1	専門
36	地中海世界の旅人：移動と記述の中近世史	長谷部史彦：関哲行	慶應義塾大学言語文化研究所(発売：慶応義塾大学出版会)	201403	3,500	1	専門
37	イギリス・ヘリテッジ文化を歩く：歴史・伝承・世界遺産の旅	宮北惠子：平林美都子	彩流社	201607	2,800	1	専門
38	イギリス発見の旅：学者と女性と観光客	指昭博	刀水書房	201011	1,600	1	専門
39	パリ：モダニティの首都	デヴィッド・ハーヴェイ：大城直樹	青土社	201706	4,800	1	専門
40	メソアメリカを知るための58章	井上幸孝	明石書店	201405	2,000	1	専門
41	憧れのハワイ：日本人のハワイ観	矢口祐人	中央公論新社	201102	2,000	1	専門
42	小林一三：都市型第三次産業の先駆的創造者	老川慶喜	PHP研究所	201703	2,400	1	専門
43	松下幸之助：理念を語り続けた戦略的経営者	加護野忠男	PHP研究所	201611	2,200	1	専門
44	大原孫三郎：地域創生を果たした社会事業家の魁	阿部武司	PHP研究所	201709	2,400	1	専門
45	中内功：理想に燃えた流通革命の先導者	石井淳蔵	PHP研究所	201705	2,400	1	専門
46	本田宗一郎：夢を追い続けた知的バーバリアン	野中郁次郎	PHP研究所	201706	2,400	1	専門
47	常識の天才ジェイン・ジェイコブズ：『死と生』まちづくり物語	グレンナ・ラング：マージョリー・ウンシュ	鹿島出版会	201206	2,600	1	専門
48	地域の諸相：地域が人を育て人が地域を創る	大塚昌利	古今書院	201003	7,000	1	専門
49	ベーシック都市社会地理学	神谷浩夫：中澤高志	ナカニシヤ出版	201804	2,400	1	専門
50	俗都市化：ありふれた景観グローバルな場所	フランセスク・ラミレス・ムニョス：竹中克行	昭和堂（京都）	201312	4,000	1	専門
51	テキスト都市地理学：都市システム論の視点	藤本典嗣	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201705	2,600	1	専門
52	地図で訪ねる歴史の舞台：旅に出たくなる．世界	帝国書院	帝国書院	201604	2,000	1	専門
53	イザベラ・バードの旅の世界：ツイン・タイム・トラベル	金坂清則	平凡社	201409	3,600	1	専門
54	ダークツーリズム入門：日本と世界の「負の遺産」を巡礼する旅	風来堂	イースト・プレス	201709	1,500	1	専門
55	海の上の世界地図：欧州航路紀行史	和田博文	岩波書店	201601	3,200	1	専門
56	ダークツーリズム：悲しみの記憶を巡る旅	井出明	幻冬舎	201807	820	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
57	聖地巡礼ツーリズム	星野英紀：山中弘	弘文堂	201211	2,100	1	専門
58	近代日本の旅行案内書図録	荒山正彦	創元社（大阪）	201805	4,500	1	専門
59	歴史家が語るガイドブックにはない世界の旅	内田知行	創土社	201707	1,700	1	専門
60	学びの旅：地域の見方・とらえ方・楽しみ方	立正大学	古今書院	201004	3,500	1	専門
61	英語で伝える日本の文化・観光・世界遺産	山口百々男：牧野眞一	三修社	201506	2,000	1	専門
62	図説日本の都市問題	藤塚吉浩：高柳長直	古今書院	201612	2,500	1	専門
63	大都市都心地区の変容とマンション立地	富田和暁	古今書院	201502	4,800	1	専門
64	空中写真に遺された昭和の日本　東日本編：戦災から復興へ	日本地図センター	創元社（大阪）	201709	8,000	1	専門
65	地図で訪ねる歴史の舞台：旅に出たくなる．日本	帝国書院	帝国書院	201604	2,000	1	専門
66	47都道府県・温泉百科	山村順次	丸善出版	201512	3,800	1	専門
67	チャールズ・ホームの日本旅行記：日本美術愛好家の見た明治	チャールズ・ホーム：トニ・ヒューバマン	彩流社	201103	3,000	1	専門
68	ニッポン周遊記：町の見つけ方・歩き方・つくり方	池内紀	青土社	201407	2,400	1	専門
69	完訳日本奥地紀行．１	イザベラ・L．バード：金坂清則	平凡社	201203	3,000	1	専門
70	完訳日本奥地紀行．２	イザベラ・L．バード：金坂清則	平凡社	201207	3,200	1	専門
71	完訳日本奥地紀行．３	イザベラ・L．バード：金坂清則	平凡社	201211	3,100	1	専門
72	新訳日本奥地紀行	イザベラ・L．バード：金坂清則	平凡社	201310	3,200	1	専門
73	私の日本地図．１	宮本常一：香月洋一郎	未来社	201601	2,400	1	専門
74	私の日本地図．１２	宮本常一：香月洋一郎	未来社	201501	2,400	1	専門
75	私の日本地図．２	宮本常一：香月洋一郎	未来社	201610	2,400	1	専門
76	私の日本地図．３	宮本常一：香月洋一郎	未来社	201109	2,200	1	専門
77	大学的北海道ガイド：こだわりの歩き方	札幌学院大学	昭和堂（京都）	201212	2,300	1	専門
78	イザベラ・バードの東北紀行：『日本奥地紀行』を歩く．会津・置賜編	赤坂憲雄	平凡社	201405	1,800	1	専門
79	富士登山と熱海の硫黄温泉訪問：1860年日本内地の旅行記録	ラザフォード・オールコック：山本秀峰	露蘭堂（発売：ナウカ出版）	201012	2,200	1	専門
80	富士山に登った外国人：幕末・明治の山旅	山本秀峰：村野克明	露蘭堂（発売：ナウカ出版）	201211	3,400	1	専門
81	名古屋の観光力：歴史・文化・まちづくりからのまなざし	山田明（財政学）：吉田一彦	風媒社	201309	1,400	1	専門
82	名古屋圏の都市地理学	林上	風媒社	201604	2,200	1	専門
83	近畿を知る旅：歴史と風景	野外歴史地理学研究会	ナカニシヤ出版	201001	2,200	1	専門
84	落人と木地師伝説の地甲津原のまちおこし：天窓の地　歴史の検証からさぐる地域の活性化　国の重	法雲俊邑	一粒書房	201404	2,800	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
85	上町学を創造する：よみがえる古都おおさか	追手門学院大学	追手門学院大学出版会(発売：丸善出版)	201503	1,800	1	専門
86	熊野古道を歩く：歴史の旅	高木徳郎	吉川弘文館	201403	2,500	1	専門
87	海士伝隠岐に生きる：聞き書き島の宝は、ひと	阿部裕志：祖父江智壮	グローバル社会を歩く研究会(発売：新泉社)	201302	1,000	1	専門
88	熊本の地域研究	山中進：鈴木康夫	成文堂	201509	2,700	1	専門
89	「大分学検定」完全対応まるごとわかる大分県：歴史・人物から文化・観光まで	辻野功（政治学）：楢本譲司	明石書店	201409	2,000	1	専門
90	都市の景観地理．アジア・アフリカ編	阿部和俊（地理学）	古今書院	201704	2,500	1	専門
91	土地利用でみるアジアの都市化と自然環境	山下亜紀郎	筑波大学出版会(発売：丸善出版)	201603	3,300	1	専門
92	フィールドワークのススメ：アジア観光・文化の旅	秋山秀一	学文社	201004	1,800	1	専門
93	イブン・バットゥータと境域への旅：『大旅行記』をめぐる新研究	家島彦一	名古屋大学出版会	201702	5,800	1	専門
94	中国歴史紀行：史跡をめぐる五万キロの旅	前園実知雄	新泉社	201512	2,000	1	専門
95	中国奥地紀行．2	イザベラ・L．バード：金坂清則	平凡社	201402	1,600	1	専門
96	アンコールに惹かれて：国境を越える旅人	土方美雄	社会評論社	201009	2,300	1	専門
97	ヨーロッパ「ケルト」紀行：ビジュアル版．下巻（大陸編）	武部好伸	彩流社	201006	1,800	1	専門
98	ヨーロッパ「ケルト」紀行：ビジュアル版．上巻（島編）	武部好伸	彩流社	201006	1,800	1	専門
99	ケルトを旅する52章：イギリス・アイルランド	永田喜文	明石書店	201201	2,000	1	専門
100	ロンドンを旅する60章	川成洋：石原孝哉	明石書店	201205	2,000	1	専門
101	アイルランド：自然・歴史・物語の旅	渡辺洋子	三弥井書店	201410	2,500	1	専門
102	スペイン・イタリア紀行	アーサー・ヤング：宮崎揚弘	法政大学出版局	201209	2,800	1	専門
103	イタリアを旅する24章	内田俊秀	明石書店	201204	2,000	1	専門
104	バルト海を旅する40章	小柏葉子	明石書店	201703	2,000	1	専門
105	カール・フォン・リンネの地域誌：『スコーネ旅行』に描かれた自然・経済・文化	塚田秀雄	古今書院	201405	6,000	1	専門
106	カナダを旅する37章	飯野正子：竹中豊	明石書店	201210	2,000	1	専門
107	中米・チアパス・ユカタンの旅：マヤ遺跡探索行1839～40．下	ジョン・ロイド・スティーヴンズ：児嶋桂子	人文書院	201002	5,800	1	専門
108	マチュピチュ探検記：天空都市の謎を解く	マーク・アダムス：森夏樹	青土社	201307	2,800	1	専門
109	タスマニアを旅する60章	宮本忠	明石書店	201603	2,000	1	専門
110	福井地域学：地方創生に向けて	南保勝	晃洋書房	201603	1,800	1	専門
111	地域の持続可能性：下関からの発信	難波利光	学文社	201703	5,000	1	専門
112	学生が見た蘇州社会：企業活動・農村社会・都市生活	愛知大学	愛知大学(発売：あるむ)	201503	2,000	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
113	台湾を知るための60章	赤松美和子：若松大祐	明石書店	201608	2,000	1	専門
114	シンガポールを知るための65章	田村慶子	明石書店	201606	2,000	1	専門
115	ベルリン・都市・未来	武邑光裕	太田出版	201807	3,000	1	専門
116	スイスを知るための60章	スイス文学研究会	明石書店	201405	2,000	1	専門
117	ハンガリーを知るための60章	羽場久美子	明石書店	201801	2,000	1	専門
118	現代スペインを知るための60章	坂東省次	明石書店	201303	2,000	1	専門
119	現代バスクを知るための50章	萩尾生：吉田浩美	明石書店	201205	2,000	1	専門
120	クロアチアを知るための60章	柴宜弘：石田信一	明石書店	201307	2,000	1	専門
121	チュニジアを知るための60章	鷹木恵子	明石書店	201008	2,000	1	専門
122	ケニアを知るための55章	松田素二：津田みわ	明石書店	201207	2,000	1	専門
123	ホンジュラスを知るための60章	桜井三枝子：中原篤史	明石書店	201403	2,000	1	専門
124	ボリビアを知るための73章	真鍋周三	明石書店	201302	2,000	1	専門
125	ハワイを知るための60章	山本真鳥：山田亨	明石書店	201302	2,000	1	専門
126	犯罪に強いまちづくりの理論と実践：正しい地域安全マップづくりと振り込め詐欺・空き巣防	小宮信夫	イマジン出版	201504	1,000	1	専門
127	地域再生のヒント．続	務台俊介	ぎょうせい	201202	1,714	1	専門
128	地域再生のヒント：現場にある潜在能力を引き出す	務台俊介	ぎょうせい	201004	1,429	1	専門
129	インターネットと地域	荒井良雄：箸本健二	ナカニシヤ出版	201503	2,700	1	専門
130	ローカル・ガバナンスと地域	佐藤正志：前田洋介	ナカニシヤ出版	201703	2,800	1	専門
131	先進事例から学ぶ成功する公共施設マネジメント：校舎・体育館・プール、図書館、公民館、文化施設、庁	南学	学陽書房	201610	2,800	1	専門
132	地方創生20の提言：考える時代から実行する時代へ	林宜嗣：中村欣央	関西学院大学出版会	201801	2,800	1	専門
133	地域創生への挑戦：住み続ける地域づくりの処方箋	長瀬光市：縮小都市研究会	公人の友社	201509	2,600	1	専門
134	公共経営学入門	松永佳甫	大阪大学出版会	201504	2,400	1	専門
135	地域政策の経済学	林宜嗣：山鹿久木	日本評論社	201805	2,700	1	専門
136	市民自治の息づくまちへ：デモクラシーのまちづくり	早川鉦二	風媒社	201707	1,600	1	専門
137	現代地域政策学：動態的で補完的な内発的発展の創造	入谷貴夫	法律文化社	201801	5,300	1	専門
138	平成の大合併と地域社会のくらし：関係性の民俗学	小島孝夫	明石書店	201503	9,200	1	専門
139	ひとづくり・まちづくり：明日への挑戦	全国市議会議長会	ぎょうせい	201110	6,190	1	専門
140	全国都市の特色ある施策集．平成27年度版	全国市議会議長会	ぎょうせい	201503	6,400	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
141	大都市圏郊外の新しい政治・行政地理学：米軍基地・環境・ジェンダー	新井智一	日本評論社	201704	5,200	1	専門
142	自治が育つ学びと協働南信州・阿智村	社会教育・生涯学習研究所：岡庭一雄	自治体研究社	201802	1,800	1	専門
143	大都市圏ガバナンスの検証：大阪・アジアにみる統治システムと住民自治	重森曉：柏原誠	ミネルヴァ書房	201702	5,500	1	専門
144	みんなでつくる総合計画：高知県佐川町流ソーシャルデザイン	チームさかわ：筧裕介	学芸出版社（京都）	201604	2,200	1	専門
145	歴史と文化のまち　臼杵の地方創生	石原俊彦：日廻文明	関西学院大学出版会	201712	2,600	1	専門
146	自治体経営の人的資源管理：福祉専門職における拙速な民営化への警鐘	三宅正伸	晃洋書房	201603	1,700	1	専門
147	わがまち再生プロジェクト	桑子敏雄	KADOKAWA	201603	1,500	1	専門
148	ソーシャルビジネスで地方創生：地域を甦らせた映画のまちづくり	渋川智明	ぎょうせい	201509	2,200	1	専門
149	地域創生実践人財論：真心・恕・志ある汗かき人たち	木村俊昭	ぎょうせい	201707	2,200	1	専門
150	地域創生成功の方程式：できる化・見える化・しくみ化	木村俊昭	ぎょうせい	201607	2,200	1	専門
151	震災復興が語る農山村再生：地域づくりの本質	稲垣文彦	コモンズ	201410	2,200	1	専門
152	「地域力」で立ち向かう人口減少社会：小さな自治体の地域再生策	熊谷文枝	ミネルヴァ書房	201806	4,000	1	専門
153	「地方創生」へのまちづくり・ひとづくり	袖井孝子：佐藤滋	ミネルヴァ書房	201607	2,200	1	専門
154	実践事例にみるひと・まちづくり：グローカル・コミュニティの時代	瀬沼頼子：齊藤ゆか	ミネルヴァ書房	201301	2,500	1	専門
155	住み継がれる集落をつくる：交流・移住・通いで生き抜く地域	山崎義人：佐久間康富	学芸出版社（京都）	201708	2,400	1	専門
156	地域づくりのプラットフォーム：つながりをつくり、創発をうむ仕組みづくり	飯盛義徳	学芸出版社（京都）	201505	2,000	1	専門
157	グローカル時代の地域づくり	恩田守雄	学文社	201009	2,300	1	専門
158	持続可能な世界へ：生活空間再生論序説	安村克己	学文社	201712	3,300	1	専門
159	日本まちづくり事典	井上繁	丸善出版	201006	15,000	1	専門
160	キーワードで読み解く地方創生	みずほ総合研究所	岩波書店	201807	1,900	1	専門
161	つながりのコミュニティ：人と地域が「生きる」かたち	佐藤友美子：土井勉	岩波書店	201108	1,800	1	専門
162	地方創生を超えて：これからの地域政策	小磯修二：村上裕一	岩波書店	201807	1,900	1	専門
163	ビル・エモットと語る日本再生と地域創生	就実大学	吉備人出版	201511	1,000	1	専門
164	ディズニーの隣の風景：オンステージ化する日本	円堂都司昭	原書房	201302	1,800	1	専門
165	地方創生、この道しかない？	松本克夫	後藤・安田記念東京都市研究所	201510	463	1	専門
166	都市と地方をかきまぜる：「食べる通信」の奇跡	高橋博之	光文社	201608	740	1	専門
167	人口減少時代の地域づくり読本	大森弥：武藤博己	公職研	201505	2,000	1	専門
168	「みんな」でつくる地域の未来	京都府立大学京都政策研究センター	公人の友社	201703	1,000	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
169	地域創生の最前線：地方創生から地域創生へ	増田寛也：青山公三	公人の友社	201603	1,000	1	専門
170	地域メンテナンス論：不確実な時代のコミュニティ現場からの動き	竹内裕二	晃洋書房	201801	2,400	1	専門
171	内子町のまちづくり：住民と行政による協働のまちづくりの実践	稲本隆壽：鈴木茂	晃洋書房	201503	2,200	1	専門
172	地方創生まちづくり大事典：地方の未来、日本の未来	竹本昌史	国書刊行会	201601	12,000	1	専門
173	シティプロモーションでまちを変える	河井孝仁	彩流社	201612	1,900	1	専門
174	どん底自治体が甦る！地域創生を成功させた20の方法	牧瀬稔	秀和システム	201712	1,800	1	専門
175	奇跡の村：地方は「人」で再生する	相川俊英	集英社	201510	740	1	専門
176	地域の誇りで飯を食う！：“何もないまち”を変えた奇跡の物語	真板昭夫	旬報社	201612	1,350	1	専門
177	地域診断法：鳥の目、虫の目、科学の目	滋賀県立大学：鵜飼修	新評論	201203	2,800	1	専門
178	地方創生を考える：偽薬効果に終わらせないために	諏訪雄三	新評論	201509	2,800	1	専門
179	大学生、限界集落へ行く：「情報システム」による南魚沼市辻又活性化プロジェク	専修大学	専修大学出版局	201607	1,500	1	専門
180	つなぎ、つくり、つたえる街の未来：「全国シティプロモーションサミット」事例集	全国シティプロモーションサミット事務局	全国シティプロモーションサミット事務局(発売：中央公論事業出版)	201504	2,500	1	専門
181	地域振興論：新しいまちづくりの実践	秋山義継	創成社	201710	1,800	1	専門
182	過疎地域再生の戦略：地方創生から地域再生へ	中藤康俊	大学教育出版	201803	2,500	1	専門
183	地方創生に役立つ！「地域データ分析」の教科書	日本青年会議所：大正大学地域構想研究所	大正大学	201701	1,500	1	専門
184	「失敗」からひも解くシティプロモーション：なにが「成否」をわけたのか	河井孝仁	第一法規出版	201710	2,100	1	専門
185	玄界灘島嶼社会の変容：佐賀県「玄海諸島」研究	小林恒夫	筑波書房	201602	3,300	1	専門
186	地域再生入門：寄りあいワークショップの力	山浦晴男	筑摩書房	201511	860	1	専門
187	地方創生の正体：なぜ地域政策は失敗するのか	山下祐介：金井利之	筑摩書房	201510	900	1	専門
188	新コモンズ論：幸せなコミュニティをつくる八つの実践	細野助博：風見正三	中央大学出版部	201603	2,500	1	専門
189	転換日本：地域創成の展望	月尾嘉男	東京大学出版会	201712	2,600	1	専門
190	地域ブランドとシティプロモーション	牧瀬稔	東京法令出版	201805	2,200	1	専門
191	こげんする！鹿児島：鹿児島地域づくり実践編	宮島孝男	南方新社	201410	1,800	1	専門
192	イノベーションによる地域活性化	高崎経済大学地域政策研究センター	日本経済評論社	201303	2,800	1	専門
193	地方版エリアマネジメント	上野美咲	日本経済評論社	201807	2,500	1	専門
194	新たな“まち中再生事業手法”の提案：地方都市新時代を切り拓く		日本住宅総合センター	201412	1,760	1	専門
195	「消滅自治体」は都会の子が救う：地方創生の原理と方法	三浦清一郎	日本地域社会研究所	201510	1,200	1	専門
196	地域再生：人口減少時代の地域まちづくり	鈴木浩：山口幹幸	日本評論社	201308	3,200	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
197	福島農からの日本再生：内発的地域づくりの展開	守友裕一：大谷尚之	農山漁村文化協会	201403	2,600	1	専門
198	成熟地方都市の形成：丹波篠山にみる「地域力」	藤井和佐：杉本久未子	福村出版	201511	3,400	1	専門
199	地域を自立させる人々：持続可能な地域社会の創造	三上亨	文眞堂	201303	2,200	1	専門
200	京都の地域力再生と協働の実践	新川達郎	法律文化社	201305	2,400	1	専門
201	地域公共人材をつくる：まちづくりを担う人たち	今川晃：梅原豊	法律文化社	201312	2,400	1	専門
202	共創のまちづくり原論：環境革命の時代	小松隆二：白迎玖	論創社	201011	2,000	1	専門
203	シビックテック：ICTを使って地域課題を自分たちで解決する	稲継裕昭：鈴木まなみ	勁草書房	201807	1,800	1	専門
204	出でよ、地方創生のフロントランナーたち！：城下町から日本を変えるヒント	蓑宮武夫	PHP研究所	201705	1,500	1	専門
205	それぞれの地方創生：課題と展望ー愛知・三河を中心に静岡・東京	林正雄：伊藤利男	日本加除出版	201705	1,800	1	専門
206	まちを楽しくする仕事：まちづくりに奔走する自治体職員の挑戦	竹山和弘	水曜社	201804	2,000	1	専門
207	都市の憧れ、山村の戸惑い：京都府美山町という「夢」	田中滋	晃洋書房	201705	3,000	1	専門
208	現代地方都市の構造再編と住民生活：広島県呉市と庄原市を事例として	西村雄郎：田中里美	ハーベスト社	201703	2,800	1	専門
209	都市計画のキホン	佐々木晶二	ぎょうせい	201706	2,000	1	専門
210	コンパクトシティ実践ガイド	コンパクトシティ研究会	ぎょうせい	201703	2,300	1	専門
211	人口減少時代の都市計画：まちづくりの制度と戦略	大西隆：明石達生	学芸出版社（京都）	201103	2,900	1	専門
212	人口減少時代の都市システムと地域政策	森川洋	古今書院	201704	7,200	1	専門
213	神戸・近代都市の形成	高寄昇三	公人の友社	201709	5,000	1	専門
214	隅田川・向島のエスノグラフィー：「下町らしさ」のパラドックスを生きる	金善美	晃洋書房	201801	4,400	1	専門
215	創造の場と都市再生	大阪市立大学	晃洋書房	201004	1,900	1	専門
216	人口減少と大規模開発：コンパクトとインバウンドの暴走	中山徹	自治体研究社	201707	1,200	1	専門
217	人口減少時代の都市	諸富徹	中央公論新社	201802	800	1	専門
218	連携アプローチによるローカルガバナンス：地域レジリエンス論の構築にむけて	白石克孝：的場信敬	日本評論社	201705	3,500	1	専門
219	コンパクトシティと都市居住の経済分析	沓澤隆司	日本評論社	201702	4,000	1	専門
220	デモクラシーを〈まちづくり〉から始めよう：シャッター通りから原発までを哲学する	竹井隆人	平凡社	201306	2,800	1	専門
221	都市の老い：人口の高齢化と住宅の老朽化の交錯	齊藤誠（経済学）	勁草書房	201801	3,500	1	専門
222	住宅地のマネジメント：「まちネット」から学ぶまちづくりの知恵	大月敏雄：東京大学建築計画研究室	建築資料研究社	201807	2,500	1	専門
223	地域再生と町内会・自治会	中田実：山崎丈夫	自治体研究社	201711	1,600	1	専門
224	地域分権時代の町内会・自治会	中田実	自治体研究社	201705	1,852	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
225	自治会・町内会の経営学：21世紀の住民自治発展のために	石栗伸郎	文眞堂	201604	2,750	1	専門
226	イギリスの都市再生とサイエンスパーク	鈴木茂	日本経済評論社	201703	4,800	1	専門
227	ドイツ・縮小時代の都市デザイン	服部圭郎	学芸出版社（京都）	201603	2,600	1	専門
228	ドイツの地方都市はなぜクリエイティブなのか：質を高めるメカニズム	高松平藏	学芸出版社（京都）	201609	1,900	1	専門
229	持続可能な都市再生のかたち：トリノ、バルセロナの事例から	矢作弘：阿部大輔	日本評論社	201407	3,000	1	専門
230	統計図表レファレンス事典．外交・国際交流・観光	日外アソシエーツ	日外アソシエーツ(発売：紀伊國屋書店日外アソ)	201511	8,800	1	専門
231	国際ビジネスのための英米法入門：英米法と国際取引法のエッセンス50講	植田淳	法律文化社	201703	2,900	1	専門
232	初めて学ぶ不動産学：住まい・まちのマネジメント	齊藤広子	市ケ谷出版社	201804	2,000	1	専門
233	企業法とコンプライアンス：“法令遵守”から“社会的要請への適応”へ	郷原信郎	東洋経済新報社	201710	3,800	1	専門
234	オープンスカイ協定と航空自由化	柴田伊冊	信山社出版	201706	980	1	専門
235	ビギナーのための経済英語：経済・金融・証券・会計の基本用例320	日向清人	慶応義塾大学出版会	201708	2,000	1	専門
236	インフォメーション・エコノミー：情報化する経済社会の全体像	篠崎彰彦	NTT出版	201403	2,600	1	専門
237	文化と固有価値のまちづくり：人間復興と地域再生のために	池上惇	水曜社	201210	2,800	1	専門
238	インタンジブルズ・エコノミー：無形資産投資と日本の生産性向上	宮川努：浅羽茂	東京大学出版会	201609	5,200	1	専門
239	反逆の神話：カウンターカルチャーはいかにして消費文化になったか	ジョセフ・ヒース：アンドルー・ポター	NTT出版	201409	2,500	1	専門
240	地域再生の失敗学	飯田泰之：木下斉	光文社	201604	840	1	専門
241	デービッド・アトキンソン新・生産性立国論：人口減少で「経済の常識」が根本から変わった	デービッド・アトキンソン	東洋経済新報社	201803	1,500	1	専門
242	地方は復活する：北海道・鹿児島・沖縄からの発信	三大学院共同出版編集委員会	日本経済評論社	201111	4,000	1	専門
243	「循環型経済」をつくる：図解でわかる田園回帰1％戦略	藤山浩：有田昭一郎	農山漁村文化協会	201803	2,600	1	専門
244	地方創生の総合政策論	矢尾板俊平	勁草書房	201703	3,000	1	専門
245	グローバリズムと北海道経済	穴沢眞：江頭進	ナカニシヤ出版	201403	2,800	1	専門
246	地方圏の時代：産業・企業・地域づくりの課題を問う	南保勝	晃洋書房	201304	2,800	1	専門
247	地域経済分析ハンドブック：静岡モデルから学ぶ地方創生	山下隆之	晃洋書房	201603	2,400	1	専門
248	アジアの経済発展と産業技術：キャッチアップからイノベーションへ	馬場敏幸	ナカニシヤ出版	201303	2,500	1	専門
249	中国経済とビジネスがわかる本	王玉	大学教育出版	201805	1,600	1	専門
250	地域情報化で地域経済を再生する	山中守	NTT出版	201307	3,800	1	専門
251	都市サービス空間の地理学	林上	原書房	201504	2,800	1	専門
252	現代の立地論	松原宏	古今書院	201302	2,800	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
253	地域産業の「現場」を行く：誇りと希望と勇気の30話．第10集	関満博	新評論	201712	2,400	1	専門
254	地域産業の「現場」を行く：誇りと希望と勇気の30話．第7集	関満博	新評論	201407	2,400	1	専門
255	地域産業の「現場」を行く：誇りと希望と勇気の30話．第8集	関満博	新評論	201508	2,400	1	専門
256	地域産業の「現場」を行く：誇りと希望と勇気の30話．第9集	関満博	新評論	201606	2,400	1	専門
257	立地ウォーズ：企業・地域の成長戦略と「場所のチカラ」	川端基夫	新評論	201303	2,400	1	専門
258	文化遺産と地域経済	澤村明	同成社	201012	2,000	1	専門
259	国際化時代の地域経済学	岡田知弘：川瀬光義	有斐閣	201612	2,400	1	専門
260	地域経済学入門	山田浩之：徳岡一幸	有斐閣	201803	2,500	1	専門
261	地方消滅．創生戦略篇	増田寛也：冨山和彦	中央公論新社	201508	740	1	専門
262	東京消滅：介護破綻と地方移住	増田寛也	中央公論新社	201512	760	1	専門
263	トランスナショナル・コミュニティ：場所形成とアイデンティティの都市社会学	広田康生：藤原法子	ハーベスト社	201603	3,200	1	専門
264	民族関係の都市社会学：大阪猪飼野のフィールドワーク	谷富夫	ミネルヴァ書房	201505	5,500	1	専門
265	多文化都市・新宿の創造：ライフサイクルと生の保障	川村千鶴子	慶応義塾大学出版会	201511	5,500	1	専門
266	コミュニティー・キャピタル：中国・温州企業家ネットワークの繁栄と限界	西口敏宏：辻田素子	有斐閣	201606	6,800	1	専門
267	ベンチャー起業家社会の実現：起業家教育とエコシステムの構築	熊野正樹	ナカニシヤ出版	201405	2,000	1	専門
268	温浴ビジネス白書：最新業界動向＆〈全国施設名鑑〉〈事業者名鑑〉データ．2015		綜合ユニコム	201502	50,000	1	専門
269	ビジネス法入門	中村信男：和田宗久	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201703	2,600	1	専門
270	やさしく学ぶ経営学	吉沢正広	学文社	201503	2,500	1	専門
271	現代の経営学	菊池敏夫：櫻井克彦	税務経理協会	201803	2,700	1	専門
272	ドラッカー『現代の経営』が教える「マネジメントの基本指針」	坂本和一	東信堂	201705	2,400	1	専門
273	はじめての経営学：日本を代表する経営学者による誌上ビジネススクール	東洋経済新報社【編】	東洋経済新報社	201305	1,200	1	専門
274	企業の社会貢献と現代アートのまちづくり	三浦典子	渓水社（広島）	201003	3,500	1	専門
275	ソーシャルパワーの時代：「つながりのチカラ」が革新する企業と地域の価値共創	玉村雅敏	産学社	201607	2,000	1	専門
276	企業メセナの理論と実践：なぜ企業はアートを支援するのか	菅家正瑞：佐藤正治	水曜社	201003	2,700	1	専門
277	ステークホルダーの経営学：開かれた社会と持続可能な企業	大平浩二	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201605	3,200	1	専門
278	企業文化：ダイバーシティと文化の仕組み	エドガー・H．シャイン：尾川丈一	白桃書房	201606	3,500	1	専門
279	事業承継のジレンマ：後継者の制約と自律のマネジメント	落合康裕	白桃書房	201605	3,200	1	専門
280	企業人の社会貢献意識はどう変わったのか：社会的責任の自覚と実践	安齋徹	ミネルヴァ書房	201608	7,000	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
281	文化を支えた企業家たち：「志」の源流と系譜	伊木稔	ミネルヴァ書房	201603	3,500	1	専門
282	地域と社会を変えた起業家たち	石田英夫	慶応義塾大学出版会	201402	3,400	1	専門
283	戦前期日本の地方企業：地域における産業化と近代経営	石井里枝	日本経済評論社	201302	4,800	1	専門
284	京都企業歴史と空間の産物	徳賀芳弘	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201606	2,800	1	専門
285	現代アジアの企業経営：多様化するビジネスモデルの実態	中川涼司：＝久保豊	ミネルヴァ書房	201709	3,200	1	専門
286	中国多国籍企業の海外経営：東アジアの製造業を中心に	川井伸一	日本評論社	201302	5,500	1	専門
287	台湾企業の発展戦略：ケーススタディと勝利の方程式	朝元照雄	勁草書房	201607	3,400	1	専門
288	中東アラブ企業の海外進出	土屋一樹	岩波書店	201302	4,400	1	専門
289	東京大都市圏郊外の変化とオフィス立地：オフィス移転からみた業務核都市のすがた	佐藤英人	古今書院	201602	4,200	1	専門
290	強い地元企業をつくる：事業承継で生まれ変わった10の実践	近藤清人	学芸出版社（京都）	201805	2,200	1	専門
291	中小企業再生の道：東大阪30年歩いて見たもの	大西正曹	関西大学出版部	201302	3,000	1	専門
292	老舗企業にみる100年の知恵：革新のメカニズムを探る	大西謙	晃洋書房	201403	3,000	1	専門
293	グローバル市場を志向する国際中小企業：革新的技術と国際企業家精神を併せ持つ中小企業の研究	中道眞	晃洋書房	201802	5,200	1	専門
294	小企業・自営業がつくる未来社会：「いのち」と「くらし」のネットワーク	関西中小企業研究所	晃洋書房	201309	1,800	1	専門
295	東アジアの地域経済発展と中小企業	松野周治：今田治	晃洋書房	201604	2,900	1	専門
296	中小企業の経済学	商工組合中央金庫：岡室博之	千倉書房	201603	2,700	1	専門
297	中小企業経営入門	井上善海：木村弘	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201410	2,300	1	専門
298	ベンチャー経営論	長谷川博和	東洋経済新報社	201802	2,000	1	専門
299	「地方創生」と中小企業：地域企業の役割と自治体行政の役割	日本中小企業学会	同友館	201707	2,800	1	専門
300	創造的中小企業の存亡：生存要因の実証分析	江島由裕	白桃書房	201402	3,700	1	専門
301	スモールマート革命：持続可能な地域経済活性化への挑戦	マイケル・H. シューマン：毛受敏浩	明石書店	201309	2,800	1	専門
302	中小企業・ベンチャー企業論：グローバルと地域のはざまで	植田浩史：桑原武志	有斐閣	201405	2,400	1	専門
303	日本のファミリービジネス：その永続性を探る	ファミリービジネス学会：奥村昭博	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201608	2,400	1	専門
304	総合商社の本質：「価値創造」時代のビジネスモデルを探る	垉本一雄	白桃書房	201803	3,700	1	専門
305	地域ファミリー企業におけるビジネスシステムの形成と発展：日本の伝統産業における継承と革新	金泰旭	白桃書房	201406	3,000	1	専門
306	鈴木商店と台湾：樟脳・砂糖をめぐる人と事業	齋藤尚文	晃洋書房	201703	4,800	1	専門
307	三井・三菱・住友・芙蓉・三和・一勧：日本の六大企業集団	菊地浩之	KADOKAWA	201706	1,600	1	専門
308	最新「国際経営」入門	高橋浩夫	同文舘出版	201709	1,900	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
309	企業はなぜ海外へ出てゆくのか：多国籍企業論への階梯	越後修	日本経済評論社	201409	3,400	1	専門
310	グローバル企業：国際化・グローバル化の歴史的展望	安部悦生	文眞堂	201701	2,800	1	専門
311	はじめて学ぶ人のためのグローバル・ビジネス	梶浦雅己	文眞堂	201403	2,800	1	専門
312	ワークブック国際ビジネス	米澤聡士	文眞堂	201804	2,500	1	専門
313	グローバル経営史：国境を越える産業ダイナミズム	橘川武郎：黒澤隆文	名古屋大学出版会	201604	2,700	1	専門
314	三菱合資会社の東アジア海外支店：漢口・上海・香港	畠山秀樹	追手門学院大学出版会（発売：丸善出版）	201402	2,800	1	専門
315	協同の再発見	田中秀樹	家の光協会	201703	1,800	1	専門
316	地域に根差してみんなの力で起業する：協同組合で実現する社会的連帯経済	キム・ヒョンデ：ハ・ジョンナン	彩流社	201806	2,000	1	専門
317	明日の協同を担うのは誰か：基礎からの協同組合論	佐藤信	日本経済評論社	201402	3,000	1	専門
318	協同組合未来への選択	中川雄一郎：杉本貴志	日本経済評論社	201405	2,200	1	専門
319	イタリアの協同組合	アルベルト・イァーネス：佐藤紘毅	緑風出版	201405	2,200	1	専門
320	日本型協同社会論事始め	石見尚	論創社	201506	2,200	1	専門
321	共済事業とはなにか：共済概念の探究	相馬健次	日本経済評論社	201312	3,800	1	専門
322	コミュニティビジネスで拓く地域と福祉	諫山正	ナカニシヤ出版	201802	2,200	1	専門
323	これからの社会的企業に求められるものは何か：カリスマからパートナーシップへ	川村暁雄：川本健太郎	ミネルヴァ書房	201504	2,400	1	専門
324	NPOのためのマーケティング講座	長浜洋二	学芸出版社（京都）	201410	2,400	1	専門
325	社会イノベータへの招待：「変化をつくる」人になる	金子郁容：国領二郎	慶応義塾大学出版会	201011	3,000	1	専門
326	先生、NPOって儲かりますか？：若者たちが地元で賢く生きる方法	渡辺豊博	春風社	201601	1,389	1	専門
327	希望につながるコミュニティーCS神戸の20年	CS神戸20年誌編集委員会	神戸新聞総合出版センター	201612	1,000	1	専門
328	NPOの後継者：僕らが主役になれる場所	富永一夫：永井祐子	水曜社	201505	2,000	1	専門
329	市民ベンチャーNPOの底力：まちを変えた「ぽんぽこ」の挑戦	富永一夫：中庭光彦	水曜社	201210	1,800	1	専門
330	非営利法人経営論	岩崎保道	大学教育出版	201410	1,800	1	専門
331	ソーシャル・ビジネスの経営学：社会を救う戦略と組織	平田譲二：福嶋路	中央経済社（発売：中央経済グループパブ）	201212	2,600	1	専門
332	ソーシャル・ビジネスのイノベーション	岸真清：島和俊	同文舘出版	201403	2,300	1	専門
333	NPO，そしてソーシャルビジネス：進化する企業の社会貢献	坂本恒夫：丹野安子	文眞堂	201704	2,300	1	専門
334	NPOマネジメント	河合明宣：大橋正明	放送大学教育振興会（発売：NHK出版）	201703	3,100	1	専門
335	ソーシャル・イノベーションが拓く世界：身近な社会問題解決のためのトピックス30	西村仁志：山口洋典	法律文化社	201411	2,600	1	専門
336	ソーシャルビジネスの政策と実践：韓国における社会的企業の挑戦	羅一慶	法律文化社	201504	2,600	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
337	連帯経済とソーシャル・ビジネス：貧困削減、富の再配分のためのケイパビリティ・アプロ	池本幸生：松井範惇	明石書店	201504	2,500	1	専門
338	はじめてのNPO論	澤村明：田中敬文	有斐閣	201704	1,900	1	専門
339	闘う社会的企業：コミュニティ・エンパワーメントの担い手	藤井敦史：原田晃樹	勁草書房	201303	3,300	1	専門
340	ザ・ホスピタリティ：「おもてなし」「思いやり」から経営へ	中根貢	産業能率大学出版部	201302	2,000	1	専門
341	事業継続のためのマネジメント：地域と企業の生き残り	小野憲司：三菱東京UFJリサーチ&コンサルティング	成山堂書店	201706	2,800	1	専門
342	持続可能な発展とイノベーション	企業と社会フォーラム	千倉書房	201309	2,400	1	専門
343	イノベーション論入門	土井教之：宮田由紀夫	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201503	2,600	1	専門
344	アトム通貨で描くコミュニティ・デザイン：人とまちが紡ぐ未来	アトム通貨実行委員会	新評論	201504	1,800	1	専門
345	FinTech大全：今、世界で起きている金融革命	スザンヌ・キシュティ：ヤノシュ・バーベリス	日経BP社(発売：日経BPマーケティン)	201706	3,000	1	専門
346	共助社会の金融システム：生活者と投資家の視点	岸真清	文眞堂	201303	2,600	1	専門
347	地方創生に挑む地域金融：「縮小」阻止へ金融・資本市場からのアプローチ	岩崎俊博：野村資本市場研究所	金融財政事情研究会(発売：きんざい)	201505	2,900	1	専門
348	責任ある投資：資金の流れで未来を変える	水口剛	岩波書店	201304	3,200	1	専門
349	日本の地域金融機関経営：営業地盤変化への対応	堀江康熙	勁草書房	201507	4,500	1	専門
350	明日をつくる地域金融：イノベーションを支えるエコシステム	内田聡	昭和堂（京都）	201711	2,000	1	専門
351	地方創生のための地域金融機関の役割：金融仲介機能の質向上を目指して	家森信善	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201803	3,000	1	専門
352	ザ・地銀：構造不況に打ち克つ長期ビジョン経営	＝橋昌裕	金融財政事情研究会(発売：きんざい)	201409	1,600	1	専門
353	信用金庫論：制度論としての整理	村本孜	金融財政事情研究会(発売：きんざい)	201502	3,800	1	専門
354	労働金庫：勤労者自主福祉金融の歴史・理念・未来	三村聡	金融財政事情研究会(発売：きんざい)	201407	3,000	1	専門
355	はじめよう、お金の地産地消：地域の課題を「お金と人のエコシステム」で解決する	木村真樹	英治出版	201707	1,600	1	専門
356	アフリカ・ビジネスと法務：ケニア・コートジボワールを中心に	角田進二：金城拓真	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201609	2,600	1	専門
357	中国ビジネスを理解する：大局をつかむ11の論点	早稲田大学ファイナンス研究センター：川本裕子	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201312	2,400	1	専門
358	基礎からわかる損害保険	中出哲：中林真理子	有斐閣	201806	2,300	1	専門
359	経済学で読み解く交通・公共政策	中条潮：田邉勝巳	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201803	2,700	1	専門
360	ふるさと納税と地域経営：制度の現状と地方自治体の活用事例	高松俊和：事業構想大学院大学ふるさと納税・地方創生	事業構想大学院大学出版部(発売：宣伝会議)	201612	1,800	1	専門
361	ふるさと納税の理論と実践	保田隆明：保井俊之	事業構想大学院大学出版部(発売：宣伝会議)	201702	1,800	1	専門
362	「地方創生」と地方における自治体の役割	日本地方財政学会	勁草書房	201702	4,500	1	専門
363	データ分析ってこうやるんだ！実況講義：身近な統計数字の読み方・使い方	吉本佳生	ダイヤモンド社	201310	1,600	1	専門
364	ひとり空間の都市論	南後由和	筑摩書房	201801	860	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
365	現代人の社会学・入門：グローバル化時代の生活世界	西原和久：油井清光	有斐閣	201012	1,900	1	専門
366	シェアをデザインする：変わるコミュニティ、ビジネス、クリエイションの現場	猪熊純：成瀬友梨	学芸出版社（京都）	201312	2,200	1	専門
367	社会的合意形成のプロジェクトマネジメント	桑子敏雄	コロナ社	201602	2,500	1	専門
368	関係人口をつくる：定住でも交流でもないローカルイノベーション	田中輝美：シーズ総合政策研究所	木楽舎	201710	1,400	1	専門
369	観光メディア論	遠藤英樹：寺岡伸悟	ナカニシヤ出版	201405	2,500	1	専門
370	地域づくりのコミュニケーション研究：まちの価値を創造するために	田中秀幸	ミネルヴァ書房	201703	5,000	1	専門
371	友情と詐欺の人類学：ネパールの観光市場タメルの宝飾商人の民族誌	渡部瑞希	晃洋書房	201802	4,000	1	専門
372	アーバン・トライバル・スタディーズ	上野俊哉	月曜社	201703	3,000	1	専門
373	未来を拓く地域づくり：楽しく実践する12のヒント	福島明美	かもがわ出版	201402	1,600	1	専門
374	「地方創生と消滅」の社会学：日本のコミュニティのゆくえ	金子勇	ミネルヴァ書房	201601	3,000	1	専門
375	ワールド・カフェから始める地域コミュニティづくり：実践ガイド	香取一昭：大川恒	学芸出版社（京都）	201711	2,000	1	専門
376	地域再生の社会学	三浦典子：横田尚俊	学文社	201703	3,400	1	専門
377	「縮小社会」再構築：安心して幸せにくらせる地域社会づくりのために	長瀬光市：縮小都市研究会	公人の友社	201710	2,500	1	専門
378	小さな拠点を軸とする共生型地域づくり：地方消滅論を超えて	田中きよむ：玉里恵美子	晃洋書房	201803	2,800	1	専門
379	都市近隣組織の発展過程：コミュニティ・ガバナンスの日米比較論	大内田鶴子	春風社	201705	5,000	1	専門
380	文化ストック経済論：フロー文化からの転換	寺岡寛	信山社出版	201711	3,600	1	専門
381	郡上八幡伝統を生きる：地域社会の語りとリアリティ	足立重和	新曜社	201008	3,300	1	専門
382	地域アクションのちから：コミュニティワーク・リフレクションブック	韓国住民運動教育院：平野隆之	全国コミュニティライフサポートセンター	201803	1,700	1	専門
383	地域社会の変動と文化	中藤康俊【著】	大学教育出版	201110	1,600	1	専門
384	コミュニティ：安全と自由の戦場	ジグムント・バウマン：奥井智之	筑摩書房	201712	1,100	1	専門
385	コミュニティの再生：経済と社会の潜在力を活かす	丸尾直美：宮垣元	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201603	2,600	1	専門
386	もう東京はいらない：地域力を高めた9つの小さな町の大きな話	日本経済新聞社	日本経済新聞出版社	201507	2,500	1	専門
387	コミュニティ学のススメ：ところ定まればこころ定まる	浜口晴彦	日本地域社会研究所	201603	1,852	1	専門
388	むらの困りごと解決隊：実践に学ぶ地域運営組織	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会	201803	2,000	1	専門
389	政策としてのコミュニティ：武蔵野市にみる市民と行政のパートナーシップ	高田昭彦	風間書房	201603	2,700	1	専門
390	はじめての地域づくり実践講座：全員集合！を生み出す6つのリテラシー	石井大一朗：霜浦森平	北樹出版	201804	2,000	1	専門
391	里山に生きる家族と集落：こころと絆、持続可能な暮らし	養父志乃夫	勁草書房	201702	2,800	1	専門
392	中国の都市化：拡張，不安定と管理メカニズム	天児慧：任哲	アジア経済研究所	201503	2,200	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
393	変わりゆく日本の大都市圏：ポスト成長社会における都市のかたち	日野正輝：香川貴志	ナカニシヤ出版	201502	3,200	1	専門
394	現代日本における都市メカニズム：都市の計量社会学	赤枝尚樹	ミネルヴァ書房	201503	5,000	1	専門
395	日本において都市社会学はどう形成されてきたか：社会調査史で読み解く学問の誕生	松尾浩一郎	ミネルヴァ書房	201504	7,000	1	専門
396	コレクション・モダン都市文化．第13巻	和田博文	ゆまに書房	200511	18,000	1	専門
397	コレクション・モダン都市文化．第20巻	和田博文	ゆまに書房	200605	18,000	1	専門
398	コレクション・モダン都市文化．第22巻	和田博文	ゆまに書房	200612	18,000	1	専門
399	コレクション・モダン都市文化．第31巻	和田博文	ゆまに書房	200801	18,000	1	専門
400	コレクション・モダン都市文化．第34巻	和田博文	ゆまに書房	200801	18,000	1	専門
401	コレクション・モダン都市文化．第52巻	和田博文	ゆまに書房	200912	18,000	1	専門
402	コレクション・モダン都市文化．第54巻	和田博文	ゆまに書房	200912	18,000	1	専門
403	コレクション・モダン都市文化．第61巻	和田博文	ゆまに書房	201012	18,000	1	専門
404	コレクション・モダン都市文化．第62巻	和田博文	ゆまに書房	201012	18,000	1	専門
405	コレクション・モダン都市文化．第63巻	和田博文	ゆまに書房	201012	18,000	1	専門
406	コレクション・モダン都市文化．第64巻	和田博文	ゆまに書房	201012	18,000	1	専門
407	コレクション・モダン都市文化．第65巻	和田博文	ゆまに書房	201012	18,000	1	専門
408	コレクション・モダン都市文化．第77巻	和田博文	ゆまに書房	201206	18,000	1	専門
409	コレクション・モダン都市文化．第81巻	和田博文	ゆまに書房	201212	18,000	1	専門
410	コレクション・モダン都市文化．第82巻	和田博文	ゆまに書房	201212	18,000	1	専門
411	コレクション・モダン都市文化．第83巻	和田博文	ゆまに書房	201212	18,000	1	専門
412	コレクション・モダン都市文化．第84巻	和田博文	ゆまに書房	201212	18,000	1	専門
413	コレクション・モダン都市文化．第85巻	和田博文	ゆまに書房	201306	18,000	1	専門
414	コレクション・モダン都市文化．第88巻	和田博文	ゆまに書房	201306	18,000	1	専門
415	コレクション・モダン都市文化．第89巻	和田博文	ゆまに書房	201306	18,000	1	専門
416	コレクション・モダン都市文化．第90巻	和田博文	ゆまに書房	201312	18,000	1	専門
417	コレクション・モダン都市文化．第91巻	和田博文	ゆまに書房	201312	18,000	1	専門
418	地方都市を考える：「消費社会」の先端から	貞包英之	花伝社(発売：共栄書房)	201510	1,500	1	専門
419	世界の水辺都市を巡る：ヨーロッパ・アジア、そして日本	陣内秀信	弦書房	201603	740	1	専門
420	本当に住んで幸せな街：全国「官能都市」ランキング	島原万丈：ネクスト（1997）	光文社	201611	740	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
421	地方都市とローカリティ：弘前・仕事・近代化	杉山祐子：山口恵子	弘前大学出版会	201603	3,200	1	専門
422	渋谷学	石井研士	弘文堂	201703	1,500	1	専門
423	都市論を学ぶための12冊	若林幹夫	弘文堂	201403	2,000	1	専門
424	移民都市の苦悩と挑戦：ニューヨークとフランクフルト	東自由里：進藤修一	晃洋書房	201506	3,200	1	専門
425	郊外社会の分断と再編：つくられたまち・多摩ニュータウンのその後	石田光規：林浩一郎	晃洋書房	201804	2,600	1	専門
426	風格の地方都市	真淵勝	慈学社出版(発売：大学図書)	201504	1,800	1	専門
427	「共生」の都市社会学：下北沢再開発問題のなかで考える	三浦倫平	新曜社	201603	5,200	1	専門
428	生き延びる都市：新宿歌舞伎町の社会学	武岡暢	新曜社	201703	4,400	1	専門
429	創造の場から創造のまちへ：クリエイティブシティのクオリア	萩原雅也	水曜社	201410	2,700	1	専門
430	包摂都市のレジリエンス：理念モデルと実践モデルの構築	大阪市立大学都市研究プラザ：阿部昌樹	水曜社	201703	3,000	1	専門
431	東アジアの都市構造と集団性：伝統都市から近代都市へ	井上徹：仁木宏	清文堂出版	201603	8,200	1	専門
432	破壊のあとの都市空間：ポスト・カタストロフィーの記憶	神奈川大学人文学研究所：熊谷謙介	青弓社	201703	3,400	1	専門
433	熱い都市冷たい都市	若林幹夫	青弓社	201304	4,000	1	専門
434	生きられたニュータウン：未来空間の哲学	篠原雅武	青土社	201512	2,400	1	専門
435	都市のエクリチュール：都市と国土の四半世紀	市川宏雄	千倉書房	201802	2,800	1	専門
436	グローバル・シティ：ニューヨーク・ロンドン・東京から世界を読む	サスキア・サッセン：伊豫谷登士翁	筑摩書房	201802	1,900	1	専門
437	メガシティ．１	村松伸	東京大学出版会	201608	3,800	1	専門
438	メガシティ．２	村松伸	東京大学出版会	201609	4,800	1	専門
439	メガシティ．３	村松伸	東京大学出版会	201608	3,800	1	専門
440	メガシティ．４	村松伸	東京大学出版会	201609	3,400	1	専門
441	メガシティ．５	村松伸：村上暁信	東京大学出版会	201706	3,800	1	専門
442	メガシティ．６	村松伸	東京大学出版会	201701	3,800	1	専門
443	伝統都市．１	吉田伸之：伊藤毅	東京大学出版会	201005	4,800	1	専門
444	伝統都市．２	吉田伸之：伊藤毅	東京大学出版会	201005	4,800	1	専門
445	伝統都市．３	吉田伸之：伊藤毅	東京大学出版会	201007	4,800	1	専門
446	伝統都市．４	吉田伸之：伊藤毅	東京大学出版会	201008	4,800	1	専門
447	都市と地域の社会学	森岡＝志：北川由紀彦	放送大学教育振興会(発売：NHK出版)	201803	2,400	1	専門
448	都市のリアル	吉原直樹：近森高明	有斐閣	201308	2,100	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
449	渋谷らしさの構築	田原裕子	雄山閣	201502	3,400	1	専門
450	〈郊外〉の誕生と死	小田光雄	論創社	201705	2,500	1	専門
451	つながりづくりの隘路：地域社会は再生するのか	石田光規	勁草書房	201507	3,800	1	専門
452	包摂型社会：社会的排除アプローチとその実践	全泓奎	法律文化社	201504	2,800	1	専門
453	新クリエイティブ資本論：才能が経済と都市の主役となる	リチャード・フロリダ：井口典夫	ダイヤモンド社	201412	2,800	1	専門
454	環境・社会・経済中国都市ランキング：中国都市総合発展指標	中国国家発展改革委員会発展計画司：雲河都市研究院	NTT出版	201806	4,000	1	専門
455	地域計画情報論	土方正夫	成文堂	201805	3,000	1	専門
456	都市の包容力：セーフティネットシティを構想する	水内俊雄：福本拓	法律文化社	201704	800	1	専門
457	近代日本の都市社会政策とマイノリティ：歴史都市の社会史	杉本弘幸	思文閣出版	201502	7,200	1	専門
458	生活リスクマネジメントのデザイン：リスクコントロールと保険の基本	亀井克之	法律文化社	201805	2,000	1	専門
459	空き家の手帖：放っておかないための考え方・使い方	六原自治連合会：ぼむ企画	学芸出版社（京都）	201610	1,000	1	専門
460	町を住みこなす：超高齢社会の居場所づくり	大月敏雄	岩波書店	201707	860	1	専門
461	都市の空き家問題なぜ？どうする？：地域に即した問題解決にむけて	由井義通：久保倫子	古今書院	201603	3,200	1	専門
462	東京大都市圏におけるハウジング研究：都心居住と郊外住宅地の衰退	久保倫子	古今書院	201503	3,500	1	専門
463	これからの住まいとまち：住む力をいかす地域生活空間の創造	堀田祐三子：近藤民代	朝倉書店	201404	3,200	1	専門
464	空き家急増の真実：放置・倒壊・限界マンション化を防げ	米山秀隆	日本経済新聞出版社	201206	1,400	1	専門
465	空家の地域特性と空家長期化要因に関する分析：平成21年度空家実態調査（国土交通省）結果を踏まえ		日本住宅総合センター	201109	1,800	1	専門
466	デンマークのヒュッゲな生活空間：住まい・高齢者住宅・デザイン・都市計画	中島明子：小川正光	萌文社	201410	2,400	1	専門
467	深刻化する「空き家」問題：全国実態調査からみた現状と対策	日本弁護士連合会法律サービス展開本部自治：日本弁護士連合会公害対策・環境保全委員会	明石書店	201803	2,400	1	専門
468	近居：少子高齢社会の住まい・地域再生にどう活かすか	大月敏雄：住総研	学芸出版社（京都）	201403	1,900	1	専門
469	空き家等の適正管理条例：老朽危険家屋等から住民の安全・安心を守るー喫緊の自	北村喜宣：前田広子	地域科学研究会	201208	4,760	1	専門
470	荻窪家族プロジェクト物語：住む人・使う人・地域の人みんなでつくり多世代で暮ら	荻窪家族プロジェクト	萬書房(発売：JRC)	201605	1,800	1	専門
471	地域社会圏主義	山本理顕：上野千鶴子（社会学）	LIXIL出版	201308	2,500	1	専門
472	高度成長期の生活文化：新聞記事にみる郊外の団地・ニュータウンの視点から	西脇和彦	昭和女子大学近代文化研究所	201303	800	1	専門
473	余暇・レジャー＆観光総合統計．2018－2019		三冬社	201708	14,800	1	専門
474	レジャー・スタディーズ	渡辺潤（社会学）	世界思想社	201507	2,500	1	専門
475	雇用創出と地域：地域経済・福祉・国際視点からのアプローチ	難波利光：坂本毅啓	大学教育出版	201707	2,400	1	専門
476	限界にっぽん：悲鳴をあげる雇用と経済	朝日新聞社	岩波書店	201403	1,800	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
477	劣化する雇用：ビジネス化する労働市場政策	伍賀一道：脇田滋	旬報社	201607	1,600	1	専門
478	人口減少社会の雇用：若者・女性・高齢者・障害者・外国人労働者の雇用の未	西川清之	文眞堂	201504	2,750	1	専門
479	なぜ障がい者を雇う中小企業は業績を上げ続けるのか？：経営戦略としての障がい者雇用とCSR	影山摩子弥	中央法規出版	201311	1,800	1	専門
480	ラストキャリア：50代からの地方創生に貢献する新しい選択肢	谷川史郎	東洋経済新報社	201602	1,500	1	専門
481	地域連携による女性活躍推進の実践：持続可能な地域づくりに活かす行政と民間のつながり	国立女性教育会館	悠光堂	201703	2,500	1	専門
482	オルグ！オルグ！オルグ！：労働組合はいかにしてつくられたか	本田一成	新評論	201803	2,800	1	専門
483	産業構造の変化と外国人労働者：労働現場の実態と歴史的視点	駒井洋：津崎克彦	明石書店	201806	2,800	1	専門
484	働くひとの心理学：働くこと、キャリアを発達させること、そして生涯発達	岡田昌毅	ナカニシヤ出版	201301	2,500	1	専門
485	都市郊外のジェンダー地理学：空間の変容と住民の地域「参加」	関村オリエ	古今書院	201802	5,200	1	専門
486	都市に刻む軌跡：スケートボーダーのエスノグラフィー	田中研之輔	新曜社	201603	3,200	1	専門
487	若者参画条例の提案：若者が活き活きと活動するまちをつくるために	松下啓一：倉根悠紀	萌書房	201806	2,200	1	専門
488	健康長寿のまちづくり：超高齢者社会への挑戦	辻哲夫：久野譜也	時評社	201704	1,500	1	専門
489	中山間地域の「買い物弱者」を支える：移動販売・買い物代行・送迎バス・店舗設置	関満博	新評論	201510	5,200	1	専門
490	都市のフードデザート問題：ソーシャル・キャピタルの低下が招く街なかの「食の砂	岩間信之	農林統計協会	201701	2,800	1	専門
491	新宿二丁目の文化人類学：ゲイ・コミュニティから都市をまなざす	砂川秀樹	太郎次郎社	201507	3,000	1	専門
492	ホームレスと都市空間：収奪と異化、社会運動、資本ー国家	林真人	明石書店	201402	4,800	1	専門
493	子どもたちを犯罪から守るまちづくり：考え方と実践ー東京・葛飾からのレポート	中村攻	晶文社	201207	1,600	1	専門
494	地方都市「消滅」を乗り越える！：岐阜県山県市からの提言	宮嶋淳：岐阜の地域福祉実践・研究ネットワーク	中央法規出版	201602	3,000	1	専門
495	包摂都市を構想する：東アジアにおける実践	全泓奎	法律文化社	201603	2,800	1	専門
496	限界集落の生活と地域づくり	田中きよむ：水谷利亮	晃洋書房	201304	2,100	1	専門
497	コミュニティ革命：「地域プロデューサー」が日本を変える	高橋英与	彩流社	201509	1,600	1	専門
498	まちづくりとしての地域包括ケアシステム：持続可能な地域共生社会をめざして	辻哲夫：田城孝雄	東京大学出版会	201712	3,500	1	専門
499	高齢社会の医療介護と地方創生：一億総活躍時代の日本版CCRCと地域包括ケアのあり	斉藤清一：三好秀和	同友館	201701	2,600	1	専門
500	地域防災とまちづくり：みんなをその気にさせる災害図上訓練	瀧本浩一	イマジン出版	201611	1,200	1	専門
501	地域と都市の防災	目黒公郎：村尾修	放送大学教育振興会(発売：NHK出版)	201603	3,400	1	専門
502	東日本大震災復興が日本を変える：行政・企業・NPOの未来のかたち	岡本全勝：藤沢烈	ぎょうせい	201603	2,000	1	専門
503	被災者支援のくらしづくり・まちづくり：仮設住宅で健康に生きる	岩船昌起	古今書院	201610	2,800	1	専門
504	生業と地域社会の復興を考える：宮城県石巻市北上町の事例から	西城戸誠：平川全機	公人の友社	201507	900	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
505	震災と地域再生：石巻市北上町に生きる人びと	西城戸誠：宮内泰介	法政大学出版局	201602	3,000	1	専門
506	地方都市から子どもの貧困をなくす：市民・行政の今とこれから	志賀信夫：畠中亨	旬報社	201606	1,400	1	専門
507	「無理しない」地域づくりの学校：「私」からはじまるコミュニティワーク	竹端寛：尾野寛明	ミネルヴァ書房	201712	2,500	1	専門
508	横浜発助けあいの心がつむぐまちづくり：地域福祉を拓いてきた5人の女性の物語	横浜市社会福祉協議会：西尾敦史	ミネルヴァ書房	201710	1,800	1	専門
509	地域学習の創造：地域再生への学びを拓く	佐藤一子	東京大学出版会	201502	2,900	1	専門
510	地域コミュニティと教育：地域づくりと学校づくり	玉井康之：夏秋英房	放送大学教育振興会（発売：NHK出版）	201803	2,800	1	専門
511	ESDの地域創生力：持続可能な社会づくり・人づくり9つの実践	阿部治	合同出版	201703	2,000	1	専門
512	集客交流産業と国際教育旅行	朝水宗彦	くんぷる	201611	1,600	1	専門
513	観光教育への招待：社会科から地域人材育成まで	寺本潔：澤達大	ミネルヴァ書房	201604	2,000	1	専門
514	創造性教育とモノづくり：工業高校発、製品開発によるイノベーションの方法論	山田啓次	ナカニシヤ出版	201709	3,000	1	専門
515	地域を育てる大学の挑戦	松本泰道：上野眞也	成文堂	201603	2,500	1	専門
516	大学と地域社会の連携：持続可能な協働への道すじ	渋谷努	石風社	201604	1,800	1	専門
517	地域と大学：地方創生・地域再生の時代を迎えて	萩原誠	南方新社	201612	2,500	1	専門
518	イタリア・アカデミックな歩きかた：都市をめぐる教養散策	丹野義彦	有斐閣	201512	2,500	1	専門
519	地域と連携する大学教育の挑戦：愛媛大学法文学部総合政策学科地域・観光まちづくりコ	大西正志：竹内康博	ぺりかん社	201603	3,200	1	専門
520	続続・地産地消大学：オルタナティブ地域学の試み	湯崎真梨子	南方新社	201703	1,500	1	専門
521	郷土・地域文化の賞事典	日外アソシエーツ	日外アソシエーツ（発売：紀伊國屋書店日外アソ）	201707	15,000	1	専門
522	地域がグローバルに生きるには：地方創生と大学教育	帯野久美子	学芸出版社（京都）	201707	1,800	1	専門
523	インターンシップ実践ガイド：大学と企業の連携	日本インターンシップ学会：折戸晴雄	玉川大学出版部	201704	2,600	1	専門
524	生涯学習まちづくりの人材育成：人こそ最大の地域資源である！	瀬沼克彰	日本地域社会研究所	201505	2,400	1	専門
525	叢書地域をつくる学び．16		北樹出版	201202	2,600	1	専門
526	叢書地域をつくる学び．4		北樹出版	201109	2,400	1	専門
527	公共文化施設の歴史と展望	徳永高志	晃洋書房	201010	2,800	1	専門
528	公共文化施設の公共性：運営・連携・哲学	藤野一夫	水曜社	201104	3,200	1	専門
529	日本の文化施設を歩く：官民協働のまちづくり	松本茂章	水曜社	201504	3,200	1	専門
530	文化からの復興：市民と震災といわきアリオスと	ニッセイ基礎研究所：いわき芸術文化交流館アリオス	水曜社	201207	1,800	1	専門
531	文化の居場所の作り方：久留米シティプラザからの地方創生	久留米シティプラザ記念誌編集チーム：槻橋修	誠文堂新光社	201705	2,000	1	専門
532	まちを創る青少年：地域と学校・協働のまちづくり参画のすすめ	大田順子：福留強	東京創作出版	201712	2,000	1	専門

専門分野(和書)

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格(本体)	冊数	備考
533	地方創生“熱中小学校”の果てしなき挑戦:もういちど七歳の目で世界を・・・	滝田誠一郎	辰巳出版	201803	1,600	1	専門
534	越後妻有民俗泊物館	深澤孝史	現代企画室	201604	1,800	1	専門
535	廃村続出の時代を生きる:南の島じまからの視点	安渓遊地	南方新社	201703	2,500	1	専門
536	台湾原住民族の生活再建と地域活性化:国民的財産としての農村文化と地域資源の継承発展そし	東正則:林梓聯	農林統計出版	201708	3,000	1	専門
537	江戸の温泉三昧:温泉に癒される人々温泉に生きる人々	鈴木一夫	岩田書院	201010	2,800	1	専門
538	酒と肴の文化地理:大分の地域食をめぐる旅	中村周作	原書房	201404	1,800	1	専門
539	食と儀礼をめぐる地球の旅:先住民文化からみたシベリアとアメリカ	高倉浩樹:山口未花子	東北大学出版会	201410	2,500	1	専門
540	人の移動の民俗学:タビ〈旅〉から見る生業と故郷	松田睦彦	慶友社	201002	10,000	1	専門
541	旅行のモダニズム:大正昭和前期の社会文化変動	赤井正二	ナカニシヤ出版	201612	3,300	1	専門
542	シリーズ明治・大正の旅行. 第10巻	荒山正彦	ゆまに書房	201405	16,000	1	専門
543	シリーズ明治・大正の旅行. 第11巻	荒山正彦	ゆまに書房	201405	22,000	1	専門
544	シリーズ明治・大正の旅行. 第12巻	荒山正彦	ゆまに書房	201411	31,000	1	専門
545	シリーズ明治・大正の旅行. 第13巻	荒山正彦	ゆまに書房	201411	21,000	1	専門
546	シリーズ明治・大正の旅行. 第14巻	荒山正彦	ゆまに書房	201411	32,000	1	専門
547	シリーズ明治・大正の旅行. 第15巻	荒山正彦	ゆまに書房	201411	36,000	1	専門
548	シリーズ明治・大正の旅行. 第16巻	荒山正彦	ゆまに書房	201411	26,000	1	専門
549	シリーズ明治・大正の旅行. 第17巻	荒山正彦	ゆまに書房	201411	26,000	1	専門
550	シリーズ明治・大正の旅行. 第18巻～第19巻	荒山正彦	ゆまに書房	201505	40,000	2	専門
551	シリーズ明治・大正の旅行. 第1巻	荒山正彦	ゆまに書房	201311	17,000	1	専門
552	シリーズ明治・大正の旅行. 第20巻	荒山正彦	ゆまに書房	201505	30,000	1	専門
553	シリーズ明治・大正の旅行. 第21巻	荒山正彦	ゆまに書房	201505	17,000	1	専門
554	シリーズ明治・大正の旅行. 第22巻	荒山正彦	ゆまに書房	201505	20,000	1	専門
555	シリーズ明治・大正の旅行. 第23巻	荒山正彦	ゆまに書房	201511	29,000	1	専門
556	シリーズ明治・大正の旅行. 第24巻	荒山正彦	ゆまに書房	201511	13,000	1	専門
557	シリーズ明治・大正の旅行. 第25巻	荒山正彦	ゆまに書房	201511	20,000	1	専門
558	シリーズ明治・大正の旅行. 第26巻	荒山正彦	ゆまに書房	201511	31,000	1	専門
559	シリーズ明治・大正の旅行. 第2巻	荒山正彦	ゆまに書房	201311	18,000	1	専門
560	シリーズ明治・大正の旅行. 第3巻	荒山正彦	ゆまに書房	201311	24,000	1	専門

専門分野(和書)

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格(本体)	冊数	備考
561	シリーズ明治・大正の旅行. 第4巻	荒山正彦	ゆまに書房	201311	21,000	1	専門
562	シリーズ明治・大正の旅行. 第5巻	荒山正彦	ゆまに書房	201405	23,000	1	専門
563	シリーズ明治・大正の旅行. 第6巻	荒山正彦	ゆまに書房	201405	24,000	1	専門
564	シリーズ明治・大正の旅行. 第7巻	荒山正彦	ゆまに書房	201405	29,000	1	専門
565	シリーズ明治・大正の旅行. 第8巻	荒山正彦	ゆまに書房	201405	28,000	1	専門
566	シリーズ明治・大正の旅行. 第9巻	荒山正彦	ゆまに書房	201405	24,000	1	専門
567	「旅」の誕生:平安ー江戸時代の紀行文学を読む	倉本一宏	河出書房新社	201506	1,700	1	専門
568	旅の民俗シリーズ. 第一巻	旅の文化研究所	現代書館	201710	2,300	1	専門
569	旅の民俗シリーズ. 第三巻	旅の文化研究所	現代書館	201710	2,300	1	専門
570	旅の民俗シリーズ. 第二巻	旅の文化研究所	現代書館	201710	2,300	1	専門
571	旅の根源史:映し出される人間欲望の変遷	田村正紀	千倉書房	201305	2,800	1	専門
572	旅のはじまりと文化の生成	大学教育出版	大学教育出版	201301	2,200	1	専門
573	旅と交流:旅からみる世界と歴史	細田典明	北海道大学出版会	201503	2,400	1	専門
574	江戸の旅と出版文化:寺社参詣史の新視角	原淳一郎	三弥井書店	201312	2,300	1	専門
575	都市祭礼文化の継承と変容を考える:ソーシャル・キャピタルと文化資本	山田浩之	ミネルヴァ書房	201612	5,000	1	専門
576	「よさこい系」祭りの都市民俗学	矢島妙子	岩田書院	201505	8,400	1	専門
577	祭りと地方都市:都市コミュニティ論の再興	竹元秀樹	新曜社	201404	5,800	1	専門
578	市場分析のための統計学入門	清水千弘	朝倉書店	201604	2,500	1	専門
579	1億人のための統計解析:「エクセル」を最強の武器にする	西内啓【著】	日経BP社(発売:日経BPマーケティン)	201403	1,800	1	専門
580	現場ですぐ使える時系列データ分析:データサイエンティストのための基礎知識	横内大介:青木義充	技術評論社	201403	1,980	1	専門
581	世界の都市地図500年史	ジェレミー・ブラック:野中邦子	河出書房新社	201605	4,500	1	専門
582	情報共有・地域活動支援のためのソーシャルメディアGIS	山本佳世子	古今書院	201510	4,200	1	専門
583	観光地の自然学:ジオパークでまなぶ	小泉武栄	古今書院	201303	2,600	1	専門
584	地形の辞典	日本地形学連合:鈴木隆介	朝倉書店	201702	26,000	1	専門
585	三陸にジオパークを:未来のいのちを守るために	高木秀雄	早稲田大学出版部	201204	940	1	専門
586	チューリップ:ヨーロッパ・アジア9カ国紀行	冨山稔	文一総合出版	201803	1,400	1	専門
587	医療ツーリズム:大震災でどうなる日本式成長モデル	水巻中正	医薬ジャーナル社	201108	2,800	1	専門
588	医療ツーリズム:アジア諸国の状況と日本への導入可能性	羽生正宗	慶応義塾大学出版会	201112	3,200	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
589	再生可能エネルギーによる地域づくり：自立・共生社会への転換の道行き	白井信雄	環境新聞社	201801	2,500	1	専門
590	「エネルギー自治」で地域再生！：飯田モデルに学ぶ	諸富徹	岩波書店	201506	620	1	専門
591	バイオマスエネルギー・ビジネス	小澤祥司：浦上健司	七つ森書館	201310	2,400	1	専門
592	地図で読む日本の再生可能エネルギー：持続可能な地域がわかる！	永続地帯研究会	旬報社	201309	1,300	1	専門
593	里地里山エネルギー：自立分散への挑戦	河野博子	中央公論新社	201701	780	1	専門
594	文化資本としてのデザイン活動：ラテンアメリカ諸国の新潮流	鈴木美和子	水曜社	201307	2,500	1	専門
595	日本の“ものづくり”に求められる“ひとづくり”	山根八洲男	日刊工業新聞社	201502	1,800	1	専門
596	都産技研の挑戦：世界に勝つものづくり支援の強化	東京都立産業技術研究センター	丸善プラネット（発売：丸善出版）	201403	2,000	1	専門
597	サービス製造業の時代	松崎和久	税務経理協会	201410	2,600	1	専門
598	日本のものづくりの底力	藤本隆宏：新宅純二郎	東洋経済新報社	201502	3,200	1	専門
599	日本型第4次ものづくり産業革命：経営者よ、このままで生き残れるか	吉川良三：日韓IT経営協会	日刊工業新聞社	201506	1,600	1	専門
600	グローバル・ニッチトップ企業論：日本の明日を拓くものづくり中小企業	細谷祐二	白桃書房	201403	2,750	1	専門
601	地方製造業の展開：高崎ものづくり再発見	高崎経済大学地域科学研究所	日本経済評論社	201704	3,500	1	専門
602	東アジアにおける製造業の企業内・企業間の知識連携：日系企業を中心として	板垣博	文眞堂	201803	3,000	1	専門
603	セル生産の真髄：人を活かす究極の生産システム	金辰吉	日刊工業新聞社	201309	2,000	1	専門
604	浜からはじめる復興計画：牡鹿・雄勝・長清水での試み	アーキエイド	彰国社	201212	2,200	1	専門
605	水環境と地域づくり：持続可能な発展をめざして	中藤康俊	古今書院	201001	2,600	1	専門
606	都市と堤防：水辺の暮らしを守るまちづくり	難波匡甫	水曜社	201703	2,500	1	専門
607	小樽志民運河保存運動の市民力	石井伸和	社会評論社	201804	2,300	1	専門
608	ダムを造らない社会へ：八ツ場ダムの問いかけ	上野英雄（ジャーナリスト）	新泉社	201302	2,000	1	専門
609	東京臨海論：港からみた都市構造史	渡邊大志	東京大学出版会	201702	5,400	1	専門
610	マンホール：意匠があらわす日本の文化と歴史	石井英俊	ミネルヴァ書房	201509	1,800	1	専門
611	ごみを資源にまちづくり：肥料・エネルギー・雇用を生む	中村修	農山漁村文化協会	201708	1,800	1	専門
612	都市の条件：住まい、人生、社会持続	平山洋介	NTT出版	201110	2,200	1	専門
613	都市をリノベーション	馬場正尊	NTT出版	201105	2,300	1	専門
614	都市のエージェントはだれなのか：近世／近代／現代　パリ／ニューヨーク／東京	北山恒	TOTO出版	201508	1,500	1	専門
615	シモキタらしさのDNA：「暮らしたい訪れたい」まちの未来をひらく	高橋ユリカ：小林正美	エクスナレッジ	201506	1,800	1	専門
616	市民が関わるパブリックスペースデザイン：姫路市における市民・行政・専門家の創造的連携	小林正美：小野寺康	エクスナレッジ	201505	2,200	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
617	歴史的町並み再生のデザイン手法：シャレットワークショップによる岡山県高梁市における	小林正美	エクスナレッジ	201307	2,200	1	専門
618	コンパクトシティ実現のための都市計画制度：平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説	都市計画法制研究会	ぎょうせい	201411	3,500	1	専門
619	まちづくり・都市計画なんでも質問室	柳沢厚：野口和雄	ぎょうせい	201207	2,190	1	専門
620	よくわかる都市計画法	都市計画法制研究会	ぎょうせい	201208	2,476	1	専門
621	人を呼び込むまちづくり：魅力的景観を生み出す5つの技法	井上正良：長瀬光市	ぎょうせい	201304	2,857	1	専門
622	都市計画法令要覧．平成30年版	国土交通省都市局都市計画課：都市計画法制研究会	ぎょうせい	201710	5,000	1	専門
623	都市計画用語事典	都市計画用語研究会	ぎょうせい	201211	4,095	1	専門
624	「くにたち大学町」の誕生：後藤新平・佐野善作・堤康次郎との関わりから	長内敏之	けやき出版（立川）	201301	1,500	1	専門
625	都市・地域計画学	谷下雅義	コロナ社	201405	2,700	1	専門
626	都市計画	新谷洋二：高橋洋二	コロナ社	201409	2,600	1	専門
627	復興の風景像：ランドスケープの再生を通じた復興支援のためのコンセ	日本造園学会	マルモ出版	201205	1,762	1	専門
628	住民主権型減災のまちづくり：阪神・淡路大震災に学び、南海トラフ地震に備える	中山久憲	ミネルヴァ書房	201508	6,000	1	専門
629	「大京都」の誕生：都市改造と公共性の時代　1895～1931年	伊藤之雄	ミネルヴァ書房	201802	7,500	1	専門
630	まちづくりの哲学：都市計画が語らなかった「場所」と「世界」	代官山ステキな街づくり協議会：養原敬	ミネルヴァ書房	201606	2,400	1	専門
631	ル・コルビュジエの構想：都市デザインと機械の表徴	ノーマ・エヴァンソン：酒井孝博	井上書院	201108	2,500	1	専門
632	人間都市学：安全で心地よい環境をつくる	大野隆造：小林美紀	井上書院	201109	2,700	1	専門
633	住まいと町とコミュニティ	大月敏雄	王国社	201703	1,850	1	専門
634	まちの賑わいをとりもどす：ポスト近代都市計画としての「都市デザイン」	中野恒明	花伝社(発売：共栄書房)	201709	2,000	1	専門
635	都市をたたむ：人口減少時代をデザインする都市計画	饗庭伸	花伝社(発売：共栄書房)	201512	1,700	1	専門
636	笑顔あふれるエコ・タウンの創造：実験プロジェクトEcoーViikki	宇治川正人：吉崎恵子	海文堂出版	201305	2,400	1	専門
637	サステイナブル都市の輸出：戦略と展望	和泉洋人：城所哲夫	学芸出版社（京都）	201703	3,600	1	専門
638	低炭素都市：これからのまちづくり	大西隆：小林光	学芸出版社（京都）	201001	2,700	1	専門
639	東日本大震災復興まちづくり最前線	大西隆：城所哲夫	学芸出版社（京都）	201303	3,800	1	専門
640	「和」の都市デザインはありうるか：文化としてのヒューマンスケール	田端修	学芸出版社（京都）	201005	2,100	1	専門
641	アジア・アフリカの都市コミュニティ：「手づくりのまち」の形成論理とエンパワメントの実践	城所哲夫：志摩憲寿	学芸出版社（京都）	201512	2,700	1	専門
642	いま、都市をつくる仕事：未来を拓くもうひとつの関わり方	日本都市計画学会	学芸出版社（京都）	201111	1,900	1	専門
643	エリアリノベーション：変化の構造とローカライズ	馬場正尊：OpenA	学芸出版社（京都）	201605	2,200	1	専門
644	コミュニティ・マネージメント：ドイツの地域再生戦略	室田昌子	学芸出版社（京都）	201006	2,800	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
645	コミュニティデザイン：人がつながるしくみをつくる	山崎亮	学芸出版社（京都）	201105	1,800	1	専門
646	ストラスブールのまちづくり：トラムとにぎわいの地方都市	ユミ・ヴァンソン・フジイ	学芸出版社（京都）	201109	2,300	1	専門
647	つくること、つくらないこと：町を面白くする11人の会話	長谷川浩己：山崎亮	学芸出版社（京都）	201202	1,800	1	専門
648	ドイツのコンパクトシティはなぜ成功するのか：近距離移動が地方都市を活性化する	村上敦	学芸出版社（京都）	201703	2,200	1	専門
649	にぎわいの場富山グランドプラザ：稼働率100%の公共空間のつくり方	山下裕子	学芸出版社（京都）	201310	2,000	1	専門
650	ポートランド：世界で一番住みたい街をつくる	山崎満広	学芸出版社（京都）	201605	2,000	1	専門
651	まちづくりの仕事ガイドブック：まちの未来をつくる63の働き方	饗庭伸：小泉瑛一	学芸出版社（京都）	201609	1,900	1	専門
652	まちづくりの法律がわかる本	坂和章平	学芸出版社（京都）	201706	2,500	1	専門
653	まちづくり市民事業：新しい公共による地域再生	佐藤滋：白木里恵子	学芸出版社（京都）	201103	3,400	1	専門
654	まちの価値を高めるエリアマネジメント	小林重敬：森記念財団	学芸出版社（京都）	201806	2,300	1	専門
655	まちへのラブレター：参加のデザインをめぐる往復書簡	乾久美子：山崎亮	学芸出版社（京都）	201209	2,000	1	専門
656	リノベーションの新潮流：レガシー・レジェンド・ストーリー	松永安光：漆原弘	学芸出版社（京都）	201505	2,500	1	専門
657	リノベーションまちづくり：不動産事業でまちを再生する方法	清水義次	学芸出版社（京都）	201409	2,500	1	専門
658	公共R不動産のプロジェクトスタディ：公民連携のしくみとデザイン	公共R不動産：馬場正尊	学芸出版社（京都）	201806	2,000	1	専門
659	高さ制限とまちづくり	大澤昭彦	学芸出版社（京都）	201402	3,700	1	専門
660	市民のための景観まちづくりガイド	藤本英子	学芸出版社（京都）	201209	2,000	1	専門
661	証言・まちづくり	西村幸夫：埒正浩	学芸出版社（京都）	201108	3,000	1	専門
662	神戸の震災復興事業：2段階都市計画とまちづくり提案	中山久憲	学芸出版社（京都）	201109	2,700	1	専門
663	人口減少時代における土地利用計画：都市周辺部の持続可能性を探る	川上光彦：浦山益郎	学芸出版社（京都）	201008	3,800	1	専門
664	図説都市空間の構想力	東京大学：西村幸夫	学芸出版社（京都）	201509	3,700	1	専門
665	地方都市の再生戦略	川上光彦	学芸出版社（京都）	201303	3,500	1	専門
666	地方都市を公共空間から再生する：日常のにぎわいをうむデザインとマネジメント	柴田久	学芸出版社（京都）	201711	2,600	1	専門
667	中心市街地活性化のツボ：今、私たちができること	長坂泰之	学芸出版社（京都）	201104	2,000	1	専門
668	都市・まちづくり学入門	日本都市計画学会：久隆浩	学芸出版社（京都）	201111	2,500	1	専門
669	都市・地域の持続可能性アセスメント：人口減少時代のプランニングシステム	原科幸彦：小泉秀樹	学芸出版社（京都）	201507	3,200	1	専門
670	都市を変える水辺アクション：実践ガイド	泉英明：嘉名光市	学芸出版社（京都）	201510	2,400	1	専門
671	都市経営時代のアーバンデザイン	西村幸夫：高梨遼太朗	学芸出版社（京都）	201703	3,700	1	専門
672	都市計画根底から見なおし新たな挑戦へ	蓑原敬：西村幸夫	学芸出版社（京都）	201102	2,800	1	専門

専門分野(和書)

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格(本体)	冊数	備考
673	都市縮小時代の土地利用計画:多様な都市空間創出へ向けた課題と対応策	日本建築学会	学芸出版社(京都)	201708	4,400	1	専門
674	白熱講義これからの日本に都市計画は必要ですか	蓑原敬:饗庭伸	学芸出版社(京都)	201406	2,200	1	専門
675	まちづくりの方法	日本建築学会	丸善出版	201208	2,300	1	専門
676	まちづくり学習	日本建築学会	丸善出版	201603	2,300	1	専門
677	景観まちづくり	日本建築学会	丸善出版	201510	2,300	1	専門
678	グローバル時代のアジア都市論:持続可能な都市をどうつくるか	松行美帆子:志摩憲寿	丸善出版	201601	2,500	1	専門
679	コンパクト建築設計資料集成都市再生	日本建築学会	丸善出版	201403	5,800	1	専門
680	都市空間のデザイン:歴史のなかの建築と都市	大谷幸夫	岩波書店	201202	4,500	1	専門
681	みず・ひと・まち:親水まちづくり	畔柳昭雄:上山肇	技報堂出版	201606	1,800	1	専門
682	自然と共生した流域圏・都市の再生:流域圏から都市・地域環境の再生を考える	「自然と共生した流域圏・都市の再生」ワー:丹保憲仁	技報堂出版	201012	2,800	1	専門
683	都市再開発から世界都市建設へ:ロンドン・ドックランズ再開発史研究	川島佑介	吉田書店	201712	3,900	1	専門
684	グリッド都市:スペイン植民都市の起源, 形成, 変容, 転生	布野修司:ホアン・ラモン・ヒメネス・ベルデホ	京都大学学術出版会	201302	7,200	1	専門
685	都市の計画と設計	宇於崎勝也:小嶋勝衛	共立出版	201703	3,700	1	専門
686	都市計画	日笠端:日端康雄	共立出版	201501	4,000	1	専門
687	都市理解のワークショップ:商店街から都市を読む	九州大学	九州大学出版会	201504	2,700	1	専門
688	米国のブラウンフィールド再生:工場跡地から都市を再生する	黒瀬武史	九州大学出版会	201803	7,800	1	専門
689	建築家とまちづくりのなかまたち	日本建築家協会	建築ジャーナル	201204	1,000	1	専門
690	都市へのテクスト/ディスクールの地図:ポストグローバル化社会の都市と空間	後藤伸一	建築資料研究社	201106	2,500	1	専門
691	まちづくりのための中心市街地活性化:イギリスと日本の実証研究	根田克彦	古今書院	201604	2,800	1	専門
692	歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり	戸所隆	古今書院	201609	3,200	1	専門
693	地域主権のデザインとコミュニティアーキテクト:SAD & CA地域固有の持続的な環境形成	宇杉和夫	古今書院	201205	5,600	1	専門
694	都市空間の見方・考え方	高橋伸夫:菊地俊夫	古今書院	201306	3,500	1	専門
695	都市構造と都市政策	近畿都市学会	古今書院	201403	2,800	1	専門
696	スマートシティはどうつくる?	山村真司	工作舎	201412	1,200	1	専門
697	水の都市江戸・東京	陣内秀信:法政大学	講談社	201308	2,000	1	専門
698	階上都市:津波被災地域を救う街づくり	阿部寧	三和書籍	201612	2,500	1	専門
699	初めて学ぶ都市計画	饗庭伸:鈴木伸治	市ケ谷出版社	201803	3,000	1	専門
700	縮小まちづくり:成功と失敗の分かれ目	米山秀隆	時事通信出版局(発売:時事通信社)	201805	2,400	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
701	人口減少時代のまちづくり：21世紀＝縮小型都市計画のすすめ	中山徹	自治体研究社	201008	2,095	1	専門
702	時間の中の都市：内部の時間と外部の時間	ケヴィン・リンチ：東京大学	鹿島出版会	201003	2,400	1	専門
703	アジアのまち再生：社会遺産を力に	山家京子：重村力	鹿島出版会	201703	2,700	1	専門
704	「ポシェ」から「余白」へ：都市居住とアーバニズムの諸相を追って	小沢明	鹿島出版会	201104	2,800	1	専門
705	アジアの現代都市紀行：変貌する都市と建築	樋口正一郎	鹿島出版会	201302	2,500	1	専門
706	アメリカ大都市の死と生	ジェーン・ジェイコブズ：山形浩生	鹿島出版会	201004	3,300	1	専門
707	アメリカ都市計画の誕生	ジョン・A. ピーターソン：兼田敏之	鹿島出版会	201112	5,500	1	専門
708	アンダルシアの都市と田園	陣内秀信：法政大学	鹿島出版会	201302	3,500	1	専門
709	ヴェネツィアとラグーナ：水の都とテリトーリオの近代化	樋渡彩	鹿島出版会	201703	3,600	1	専門
710	ヴェネツィアのテリトーリオ：水の都を支える流域の文化	樋渡彩：法政大学	鹿島出版会	201603	3,600	1	専門
711	エコまち塾	伊藤滋：尾島俊雄	鹿島出版会	201605	2,000	1	専門
712	エコまち塾．2	伊藤滋：尾島俊雄	鹿島出版会	201805	2,500	1	専門
713	エコロジカル・デモクラシー：まちづくりと生態的多様性をつなぐデザイン	ランドルフ・T・ヘスター：土肥真人	鹿島出版会	201804	5,500	1	専門
714	ツーリズムの都市デザイン：非日常と日常の仕掛け	橋爪紳也	鹿島出版会	201505	2,200	1	専門
715	ドイツ流街づくり読本．完	水島信	鹿島出版会	201504	2,600	1	専門
716	ドイツ流街づくり読本．続	水島信	鹿島出版会	201109	2,600	1	専門
717	バリ島巡礼：集住の村々を探る	中岡義介：川西尋子	鹿島出版会	201603	2,800	1	専門
718	フランスの環境都市を読む：地球環境を都市計画から考える	和田幸信	鹿島出版会	201409	2,400	1	専門
719	まちづくり教書	佐藤滋：饗庭伸	鹿島出版会	201702	3,200	1	専門
720	まちづくり図解	佐藤滋：内田奈芳美	鹿島出版会	201706	2,500	1	専門
721	まちを演出する：仕掛けとしてのデザイン	伊藤孝紀	鹿島出版会	201302	2,200	1	専門
722	まちを想う：西村幸夫講演・対談集	西村幸夫	鹿島出版会	201802	2,800	1	専門
723	ランドスケープ・アーバニズム	チャールズ・ウォルドハイム：岡昌史	鹿島出版会	201012	3,800	1	専門
724	ランドスケープの近代：建築・庭園・都市をつなぐデザイン思考	佐々木葉二：三谷徹	鹿島出版会	201012	2,800	1	専門
725	リバーウォークの魅力と創造：川を活かした都市再生	吉川勝秀	鹿島出版会	201104	2,700	1	専門
726	京都と近代：せめぎ合う都市空間の歴史	中川理	鹿島出版会	201507	3,000	1	専門
727	景観再考：景観からのゆたかな人間環境づくり宣言	日本建築学会	鹿島出版会	201308	3,000	1	専門
728	情熱都市YMM21：まちづくりの美学と力学	情熱都市YMM21編集委員会	鹿島出版会	201702	2,700	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
729	人間の街：公共空間のデザイン	ヤン・ゲール：北原理雄	鹿島出版会	201403	3,200	1	専門
730	図説城下町都市	佐藤滋：城下町都市研究体	鹿島出版会	201502	3,700	1	専門
731	水の恵みを受けるまちづくり：郡上八幡の水縁空間	渡部一二	鹿島出版会	201008	2,300	1	専門
732	西村幸夫文化・観光論ノート：歴史まちづくり・景観整備	西村幸夫	鹿島出版会	201802	2,800	1	専門
733	戦後東京と闇市：新宿・池袋・渋谷の形成過程と都市組織	石榑督和	鹿島出版会	201609	5,400	1	専門
734	多摩ニュータウン物語：オールドタウンと呼ばせない	上野淳：松本真澄	鹿島出版会	201209	2,600	1	専門
735	都市の本質とゆくえ：J・ジェイコブズと考える	宮崎洋司：玉川英則	鹿島出版会	201105	2,400	1	専門
736	都市計画総論	磯部友彦：松山明	鹿島出版会	201409	2,800	1	専門
737	都市計画変革論：ポスト都市化時代の始まり	小林敬一	鹿島出版会	201702	2,700	1	専門
738	唐津：都市の再編：歩きたくなる魅力ある街へ	日本建築学会	鹿島出版会	201205	3,500	1	専門
739	日本の都市から学ぶこと：西洋から見た日本の都市デザイン	バリー・シェルトン：片木篤	鹿島出版会	201404	3,200	1	専門
740	美観都市パリ：18の景観を読み解く	和田幸信	鹿島出版会	201009	2,500	1	専門
741	風土と市民とまちづくり：ちいさなマチ逗子のものがたり	長島孝一	鹿島出版会	201602	2,500	1	専門
742	北のセントラル・ステーション：アーバンデザインの四半世紀	加藤源：高見公雄	鹿島出版会	201611	3,500	1	専門
743	都市の遺産とまちづくり：アジア大都市の歴史保全	鈴木伸治	春風社	201708	3,200	1	専門
744	アーバン・カタリスト：実践・都市再編集の現場から	藍谷鋼一郎	彰国社	201801	3,400	1	専門
745	アーバンデザイン講座	前田英寿：遠藤新	彰国社	201805	2,400	1	専門
746	このまちに生きる：成功するまちづくりと地域再生力	篠原修：内藤広	彰国社	201302	2,400	1	専門
747	フランスの開発型都市デザイン：地方がしかけるグラン・プロジェ	赤堀忍：鳥海基樹	彰国社	201007	2,200	1	専門
748	まちづくりへのブレイクスルー：水辺を市民の手に	篠原修：内藤広	彰国社	201009	2,200	1	専門
749	まちを再生する99のアイデア：商店街活性化から震災復興まで	柴崎恭秀：SoftUnion	彰国社	201205	2,100	1	専門
750	吉祥寺ハモニカ横丁のつくり方	倉方俊輔	彰国社	201604	1,900	1	専門
751	市民コミュニティ・ビジネスの現場：建て替えない団地再生のマネジメント	ちば地域再生リサーチ：服部岑生	彰国社	201210	2,400	1	専門
752	実践！コミュニティデザイン：地域を元気にする	林まゆみ：延藤安弘	彰国社	201310	2,500	1	専門
753	森の都市：EGEC. 2	奥野翔	彰国社	201611	2,000	1	専門
754	生活の視点でとく都市計画	薬袋奈美子：室田昌子	彰国社	201608	2,600	1	専門
755	都市をつくりかえるしくみ	専門性をつなぐ参画のしくみ研究会	彰国社	201612	3,000	1	専門
756	都市計画とまちづくりがわかる本	伊藤雅春：小林郁雄	彰国社	201707	2,400	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
757	福祉のまちづくりの検証：その現状と明日への提案	日本福祉のまちづくり学会	彰国社	201310	2,500	1	専門
758	京都発！ニュータウンの「夢」建てなおします：向島からの挑戦	杉本星子：小林大祐	昭和堂（京都）	201503	2,800	1	専門
759	自然と対話する都市へ：オランダの河川改修に学ぶ	武田史朗	昭和堂（京都）	201603	3,800	1	専門
760	こんなまちに住みたいナ：絵本が育む暮らし・まちづくりの発想	延藤安弘	晶文社	201503	1,800	1	専門
761	都市空間のガバナンスと法	吉田克己：角松生史	信山社出版	201610	8,000	1	専門
762	まちづくりと法：都市計画、自動車、自転車、土地、地下水、住宅、借地	阿部泰隆	信山社出版	201710	8,000	1	専門
763	〈鞆の浦〉の歴史保存とまちづくり：環境と記憶のローカル・ポリティクス	森久聡	新曜社	201607	3,800	1	専門
764	景観計画の実践：事例から見た効果的な運用のポイント	日本建築学会	森北出版	201703	3,800	1	専門
765	都市環境から考えるこれからのまちづくり	都市環境学教材編集委員会	森北出版	201707	2,600	1	専門
766	都市計画	樗木武	森北出版	201212	3,200	1	専門
767	入門都市計画：都市の機能とまちづくりの考え方	谷口守	森北出版	201410	2,200	1	専門
768	「間にある都市」の思想：拡散する生活域のデザイン	トマス・ジーバーツ：蓑原敬	水曜社	201712	3,200	1	専門
769	無形学へ：かたちになる前の思考ーまちづくりを俯瞰する5つの視	後藤春彦	水曜社	201704	3,000	1	専門
770	次世代郊外まちづくり：産学公民によるまちのデザイン	東京急行電鉄：宣伝会議	宣伝会議	201804	1,900	1	専門
771	グリーンネイバーフッド：米国ポートランドにみる環境先進都市のつくりかたとつ	吹田良平	繊研新聞社	201008	1,905	1	専門
772	山崎亮とゆくコミュニティデザインの現場	渡辺直子	繊研新聞社	201302	1,800	1	専門
773	光のまちをつくる：水都大阪の実践	橋爪紳也：光のまちづくり推進委員会	創元社（大阪）	201512	2,800	1	専門
774	まちづくりの論理と実践：都市中心市街地のまちづくり戦略	浜田恵三	創成社	201110	2,100	1	専門
775	2017年第4回都市・まちづくりコンクールin大阪	都市・まちづくりコンクール実行委員会：総合資格	総合資格	201711	1,800	1	専門
776	リファイニングシティ×スマートシティ：つかれたまちはこう変わる．もっと長生きできる	青木茂：首都大学東京	総合資格	201206	2,000	1	専門
777	都市と環境とシステム展2018作品集：千葉大学都市環境システム学科卒業制作・論文展示会	都市と環境とシステム展2018運営団体	総合資格	201807	700	1	専門
778	コミュニティデザインの源流．イギリス篇	山崎亮	太田出版	201604	2,400	1	専門
779	東日本大震災からの復興まちづくり	佐藤滋	大月書店	201112	2,200	1	専門
780	ふるさとを元気にする仕事	山崎亮	筑摩書房	201511	920	1	専門
781	都市景観の20世紀	エドワード・レルフ：高野岳彦	筑摩書房	201309	1,600	1	専門
782	東京都市計画の遺産：防災・復興・オリンピック	越澤明	筑摩書房	201410	980	1	専門
783	コミュニティデザインの時代：自分たちで「まち」をつくる	山崎亮	中央公論新社	201209	860	1	専門
784	オーラル・ヒストリー多摩ニュータウン	細野助博：中庭光彦	中央大学出版部	201003	4,100	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
785	都市計画	萩島哲：太記祐一	朝倉書店	201010	3,200	1	専門
786	60プロジェクトによむ日本の都市づくり	日本都市計画学会	朝倉書店	201111	4,300	1	専門
787	まちを読み解く：景観・歴史・地域づくり	西村幸夫：野澤康	朝倉書店	201710	3,200	1	専門
788	ランドスケープと都市デザイン：風景計画のこれから	宮脇勝	朝倉書店	201303	3,200	1	専門
789	都市・地域・環境概論：持続可能な社会の創造に向けて	大貝彰：宮田譲	朝倉書店	201304	3,200	1	専門
790	江戸・東京の都市史：近代移行期の都市・建築・社会	松山恵	東京大学出版会	201404	7,400	1	専門
791	コミュニティデザイン学：その仕組みづくりから考える	小泉秀樹	東京大学出版会	201609	3,200	1	専門
792	町並み保存運動の論理と帰結：小樽運河問題の社会学的分析	堀川三郎	東京大学出版会	201802	8,000	1	専門
793	復興デザインスタジオ：災害復興の提案と実践	東京大学復興デザイン研究体	東京大学出版会	201710	3,600	1	専門
794	高齢社会の住まいづくり・まちづくり	蔵田力	東信堂	201007	700	1	専門
795	まちづくり学への招待：どのようにして未来をつくっていくか	オオバ	東洋経済新報社	201505	1,800	1	専門
796	まちの居場所：まちの居場所をみつける／つくる	日本建築学会	東洋書店	201011	2,800	1	専門
797	都市デザイン	後藤新平：後藤新平没八十周年記念事業実行委員会	藤原書店	201005	2,800	1	専門
798	都市をつくる風景：「場所」と「身体」をつなぐもの	中村良夫（景観工学）	藤原書店	201005	2,500	1	専門
799	企業城下町の形成と日本的経営	松石泰彦	同成社	201007	3,800	1	専門
800	タワーシティ：超高層のあるまち	日経アーキテクチュア編集部	日経BP社(発売：日経BPマーケティン)	201310	3,800	1	専門
801	ぼくらのリノベーションまちづくり：ほしい暮らしは自分でつくる	嶋田洋平：石神夏希	日経BP社(発売：日経BPマーケティン)	201506	2,200	1	専門
802	まちづくり：デッドライン：生きる場所を守り抜くための教科書	木下斉【著】：広瀬郁【著】	日経BP社(発売：日経BPマーケティン)	201304	1,900	1	専門
803	近代都市の装置と統治：1910～30年代	鈴木勇一郎：高嶋修一	日本経済評論社	201302	4,800	1	専門
804	地方都市中心市街地の再生	衣川恵	日本評論社	201101	3,000	1	専門
805	本郷台・大東京の街づくり史	岩田俊二	農林統計出版	201512	2,000	1	専門
806	臨海副都心の過去・現在・未来	武蔵野大学政治経済研究所	武蔵野大学出版会	201206	1,800	1	専門
807	景観人類学の課題：中国広州における都市環境の表象と再生	河合洋尚	風響社	201304	5,000	1	専門
808	トラフの小さな都市計画	鈴野浩一【著】：禿真哉【著】	平凡社	201205	1,900	1	専門
809	銀座にはなぜ超高層ビルがないのか：まちがつくった地域のルール	竹沢えり子	平凡社	201311	800	1	専門
810	商業空間は何の夢を見たか：1960～2010年代の都市と建築	三浦展：藤村龍至	平凡社	201609	2,300	1	専門
811	ソーシャルシティ	川原靖弘：斎藤参郎	放送大学教育振興会(発売：NHK出版)	201703	3,100	1	専門
812	都市・建築の環境とエネルギー	梅干野晁	放送大学教育振興会(発売：NHK出版)	201403	3,200	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
813	タイの水辺都市：天使の都を中心に	高村雅彦	法政大学出版局	201103	2,800	1	専門
814	港町のかたち：その形成と変容	岡本哲志	法政大学出版局	201002	2,900	1	専門
815	住環境保全の公共政策：都市景観とまちづくり条例の観点から	山岸達矢	法政大学出版局	201604	4,400	1	専門
816	都市計画法の探検	久末弥生	法律文化社	201606	2,400	1	専門
817	「空間」を「場所」に変えるまち育て：まちの創造的編集とは	北原啓司	萌文社	201804	1,800	1	専門
818	アイデンティティと持続可能性：「縮小」時代の都市再開発の方向	木下勇：ハンス・ビンダー	萌文社	201202	3,200	1	専門
819	マカオの空間遺産：観光都市の形成と居住環境	是永美樹	萌文社	201710	2,300	1	専門
820	旅する街づくり：若き都市計画家の欧米都市見聞録	伊藤滋	万来舎	201801	4,000	1	専門
821	〈モータウン〉のデザイン	堀田典裕	名古屋大学出版会	201806	4,800	1	専門
822	サステナブル社会のまちづくり：ドイツ・EUの実務に学ぶ	沢田誠二：ヘルマン・シュトレーブ	明治大学出版会（発売：丸善出版）	201211	3,000	1	専門
823	パリ神話と都市景観：マレ保全地区における浄化と排除の論理	荒又美陽	明石書店	201112	3,800	1	専門
824	アーバンデザインセンター：開かれたまちづくりの場	アーバンデザインセンター研究会	理工図書	201209	2,800	1	専門
825	景観まちづくりの軌跡：中山道中津川宿における実践	松本直司：船曳悦子	理工図書	201603	3,600	1	専門
826	パリ・エコと減災の街	竹原あき子	緑風出版	201606	2,500	1	専門
827	景観法と地域政策を考える	高崎経済大学地域政策研究センター	勁草書房	201403	3,000	1	専門
828	住環境マネジメント：住宅地の価値をつくる	齊藤広子	学芸出版社（京都）	201103	2,800	1	専門
829	郊外の衰退と再生：シュリンキング・シティを展望する	吉田友彦	晃洋書房	201012	2,300	1	専門
830	メイキング・ベター・プレイス：場所の質を問う	パッツィ・ヒーリー：後藤春彦	鹿島出版会	201509	3,800	1	専門
831	地域商業と外部主体の連携による商業まちづくりに関する研究：コミュニティ・ガバナンスの観点から	新島裕基	専修大学出版局	201802	2,600	1	専門
832	コミュニティ交通のつくりかた：現場が教える成功のしくみ	森栗茂一：猪井博登	学芸出版社（京都）	201303	1,800	1	専門
833	まちづくりのための交通戦略：パッケージ・アプローチのすすめ	山中英生：小谷通泰	学芸出版社（京都）	201002	3,800	1	専門
834	成熟都市の交通空間：その使い方と更新の新たな方向	浅野光行	技報堂出版	201402	2,800	1	専門
835	路地研究：もうひとつの都市の広場	上田篤（建築学）：田端修	鹿島出版会	201302	3,000	1	専門
836	まち路地再生のデザイン：路地に学ぶ生活空間の再生術	宇杉和夫：青木仁	彰国社	201001	2,300	1	専門
837	駅をデザインする	赤瀬達三	筑摩書房	201502	980	1	専門
838	エコ・ひろばデザイン：カナダでの私のデザイン・設計の日記－その青春の記録	野町隆三	ミヤオビパブリッシング（発売：宮帯出版社）	201211	2,667	1	専門
839	新宿駅西口広場：坂倉準三の都市デザイン	新宿駅西口広場建設記録刊行会	鹿島出版会	201702	3,500	1	専門
840	広場のデザイン：「にぎわい」の都市設計5原則	小野寺康	彰国社	201410	2,500	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
841	世界の広場への旅：もうひとつの広場論	芦川智：金子友美	彰国社	201706	2,500	1	専門
842	広場：All about “Public spaces”	鈴木知之：隈研吾	淡交社	201504	2,700	1	専門
843	まちづくりのための北のガーデニングボランティアハンドブック	札幌市公園緑化協会	北海道大学出版会	201406	4,500	1	専門
844	村落からみた市街地形成：人と土地・水の関係史尼崎1925－73年	沼尻晃伸	日本経済評論社	201501	5,500	1	専門
845	歴史に学ぶ減災の知恵：建築・町並みはこうして生き延びてきた	大窪健之	学芸出版社（京都）	201206	2,000	1	専門
846	安全・安心のまちづくり	日本建築学会	丸善出版	201704	2,300	1	専門
847	「大学町」出現：近代都市計画の錬金術	木方十根	河出書房新社	201008	1,300	1	専門
848	「新訳」明日の田園都市	エベネザー・ハワード：山形浩生	鹿島出版会	201610	2,400	1	専門
849	山林都市：黒谷了太郎の思想とその展開	堀田典裕	彰国社	201212	2,800	1	専門
850	都市環境学	都市環境学教材編集委員会	森北出版	201606	3,200	1	専門
851	グリーンマネジメント：持続可能な社会を実現するために	守屋有	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201311	2,900	1	専門
852	都市の環境倫理：持続可能性、都市における自然、アメニティ	吉永明弘	勁草書房	201401	2,200	1	専門
853	環境都市政策入門	山下潤	古今書院	201604	3,800	1	専門
854	自然資本入門：国、自治体、企業の挑戦	自然資本研究会	NTT出版	201509	2,800	1	専門
855	地域中核企業の環境経営：移転・普及のメカニズム	金原達夫：羅星仁	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201310	2,800	1	専門
856	西淀川公害の40年：維持可能な環境都市をめざして	除本理史：林美帆	ミネルヴァ書房	201303	3,500	1	専門
857	自然保護と利用のアンケート調査：公園管理・野生動物・観光のための社会調査ハンドブッ	愛甲哲也：庄子康	築地書館	201607	3,400	1	専門
858	地域自然資産法の解説：発展するエコツーリズム	盛山正仁	ぎょうせい	201510	2,900	1	専門
859	人にやさしい都市づくり：環境先進国の取り組み	長谷川三雄	八千代出版	201612	2,300	1	専門
860	むかしの家に学ぶ：登録文化財からの発信	畑田耕一	大阪大学出版会	201602	1,600	1	専門
861	京都の町家を再生する：家づくりから見えてくる日本の文化破壊と文化継承	齋藤由紀	関西学院大学出版会	201509	2,200	1	専門
862	日本の町並み：歴史文化遺産．下巻	苅谷勇雅：西村幸夫	山川出版社（千代田区）	201603	1,800	1	専門
863	日本の町並み：歴史文化遺産．上巻	苅谷勇雅：西村幸夫	山川出版社（千代田区）	201601	1,800	1	専門
864	町屋・古民家再生の経済学：なぜこの土地に多くの人々が訪ねてくるのか	山崎茂雄	水曜社	201603	1,800	1	専門
865	歴史と文化の町並み事典：重要伝統的建造物群保存地区全109	文化庁	中央公論美術出版	201508	3,500	1	専門
866	京町家を愉しむ：行動建築学から見る町家の再生と暮らし	伊藤正人	和泉書院	201610	1,200	1	専門
867	タワー：ランドマークから紐解く地域文化	津川康雄	ミネルヴァ書房	201608	2,000	1	専門
868	イタリア建築紀行：ゲーテと旅する7つの都市	渡辺真弓	平凡社	201503	2,600	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
869	企業に広がる都市の木づかい：都市と森、地域の経済をつなぐ50事例	国土緑化推進機構：日本プロジェクト産業協議会	日経BP社(発売：日経BPマーケティン)	201504	2,200	1	専門
870	共生のユニバーサルデザイン：建築・交通・まちづくりをつなぐ	三星昭宏：高橋儀平	学芸出版社（京都）	201409	3,000	1	専門
871	住宅改修と地震対策でまちづくり	児玉道子	社会保険出版社	201711	1,000	1	専門
872	団地再生まちづくり．３	団地再生支援協会：団地再生研究会	水曜社	201206	1,900	1	専門
873	団地再生まちづくり．４	団地再生支援協会：団地再生研究会	水曜社	201509	1,900	1	専門
874	集合住宅：二〇世紀のユートピア	松葉一清	筑摩書房	201608	820	1	専門
875	クルマを捨ててこそ地方は甦る	藤井聡（社会科学）	PHP研究所	201710	860	1	専門
876	モータリゼーションの世紀：T型フォードから電気自動車へ	鈴木直次	岩波書店	201611	2,300	1	専門
877	日本自動車産業グローバル化の新段階と自動車部品・関連中小企業：1次・2次・3次サプライヤー調査の結果と地域別部品	清しょう一郎	社会評論社	201604	3,200	1	専門
878	航空機産業と日本：再成長の切り札	中村洋明	中央公論新社	201705	2,000	1	専門
879	航空機産業と航空戦力の世界的転回	横井勝彦	日本経済評論社	201612	4,500	1	専門
880	地方創生「ふたば」フェニックスシティ構想：原発事故被災八カ町村は大合併で蘇る	片寄洋一	同友館	201603	2,400	1	専門
881	コミュニティと共生する地熱利用：エネルギー自治のためのプランニングと合意形成	諏訪亜紀：柴田裕希	学芸出版社（京都）	201805	2,500	1	専門
882	電柱のないまちづくり：電線類地中化の実現方法	電線のない街づくり支援ネットワーク	学芸出版社（京都）	201006	2,200	1	専門
883	ファーウェイの技術と経営	今道幸夫	白桃書房	201710	3,300	1	専門
884	台湾の企業戦略：経済発展の担い手と多国籍企業化への道	朝元照雄	勁草書房	201407	3,400	1	専門
885	東アジア液晶パネル産業の発展：韓国・台湾企業の急速キャッチアップと日本企業の対応	赤羽淳	勁草書房	201404	3,200	1	専門
886	シリコンアイランド九州の半導体産業：リバイタリゼーションへのアプローチ	伊東維年	日本評論社	201503	3,600	1	専門
887	台湾半導体企業の競争戦略：戦略の進化と能力構築	岸本千佳司	日本評論社	201709	5,200	1	専門
888	日本鉄鋼業の光と影	藤田昭夫：男澤一郎	勁草書房	201411	2,500	1	専門
889	伝統産地の経営学：陶磁器産地の協働の仕組みと企業家活動	山田幸三	有斐閣	201307	2,100	1	専門
890	日本の石油化学産業：勃興・構造不況から再成長へ	平野創	名古屋大学出版会	201607	5,800	1	専門
891	ピアノ技術革新とマーケティング戦略：楽器のブランド形成メカニズム	大木裕子	文眞堂	201507	3,000	1	専門
892	杞柳産業の盛衰：地場産業産地の淘汰	荻久保嘉章	成文堂	201309	3,000	1	専門
893	企業革新の研究：繊維産業の脱成熟化のプロセス	山路直人	白桃書房	201403	5,000	1	専門
894	地域産業集積の優位性：ネットワークのメカニズムとダイナミズム	田中英式	白桃書房	201802	3,300	1	専門
895	豊田家紡織事業の経営史：紡織から紡織機、そして自動車へ	山崎広明	文眞堂	201507	2,900	1	専門
896	生き続ける300年の織りモノづくり：京都府北部・丹後ちりめん業の歩みから	北野裕子	新評論	201310	4,000	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
897	フードビジネスと地域：食をめぐる文化・地域・情報・流通	井尻昭夫：江藤茂博	ナカニシヤ出版	201803	2,700	1	専門
898	コールドチェーン	森隆行：石田信博	晃洋書房	201306	2,200	1	専門
899	「おいしい」のマーケティングリサーチ：新市場創造への宝探し	高垣敦郎	碩学舎（発売：中央経済グループパブ）	201601	2,200	1	専門
900	フード・マーケティング論	藤島広二：宮部和幸	筑波書房	201604	2,500	1	専門
901	地域絶品づくりのマーケティング：地方創生と北海道フード塾	流通問題研究協会：三浦功（マーケティング）	中央経済社（発売：中央経済グループパブ）	201806	1,700	1	専門
902	フードシステム学叢書．第3巻	斎藤修	農林統計出版	201408	3,000	1	専門
903	企業家活動でたどる日本の食品産業史：わが国食品産業の改革者に学ぶ	生島淳：宇田川勝	文眞堂	201403	2,300	1	専門
904	近代製糖業の経営史的研究	久保文克	文眞堂	201605	3,600	1	専門
905	和菓子伝統と創造：何に価値の真正性を見出すのか	森崎美穂子	水曜社	201804	2,500	1	専門
906	グローバル製品開発戦略：日本コカ・コーラ社の成功と日本ペプシコ社の撤退	多田和美	有斐閣	201404	3,800	1	専門
907	近代日本のビール醸造史と産業遺産：アサヒビール所蔵資料でたどる	川島智生	淡交社	201311	1,714	1	専門
908	ワインスケープ：味覚を超える価値の創造	鳥海基樹	水曜社	201806	3,800	1	専門
909	「国民食」から「世界食」へ：日系即席麺メーカーの国際展開	川邉信雄	文眞堂	201710	2,800	1	専門
910	模倣と創造のファッション産業史：大都市におけるイノベーションとクリエイティビティ	富沢修身	ミネルヴァ書房	201309	3,500	1	専門
911	ファッションビジネスの進化：多様化する顧客ニーズに適応する、生き抜くビジネスと	大村邦年	晃洋書房	201703	3,400	1	専門
912	ファッションビジネス戦略的ブランドマネジメント：キャズムを越えて	馬塲正実	晃洋書房	201704	2,400	1	専門
913	産業クラスターの進化とネットワーク：ファッション産業クラスター「東大門市場」と「原宿」	許伸江	税務経理協会	201803	3,700	1	専門
914	ファッション＆ラグジュアリー企業のマネジメント：ブランド経営をデザインする	エリカ・コルベリーニ：ステファニア・サヴィオロ	東洋経済新報社	201306	3,500	1	専門
915	ザ・ファッション・ビジネス：進化する商品企画、店頭展開、ブランド戦略	明治大学	同文舘出版	201508	1,500	1	専門
916	ファッション・マーケティング	塚田朋子	同文舘出版	201304	2,200	1	専門
917	ファミコンとその時代：テレビゲームの誕生	上村雅之：細井浩一	NTT出版	201307	2,600	1	専門
918	日本デジタルゲーム産業史：ファミコン以前からスマホゲームまで	小山友介	人文書院	201606	3,600	1	専門
919	中国における日系煙草産業：1905－1945	柴田善雅	水曜社	201307	4,200	1	専門
920	初めて学ぶ住居学	〈建築のテキスト〉編集委員会	学芸出版社（京都）	201506	2,500	1	専門
921	クリエイティブビジネス論：大都市創造のためのビジネスデザイン	地域デザイン学会	学文社	201708	3,500	1	専門
922	現代産業論：ものづくりを活かす企業・社会・地域	十名直喜	水曜社	201711	2,700	1	専門
923	ひと・まち・ものづくりの経済学：現代産業論の新地平	十名直喜	法律文化社	201207	2,800	1	専門
924	地域プロデュース、はじめの一歩	山納洋	河出書房新社	201803	1,600	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
925	広域計画と地域の持続可能性	大西隆：城所哲夫	学芸出版社（京都）	201003	2,800	1	専門
926	まちで闘う方法論：自己成長なくして、地域再生なし	木下斉	学芸出版社（京都）	201605	1,800	1	専門
927	まちをひらく技術：建物・暮らし・なりわい－地域資源の一斉公開	オープンシティ研究会：岡村祐	学芸出版社（京都）	201709	2,500	1	専門
928	世界の地方創生：辺境のスタートアップたち	松永安光：徳田光弘	学芸出版社（京都）	201706	2,000	1	専門
929	地域からの未来創生	望月照彦：森賀盾雄	学文社	201510	2,000	1	専門
930	行ってみたい！と思わせる「集客まちづくり」の技術	大下茂	学陽書房	201102	2,200	1	専門
931	〈まちなか〉から始まる地方創生：クリエイティブ・タウンの理論と実践	福川裕一：城所哲夫	岩波書店	201803	2,800	1	専門
932	リージョナル・デザイン：フランス・ブルゴーニュの「クリマ」から学んだこと	玉田俊郎：浦田薫	現代企画室	201801	2,000	1	専門
933	地域資源とまちづくり：地理学の視点から	片柳勉：小松陽介	古今書院	201305	2,800	1	専門
934	地域活性化戦略	小長谷一之：福山直寿	晃洋書房	201203	2,700	1	専門
935	地域資源とコミュニティ・デザイン	三好皓一：四本幸夫	晃洋書房	201704	2,600	1	専門
936	地域活性のための産官学ベストプラクティス：連携による地域イノベーション	事業構想大学院大学ベストプラクティス研究	事業構想大学院大学出版部(発売：宣伝会議)	201805	1,500	1	専門
937	中小企業が主役の地域活性化	商工総合研究所	商工総合研究所	201702	1,429	1	専門
938	これからの地域再生	飯田泰之：浅川芳裕	晶文社	201706	1,600	1	専門
939	マイパブリックとグランドレベル：今日からはじめるまちづくり	田中元子	晶文社	201712	1,800	1	専門
940	街直し屋：まちとひとを再生させる仕事	リパブリック・イニシアティブ：古谷誠章	晶文社	201705	1,800	1	専門
941	コミュニティ3．0：地域バージョンアップの論理	中庭光彦	水曜社	201706	2,500	1	専門
942	地方創生のビジョンと戦略	佐久間信夫：井上善博	創成社	201710	3,000	1	専門
943	地方創生の切り札LBT：アフリカから学ぶまちづくり工法	徳永達己	大空出版	201704	1,500	1	専門
944	ふだん着の地域づくりワークショップ：根をもつことと翼をもつこと	平井太郎：小田切徳美	筑波書房	201709	750	1	専門
945	地域協働のマネジメント	佐々木利廣：大阪NPOセンター	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201806	2,700	1	専門
946	地域創生のプレミアム（付加価値）戦略：稼ぐ力で上質なマーケットをつくり出す	山＝朗：鍋山徹	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201802	2,600	1	専門
947	地方創生への挑戦	熊本県立大学総合管理学部COC事業プロジ	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201802	3,200	1	専門
948	地方創生2．0：強い経済を牽引する「ローカルハブ」のつくり方	神尾文彦：松林一裕	東洋経済新報社	201611	2,400	1	専門
949	「地方創生」でまちは活性化する：まち・ひと・しごと創生による地域活性化事例	小林勇治：波形克彦	同友館	201506	2,400	1	専門
950	アートゾーンデザイン：地域価値創造戦略	原田保：板倉宏昭	同友館	201607	3,800	1	専門
951	地域マーケティングの核心：地域ブランドの構築と支持される地域づくり	佐々木茂（商学）：石川和男（経営学）	同友館	201609	2,400	1	専門
952	地域ブランド政策論：地域冠政策方式による都市の魅力創造	初谷勇	日本評論社	201707	5,200	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
953	農・食・観光クラスターの展開	溝辺哲男：朽木昭文	農林統計協会	201502	3,000	1	専門
954	産業クラスター戦略による地域創造の新潮流	税所哲郎：佐藤進	白桃書房	201703	3,000	1	専門
955	海と島のブランドデザイン：海洋国家の地域戦略	地域デザイン学会：原田保	芙蓉書房出版	201312	3,800	1	専門
956	地域デザイン戦略総論：コンテンツデザインからコンテクストデザインへ	地域デザイン学会：原田保	芙蓉書房出版	201301	2,800	1	専門
957	産業クラスターのダイナミズム：技術に感性を埋め込むものづくり	大木裕子	文眞堂	201702	3,200	1	専門
958	地方創生を演出するまちおこしドラマイベント術：演じて考えるいきいき地域おこしのすすめ	二瓶長記	夢の友出版	201703	1,200	1	専門
959	プレイス・ブランディング：“地域”から“場所”のブランディングへ	電通abicproject：若林宏保	有斐閣	201804	2,200	1	専門
960	地域産業政策論	太田耕史郎	勁草書房	201608	3,000	1	専門
961	「いなか」おこし！：地域ブランド戦略を創る	信田和宏	NTT出版	201012	2,000	1	専門
962	地方創生は日本を救うか：KPIランキングで読み解く日本の未来	小川克彦：山口信弥	NTT出版	201708	2,000	1	専門
963	「都市の正義」が地方を壊す：地方創生の隘路を抜けて	山下祐介	PHP研究所	201806	920	1	専門
964	縮充する日本：「参加」が創り出す人口減少社会の希望	山崎亮	PHP研究所	201611	1,200	1	専門
965	地方創生の罠	山田順	イースト・プレス	201608	907	1	専門
966	経済効果を生み出す環境まちづくり	環境まちづくり研究会	ぎょうせい	201009	1,905	1	専門
967	地方創生逆転の一打：～「公助」の異次元改革のススメ	玉田樹	ぎょうせい	201701	1,600	1	専門
968	地域新産業の振興に向けた組織間連携：医療機器関連分野における事業化推進への取組み	川端勇樹	ナカニシヤ出版	201703	6,200	1	専門
969	先端産業クラスターによる地域活性化：産学官連携とハイテクイノベーション	田中利彦	ミネルヴァ書房	201404	3,200	1	専門
970	地域をプロデュースする仕事	玉沖仁美	英治出版	201210	1,700	1	専門
971	タウンマネージャー：「まちの経営」を支える人と仕事	石原武政：石上僚	学芸出版社（京都）	201306	2,200	1	専門
972	まちづくりDIY：愉しく！続ける！コツ	土井勉：柏木千春	学芸出版社（京都）	201402	2,400	1	専門
973	食旅と農商工連携のまちづくり	安田亘宏：才原清一郎	学芸出版社（京都）	201111	1,800	1	専門
974	地域おこし協力隊：日本を元気にする60人の挑戦	椎川忍：小田切徳美	学芸出版社（京都）	201509	1,800	1	専門
975	地域ブランドと魅力あるまちづくり：産業振興・地域おこしの新しいかたち	佐々木一成	学芸出版社（京都）	201102	2,800	1	専門
976	美味しい田舎のつくりかた：地域の味が人をつなぎ、小さな経済を耕す	金丸弘美	学芸出版社（京都）	201409	1,800	1	専門
977	僕ら地域おこし協力隊：未来と社会に夢をもつ	矢崎栄司	学芸出版社（京都）	201212	1,600	1	専門
978	スピリチュアリティによる地域価値発現戦略	原田保：立川丈夫	学文社	201701	3,500	1	専門
979	地域に希望あり：まち・人・仕事を創る	大江正章	岩波書店	201505	800	1	専門
980	小さなまちづくりのための空き家活用術	高橋大輔	建築資料研究社	201701	2,500	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
981	地域活性化への試論：地域ブランドの視点	片山富弘	五絃舎	201806	1,800	1	専門
982	ローカル志向の時代：働き方、産業、経済を考えるヒント	松永桂子	光文社	201511	740	1	専門
983	「地方創生」で地方消滅は阻止できるか：地方再生策と補助金改革	高寄昇三	公人の友社	201502	2,400	1	専門
984	地方創生と大学：大学の知と人材を活用した持続可能な地方の創生	内閣府経済社会総合研究所	公人の友社	201605	2,000	1	専門
985	場所でつながる／場所とつながる：移動する時代のクリエイティブなまちづくり	田所承己	弘文堂	201702	2,200	1	専門
986	地域創生の戦略と実践	濱田恵三：伊藤浩平	晃洋書房	201806	1,900	1	専門
987	タカラは足元にあり！：地方経済活性化戦略	金丸弘美	合同出版	201602	1,600	1	専門
988	何が「地方」を起こすのか：IT、「橘街道プロジェクト」、戦略と戦術と方法論	中村稔	国書刊行会	201612	1,800	1	専門
989	競わない地方創生：人口急減の真実	久繁哲之介	時事通信出版局(発売：時事通信社)	201603	1,600	1	専門
990	東京飛ばしの地方創生：事例で読み解くグローバル戦略	山崎朗：久保隆行	時事通信出版局(発売：時事通信社)	201608	1,600	1	専門
991	人口減少と地域の再編：地方創生・連携中枢都市圏・コンパクトシティ	中山徹	自治体研究社	201605	1,350	1	専門
992	しなやかな日本列島のつくりかた：藻谷浩介対話集	藻谷浩介	新潮社	201403	1,200	1	専門
993	国境をこえた地域づくり：グローカルな絆が生まれた瞬間	西川芳昭：木全洋一郎	新評論	201203	2,400	1	専門
994	アートの力と地域イノベーション：芸術系大学と市民の創造的協働	本田洋一	水曜社	201603	2,500	1	専門
995	フットパスによるまちづくり：地域の小径を楽しみながら歩く	神谷由紀子	水曜社	201405	2,500	1	専門
996	地域産業の経営戦略：地域再生ビジョン	西田安慶：片上洋	税務経理協会	201609	2,700	1	専門
997	実践ソーシャルイノベーション：知を価値に変えたコミュニティ・企業・NPO	野中郁次郎：廣瀬文乃	千倉書房	201406	2,700	1	専門
998	地方創生ーこれから何をなすべきかー	橋本行史	創成社	201709	2,500	1	専門
999	持続性あるまちづくり	小川雅人	創風社	201302	2,800	1	専門
1000	格差社会と地域づくり	北村修二	大学教育出版	201406	2,000	1	専門
1001	サステイナブル地域論：地域産業・社会のイノベーションをめざして	樋口一清：白井信雄	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201509	3,200	1	専門
1002	地域再生のための経営と会計：産業クラスターの可能性	二神恭一：高山貢	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201404	2,600	1	専門
1003	地域創生イノベーション：企業家精神で地域の活性化に挑む	忽那憲治：山田幸三	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201610	2,500	1	専門
1004	地域創生のデザイン：多様な地域のポテンシャルを最大限引き出す	山崎朗	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201506	2,400	1	専門
1005	地域しごとづくりへの挑戦	地域しごと創生会議	中央公論新社	201703	1,400	1	専門
1006	学校統廃合と廃校活用：地域活性化のノウハウ事例集	嶋津隆文	東京法令出版	201611	2,000	1	専門
1007	地域活性化ビジネス：街おこしに企業の視点を活かそう	岡田豊【編著】	東洋経済新報社	201304	1,800	1	専門
1008	地方創生大全	木下斉	東洋経済新報社	201610	1,500	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1009	明日の地方創生を考える	土地総合研究所	東洋経済新報社	201512	3,800	1	専門
1010	シティプロモーション：地域創生とまちづくり：その論理と実践	田中道雄：テイラー雅子	同文舘出版	201705	2,500	1	専門
1011	ケーススタディ地域活性化の理論と現実	高橋徳行	同友館	201703	2,500	1	専門
1012	都市を動かす：地域・産業を縛る「負のロック・イン」からの脱却	加藤恵正	同友館	201603	2,800	1	専門
1013	地方イノベーション：強い地方こそが日本の明日を創る	池田弘	日経BP社(発売：日経BPマーケティン)	201702	1,400	1	専門
1014	未来につなげる地方創生：23の小さな自治体の戦略づくりから学ぶ	内閣府地方創生人材支援制度派遣者編集チー	日経BP社(発売：日経BPマーケティン)	201610	2,000	1	専門
1015	人口減が地方を強くする	藤波匠	日本経済新聞出版社	201604	850	1	専門
1016	地産地消と地域活性化	伊東維年	日本評論社	201204	3,800	1	専門
1017	廃校の民間活用と地域活性化	波出石誠	日本評論社	201512	3,700	1	専門
1018	世界遺産の地域価値創造戦略：地域デザインのコンテクスト転換	地域デザイン学会：原田保	芙蓉書房出版	201406	3,500	1	専門
1019	地域活性化の情報戦略	安藤明之：森岡宏行	芙蓉書房出版	201702	2,000	1	専門
1020	地方創生ビジネスの教科書	増田寛也	文藝春秋	201508	1,200	1	専門
1021	地域ブランディングの論理：食文化資源を活用した地域多様性の創出	小林哲	有斐閣	201612	4,200	1	専門
1022	地域活性化のマーケティング	古川一郎	有斐閣	201112	2,400	1	専門
1023	遠野スタイル創造と発展：永遠の日本のふるさとを目指して	山田晴義：遠野市政策研究会	ぎょうせい	201803	2,500	1	専門
1024	学びあいの場が育てる地域創生：産官学民の協働実践	樋口邦史：保井美樹	水曜社	201704	2,500	1	専門
1025	地域の力を引き出す学びの方程式：柏まちなかカレッジにみる教育×まちづくりの答え	山下洋輔	水曜社	201311	2,200	1	専門
1026	葉山：高質なスロースタイルブランドの実践	立川丈夫：山梨崇仁	芙蓉書房出版	201503	1,900	1	専門
1027	北陸地方創生と国際化・イノベーション	丸屋豊二郎：浜口伸明	日本評論社	201709	3,700	1	専門
1028	まちづくりからの小さな公共性：城下町村上の挑戦	矢野敬一	ナカニシヤ出版	201708	2,600	1	専門
1029	食のまちづくり：小浜発！おいしい地域力	佐藤由美	学芸出版社（京都）	201012	1,800	1	専門
1030	人口減少社会と地域力の創造：山梨県立大学共同プロジェクト	澁谷彰久：波木井昇	日本評論社	201603	3,400	1	専門
1031	静岡に学ぶ地域イノベーション	尹大栄：奥村昭博	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201306	2,600	1	専門
1032	熱海の奇跡：いかにして活気を取り戻したのか	市来広一郎	東洋経済新報社	201806	1,400	1	専門
1033	ものづくり産業集積の研究：転換を迫られる名古屋経済圏と産業政策	梅原浩次郎	晃洋書房	201403	2,700	1	専門
1034	観光都市中心部の再構築：滋賀県長浜市の事例研究	大橋松貴	サンライズ出版（彦根）	201706	2,800	1	専門
1035	エスニックミュージアムによるコミュニティ再生への挑戦	全泓奎：川本綾	大阪公立大学共同出版会	201503	800	1	専門
1036	地域×クリエイティブ×仕事：淡路島発ローカルをデザインする	服部滋樹：江副直樹	学芸出版社（京都）	201603	1,800	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1037	淡路島：神の国を背景にしたブランディング	原田保：金澤和夫	芙蓉書房出版	201408	1,800	1	専門
1038	サステイナブルな地域と経済の構想：岡山県倉敷市を中心に	法政大学大原社会問題研究所：相田利雄	御茶の水書房	201602	5,800	1	専門
1039	ふるさと再生カギは四国にあり	読売新聞大阪本社	中央公論新社	201608	1,500	1	専門
1040	神山プロジェクトという可能性：地方創生、循環の未来について	グリーンバレー：信時正人	廣済堂出版	201608	2,000	1	専門
1041	瀬戸内・小豆島：瀬戸内海の霊場リゾート	原田保：岡田好平	芙蓉書房出版	201308	1,400	1	専門
1042	地方のための経営学：高知発、地域ビジネス創造から事業化へ	桂信太郎：那須清吾	千倉書房	201503	1,800	1	専門
1043	ルポ　地域再生：なぜヨーロッパのまちは元気なのか？	志子田徹	イースト・プレス	201802	861	1	専門
1044	トリノの奇跡：「縮小都市」の産業構造転換と再生	脱工業化都市研究会	藤原書店	201702	3,300	1	専門
1045	現代の産業・企業と地域経済：持続可能な発展の追究	大西勝明：小阪隆秀	晃洋書房	201805	2,900	1	専門
1046	地域産業の永続性：発展を支える3つの要因	尹大栄	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201407	2,700	1	専門
1047	ひとめでわかる産業図鑑＆業界地図．B2B編	イノウ	技術評論社	201310	1,780	1	専門
1048	地域創生の産業システム：もの・ひと・まちづくりの技と文化	十名直喜	水曜社	201503	2,500	1	専門
1049	日本の産業と企業：発展のダイナミズムをとらえる	橘川武郎：平野創	有斐閣	201412	2,300	1	専門
1050	東日本大震災と地域産業復興．4（2013．9．11～201	関満博	新評論	201412	3,800	1	専門
1051	東日本大震災と地域産業復興．5（2014．9．11～201	関満博	新評論	201603	5,000	1	専門
1052	グローバルプレッシャー下の日本の産業集積	伊東維年：山本健児	日本経済評論社	201403	3,500	1	専門
1053	「地方創生」時代の中小都市の挑戦：産業集積の先駆モデル・岩手県北上市の現場から	関満博	新評論	201704	6,000	1	専門
1054	先端産業を創りつづける知恵と技：オリバーケット・シティ江戸から引き継ぐ東京	杉山雅洋：苦瀬博仁	成文堂	201410	2,100	1	専門
1055	名古屋経済圏のグローバル化対応：産業と雇用における問題性	塩見治人：梅原浩次郎	晃洋書房	201310	3,500	1	専門
1056	世界を動かす地域産業の底力：備後・府中100年の挑戦	中沢孝夫	筑摩書房	201611	1,800	1	専門
1057	6次産業化と中山間地域：日本の未来を先取る高知地域産業の挑戦	関満博	新評論	201405	5,500	1	専門
1058	鹿児島地域産業の未来	関満博	新評論	201304	5,400	1	専門
1059	中国創造大国への道：ビジネス最前線に迫る	服部健治：湯浅健司	文眞堂	201806	2,000	1	専門
1060	中国の産業はどのように発展してきたか	渡邉真理子	勁草書房	201307	3,800	1	専門
1061	フランスのラグジュアリー産業：ロマネ・コンティからヴィトンまで	ルイ・ベルジュロン：内田日出海	文眞堂	201708	3,000	1	専門
1062	地方都市の覚醒：大正昭和戦前史　博覧会篇	山路勝彦	関西学院大学出版会	201702	4,800	1	専門
1063	博覧会と観光：復興と地域創生のための観光戦略	桑田政美	日本評論社	201707	4,500	1	専門
1064	都市農村交流の経済分析	大江靖雄	農林統計出版	201702	2,750	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1065	私の地方創生論	今村奈良臣	農山漁村文化協会	201503	1,800	1	専門
1066	食と景観の地域づくり：小さな活動からネットワークへ	井上典子：染井順一郎	学芸出版社（京都）	201303	2,800	1	専門
1067	田園回帰がひらく未来：農山村再生の最前線	小田切徳美：広井良典	岩波書店	201605	580	1	専門
1068	よそ者と創る新しい農山村	田中輝美：小田切徳美	筑波書房	201703	750	1	専門
1069	農山村からの地方創生	小田切徳美：尾原浩子	筑波書房	201804	1,400	1	専門
1070	日本のクリエイティブ・クラス：農村×都市＝ナリワイ	小田切徳美：藤山浩	農山漁村文化協会	201609	1,800	1	専門
1071	地域振興としての農村空間の商品化	田林明	農林統計出版	201502	5,000	1	専門
1072	農村景観のパタン・ランゲージ：伊賀市での景観基準づくり研究	岩田俊二	農林統計出版	201611	2,000	1	専門
1073	タウンシップ：土地計画の伝播と変容	金田章裕	ナカニシヤ出版	201501	2,000	1	専門
1074	農林漁業の産地ブランド戦略：地理的表示を活用した地域再生	香坂玲	ぎょうせい	201512	2,800	1	専門
1075	食と農のコミュニティ論：地域活性化の戦略	碓井＝：松宮朝	創元社（大阪）	201302	2,000	1	専門
1076	アグリ・ベンチャー：新たな農業をプロデュースする	境新一：齋藤保男	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201312	2,600	1	専門
1077	企業の農業参入による地方創生の可能性：大分県を事例に	堀田和彦：新開章司	農林統計出版	201603	2,000	1	専門
1078	農山漁村地域で働き生きるための経営学入門：地域住民の満足と地域づくり戦略	斎藤毅憲：渡辺峻	文眞堂	201806	1,850	1	専門
1079	農福連携の「里マチ」づくり	濱田健司	鹿島出版会	201512	2,000	1	専門
1080	フランス、葡萄畑のフーリズムと観光案内所：グランドツアーの回顧からアジア的田園産業を展望する	岩田文夫	現代図書(発売：星雲社)	201803	1,000	1	専門
1081	新レジャー農業時代：日本の美しい農村と文化を守るために	東正則	農林統計出版	201506	2,000	1	専門
1082	転換するグリーン・ツーリズム：広域連携と自立をめざして	青木辰司	学芸出版社（京都）	201005	1,700	1	専門
1083	中国山地過疎50年	中国新聞社	未来社	201612	2,200	1	専門
1084	農山村再生に挑む：理論から実践まで	小田切徳美	岩波書店	201308	2,700	1	専門
1085	農村コミュニティビジネスとグリーン・ツーリズム：日本とアジアの村づくりと水田農法	宮崎猛	昭和堂（京都）	201110	2,800	1	専門
1086	グリーン・ツーリズム北海道からの発信	長尾正克	筑波書房	201103	1,800	1	専門
1087	人口減少と地方創生	農政ジャーナリストの会	農政ジャーナリストの会(発売：農林統計協会)	201603	1,200	1	専門
1088	SNSを活用した農山村地域コミュニティの再構築	鬼塚健一郎	農林統計出版	201503	2,500	1	専門
1089	Uターン日記：一次産業と再生エネルギーが地方創生の鍵	皆川治	国書刊行会	201703	1,600	1	専門
1090	魅力ある地域を興す女性たち	小川理恵	農山漁村文化協会	201403	2,600	1	専門
1091	農業再生に挑むコミュニティビジネス：豊かな地域資源を生かすために	曽根原久司：西辻一真	ミネルヴァ書房	201507	3,000	1	専門
1092	食ビジネスのおもてなし学	山上徹	学文社	201501	2,300	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1093	日本発農業のある都市モデル：地域共存型農業による安全快適福祉都市	東正則	農林統計出版	201404	2,000	1	専門
1094	「地域の食」を守り育てる：秋田発地産地消運動の20年	谷口吉光	無明舎出版	201704	1,600	1	専門
1095	地域活性化政策とイノベーション：EU主要国の事例研究	法政大学地域研究センター：岡本義行	芙蓉書房出版	201704	2,500	1	専門
1096	用水のあるまち：東京都日野市・水の郷づくりのゆくえ	西城戸誠：黒田暁	法政大学出版局	201006	3,200	1	専門
1097	有機農業と地域づくり：会津・熱塩加納の挑戦	小林芳正：境野健兒	筑波書房	201706	1,800	1	専門
1098	そば＆まちづくり：そばをまちづくりや地域おこしとの関連でとらえる	鈴木克也：エコハ出版	三恵社(発売：JRC)	201611	2,000	1	専門
1099	青果物のマーケティング：農協と卸売業のための理論と戦略	桂瑛一：今泉秀哉	昭和堂（京都）	201412	2,800	1	専門
1100	バナナのグローバル・ヒストリー：いかにしてユナイテッド・フルーツは世界を席巻したか	ピーター・チャップマン：小澤卓也	ミネルヴァ書房	201805	3,500	1	専門
1101	学びのフィールドとしての美しい地域づくり・里づくり	麻生恵	東京農業大学出版会	201703	1,500	1	専門
1102	阿蘇地域における農耕景観と生態系サービス：文化的景観論で地域価値を再発見し世界文化遺産登録を	横川洋：高橋佳孝	農林統計出版	201704	5,000	1	専門
1103	海洋高校生たちのまちおこし：コンブとサカナで地方創生	渡邉憲一	成山堂書店	201706	1,800	1	専門
1104	海業の時代：漁村活性化に向けた地域の挑戦	婁小波	農山漁村文化協会	201301	2,600	1	専門
1105	魚で、まちづくり！：大分県臼杵市が取り組んだ3年間の軌跡	行平真也	海文堂出版	201706	1,500	1	専門
1106	商学の基本を学ぶ15講	井田泰人	晃洋書房	201409	1,800	1	専門
1107	基礎からの商業と流通	石川和男（経営学）	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201804	3,000	1	専門
1108	英文ビジネスレターの発達史：16世紀以降の通信文（レター）の変遷と特徴を探る	稲津一芳	同文舘出版	201711	3,800	1	専門
1109	商業まちづくり政策：日本における展開と政策評価	渡辺達朗	有斐閣	201405	3,800	1	専門
1110	大規模呉服商の流通革新と進化：三井越後屋における商品仕入体制の変遷	武居奈緒子	千倉書房	201403	3,200	1	専門
1111	TOKYO＋ひときわ輝く商店街：東京オリンピックに向けた、インバウンド対応からIT	商店街研究会	同友館	201709	1,500	1	専門
1112	日本商業史：商業・流通の発展プロセスをとらえる	廣田誠：山田雄久	有斐閣	201709	2,500	1	専門
1113	フラノマルシェはまちをどう変えたか：「まちの滞留拠点」が高める地域内経済循環	石原武政：加藤司	学芸出版社（京都）	201710	2,500	1	専門
1114	よみがえる商店街：アメリカ・サンフランシスコ市の経験	畢滔滔	碩学舎(発売：中央経済グループパブ)	201402	3,400	1	専門
1115	ジオビジネス：GISによる小売店の立地評価と集客予測	高阪宏行	古今書院	201403	3,600	1	専門
1116	商業・まちづくり口辞苑	石原武政	碩学舎(発売：中央経済グループパブ)	201204	1,800	1	専門
1117	商店街の観光化プロセス	中井郷之	創成社	201508	2,500	1	専門
1118	地域商業の底力を探る：商業近代化からまちづくりへ	矢作敏行：川野訓志	白桃書房	201703	3,400	1	専門
1119	わかる！使える！ホスピタリティの教科書：おもてなしの原点	浦郷義郎	PHP研究所	201403	1,800	1	専門
1120	立地の科学：購買行動を数値化する出店戦略	ディー・アイ・コンサルタンツ：榎本篤史	ダイヤモンド社	201606	1,500	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1121	ホスピタリティ入門	青木義英：神田孝治	新曜社	201304	1,900	1	専門
1122	日本の優れたサービス：選ばれ続ける6つのポイント	松井拓己：樋口陽平	生産性出版	201705	1,800	1	専門
1123	小売業起点のまちづくり	石原武政：渡辺達朗	碩学舎(発売：中央経済グループパブ)	201804	2,800	1	専門
1124	サービソロジーへの招待：価値共創によるサービス・イノベーション	村上輝康：新井民夫	東京大学出版会	201706	3,900	1	専門
1125	サービスイノベーションの海外展開：日本企業の成功事例とその要因分析	伊丹敬之：高橋克徳	東洋経済新報社	201709	3,600	1	専門
1126	ホスピタリティ・ビジネスの人材育成	山上徹	白桃書房	201211	1,905	1	専門
1127	サービス・イノベーション：価値共創と新技術導入	南知恵子：西岡健一	有斐閣	201406	2,300	1	専門
1128	日本型大衆消費社会への胎動：戦前期日本の通信販売と月賦販売	満薗勇	東京大学出版会	201402	6,800	1	専門
1129	地域卸売企業ダイカの展開：ナショナル・ホールセラーへの歴史的所産	佐々木聡	ミネルヴァ書房	201503	7,000	1	専門
1130	マーケットでまちを変える：人が集まる公共空間のつくり方	鈴木美央	学芸出版社（京都）	201806	2,000	1	専門
1131	小売商のフィールドワーク：八百屋の品揃えと商品取扱い技術	松田温郎	碩学舎(発売：中央経済グループパブ)	201703	3,600	1	専門
1132	生活者視点で変わる小売業の未来：希望が買う気を呼び起こす商圏マネジメントの重要性	上田隆穂	宣伝会議	201608	1,500	1	専門
1133	変化する中国の小売業：小売業態の発展プロセス	楊陽	専修大学出版局	201502	2,400	1	専門
1134	商店街機能とまちづくり：地域社会の持続ある発展に向けて	小川雅人	創風社	201704	2,400	1	専門
1135	現代の小売流通	懸田豊：住谷宏	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201610	2,500	1	専門
1136	日系小売企業のアジア展開：東アジアと東南アジアの小売動態	柳純：鳥羽達郎	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201710	3,000	1	専門
1137	訪日外国人集客・販売ガイド：インバウンド市場をねらえ！	坂本剛	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201510	1,800	1	専門
1138	日本・中国・韓国における家電品流通の比較分析	関根孝	同文舘出版	201404	2,800	1	専門
1139	地域の再生と流通・まちづくり	佐々木保幸：番場博之	白桃書房	201305	3,000	1	専門
1140	小売業の国際化要因　市場拡大時代における日本小売業の将来性：市場拡大時代における日本小売業の将来性		流通経済大学出版会	201701	2,700	1	専門
1141	モール化する都市と社会：巨大商業施設論	若林幹夫	NTT出版	201310	3,400	1	専門
1142	ショッピングモールと地域：地域社会と現代文化	井尻昭夫：江藤茂博	ナカニシヤ出版	201607	2,700	1	専門
1143	ショッピングセンター用語辞典	日本ショッピングセンター協会SC用語等標	学文社	201807	2,000	1	専門
1144	ショッピングモールの社会史	斉藤徹	彩流社	201703	1,800	1	専門
1145	戦前大阪の鉄道とデパート：都市交通による沿線培養の研究	谷内正往	東方出版（大阪）	201411	6,000	1	専門
1146	食品スーパーの店舗オペレーション・システム：競争力構築のメカニズム	岸本徹也	白桃書房	201305	3,800	1	専門
1147	民泊を考える	浅見泰司：樋野公宏	プログレス（新宿区）	201805	2,200	1	専門
1148	つながるカフェ：コミュニティの〈場〉をつくる方法	山納洋	学芸出版社（京都）	201606	1,800	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1149	外食国際化のダイナミズム：新しい「越境のかたち」	川端基夫	新評論	201601	2,800	1	専門
1150	ホスピタリティ産業の戦略と会計：サービス管理のシステム情報戦略	吉村文雄	森山書店	201306	2,300	1	専門
1151	日本経済の再生とサービス産業	飯盛信男	青木書店	201402	2,200	1	専門
1152	サービス立国論：成熟経済を活性化するフロンティア	森川正之	日本経済新聞出版社	201604	2,700	1	専門
1153	パチンコ産業史：周縁経済から巨大市場へ	韓載香	名古屋大学出版会	201802	5,400	1	専門
1154	人材サービス産業の新しい役割：就業機会とキャリアの質向上のために	佐藤博樹：大木栄一	有斐閣	201407	3,500	1	専門
1155	レベニュー・マネージメント概論：ホスピタリティー産業の経営理念	デイヴィッド・K. ヘイズ：アリッシャ・A. ミラー	流通経済大学出版会	201606	2,700	1	専門
1156	デジタルで変わる宣伝広告の基礎	宣伝会議編集部：久保田進彦	宣伝会議	201609	1,800	1	専門
1157	インターネット時代の広告の機能・効果と展開	高橋秀雄	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201702	3,600	1	専門
1158	現代広告論	岸志津江：田中洋（マーケティング）	有斐閣	201704	2,400	1	専門
1159	あたらしい「路上」のつくり方：実践者に聞く屋外公共空間の活用ノウハウ	影山裕樹：武川寛幸	DU BOOKS(発売：ディスクユニオン)	201805	2,000	1	専門
1160	広告景観：まち並み景観における屋外広告のあり方を世界の事例か	西川潔	ぎょうせい	201507	3,400	1	専門
1161	サービスデータ解析入門：サービス価値を見出す統計解析	椿美智子	オーム社	201802	2,800	1	専門
1162	ブランド論：無形の差別化をつくる20の基本原則	デーヴィド・A. アーカー：阿久津聡	ダイヤモンド社	201409	2,400	1	専門
1163	価値づくりマーケティング：需要創造のための実践知	上原征彦：大友純	丸善出版	201404	2,800	1	専門
1164	ブランド価値創造戦略に求められるもの：目に見えるものを通して目に見えない何かを捉える	平山弘	晃洋書房	201603	3,500	1	専門
1165	地場産業の高価格ブランド戦略：朝日酒造・スノーピーク・ゼニス・ウブロに見る感性価	長沢伸也：西村修	晃洋書房	201505	2,200	1	専門
1166	炎上に負けないクチコミ活用マーケティング	河井孝仁：宇賀神貴宏	彩流社	201712	1,900	1	専門
1167	ブランド創造史：その起源・展開・未来	ウォーリー・オリンズ：榛沢明浩	創元社（大阪）	201403	2,200	1	専門
1168	現代マーケティング研究の潮流	東洋大学	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201611	3,200	1	専門
1169	中小企業マーケティング	田中道雄	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201412	2,600	1	専門
1170	デジタルマーケティングの教科書：5つの進化とフレームワーク	牧田幸裕	東洋経済新報社	201709	2,000	1	専門
1171	なぜ「あれ」は流行るのか？：強力に「伝染」するクチコミはこう作る！	ジョーナ・バーガー：貫井佳子	日本経済新聞出版社	201309	1,800	1	専門
1172	グローバル・マーケティングの新展開	大石芳裕：山口夕妃子	白桃書房	201305	3,000	1	専門
1173	マーケティング講義ノート	滋野英憲：辻幸恵	白桃書房	201805	2,600	1	専門
1174	リテールデータ分析入門	上田隆穂：田島博和	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201406	2,800	1	専門
1175	なぜ、日本人はモノを買わないのか？：1万人の時系列データでわかる日本の消費者	松下東子【著】：日戸浩之【著】	東洋経済新報社	201308	1,600	1	専門
1176	消費者行動論	井上崇道	同文館出版	201803	3,400	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1177	中国人消費者の行動分析：「面子」、原産国イメージとグローバル・ブランド消費	李玲	文眞堂	201703	3,500	1	専門
1178	商品・ビジネス開発のケースブック	見目洋子	白桃書房	201310	2,381	1	専門
1179	新しい「物流」の教科書：基礎知識から最新動向まで1冊でまるごとわかる！	湯浅和夫	PHP研究所	201406	1,600	1	専門
1180	ロジスティクス・SCMの実際：物流の進化とグローバル化	長沢伸也	晃洋書房	201806	2,200	1	専門
1181	地域物流市場の新課題	忍田和良：土井義夫	成文堂	201703	3,000	1	専門
1182	日本の流通・サービス産業：歴史と現状	廣田誠	大阪大学出版会	201303	2,200	1	専門
1183	インターネットは流通と社会をどう変えたか	阿部真也：江上哲	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201609	2,800	1	専門
1184	フランスの流通・政策・企業活動：流通変容の構図	田中道雄：白石善章	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201509	3,000	1	専門
1185	まちづくりによる地域流通の再生	宇野史郎	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201210	3,000	1	専門
1186	流通・都市の理論と動態	佐久間英俊：木立真直	中央大学出版部	201503	2,500	1	専門
1187	現代物流の基礎	森隆行	同文舘出版	201803	2,900	1	専門
1188	トコトンやさしい物流の本	鈴木邦成	日刊工業新聞社	201503	1,400	1	専門
1189	トコトンやさしい小売・流通の本	鈴木邦成	日刊工業新聞社	201710	1,500	1	専門
1190	グローバル・サプライチェーンロジスティクス	黒須誠治：岩間正春	白桃書房	201701	6,000	1	専門
1191	ロジスティクスの歴史物語：江戸から平成まで	苦瀬博仁	白桃書房	201604	1,852	1	専門
1192	コモディティ市場のマイクロストラクチャー：「金融商品化」時代の規制と市場機能	岩壷健太郎：茶野努	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201603	3,600	1	専門
1193	フェアトレードのおかしな真実：僕は本当に良いビジネスを探す旅に出た	コナー・ウッドマン：松本裕（翻訳）	英治出版	201308	1,800	1	専門
1194	フェアトレードタウン：“誰も置き去りにしない”公正と共生のまちづくり	渡辺龍也	新評論	201803	2,500	1	専門
1195	太平洋島嶼国と日本の貿易・投資・観光	黒崎岳大	太平洋協会	201407	2,000	1	専門
1196	フェアトレードビジネスモデルの新たな展開：SDGs時代に向けて	長坂寿久	明石書店	201805	2,600	1	専門
1197	貿易取引入門	池田芳彦	学文社	201308	2,200	1	専門
1198	貿易物流実務マニュアル	石原伸志	成山堂書店	201502	8,800	1	専門
1199	現代国際商取引：よくわかる理論と実務	亀田尚己：平野英則	文眞堂	201304	2,600	1	専門
1200	国際運送書類の歴史的変遷と電子化への潮流	長沼健	文眞堂	201503	2,500	1	専門
1201	物流が一番わかる：生産者から消費者へ物資を効率よく届けるための包装・	齋藤正宏	技術評論社	201805	1,900	1	専門
1202	国際輸送ハンドブック．2018年版		オーシャンコマース	201712	6,000	1	専門
1203	貨物地域流動調査・旅客地域流動調査．平成28年度	国土交通省総合政策局情報政策本部	運輸総合研究所	201805	8,600	1	専門
1204	交通経済統計要覧：数字で見る交通経済．平成27・28年版	国土交通省総合政策局情報政策本部	運輸総合研究所	201804	3,200	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1205	フランスの地方都市にはなぜシャッター通りがないのか：交通・商業・都市政策を読み解く	ユミ・ヴァンソン・フジイ：宇都宮浄人	学芸出版社（京都）	201612	2,300	1	専門
1206	モビリティをマネジメントする：コミュニケーションによる交通戦略	藤井聡（社会科学）：谷口綾子	学芸出版社（京都）	201508	2,300	1	専門
1207	シェアする道路：ドイツの活力ある地域づくり戦略	ズザンネ・エルファディング：浅野光行	技報堂出版	201204	2,800	1	専門
1208	地域交通政策づくり入門：人口減少・高齢社会に立ち向かう総合政策を	土居靖範：可児紀夫	自治体研究社	201707	1,600	1	専門
1209	都市・過疎地域の活性化と交通の再生	香川正俊：澤喜司郎	成山堂書店	201009	3,000	1	専門
1210	交通権（移動権）の保障制度：交通基本法を先駆けた福岡市生活交通条例	地域科学研究会	地域科学研究会	201010	3,500	1	専門
1211	地域公共交通の活性化・再生と公共交通条例	香川正俊	日本評論社	201702	3,600	1	専門
1212	国土交通六法［交通・観光編］．平成27年版	国土交通省	ぎょうせい	201510	9,600	1	専門
1213	観光交通ビジネス	塩見英治：堀雅通	成山堂書店	201706	2,800	1	専門
1214	交通まちづくり：地方都市からの挑戦	原田昇：羽藤英二	鹿島出版会	201507	2,200	1	専門
1215	地域再生の戦略：「交通まちづくり」というアプローチ	宇都宮浄人	筑摩書房	201506	760	1	専門
1216	旅文化と物流：近代日本の輸送体系と空間認識	中西聡	日本経済評論社	201612	8,400	1	専門
1217	乗り物にみるアジアの文化	澤喜司郎	成山堂書店	201209	2,800	1	専門
1218	アジア交通文化論	澤喜司郎	成山堂書店	201703	2,600	1	専門
1219	中国物流産業論：高度化の軌跡とメカニズム	李瑞雪	白桃書房	201401	2,800	1	専門
1220	海事産業の現状と未来：愛媛から世界へ	清野良栄	晃洋書房	201411	3,000	1	専門
1221	外航海運概論	森隆行	成山堂書店	201604	3,800	1	専門
1222	内航海運	森隆行：石田信博	晃洋書房	201406	2,300	1	専門
1223	港湾ロジスティクス論	男澤智治	晃洋書房	201712	2,700	1	専門
1224	海と空の港大事典	日本港湾経済学会	成山堂書店	201109	5,600	1	専門
1225	都市と港湾の地理学	林上	風媒社	201709	2,200	1	専門
1226	新しい港町文化とまちづくり	鈴木克也	エコハ出版（発売：三恵社）	201709	2,000	1	専門
1227	駐車場からのまちづくり：都市再生のために	国際交通安全学会：岸井隆幸	学芸出版社（京都）	201204	3,000	1	専門
1228	道の駅／地域産業振興と交流の拠点	関満博：酒本宏	新評論	201607	2,700	1	専門
1229	総合研究日本のタクシー産業：現状と変革に向けての分析	太田和博：青木亮	慶応義塾大学出版会	201707	4,000	1	専門
1230	バスがまちを変えていく：BRTの導入計画作法	中村文彦：牧村和彦	計量計画研究所（発売：全国官報販売協同組合）	201606	2,500	1	専門
1231	都市における乗合旅客自動車輸送	松崎朱芳	晃洋書房	201611	2,600	1	専門
1232	コミュニティーバス・デマンド交通：地域の足を支える	堀内重人	鹿島出版会	201707	2,300	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1233	デマンド交通とタクシー活用：超高齢化・人口減少時代を支える交通サービス	鈴木文彦	地域科学研究会	201303	4,740	1	専門
1234	自転車コミュニティビジネス：エコに楽しく地域を変える	近藤隆二郎：五環生活	学芸出版社（京都）	201303	1,900	1	専門
1235	実践する自転車まちづくり：役立つ具体策	古倉宗治	学芸出版社（京都）	201408	3,200	1	専門
1236	成功する自転車まちづくり：政策と計画のポイント	古倉宗治	学芸出版社（京都）	201010	2,800	1	専門
1237	京都市自転車安心安全条例：快適な市民生活を支える自転車のための自治体政策	吉田孝雄：地域科学研究会	地域科学研究会	201112	3,500	1	専門
1238	数字でみる鉄道．2016	国土交通省鉄道局	運輸総合研究所	201610	850	1	専門
1239	鉄道と地域発展	地域政策研究プロジェクト	勁草書房	201403	4,000	1	専門
1240	ビジュアル日本の鉄道の歴史．1	梅原淳	ゆまに書房	201704	2,800	1	専門
1241	ビジュアル日本の鉄道の歴史．2	梅原淳	ゆまに書房	201705	2,800	1	専門
1242	ビジュアル日本の鉄道の歴史．3	梅原淳	ゆまに書房	201706	2,800	1	専門
1243	鉄道と観光の近現代史	老川慶喜	河出書房新社	201709	1,600	1	専門
1244	ローカル鉄道という希望：新しい地域再生、はじまる	田中輝美	河出書房新社	201608	1,500	1	専門
1245	元気なローカル線のつくりかた：三陸鉄道　JR東日本八戸線　由利高原鉄道　山形鉄道	堀内重人	学芸出版社（京都）	201406	2,000	1	専門
1246	北陸新幹線レボリューション：新幹線がもたらす地方創生のソリューション	藤澤和弘	交通新聞社	201508	800	1	専門
1247	リニア中央新幹線に未来はあるか：鉄道の高速化を考える	西川榮一	自治体研究社	201602	1,204	1	専門
1248	寝台列車再生論：寝台夜行列車の存続・活性化に向けての提言	堀内重人	戎光祥出版	201507	1,800	1	専門
1249	鉄道がつくった日本の近代	高階秀爾：芳賀徹	成山堂書店	201411	2,300	1	専門
1250	新幹線vs航空機	堀内重人	東京堂出版	201203	1,800	1	専門
1251	鉄道名所の事典	伊藤博康	東京堂出版	201212	1,600	1	専門
1252	日本の鉄道：鉄道趣味初心者からマニア・コレクターまで	野口武悟	日外アソシエーツ（発売：紀伊國屋書店日外アソ）	201807	9,250	1	専門
1253	鉄道と地域の社会経済史	篠崎尚夫	日本経済評論社	201304	6,000	1	専門
1254	私鉄郊外の誕生	片木篤	柏書房	201708	3,400	1	専門
1255	鉄道は誰のものか	上岡直見	緑風出版	201607	2,500	1	専門
1256	鉄道が創りあげた世界都市・東京	矢島隆：家田仁	計量計画研究所（発売：全国官報販売協同組合）	201403	2,500	1	専門
1257	日本の私鉄名古屋鉄道	広岡友紀	毎日新聞出版	201209	1,500	1	専門
1258	関西私鉄文化を考える	金明秀：三宅正弘	関西学院大学出版会	201203	900	1	専門
1259	鉄道旅行の歴史：19世紀における空間と時間の工業化	ヴォルフガング・シヴェルブシュ：加藤二郎	法政大学出版局	201112	3,200	1	専門
1260	鉄道の誕生：イギリスから世界へ	湯沢威	創元社（大阪）	201401	2,200	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1261	ハプスブルク帝国の鉄道と汽船：19世紀の鉄道建設と河川・海運航行	佐々木洋子（西洋史）	刀水書房	201308	5,000	1	専門
1262	シベリア鉄道紀行史：アジアとヨーロッパを結ぶ旅	和田博文	筑摩書房	201301	1,600	1	専門
1263	日本鉄道業の事業戦略：鉄道経営と地域活性化	那須野育大	白桃書房	201510	2,750	1	専門
1264	進展する交通ターミナル：鉄道駅・港湾・空港	柴田悦子：土居靖範	成山堂書店	201109	2,600	1	専門
1265	鉄道・貨物の謎と不思議	梅原淳	東京堂出版	201207	1,800	1	専門
1266	鉄道貨物：再生、そして躍進	伊藤直彦	日本経済新聞出版社	201711	1,800	1	専門
1267	路面電車：運賃収受が成功のカギとなる！？	柚原誠	成山堂書店	201712	1,800	1	専門
1268	航空産業とライフライン	戸崎肇	学文社	201109	1,800	1	専門
1269	LCCが拓く航空市場：格安航空会社の成長戦略	杉山純子：松前真二	成山堂書店	201204	2,600	1	専門
1270	リージョナル・ジェットが日本の航空を変える	橋本安男：屋井鉄雄	成山堂書店	201106	2,600	1	専門
1271	航空産業入門	ANA総合研究所	東洋経済新報社	201705	2,400	1	専門
1272	オープンスカイ時代の航空と情報システム	中谷秀樹	同友館	201303	2,000	1	専門
1273	最新／航空事業論：エアライン・ビジネスの未来像	井上泰日子	日本評論社	201612	2,800	1	専門
1274	激安エアラインの時代：なぜ安いのか、本当に安全なのか	杉浦一機	平凡社	201203	780	1	専門
1275	エアライン／エアポート・ビジネス入門：観光交流時代のダイナミズムと戦略	高橋望：横見宗樹	法律文化社	201604	2,800	1	専門
1276	国際航空自由化研究序説：レジームの変容と競争・協調	塩見英治	中央大学出版部	201610	1,600	1	専門
1277	世界の民間航空図鑑：旅客機・空港・エアライン	アンドリアス・フェッカー：上原昌子	原書房	201311	5,800	1	専門
1278	観光立国を支える航空輸送事業	三田譲：塩谷さやか	同友館	201004	2,400	1	専門
1279	日本の空のパイオニアたち：明治・大正18年間の航空開拓史	荒山彰久	早稲田大学出版部	201309	2,800	1	専門
1280	航空幻想：日本の空は変わったか	中条潮	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201411	2,400	1	専門
1281	規制緩和と市場構造の変化：航空・石油・通信セクターにおける均衡経路の比較分析	深谷健	日本評論社	201202	5,000	1	専門
1282	航空とホスピタリティ	山路顕：岩田真理子	NTT出版	201303	2,500	1	専門
1283	エアライン・ビジネス入門	稲本恵子	晃洋書房	201709	2,000	1	専門
1284	アジアの航空貨物輸送と空港	池上寛	アジア経済研究所	201701	3,400	1	専門
1285	航空・貨物の謎と不思議	谷川一巳	東京堂出版	201611	2,000	1	専門
1286	新しい空港経営の可能性：LCCの求める空港とは	野村宗訓	関西学院大学産業研究所(発売：関西学院大学出版会)	201203	1,300	1	専門
1287	空港のはなし	岩見宣治：渡邉正己	交通研究協会(発売：成山堂書店)	201602	1,600	1	専門
1288	空港オペレーション：空港業務の全分野の概説と将来展望	ノーマン・J. アシュフォード：H. P. マーティン・スタントン	成山堂書店	201710	6,000	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1289	空港経営と地域：航空・空港政策のフロンティア	加藤一誠：引頭雄一	成山堂書店	201408	3,000	1	専門
1290	グローバル経済における空港のファイナンスと投資	アン・グラハム：ピーター・モレル	創成社	201807	3,000	1	専門
1291	空港は誰が動かしているのか	轟木一博	日本経済新聞出版社	201605	870	1	専門
1292	観光教育とは何か：観光教育のスタンダード化	前田武彦（1958－）	アビッツ	201303	3,500	1	専門
1293	ヘルスツーリズムによる地方創生：健康長寿を目指して「お散歩でこの国を元気にする」	西村典芳	カナリアコミュニケーションズ	201608	1,300	1	専門
1294	エコツーリズムと持続可能な開発楽園はだれのもの？	マーサ・ハニー：赤間亜希	くんぷる	201603	3,000	1	専門
1295	観光学ガイドブック：新しい知的領野への旅立ち	大橋昭一：橋本和也	ナカニシヤ出版	201404	2,800	1	専門
1296	観光研究レファレンスデータベース．日本編	江口信清：藤巻正己	ナカニシヤ出版	201103	5,700	1	専門
1297	ウェルネスツーリズム：サードプレイスへの旅	荒川雅志：NPO日本スパ振興協会	フレグランスジャーナル社	201709	2,300	1	専門
1298	フードツーリズムのすすめ：スローライフを楽しむために	菊地俊夫	フレグランスジャーナル社	201611	1,800	1	専門
1299	観光ビジネス論	谷口知司	ミネルヴァ書房	201005	2,800	1	専門
1300	よくわかる観光社会学	安村克己：堀野正人	ミネルヴァ書房	201104	2,600	1	専門
1301	ツーリズム・モビリティーズ：観光と移動の社会理論	遠藤英樹	ミネルヴァ書房	201703	2,500	1	専門
1302	ホスト・アンド・ゲスト：観光人類学とはなにか	ヴァレン・L・スミス：市野澤潤平	ミネルヴァ書房	201806	7,000	1	専門
1303	多文化時代の観光学：フィールドワークからのアプローチ	高山陽子	ミネルヴァ書房	201706	2,800	1	専門
1304	入門観光学	竹内正人：竹内利江	ミネルヴァ書房	201803	2,800	1	専門
1305	Q＆Aハラールを知る101問：ムスリムおもてなしガイド	福島康博	解放出版社	201805	2,000	1	専門
1306	観光と地域振興	大藪多可志：中島恵	海文堂出版	201304	2,400	1	専門
1307	CSV観光ビジネス：地域とともに価値をつくる	藤野公孝：高橋一夫	学芸出版社（京都）	201410	2,800	1	専門
1308	観光のビジネスモデル：利益を生みだす仕組みを考える	石井淳蔵：高橋一夫	学芸出版社（京都）	201112	2,500	1	専門
1309	観光の目玉：物語を生かした地域旅	佐藤喜子光：齋藤明子	学芸出版社（京都）	201109	1,800	1	専門
1310	観光まちづくりのマーケティング	十代田朗：山田雄一	学芸出版社（京都）	201011	2,300	1	専門
1311	産業観光の手法：企業と地域をどう活性化するか	産業観光推進会議	学芸出版社（京都）	201411	2,500	1	専門
1312	食旅と観光まちづくり	安田亘宏	学芸出版社（京都）	201006	1,900	1	専門
1313	地域の産業・文化と観光まちづくり：創造性を育むツーリズム	古池嘉和	学芸出版社（京都）	201101	1,800	1	専門
1314	ザ・ツーリスト：高度近代社会の構造分析	ディーン・マキァーネル：安村克己	学文社	201208	3,500	1	専門
1315	観光とサービスの心理学：観光行動学序説	前田勇	学文社	201501	2,500	1	専門
1316	観光の地平	長崎国際大学	学文社	201101	2,300	1	専門

専門分野(和書)

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格(本体)	冊数	備考
1317	新現代観光総論	前田勇	学文社	201801	2,300	1	専門
1318	鉄旅研究:レールウェイツーリズムの実態と展望	安田亘宏:中村忠司	教育評論社	201003	1,600	1	専門
1319	観光情報学入門	観光情報学会:松原仁	近代科学社	201505	2,700	1	専門
1320	観光経済学の基礎講義	中平千彦:藪田雅弘	九州大学出版会	201707	2,900	1	専門
1321	ツーリズム成長論	櫻川昌哉:慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所	慶応義塾大学出版会	201303	1,800	1	専門
1322	観光行動論	溝尾良隆:安島博幸	原書房	201303	2,800	1	専門
1323	観光産業論	溝尾良隆:安島博幸	原書房	201503	2,800	1	専門
1324	新しい観光の時代:観光政策・温泉・ニューツーリズム幻想	吉田春生	原書房	201003	2,800	1	専門
1325	おもてなしの未来図	長崎洋二	現代図書(発売:星雲社)	201208	1,886	1	専門
1326	「観光まちづくり」再考:内発的観光の展開へ向けて	安福恵美子	古今書院	201603	2,700	1	専門
1327	ジオツーリズムとエコツーリズム	深見聡	古今書院	201411	2,800	1	専門
1328	日常空間を活かした観光まちづくり	戸所隆	古今書院	201004	2,800	1	専門
1329	コンテンツツーリズム入門	増淵敏之:溝尾良隆	古今書院	201411	2,300	1	専門
1330	ジオツーリズム論:大地の遺産を訪ねる新しい観光	横山秀司	古今書院	201412	3,600	1	専門
1331	フードツーリズム論:食を活かした観光まちづくり	安田亘宏	古今書院	201307	3,200	1	専門
1332	観光サービス論:観光を初めて学ぶ人の14章	安田亘宏	古今書院	201503	2,300	1	専門
1333	観光とまちづくり:地域を活かす新しい視点	深見聡:井出明	古今書院	201004	2,600	1	専門
1334	観光学:基本と実践	溝尾良隆	古今書院	201501	2,600	1	専門
1335	観光学と景観	溝尾良隆	古今書院	201106	3,200	1	専門
1336	観光文化と地元学	井口貢	古今書院	201108	2,800	1	専門
1337	観光文化学:旅から観光へ	飯田芳也	古今書院	201210	2,500	1	専門
1338	女性とツーリズム:観光を通して考える女性の人生	友原嘉彦	古今書院	201709	3,200	1	専門
1339	発展途上世界の観光と開発	デーヴィド・J. テルファー:リチャード・シャープリー	古今書院	201105	3,800	1	専門
1340	産業観光:ものづくりの観光	須田寛	交通新聞社	201509	1,500	1	専門
1341	これからの観光を考える	谷口知司:福井弘幸	晃洋書房	201704	2,500	1	専門
1342	観光社会学のアクチュアリティ	遠藤英樹:堀野正人	晃洋書房	201011	2,400	1	専門
1343	第3版　観光学入門	中尾清:浦達雄	晃洋書房	201704	2,000	1	専門
1344	地域資源を守っていかすエコツーリズム:人と自然の共生システム	敷田麻実:森重昌之	講談社	201109	2,800	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1345	日本の国際観光統計．2016年版	日本政府観光局	国際観光サービスセンター	201709	3,426	1	専門
1346	物語を旅するひとびと：コンテンツ・ツーリズムとは何か	増淵敏之	彩流社	201004	2,000	1	専門
1347	観光白書．平成29年版	観光庁	昭和情報プロセス(発売：全国官報販売協同組合)	201709	1,852	1	専門
1348	国際観光論：図表で読みとく日本の現状と課題	浅羽良昌	昭和堂（京都）	201101	2,200	1	専門
1349	観光入門：観光の仕事・学習・研究をつなぐ	青木義英：廣岡裕一	新曜社	201104	2,100	1	専門
1350	固有価値の地域観光論：京都の文化政策と市民による観光創造	冨本真理子	水曜社	201103	2,700	1	専門
1351	観光経験の人類学：みやげものとガイドの「ものがたり」をめぐって	橋本和也	世界思想社	201102	2,200	1	専門
1352	エコツーリズムを学ぶ人のために	真板昭夫：石森秀三	世界思想社	201105	2,500	1	専門
1353	現代の観光事業論	藤井秀登	税務経理協会	201407	2,100	1	専門
1354	インバウンド実務論：インバウンドを1から学ぶ14章	安田亘宏	全日本情報学習振興協会(発売：アース・スターエンタ)	201709	1,800	1	専門
1355	観光ビジネスの基礎	木谷直俊	創成社	201309	2,700	1	専門
1356	はじめての国際観光学：訪日外国人旅行者を迎えるために	山口一美：椎野信雄	創成社	201805	2,500	1	専門
1357	レジャーランド＆レクパーク総覧．2016		綜合ユニコム	201510	80,000	1	専門
1358	観光マーケティングの現場：ブランド創出の理論と実践	吉田春生	大学教育出版	201608	2,200	1	専門
1359	観光地域学	奥野一生	竹林館	201803	1,800	1	専門
1360	レジャー産業の会計実務	あずさ監査法人	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201007	3,000	1	専門
1361	自然ツーリズム学	菊地俊夫：有馬貴之	朝倉書店	201502	2,800	1	専門
1362	文化ツーリズム学	菊地俊夫：松村公明	朝倉書店	201603	2,800	1	専門
1363	観光危機管理ハンドブック：観光客と観光ビジネスを災害から守る	＝松正人	朝倉書店	201803	3,400	1	専門
1364	現代の観光とブランド	大橋昭一	同文舘出版	201303	2,300	1	専門
1365	現代観光のダイナミズム	米浪信男	同文舘出版	201802	2,800	1	専門
1366	観光ビジネス未来白書：統計に見る実態・分析から見える未来戦略．2018年版	加藤弘治	同友館	201804	2,500	1	専門
1367	観光マーケティング入門	森下晶美：島川崇	同友館	201605	2,000	1	専門
1368	ツーリズムの地理学：観光から考える地域の魅力	菊地俊夫	二宮書店	201803	3,200	1	専門
1369	国際観光誘致のしかた：インバウンド・ツーリズム振興の基本	小林天心	虹有社	201110	1,400	1	専門
1370	産業観光ビジネスモデルの手法：地域に埋蔵された宝を輝かせるために	日本観光協会	日本観光振興協会	201007	2,381	1	専門
1371	数字でみる観光．2017年度版	日本観光振興協会	日本観光振興協会	201711	600	1	専門
1372	訪日中国人から見た中国と日本：インバウンドのあり方	張兵	日本僑報社	201609	2,600	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1373	非日常の観光社会学：森林鉄道・旅の虚構性	小川功	日本経済評論社	201703	9,600	1	専門
1374	コミュニティ・ベースド・ツーリズム研究：世界の実践事例に学ぶ成功の鍵	小林英俊：緒川弘孝	日本交通公社	201003	3,000	1	専門
1375	観光と地域資源活用観光コーディネート学	小塩稲之	日本販路コーディネータ協会出版局(発売：JRC)	201110	3,000	1	専門
1376	観光地域コーディネートのためのコトづくりモノづくり場おこし学	小塩稲之	日本販路コーディネータ協会出版局(発売：JRC)	201110	3,000	1	専門
1377	旅行革新戦略：地域デザインとライフデザインによるコンテクスト転換	原田保：板倉宏昭	白桃書房	201508	3,600	1	専門
1378	新・観光を学ぶ	太田実：中島智	八千代出版	201705	2,000	1	専門
1379	観光地域調査法：GISを用いた実践的調査手法の解説	金徳謙	美巧社	201606	2,500	1	専門
1380	コンテンツツーリズム研究：情報社会の観光行動と地域振興	岡本健	福村出版	201508	2,400	1	専門
1381	観光社会学2．0：拡がりゆくツーリズム研究	須藤廣：遠藤英樹	福村出版	201806	2,500	1	専門
1382	観光の地理学	立命館大学	文理閣	201507	3,200	1	専門
1383	「おもてなし」依存が会社をダメにする：観光、ホテル、旅館業のための情報産業論	青木昌城	文眞堂	201506	2,200	1	専門
1384	観光の思想と理論	大橋昭一	文眞堂	201006	3,200	1	専門
1385	観光の新しい潮流と地域	原田順子：十代田朗	放送大学教育振興会(発売：NHK出版)	201103	2,900	1	専門
1386	観光のまなざし	ジョン・アーリ：ヨーナス・ラースン	法政大学出版局	201409	4,600	1	専門
1387	「若者の海外旅行離れ」を読み解く：観光行動論からのアプローチ	中村哲：西村幸子	法律文化社	201412	2,500	1	専門
1388	観光学事始め：「脱観光的」観光のススメ	井口貢：片山明久	法律文化社	201508	2,800	1	専門
1389	ボーダーツーリズム：観光で地域をつくる	岩下明裕：花松泰倫	北海道大学出版会	201712	2,400	1	専門
1390	観光学キーワード	山下晋司	有斐閣	201106	1,800	1	専門
1391	観光と情報システム	中谷秀樹：清水久仁子	流通経済大学出版会	201807	1,800	1	専門
1392	観光のインパクト：現在、そして近未来	横浜商科大学公開講座委員会	南窓社	201703	2,600	1	専門
1393	自主研究レポート：観光文化振興基金による自主研究論文集．2011／2012		日本交通公社	201208	2,858	1	専門
1394	ロングステイ調査統計．2016	ロングステイ財団	ロングステイ財団	201611	7,000	1	専門
1395	観光の実態と志向：国民の観光に関する動向調査．第36回（平成29年度版）	日本観光振興協会	日本観光振興協会	201803	5,800	1	専門
1396	全国観光動向：都道府県別観光地入込客統計．平成22年（度）	日本観光振興協会	日本観光振興協会	201302	4,658	1	専門
1397	旅行者動向．2013		日本交通公社	201311	4,762	1	専門
1398	観光ホスピタリティ教育におけるPBLの可能性	下島康史	くんぷる	201404	2,200	1	専門
1399	観光調査のキーコンセプト：方法論的多様性、理論的背景、歴史的展開	デーヴィド・ボッテリル：ヴィンセント・プラテンカンプ	同友館	201503	2,500	1	専門
1400	これからの観光政策と自治体：「稼げる地域資源」と「観光財源の集め方」	松井一郎	イマジン出版	201411	1,000	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1401	地域プラットフォームによる観光まちづくり：マーケティングの導入と推進体制のマネジメント	大社充	学芸出版社（京都）	201303	2,600	1	専門
1402	観光立国論：交通政策から見た観光大国への論点	戸崎肇	現代書館	201708	1,800	1	専門
1403	自治体と観光	西村幸夫	後藤・安田記念東京都市研究所	201606	463	1	専門
1404	地方観光政策と観光まちづくりの展開	中尾清	晃洋書房	201212	2,200	1	専門
1405	観光立国へのアプローチ	山上徹	成山堂書店	201008	2,400	1	専門
1406	観光政策への学際的アプローチ	高崎経済大学地域科学研究所	勁草書房	201603	3,200	1	専門
1407	新・観光立国論：モノづくり国家を超えて	寺島実郎：日本総合研究所	NHK出版	201506	1,700	1	専門
1408	観光立国革命：インバウンド3．0の衝撃！	中村好明	カナリアコミュニケーションズ	201510	1,500	1	専門
1409	離島エコツーリズムの社会学：隠岐・西表・小笠原・南大東の日常生活から	古村学	吉田書店	201503	2,500	1	専門
1410	外客誘致の経済分析：日本のインバウンド観光と地域開発	平井貴幸	五絃舎	201204	2,200	1	専門
1411	JNTO訪日旅行誘致ハンドブック：欧米豪9市場編．2017	日本政府観光局	国際観光サービスセンター	201704	15,000	1	専門
1412	インバウンドの罠：脱「観光消費」の時代	姫田小夏	時事通信出版局(発売：時事通信社)	201708	1,500	1	専門
1413	インバウンド戦略：人口急減には観光立国で立ち向かえ！	中村好明	時事通信出版局(発売：時事通信社)	201410	1,600	1	専門
1414	ゆたかで楽しい海洋観光の国へ、ようこそ！	中瀬勝義	七つ森書館	201607	1,000	1	専門
1415	観光立国の正体	藻谷浩介：山田桂一郎	新潮社	201611	820	1	専門
1416	〈移動〉と〈比較〉の日本帝国史：統治技術としての観光・博覧会・フィールドワーク	阿部純一郎	新曜社	201404	4,200	1	専門
1417	空間紛争としての持続的スポーツツーリズム：持続的開発が語らない地域の生活誌	村田周祐	新曜社	201703	3,600	1	専門
1418	観光地日光その整備充実の歴史	手嶋潤一	随想舎	201604	2,800	1	専門
1419	観光旅行と楽しい乗り物	澤喜司郎	成山堂書店	201012	2,800	1	専門
1420	遊園地の乗り物と遊びの文化	澤喜司郎：齋藤英智	成山堂書店	201204	2,800	1	専門
1421	観光立国日本への提言：インバウンド・ビジネスのチャンスをとらえる	長谷川恵一：早稲田大学	成文堂	201607	2,800	1	専門
1422	「おもてなし」の日本文化誌：ホテル・旅館の歴史に学ぶ	富田昭次	青弓社	201705	2,000	1	専門
1423	PR視点のインバウンド戦略：訪日中国人の興味は「爆買い」から「体験」、「都市」	電通パブリックリレーションズ：鄭燕	宣伝会議	201611	1,900	1	専門
1424	訪日観光の教科書	高井典子：赤堀浩一郎	創成社	201402	2,100	1	専門
1425	まちづくり×インバウンド成功する「7つの力」：地方創生を可能にする	中村好明	朝日出版社	201610	1,500	1	専門
1426	ディズニーリゾートの経済学	粟田房穂【著】	東洋経済新報社	201303	1,600	1	専門
1427	デービッド・アトキンソン新・観光立国論：イギリス人アナリストが提言する21世紀の「所得倍増	デービッド・アトキンソン	東洋経済新報社	201506	1,500	1	専門
1428	世界一訪れたい日本のつくりかた：新・観光立国論【実践編】	デービッド・アトキンソン	東洋経済新報社	201707	1,500	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1429	復興ツーリズム：観光学からのメッセージ	総合観光学会	同文舘出版	201303	1,900	1	専門
1430	中国人観光客を呼び込む必勝術：インバウンドマーケティングの実践	徐向東	日刊工業新聞社	201109	1,800	1	専門
1431	日本人だけが知らない「ニッポン」の観光地	水津陽子【著】	日経BP社(発売：日経BPマーケティン)	201409	1,400	1	専門
1432	新たな集客に挑む！インバウンドBUSINESS：外国人旅行者の集客による市場開発、地域振興のための	日本観光振興協会	日本観光振興協会	201209	1,300	1	専門
1433	地域観光協会『観光まちづくり』実態調査報告書：持続可能な観光振興に向けて、今後の課題とは？		日本観光振興協会	201202	4,800	1	専門
1434	観光デザインとコミュニティデザイン：地域融合型観光ビジネスモデルの創造者〈観光デザイナ	小川功	日本経済評論社	201404	5,200	1	専門
1435	観光地経営講座講義録．平成26年度		日本交通公社	201503	1,000	1	専門
1436	旅行年報．2017		日本交通公社	201710	2,000	1	専門
1437	インバウンド・ツーリズムハンドブック：訪日外国人旅行客への対応と心得	日本文芸社	日本文芸社	201503	1,800	1	専門
1438	スポーツツーリズムの可能性を探る：新しい生涯スポーツ社会への実現に向けて	愛知東邦大学地域創造研究所	唯学書房(発売：アジール・プロダクシ)	201511	2,000	1	専門
1439	インバウンドビジネス入門講座：訪日外国人観光攻略ガイド	村山慶輔：やまとごころ編集部	翔泳社	201804	1,680	1	専門
1440	観光による地域社会の再生：オープン・プラットフォームの形成に向けて	森重昌之	現代図書(発売：星雲社)	201403	2,380	1	専門
1441	持続可能な自然資源の保全・利用のためのエコツーリズム：日本の世界自然遺産・白神山地を事例として	岩本英和	早稲田大学出版部	201203	3,060	1	専門
1442	データで読み解く被災地観光の可能性	長谷川明彦	大阪大学出版会	201703	3,700	1	専門
1443	観光集落の再生と創生：温泉・文化景観再考	戸所隆	海青社	201004	2,381	1	専門
1444	エコツーリズム：こころ躍る里山の旅：飯能エコツアーに学ぶ	犬井正	丸善出版	201704	2,000	1	専門
1445	観光の活性化と地域振興：伊豆の観光を考える	野方宏	新評論	201203	2,500	1	専門
1446	京都・観光文化への招待	井口貢：池上惇	ミネルヴァ書房	201204	3,500	1	専門
1447	観光の京都論	山上徹	学文社	201003	2,300	1	専門
1448	大京都モダニズム観光	橋爪紳也	芸術新聞社	201504	2,300	1	専門
1449	里山観光の資源人類学：京都府美山町の地域振興	堂下恵	新曜社	201202	4,700	1	専門
1450	沖縄観光とホスピタリティ産業	宮城博文	晃洋書房	201302	2,800	1	専門
1451	九州観光学：九州の観光を読み解く	千相哲	晃洋書房	201804	2,400	1	専門
1452	観光戦略としての宗教：長崎の教会群と場所の商品化	松井圭介	筑波大学出版会(発売：丸善出版)	201303	2,800	1	専門
1453	図説アジア・オセアニアの都市と観光	寺阪昭信：伊東理	古今書院	201310	3,000	1	専門
1454	シルクロードの農村観光：中国・新疆ウイグル自治区の民泊事情	リシャラテ・アビリム：加藤公夫	連合出版	201802	1,800	1	専門
1455	ネパールにおけるツーリズム空間の創出：カトマンドゥから描く地域像	森本泉	古今書院	201202	6,400	1	専門
1456	イスラミック・ツーリズムの勃興：宗教の観光資源化	安田慎	ナカニシヤ出版	201604	3,000	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1457	観光先進地ヨーロッパ：観光計画・観光政策の実証分析	淡野明彦：カロリン・フンク	古今書院	201606	5,000	1	専門
1458	ドイツの観光学	アルブレヒト・シュタイネッケ：富川久美子	ナカニシヤ出版	201803	3,000	1	専門
1459	ドイツ資本主義と観光	山田徹雄	日本経済評論社	201512	6,500	1	専門
1460	観光大国スイスの誕生：「辺境」から「崇高なる美の国」へ	河村英和	平凡社	201307	800	1	専門
1461	観光大国フランス：ゆとりとバカンスの仕組み	青木幹生	現代図書(発売：星雲社)	201211	2,095	1	専門
1462	アメリカの国際観光経済	浅羽良昌	世界思想社	201307	1,900	1	専門
1463	チャイナタウン，ゲイバー，レザーサブカルチャー，ビート，そして街は観光の聖地とな：「本物」が息づくサンフランシスコ近隣地区	畢滔滔	白桃書房	201505	2,750	1	専門
1464	地域観光マーケティング戦略構築のあり方：九州のインバウンド観光を事例として	劉明	くんぷる	201709	2,000	1	専門
1465	観光DMO設計・運営のポイント：DMOで追求する真の観光振興とその先にある地域活性	日本政策投資銀行地域企画部	ダイヤモンド・ビジネス企画(発売：ダイヤモンド社)	201711	2,200	1	専門
1466	DMO観光地経営のイノベーション	高橋一夫	学芸出版社（京都）	201706	2,400	1	専門
1467	地域創造のための観光マネジメント講座	観光力推進ネットワーク・関西：日本観光研究学会	学芸出版社（京都）	201611	2,400	1	専門
1468	JNTO訪日旅行誘致ハンドブック：アジア6市場編．2016	国際観光振興機構	国際観光サービスセンター	201604	10,000	1	専門
1469	テーマパーク経営論．映画会社の多角化編	中島恵	三恵社(発売：JRC)	201309	2,100	1	専門
1470	観光の満足と地域イメージ：地域再生の観光マネジメント	大和里美	大阪教育図書	201310	2,400	1	専門
1471	観光先進国をめざして：日本のツーリズム産業の果たすべき役割	田川博己	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201803	1,600	1	専門
1472	観光経営学	岡本伸之	朝倉書店	201310	2,800	1	専門
1473	スキーリゾートの発展プロセス：日本とオーストリアの比較研究	呉羽正昭	二宮書店	201704	3,200	1	専門
1474	観光ビジネス・エコノミクス概論：地方における新たな市場創出に向けて	伊藤昭男	批評社	201708	2,200	1	専門
1475	観光という〈商品〉の生産：日本～ベトナム旅行会社のエスノグラフィ	鈴木涼太郎	勉誠出版	201004	4,800	1	専門
1476	ジオパーク・マネジメント入門	全国地質調査業協会連合会：地質情報整備・活用機構	オーム社	201007	2,500	1	専門
1477	インバウンドの消費促進と地域経済活性化：育て、磨き、輝かせる	日本交通公社	ぎょうせい	201807	2,200	1	専門
1478	バリと観光開発：民主化・地方分権化のインパクト	井澤友美	ナカニシヤ出版	201706	3,200	1	専門
1479	地域文化観光論：新たな観光学への展望	橋本和也	ナカニシヤ出版	201802	2,600	1	専門
1480	観光考古学	坂詰秀一	ニュー・サイエンス社	201205	3,000	1	専門
1481	インバウンドと地域創生	大藪多可志：山本真嗣	海文堂出版	201708	2,200	1	専門
1482	観光のユニバーサルデザイン：歴史都市と世界遺産のバリアフリー	秋山哲男：松原悟朗	学芸出版社（京都）	201004	2,500	1	専門
1483	生きている文化遺産と観光：住民によるリビングヘリテージの継承	藤木庸介	学芸出版社（京都）	201003	2,600	1	専門
1484	観光地経営の視点と実践	日本交通公社（財団法人）	丸善出版	201312	2,800	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1485	海洋性レクリエーション施設：計画とデザイン・クルーズ観光からダイビングスポット	畔柳昭雄：齋藤浩行	技報堂出版	201712	3,400	1	専門
1486	インバウンドでチャンスをつかめ：中小企業における訪日外国人受け入れの現状と課題	日本政策金融公庫総合研究所	経団連出版	201806	1,800	1	専門
1487	観光計画論：理論と実践．1	梅川智也	原書房	201803	2,800	1	専門
1488	長野〈東北信〉は観光で輝く	岩切正介	原書房	201406	1,600	1	専門
1489	ときめきの観光学：観光地の復権と地域活性化のために	澤渡貞男	言視舎	201304	2,300	1	専門
1490	観光MICE：集いツーリズム入門	田部井正次郎	古今書院	201712	2,500	1	専門
1491	都市観光：まちの観光	須田寛	交通新聞社	201504	1,500	1	専門
1492	インバウンド観光入門：世界が訪れたくなる日本をつくるための政策・ビジネス	矢ケ崎紀子	晃洋書房	201711	2,200	1	専門
1493	サステナブルツーリズム：地球の持続可能性の視点から	藤稿亜矢子	晃洋書房	201806	2,200	1	専門
1494	田舎の力が未来をつくる！：ヒト・カネ・コトが持続するローカルからの変革	金丸弘美	合同出版	201711	1,600	1	専門
1495	福祉国家の観光開発：北欧の新産業戦略と日本	薮長千乃：藤本祐司	彩流社	201807	2,400	1	専門
1496	反楽園観光論：バリと沖縄の島嶼をめぐるメモワール	吉田竹也	樹林舎(発売：人間社)	201307	1,600	1	専門
1497	はじめての観光魅力学	山口一美	創成社	201111	2,300	1	専門
1498	地域観光事業のススメ方：観光立国実現に向けた処方箋	井門隆夫	大学教育出版	201712	2,200	1	専門
1499	遺跡と観光	澤村明	同成社	201105	1,600	1	専門
1500	基礎から学ぶ観光プランニング	小塩稲之：安田亘宏	日本販路コーディネータ協会出版局(発売：JRC)	201510	2,500	1	専門
1501	観光地のアメニティ：何が観光客を引きつけるか	田村正紀：大津正和	白桃書房	201207	3,500	1	専門
1502	グリーンライフ・ツーリズムへの創造：ニューツーリズムと着地型ツーリズム	多方一成	芙蓉書房出版	201303	1,900	1	専門
1503	地域活性化のための観光みやげマーケティング：熊本のケーススタディ	荒木長照：辻本法子	大阪公立大学共同出版会	201701	1,800	1	専門
1504	JALパック「いい旅、あたらしい旅。」の創造者たち	ジャルパック	ダイヤモンド・ビジネス企画(発売：ダイヤモンド社)	201401	1,500	1	専門
1505	観光ガイド事業入門：立ち上げ、経営から「まちづくり」まで	藤崎達也	学芸出版社（京都）	201203	1,800	1	専門
1506	旅行会社物語	安田亘宏：中村忠司	教育評論社	201806	1,600	1	専門
1507	海外パッケージ旅行発展史：ときめきの観光学・海外旅行史編	澤渡貞男	言視舎	201403	2,400	1	専門
1508	ステップアップ観光英語：ENGLISH　FOR　TOURISM－Inter	観光英検センター	三修社	201402	2,200	1	専門
1509	ベーシック観光英語	全国語学ビジネス観光教育協会	三修社	201402	2,000	1	専門
1510	ネット時代の旅行業：その現状と将来	丸山政行	清文社	201805	2,000	1	専門
1511	旅行業の扉：JTB100年のイノベーション	高橋一夫	碩学舎(発売：中央経済グループパブ)	201305	1,800	1	専門
1512	旅行業六法．平成25年版	観光庁	東京法令出版	201308	5,000	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1513	ツーリズム・ビジネス・マネジメント：サービス・マネジメント・アプローチ	白井義男	同友館	201010	3,200	1	専門
1514	新版旅行業概論：旅行業のゆくえ	森下晶美	同友館	201805	2,400	1	専門
1515	旅行業概論：新しい旅行業マネジメント	松園俊志：森下晶美	同友館	201210	2,400	1	専門
1516	旅行産業論	立教大学観光学部	日本交通公社	201602	2,000	1	専門
1517	職業としての観光．沖縄ツーリスト55年編	吉崎誠二	芙蓉書房出版	201311	1,900	1	専門
1518	ツアー事故はなぜ起こるのか：マス・ツーリズムの本質	吉田春生	平凡社	201404	760	1	専門
1519	旅行のトラブル相談Q＆A：基礎知識から具体的解決策まで	兵庫県弁護士会	民事法研究会	201604	2,200	1	専門
1520	まちのゲストハウス考	真野洋介：片岡八重子	学芸出版社（京都）	201703	2,000	1	専門
1521	フル・サービス型ホテル企業における女性の人的資源管理	飯嶋好彦	学文社	201110	5,500	1	専門
1522	戦略的ホテル経営：戦略的志向性と企業の成果との関係	金振晩	学文社	201304	4,500	1	専門
1523	帝国ホテルお客さまが感謝する理由	国友隆一	経済界	201207	800	1	専門
1524	ホテルビジネス論	吉田雅也	三恵社(発売：JRC)	201603	1,650	1	専門
1525	ホテル・宿泊施設計画総覧：ホテルマーケットの「今」が分かる、業界のすべてがこ．2018年版		産業タイムズ社	201805	20,000	1	専門
1526	帝国ホテルの流儀	犬丸一郎【著】	集英社	201202	700	1	専門
1527	おもてなしの経営学．実践編	東北学院大学	創成社	201211	1,600	1	専門
1528	おもてなしの経営学．理論編	東北学院大学	創成社	201211	1,600	1	専門
1529	ホテルと旅館の事業展開	徳江順一郎	創成社	201611	1,900	1	専門
1530	おごと温泉の地域革新：地場産業を蘇らせる企業家活動	岩崎勝彦	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201805	2,700	1	専門
1531	ホテル・ビジネス・ブック：EHB（Essentials of Hospita	仲谷秀一：マサコ・テイラー	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201606	1,800	1	専門
1532	ホテル・マーケティング・ブック：EHM（Essentials of Hospita	仲谷秀一：杉原淳子	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201101	2,000	1	専門
1533	事例でわかる旅館・ホテル・ゴルフ場の再生実務：法務・会計・税務	新日本有限責任監査法人：西村あさひ法律事務所	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201304	2,400	1	専門
1534	実践から学ぶ女将のおもてなし経営	姜聖淑	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201311	2,600	1	専門
1535	ホテル経営概論：トライアド・モデルでとらえるホスピタリティ産業論	徳江順一郎	同文舘出版	201305	2,500	1	専門
1536	リッツ・カールトン超一流サービスの教科書	レオナルド・インギレアリー：ミカ・ソロモン	日本経済新聞出版社	201102	1,600	1	専門
1537	最高のサービスを実現するリーダーシップ：リッツ・カールトンの流儀	エドウィン・D．フラー：小川敏子	日本経済新聞出版社	201201	1,600	1	専門
1538	グローバルオペレーターが変えるホテル経営：マネジメント契約はホテル産業に何をもたらしたか	田尾桂子	白桃書房	201612	3,000	1	専門
1539	旅館業の変遷史論考	木村吾郎	福村出版	201007	3,800	1	専門
1540	サービス産業労働生産性の革新：理論と実務　旅館・ホテルを含めた豊富な先進事例	内藤耕	旅行新聞新社	201510	1,200	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1541	温泉リゾート・スタディーズ：箱根・熱海の癒し空間とサービスワーク	武田尚子：文貞實	青弓社	201002	2,000	1	専門
1542	ウェルネスツーリズム：健康と美を求めての現代的観光	光武幸	創風社	201005	2,000	1	専門
1543	ソーシャルアートラボ：地域と社会をひらく	九州大学ソーシャルアートラボ	水曜社	201807	2,500	1	専門
1544	新居浜ー日本：〈工都〉の美術史と地方創生	新居浜市美術館	国書刊行会	201511	2,400	1	専門
1545	フィリピンのアートと国際文化交流	鈴木勉	水曜社	201205	2,800	1	専門
1546	アニメの像vs. アートプロジェクト：まちとアートの関係史	竹田直樹	公人の友社	201310	1,600	1	専門
1547	パブリックアートの展開と到達点：アートの公共性・地域文化の再生・芸術文化の未来	松尾豊	水曜社	201503	3,000	1	専門
1548	芸術経営学事始め：芸術と経営の教育基礎を結ぶ	村山にな：村山元英	文眞堂	201505	3,600	1	専門
1549	地域アート：美学／制度／日本	藤田直哉	堀之内出版	201602	2,500	1	専門
1550	巨大化する現代アートビジネス	ダニエル・グラネ：カトリーヌ・ラムール	紀伊國屋書店	201507	2,100	1	専門
1551	地域を変えるミュージアム：未来を育む場のデザイン	玉村雅敏	英治出版	201304	2,200	1	専門
1552	アルスエレクトロニカの挑戦：なぜオーストリアの地方都市で行われるアートフェステ	鷲尾和彦	学芸出版社（京都）	201705	2,000	1	専門
1553	直島から瀬戸内国際芸術祭へ：美術が地域を変えた	福武總一郎：北川フラム	現代企画室	201610	1,600	1	専門
1554	トリエンナーレはなにをめざすのか：都市型芸術祭の意義と展望	吉田隆之	水曜社	201508	2,800	1	専門
1555	地域文化財の保存・活用とコミュニティ：山梨県の擬洋風建築を中心に	森屋雅幸	岩田書院	201802	7,200	1	専門
1556	芸術文化がまちをつくる. 2	古賀弥生	九州大学出版会	201103	2,400	1	専門
1557	アーツマネジメント学：芸術の営みを支える理論と実践的展開	小暮宣雄	水曜社	201303	2,800	1	専門
1558	文化政策学入門	根木昭	水曜社	201003	2,500	1	専門
1559	アート・プロデュース概論	境新一	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201702	3,400	1	専門
1560	くらしのなかの文化・芸術・観光：カフェでくつろぎ、まちつむぎ	井口貢	法律文化社	201402	2,600	1	専門
1561	アート・プロデュースの技法	境新一	論創社	201710	2,200	1	専門
1562	パブリックアートの現在：屋外彫刻からアートプロジェクトまで	柳澤有吾	かもがわ出版	201704	1,600	1	専門
1563	ふたたび運河と暮らすまち京都・木屋町・高瀬川：第四回文化遺産防災アイデアコンペティション〈公式ガ	文化遺産防災アイデアコンペティション実行	学芸出版社（京都）	201303	1,000	1	専門
1564	自治体文化政策：まち創生の現場から	平竹耕三	学芸出版社（京都）	201603	2,800	1	専門
1565	官民協働の文化政策：人材・資金・場	松本茂章	水曜社	201105	2,800	1	専門
1566	文化芸術基本法の成立と文化政策：真の文化芸術立国に向けて	河村建夫：伊藤信太郎	水曜社	201803	2,700	1	専門
1567	文化芸術振興の基本法と条例：文化政策の法的基盤1	根木昭：佐藤良子	水曜社	201304	2,500	1	専門
1568	文化財の価値を評価する：景観・観光・まちづくり	垣内恵美子：岩本博幸	水曜社	201110	2,800	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1569	文化的景観を評価する：世界遺産富山県五箇山合掌造り集落の事例	垣内恵美子	水曜社	201211	4,200	1	専門
1570	日本遺産：時をつなぐ歴史旅　文化庁認定19ストーリー．２	日本遺産プロジェクト	東京法令出版	201711	1,800	1	専門
1571	日本遺産：時をつなぐ歴史旅　文化庁認定初18ストーリー	日本遺産プロジェクト	東京法令出版	201606	1,600	1	専門
1572	世界遺産を学ぶ：日本の文化遺産から	入間田宣夫：仲野義文	東北大学出版会	201512	2,000	1	専門
1573	ファーレ立川パブリックアートプロジェクト：基地の街をアートが変えた	北川フラム	現代企画室	201703	2,200	1	専門
1574	地域主権の国　ドイツの文化政策：人格の自由な発展と地方創生のために	藤野一夫：秋野有紀	美学出版	201709	2,700	1	専門
1575	中東欧の文化遺産への招待：ポーランド・チェコ・旧東ドイツを歩く	四方田雅史：加藤裕治	青弓社	201803	2,000	1	専門
1576	ゴッホの地図帖：ヨーロッパをめぐる旅	ニーンケ・デーネカンプ：ルネ・ファン・ブレルク	講談社	201609	2,600	1	専門
1577	学者たちが本気で考えた『ワンピース』：「芸術観光学」の冒険	平居謙	データハウス	201410	1,600	1	専門
1578	ライブパフォーマンスと地域：伝統・芸能・大衆文化	神谷浩夫：山本健太	ナカニシヤ出版	201701	2,600	1	専門
1579	浪切ホール2002－2010：いま、ここ、から考える地域のこと文化のこと		岸和田市文化財団(発売：水曜社)	201204	2,200	1	専門
1580	愛される音楽ホールのつくりかた：沖縄シュガーホールとコミュニティ	中村透	水曜社	201208	2,700	1	専門
1581	ハロルド・ヴォーゲルのエンタテインメント・ビジネス：その産業構造と経済・金融・マーケティング	ハロルドL. ヴォーゲル：助川たかね	慶応義塾大学出版会	201310	8,000	1	専門
1582	内子座：地域が支える町の劇場の100年	『内子座』編集委員会	学芸出版社（京都）	201602	2,300	1	専門
1583	公共ホールと劇場・音楽堂法：文化政策の法的基盤2	根木昭：佐藤良子	水曜社	201304	2,500	1	専門
1584	コンテンツと地域：映画・テレビ・アニメ	原真志：山本健太	ナカニシヤ出版	201512	2,600	1	専門
1585	表象の京都：日本映画史における観光都市のイメージ	須川まり	春風社	201703	3,000	1	専門
1586	アメリカ・ハードボイルド紀行：マイ・ロスト・ハイウェイ	小鷹信光	研究社	201112	2,600	1	専門
1587	デジタルが変えるアニメビジネス	増田弘道	NTT出版	201603	2,400	1	専門
1588	スポーツの経済学：2020年に向けてのビジネス戦略を考える	小林至	PHP研究所	201512	2,200	1	専門
1589	地域活性化のポリティクス：スポーツによる地域構想の現実	小林勉	中央大学出版部	201311	2,600	1	専門
1590	スポーツビジネス最強の教科書	平田竹男	東洋経済新報社	201711	4,000	1	専門
1591	スポーツで地域を拓く	木田悟：高橋義雄（スポーツ社会学）	東京大学出版会	201307	3,000	1	専門
1592	スポーツのちから：地域をかえるソーシャルイノベーションの実践	松橋崇史：金子郁容	慶応義塾大学出版会	201610	2,400	1	専門
1593	アメリカ大リーグにおけるイノベーションの系譜	福井幸男	関西学院大学出版会	201603	3,000	1	専門
1594	一から学ぶ観光英語の基礎：日本から世界へ　English　for　Touri	津田晶子	南雲堂	201401	1,900	1	専門
1595	東アジアにおける旅の表象：異文化交流の文学史	王成：小峯和明	勉誠出版	201504	2,400	1	専門
1596	定年後、京都で始めた第二の人生：小さな事起こしのすすめ	寺谷篤志	岩波書店	201605	1,400	1	専門

専門分野（和書）

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1597	旅にとり憑かれたイギリス人：トラヴェルライティングを読む	窪田憲子：木下卓	ミネルヴァ書房	201608	3,500	1	専門
1598	ピーターラビットのすべて：ビアトリクス・ポターと英国を旅する	辻丸純一：河野芳英	小学館	201609	1,600	1	専門
1599	湖水地方案内	ウィリアム・ワーズワース：小田友弥	法政大学出版局	201006	2,700	1	専門
1600	讃岐の一豪農の三百年：木谷家と村・藩・国の歴史	木谷勤	刀水書房	201407	2,000	1	専門
1601	近代日本における出産と産屋：香川県伊吹島の出部屋の存続と閉鎖	伏見裕子	勁草書房	201603	5,000	1	専門
1602	瀬戸内・小豆島：瀬戸内海の霊場リゾート	原田保：岡田好平	芙蓉書房出版	201308	1,400	1	専門
1603	美術館ができるまで：なぜ今、豊島なのか？	佐々木良	啓文社書房(発売：啓文社（新宿区）)	201805	2,300	1	専門
1604	中世港町論の射程：港町の原像下	市村高男：上野進	岩田書院	201609	5,600	1	専門
1605	瀬戸内海島旅入門：カラー版	斎藤潤	マイナビ出版	201609	1,280	1	専門
1606	地産地消の歴史地理	有薗正一郎	古今書院	201608	3,300	1	専門
1607	瀬戸の島旅岡山・香川を島はしご：わくわく度満点、備讃瀬戸全42島案内	ROOTSBOOKS	西日本出版社	201504	907	1	専門
1608	東かがわ手袋産地の変容	細川進	学文社	201201	3,400	1	専門
1609	史料にみる讃岐の近世	木原溥幸	美巧社	201010	1,800	1	専門
1610	中世讃岐と瀬戸内世界：港町の原像上	市村高男：上野進	岩田書院	200912	3,000	1	専門
1611	小豆島八十八カ所ガイド	横山拓也	朱鷺書房	200809	1,400	1	専門
1612	近世小豆島社会経済史話	川野正雄	未来社	197300	2,500	1	専門
1613	土器製塩の島・喜兵衛島製塩遺跡と古墳	近藤義郎	新泉社	200508	1,500	1	専門
1614	日本の地誌 9 中国・四国	山本正三	朝倉書店	200503	25,000	1	専門
1615	海と島のくらし：沿海諸地域の文化変化	田中宣一：小島孝夫	雄山閣	200203	15,000	1	専門
1616	街道の日本史．45　讃岐と金毘羅道	木原溥幸、和田仁	吉川弘文館	200104	2,300	1	専門
1617	日本の民家調査報告書集成．第14巻		東洋書林	199808	25,000	1	専門
1618	戦前香川の農業と漁業	辻唯之	信山社出版(発売：大学図書)	199607	5,000	1	専門
1619	地方から見た近代日本社会の形成	村山幸輝	文眞堂	199402	4,300	1	専門
1620	コンビナート新時代：IoT・水素・地域間連携	稲葉和也：平野創	化学工業日報社	201807	2,500	1	専門
1621	食文化の諸相：海藻・大衆魚・行事食の食文化とその背景	今田節子（栄養学）	雄山閣	201806	15,000	1	専門
1622	瀬戸内海流域の水環境　　里水	小野寺真一：齋藤光代	吉備人出版	201805	1,600	1	専門
1623	地域文化観光論：新たな観光学への展望	橋本和也	ナカニシヤ出版	201802	2,600	1	専門
1624	近代日本の空間編成史	中川理	思文閣出版	201704	7,800	1	専門

専門分野(和書)

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格(本体)	冊数	備考
1625	〈鞆の浦〉の歴史保存とまちづくり:環境と記憶のローカル・ポリティクス	森久聡	新曜社	201607	3,800	1	専門
1626	瀬戸内造船業の攻防史	寺岡寛	信山社出版	201208	3,500	1	専門
1627	近世瀬戸内の環境史	佐竹昭	吉川弘文館	201203	8,500	1	専門
1628	近世瀬戸内「浦」社会の研究	山本秀夫	清文堂出版	201109	11,500	1	専門
1629	近世瀬戸内塩業史の研究	落合功	校倉書房	201010	9,000	1	専門
1630	瀬戸内海離島社会の変容:「産業の時間」と「むらの時間」のコンフリクト	武田尚子	御茶の水書房	201003	7,600	1	専門
1631	人の移動の民俗学:タビ〈旅〉から見る生業と故郷	松田睦彦	慶友社	201002	10,000	1	専門
1632	近世瀬戸内農村の研究	有元 正雄	渓水社	198802	8,000	1	専門
1633	近世後期瀬戸内塩業史の研究	山下恭	思文閣出版	200602	6,000	1	専門
1634	近世の経済発展と地方社会:芸備地方の都市と農村	中山富広	清文堂出版	200506	8,500	1	専門
1635	近世瀬戸内経済史研究:岡山藩・長州藩の史的分析	河田章	吉備人出版	200502	5,000	1	専門
1636	近世瀬戸内海地域の労働社会	森下徹	渓水社(広島)	200402	8,000	1	専門
1637	海と風土:瀬戸内海地域の生活と交流	地方史研究協議会	雄山閣	200210	5,600	1	専門
1638	マニラへ渡った瀬戸内漁民:移民送出母村の変容	武田尚子	御茶の水書房	200202	8,700	1	専門
1639	石鎚山(いしづちさん)と瀬戸内の宗教文化	西海賢二	岩田書院	199710	5,900	1	専門
1640	瀬戸内の町並み:港町形成の研究	谷沢明	未来社	199102	8,000	1	専門
1641	内発的発展と地域社会の可能性:徳島県木頭村の開発と住民自治	丸山博(環境社会学)	法律文化社	200610	3,600	1	専門
1642	人口減少化における地域経済の再生:京都・滋賀・徳島に見る取り組み	松岡憲司	新評論	201603	2,800	1	専門
1643	藍住町史	藍住町史編集委員会	臨川書店	198711	13,000	1	専門
1644	「地域力」で立ち向かう人口減少社会:小さな自治体の地域再生策	熊谷文枝	ミネルヴァ書房	201806	4,000	1	専門
1645	コモンズ訴訟と環境保全:入会裁判の現場から	中尾英俊:江淵武彦	法律文化社	201512	6,900	1	専門
1646	山・川・海の流域社会学:「山」の荒廃問題から「流域」の環境保全へ	大野晃	文理閣	201506	3,600	1	専門
1647	6次産業化と中山間地域:日本の未来を先取る高知地域産業の挑戦	関満博	新評論	201405	5,500	1	専門
1648	コモンズ研究のフロンティア:山野海川の共的世界	三俣学:森元早苗	東京大学出版会	200803	5,800	1	専門
1649	石垣が語る風土と文化:屋敷囲いとしての石垣	漆原和子	古今書院	200803	3,600	1	専門
1650	集落限界化を超えて:集落再生へ高知から発信	玉里恵美子	ふくろう出版	200911	2,095	1	専門
1651	地域おこし協力隊:日本を元気にする60人の挑戦	椎川忍:小田切徳美	学芸出版社(京都)	201509	1,800	1	専門
1652	集落営農:農山村の未来を拓く	関満博:松永桂子	新評論	201201	2,500	1	専門

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1653	農産物直売所：それは地域との「出会いの場」	関満博：松永桂子	新評論	201002	2,500	1	専門
1654	愛媛発・農林漁業と地域の再生	村田武	筑波書房	201408	3,000	1	専門
1655	有機農業運動と〈提携〉のネットワーク	桝潟俊子	新曜社	200803	4,800	1	専門
1656	地域発・日本農業の再構築	村田武	筑波書房	200803	3,000	1	専門
1657	イワシからのことづて：段畑とイワシからのことづて下	宮本春樹	創風社出版	200603	1,000	1	専門
1658	段畑からのことづて：段畑とイワシからのことづて上	宮本春樹	創風社出版	200603	1,000	1	専門
1659	庄屋抜地事件と無役地事件：近世伊予から近代愛媛へ、土地をめぐる法と裁判	矢野達雄	創風社出版	201007	4,000	1	専門
1660	壬生の花田植：ユネスコ無形文化遺産	北広島町（広島県）：新谷尚紀	吉川弘文館	201403	3,300	1	専門
1661	興農富村の研究：近代日本の稲作をめぐる農民の営み	郡司美枝	刀水書房	201111	7,000	1	専門
1662	高畠亀太郎伝：南伊予政治経済史	川東弘	ミネルヴァ書房	200403	6,000	1	専門
1663	近世から近代における儀礼と供応食の構造：讃岐地域の庄屋文書の分析を通して	秋山照子	美巧社	201103	7,000	1	専門
1664	近世讃岐の藩財政と国産統制	木原溥幸	渓水社（広島）	200903	5,500	1	専門
1665	江戸初期の四国遍路：澄禅『四国辺路日記』の道再現	柴谷宗叔	法蔵館	201404	8,500	1	専門
1666	日本製糖技術史：1700～1900	植村正治	清文堂出版	199807	12,000	1	専門
1667	生産・流通・消費の近世史	渡辺尚志	勉誠出版	201609	8,000	1	専門
1668	自然観の民俗学：生活世界の分類と命名	安室知	慶友社	201602	10,000	1	専門
1669	ハワイに渡った海賊たち：周防大島の移民史	堀雅昭	弦書房	200708	2,200	1	専門
1670	地域再生の環境学	寺西俊一：西村幸夫	東京大学出版会	200605	3,500	1	専門
1671	観光白書．平成30年版	観光庁	日経印刷(発売：全国官報販売協同組合)	201809	1,944	1	専門
1672	交通安全白書：平成24年度交通事故の状況及び交通安全施策の現状な．平成25年版	内閣府	勝美印刷(発売：全国官報販売協同組合)	201307	2,200	1	専門
1673	交通安全白書：平成25年度交通事故の状況及び交通安全施策の現状な．平成26年版	内閣府	勝美印刷	201408	2,200	1	専門
1674	交通安全白書：平成26年度交通事故の状況及び交通安全施策の現状な．平成27年版	内閣府	勝美印刷	201506	2,300	1	専門
1675	交通安全白書．平成28年版	内閣府	勝美印刷	201607	2,400	1	専門
1676	交通安全白書．平成29年版	内閣府	勝美印刷	201707	2,400	1	専門
1677	交通安全白書．平成30年版	内閣府	勝美印刷	201807	2,400	1	専門
1678	交通政策白書．平成27年版	国土交通省	日経印刷(発売：全国官報販売協同組合)	201507	2,315	1	専門
1679	交通政策白書．平成28年版	国土交通省	勝美印刷	201607	2,500	1	専門
1680	交通政策白書．平成29年版	国土交通省	勝美印刷	201707	2,500	1	専門

専門分野(和書)

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格(本体)	冊数	備考
1681	交通政策白書. 平成30年版	国土交通省	勝美印刷	201807	2,500	1	専門
1682	国土交通白書:平成27年度年次報告. 2016	国土交通省	日経印刷(発売:全国官報販売協同組合)	201607	3,250	1	専門
1683	国土交通白書:平成28年度年次報告. 2017	国土交通省	日経印刷(発売:全国官報販売協同組合)	201708	3,250	1	専門
1684	国土交通白書:平成29年度年次報告. 2018	国土交通省	日経印刷(発売:全国官報販売協同組合)	201808	3,400	1	専門
1685	レジャー白書. 2015	日本生産性本部	日本生産性本部(発売:生産性出版)	201508	7,000	1	専門
1686	レジャー白書. 2016	日本生産性本部	日本生産性本部(発売:生産性出版)	201608	7,000	1	専門
1687	レジャー白書. 2017	日本生産性本部	日本生産性本部(発売:生産性出版)	201708	7,000	1	専門
1688	レジャー白書. 2018	日本生産性本部	日本生産性本部(発売:生産性出版)	201808	7,000	1	専門
			専門分野(和書)合計		**5,937,427**	**1689**	

No.	書名	著者名	出版社名	出版年月	価格(本体)	冊数	分野
1	Advances in Social Media for Travel, Tourism and Hospitality : New Perspectives, Practice and Cases (New Directions in Tourism Analysis)	Sigala, Marianna (EDT)/ Gretzel, Ulrike (EDT)	Routledge	201709	22,310	1	観光学、経済・社会・文化
2	Amy's Guide to Best Behavior in Japan : Do It Right and Be Polite!	Chavez, Amy/ Hazuki, Jun (ILT)	Stone Bridge Pr	201806	1,813	1	ガイドブック(日本)
3	Approaches and Methods in Event Studies (Routledge Advances in Event Research)	Pernecky, Tomas (EDT)	Routledge	201605	21,340	1	観光学、経済・社会・文化
4	Art and the Sacred Journey in Britain, 1790-1850 (Routledge Studies in Pilgrimage, Religious Travel, and Tourism)	Barush, Kathryn R.	Taylor & Francis	201606	21,340	1	歴史
5	Asian Genders in Tourism (Aspects of Tourism)	Khoo-Iattimore, Catheryn (EDT)/ Mura, Paolo (EDT)	Channel View	201610	4,840	1	観光学、経済・社会・文化
6	Asian Qualitative Research in Tourism : Ontologies, Epistemologies, Methodologies, and Methods (Perspectives on Asian Tourism)	Mura, Paolo (EDT)/ Khoo-Lattimore, Catheryn (EDT)	Springer	201801	23,658	1	観光学、経済・社会・文化
7	Assessing the Economic Impact of Tourism : A Computable General Equilibrium Modelling Approach	Meng, S./ Siriwardana, M.	Palgrave Macmillan	201612	19,433	1	観光学、経済・社会・文化
8	Basic Management Accounting for the Hospitality Industry	Chibili, Michael N.	Taylor & Francis	201610	10,670	1	観光学、経済・社会・文化
9	Bavarian Tourism and the Modern World, 1800-1950 (Publications of the German Historical Institute)	Rosenbaum, Adam T.	Cambridge Univ Pr	201602	12,608	1	歴史
10	Beachheads : War, Peace, and Tourism in Postwar Okinawa (Asia-pacific Perspectives)	Figal, Gerald	Rowman & Littlefield Pub Inc	201602	5,538	1	歴史
11	Being and Dwelling through Tourism : An Anthropological Perspective (New Directions in Tourism Analysis)	Palmer, Catherine	Routledge	201711	22,310	1	観光学、経済・社会・文化
12	Car Tourism (Economic Geography)	Cudny, Waldemar	Springer	201707	14,701	1	観光学、経済・社会・文化
13	City Mazes : Real Street Map Puzzles to Solve from Amsterdam to Vancouver (Lonely Planet)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201803	2,098	1	ガイドブック(世界)
14	City Trails - Tokyo (Lonely Planet Kids) -- Paperback	Lonely Planet Kids	Lonely Planet Global Limited	201710	1,690	1	ガイドブック(日本)
15	Commercial Nationalism and Tourism : Selling the National Story (Aspects of Tourism)	White, Leanne (EDT)	Channel View Books	201701	6,780	1	観光学、経済・社会・文化
16	Competence-Based Innovation in Hospitality and Tourism	Pechlaner, Harald (EDT)/ Innerhofer, Elisa (EDT)	Routledge	201603	20,370	1	観光学、経済・社会・文化
17	Consumer Behavior in Tourism and Hospitality Research (Advances in Culture, Tourism and Hospitality Research)	Decrop, Alain (EDT)/ Woodside, Arch G. (EDT)	Emerald	201708	16,322	1	観光学、経済・社会・文化
18	Consumer Behaviour in Tourism	Horner, Susan/ Swarbrooke, John	Routledge	201606	7,758	1	観光学、経済・社会・文化
19	Creating Experience Value in Tourism	Prebensen, Nina K. (EDT)/ Chen, Joseph S. (EDT)/ Uysal, Muzaffer (EDT)	Cab Intl	201607	7,758	1	観光学、経済・社会・文化
20	Critical Event Studies : A Guide for Critical Thinkers (Routledge Advances in Event Research Series)	Spracklen, Karl/ Lamond, Ian R.	Routledge	201606	21,340	1	観光学、経済・社会・文化
21	Cruise Ship Tourism	Dowling, Ross (EDT)/ Weeden, Clare (EDT)	Cab Intl	201703	28,130	1	観光学、経済・社会・文化
22	Cultural Tourism in Southern Africa (Tourism and Cultural Change)	Manwa, Haretsebe (EDT)/ Moswete, Naomi (EDT)/ Saarinen, Jarkko (EDT)	Channel View Books	201601	5,810	1	観光学、経済・社会・文化
23	Cultureshock! Japan : A Survival Guide to Customs and Etiquette (Cultureshock! Guides)	Ong, Raina	Marshall Cavendish Intl	201710	2,442	1	ガイドブック(日本)
24	Cultureshock! Singapore : A Survival Guide to Customs and Etiquette (Cultureshock! Guides)	Jackson-Nash, Kelly	Marshall Cavendish Intl	201712	2,442	1	ガイドブック(世界)
25	Dark Tourism : Practice and interpretation (New Directions in Tourism Analysis)	Hooper, Glenn (EDT)/ Lennon, John J. (EDT)	Routledge	201608	21,340	1	観光学、経済・社会・文化
26	Designing Mobility and Transport Services : Developing Traveller Experience Tools	Tovey, Mike (EDT)/ Woodcock, Andree (EDT)/ Osmond, Jane (EDT)	Routledge	201611	21,340	1	観光学、経済・社会・文化
27	Dk Eyewitness 2018 Italy (Dk Eyewitness Travel Guides Italy)	Dorling Kindersley, Inc. (COR)	Dk Pub	201711	4,200	1	ガイドブック(世界)
28	Dk Eyewitness 2018 London (Dk Eyewitness Travel Guides London)	Leapman, Michael (CON)	Dk Pub	201711	3,078	1	ガイドブック(世界)
29	Dk Eyewitness 2018 New York City (Dk Eyewitness Travel Guides New York City)	Dailey, Donna (EDT)/ Dupont, Ellen (EDT)/ Labi, Esther (EDT)/ Berman,	Dk Pub	201711	2,798	1	ガイドブック(世界)
30	Dk Eyewitness 2018 Paris (Dk Eyewitness Travel Guides Paris)	Tillier, Alan	Dk Pub	201711	2,798	1	ガイドブック(世界)

No.	書名	著者名	出版社名	出版年月	価格(本体)	冊数	分野
31	Dk Eyewitness 2018 Rome (Dk Eyewitness Travel Guides Rome)	McDonald, Ferdie (EDT)/ Ronan, Mark (EDT)/ Streiffert, Anna (EDT)/ Erc	Dk Pub	201711	3,500	1	ガイドブック(世界)
32	DK Eyewitness Australia (Dk Eyewitness Travel Guides Australia)	Bowen, Jan/ Duffy, Helen/ Kloeden, Paul/ le Plaistrier, Jacinta/ Neale	Dk Pub	201801	4,200	1	ガイドブック(世界)
33	Dk Eyewitness Austria (Dk Eyewitness Travel Guides Austria)	Czerniewicz-Umer, Teresa (CON)/ Egert-Romanowska, Joanna (CON)/ Kumani	Dk Pub	201803	3,500	1	ガイドブック(世界)
34	Dk Eyewitness Berlin (Dk Eyewitness Travel Guides Berlin)	Dorling Kindersley, Inc. (COR)/ Omilanowska, Malgorzata (CON)	Dk Pub	201711	3,500	1	ガイドブック(世界)
35	DK Eyewitness Brazil (Dk Eyewitness Travel Guides Brazil)	Bhanot, Arundhti (EDT)/ Jaishankar, Nandita (EDT)/ Mohindra, Vandana (	Dk Pub	201801	4,200	1	ガイドブック(世界)
36	Dk Eyewitness Brussels, Bruges, Ghent & Antwerp (Dk Eyewitness Travel Guides Brussels, Bruges, Ghent & Antwerp)	Dorling Kindersley, Inc. (COR)	Dk Pub	201707	2,800	1	ガイドブック(世界)
37	DK Eyewitness California (Dk Eyewitness Travel Guides California)	Begley, Slaney (EDT)/ Leveque, Joanne (EDT)/ Ross, Zoe (EDT)	Dk Pub	201805	4,200	1	ガイドブック(世界)
38	DK Eyewitness Canada (Dk Eyewitness Travel Guides Canada)	Dorling Kindersley, Inc. (COR)	Dk Pub	201804	3,500	1	ガイドブック(世界)
39	DK Eyewitness Chile & Easter Island (Dk Eyewitness Travel Guides Chile & Easter Island)	Dorling Kindersley, Inc. (COR)	Dk Pub	201802	3,500	1	ガイドブック(世界)
40	DK Eyewitness China (Dk Eyewitness Travel Guides. China)	Dorling Kindersley, Inc. (COR)	Dk Pub	201806	4,200	1	ガイドブック(世界)
41	DK Eyewitness Family Guide France (Dk Eyewitness Travel Family Guide France)	Dorling Kindersley, Inc. (COR)	Dk Pub	201805	3,500	1	ガイドブック(世界)
42	DK Eyewitness Family Guide Italy (Dk Eyewitness Travel Family Guide Italy)	Dorling Kindersley, Inc. (COR)	Dk Pub	201805	3,500	1	ガイドブック(世界)
43	Dk Eyewitness Family Guide London (Dk Eyewitness Travel Family Guide London)	Dorling Kindersley, Inc. (COR)	Dk Pub	201802	3,500	1	ガイドブック(世界)
44	Dk Eyewitness Family Guide New York (Dk Eyewitness Travel Family Guide New York City)	Dorling Kindersley Limited (COR)	Dk Pub	201803	3,500	1	ガイドブック(世界)
45	DK Eyewitness Family Guide Paris (Dk Eyewitness Travel Family Guide Paris)	Dorling Kindersley Limited (COR)	Dk Pub	201804	3,500	1	ガイドブック(世界)
46	Dk Eyewitness France (Dk Eyewitness Travel Guides France)	Dorling Kindersley, Inc. (COR)	Dk Pub	201804	4,200	1	ガイドブック(世界)
47	Dk Eyewitness Germany (Dk Eyewitness Travel Guides Germany)	Dorling Kindersley, Inc. (COR)/ Egert-Romanowska, Joanna (CON)/ Omilan	Dk Pub	201804	4,200	1	ガイドブック(世界)
48	Dk Eyewitness Great Britain (Dk Eyewitness Travel Guides Great Britain)	DK Eyewitness Travel (COR)/ Leapman, Michael (CON)	Dk Pub	201803	4,200	1	ガイドブック(世界)
49	Dk Eyewitness Hawaii (Dk Eyewitness Travel Guides Hawaii)	Dorling Kindersley, Inc. (COR)	Dk Pub	201711	3,220	1	ガイドブック(世界)
50	Dk Eyewitness India (Dk Eyewitness Travel Guides India)	Dorling Kindersley, Inc. (COR)	Dk Pub	201710	4,200	1	ガイドブック(世界)
51	Dk Eyewitness Las Vegas (Dk Eyewitness Travel Guides Las Vegas)	Dorling Kindersley, Inc. (COR)/ Stratton, David (CON)	Dk Pub	201708	3,220	1	ガイドブック(世界)
52	DK Eyewitness Munich & the Bavarian Alps (Dk Eyewitness Travel Guides Munich and the Bavarian Alps)	Dorling Kindersley, Inc. (COR)	Dk Pub	201804	3,500	1	ガイドブック(世界)
53	Dk Eyewitness New Zealand (Dk Eyewitness Travel Guides New Zealand)	Millet, Didier (EDT)/ Lumpur, Kuala (EDT)/ Auger, Timothy (CON)/ Buerg	Dk Pub	201807	3,500	1	ガイドブック(世界)
54	Dk Eyewitness Norway (Dk Eyewitness Travel Guides Norway)	Dorling Kindersley, Inc. (COR)/ Evensberget, Snorre (CON)	Dk Pub	201806	3,500	1	ガイドブック(世界)
55	Dk Eyewitness San Francisco (Dk Eyewitness Travel Guides)	Bourne, Jo (EDT)/ Hoare, Irena (EDT)/ Labi, Esther (EDT)/ Lodge, Molly	Dk Pub	201803	3,500	1	ガイドブック(世界)
56	Dk Eyewitness Tunisia (Dk Eyewitness Travel Guides. Tunisia)	Dorling Kindersley, Inc. (COR)	Dk Pub	201804	3,500	1	ガイドブック(世界)
57	Ecotourism in Sub-Saharan Africa : Thirty Years of Practice	Backman, Kenneth F. (EDT)/ Munanura, Ian E. (EDT)	Routledge	201706	20,370	1	観光学、経済・社会・文化
58	Environment and Tourism (Routledge Introductions to Environment: Environment and Society Texts)	Holden, Andrew	Routledge	201604	6,594	1	観光学、経済・社会・文化
59	Europe by Eurail 2018 : Touring Europe by Train (Europe by Eurail)	Ferguson-Kosinski, Laverne/ Price, C. Darren (EDT)	Globe Pequot Pr	201711	3,213	1	ガイドブック(世界)
60	Event Management in Sport, Recreation and Tourism : Theoretical and Practical Dimensions	Mallen, Cheryl (EDT)/ Adams, Lorne J. (EDT)	Routledge	201701	7,370	1	観光学、経済・社会・文化

No.	書名	著者名	出版社名	出版年月	価格(本体)	冊数	分野
61	Event Studies : Theory, Research and Policy for Planned Events (Events Management)	Getz, Donald/ Page, Stephen J.	Routledge	201602	7,564	1	観光学、経済・社会・文化
62	Events Management : An International Approach	Kitchin, Paul James	Sage	201611	7,758	1	観光学、経済・社会・文化
63	Events Management : Principles & Practice	Raj, Razaq/ Walters, Paul/ Rashid, Tahir	Sage Pubns Ltd	201711	7,370	1	観光学、経済・社会・文化
64	Exploring Kyoto : On Foot in the Ancient Capital	Clancy, Judith	Stone Bridge Pr	201804	2,653	1	ガイドブック(日本)
65	Exploring the Use and Impact of Travel Guidebooks (Tourism and Cultural Change)	Peel, Victoria/ Sorensen, Anders	Channel View	201602	6,780	1	観光学、経済・社会・文化
66	Fans and Fan Cultures : Tourism, Consumerism and Social Media	Linden, H./ Linden, S.	Palgrave Macmillan	201702	18,588	1	観光学、経済・社会・文化
67	Film Tourism in Asia : Evolution, Transformation, and Trajectory (Perspectives on Asian Tourism)	Kim, Sangkyun (EDT)/ Reijnders, Stijn (EDT)	Springer	201710	19,433	1	観光学、経済・社会・文化
68	Film-Induced Tourism (Aspects of Tourism)	Beeton, Sue	Channel View Books	201610	6,780	1	観光学、経済・社会・文化
69	Food and Agricultural Tourism : Theory and Best Practice	Slocum, Susan L./ Curtis, Kynda R.	Routledge	201710	6,594	1	観光学、経済・社会・文化
70	Food and Drink Tourism : Principles and Practice	Everett, Sally	Sage	201604	5,818	1	観光学、経済・社会・文化
71	Food and Wine Tourism : Integrating Food, Travel and Terroir (Cabi Tourism Texts)	Croce, Erica/ Perri, Giovanni	Cab Intl	201706	7,758	1	観光学、経済・社会・文化
72	Food Tourism and Regional Development : Networks, Products and Trajectories (Routledge Studies of Gastronomy, Food and Drink)	Hall, C. Michael (EDT)/ Goessling, Stefan (EDT)	Routledge	201606	21,340	1	観光学、経済・社会・文化
73	Gastronomy, Tourism and the Media (Aspects of Tourism)	Frost, Warwick/ Laing, Jennifer/ Best, Gary/ Williams, Kim/ Strickland	Channel View	201607	5,810	1	観光学、経済・社会・文化
74	Global Climate Change and Coastal Tourism : Recognizing Problems, Managing Solutions and Future Expectations	Jones, Andrew (EDT)/ Phillips, Michael (EDT)	Cab Intl	201711	16,490	1	観光学、経済・社会・文化
75	GUIDE DU ROUTARD TOKYO-KYOTO ET ENVIRONS 2018 (LE ROUTARD)		HACHETTE	201711	2,323	1	ガイドブック(日本)
76	GUIDE MICHELIN FRANCE 2018 (G.F.)		MICHELIN	201802	3,870	1	ガイドブック(世界)
77	GUIDE VERT BRETAGNE NORD (GUIDES VERTS)		MICHELIN	201803	2,315	1	ガイドブック(世界)
78	GUIDE VERT BRETAGNE SUD (GUIDES VERTS)		MICHELIN	201803	2,315	1	ガイドブック(世界)
79	GUIDE VERT COTE D'AZUR (GUIDES VERTS)		MICHELIN	201803	2,315	1	ガイドブック(世界)
80	GUIDE VERT PARIS (GUIDES VERTS)		MICHELIN	201803	2,315	1	ガイドブック(世界)
81	GUIDE VERT PAYS DE LA LOIRE (GUIDES VERTS)		MICHELIN	201803	2,315	1	ガイドブック(世界)
82	GUIDE VERT PROVENCE (GUIDES VERTS)		MICHELIN	201803	2,315	1	ガイドブック(世界)
83	GUIDE VERT WEEK-END PARIS 2018 (GUIDES VERTS WE)		MICHELIN	201710	1,538	1	ガイドブック(世界)
84	Handbook of Teaching and Learning in Tourism	Benckendorff, Pierre (EDT)/ Zehrer, Anita (EDT)	Edward Elgar Pub	201701	42,680	1	観光学、経済・社会・文化
85	Heritage Tourism Destinations : Preservation, Communication and Development	Alvarez, Maria D. (EDT)/ Go, Frank M. (EDT)/ Yuksel, Atila (EDT)	CABI	201607	16,490	1	観光学、経済・社会・文化
86	Heritage Tourism in China : Modernity, Identity and Sustainability (Tourism and Cultural Change)	Yan, Hongliang	Channel View Books	201702	19,390	1	観光学、経済・社会・文化
87	Heritage, Screen and Literary Tourism (Aspects of Tourism)	Agarwal, Sheela/ Shaw, Gareth	Channel View Books	201711	6,780	1	観光学、経済・社会・文化
88	Hospitality Marketing	Bowie, David/ Buttle, Francis/ Brookes, Maureen/ Mariussen, Anastasia	Routledge	201611	8,146	1	観光学、経済・社会・文化
89	Human Resource Management for Tourism Ev -- Paperback	Baum, Tom	Sage Publications Ltd	201801	6,788	1	観光学、経済・社会・文化
90	Insight City Guide Tokyo (Insight City Guides Tokyo)	Insight Guides (COR)	Insight Guides	201803	3,358	1	ガイドブック(日本)

No.	書名	著者名	出版社名	出版年月	価格(本体)	冊数	分野
91	Insight Guides Experience Tokyo (Insight Experience Guides)	Insight Guides (COR)	Insight Guides	201801	2,098	1	ガイドブック(日本)
92	Insight Guides Japan (Insight Guides Japan)	Insight Guides (COR)	Insight Guides	201807	3,498	1	ガイドブック(日本)
93	International Hospitality Management	Clarke, Alan/ Chen, Wei	Routledge	201801	7,564	1	観光学、経済・社会・文化
94	Japan 100 Hidden Towns		Nellie's Publishing	201801	2,200	1	ガイドブック(日本)
95	Japan Marco Polo Pocket Guide : Free Touring App (Marco Polo Pocket Guide)		MARCO POLO UK	201800	1,678	1	ガイドブック(日本)
96	Japanese Popular Culture and Contents Tourism	Seaton, Philip (EDT)/ Yamamura, Takayoshi (EDT)	Routledge	201610	19,400	1	観光学、経済・社会・文化
97	JAPON (GUIDES BLEUS)	Hachette	HACHETTE	201711	4,337	1	ガイドブック(日本)
98	JAPON (LES GUIDES DE VOYAGE)	Bornoff, Nicholas/ Lindelauf, Perrin/ Shimizu, Ken/ Lindgreen, Elsa	PRISMA (EDITIONS)	201801	3,722	1	ガイドブック(日本)
99	JAPON. 6E EDITION. AVEC 1 PLAN DETACHABLE	Milner, Rebecca/ Bartlett, Ray/ Bender, Andrew/ McLachlan, Craig/ Collectif	LONELY PLANET	201801	5,052	1	ガイドブック(日本)
100	JAPON. EDITION 2018 (LE GUIDE VERT)	Michelin	MICHELIN	201710	4,337	1	ガイドブック(日本)
101	Journey: An Illustrated History of Travel	DK	DK	201710	4,700	1	ガイドブック(世界)
102	La Guia Michelin Spain-Portugal/ Espaa-Portugal 218 (Michelin Red Guide Espana & Portugal)	Michelin Travel Publications (COR)	Michelin Travel Pubns	201803	4,198	1	ガイドブック(世界)
103	Labyrinth Tokio - 38 Touren in und um Japans Hauptstadt : Ein Fuehrer mit 95 Bildern, 42 Karten, 300 Internetlinks und 100 Tipps	Schwab, Axel	BOOKS ON DEMAND	201800	1,631	1	ガイドブック(日本)
104	Legacies and Mega Events (Routledge Advances in Event Research)	Brittain, Ian (EDT)/ Bocarro, Jason (EDT)/ Byers, Terri (EDT)/ Swart,	Routledge	201708	21,340	1	観光学、経済・社会・文化
105	Leisure, Sport and Tourism, Politics, Policy and Planning (Cabi Tourism Texts)	Veal, A. J.	Cab Intl	201706	7,758	1	観光学、経済・社会・文化
106	Lifelong Learning for Tourism : Concepts, Policy and Implementation (Routledge Advances in Tourism)	Cuffy, Violet V. (EDT)/ Airey, David (EDT)/ Papageorgiou, Georgios C.	Taylor & Francis	201709	20,370	1	観光学、経済・社会・文化
107	Linking Urban and Rural Tourism : Strategies in Sustainability	Slocum, Susan L. (EDT)/ Kline, Carol (EDT)	Cab Intl	201707	16,490	1	観光学、経済・社会・文化
108	LONDON - THE MICHELIN GUIDE 2018 (GM VILLES)		MICHELIN	201712	2,471	1	ガイドブック(世界)
109	Lonely Planet Africa (Lonely Planet Africa)	Lonely Planet Publications/ Ham, Anthony/ Atkinson, Brett/ Bainbridge,	Lonely Planet	201711	4,898	1	ガイドブック(世界)
110	Lonely Planet Alaska (Lonely Planet Alaska)	Sainsbury, Brendan/ Bodry, Catherine/ Howard, Alexander/ Karlin, Adam	Lonely Planet	201805	3,498	1	ガイドブック(世界)
111	Lonely Planet Amsterdam (Lonely Planet Amsterdam)	Lonely Planet Publications (COR)/ Le Nevez, Catherine/ Blasi, Abigail	Lonely Planet	201805	3,078	1	ガイドブック(世界)
112	Lonely Planet Antarctica (Lonely Planet Antarctica)	Averbuck, Alexis/ Brown, Cathy	Lonely Planet	201712	4,058	1	ガイドブック(世界)
113	Lonely Planet Australia (Lonely Planet Australia)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201711	4,198	1	ガイドブック(世界)
114	Lonely Planet Bali & Lombok (Lonely Planet Bali and Lombok)	Lonely Planet Publications (COR)/ Morgan, Kate/ Ver Berkmoes, Ryan	Lonely Planet	201707	3,918	1	ガイドブック(世界)
115	Lonely Planet Bangkok (Lonely Planet Bangkok)	Bush, Austin/ Bewer, Tim/ Isalska, Anita/ Symington, Andy	Lonely Planet	201807	3,078	1	ガイドブック(世界)
116	Lonely Planet Best of Australia (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Rawlings-way, Charles/ Atkinson, Brett/ Bonetto, Cristi	Lonely Planet Global Limited	201711	3,194	1	ガイドブック(世界)
117	Lonely Planet Best of Barcelona 2018 (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Symington, Andy/ Quintero, Josephine	Lonely Planet Global Limited	201709	2,630	1	ガイドブック(世界)
118	Lonely Planet Best of California (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Cavalieri, Nate/ Atkinson, Brett/ Bender, Andrew/ Benso	Lonely Planet Global Limited	201805	3,194	1	ガイドブック(世界)
119	Lonely Planet Best of Europe (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Richmond, Simon/ Averbuck, Alexis/ Baker, Mark/ Berry,	Lonely Planet Global Limited	201711	3,194	1	ガイドブック(世界)
120	Lonely Planet Best of Florida (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Karlin, Adam/ Armstrong, Kate/ St. Louis, Regis/ Harrel	Lonely Planet Global Limited	201805	3,194	1	ガイドブック(世界)

No.	書名	著者名	出版社名	出版年月	価格(本体)	冊数	分野
121	Lonely Planet Best of Hawaii (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet	Lonely Planet Global Limited	201711	3,194	1	ガイドブック(世界)
122	Lonely Planet Best of India (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Noble, John/ Benanav, Michael/ Blasi, Abigail/ Brown, L	Lonely Planet Global Limited	201711	3,194	1	ガイドブック(世界)
123	Lonely Planet Best of Ireland (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Wilson, Neil/ Davenport, Fionn/ Harper, Damian/ Le Neve	Lonely Planet Global Limited	201805	3,194	1	ガイドブック(世界)
124	Lonely Planet Best of Italy (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Di Duca, Marc/ Bonetto, Cristian/ Dragicevich, Peter/ G	Lonely Planet Global Limited	201805	3,194	1	ガイドブック(世界)
125	Lonely Planet Best of Japan (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Milner, Rebecca/ Bartlett, Ray/ Bender, Andrew/ Mclachl	Lonely Planet Global Limited	201711	3,194	1	ガイドブック(日本)
126	Lonely Planet Best of London 2018 (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Filou, Emilie/ Dragicevich, Peter/ Fallon, Steve/ Harpe	Lonely Planet Global Limited	201709	2,630	1	ガイドブック(世界)
127	Lonely Planet Best of New York City 2018 (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet	Lonely Planet Global Limited	201709	2,630	1	ガイドブック(世界)
128	Lonely Planet Best of Paris 2018 (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Le Nevez, Catherine	Lonely Planet Global Limited	201709	2,630	1	ガイドブック(世界)
129	Lonely Planet Best of Rome 2018 (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Garwood, Duncan	Lonely Planet Global Limited	201709	2,630	1	ガイドブック(世界)
130	Lonely Planet Best of Tokyo 2018 (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Milner, Rebecca/ Richmond, Simon	Lonely Planet Global Limited	201709	2,630	1	ガイドブック(日本)
131	Lonely Planet Best of USA (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Zimmerman, Karla/ Armstrong, Kate/ Balfour, Amy C./ Bar	Lonely Planet Global Limited	201805	3,194	1	ガイドブック(世界)
132	Lonely Planet Better than Fiction : 32 True Travel Tales from Great Fiction Writers (Lonely Planet Travel Guide)	George, Don (EDT)	Lonely Planet	201711	2,098	1	ガイドブック(世界)
133	Lonely Planet Botswana & Namibia (Lonely Planet Botswana and Namibia)	Ham, Anthony/ Holden, Trent	Lonely Planet	201709	4,058	1	ガイドブック(世界)
134	Lonely Planet Budapest & Hungary (Lonely Planet Budapest)	Lonely Planet Publications (COR)/ Fallon, Steve/ Kaminski, Anna	Lonely Planet	201707	3,498	1	ガイドブック(世界)
135	Lonely Planet Buenos Aires (Lonely Planet Buenos Aires)	Albiston, Isabel	Lonely Planet	201708	3,078	1	ガイドブック(世界)
136	Lonely Planet California (Lonely Planet California)	Schulte-Peevers, Andrea/ Atkinson, Brett/ Bender, Andrew/ Benson, Sara	Lonely Planet	201802	3,498	1	ガイドブック(世界)
137	Lonely Planet Caribbean Islands (Lonely Planet Caribbean Islands)	Lonely Planet Publications/ Vorhees, Mara/ Clammer, Paul/ Egerton, Ale	Lonely Planet	201711	3,778	1	ガイドブック(世界)
138	Lonely Planet Central Asia (Lonely Planet Central Asia)	Lioy, Stephen/ Kaminski, Anna/ Mayhew, Bradley/ Walker, Jenny	Lonely Planet	201806	4,898	1	ガイドブック(世界)
139	Lonely Planet Coastal California (Lonely Planet Coastal California)	Lonely Planet Publications (COR)/ Cavalieri, Nate/ Atkinson, Brett/ Be	Lonely Planet	201803	2,798	1	ガイドブック(世界)
140	Lonely Planet Coastal Queensland & the Great Barrier Reef (Lonely Planet Queensland)	Harding, Paul/ Bonetto, Cristian/ Rawlings-Way, Charles/ Sheward, Tama	Lonely Planet	201711	3,498	1	ガイドブック(世界)
141	Lonely Planet Colorado (Lonely Planet Colorado)	Lonely Planet Publications (COR)/ Walker, Benedict/ McCarthy, Carolyn/	Lonely Planet	201805	3,218	1	ガイドブック(世界)
142	Lonely Planet Cruise Ports Alaska : A Guide to Perfect Days on Shore (Lonely Planet Cruise Ports Alaska)	Sainsbury, Brendan/ Bodry, Catherine/ Karlin, Adam/ Lee, John/ Ohlsen,	Lonely Planet	201806	2,798	1	ガイドブック(世界)
143	Lonely Planet Cruise Ports Caribbean : A Guide to Perfect Days on Shore (Lonely Planet Cruise Ports Caribbean)	Kinser, Joshua/ Bartlett, Ray/ Clammer, Paul/ Egerton, Alex	Lonely Planet	201806	2,798	1	ガイドブック(世界)
144	Lonely Planet Cruise Ports Scandinavia & Northern Europe (Lonely Planet Cruise Ports Scandinavia and Northern Europe)	Symington, Andy/ Averbuck, Alexis/ Berry, Oliver/ Blasi, Abigail/ Bone	Lonely Planet	201806	2,798	1	ガイドブック(世界)
145	Lonely Planet Cuba (Lonely Planet Cuba)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201710	3,078	1	ガイドブック(世界)
146	Lonely Planet Culture Trails : 52 Perfect Weekends for Culture Lovers (Lonely Planet)	Lonely Planet Publications (COR)/ Atkinson, Brett/ Averbuck, Alexis/ B	Lonely Planet	201710	3,500	1	ガイドブック(世界)
147	Lonely Planet Cyprus (Lonely Planet Cyprus)	Bindloss, Joe/ Lee, Jessica/ Quintero, Josephine	Lonely Planet	201802	3,078	1	ガイドブック(世界)
148	Lonely Planet Denmark (Lonely Planet Denmark)	Elliott, Mark/ Bain, Carolyn/ Bonetto, Cristian	Lonely Planet	201805	3,498	1	ガイドブック(世界)
149	Lonely Planet Devon & Cornwall (Loenly Planet Devon Cornwall & Southwest England)	Berry, Oliver/ Dixon, Belinda	Lonely Planet	201801	3,078	1	ガイドブック(世界)
150	Lonely Planet Dominican Republic (Lonely Planet Dominican Republic & Haiti)	Lonely Planet Publications (COR)/ Harrell, Ashley/ Raub, Kevin	Lonely Planet	201710	3,218	1	ガイドブック(世界)

No.	書名	著者名	出版社名	出版年月	価格(本体)	冊数	分野
151	Lonely Planet Dublin (Lonely Planet Dublin)	Davenport, Fionn	Lonely Planet	201803	3,218	1	ガイドブック(世界)
152	Lonely Planet East Africa (Lonely Planet East Africa)	Ham, Anthony/ Bartlett, Ray/ Carillet, Jean-Bernard/ Butler, Stuart/ D	Lonely Planet	201807	4,898	1	ガイドブック(世界)
153	Lonely Planet East Coast Australia (Lonely Planet East Coast Australia)	Symington, Andy/ Armstrong, Kate/ Bonetto, Cristian/ Dragicevic, Peter	Lonely Planet	201711	3,498	1	ガイドブック(世界)
154	Lonely Planet Eastern Europe (Lonely Planet Eastern Europe)	Baker, Mark/ Bloom, Greg/ Di Duca, Marc/ Dragicevich, Peter/ Isalska,	Lonely Planet	201710	3,498	1	ガイドブック(世界)
155	Lonely Planet Eastern USA (Lonely Planet Eastern USA)	Walker, Benedict/ Armstrong, Kate/ Bain, Carolyn/ Balfour, Amy C./ Bal	Lonely Planet	201804	3,498	1	ガイドブック(世界)
156	Lonely Planet Egypt (Lonely Planet Egypt)	Lee, Jessica/ Sattin, Anthony	Lonely Planet	201807	3,918	1	ガイドブック(世界)
157	Lonely Planet Epic Drives of the World : Explore the Planet's Most Thrilling Road Trips (Lonely Planet)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201708	4,900	1	ガイドブック(世界)
158	Lonely Planet Ethiopia & Djibouti (Lonely Planet Ethiopia, Djibouti and Somaili)	Carillet, Jean-Bernard/ Ham, Anthony	Lonely Planet	201709	3,918	1	ガイドブック(世界)
159	Lonely Planet Europe (Lonely Planet. Europe)	Averbuck, Alexis/ Bainbridge, James/ Baker, Mark/ Berry, Oliver/ Bloom	Lonely Planet	201710	3,778	1	ガイドブック(世界)
160	Lonely Planet Europe Planning Map (Lonely Planet Planning Map)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201710	1,398	1	ガイドブック(世界)
161	Lonely Planet Experience Italy (Lonely Planet Travel Guide)	Alberts, Bonnie/ Barrell, Sarah/ Berry, Oliver/ Bing, Alison/ Blasi, A	Lonely Planet	201804	4,198	1	ガイドブック(世界)
162	Lonely Planet Experience USA (Lonely Planet Travel Guide)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201804	4,198	1	ガイドブック(世界)
163	Lonely Planet Explore the Americas (Lonely Planet)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201805	3,500	1	ガイドブック(世界)
164	Lonely Planet Finland (Lonely Planet Finland)	Vorhees, Mara/ Le Nevez, Catherine/ Maxwell, Virginia	Lonely Planet	201805	3,498	1	ガイドブック(世界)
165	Lonely Planet Florence & Tuscany (Lonely Planet Florence and Tuscany)	Williams, Nicola/ Maxwell, Virginia	Lonely Planet	201801	3,078	1	ガイドブック(世界)
166	Lonely Planet Florida & the South's Best Trips (Lonely Planet Travel Guides)	Karlin, Adam/ Armstrong, Kate/ Harrell, Ashley/ Raub, Kevin/ St Louis,	Lonely Planet	201802	3,218	1	ガイドブック(世界)
167	Lonely Planet Florida (Lonely Planet Florida)	Karlin, Adam/ Armstrong, Kate/ Harrell, Ashley/ St Louis, Regis	Lonely Planet	201801	3,498	1	ガイドブック(世界)
168	Lonely Planet Greece (Lonely Planet Greece)	Miller, Korina/ Armstrong, Kate/ Averbuck, Alexis/ Clark, Michael Stam	Lonely Planet	201803	3,498	1	ガイドブック(世界)
169	Lonely Planet Greek Islands (Lonely Planet Greek Islands)	Miller, Korina/ Averbuck, Alexis/ Kaminski, Anna/ McLachlan, Craig	Lonely Planet	201803	3,498	1	ガイドブック(世界)
170	Lonely Planet Hawai'i, the Big Island (Lonely Planet Hawaii the Big Island)	Karlin, Adam/ Bell, Loren/ Yamamoto, Luci	Lonely Planet	201709	2,798	1	ガイドブック(世界)
171	Lonely Planet Honolulu, Waikiki & Oahu (Lonely Planet Honolulu Waikiki & Oahu)	McLachlan, Craig/ Ver Berkmoes, Ryan	Lonely Planet	201709	2,798	1	ガイドブック(世界)
172	Lonely Planet How to Be a Travel Writer (Lonely Planet)	George, Don/ Eberle, Janine	Lonely Planet	201707	2,518	1	ガイドブック(世界)
173	Lonely Planet India (Lonely Planet India)	Blasi, Abigail/ Brown, Lindsay/ Mahapatra, Anirban/ Noble, Isabella/ N	Lonely Planet	201710	4,898	1	ガイドブック(世界)
174	Lonely Planet Iran (Lonely Planet Iran)	Lonely Planet Global Limited (COR)	Lonely Planet	201709	3,778	1	ガイドブック(世界)
175	Lonely Planet Ireland (Lonely Planet Ireland)	Wilson, Neil/ Albiston, Isabel/ Davenport, Fionn/ Harper, Damian/ Le N	Lonely Planet	201803	3,498	1	ガイドブック(世界)
176	Lonely Planet Israel & the Palestinian Territories (Lonely Planet Israel)	Lonely Planet Publications (COR)/ Robinson, Daniel/ Croweroft, Orlando	Lonely Planet	201807	3,498	1	ガイドブック(世界)
177	Lonely Planet Italy (Lonely Planet Italy)	Clark, Gregor/ Dragicevich, Peter/ Mcnaughtan, Hugh/ Sainsbury, Brenda	Lonely Planet	201802	3,918	1	ガイドブック(世界)
178	Lonely Planet Jamaica (Lonely Planet Jamaica)	Lonely Planet Publications (COR)/ Clammer, Paul/ Kaminski, Anna	Lonely Planet	201710	3,218	1	ガイドブック(世界)
179	Lonely Planet Japan (Lonely Planet Japan)	Milner, Rebecca/ Bartlett, Ray/ Bender, Andrew/ McLachlan, Craig/ Morg	Lonely Planet	201708	4,198	1	ガイドブック(日本)
180	Lonely Planet Japan Planning Map (Map)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201807	1,118	1	ガイドブック(日本)

No.	書名	著者名	出版社名	出版年月	価格(本体)	冊数	分野
181	Lonely Planet Jordan (Lonely Planet Jordan)	Walker, Jenny/ Clammer, Paul	Lonely Planet	201807	3,498	1	ガイドブック(世界)
182	Lonely Planet Kaua'i (Lonely Planet Kauai)	Karlin, Adam/ Benchwick, Greg/ Skolnick, Adam	Lonely Planet	201709	2,798	1	ガイドブック(世界)
183	Lonely Planet Kenya (Lonely Planet Kenya)	Ham, Anthony/ Duthie, Shawn/ Kaminski, Anna	Lonely Planet	201806	3,918	1	ガイドブック(世界)
184	Lonely Planet Kyoto City Map (Lonely Planet City Map)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201709	1,118	1	ガイドブック(日本)
185	Lonely Planet London (Lonely Planet London)	Harper, Damian (COL)/ Dragicevich, Peter/ Fallon, Steve/ Filou, Emilie	Lonely Planet	201802	3,078	1	ガイドブック(世界)
186	Lonely Planet Los Angeles, San Diego & Southern California (Lonely Planet Los Angeles & Southern California)	Schulte-Peevers, Andrea/ Bender, Andrew/ Bonetto, Cristian/ Bremner, J	Lonely Planet	201804	3,078	1	ガイドブック(世界)
187	Lonely Planet Mallorca (Lonely Planet Mallorca)	Lonely Planet Publications (COR)/ Mcnaughtan, Hugh/ Harper, Damian	Lonely Planet	201707	3,078	1	ガイドブック(世界)
188	Lonely Planet Maui (Lonely Planet Maui)	Balfour, Amy C./ Bremner, Jade/ Ver Berkmoes, Ryan	Lonely Planet	201709	2,798	1	ガイドブック(世界)
189	Lonely Planet Melbourne & Victoria (Lonely Planet Melbourne)	Lonely Planet Publications (COR)/ Morgan, Kate/ Armstrong, Kate/ Bonet	Lonely Planet	201711	3,078	1	ガイドブック(世界)
190	Lonely Planet Miami & the Keys (Lonely Planet Miami and the Keys)	St. Louis, Regis/ St Louis, Regis	Lonely Planet	201801	3,078	1	ガイドブック(世界)
191	Lonely Planet Mongolia (Lonely Planet Mongolia)	Lonely Planet Publications (COR)/ Holden, Trent/ Karlin, Adam/ Kohn, M	Lonely Planet	201807	4,198	1	ガイドブック(世界)
192	Lonely Planet Morocco (Lonely Planet Morocco)	Lee, Jessica/ Atkinson, Brett/ Clammer, Paul/ Maxwell, Virginia/ Parke	Lonely Planet	201708	3,918	1	ガイドブック(世界)
193	Lonely Planet Moscow (Lonely Planet Moscow)	Vorhees, Mara/ Ragozin, Leonid	Lonely Planet	201803	3,078	1	ガイドブック(世界)
194	Lonely Planet Myanmar (Burma) (Lonely Planet Myanmar (Burma))	Richmond, Simon/ Eimer, David/ Karlin, Adam/ Ray, Nick/ St Louis, Regi	Lonely Planet	201707	4,198	1	ガイドブック(世界)
195	Lonely Planet Nepal (Lonely Planet Nepal)	Lonely Planet Publications (COR)/ Mayhew, Bradley/ Brown, Lindsay/ Sti	Lonely Planet	201807	4,198	1	ガイドブック(世界)
196	Lonely Planet New York & the Mid-Atlantic's Best Trips : 27 Amazing Road Trips (Lonely Planet Travel Guide)	Richmond, Simon/ Balfour, Amy C./ Bartlett, Ray/ Grosberg, Michael/ Kl	Lonely Planet	201802	3,218	1	ガイドブック(世界)
197	Lonely Planet Northern California (Lonely Planet Northern California)	Smith, Helena/ Atkinson, Brett/ Benson, Sara/ Bing, Alison/ Brash, Cel	Lonely Planet	201803	2,798	1	ガイドブック(世界)
198	Lonely Planet Norway (Lonely Planet Norway)	Ham, Anthony/ Berry, Oliver/ Wheeler, Donna	Lonely Planet	201805	3,498	1	ガイドブック(世界)
199	Lonely Planet Pacific Coast Highways Road Trips (Lonely Planet Pacific Coast Highways Road Trips)	Atkinson, Brett/ Bender, Andrew/ Benson, Sara/ Bing, Alison/ Bonetto,	Lonely Planet	201802	1,818	1	ガイドブック(世界)
200	Lonely Planet Philippines (Lonely Planet Philippines)	Harding, Paul/ Bloom, Greg/ Brash, Celeste	Lonely Planet	201806	4,198	1	ガイドブック(世界)
201	Lonely Planet Pocket Kyoto & Osaka (Lonely Planet Pocket Guides)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201708	1,958	1	ガイドブック(日本)
202	Lonely Planet Pocket Tokyo (Lonely Planet Pocket Guides)	Milner, Rebecca/ Richmond, Simon	Lonely Planet	201708	1,958	1	ガイドブック(日本)
203	Lonely Planet Prague & the Czech Republic (Lonely Planet Prague)	Baker, Mark/ Wilson, Neil	Lonely Planet	201711	3,078	1	ガイドブック(世界)
204	Lonely Planet Puerto Rico (Lonely Planet Puerto Rico)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201712	3,078	1	ガイドブック(世界)
205	Lonely Planet Rajasthan, Delhi & Agra (Lonely Planet. Rajasthan Delhi & Agra)	Brown, Lindsay/ Blasi, Abigail	Lonely Planet	201710	3,778	1	ガイドブック(世界)
206	Lonely Planet Romania & Bulgaria (Lonely Planet Romania and Bulgaria)	Baker, Mark/ Fallon, Steve/ Isalska, Anita	Lonely Planet	201707	3,638	1	ガイドブック(世界)
207	Lonely Planet Rome (Lonely Planet Rome)	Garwood, Duncan/ Williams, Nicola	Lonely Planet	201801	3,078	1	ガイドブック(世界)
208	Lonely Planet Route 66 Road Trips (Lonely Planet Route 66 Road Trips)	Bender, Andrew/ Bonetto, Cristian/ Johanson, Mark/ Mcnaughtan, Hugh/ P	Lonely Planet	201802	1,818	1	ガイドブック(世界)
209	Lonely Planet Russia (Lonely Planet Russia and Belarus)	Lonely Planet Publications (COR)/ Richmond, Simon/ Bennetts, Marc/ But	Lonely Planet	201803	4,198	1	ガイドブック(世界)
210	Lonely Planet San Francisco (Lonely Planet San Francisco)	Bing, Alison/ Viahides, John A./ Benson, Sara/ Harrell, Ashley	Lonely Planet	201712	3,078	1	ガイドブック(世界)

No.	書名	著者名	出版社名	出版年月	価格(本体)	冊数	分野
211	Lonely Planet Sardinia (Lonely Planet Sardinia)	Clark, Gregor/ Christiani, Kerry/ Garwood, Duncan	Lonely Planet	201801	3,078	1	ガイドブック(世界)
212	Lonely Planet Scandinavia (Lonely Planet Scandinavian Europe)	Ham, Anthony/ Averbuck, Alexis/ Bain, Carolyn/ Berry, Oliver/ Bonetto,	Lonely Planet	201806	3,918	1	ガイドブック(世界)
213	Lonely Planet Secret Marvels of the World (Lonely Planet Travel Guide)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201708	3,498	1	ガイドブック(世界)
214	Lonely Planet Singapore (Lonely Planet Singapore)	de Jong, Ria	Lonely Planet	201802	3,358	1	ガイドブック(世界)
215	Lonely Planet South Australia & Northern Territory (Lonely Planet South Australia)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201711	3,498	1	ガイドブック(世界)
216	Lonely Planet South India & Kerala (Lonely Planet South India)	Noble, Isabella/ Raub, Kevin/ Harding, Paul/ Singh, Sarina/ Stewart, I	Lonely Planet	201710	3,918	1	ガイドブック(世界)
217	Lonely Planet Southern Africa (Lonely Planet Southern Africa)	Ham, Anthony/ Bainbridge, James/ Corne, Lucy/ Fitzpatrick, Mary/ Holde	Lonely Planet	201709	4,618	1	ガイドブック(世界)
218	Lonely Planet Southern Italy (Lonely Planet Southern Italy)	Bonetto, Cristian/ Clark, Gregor/ Mcnaughtan, Hugh	Lonely Planet	201803	3,078	1	ガイドブック(世界)
219	Lonely Planet Southwest USA (Lonely Planet Southwest)	Mcnaughtan, Hugh/ McCarthy, Carolyn/ Pitts, Christopher/ Walker, Bened	Lonely Planet	201803	3,498	1	ガイドブック(世界)
220	Lonely Planet Southwest USA's Best Trips : 32 Amazing Road Trips (Lonely Planet Travel Guides)	Mcnaughtan, Hugh/ Balfour, Amy C./ McCarthy, Carolyn/ Pitts, Christoph	Lonely Planet	201802	3,218	1	ガイドブック(世界)
221	Lonely Planet Sri Lanka (Lonely Planet Sri Lanka)	Mahapatra, Anirban/ Ver Berkmoes, Ryan/ Mayhew, Bradley/ Stewart, Iain	Lonely Planet	201801	3,498	1	ガイドブック(世界)
222	Lonely Planet St. Petersburg (Lonely Planet St. Petersburg)	Lonely Planet Publications (COR)/ St Louis, Regis/ Richmond, Simon	Lonely Planet	201803	3,078	1	ガイドブック(世界)
223	Lonely Planet Sweden (Lonely Planet Sweden)	Walker, Benedict/ McLachlan, Craig/ Ohlsen, Becky	Lonely Planet	201805	3,498	1	ガイドブック(世界)
224	Lonely Planet Switzerland (Lonely Planet Switzerland)	Clark, Gregor/ Christiani, Kerry/ McLachlan, Craig/ Walker, Benedict	Lonely Planet	201806	3,498	1	ガイドブック(世界)
225	Lonely Planet Tanzania (Lonely Planet Tanzania)	Fitzpatrick, Mary/ Bartlett, Ray/ Else, David	Lonely Planet	201806	3,918	1	ガイドブック(世界)
226	Lonely Planet Texas (Lonely Planet Texas)	Balfour, Amy C./ Lioy, Stephen/ Ver Berkmoes, Ryan	Lonely Planet	201802	3,218	1	ガイドブック(世界)
227	Lonely Planet Thailand (Lonely Planet Thailand)	Lonely Planet Publications (COR)/ Isalska, Anita/ Bush, Austin/ Bewer,	Lonely Planet	201807	4,198	1	ガイドブック(世界)
228	Lonely Planet Thailand's Islands & Beaches (Lonely Planet Thailand's Island and Beaches)	Harper, Damian/ Bewer, Tim/ Bush, Austin/ Eimer, David/ Symington, And	Lonely Planet	201807	3,498	1	ガイドブック(世界)
229	Lonely Planet the Cities Book : A Journey through the Best Cities in the World (Lonely Planet Travel Guide)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201710	7,000	1	ガイドブック(世界)
230	Lonely Planet the Italian Lakes (Lonely Planet Travel Guides)	Hardy, Paula/ Di Duca, Marc/ St Louis, Regis	Lonely Planet	201801	3,078	1	ガイドブック(世界)
231	Lonely Planet the Place to Be (Lonely Planet Travel Guide)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201711	3,498	1	ガイドブック(世界)
232	Lonely Planet the Solo Travel Handbook (Lonely Planet)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201801	2,518	1	ガイドブック(世界)
233	Lonely Planet the World : A Traveller's Guide to the Planet (Lonely Planet Travel Guide)	Lonely Planet Publications (COR)/ Naghten, Catherine (EDT)/ Whitney, T	Lonely Planet	201710	4,198	1	ガイドブック(世界)
234	Lonely Planet the World Planning Map (Lonely Planet Travel Map)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201710	1,398	1	ガイドブック(世界)
235	Lonely Planet Tokyo (Lonely Planet Tokyo)	Milner, Rebecca/ Richmond, Simon	Lonely Planet	201708	3,078	1	ガイドブック(日本)
236	Lonely Planet Trans-Siberian Railway (Lonely Planet Trans-siberian Railway)	Lonely Planet Publications (COR)/ Richmond, Simon/ Butler, Stuart/ Hol	Lonely Planet	201804	3,498	1	ガイドブック(世界)
237	Lonely Planet Ukraine (Lonely Planet Ukraine)	Di Duca, Marc/ Bloom, Greg/ Ragozin, Leonid	Lonely Planet	201807	3,918	1	ガイドブック(世界)
238	Lonely Planet USA (Lonely Planet USA)	Walker, Benedict/ Armstrong, Kate/ Atkinson, Brett/ Bain, Carolyn/ Bal	Lonely Planet	201804	4,198	1	ガイドブック(世界)
239	Lonely Planet Usa's Best Trips : 51 Amazing Road Trips (Lonely Planet Usa's Best Trips)	Richmond, Simon/ Armstrong, Kate/ Bain, Carolyn/ Balfour, Amy C./ Bart	Lonely Planet	201803	3,498	1	ガイドブック(世界)
240	Lonely Planet Venice & the Veneto (Lonely Planet Venice)	Hardy, Paula/ Dragicevich, Peter/ Di Duca, Marc	Lonely Planet	201801	3,078	1	ガイドブック(世界)

No.	書名	著者名	出版社名	出版年月	価格(本体)	冊数	分野
241	Lonely Planet Vietnam, Cambodia, Laos & Northern Thailand (Lonely Planet Vietnam, Cambodia, Laos & the Greater Mekong)	Tang, Phillip/ Bewer, Tim/ Bloom, Greg/ Bush, Austin/ Ray, Nick	Lonely Planet	201708	3,918	1	ガイドブック(世界)
242	Lonely Planet Volunteer : A Traveller's Guide to Making a Difference around the World (Lonely Planet Volunteer a Travellers Guide)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201707	2,518	1	ガイドブック(世界)
243	Lonely Planet West Africa (Lonely Planet West Africa)	Ham, Anthony/ Butler, Stuart/ Grosberg, Michael/ Luckham, Nana/ Maric,	Lonely Planet	201709	4,618	1	ガイドブック(世界)
244	Lonely Planet West Coast Australia (Lonely Planet Perth and West Coast Australia)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201711	3,498	1	ガイドブック(世界)
245	Lonely Planet Western Europe (Lonely Planet Western Europe)	Berry, Oliver/ Clark, Gregor/ Di Duca, Marc/ Garwood, Duncan	Lonely Planet	201710	3,498	1	ガイドブック(世界)
246	Lonely Planet Western USA (Lonely Planet Western USA)	Mcnaughtan, Hugh/ Atkinson, Brett/ Bell, Loren/ Benchwick, Greg/ Bende	Lonely Planet	201804	3,498	1	ガイドブック(世界)
247	Lonely Planet Zambia, Mozambique & Malawi (Lonely Planet Zambia)	Fitzpatrick, Mary/ Bainbridge, James/ Holden, Trent/ Sainsbury, Brenda	Lonely Planet	201709	3,778	1	ガイドブック(世界)
248	Lonely Planet's Best in Travel 2018 (Lonely Planet) -- Paperback	Lonely Planet	Lonely Planet Global Limited	201710	1,878	1	ガイドブック(世界)
249	Managing Outdoor Recreation : Case Studies in the National Parks	Manning, Robert E./ Anderson, Laura E./ Pettengill, Peter R.	Cab Intl	201703	7,758	1	観光学、経済・社会・文化
250	Managing Sport Mega-Events	Frawley, Stephen (EDT)	Routledge	201606	6,400	1	観光学、経済・社会・文化
251	Managing Sustainable Tourism : A Legacy for the Future	Edgell, David L., Sr.	Routledge	201603	7,758	1	観光学、経済・社会・文化
252	Marketing for Tourism, Hospitality & Events : A Global & Digital Approach	Hudson, Simon/ Hudson, Louise	Sage Pubns Ltd	201708	8,728	1	観光学、経済・社会・文化
253	Marketing National Parks for Sustainable Tourism (Aspects of Tourism)	Wearing, Stephen L./ Schweinsberg, Stephen/ Tower, John	Channel View	201602	5,810	1	観光学、経済・社会・文化
254	Marketing Rural Tourism : Experience and Enterprise	Saxena, Gunjan	Edward Elgar Pub	201611	13,580	1	観光学、経済・社会・文化
255	Mass Tourism in a Small World	Harrison, David/ Sharpley, Richard	Cab Intl	201707	16,490	1	観光学、経済・社会・文化
256	Michelin Green Guide Japan (Michelin Green Guide Japan)	Michelin Travel Publications (COR)	Michelin Travel Pubns	201803	3,358	1	ガイドブック(日本)
257	Michelin Green Guide London (Michelin Green Guide London)	Michelin Travel Publications (COR)	Michelin Travel Pubns	201708	2,798	1	ガイドブック(世界)
258	Michelin Red Guide 2018 Deutschland (Michelin Red Guide Deutschland)	Michelin Travel Publications (COR)	Michelin Travel Pubns	201803	4,198	1	ガイドブック(世界)
259	Michelin Red Guide 2018 Great Britain & Ireland (Michelin Red Guide Great Britain & Ireland)	Michelin Travel Publications (COR)	Michelin Travel Pubns	201712	3,918	1	ガイドブック(世界)
260	Michelin Red Guide 2018 Hong Kong & Macau : Restaurants & Hotels (Michelin Red Guide Hong Kong & Macau)	Michelin Travel Publications (COR)	Michelin Travel Pubns	201803	2,798	1	ガイドブック(世界)
261	Michelin Red Guide 2018 Italia / Michelin Red Guide 2018 Italy (Michelin Red Guide Italia)	Michelin Travel Publications (COR)	Michelin Travel Pubns	201803	4,198	1	ガイドブック(世界)
262	Michelin Red Guide 2018 Main Cities of Europe (Michelin Red Guide Europe Main Cities)	Michelin Travel Publications (COR)	Michelin Travel Pubns	201806	3,382	1	ガイドブック(世界)
263	Michelin Red Guide 2018 New York City (Michelin Red Guide New York City)	Michelin Travel Publications (COR)	Michelin Travel Pubns	201711	2,658	1	ガイドブック(世界)
264	Michelin Red Guide 2018 San Francisco : Bay Area & Wine Country (Michelin Red Guide San Francisco)	Michelin Travel Publications (COR)	Michelin Travel Pubns	201710	2,658	1	ガイドブック(世界)
265	Mountain Tourism : Experiences, Communities, Environments and Sustainable Futures	Richins, Harold (EDT)/ Hull, John S. (EDT)	Cab Intl	201603	16,490	1	観光学、経済・社会・文化
266	NATIONAL GEOGRAPHIC Reisehandbuch Japan : Mit Maxi-Faltkarte (National Geographic Reisehandbuch)	Bornoff, Nicholas/ Lindelauf, Perrin	NG BUCHVERLAG	201800	4,590	1	ガイドブック(日本)
267	Nederland Netherlands - the Michelin Guide 2018 (Michelin Hotel & Restaurant Guides) -- Paperback		Michelin Travel Publications	201801	3,194	1	ガイドブック(世界)
268	Neoliberalism and the Political Economy of Tourism (Current Developments in the Geographies of Leisure and Tourism)	Mosedale, Jan (EDT)	Routledge	201603	21,340	1	観光学、経済・社会・文化
269	Older Tourist Behavior and Marketing Tools (Tourism, Hospitality and Event Management)	Vigolo, Vania	Springer	201705	19,433	1	観光学、経済・社会・文化
270	Open Tourism : Open Innovation, Crowdsourcing and Collaborative Consumption Challenging the Tourism Industry	Egger, R./ Gula, I./ Walcher, D.	Springer	201603	21,968	1	観光学、経済・社会・文化

No.	書名	著者名	出版社名	出版年月	価格(本体)	冊数	分野
271	Opportunities and Challenges for Tourism and Hospitality in the Bric Nations (Advances in Hospitality, Tourism, and the Services Industry)	Dhiman, Mohinder Chand (EDT)	Business Science Reference	201609	29,110	1	観光学、経済・社会・文化
272	PARIS ET SES ENVIRONS - LE GUIDE MICHELIN 2018 (GM VILLES)		MICHELIN	201802	2,471	1	ガイドブック(世界)
273	Pilgrimage and Tourism to Holy Cities : Ideological and Management Perspectives (Cabi Religious Tourism and Pilgrimage Series)	Leppakari, Maria (EDT)/ Griffin, Kevin A. (EDT)	Cab Intl	201701	16,490	1	観光学、経済・社会・文化
274	Planning Research in Hospitality and Tourism	Altinay, Levent/ Paraskevas, Alexandros/ Jang, Soocheong	Routledge	201601	20,370	1	観光学、経済・社会・文化
275	Political Ecology and Tourism (Routledge Studies in Political Ecology)	Nepal, Sanjay (EDT)/ Saarinen, Jarkko (EDT)	Routledge	201603	17,460	1	観光学、経済・社会・文化
276	Practical Tourism Research (CABI Tourism Texts)	Smith, Stephen L. J.	CABI	201701	7,758	1	観光学、経済・社会・文化
277	Qualitative Methods in Tourism Research : Theory and Practice (Aspects of Tourism)	Hillman, Wendy (EDT)/ Radel, Del Kylie (EDT)	Channel View Books	201801	6,780	1	観光学、経済・社会・文化
278	Quantitative Methods in Tourism : A Handbook (Aspects of Tourism)	Baggio, Rodolfo/ Klobas, Jane	Channel View Books	201707	6,780	1	観光学、経済・社会・文化
279	Reinventing the Local in Tourism : Producing, Consuming and Negotiating Place (Aspects of Tourism)	Russo, Antonio Paolo (EDT)/ Richards, Greg (EDT)	Channel View	201605	6,780	1	観光学、経済・社会・文化
280	Research Methods for Leisure, Recreation and Tourism (Cabi Tourism Texts)	Sirakaya-turk, Ercan (EDT)/ Uysal, Muzaffer S. (EDT)/ Hammitt, William	Cab Intl	201706	7,758	1	観光学、経済・社会・文化
281	Research Methods for Tourism Students	Durbarry, Ramesh	Taylor & Francis	201712	6,400	1	観光学、経済・社会・文化
282	Research Methods in Tourism, Hospitality & Events Management	Brunt, Paul/ Horner, Susan/ Semley, Natalie	Sage Pubns Ltd	201711	7,758	1	観光学、経済・社会・文化
283	Research Themes for Tourism	Robinson, Peter (EDT)/ Heitmann, Sue (EDT)/ Dieke, Peter, Dr. (EDT)	Cab Intl	201604	7,758	1	観光学、経済・社会・文化
284	Responsible Tourism : Concepts, Theory and Practice	Leslie, David (EDT)	Cab Intl	201604	6,790	1	観光学、経済・社会・文化
285	Risk and Hazard Management for Festivals and Events	Wynn-moylan, Peter	Routledge	201709	6,982	1	観光学、経済・社会・文化
286	Routledge International Handbook of Outdoor Studies (Routledge International Handbooks)	Humberstone, Barbara (EDT)/ Prince, Heather (EDT)/ Henderson, Karla A.	Routledge	201601	33,950	1	観光学、経済・社会・文化
287	Rural Tourism and Enterprise : Management, Marketing and Sustainability (Cabi Tourism Texts)	Oriade, Ade (EDT)/ Robinson, Peter (EDT)	Cab Intl	201706	7,758	1	観光学、経済・社会・文化
288	Scotland and Tourism : The Long View, 1700-2015 (Routledge Advances in Tourism)	Durie, Alastair J.	Routledge	201702	21,340	1	観光学、経済・社会・文化
289	Social Conflict and Harmony : Tourism in China's Multi-Ethnic Communities (Tourism Social Science)	Yang, Jingjing (EDT)/ Ryan, Chris (EDT)/ Zhang, Lingyun (EDT)	Emerald Group Pub Ltd	201606	20,162	1	観光学、経済・社会・文化
290	Super Cheap Japan: Budget Travel in Tokyo, Kyoto, Osaka, Nara, Hiroshima and Surrounding Areas	Baxter, Matthew/ Lira, Luis(ILL)/ Root, Miles(PHT)	Super Cheap Japan	201709	1,818	1	ガイドブック(日本)
291	Sustainability in the Hospitality Industry : Principles of sustainable operations	Legrand, Willy/ Sloan, Philip/ Chen, Joseph S.	Routledge	201612	8,534	1	観光学、経済・社会・文化
292	Sustainable Ecotourism in Central America : Comparative Advantage in a Globalized World	Miller, Andrew P.	Lexington Books	201609	11,360	1	観光学、経済・社会・文化
293	Sustainable Event Management : A Practical Guide	Jones, meegan	Routledge	201712	8,728	1	観光学、経済・社会・文化
294	Sustainable Island Tourism : Competitiveness and Quality of Life (Cabi Series in Tourism Management Research)	Modica, Patrizia (EDT)/ Uysal, Muzaffer (EDT)	Cab Intl	201704	16,490	1	観光学、経済・社会・文化
295	Sustainable Tourism on a Finite Planet : Environmental, Business and Policy Solutions	Wood, Megan Epler	Taylor & Francis	201701	6,788	1	観光学、経済・社会・文化
296	Taipei 2018 - the Michelin Guide : The Guide Michelin (Michelin Hotel & Restaurant Guides) -- Paperback		Michelin Editions des Voyages	201805	2,442	1	ガイドブック(世界)
297	Terrorism, Tourism and the End of Hospitality in the 'West'	Korstanje, Maximiliano E.	Palgrave Macmillan	201707	18,588	1	観光学、経済・社会・文化
298	The 500 Hidden Secrets of Tokyo (500 Hidden Secrets)	Tajima, Yukiko/ Ishikawa, Koji (PHT)	Uitgeverij Luster	201805	3,220	1	ガイドブック(日本)
299	The Escape Industry : How iconic and innovative brands built the travel business	Tungate, Mark	Kogan Page Ltd	201710	3,878	1	観光学、経済・社会・文化
300	The Geography of Tourism of Central and Eastern European Countries	Widawski, K. (EDT)/ Wyrzykowski, J. (EDT)	Springer	201701	25,348	1	観光学、経済・社会・文化

No.	書名	著者名	出版社名	出版年月	価格(本体)	冊数	分野
301	The Indian Hospitality Industry : Dynamics and Future Trends (Advances in Hospitality and Tourism)	Munjal, Sandeep (EDT)/ Bhushan, Sudhanshu (EDT)	Apple Academic Pr Inc	201708	18,430	1	観光学、経済・社会・文化
302	The Monocle Travel Guide Series Kyoto (The Monocle Travel Guide Series .27)	Herausgegeben von Pickard, Joe/ Brulßeacute/, Tyler/ Tuck, Andrew	DIE GESTALTEN VERLAG	201800	2,100	1	ガイドブック(日本)
303	The Palgrave Handbook of Dark Tourism Studies	Stone, Philip R. (EDT)/ Hartmann, Rudi (EDT)/ Seaton, Tony (EDT)	Palgrave Macmillan	201801	38,701	1	観光学、経済・社会・文化
304	The Practical Guide to Organising Events	Berners, Philip	Routledge	201706	6,206	1	観光学、経済・社会・文化
305	The Rough Guide to Belgium and Luxembourg (Rough Guide Belgium and Luxembourg)	Rough Guides (COR)/ Lee, Phil (EDT)/ Trott, Victoria (EDT)	Rough Guides	201803	2,818	1	ガイドブック(世界)
306	The Rough Guide to Chicago (Rough Guide Chicago)	Rough Guides (COR)	Rough Guides	201805	2,798	1	ガイドブック(世界)
307	The Rough Guide to England (Rough Guide England)	Andrews, Rob/ Cook, Samantha/ Hancock, Matthew/ Lee, Phil/ Leffman, Da	Rough Guides	201802	3,382	1	ガイドブック(世界)
308	The Rough Guide to Fiji (Rough Guides)	Osborn, Ian/ Zatko, Martin	Rough Guides	201711	3,006	1	ガイドブック(世界)
309	The Rough Guide to Germany (Rough Guide Germany)	Rough Guides (COR)/ Beattie, Andrew (EDT)/ van Marle, Jeroen (EDT)/ Wa	Rough Guides	201805	3,382	1	ガイドブック(世界)
310	The Rough Guide to Greece (Rough Guide Greece)	Edwards, Nick/ Fisher, John/ Hall, Rebecca/ Malathronas, John/ Zatko,	Rough Guides	201805	3,194	1	ガイドブック(世界)
311	The Rough Guide to Greek Islands (Rough Guide Greek Islands)	Edwards, Nick/ Fisher, John/ Hall, Rebecca/ Malathronas, John/ Zatko,	Rough Guides	201805	2,818	1	ガイドブック(世界)
312	The Rough Guide to Japan (Rough Guide Japan)	Gray, Paul (CON)/ McClaren, Sally (CON)/ Roman, Tamatha (CON)/ Scott,	Rough Guides	201709	3,570	1	ガイドブック(日本)
313	The Rough Guide to London (Rough Guide London)	Cook, Samantha/ Fry, Henry/ McQuillian, Neil/ Norman, Matt/ Park, Alic	Rough Guides	201802	2,818	1	ガイドブック(世界)
314	The Rough Guide to Malaysia, Singapore & Brunei (Rough Guide Malaysia, Singapore, and Brunei)	Ferrarese, Marco/ Lim, Richard/ Willmore, Simon/ Young, Charles	Rough Guides	201807	3,382	1	ガイドブック(世界)
315	The Rough Guide to Myanmar (Burma) (Rough Guides)	Butler, Stuart/ Deas, Tom/ Thomas, Gavin	Rough Guides	201711	3,194	1	ガイドブック(世界)
316	The Rough Guide to Namibia with Victoria Falls (Rough Guides)	Humphreys, Sara/ Humphreys, Rob (CON)	Rough Guides	201707	3,194	1	ガイドブック(世界)
317	The Rough Guide to Naples, Pompeii & the Amalfi Coast (Rough Guide Naples, Pompeii & the Amalfi Coast)	Dunford, Martin/ Jackson, Anthon	Rough Guides	201807	2,630	1	ガイドブック(世界)
318	The Rough Guide to Nepal (Rough Guide Nepal)	Butler, Stuart/ South, Mark/ Stables, Daniel	Rough Guides	201802	3,382	1	ガイドブック(世界)
319	The Rough Guide to New York City (Rough Guide New York City)	Hull, Sarah/ Keeling, Stephen/ Rosenberg, Andrew	Rough Guides	201802	2,818	1	ガイドブック(世界)
320	The Rough Guide to Paris (Rough Guide Paris)	Rough Guides (COR)/ Blackmore, Ruth/ Cook, Samantha	Rough Guides	201801	2,630	1	ガイドブック(世界)
321	The Rough Guide to Poland (Rough Guide Poland)	Bousfield, Jonathan/ Salter, Mark (CON)/ Heuler, Hilary (CON)/ Wadswor	Rough Guides	201807	3,006	1	ガイドブック(世界)
322	The Rough Guide to Rome (Rough Guide. Rome)	Crawford, Agnes/ Pasquale, Maria	Rough Guides	201803	2,818	1	ガイドブック(世界)
323	The Rough Guide to Shanghai (Rough Guide Shanghai)	Lewis, Simon	Rough Guides	201707	2,442	1	ガイドブック(世界)
324	The Rough Guide to South Africa, Lesotho & Swaziland (Rough Guide South Africa)	Bembridge, James/ Heuler, Hilary/ McCrea, Barbara/ de Villiers, Greg/	Rough Guides	201802	3,382	1	ガイドブック(世界)
325	The Rough Guide to Spain (Rough Guide Spain)	Baskett, Simon/ Butler, Stuart/ Fox, Esme/ Garvey, Geoff/ Hibbs, Eva	Rough Guides	201803	3,382	1	ガイドブック(世界)
326	The Rough Guide to Taiwan (Rough Guide Taiwan)	Bird, Thomas/ Foster, Simon/ Keeling, Stephen/ Zatko, Martin	Rough Guides	201807	3,194	1	ガイドブック(世界)
327	The Rough Guide to Tokyo (Rough Guide Tokyo)	Rough Guides (COR)/ Zatko, Martin (EDT)	Rough Guides	201707	2,818	1	ガイドブック(日本)
328	The Rough Guide to Tuscany and Umbria (Rough Guide Tuscany and Umbria)	Jepson, Tim/ Buckley, Jonathan	Rough Guides	201805	2,818	1	ガイドブック(世界)
329	The Rough Guide to Vietnam (Rough Guide Vietnam)	Emmons, Ron/ Mills, Rachel/ Zatko, Martin	Rough Guides	201803	3,006	1	ガイドブック(世界)
330	The Routledge Handbook of Consumer Behaviour in Hospitality and Tourism (Routledge Handbooks)	Dixit, Saurabh Kumar (EDT)	Routledge	201704	29,100	1	観光学、経済・社会・文化

No.	書名	著者名	出版社名	出版年月	価格(本体)	冊数	分野
331	The Routledge Handbook of Cultural Tourism	Smith, Melanie (EDT)/ Richards, Greg (EDT)	Routledge	201705	7,758	1	観光学、経済・社会・文化
332	The Routledge Handbook of Health Tourism (Routledge International Handbooks)	Smith, Melanie Kay (EDT)/ Puczk, Lszl (EDT)	Routledge	201612	33,950	1	観光学、経済・社会・文化
333	The Routledge Handbook of Hospitality Management	Pantelidis, Ioannis S (EDT)	Routledge	201706	7,758	1	観光学、経済・社会・文化
334	The Routledge Handbook of Hospitality Studies (Routledge Handbooks)	Lashley, Conrad (EDT)	Routledge	201611	33,950	1	観光学、経済・社会・文化
335	The Routledge Handbook of Hotel Chain Management	Ivanova, Maya (EDT)/ Ivanov, Stanislav (EDT)/ Magnini, Vincent P. (EDT	Routledge	201604	33,950	1	観光学、経済・社会・文化
336	The Routledge Handbook of Tourism and Sustainability	Hall, C. Michael (EDT)/ Gossling, Stefan (EDT)/ Scott, Daniel (EDT)	Routledge	201706	7,758	1	観光学、経済・社会・文化
337	The Routledge Handbook of Tourism and the Environment	Holden, Andrew (EDT)/ Fennell, David A. (EDT)	Routledge	201705	7,758	1	観光学、経済・社会・文化
338	The Routledge Handbook of Tourism Geographies	Wilson, Julie (EDT)	Routledge	201705	7,758	1	観光学、経済・社会・文化
339	The Routledge Handbook of Tourism in Asia (Routledge Handbooks)	Hall, C. Michael (EDT)/ Page, Stephen J. (EDT)	Routledge	201609	33,950	1	観光学、経済・社会・文化
340	The Routledge Handbook of Tourism Marketing	McCabe, Scott (EDT)	Routledge	201706	7,758	1	観光学、経済・社会・文化
341	The Routledge Handbook of Tourism Research	Hsu, Cathy H. C. (EDT)/ Gartner, William C. (EDT)	Routledge	201706	7,176	1	観光学、経済・社会・文化
342	The SAGE International Encyclopedia of Travel and Tourism 4Vols	Lowry, Linda L. (EDT)	Sage	201708	93,120	4	観光学、経済・社会・文化
343	The Value of Events (Routledge Advances in Event Research)	Lundberg, Erik (EDT)/ Armbrecht, John (EDT)/ Andersson, Tommy D. (EDT)	Taylor & Francis	201705	20,370	1	観光学、経済・社会・文化
344	Tokyo Geek's Guide	Simone, Gianni	Tuttle Publishing	201707	1,700	1	ガイドブック(日本)
345	TOKYO POUR UN JOUR (MA VILLE POUR U)	BOMBACE AURELIE	LIMONADE	201709	1,538	1	ガイドブック(日本)
346	Tokyo Street Food	Vandenberghe, Tom/ Thys, Luk/ Shibuya, Miho/ Kaji, Tomoko	Lanoo Books	201708	4,690	1	ガイドブック(日本)
347	Tokyo Style Guide : Eat - Sleep - Shop	Lawson, Jane	Murdoch Books Pty Ltd	201806	3,194	1	ガイドブック(日本)
348	Tourism and Opportunities for Economic Development in Asia (Advances in Hospitality, Tourism, and the Services Industry)	De Pablos, Patricia Ordnez (EDT)/ Aung, Zeyar Myo (EDT)	Business Science Reference	201701	29,110	1	観光学、経済・社会・文化
349	Tourism and the Creative Industries : Theories, Policies and Practice (Routledge Advances in Tourism)	Long, Philip (EDT)/ Morpeth, Nigel D. (EDT)	Routledge	201605	21,340	1	観光学、経済・社会・文化
350	Tourism Ethics (Aspects of Tourism)	Fennell, David A.	Channel View Books	201712	7,750	1	観光学、経済・社会・文化
351	Tourism in the Arab World : An Industry Perspective (Aspects of Tourism)	Almuhrzi, Hamed (EDT)/ Alriyami, Hafidh (EDT)/ Scott, Noel (EDT)	Channel View Books	201706	21,330	1	観光学、経済・社会・文化
352	Tourism in the City : Towards an Integrative Agenda on Urban Tourism	Bellini, N. (EDT)/ Pasquinelli, C. (EDT)	Springer	201609	23,658	1	観光学、経済・社会・文化
353	Tourism Marketing : In the Age of the Consumer	Morrison, Alistair/ Gretzel, Ulrike	Routledge	201801	7,564	1	観光学、経済・社会・文化
354	Tourism Marketing for Cities and Towns : Using Social Media and Branding to Attract Tourists	Kolb, Bonita	Routledge	201703	6,982	1	観光学、経済・社会・文化
355	Tourism Resilience and Adaptation to Environmental Change (Routledge Advances in Tourism)	Lew, Alan A. (EDT)/ Cheer, Joseph M. (EDT)	Taylor & Francis	201708	20,370	1	観光学、経済・社会・文化
356	Tourism, Public Transport and Sustainable Mobility (Tourism Essentials)	Hall, C. Michael/ Le-klahn, Diem-trinh/ Ram, Yael	Channel View Books	201702	5,810	1	観光学、経済・社会・文化
357	Tourism, Travel, and Blogging : A Discursive Analysis of Online Travel Narratives (New Directions in Tourism Analysis)	Azariah, Deepti Ruth	Routledge	201611	21,340	1	観光学、経済・社会・文化
358	Tourist Attractions : From Object to Narrative (Tourism and Cultural Change)	Edelheim, Johan R.	Channel View	201702	6,780	1	観光学、経済・社会・文化
359	Valuing World Heritage Cities (Routledge Cultural Heritage and Tourism)	Vahtikari, Tanja	Routledge	201612	21,340	1	世界遺産
360	Visitor Attractions and Events : Locations and Linkages (Routledge Advances in Event Research)	Weidenfeld, Adi/ Butler, Richard/ Williams, Allan M.	Routledge	201605	21,340	1	観光学、経済・社会・文化

No.	書名	著者名	出版社名	出版年月	価格(本体)	冊数	分野
361	Visitor Management in Tourism Destinations (Cabi Tourism Management and Research)	Albrecht, Julia N. (EDT)	Cab Intl	201612	15,520	1	観光学、経済・社会・文化
362	Women and Travel : Historical and Contemporary Perspectives (Advances in Hospitality and Tourism)	Khoo-Lattimore, Catheryn, Ph.D. (EDT)/ Wilson, Erica, Ph.D. (EDT)	Apple Academic Pr Inc	201704	17,266	1	観光学、経済・社会・文化
363	World Heritage Sites and Tourism : Global and Local Relations (Heritage, Culture and Identity)	Bourdeau, Laurent (EDT)/ Gravari-Barbas, Maria (EDT)/ Robinson, Mike (	Routledge	201611	21,340	1	世界遺産
364	Worldwide Destinations : The Geography of Travel and Tourism	Boniface, Brian/ Cooper, Robyn/ Cooper, Chris	Routledge	201605	8,728	1	観光学、経済・社会・文化
365	Lonely Planet Paris (Lonely Planet Paris)	Lonely Planet Publications/ Le Nevez, Catherine/ Pitts, Christopher/ W	Lonely Planet	201811	3,078	1	ガイドブック(世界)
366	Lonely Planet Spain (Lonely Planet Spain)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201811	3,918	1	ガイドブック(世界)
367	Lonely Planet South Africa, Lesotho & Swaziland (Lonely Planet South Africa Lesotho and Swaziland)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201811	3,078	1	ガイドブック(世界)
368	Lonely Planet Mexico (Lonely Planet Mexico)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201809	4,198	1	ガイドブック(世界)
369	Lonely Planet New Zealand (Lonely Planet New Zealand)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201809	3,918	1	ガイドブック(世界)
370	Lonely Planet Middle East (Lonely Planet Middle East)	Lonely Planet Publications/ Ham, Anthony/ Clammer, Paul/ Elliott, Mark	Lonely Planet	201809	4,198	1	ガイドブック(世界)
371	Lonely Planet New York City (Lonely Planet New York City)	St. Louis, Regis/ Balkovich, Robert/ Bartlett, Ray/ Lemer, Ali/ Grosbe	Lonely Planet	201808	3,078	1	ガイドブック(世界)
372	Lonely Planet Vietnam (Lonely Planet Vietnam)	Stewart, Iain/ Atkinson, Brett/ Bush, Austin/ Eimer, David/ Ray, Nick	Lonely Planet	201808	3,918	1	ガイドブック(世界)
373	Lonely Planet Kyoto (Lonely Planet Kyoto)	Morgan, Kate/ Milner, Rebecca	Lonely Planet	201808	3,218	1	ガイドブック(世界)
374	Lonely Planet Ukraine (Lonely Planet Ukraine)	Di Duca, Marc/ Bloom, Greg/ Ragozin, Leonid	Lonely Planet	201807	3,918	1	ガイドブック(世界)
375	Lonely Planet the World : A Traveller's Guide to the Planet (Lonely Planet Travel Guide)	Lonely Planet Publications (COR)/ Naghten, Catherine (EDT)/ Whitney, T	Lonely Planet	201710	4,198	1	ガイドブック(世界)
376	Lonely Planet Turkey (Lonely Planet Turkey)	Bainbridge, James/ Atkinson, Brett/ Fallon, Steve/ Lee, Jessica/ Maxwe	Lonely Planet	201702	3,918	1	ガイドブック(世界)
377	Lonely Planet Best of Spain (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet	Lonely Planet Global Limited	201811	3,143	1	ガイドブック(世界)
378	Lonely Planet Best of Paris 2019 (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Le Nevez, Catherine/ Harper, Damian/ Pitts, Christopher	Lonely Planet Global Limited	201809	2,588	1	ガイドブック(世界)
379	Lonely Planet Best of New York City 2019 (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Lemer, Ali/ Bartlett, Ray/ Regis St. Louis/ Balkovich,	Lonely Planet Global Limited	201809	2,588	1	ガイドブック(世界)
380	Lonely Planet Best of Vietnam (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Stewart, Iain/ Atkinson, Brett/ Bush, Austin/ Eimer, Da	Lonely Planet Global Limited	201808	3,143	1	ガイドブック(世界)
381	Lonely Planet Best of Scandinavia (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Ham, Anthony/ Averbuck, Alexis/ Bain, Carolyn/ Berry, O	Lonely Planet Global Limited	201808	3,143	1	ガイドブック(世界)
382	Lonely Planet Best of Switzerland (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Christiani, Kerry/ Mclachlan, Craig/ Walker, Benedict	Lonely Planet Global Limited	201808	3,143	1	ガイドブック(世界)
383	Lonely Planet Best of Thailand (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Bush, Austin/ Bewer, Tim/ Brash, Celeste/ Eimer, David/	Lonely Planet Global Limited	201808	3,143	1	ガイドブック(世界)
384	Lonely Planet Best of Japan (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Milner, Rebecca/ Bartlett, Ray/ Bender, Andrew/ Mclachl	Lonely Planet Global Limited	201711	3,143	1	ガイドブック(世界)
385	Lonely Planet Best of Europe (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Richmond, Simon/ Averbuck, Alexis/ Baker, Mark/ Berry,	Lonely Planet Global Limited	201711	3,143	1	ガイドブック(世界)
386	Lonely Planet Best of Australia (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Rawlings-way, Charles/ Atkinson, Brett/ Bonetto, Cristi	Lonely Planet Global Limited	201711	3,143	1	ガイドブック(世界)
387	Lonely Planet Best of France (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet	Lonely Planet Global Limited	201705	3,143	1	ガイドブック(世界)
388	Lonely Planet Best of Great Britain (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Dixon, Belinda/ Berry, Oliver/ Dragicevich, Peter/ Harp	Lonely Planet Global Limited	201705	3,143	1	ガイドブック(世界)
389	Lonely Planet Best of Malaysia & Singapore (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Richmond, Simon/ Atkinson, Brett/ Benchwick, Greg/ Bone	Lonely Planet Global Limited	201611	3,143	1	ガイドブック(世界)
390	Lonely Planet Best of New Zealand (Travel Guide) -- Paperback	Lonely Planet/ Atkinson, Brett/ Bennett, Sarah/ Dragicevich, Peter/ Ra	Lonely Planet Global Limited	201611	3,143	1	ガイドブック(世界)

No.	書名	著者名	出版社名	出版年月	価格(本体)	冊数	分野
391	Lonely Planet Brazil (Travel Guide) (Lonely Planet Brazil)	Lonely, Planet	Lonely Planet Publications Inc.	201606	5,598	1	ガイドブック(世界)
392	Lonely Planet Sydney (Lonely Planet Pocket Sydney)	Lonely Planet Publications/ Symington, Andy	Lonely Planet	201810	1,958	1	ガイドブック(世界)
393	Lonely Planet Pocket New York City (Lonely Planet Pocket New York City)	Lonely Planet Publications/ Lemer, Ali/ Bartlett, Ray/ St Louis, Regis	Lonely Planet	201809	1,958	1	ガイドブック(世界)
394	Lonely Planet Pocket New Orleans (Lonely Planet Pocket Guides)	Lonely Planet Publications/ Karlin, Adam/ Bartlett, Ray	Lonely Planet	201810	1,958	1	ガイドブック(世界)
395	Lonely Planet Pocket London (Lonely Planet Pocket London)	Lonely Planet Publications/ Harper, Damian/ Dragicevich, Peter/ Fallon	Lonely Planet	201810	1,958	1	ガイドブック(世界)
396	Lonely Planet Pocket Stockholm (Lonely Planet Pocket Stockholm)	Rawlings-Way, Charles/ Ohlsen, Becky	Lonely Planet	201804	1,958	1	ガイドブック(世界)
397	Lonely Planet Pocket Moscow & St. Petersburg (Lonely Planet Pocket Guide)	Vorhees, Mara/ Ragozin, Leonid/ Richmond, Simon/ St Louis, Regis	Lonely Planet	201803	1,958	1	ガイドブック(世界)
398	Lonely Planet Pocket Florence & Tuscany (Lonely Planet City Guides)	Williams, Nicola/ Maxwell, Virginia	Lonely Planet	201802	1,958	1	ガイドブック(世界)
399	Lonely Planet Pocket Dublin (Lonely Planet City Guides)	Davenport, Fionn	Lonely Planet	201802	1,958	1	ガイドブック(世界)
400	Lonely Planet Pocket Orlando & Walt Disney World Resort (Lonely Planet Pocket Guides)	Armstrong, Kate	Lonely Planet	201801	1,958	1	ガイドブック(世界)
401	Lonely Planet Pocket Venice (Lonely Planet City Guides)	Hardy, Paula/ Dragicevich, Peter	Lonely Planet	201801	1,958	1	ガイドブック(世界)
402	Lonely Planet Pocket Rome (Lonely Planet City Guides)	Garwood, Duncan/ Williams, Nicola/ Mathews, Kate	Lonely Planet	201801	1,958	1	ガイドブック(世界)
403	Lonely Planet Pocket San Francisco (Lonely Planet Pocket San Francisco)	Krause, Mariella/ Bing, Alison/ Vlahides, John A.	Lonely Planet	201712	1,958	1	ガイドブック(世界)
404	Lonely Planet Pocket Los Angeles (Lonely Planet Los Angeles)	Bender, Andrew/ Bonetto, Cristian	Lonely Planet	201712	1,958	1	ガイドブック(世界)
405	Lonely Planet Pocket Las Vegas : Top Sights - Local Life - Made Easy (Lonely Planet Las Vegas)	Schulte-Peevers, Andrea/ Walker, Benedict	Lonely Planet	201712	1,958	1	ガイドブック(世界)
406	Lonely Planet Pocket Melbourne (Lonely Planet City Guides)	Morgan, Kate/ Bonetto, Cristian/ Dragicevich, Peter	Lonely Planet	201711	1,958	1	ガイドブック(世界)
407	Lonely Planet Pocket Seattle (Lonely Planet Pocket Guides)	Sainsbury, Brendan	Lonely Planet	201706	1,958	1	ガイドブック(世界)
408	Lonely Planet Pocket Kuala Lumpur : Top Sights, Local Life, Made Easy (Lonely Planet Pocket Guides)	Lonely Planet Publications (COR)/ Albiston, Isabel	Lonely Planet	201706	1,958	1	ガイドブック(世界)
409	Lonely Planet Pocket Taipei (Lonely Planet Pocket Guides)	Gardner, Dinah	Lonely Planet	201705	1,958	1	ガイドブック(世界)
410	Lonely Planet Pocket Hong Kong : Top Sights, Local Life, Made Easy (Lonely Planet Pocket Hong Kong)	Lonely Planet Publications (COR)/ Chen, Piera/ Matchar, Emily	Lonely Planet	201705	1,958	1	ガイドブック(世界)
411	Lonely Planet Pocket Istanbul (Lonely Planet Pocket Istanbul)	Maxwell, Virginia	Lonely Planet	201702	1,958	1	ガイドブック(世界)
412	Lonely Planet Pocket Beijing (Lonely Planet. Pocket Beijing)	Lonely Planet Publications/ Eimer, David	Lonely Planet	201604	1,958	1	ガイドブック(世界)
413	Lonely Planet Pocket Milan & the Lakes (Lonely Planet Pocket Guides)	Hardy, Paula	Lonely Planet	201601	1,958	1	ガイドブック(世界)
414	Lonely Planet Pocket Singapore (Lonely Planet Pocket Guides)	Bonetto, Cristian	Lonely Planet	201503	1,958	1	ガイドブック(世界)
415	Lonely Planet Pocket Shanghai (Lonely Planet Pocket Guides)	Pitts, C.	Lonely Planet	201305	1,958	1	ガイドブック(世界)
416	Lonely Planet Pocket Sydney (Lonely Planet Pocket Sydney)	Dragicevich, Peter	Lonely Planet	201301	1,958	1	ガイドブック(世界)
417	Lonely Planet Pocket Berlin (Lonely Planet Pocket Guides)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201902	1,958	1	ガイドブック(世界)
418	Lonely Planet Pocket Seoul (Lonely Planet Pocket Guides)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201902	1,958	1	ガイドブック(世界)
419	Lonely Planet Pocket Lisbon (Lonely Planet Pocket Lisbon)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201902	1,958	1	ガイドブック(世界)
420	Lonely Planet Pocket Paris (Lonely Planet Pocket Paris)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201812	1,958	1	ガイドブック(世界)

No.	書名	著者名	出版社名	出版年月	価格(本体)	冊数	分野
421	Lonely Planet Pocket Madrid (Lonely Planet. Pocket Madrid)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201812	1,958	1	ガイドブック(世界)
422	Lonely Planet Pocket Barcelona (Lonely Planet Pocket Barcelona)	Lonely Planet Publications (COR)	Lonely Planet	201812	1,958	1	ガイドブック(世界)
423	Lonely Planet Pocket Dubai (Lonely Planet Pocket Guides)	Lonely Planet Publications/ Schulte-Peevers, Andrea/ Raub, Kevin	Lonely Planet	201812	1,958	1	ガイドブック(世界)
424	The Critical Turn in Tourism Studies : Creating an Academy of Hope	Ateljevic, Irena (EDT)/ Morgan, Nigel (EDT)/ Pritchard, Annette (EDT)	Routledge	201705	6,843	1	観光学
425	Tourism and Ethnodevelopment : Inclusion, Empowerment and Self Determination (Routledge Advances in Tourism and Anthropology)	Borges De Lima, Ismar (EDT)/ King, Victor T. (EDT)	Routledge	201709	19,425	1	観光学
426	Tourism Development	Butler, Richard/ Pearce, Douglas G.	Routledge	200112	8,138	1	観光学
427	Tourism, Resilience and Sustainability : Adapting to Social, Political and Economic Change	Cheer, Joseph M. (EDT)/ Lew, Alan A. (EDT)	Taylor & Francis	201708	19,425	1	観光学
428	Slow Tourism, Food and Cities : Pace and the Search for the Good Life	Clancy, Michael (EDT)	Routledge	201709	12,950	1	観光学
429	Mining Heritage and Tourism : A Global Synthesis	Conlin, Michael V. (EDT)/ Jolliffe, Lee (EDT)	Routledge	201011	21,275	1	観光学
430	Tourist Experience and Fulfilment : Insights from positive psychology	Filep, Sebastian (EDT)/ Pearce, Philip (EDT)	Routledge	201706	6,843	1	観光学
431	Tourism and Sustainable Community Development	Hall, Derek R. (EDT)/ Richards, Greg (EDT)	Routledge	200302	8,138	1	観光学
432	The Affective Negotiation of Slum Tourism : City Walks in Delhi (Routledge Advances in Tourism and Anthropology)	Holst, Tore	Routledge	201802	19,425	1	観光学
433	Tourism Art and Souvenirs : The Material Culture of Tourism	Hume, David	Routledge	201706	6,843	1	観光学
434	Tourism and Indigenous Heritage in Latin America : As Observed through Mexico's Magical Village Cuetzalan (Routledge Advances in Tourism and Anthropol	Jacobsen, Casper	Routledge	201808	19,425	1	観光学
435	Creating Island Resorts (Routledge Advances in Tourism, 2)	King, Brian E. M.	Routledge	199706	24,050	1	観光学
436	Tourism Enterprises and Sustainable Development : International Perspectives on Responses to the Sustainability Agenda	Leslie, David (EDT)	Routledge	201306	7,768	1	観光学
437	Sustainable Tourism in Rural Europe : Approaches to Development	Macleod, Donald V. L. (EDT)/ Gillespie, Steven A. (EDT)	Routledge	201504	6,473	1	観光学
438	Tourist Shopping Villages : Forms and Functions	Murphy, Laurie/ Benckendorff, Pierre/ Moscardo, Gianna/ Pearce, Philip	Routledge	201209	6,843	1	観光学
439	Outdoor Recreation Management (Routledge Advances in Tourism, 5)	Pigram, J. J. J./ Jenkins, John M.	Routledge	200107	5,733	1	観光学
440	Destinations : Cultural Landscapes of Tourism	Ringer, Greg (EDT)	Routledge	201111	6,473	1	観光学
441	Tourism and Poverty	Scheyvens, Regina	Routledge	201306	7,768	1	観光学
442	Tourism in the Age of Globalisation	Wahab, Salah (EDT)/ Cooper, Chris (EDT)	Routledge	201404	6,473	1	観光学
443	Liminal Landscapes : Travel, Experience and Spaces In-between	Andrews, Hazel (EDT)/ Roberts, Les (EDT)	Routledge	201706	6,843	1	観光学
444	Tourism Policy and Planning Implementation : Issues and Challenges	Andriotis, Konstantinos (EDT)/ Stylidis, Dimitrios (EDT)/ Weidenfeld,	Routledge	201809	21,275	1	観光学
445	Research Volunteer Tourism	Benson, Angela M.	Routledge	201912	19,425	1	観光学
446	Volunteer Tourism : Theoretical frameworks and practical applications	Benson, Angela M. (EDT)	Routledge	201504	6,473	1	観光学
447	Tourism and Citizenship : Rights, Freedoms and Responsibilities in the Global Order	Bianchi, Raoul V./ Stephenson, Marcus L.	Routledge	201403	6,473	1	観光学
448	Managing and Interpreting D-Day's Sites of Memory : Guardians of Remembrance	Bird, Geoffrey (EDT)/ Claxton, Sean (EDT)/ Reeves, Keir (EDT)	Routledge	201805	6,843	1	観光学
449	Peace through Tourism : Promoting Human Security through International Citizenship	Blanchard, Lynda-ann (EDT)/ Higgins-desbiolles, Freya (EDT)	Routledge	201706	6,843	1	観光学
450	Affective Tourism : Dark Routes in Conflict	Buda, Dorina Maria	Taylor & Francis	201707	6,843	1	観光学

No.	書名	著者名	出版社名	出版年月	価格(本体)	冊数	分野
451	Volunteer Tourism : The Lifestyle Politics of International Development	Butcher, Jim/ Smith, Peter	Routledge	201705	6,473	1	観光学
452	Tourism and War	Butler, Richard (EDT)/ Suntikul, Wantanee (EDT)	Routledge	201706	6,843	1	観光学
453	Gender and Tourism : Social, Cultural and Spatial Perspectives	Carmichael Aitchison, Cara	Routledge	201701	16,650	1	観光学
454	Children's and Families' Holiday Experience	Carr, Neil	Routledge	201705	6,473	1	観光学
455	Nature Tourism	Chen, Joseph S. (EDT)/ Prebensen, Nina K. (EDT)	Taylor & Francis	201701	21,275	1	観光学
456	Understanding and Governing Sustainable Tourism Mobility : Psychological and Behavioural Approaches (Contemporary Geographies of Leisure, Tourism and	Cohen, Scott A. (EDT)/ Higham, James E. S. (EDT)/ Stefan, Gossling (ED	Routledge	201706	6,843	1	観光学
457	Tourism, Religion and Pilgrimage in Jerusalem	Cohen-hattab, Kobi/ Shoval, Noam	Routledge	201706	6,843	1	観光学
458	Protest and Resistance in the Tourist City	Colomb, Claire (EDT)/ Novy, Johannes (EDT)	Routledge	201809	6,843	1	観光学
459	Tourism at the Grassroots : Villagers and Visitors in the Asia-pacific	Connell, John (EDT)/ Rugendyke, Barbara (EDT)	Routledge	201407	6,473	1	観光学
460	Green Growth and Travelism : Concept, Policy and Practice for Sustainable Tourism	Delacy, Terry (EDT)/ Jiang, Min (EDT)/ Lipman, Geoffrey (EDT)/ Vorster	Routledge	201706	6,843	1	観光学
461	Tourism in the Caribbean : Trends, Development, Prospects	Duval, David Timothy	Routledge	200402	22,200	1	観光学
462	Tourism and Animal Ethics	Fennell, David A.	Routledge	201705	6,843	1	観光学
463	Slum Tourism : Poverty, Power and Ethics	Frenzel, Fabian (EDT)/ Koens, Ko (EDT)/ Steinbrink, Malte (EDT)	Routledge	201706	6,843	1	観光学
464	Sexuality, Women, and Tourism : Cross-Border Desires through Contemporary Travel	Frohlick, Susan	Routledge	201604	6,288	1	観光学
465	Imagining the American West through Film and Tourism	Frost, Warwick/ Laing, Jennifer	Taylor & Francis	201707	6,843	1	観光学
466	Resilient Destinations and Tourism : Governance Strategies the Transition Towards Sustainability	Gill, Alison (EDT)/ Saarinen, Jarkko (EDT)	Routledge	201812	19,425	1	観光学
467	Tourism and Gentrification in Contemporary Metropolises : International Perspectives	Gravari-Barbas, Maria (EDT)/ Guinand, Sandra (EDT)	Taylor & Francis	201706	21,275	1	観光学
468	Tourism and the Anthropocene	Gren, Martin (EDT)/ Huijbens, Edward H. (EDT)	Routledge	201805	6,843	1	観光学
469	Medical Tourism : The Ethics, Regulation, and Marketing of Health Mobility	Hall, C. Michael (EDT)	Routledge	201705	6,843	1	観光学
470	Tourism in Iran : Challenges, Development and Issues	Hall, C. Michael (EDT)/ Seyfi, Siamak (EDT)	Routledge	201809	19,425	1	観光学
471	Understanding and Managing Tourism Impacts : An Integrated Approach	Hall, C. Michael/ Lew, Alan A.	Routledge	200908	7,398	1	観光学
472	Tourism and Innovation	Hall, Michael C./ Allan, Williams	Routledge	201405	6,843	1	観光学
473	Backpacker Tourism and Economic Development : Perspectives from the Less Developed World	Hampton, Mark P.	Routledge	201706	6,843	1	観光学
474	Social Memory and Heritage Tourism Methodologies	Hanna, Stephen P. (EDT)/ Potter, Amy E. (EDT)/ Modlin, E. Arnold (EDT)	Taylor & Francis	201707	6,843	1	観光学
475	Tourism and India : A Critical Introduction	Hannam, Kevin/ Diekmann, Anya	Routledge	201504	6,473	1	観光学
476	Negotiating Hospitality : Ethics of Tourism Development in the Nicaraguan Highlands	Hockert, Emily	Routledge	201805	21,275	1	観光学
477	The Practice of Sustainable Tourism : Resolving the Paradox	Hughes, Michael (EDT)/ Weaver, David (EDT)/ Pforr, Christof (EDT)	Taylor & Francis	201707	6,843	1	観光学
478	Destination Resilience : Challenges and Opportunities for Destination Management and Governance	Innerhofer, Elisa (EDT)/ Fontanari, Martin (EDT)/ Pechlaner, Harald (E	Routledge	201801	21,275	1	観光学
479	The Politics and Power of Tourism in Palestine	Isaac, Rami K. (EDT)/ Hall, C. Michael (EDT)/ Higgins-desbiolles, Frey	Routledge	201805	6,843	1	観光学
480	A Hospitable World? : Organising Work and Workers in Hotels and Tourist Resorts	Jordhus-lier, David (EDT)/ Underthun, Anders (EDT)	Taylor & Francis	201707	6,843	1	観光学

専門分野(洋書)

No.	書名	著者名	出版社名	出版年月	価格(本体)	冊数	分野
481	Contemporary Issues in Cultural Heritage Tourism	Kaminski, Jamie (EDT)/ Benson, Angela M. (EDT)/ Arnold, David (EDT)	Routledge	201706	6,843	1	観光学
482	Last Chance Tourism : Adapting Tourism Opportunities in a Changing World	Lemelin, Harvey (EDT)/ Dawson, Jackie (EDT)/ Stewart, Emma J. (EDT)	Routledge	201706	6,843	1	観光学
483	Tourism in Brazil : Environment, Management and Segments	Lohmann, Gui (EDT)/ Dredge, Dianne (EDT)	Routledge	201706	6,843	1	観光学
484	Authentic and Inauthentic Places in Tourism : From Heritage Sites to Theme Parks	Lovell, Jane/ Bull, Chris	Routledge	201709	19,425	1	観光学
485	Tourism and the Consumption of Wildlife : Hunting, Shooting and Sport Fishing	Lovelock, Brent (EDT)	Routledge	201405	6,473	1	観光学
486	World Tourism Cities : Developing Tourism Off the Beaten Track	Maitland, Robert (EDT)/ Newman, Peter (EDT)	Routledge	201404	6,473	1	観光学
487	Memory, Migration and Travel	Marschall, Sabine (EDT)	Taylor & Francis	201805	21,275	1	観光学
488	Real Tourism : Practice, Care, and Politics in Contemporary Travel Culture	Minca, Claudio (EDT)/ Oakes, Tim (EDT)	Routledge	201705	6,843	1	観光学
489	Political Economy of Tourism : A Critical Perspective	Mosedale, Jan (EDT)	Routledge	201508	6,473	1	観光学
490	Political Ecology of Tourism : Community, Power and the Environment	Mostafanezhad, Mary (EDT)/ Norum, Roger (EDT)/ Shelton, Eric J. (EDT)/	Routledge	201805	6,843	1	観光学
491	Scuba Diving Tourism	Musa, Ghazali (EDT)/ Dimmock, Kay (EDT)	Routledge	201706	6,843	1	観光学
492	Mountaineering Tourism	Musa, Ghazali (EDT)/ Higham, James (EDT)/ Thompson-Carr, Anna (EDT)	Taylor & Francis	201705	6,843	1	観光学
493	Tourism and Development in Sub-Saharan Africa : Current Issues and Local Realities	Novelli, Marina	Routledge	201710	6,843	1	観光学
494	Trust, Tourism Development and Planning	Nunkoo, Robin (EDT)/ Smith, Stephen L. J. (EDT)	Taylor & Francis	201707	6,843	1	観光学
495	Tourism in Pacific Islands : Current Issues and Future Challenges	Pratt, Stephen (EDT)/ Harrison, David (EDT)	Routledge	201707	6,843	1	観光学
496	Tourism, Creativity and Development	Richards, Greg (EDT)/ Wilson, Julie (EDT)	Routledge	201407	6,843	1	観光学
497	Tourism and Climate Change : Impacts, Adaptation & Mitigation	Scott, Daniel/ Hall, C. Michael/ Gossling, Stefan	Routledge	201205	7,768	1	観光学
498	Scientific Tourism : Researchers as Travellers	Slocum, Susan (EDT)/ Kline, Carol (EDT)/ Holden, Andrew (EDT)	Taylor & Francis	201707	6,843	1	観光学
499	International Tourism Development and the Gulf Cooperation Council States : Challenges and Opportunities (Contemporary Geographies of Leisure, Tourism	Stephenson, Marcus L. (EDT)/ Al-hamarneh, Ala (EDT)	Routledge	201706	19,425	1	観光学
500	Tourism, Religion and Spiritual Journeys	Timothy, Dallen J. (EDT)/ Olsen, Daniel H. (EDT)	Routledge	201111	6,473	1	観光学
501	Tourism and Agriculture : New Geographies of Consumption, Production and Rural Restructuring (Contemporary Geographies of Leisure, Tourism and Mobilit	Torres, Rebecca Maria (EDT)/ Momsen, Janet Henshall (EDT)	Routledge	201705	6,473	1	観光学
502	Actor-network Theory and Tourism : Ordering, Materiality and Multiplicity	Van Der Duim, Ren (EDT)/ Ren, Carina (EDT)/ Jhannesson, Gunnar Thor (E	Routledge	201706	6,843	1	観光学
			専門分野(洋書)合計		**3,612,646**	**505**	

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
1	政策学入門：私たちの政策を考える	新川達郎	法律文化社	201307	2,500	1	社会科学
2	公共政策学の基礎	秋吉貴雄：伊藤修一郎	有斐閣	201509	2,600	1	社会科学
3	社会科学のためのデータ分析入門. 上	今井耕介：粕谷祐子	岩波書店	201803	2,600	1	社会科学
4	社会科学のためのデータ分析入門. 下	今井耕介：粕谷祐子	岩波書店	201804	2,700	1	社会科学
5	日本とアジア：これまでとこれから	吉村文成	関西学院大学出版会	201509	1,600	1	社会科学
6	世界の中の日本	高橋和夫（国際政治学）	放送大学教育振興会(発売：NHK出版)	201503	3,400	1	社会科学
7	はじめての沖縄	岸政彦	新曜社	201805	1,300	1	社会科学
8	嫌韓問題の解き方：ステレオタイプを排して韓国を考える	小倉紀蔵：大西裕	朝日新聞出版	201606	1,400	1	社会科学
9	中国百科	北京放送局	科学出版社東京	201609	2,800	1	社会科学
10	中国文化事典	中国文化事典編集委員会	丸善出版	201704	20,000	1	社会科学
11	現代中国を知るための44章	藤野彰：曽根康雄	明石書店	201612	2,000	1	社会科学
12	ベトナムの基礎知識	古田元夫	めこん	201712	2,500	1	社会科学
13	タイの基礎知識	柿崎一郎	めこん	201604	2,000	1	社会科学
14	シンガポールの基礎知識	田村慶子	めこん	201604	2,000	1	社会科学
15	インドネシアの基礎知識	加納啓良	めこん	201703	2,000	1	社会科学
16	バングラディッシュを知るための66章	大橋正明：村山真弓	明石書店	201710	2,000	1	社会科学
17	中東世界データ地図：歴史・宗教・民族・戦争	ダン・スミス：龍和子	原書房	201709	5,800	1	社会科学
18	現代中東を読み解く：アラブ革命後の政治秩序とイスラーム	後藤晃：長沢栄治	明石書店	201608	2,600	1	社会科学
19	パレスチナを知るための60章	臼杵陽：鈴木啓之（中東地域研究）	明石書店	201604	2,000	1	社会科学
20	イギリス文化事典	イギリス文化事典編集委員会	丸善出版	201411	20,000	1	社会科学
21	スペイン文化読本	川成洋	丸善出版	201601	2,000	1	社会科学
22	イタリアを知るための62章	村上義和	明石書店	201310	2,000	1	社会科学
23	北欧文化事典	北欧文化協会：バルト＝スカンディナヴィア研究会	丸善出版	201710	20,000	1	社会科学
24	セルビアを知るための60章	柴宜弘：山崎信一	明石書店	201510	2,000	1	社会科学
25	マダガスカルを知るための62章	飯田卓：深澤秀夫	明石書店	201305	2,000	1	社会科学
26	地図で見るラテンアメリカハンドブック	オリヴィエ・ダベーヌ：フレデリック・ルオー	原書房	201712	2,800	1	社会科学
27	グアテマラを知るための67章	桜井三枝子	明石書店	201807	2,000	1	社会科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
28	ミクロネシアを知るための60章	印東道子	明石書店	201502	2,000	1	社会科学
29	出来事から学ぶカルチュラル・スタディーズ	田中東子：山本敦久	ナカニシヤ出版	201710	2,500	1	社会科学
30	政治学入門	木寺元	弘文堂	201604	2,200	1	社会科学
31	はじめての政治学〔第2版〕	佐藤史郎：上野友也	法律文化社	201704	1,900	1	社会科学
32	ここから始める政治理論	田村哲樹：松元雅和	有斐閣	201704	1,900	1	社会科学
33	比較政治学入門	岩崎正洋	勁草書房	201502	2,800	1	社会科学
34	開発政治学を学ぶための61冊	木村宏恒	明石書店	201802	2,800	1	社会科学
35	政治思想史入門	堤林剣	慶応義塾大学出版会	201604	3,000	1	社会科学
36	現代日本政治入門	新藤宗幸：阿部斉	東京大学出版会	201602	2,900	1	社会科学
37	日本の政策課題	岩崎正洋	八千代出版	201607	2,400	1	社会科学
38	現代日本の政治	飯尾潤	放送大学教育振興会（発売：NHK出版）	201503	2,700	1	社会科学
39	東アジアの政治社会と国際関係	家近亮子：川島真	放送大学教育振興会（発売：NHK出版）	201603	2,900	1	社会科学
40	現代中国政治概論：そのダイナミズムと内包する課題	熊達雲：毛桂栄	明石書店	201503	2,800	1	社会科学
41	東南アジア現代政治入門	清水一史：田村慶子	ミネルヴァ書房	201804	3,000	1	社会科学
42	入門東南アジア現代政治史	中野亜里：遠藤聡	福村出版	201603	2,500	1	社会科学
43	現代中東の国家・権力・政治	ロジャー・オーウェン：山尾大	明石書店	201502	3,000	1	社会科学
44	地図で見るアラブ世界ハンドブック	マテュー・ギデール：太田佐絵子	原書房	201612	2,800	1	社会科学
45	現代ロシア政治入門	横手慎二	慶応義塾大学出版会	201605	2,400	1	社会科学
46	アメリカ大統領図鑑：完全解析	開発社：米国大統領研究編纂所	秀和システム	201705	1,800	1	社会科学
47	アメリカ政治入門	西山隆行	東京大学出版会	201804	2,800	1	社会科学
48	境界から世界を見る：ボーダースタディーズ入門	アレクサンダー・C. ディーナー：ジョシュア・ヘーガン	岩波書店	201504	2,200	1	社会科学
49	ラルース地図で見る国際関係：現代の地政学	イヴ・ラコスト：大塚宏子	原書房	201701	5,800	1	社会科学
50	21世紀の地政学アトラス：反グローバル時代の覇権戦争のゆくえ	地政学地図研究会	小学館クリエイティブ（発売：小学館）	201609	1,500	1	社会科学
51	人権入門：憲法／人権／マイノリティ	横藤田誠：中坂恵美子	法律文化社	201703	2,100	1	社会科学
52	国際テロリズムハンドブック	安部川元伸	立花書房	201507	2,000	1	社会科学
53	はじめての行政学	伊藤正次：出雲明子	有斐閣	201610	1,900	1	社会科学
54	いまから始める地方自治	上田道明	法律文化社	201802	2,400	1	社会科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
55	ワークブック国際関係論：身近な視点から世界を学ぶ	小田桐確：長谷川晋	ナカニシヤ出版	201805	2,300	1	社会科学
56	国際関係論	佐渡友哲：信夫隆司	弘文堂	201802	2,200	1	社会科学
57	インクルーシブ国際社会論	森彰夫	彩流社	201709	2,500	1	社会科学
58	国際地域学入門	小谷一明：黒田俊郎	勉誠出版	201603	2,800	1	社会科学
59	現代の国際政治	高橋和夫	放送大学教育振興会（発売：NHK出版）	201803	3,100	1	社会科学
60	グローバル協力論入門：地球政治経済論からの接近	上村雄彦	法律文化社	201401	2,600	1	社会科学
61	国際学入門：言語・文化・地域から考える	佐島隆：佐藤史郎	法律文化社	201506	2,700	1	社会科学
62	国際地域学の展開：国際社会・地域・国家を総合的にとらえる	山本吉宣：黒田俊郎	明石書店	201503	2,500	1	社会科学
63	国際政治史：主権国家体系のあゆみ	小川浩之：板橋拓己	有斐閣	201804	2,300	1	社会科学
64	国際関係・安全保障用語辞典	小笠原高雪：栗栖薫子	ミネルヴァ書房	201711	3,000	1	社会科学
65	帝国の遺産と現代国際関係	納家政嗣：永野隆行	勁草書房	201711	4,000	1	社会科学
66	ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで	簑原俊洋：奈良岡聰智	ミネルヴァ書房	201601	3,000	1	社会科学
67	東アジアのなかの日本と中国：規範・外交・地域秩序	兪敏浩：今野茂充	晃洋書房	201612	2,700	1	社会科学
68	フランスの「文化外交」戦略に学ぶ：「文化の時代」の日本文化発信	渡辺啓貴	大修館書店	201305	1,700	1	社会科学
69	日本の近代化を支えた文化外交の軌跡：脱亜入欧からクール・ジャパンまで	高橋豊	福村出版	201512	4,000	1	社会科学
70	資料で学ぶ日本政治外交史	武田知己：鈴木宏尚	法律文化社	201702	2,400	1	社会科学
71	日本外交史ハンドブック：解説と資料	増田弘：佐藤晋	有信堂高文社	201604	3,000	1	社会科学
72	中国政治からみた日中関係	国分良成	岩波書店	201704	2,400	1	社会科学
73	日韓〈歴史対立〉と〈歴史対話〉：「歴史認識問題」和解の道を考える	鄭在貞：坂井俊樹	新泉社	201511	2,500	1	社会科学
74	日本はASEANとどう付き合うか：米中攻防時代の新戦略	千野境子	草思社	201509	1,800	1	社会科学
75	東アジア和解への道：歴史問題から地域安全保障へ	天児慧：李鍾元	岩波書店	201609	2,400	1	社会科学
76	アジアの国際関係：移行期の地域秩序	福田保	春風社	201803	2,500	1	社会科学
77	東アジアの政治と文化：近代化・安全保障・相互交流史	大内憲昭：渡辺憲正	明石書店	201603	3,600	1	社会科学
78	戦後アジア・ヨーロッパ関係史：冷戦・脱植民地化・地域主義	細谷雄一	慶応義塾大学出版会	201512	4,000	1	社会科学
79	ASEANを知るための50章	黒柳米司：金子芳樹	明石書店	201512	2,000	1	社会科学
80	インド第三の大国へ：〈戦略的自律〉外交の追求	堀本武功	岩波書店	201502	2,400	1	社会科学
81	国際政治学：主権国家体制とヨーロッパ政治外交	清水聡	法律文化社	201712	2,500	1	社会科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格(本体)	冊数	備考
82	超大国アメリカ100年史:戦乱・危機・協調・混沌の国際関係史	松岡完	明石書店	201603	2,800	1	社会科学
83	〈沖縄〉基地問題を知る事典	前田哲男:林博史	吉川弘文館	201302	2,400	1	社会科学
84	平和研究入門	木戸衛一	大阪大学出版会	201404	2,300	1	社会科学
85	平和を考えるための100冊＋α	日本平和学会	法律文化社	201401	2,000	1	社会科学
86	国際平和協力入門:国際社会への貢献と日本の課題	上杉勇司:藤重博美	ミネルヴァ書房	201805	2,800	1	社会科学
87	ライフステージから学ぶ法律入門	吉田稔:北山雅昭	ミネルヴァ書房	201403	2,800	1	社会科学
88	大学生が知っておきたい生活のなかの法律	細川幸一	慶応義塾大学出版会	201604	1,800	1	社会科学
89	ひと目でわかる六法入門	高瀬文人	三省堂	201804	800	1	社会科学
90	入門法と憲法	早田幸政	ミネルヴァ書房	201404	2,800	1	社会科学
91	アプローチ法学入門	山川一陽:根田正樹	弘文堂	201702	2,500	1	社会科学
92	法律の条文解釈入門:六法を引こう！	小室百合	信山社出版	201803	1,900	1	社会科学
93	伊藤真の法学入門:講義再現版	伊藤真	日本評論社	201702	1,500	1	社会科学
94	持続可能な社会を考える法律学入門	井上秀典	八千代出版	201612	3,200	1	社会科学
95	法学入門	早川吉尚	有斐閣	201603	1,800	1	社会科学
96	近代法思想史入門:日本と西洋の交わりから読む	大野達司:森元拓	法律文化社	201605	2,800	1	社会科学
97	公法入門	小泉洋一:島田茂(法律)	法律文化社	201602	1,800	1	社会科学
98	教養としての憲法入門	神野潔	弘文堂	201603	2,500	1	社会科学
99	はじめての憲法学	中村睦男:岩本一郎	三省堂	201504	2,600	1	社会科学
100	伊藤真の憲法入門:講義再現版	伊藤真	日本評論社	201709	1,700	1	社会科学
101	大学生のための憲法	君塚正臣	法律文化社	201804	2,500	1	社会科学
102	現代憲法入門講義	加藤一彦:植村勝慶	北樹出版	201703	2,800	1	社会科学
103	日本国憲法から考える現代社会・15講:グローバル時代の平和憲法	新井信之	有信堂高文社	201511	3,000	1	社会科学
104	憲法改正をよく考える	阪口正二郎:愛敬浩二	日本評論社	201805	2,000	1	社会科学
105	はじめての行政法	畠山武道:下井康史	三省堂	201604	3,300	1	社会科学
106	現代行政法入門	曽和俊文:山田洋	有斐閣	201504	2,600	1	社会科学
107	伊藤真の民法入門:講義再現版	伊藤真	日本評論社	201709	1,700	1	社会科学
108	民法入門	生田敏康:畑中久彌	法律文化社	201708	2,000	1	社会科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格(本体)	冊数	備考
109	18歳成人社会ハンドブック:制度改革と教育の課題	田中治彦	明石書店	201803	2,500	1	社会科学
110	伊藤真の商法入門:講義再現版	伊藤真	日本評論社	201504	1,700	1	社会科学
111	企業法入門	龍田節:杉浦市郎	日本評論社	201803	2,200	1	社会科学
112	現代会社法入門	北村雅史:柴田和史	有斐閣	201504	2,900	1	社会科学
113	少年法入門	沢登俊雄	有斐閣	201504	2,600	1	社会科学
114	国際人権入門	横田洋三	法律文化社	201305	2,700	1	社会科学
115	国際機構論. 総合編	渡部茂己:望月康恵	国際書院	201510	2,800	1	社会科学
116	入門国際機構	滝澤美佐子:富田麻理	法律文化社	201605	2,700	1	社会科学
117	有斐閣経済辞典	金森久雄:荒憲治郎	有斐閣	201312	4,200	1	社会科学
118	ハンドブック経済学	神戸大学経済経営学会	ミネルヴァ書房	201603	3,500	1	社会科学
119	経済社会学キーワード集	経済社会学会:富永健一	ミネルヴァ書房	201505	3,500	1	社会科学
120	入門経済学	森田雅憲	ミネルヴァ書房	201403	2,800	1	社会科学
121	よくわかる!ミクロ経済学入門	石橋春男:橋口宏行	慶応義塾大学出版会	201404	1,800	1	社会科学
122	実験経済学入門	下村研一	新世社(渋谷区)(発売:サイエンス社)	201509	1,800	1	社会科学
123	マンキュー入門経済学	N. グレゴリ・マンキュー:足立英之	東洋経済新報社	201403	3,200	1	社会科学
124	行動経済学入門	筒井義郎:佐々木俊一郎	東洋経済新報社	201705	2,400	1	社会科学
125	入門書を読む前の経済学入門	中矢俊博:上口晃	同文館出版	201703	2,000	1	社会科学
126	マクロ経済学入門	二神孝一	日本評論社	201704	2,200	1	社会科学
127	入門/公共経済学	土居丈朗	日本評論社	201803	2,900	1	社会科学
128	入門経済学	伊藤元重	日本評論社	201502	3,000	1	社会科学
129	ミクロ経済学・入門:ビジネスと政策を読みとく	柳川隆:町野和夫	有斐閣	201503	2,100	1	社会科学
130	入門ミクロ経済学	ハル・R. ヴァリアン:佐藤隆三	勁草書房	201508	4,000	1	社会科学
131	経済・政策分析のためのGIS入門:ArcGIS Pro対応. 2	河端瑞貴	古今書院	201804	2,600	1	社会科学
132	入門計量経済学:Excelによる実証分析へのガイド	山本拓:竹内明香	新世社(渋谷区)(発売:サイエンス社)	201311	2,500	1	社会科学
133	経済数学入門:初歩から一歩ずつ	丹野忠晋	日本評論社	201709	2,700	1	社会科学
134	資本主義を超えるマルクス理論入門	渡辺憲正:平子友長	大月書店	201609	2,400	1	社会科学
135	これからのマルクス経済学入門	松尾匡:橋本貴彦	筑摩書房	201603	1,500	1	社会科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
136	入門世界の経済：グローバリゼーション500年の歴史から何を学ぶか	中尾茂夫	文眞堂	201303	2,000	1	社会科学
137	ライブ・経済史入門：経済学と歴史学を架橋する	小田中直樹	勁草書房	201703	2,500	1	社会科学
138	日本経済の歴史：列島経済史入門	中西聡	名古屋大学出版会	201305	2,800	1	社会科学
139	日本経済入門	日経ビジネス【編】	日経BP社(発売：日経BPマーケティン)	201411	2,500	1	社会科学
140	新・日本経済入門	三橋規宏：内田茂男	日本経済新聞出版社	201503	3,000	1	社会科学
141	日本経済はどのように歩んできたか：現代日本経済史入門	板垣暁	日本経済評論社	201604	3,000	1	社会科学
142	中国経済入門：高度成長の終焉と安定成長への途	南亮進：牧野文夫	日本評論社	201612	2,600	1	社会科学
143	地域経済論入門	松原宏	古今書院	201408	2,800	1	社会科学
144	国際経済学入門：グローバル化と日本経済	高橋信弘	ナカニシヤ出版	201502	3,200	1	社会科学
145	世界を読む国際政治経済学入門	澤喜司郎	成山堂書店	201803	2,600	1	社会科学
146	貿易利益を得るのは誰か：国際貿易論入門	笠嶋修次	日本経済評論社	201409	3,000	1	社会科学
147	開発経済学入門	戸堂康之	新世社（渋谷区）(発売：サイエンス社)	201509	2,700	1	社会科学
148	人口論入門：歴史から未来へ	杉田菜穂	法律文化社	201709	2,100	1	社会科学
149	人の移動事典：日本からアジアへ・アジアから日本へ	吉原和男：蘭信三	丸善出版	201311	18,000	1	社会科学
150	現代ヨーロッパと移民問題の原点：1970、80年代、開かれたシティズンシップの生成	宮島喬	明石書店	201602	3,200	1	社会科学
151	文化資本論入門	池上惇	京都大学学術出版会	201701	1,800	1	社会科学
152	図解＆事例で学ぶプレゼンの教科書	西脇資哲：カデナクリエイト	マイナビ出版	201607	1,380	1	社会科学
153	ビジネスコミュニケーション：グローバル社会におけるビジネス基礎力と運用能力	堀眞由美	中央大学出版部	201703	1,400	1	社会科学
154	学生のためのキャリアデザイン入門：生き方・働き方の設計と就活準備	渡辺峻：伊藤健市	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201511	2,400	1	社会科学
155	入門考える技術・書く技術．スライド編	山崎康司	ダイヤモンド社	201611	1,500	1	社会科学
156	パワー・ライティング入門：説得力のある文章を書く技術	入部明子	大修館書店	201308	1,800	1	社会科学
157	日本語と英語でまなぶ企業分析入門	古賀智敏	千倉書房	201405	2,800	1	社会科学
158	入門経営分析	藤永弘：長井敏行	同文舘出版	201512	1,800	1	社会科学
159	管理会計・入門：戦略経営のためのマネジリアル・アカウンティング	浅田孝幸：頼誠	有斐閣	201705	2,300	1	社会科学
160	現代会計用語辞典	高須教夫：倉田幸路	税務経理協会	201608	2,900	1	社会科学
161	テキスト入門会計学	大塚宗春：福島隆	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201701	2,600	1	社会科学
162	新版会計学入門：会計・監査の基礎を学ぶ	千代田邦夫	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201803	3,000	1	社会科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
163	入門財務会計	藤井秀樹	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201703	3,400	1	社会科学
164	新・現代会計入門	伊藤邦雄	日本経済新聞出版社	201803	3,500	1	社会科学
165	簿記入門	小野保之：＝日出郎	森山書店	201404	2,200	1	社会科学
166	挫折しない簿記入門：練習問題でしっかり身につく！	松田修	清文社	201712	1,800	1	社会科学
167	監査論入門	長吉真一：伊藤竜峰	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201604	2,800	1	社会科学
168	入門税務会計	谷川喜美江	税務経理協会	201705	1,500	1	社会科学
169	金融の基礎：入門テキスト	藤木裕	東洋経済新報社	201604	2,600	1	社会科学
170	これならわかる金融経済：グローバル時代の日本経済入門	山田博文	大月書店	201309	2,400	1	社会科学
171	グローバル金融資本主義のゆくえ：現代社会を理解する経済学入門	鳥谷一生：松浦一悦	ミネルヴァ書房	201304	3,200	1	社会科学
172	入門財政学	土居丈朗	日本評論社	201704	2,800	1	社会科学
173	明解日本の財政入門	川村雄介：道盛大志郎	金融財政事情研究会(発売：きんざい)	201610	1,600	1	社会科学
174	入門公会計のしくみ	馬場英朗：大川裕介	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201610	3,200	1	社会科学
175	「税と社会貢献」入門：税の役割とあり方を考える	伏見俊行：馬欣欣	ぎょうせい	201406	3,400	1	社会科学
176	よくわかる税法入門	三木義一	有斐閣	201803	2,100	1	社会科学
177	よくわかる法人税法入門	三木義一：藤本純也	有斐閣	201504	2,200	1	社会科学
178	入門地方財政	林宏昭：橋本恭之	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201403	2,800	1	社会科学
179	国際社会学入門	石井香世子	ナカニシヤ出版	201703	2,200	1	社会科学
180	テキスト現代社会学	松田健	ミネルヴァ書房	201603	2,800	1	社会科学
181	よくわかる国際社会学	樽本英樹	ミネルヴァ書房	201604	2,800	1	社会科学
182	現代社会論：社会的課題の分析と解決の方策	松野弘	ミネルヴァ書房	201703	3,500	1	社会科学
183	現代の社会学的解読：イントロダクション社会学	山本努	学文社	201609	2,100	1	社会科学
184	カワイイ社会・学：成熟の先をデザインする	工藤保則	関西学院大学出版会	201507	1,600	1	社会科学
185	21世紀社会とは何か：「現代社会学」入門	船津衛：山田真茂留	恒星社厚生閣	201404	2,300	1	社会科学
186	大学生のための社会学入門：日本学術会議参照基準対応	篠原清夫：栗田真樹	晃洋書房	201607	2,200	1	社会科学
187	基礎社会学	永井良和：間淵領吾	世界思想社	201403	1,800	1	社会科学
188	〈私〉をひらく社会学：若者のための社会学入門	豊泉周治：鈴木宗徳	大月書店	201404	2,400	1	社会科学
189	社会学	奥井智之	東京大学出版会	201403	1,900	1	社会科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
190	教養としての現代社会入門	小林正幸	風塵社	201805	1,800	1	社会科学
191	グローバル化と私たちの社会	原田順子：北川由紀彦	放送大学教育振興会（発売：NHK出版）	201503	2,900	1	社会科学
192	社会学入門	森岡清志	放送大学教育振興会（発売：NHK出版）	201603	2,500	1	社会科学
193	現代人の国際社会学・入門：トランスナショナリズムという視点	西原和久：樽本英樹	有斐閣	201605	2,300	1	社会科学
194	現代社会論：社会学で探る私たちの生き方	本田由紀	有斐閣	201506	1,800	1	社会科学
195	ファッションで社会学する	藤田結子：成実弘至	有斐閣	201707	2,300	1	社会科学
196	現代社会への多様な眼差し：社会学の第一歩	大関雅弘	晃洋書房	201703	2,800	1	社会科学
197	今どきコトバ事情：現代社会学単語帳	井上俊：永井良和	ミネルヴァ書房	201601	2,000	1	社会科学
198	ボディ・スタディーズ：性、人種、階級、エイジング、健康／病の身体学への招	マーゴ・デメッロ：田中洋美	晃洋書房	201705	2,700	1	社会科学
199	エスノメソドロジーへの招待：言語・社会・相互行為	デイヴィッド・フランシス：スティーヴン・ヘスター	ナカニシヤ出版	201404	3,000	1	社会科学
200	大学生のための交渉術入門	野沢聡子	慶応義塾大学出版会	201712	1,600	1	社会科学
201	大学生からのグループ・ディスカッション入門：ワークシート課題付	中野美香	ナカニシヤ出版	201803	1,900	1	社会科学
202	社会心理学研究入門	安藤清志：村田光二	東京大学出版会	201711	2,900	1	社会科学
203	コミュニケーション実践入門：コミュニケーション力に磨きをかける	中山芳一	かもがわ出版	201512	1,300	1	社会科学
204	メディア学入門	飯田仁：近藤邦雄	コロナ社	201303	2,600	1	社会科学
205	知的技法としてのコミュニケーション：「話す力」は「生きる力」	児島建次郎：山田匡一	ミネルヴァ書房	201703	2,800	1	社会科学
206	大学生からはじめる社会人基礎力トレーニング	唐沢明	丸善出版	201704	2,200	1	社会科学
207	大学生のための異文化・国際理解：差異と多様性への誘い	高城玲	丸善出版	201701	2,200	1	社会科学
208	コミュニケーション研究：社会の中のメディア	大石裕	慶応義塾大学出版会	201604	2,800	1	社会科学
209	実践メディア・コンテンツ論入門	岩崎達也	慶応義塾大学出版会	201304	2,500	1	社会科学
210	入門メディア・コミュニケーション	山腰修三	慶応義塾大学出版会	201711	2,500	1	社会科学
211	異文化コミュニケーションのAtoZ：理論と実践の両面からわかる	小坂貴志	研究社	201710	2,300	1	社会科学
212	異文化理解入門：グローバルな時代を生きるための	原沢伊都夫	研究社	201307	2,200	1	社会科学
213	グローバル・コミュニケーション学入門	中西のりこ：仁科恭徳	三省堂	201805	2,300	1	社会科学
214	国際コミュニケーションの政治学	本多周爾	春風社	201706	3,000	1	社会科学
215	メディア学の現在	渡辺武達：田口哲也	世界思想社	201504	2,300	1	社会科学
216	メディアとコミュニケーションの文化史	伊藤明己	世界思想社	201409	2,300	1	社会科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
217	メディアは社会を変えるのか：メディア社会論入門	津田正太郎	世界思想社	201603	2,500	1	社会科学
218	文化とコミュニケーション	大屋幸恵：内藤暁子	北樹出版	201607	1,800	1	社会科学
219	はじめて学ぶ異文化コミュニケーション：多文化共生と平和構築に向けて	石井敏：久米昭元	有斐閣	201311	2,000	1	社会科学
220	ポスト〈カワイイ〉の文化社会学：女子たちの「新たな楽しみ」を探る	吉光正絵：池田太臣	ミネルヴァ書房	201704	3,500	1	社会科学
221	日本文化に何をみる？：ポピュラーカルチャーとの対話	東谷護：マイケル・モラスキー	共和国(発売：トランスビュー)	201603	1,800	1	社会科学
222	多文化「共創」社会入門：移民・難民とともに暮らし、互いに学ぶ社会へ	小泉康一：川村千鶴子	慶応義塾大学出版会	201610	2,200	1	社会科学
223	「ポピュラーカルチャー論」講義：時代意識の社会学	片上平二郎	晃洋書房	201707	2,300	1	社会科学
224	英語で案内する日本の伝統・大衆文化辞典	森口稔：ウィリアム・S・ファイファー	三省堂	201807	3,500	1	社会科学
225	感性文化論：〈終わり〉と〈はじまり〉の戦後昭和史	渡辺裕（音楽学）	春秋社	201704	2,600	1	社会科学
226	戦後サブカル年代記：日本人が愛した「終末」と「再生」	円堂都司昭	青土社	201509	2,400	1	社会科学
227	データで読む日本文化：高校生からの文学・社会学・メディア研究入門	成蹊大学文学部学会：小林盾	風間書房	201503	2,000	1	社会科学
228	日本サブカルチャーを読む：銀河鉄道の夜からAKB48まで	押野武志	北海道大学出版会	201503	2,800	1	社会科学
229	対話で育む多文化共生入門：ちがいを楽しみ、ともに生きる社会をめざして	倉八順子	明石書店	201607	2,200	1	社会科学
230	入門家族社会学	永田夏来：松木洋人	新泉社	201703	2,300	1	社会科学
231	島嶼学への誘い：沖縄からみる「島」の社会経済学	嘉数啓	岩波書店	201701	2,800	1	社会科学
232	コミュニティ政策学入門	三本松政之：北島健一	誠信書房	201403	2,400	1	社会科学
233	格差の社会学入門：学歴と階層から考える	平沢和司	北海道大学出版会	201403	2,500	1	社会科学
234	アンケート分析入門：Excelによる集計・評価・分析	菅民郎	オーム社	201806	3,200	1	社会科学
235	リサーチ入門：知的な論文・レポートのための	竹田茂生：藤木清	くろしお出版	201310	1,800	1	社会科学
236	パネルデータの調査と分析・入門	筒井淳也：水落正明	ナカニシヤ出版	201611	2,800	1	社会科学
237	最強の社会調査入門：これから質的調査をはじめる人のために	前田拓也：秋谷直矩	ナカニシヤ出版	201607	2,300	1	社会科学
238	質的研究のための理論入門：ポスト実証主義の諸系譜	プシュカラ・プラサド：箕浦康子	ナカニシヤ出版	201801	3,800	1	社会科学
239	社会調査事典	社会調査協会	丸善出版	201401	20,000	1	社会科学
240	行動科学の統計学：社会調査のデータ分析	永吉希久子	共立出版	201608	3,900	1	社会科学
241	実地調査入門：社会調査の第一歩	西山敏樹：常盤拓司	慶応義塾大学出版会	201509	1,600	1	社会科学
242	社会統計学入門	林拓也	放送大学教育振興会(発売：NHK出版)	201803	2,900	1	社会科学
243	社会デザインと教養	目白大学	三弥井書店	201612	1,800	1	社会科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
244	入門テキスト社会保障の基礎	西村淳（社会保障論）	東洋経済新報社	201604	3,000	1	社会科学
245	仕事の人類学：労働中心主義の向こうへ	中谷文美：宇田川妙子	世界思想社	201603	4,000	1	社会科学
246	キャリアデザイン入門	菊地信一	光生館	201404	2,000	1	社会科学
247	大学生のためのキャリアデザイン入門	岩上真珠：大槻奈巳	有斐閣	201406	1,800	1	社会科学
248	女性学入門：ジェンダーで社会と人生を考える	杉本貴代栄	ミネルヴァ書房	201802	2,800	1	社会科学
249	よくわかるジェンダー・スタディーズ：人文社会科学から自然科学まで	木村涼子：伊田久美子	ミネルヴァ書房	201303	2,600	1	社会科学
250	地図とデータで見る女性の世界ハンドブック	イザベル・アタネ：キャロル・ブリュジェイユ	原書房	201808	2,800	1	社会科学
251	ジェンダー・スタディーズ：女性学・男性学を学ぶ	牟田和恵	大阪大学出版会	201503	2,400	1	社会科学
252	ジェンダーとわたし：＜違和感＞から社会を読み解く	笹川あゆみ	北樹出版	201705	1,900	1	社会科学
253	はじめてのジェンダー論	加藤秀一	有斐閣	201704	1,800	1	社会科学
254	アジアのなかのジェンダー：多様な現実をとらえ考える	川島典子：三宅えり子	ミネルヴァ書房	201505	2,800	1	社会科学
255	13歳から知っておきたいLGBT＋	アシュリー・マーデル：須川綾子	ダイヤモンド社	201711	1,500	1	社会科学
256	入門貧困論：ささえあう／たすけあう社会をつくるために	金子充	明石書店	201708	2,500	1	社会科学
257	現代危機管理論：現代の危機の諸相と対策	前田雅英：公共政策調査会	立花書房	201706	2,500	1	社会科学
258	社会福祉の思想入門：なぜ「人」を助けるのか	秋山智久	ミネルヴァ書房	201602	2,800	1	社会科学
259	ライフストーリー・レビュー入門：過去に光を当てる、ナラティヴ・アプローチの新しい方	高松里	創元社（大阪）	201509	1,800	1	社会科学
260	援助関係論入門：「人と人との」関係性	稲沢公一	有斐閣	201706	1,900	1	社会科学
261	よくわかる障害学	小川喜道：杉野昭博	ミネルヴァ書房	201404	2,400	1	社会科学
262	はじめての障害者問題：社会が変われば「障害」も変わる	堀利和	現代書館	201308	1,300	1	社会科学
263	共に生きるための障害福祉学入門	結城俊哉	大月書店	201803	2,200	1	社会科学
264	災害ボランティア入門：実践から学ぶ災害ソーシャルワーク	山本克彦	ミネルヴァ書房	201804	2,500	1	社会科学
265	震災復興学：阪神・淡路20年の歩みと東日本大震災の教訓	神戸大学震災復興支援プラットフォーム	ミネルヴァ書房	201510	3,000	1	社会科学
266	ライフストーリーワーク入門：社会的養護への導入・展開がわかる実践ガイド	山本智佳央：楢原真也	明石書店	201511	2,200	1	社会科学
267	教育学入門	岡崎友典：永井聖二	放送大学教育振興会（発売：NHK出版）	201503	2,600	1	社会科学
268	ジェンダー化社会を超えて：教育・ライフコース・アイデンティティ	望月重信：春日清孝	学文社	201603	2,300	1	社会科学
269	入門・子ども社会学：子どもと社会・子どもと文化	南本長穂：山田浩之	ミネルヴァ書房	201504	2,400	1	社会科学
270	すぐ実践できる情報スキル50：学校図書館を活用して育む基礎力	塩谷京子	ミネルヴァ書房	201604	2,200	1	社会科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
271	調べる・発表する伝え方教室	大重史朗	旬報社	201512	1,500	1	社会科学
272	アクティブ・ラーニング入門．２	小林昭文	産業能率大学出版部	201707	1,700	1	社会科学
273	アクティブラーニング入門：アクティブラーニングが授業と生徒を変える	小林昭文	産業能率大学出版部	201504	1,500	1	社会科学
274	自己発見と大学生活：初年次教養教育のためのワークブック	松尾智晶：中沢正江	ナカニシヤ出版	201704	1,500	1	社会科学
275	体験の言語化	早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンタ	成文堂	201611	3,500	1	社会科学
276	体験の言語化実践ハンドブック	早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンタ	成文堂	201803	1,400	1	社会科学
277	ノーベル賞の事典	秋元格：鈴木一郎（科学ジャーナリスト）	東京堂出版	201403	3,600	1	社会科学
278	自立へのキャリアデザイン：地域で働く人になりたいみなさんへ	旦まゆみ	ナカニシヤ出版	201709	1,800	1	社会科学
279	大学で学ぶということ：ゼミを通した学びのリエゾン	田中俊也：山田嘉徳	ナカニシヤ出版	201504	1,800	1	社会科学
280	グループ学習入門：学びあう場づくりの技法	新井和広：坂倉杏介	慶応義塾大学出版会	201304	1,200	1	社会科学
281	新よくわかるライフデザイン入門：大学でどのように学ぶか	大学導入教育研究会	古今書院	201802	1,900	1	社会科学
282	社会人基礎力：大学生の社会人準備講座	稲本恵子：白井弘子	晃洋書房	201803	1,500	1	社会科学
283	女子学生のキャリアデザイン：自分らしさとワークライフバランス	野村康則：竹内雄司	水曜社	201704	1,600	1	社会科学
284	大学生学びのハンドブック：勉強法がよくわかる！	世界思想社	世界思想社	201801	1,200	1	社会科学
285	大学生になるってどういうこと？：学習・生活・キャリア形成	植上一希：寺崎里水	大月書店	201404	1,900	1	社会科学
286	ゼミで学ぶスタディスキル	南田勝也：矢田部圭介	北樹出版	201703	1,900	1	社会科学
287	大学生のためのキャリアガイドブック	寿山泰二：宮城まり子	北大路書房	201602	1,800	1	社会科学
288	大学での学びをアクティブにするアカデミック・スキル入門	伊藤奈賀子：富原一哉	有斐閣	201603	1,700	1	社会科学
289	日本の手話・形で覚える手話入門：あの手話の意味はなんだろう？	竹村茂：たかねきゃら	ジアース教育新社	201504	2,500	1	社会科学
290	ワークショップデザイン論：創ることで学ぶ	山内祐平：森玲奈	慶応義塾大学出版会	201306	1,800	1	社会科学
291	はじめて学ぶ民俗学	市川秀之：中野紀和	ミネルヴァ書房	201509	2,800	1	社会科学
292	新・民俗学を学ぶ：現代を知るために	八木透	昭和堂（京都）	201303	2,400	1	社会科学
293	日本生活史辞典	木村茂光：安田常雄	吉川弘文館	201611	27,000	1	社会科学
294	民俗学事典	民俗学事典編集委員会	丸善出版	201412	20,000	1	社会科学
295	島	田辺悟	法政大学出版局	201512	3,200	1	社会科学
296	日本文化事典	神崎宣武：白幡洋三郎	丸善出版	201601	20,000	1	社会科学
297	江戸の風俗事典	石井明	東京堂出版	201611	3,200	1	社会科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
298	図説日本服飾史事典	増田美子	東京堂出版	201709	24,000	1	社会科学
299	織物	植村和代	法政大学出版局	201412	3,200	1	社会科学
300	47都道府県・伝統調味料百科	成瀬宇平	丸善出版	201307	3,800	1	社会科学
301	47都道府県・和菓子／郷土菓子百科	亀井千歩子	丸善出版	201601	3,800	1	社会科学
302	事典和菓子の世界	中山圭子（和菓子研究）	岩波書店	201803	2,800	1	社会科学
303	日本の食文化史：旧石器時代から現代まで	石毛直道	岩波書店	201511	3,200	1	社会科学
304	食科学入門：食の総合的理解のために	朝倉敏夫：井澤裕司	昭和堂（京都）	201804	2,300	1	社会科学
305	酒	吉田元	法政大学出版局	201508	2,500	1	社会科学
306	磯	田辺悟	法政大学出版局	201401	3,900	1	社会科学
307	江戸の暮らし図鑑：女性たちの日常	菊地ひと美	東京堂出版	201502	3,600	1	社会科学
308	文化としてのマナー	熊倉功夫	岩波書店	201401	2,400	1	社会科学
309	未来記念日：アニバーサリー2017～2022	日外アソシエーツ	日外アソシエーツ(発売：紀伊國屋書店日外アソ)	201610	2,750	1	社会科学
310	怪異の風景学	佐々木高弘	古今書院	201410	2,800	1	社会科学
311	47都道府県・妖怪伝承百科	飯倉義之：香川雅信	丸善出版	201709	3,800	1	社会科学
312	英語のことわざ	北村孝一：クリスティン・ニュートン	クレス出版	201702	1,800	1	社会科学
313	文化人類学のレッスン	梅屋潔：シンジルト	学陽書房	201702	2,000	1	社会科学
314	「共感」へのアプローチ：文化人類学の第一歩	渥美一弥	春風社	201603	2,000	1	社会科学
315	ようこそ文化人類学へ：異文化をフィールドワークする君たちに	川口幸大	昭和堂（京都）	201704	2,200	1	社会科学
316	グローバル化時代の文化・社会を学ぶ：文化人類学／社会学の新しい基礎教養	長友淳	世界思想社	201704	1,900	1	社会科学
317	社会人類学入門：多文化共生のために	ジョイ・ヘンドリー：桑山敬己	法政大学出版局	201707	3,800	1	社会科学
318	世界民族百科事典	国立民族学博物館	丸善出版	201407	20,000	1	社会科学
319	21世紀の文化人類学：世界の新しい捉え方	前川啓治：箭内匡	新曜社	201806	2,800	1	社会科学
320	菊と刀：日本文化の型	ルース・フルトン・ベネディクト：越智敏之	平凡社	201308	1,400	1	社会科学
321	数える・はかる・単位の事典	武藤徹：三浦基弘	東京堂出版	201711	3,200	1	社会科学
322	土の百科事典	土の百科事典編集委員会	丸善出版	201401	20,000	1	社会科学
323	47都道府県・米／雑穀百科	井上繁	丸善出版	201710	3,800	1	社会科学
324	中世の喫茶文化：儀礼の茶から「茶の湯」へ	橋本素子	吉川弘文館	201802	1,700	1	社会科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
325	世界の茶文化図鑑	ティーピッグズ：ルイーズ・チードル	原書房	201709	5,000	1	社会科学
326	茶の事典：世界の茶のこと、茶の世界のこと。	大森正司：阿南豊正	朝倉書店	201709	10,000	1	社会科学
327	栗	今井敬潤	法政大学出版局	201406	2,700	1	社会科学
328	日本庭園の歴史と文化	小野健吉	吉川弘文館	201510	3,500	1	社会科学
329	47都道府県・公園／庭園百科	西田正憲：飛田範夫	丸善出版	201708	3,800	1	社会科学
330	世界で一番美しい馬の図鑑	タムシン・ピッケラル：川岸史	エクスナレッジ	201709	3,800	1	社会科学
331	47都道府県・地鶏百科	成瀬宇平：横山次郎	丸善出版	201407	3,800	1	社会科学
332	交通経済学入門	竹内健蔵	有斐閣	201802	2,400	1	社会科学
333	全国駅名事典	星野真太郎：前里孝	創元社（大阪）	201612	3,600	1	社会科学
334	世界をもてなす語学ボランティア入門	イーオン	朝日出版社	201705	1,500	1	社会科学
335	脱！スマホのトラブル：LINE　フェイスブック　ツイッターやって良いこと	佐藤佳弘	武蔵野大学出版会	201803	1,350	1	社会科学
			社会科学の小計		**1,043,480**	**335**	
336	はじめて学ぶ科学史	山中康資	共立出版	201409	2,000	1	自然科学
337	歴史でわかる科学入門	ウィリアム・バイナム：藤井美佐子	太田出版	201312	1,800	1	自然科学
338	現代科学史大百科事典	ジョン・L. ハイルブロン：太田次郎	朝倉書店	201405	27,000	1	自然科学
339	科学者、あたりまえを疑う	佐藤文隆	青土社	201601	1,900	1	自然科学
340	大英自然史博物館の《至宝》250	大英自然史博物館：武井摩利	創元社（大阪）	201703	3,600	1	自然科学
341	数学図鑑：やりなおしの高校数学	永野裕之：ジーグレイプ	オーム社	201801	2,200	1	自然科学
342	大学新入生のための基礎数学	桑野泰宏	コロナ社	201502	2,400	1	自然科学
343	数学再入門：心に染みこむ数学の考え方	長岡亮介	日本評論社	201401	2,200	1	自然科学
344	代数学入門：先につながる群，環，体の入門	川口周	日本評論社	201709	2,300	1	自然科学
345	これだけ！線形代数	石井俊全	秀和システム	201708	1,800	1	自然科学
346	初学者のための数論入門	西来路文朗：清水健一	講談社	201704	1,600	1	自然科学
347	徹底入門解析学	梅田亨	日本評論社	201702	3,000	1	自然科学
348	基礎からの微分積分	桑野泰宏	コロナ社	201403	2,400	1	自然科学
349	入門経済学のための微分・積分：高校数学から経済数学へ	小宮英敏	東洋経済新報社	201504	2,400	1	自然科学
350	経済学を学ぶためのはじめての微分法	浦田健二：神谷諭一	同文館出版	201708	2,400	1	自然科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
351	入門微分積分	石崎克也	放送大学教育振興会(発売:NHK出版)	201603	3,000	1	自然科学
352	Excelで学ぶ多変量解析入門:Excel 2013／Excel 2010対応版	菅民郎	オーム社	201304	2,800	1	自然科学
353	Pythonによる統計分析入門	山内長承	オーム社	201805	2,700	1	自然科学
354	データサイエンス入門:Excelで学ぶ統計データの見方・使い方・集め方	上藤一郎:西川浩昭	オーム社	201801	2,300	1	自然科学
355	挫折しない統計学入門:数学苦手意識を克服する	浅野晃	オーム社	201701	2,200	1	自然科学
356	土木・交通工学のための統計学:基礎と演習	轟朝幸:金子雄一郎	コロナ社	201510	2,500	1	自然科学
357	統計学が最強の学問である. 実践編	西内啓	ダイヤモンド社	201410	1,900	1	自然科学
358	統計学が最強の学問である[数学編]:データ分析と機械学習のための新しい教科書	西内啓	ダイヤモンド社	201712	2,400	1	自然科学
359	統計解析の基礎:データ解析の基本と実践	内山敏典	晃洋書房	201501	2,900	1	自然科学
360	統計学のキホンQ&A100:いまさら聞けない疑問に答える	ニール・J・サルキンド:山田剛史	新曜社	201709	1,900	1	自然科学
361	文系のためのデータ分析入門:Rで統計を学ぼう！	長島直樹:石田実	中央経済社(発売:中央経済グループパブ)	201711	2,500	1	自然科学
362	スタンダード文科系の統計学	中西寛子:竹内光悦	培風館	201804	2,200	1	自然科学
363	初歩からの物理	岸根順一郎:米谷民明	放送大学教育振興会(発売:NHK出版)	201603	3,300	1	自然科学
364	相対性理論	小林努	日本評論社	201708	2,200	1	自然科学
365	量子力学	畠山温	日本評論社	201711	2,200	1	自然科学
366	カラー入門基礎から学ぶ物理学	北林照幸:藤城武彦	講談社	201806	2,600	1	自然科学
367	流体力学	杉山弘:遠藤剛	森北出版	201409	2,600	1	自然科学
368	熱力学入門講義	風間洋一	培風館	201709	2,500	1	自然科学
369	楽しみながら学ぶ電磁気学入門	山崎耕造	共立出版	201709	2,000	1	自然科学
370	教養としての化学入門:未来の課題を解決するために	キンバリー・ウォールドロン:竹内敬人	化学同人	201608	3,000	1	自然科学
371	化学のちからー生命・環境・エネルギーの理解のためにー	岡野光俊	裳華房	201803	2,100	1	自然科学
372	化学はこんなに役に立つ:やさしい化学入門	山崎昶	裳華房	201311	2,200	1	自然科学
373	初歩からの化学	安池智一:鈴木啓介	放送大学教育振興会(発売:NHK出版)	201803	3,100	1	自然科学
374	有機化学	久保拓也:細矢憲	化学同人	201712	2,200	1	自然科学
375	宇宙地球科学	佐藤文衛:綱川秀夫	講談社	201801	3,800	1	自然科学
376	138億年宇宙の旅	クリストフ・ガルファール:塩原通緒	早川書房	201711	2,400	1	自然科学
377	初歩からの宇宙の科学	吉岡一男(天文学)	放送大学教育振興会(発売:NHK出版)	201703	3,400	1	自然科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格(本体)	冊数	備考
378	測地学入門:地球上の位置の決定	西修二郎	技報堂出版	201706	2,500	1	自然科学
379	世界伝説歴史地図:ヴィジュアル版	ジュディス・A. マクラウド:大槻敦子(翻訳)	原書房	201301	4,800	1	自然科学
380	QGIS入門	今木洋大:岡安利治	古今書院	201509	3,300	1	自然科学
381	経済・政策分析のためのGIS入門:ArcGIS　Pro対応. 1	河端瑞貴	古今書院	201804	2,600	1	自然科学
382	大学テキスト地図読解入門	篭瀬良明:卜部勝彦	古今書院	201704	2,000	1	自然科学
383	地図入門	今尾恵介	講談社	201504	1,600	1	自然科学
384	世界の暦文化事典	中牧弘允	丸善出版	201711	12,000	1	自然科学
385	自然地理学	松山洋:川瀬久美子	ミネルヴァ書房	201407	3,000	1	自然科学
386	生命の惑星:ビッグバンから人類までの地球の進化	チャールズ・H. ラングミューアー:ウォーレス・S. ブロッカー	京都大学学術出版会	201412	6,200	1	自然科学
387	自然地理学:地球環境の過去・現在・未来	松原彰子	慶応義塾大学出版会	201703	2,400	1	自然科学
388	地震・火山や生物でわかる地球の科学	松田准一	大阪大学出版会	201702	1,600	1	自然科学
389	地球の科学:変動する地球とその環境	佐藤暢	北樹出版	201710	2,100	1	自然科学
390	自然地理学事典	小池一之:山下脩二	朝倉書店	201701	18,000	1	自然科学
391	トコトン図解気象学入門	釜堀弘隆:川村隆一	講談社	201803	2,600	1	自然科学
392	図解入門最新気象学のキホンがよ〜くわかる本	岩槻秀明	秀和システム	201712	2,300	1	自然科学
393	地球温暖化の事典	国立環境研究所地球環境研究センター	丸善出版	201403	4,800	1	自然科学
394	気候の文化史:氷期から地球温暖化まで	ヴォルフガング・ベーリンガー:松岡尚子	丸善プラネット(発売:丸善出版)	201402	2,800	1	自然科学
395	やさしい気候学	仁科淳司	古今書院	201403	2,400	1	自然科学
396	気候変動の事典	山川修治:常盤勝美	朝倉書店	201712	8,500	1	自然科学
397	日本気候百科	日下博幸:藤部文昭	丸善出版	201801	20,000	1	自然科学
398	はじめて学ぶ海洋学	横瀬久芳	朝倉書店	201509	1,800	1	自然科学
399	温泉と地球科学:温泉を通して読み解く地球の営み	大沢信二:西村進	ナカニシヤ出版	201609	2,000	1	自然科学
400	恐竜学入門:かたち・生態・絶滅	デイヴィッド・E. ファストフスキー:デイヴィッド・B. ワイシャンペル	東京化学同人	201501	6,800	1	自然科学
401	教養としての生命科学:いのち・ヒト・社会を考える	小泉修	丸善出版	201701	2,400	1	自然科学
402	バイオテクノロジー入門	高畑京也:蔡晃植	建帛社	201604	2,200	1	自然科学
403	新しい教養のための生物学	赤坂甲治	裳華房	201702	2,400	1	自然科学
404	生物学入門	石川統:大森正之	東京化学同人	201302	2,200	1	自然科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
405	岩波生物学辞典	巌佐庸：倉谷滋	岩波書店	201302	13,000	1	自然科学
406	世界の絶滅危惧生物図鑑：IUCNレッドリスト	国際自然保護連合：岩槻邦男	丸善出版	201401	3,800	1	自然科学
407	利己的な遺伝子：40周年記念版	リチャード・ドーキンス：日＝敏隆	紀伊國屋書店	201802	2,700	1	自然科学
408	大学生のための生態学入門	原登志彦：西村尚之	共立出版	201712	2,400	1	自然科学
409	生物多様性概論：自然のしくみと社会のとりくみ	宮下直：瀧本岳	朝倉書店	201703	2,800	1	自然科学
410	競争から共生の社会へ：自然のメカニズムから学ぶ	中山智晴	北樹出版	201609	2,300	1	自然科学
411	海洋科学入門：海の低次生物生産過程	多田邦尚：一見和彦	恒星社厚生閣	201409	2,700	1	自然科学
412	〈花〉の構造：日本文化の基層	石川九楊	ミネルヴァ書房	201604	2,000	1	自然科学
413	世界で一番美しい海のいきもの図鑑	吉野雄輔：武田正倫	創元社（大阪）	201506	3,600	1	自然科学
414	教養のための昆虫学	平嶋義宏：広渡俊哉	東海大学出版部	201707	3,000	1	自然科学
415	はじめての魚類学	宮崎祐介：福井歩	オーム社	201807	2,800	1	自然科学
416	タツノオトシゴ図鑑	サラ・ローリー：曽我部篤	丸善出版	201804	2,800	1	自然科学
417	世界の原色の鳥図鑑	川上和人：柴田佳秀	エクスナレッジ	201709	3,200	1	自然科学
418	世界で一番美しいサルの図鑑	京都大学霊長類研究所	エクスナレッジ	201711	2,800	1	自然科学
419	教養としての生命倫理	村松聡：松島哲久	丸善出版	201603	2,600	1	自然科学
420	生命倫理学入門	今井道夫	産業図書	201702	2,400	1	自然科学
421	生理学	須田和裕：石渡貴之	化学同人	201508	2,600	1	自然科学
422	からだの中の化学	立屋敷哲	丸善出版	201703	2,800	1	自然科学
423	からだと病気のしくみ：オールカラー	田中文彦	マイナビ出版	201803	1,840	1	自然科学
424	痛み・鎮痛のしくみ：オールカラー	橋口さおり	マイナビ出版	201707	1,840	1	自然科学
425	ストレス・マネジメント入門：自己診断と対処法を学ぶ	中野敬子	金剛出版	201603	2,800	1	自然科学
426	わかる統計学：健康・栄養を学ぶために	松村康弘：浅川雅美	化学同人	201508	2,200	1	自然科学
427	市民のための健康情報学入門	戸ケ里泰典：中山和弘	放送大学教育振興会(発売：NHK出版)	201303	2,500	1	自然科学
428	食育入門：生活に役立つ食のサイエンス	垣原登志子：上田博史	共立出版	201403	2,000	1	自然科学
429	地域食材大百科．第10巻	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会	201301	13,000	1	自然科学
430	地域食材大百科．第11巻	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会	201307	13,000	1	自然科学
431	地域食材大百科．第12巻	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会	201310	13,000	1	自然科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
432	地域食材大百科. 第13巻	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会	201401	13,000	1	自然科学
433	地域食材大百科. 第14巻	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会	201403	11,000	1	自然科学
434	地域食材大百科. 第15巻	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会	201407	13,000	1	自然科学
435	ハンセン病講義：学生に語りかけるハンセン病	大野哲夫：花田昌宣	現代書館	201305	2,500	1	自然科学
436	入門・エネルギーの経済学	藤井秀昭	日本評論社	201406	2,200	1	自然科学
437	知的財産法入門	土肥一史	中央経済社(発売：中央経済グループパブ)	201510	3,400	1	自然科学
438	国際知的財産法入門	木棚照一	日本評論社	201804	3,000	1	自然科学
439	ものづくりの英語表現	松崎久純	三修社	201510	2,000	1	自然科学
440	入門テキスト安全学	向殿政男	東洋経済新報社	201603	2,200	1	自然科学
441	これだけ！コンクリート	岩瀬泰己	秀和システム	201510	1,500	1	自然科学
442	絵とき土木計画	宮田隆弘：渡辺淳	オーム社	201307	2,500	1	自然科学
443	全世界の河川事典	高橋裕：寶馨	丸善出版	201307	24,000	1	自然科学
444	リノベーションの教科書：企画・デザイン・プロジェクト	小池志保子：宮部浩幸	学芸出版社（京都）	201804	2,800	1	自然科学
445	パブリックライフ学入門	ヤン・ゲール：ビアギッテ・スヴァア	鹿島出版会	201607	2,500	1	自然科学
446	よくわかる環境社会学	鳥越皓之：帯谷博明	ミネルヴァ書房	201704	2,800	1	自然科学
447	環境科学入門：地球と人類の未来のために	川合真一郎：張野宏也	化学同人	201802	2,300	1	自然科学
448	環境経済・政策学事典	環境経済・政策学会	丸善出版	201805	20,000	1	自然科学
449	地球環境学入門	山崎友紀	講談社	201512	2,800	1	自然科学
450	サステイナビリティ学入門	周い生	法律文化社	201304	2,600	1	自然科学
451	はじめての環境学	北川秀樹：増田啓子	法律文化社	201801	2,900	1	自然科学
452	文系のための環境科学入門	藤倉良：藤倉まなみ	有斐閣	201606	2,300	1	自然科学
453	おだやかで恵み豊かな地球のために：地球人間圏科学入門	鈴木康弘：山岡耕春	古今書院	201806	2,800	1	自然科学
454	水俣から寄り添って語る	水俣フォーラム	岩波書店	201804	1,800	1	自然科学
455	水俣へ受け継いで語る	水俣フォーラム	岩波書店	201804	1,800	1	自然科学
456	自然保護学入門：ひとと自然をつなぐ	筑波大学自然保護寄附講座	筑波大学出版会(発売：丸善出版)	201804	2,900	1	自然科学
457	社会安全学入門：理論・政策・実践	関西大学社会安全学部	ミネルヴァ書房	201804	2,800	1	自然科学
458	世界の廃墟図鑑：産業・科学・文化遺産	キーロン・コノリー：岡本千晶	原書房	201610	5,000	1	自然科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
459	これだけ！電気設備	菊地至：内野栄吉	秀和システム	201509	1,600	1	自然科学
460	絵とき機械工学のやさしい知識	小町弘：吉田裕亮	オーム社	201410	2,700	1	自然科学
461	絵ときでわかる機械材料	門田和雄	オーム社	201806	2,300	1	自然科学
462	絵ときでわかる機構学	宇津木諭：住野和男	オーム社	201807	2,300	1	自然科学
463	これだけ！航空工学	飯野明	秀和システム	201604	1,900	1	自然科学
464	世界の航空機大図鑑	フィリップ・ホワイトマン：中川泉	河出書房新社	201507	6,800	1	自然科学
465	世界の飛行機：ヴィジュアル歴史図鑑	リッカルド・ニッコリ：中川泉	河出書房新社	201408	3,800	1	自然科学
466	完全図解電気と電子の基礎教室：回路の理解から制御まで	大浜庄司	オーム社	201408	2,800	1	自然科学
467	図解でわかるはじめての電気回路	大熊康弘	技術評論社	201708	2,380	1	自然科学
468	電気（交流回路）の基礎：数学の復習から始める！	大須賀哲夫：磯山利夫	日刊工業新聞社	201303	1,600	1	自然科学
469	絵ときでわかる電気電子計測	熊谷文宏	オーム社	201710	2,500	1	自然科学
470	例題で学ぶはじめての電源回路	柿ヶ野浩明	技術評論社	201712	2,180	1	自然科学
471	詳説福島原発・伊方原発年表	澤正宏（福島大学名誉教授）	クロスカルチャー出版（発売：八木書店）	201802	25,000	1	自然科学
472	電気自動車：これからの「クルマ」を支えるしくみと技術	森本雅之	森北出版	201709	2,600	1	自然科学
473	ICTことば辞典：ネット時代のニュースがよくわかる250の重要キーワ	大谷和利：三橋ゆか里	三省堂	201507	2,000	1	自然科学
474	ゼロからわかるネットワーク超入門：TCP／IP基本のキホン	柴田晃	技術評論社	201708	1,940	1	自然科学
475	学生のためのSNS活用の技術	高橋大洋：佐山公一	講談社	201802	2,200	1	自然科学
476	脱！SNSのトラブル：LINE・フェイスブック・ツイッターやって良いこと	佐藤佳弘	武蔵野大学出版会	201711	1,350	1	自然科学
477	インターネットの光と影：被害者・加害者にならないための情報倫理入門	情報教育学研究会：情報倫理教育研究グループ	北大路書房	201802	2,000	1	自然科学
478	JavaScriptの絵本：Webプログラミングを始める新しい9つの扉	アンク	翔泳社	201709	1,680	1	自然科学
479	はじめての画像処理技術	岡崎彰夫	森北出版	201512	2,200	1	自然科学
480	図解コンピュータ概論［ハードウェア］	橋本洋志：小林裕之	オーム社	201711	2,500	1	自然科学
481	絵ときでわかるロボット工学	川嶋健嗣：只野耕太郎	オーム社	201407	2,500	1	自然科学
482	例題で学ぶはじめての自動制御	臼田昭司	技術評論社	201801	2,180	1	自然科学
483	絵ときディジタル回路入門早わかり：2色刷	堀桂太郎：岩本洋	オーム社	201607	2,300	1	自然科学
484	読める描ける電子回路入門	千葉憲昭	技術評論社	201709	1,980	1	自然科学
485	はじめての電子回路15講	秋田純一	講談社	201610	2,200	1	自然科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
486	例題で学ぶはじめての半導体	臼田昭司	技術評論社	201702	2,180	1	自然科学
487	メガフロートから海上都市へ	海洋建築研究会	成山堂書店	201703	1,700	1	自然科学
488	これだけ！溶接	野原英孝	秀和システム	201701	1,500	1	自然科学
489	これだけ！めっき	田原譲	秀和システム	201507	1,400	1	自然科学
490	これだけ！電池	板子一隆：工藤嗣友	秀和システム	201504	1,500	1	自然科学
491	これだけ！燃料電池	坂本一郎	秀和システム	201509	1,400	1	自然科学
492	コスメティックサイエンス：化粧品の世界を知る	宮澤三雄：安藤秀哉	共立出版	201406	3,500	1	自然科学
493	ビール大全	ランディ・モーシャー：土岐田明日香	楽工社	201708	5,800	1	自然科学
494	醤油	吉田元	法政大学出版局	201803	2,600	1	自然科学
495	ファッション誌をひもとく	富川淳子	北樹出版	201705	1,700	1	自然科学
496	衣服の百科事典	日本家政学会	丸善出版	201504	20,000	1	自然科学
497	被服学事典	牛腸ヒロミ：布施谷節子	朝倉書店	201610	18,000	1	自然科学
498	47都道府県・乾物／干物百科	星名桂治	丸善出版	201701	3,800	1	自然科学
499	世界の六大料理基本事典	服部幸應	東京堂出版	201502	3,400	1	自然科学
500	47都道府県・汁物百科	野崎洋光：成瀬宇平	丸善出版	201506	3,800	1	自然科学
501	和食の英語表現事典	亀田尚己：青柳由紀江	丸善出版	201610	3,800	1	自然科学
502	和食の常識Q＆A百科	堀知佐子：成瀬宇平	丸善出版	201512	3,800	1	自然科学
			自然科学の小計		**671,450**	**167**	
503	「知の技法」入門	小林康夫：大澤真幸	河出書房新社	201410	1,500	1	人文科学
504	はじめての人文学：文化を学ぶ、世界と繋がる	佐藤貴史：仲松優子	知泉書館	201803	2,200	1	人文科学
505	学ぶ力のトレーニング：未来のあなたがつくる今の自分	石村康生：角田博明	東海大学出版部	201704	1,800	1	人文科学
506	ピアで学ぶ大学生の日本語表現：プロセス重視のレポート作成	大島弥生：池田玲子	ひつじ書房	201407	1,600	1	人文科学
507	大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法	松本茂（コミュニケーション教育学）：河野哲也	玉川大学出版部	201503	1,500	1	人文科学
508	思考を鍛える大学の学び入門：論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで	井下千以子	慶応義塾大学出版会	201704	1,200	1	人文科学
509	資料検索入門：レポート・論文を書くために	市古みどり：上岡真紀子	慶応義塾大学出版会	201401	1,200	1	人文科学
510	人工知能入門	小高知宏	共立出版	201509	2,300	1	人文科学
511	入門デジタルアーカイブ：まなぶ・つくる・つかう	柳与志夫	勉誠出版	201712	2,500	1	人文科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
512	情報処理入門：学士力のためのIT基礎スキル	深井裕二	コロナ社	201602	2,600	1	人文科学
513	大学一年生のための情報リテラシー	小棹理子	丸善出版	201803	2,000	1	人文科学
514	コンピュータ概論：情報システム入門	魚田勝臣：渥美幸雄	共立出版	201702	2,800	1	人文科学
515	デジタル情報の活用と技術	毒島雄二：小林貴之	共立出版	201703	2,200	1	人文科学
516	大学生の知の情報ツール：MS－Office2013対応．2	森園子	共立出版	201505	2,300	1	人文科学
517	例題で学ぶExcel入門	大堀隆文：深井裕二	コロナ社	201404	2,000	1	人文科学
518	情報活用とアカデミック・スキル　Office2016	松山恵美子：黄海湘	共立出版	201802	2,700	1	人文科学
519	これならわかる！　Linux入門講座	水口克也	秀和システム	201411	2,500	1	人文科学
520	これ一冊で安心！エクセル関数本当の入門講座	表恭子	秀和システム	201603	1,300	1	人文科学
521	たのしいRuby	高橋征義：後藤裕蔵	SBクリエイティブ	201603	2,600	1	人文科学
522	やさしいC＃	高橋麻奈	SBクリエイティブ	201604	2,580	1	人文科学
523	やさしいPython	高橋麻奈	SBクリエイティブ	201805	2,580	1	人文科学
524	新・明解C＋＋入門	柴田望洋	SBクリエイティブ	201712	2,750	1	人文科学
525	やさしく学べるC言語入門：基礎から数値計算入門まで	皆本晃弥	サイエンス社	201503	2,600	1	人文科学
526	ゼロからやさしくはじめるPython入門：基本からスタートして、ゲームづくり、機械学習まで学	クジラ飛行机	マイナビ出版	201801	2,310	1	人文科学
527	ちゃんと使える力を身につけるJava　Scriptのきほんのきほん	大澤文孝	マイナビ出版	201711	2,480	1	人文科学
528	ちゃんと使える力を身につけるJavaプログラミング入門	大沢文孝	マイナビ出版	201604	2,480	1	人文科学
529	これからはじめるIllustratorの本：CC2017対応版	ロクナナワークショップ	技術評論社	201702	1,880	1	人文科学
530	これからはじめるPhotoshopの本：CC2017対応版	宮川千春：木俣カイ	技術評論社	201702	1,980	1	人文科学
531	マイクロ・ライブラリー：人とまちをつなぐ小さな図書館	まちライブラリー：マイクロ・ライブラリーサミット実行委員会	学芸出版社（京都）	201505	1,800	1	人文科学
532	まちライブラリーのつくりかた：本で人をつなぐ	礒井純充	学芸出版社（京都）	201501	1,800	1	人文科学
533	読書と豊かな人間性	朝比奈大作：米谷茂則	放送大学教育振興会（発売：NHK出版）	201506	2,300	1	人文科学
534	世界を変えた本	マイケル・コリンズ：樺山紘一	エクスナレッジ	201806	3,800	1	人文科学
535	ミュージアム・マネージメント学事典	日本ミュージアム・マネージメント学会	学文社	201506	6,500	1	人文科学
536	現代ジャーナリズムを学ぶ人のために	大井眞二：田村紀雄	世界思想社	201804	2,300	1	人文科学
537	日本メディア史年表	土屋礼子	吉川弘文館	201801	6,500	1	人文科学
538	仕事に役立つ専門紙・業界紙	吉井潤	青弓社	201705	1,600	1	人文科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格(本体)	冊数	備考
539	哲学中辞典	尾関周二:後藤道夫	知泉書館	201611	5,200	1	人文科学
540	哲学をはじめよう	戸田剛文:松枝啓至	ナカニシヤ出版	201403	2,000	1	人文科学
541	哲学はじめの一歩	立正大学	春風社	201508	3,241	1	人文科学
542	自然主義入門:知識・道徳・人間本性をめぐる現代哲学ツアー	植原亮	勁草書房	201707	2,800	1	人文科学
543	はじめての死生心理学:現代社会において，死とともに生きる	川島大輔:近藤恵	新曜社	201610	2,700	1	人文科学
544	初学者のための現象学	ダン・ザハヴィ:中村拓也	晃洋書房	201504	1,400	1	人文科学
545	現代現象学:経験から始める哲学入門	植村玄輝:八重樫徹	新曜社	201708	2,600	1	人文科学
546	日本思想史事典	石田一良:石毛忠	東京堂出版	201309	5,700	1	人文科学
547	はじめて学ぶ中国思想:思想家たちとの対話	渡邉義浩:井川義次	ミネルヴァ書房	201804	2,800	1	人文科学
548	教養としての中国古典	湯浅邦弘	ミネルヴァ書房	201804	3,000	1	人文科学
549	朱子学入門	垣内景子	ミネルヴァ書房	201508	2,500	1	人文科学
550	インド思想入門:ヴェーダとウパニシャッド	前田専學	春秋社	201608	2,400	1	人文科学
551	カントを読む:ポストモダニズム以降の批判哲学	牧野英二	岩波書店	201410	2,800	1	人文科学
552	ヘーゲル哲学入門	滝口清栄	社会評論社	201609	1,800	1	人文科学
553	マルクス哲学入門	田上孝一	社会評論社	201803	1,700	1	人文科学
554	〈ジャック・デリダ〉入門講義	仲正昌樹	作品社	201604	2,000	1	人文科学
555	心理学:心のはたらきを知る	梅本堯夫:大山正	サイエンス社	201404	1,400	1	人文科学
556	心理学への招待:こころの科学を知る	梅本堯夫:大山正	サイエンス社	201412	2,500	1	人文科学
557	現代心理学:行動から見る心の探求	伊藤正人	昭和堂(京都)	201304	2,500	1	人文科学
558	見てわかる視覚心理学	大山正:鷲見成正	新曜社	201404	2,800	1	人文科学
559	はじめての認知科学	内村直之:植田一博	新曜社	201602	1,800	1	人文科学
560	教養としての認知科学	鈴木宏昭	東京大学出版会	201601	2,700	1	人文科学
561	心と行動の進化を探る:人間行動進化学入門	五百部裕:小田亮	朝倉書店	201309	2,900	1	人文科学
562	発達心理学のこころを学ぶ:心理学入門〈対話篇〉		福村出版	201610	1,600	1	人文科学
563	フロイト入門	中山元	筑摩書房	201511	1,800	1	人文科学
564	新編大学生のための道徳教科書	麗澤大学道徳科学教育センター	麗澤大学出版会(発売:広池学園事業部)	201803	900	1	人文科学
565	入門・倫理学	赤林朗:児玉聡	勁草書房	201801	3,200	1	人文科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
566	入門・倫理学の歴史：24人の思想家	柘植尚則	梓出版社	201603	2,200	1	人文科学
567	ラルース世界宗教大図鑑：歴史・文化・教義	アンリ・タンク：蔵持不三也	原書房	201308	18,000	1	人文科学
568	よくわかる宗教学	櫻井義秀：平藤喜久子	ミネルヴァ書房	201503	2,400	1	人文科学
569	新・神話学入門	山田仁史	朝倉書店	201704	2,500	1	人文科学
570	世界を読み解くためのギリシア・ローマ神話入門	庄子大亮	河出書房新社	201606	1,700	1	人文科学
571	お隣りのイスラーム：日本に暮らすムスリムに会いにいく	森まゆみ	紀伊國屋書店	201802	1,700	1	人文科学
572	イスラーム信仰概論	水谷周	明石書店	201608	2,500	1	人文科学
573	クルアーン入門	松山洋平：小布施祈恵子	作品社	201805	2,700	1	人文科学
574	神道入門	戸矢学	河出書房新社	201601	1,800	1	人文科学
575	神道案内：英和対訳	山口智	戎光祥出版	201604	1,300	1	人文科学
576	事典神社の歴史と祭り	岡田荘司：笹生衛	吉川弘文館	201304	3,800	1	人文科学
577	仏教の事典	末木文美士：下田正弘	朝倉書店	201404	8,800	1	人文科学
578	日本仏教入門	末木文美士	KADOKAWA / 角川学芸出版	201403	1,800	1	人文科学
579	はじめての法華経：戸津説法	杉谷義純	春秋社	201511	1,800	1	人文科学
580	47都道府県・寺社信仰百科	中山和久	丸善出版	201701	3,800	1	人文科学
581	修験道史入門	時枝務：長谷川賢二	岩田書院	201509	2,800	1	人文科学
582	禅の思想を知る事典	竹村牧男	東京堂出版	201401	2,800	1	人文科学
583	オックスフォードキリスト教辞典	エリザベス・A. リヴィングストン：木寺廉太	教文館	201701	12,000	1	人文科学
584	多文化時代の宗教論入門	久松英二：佐野東生	ミネルヴァ書房	201706	3,200	1	人文科学
585	聖書入門	フィリップ・セリエ：支倉崇晴	講談社	201612	2,200	1	人文科学
586	わかる・身につく歴史学の学び方	大学の歴史教育を考える会	大月書店	201611	2,000	1	人文科学
587	世界史年表	歴史学研究会	岩波書店	201710	3,600	1	人文科学
588	世界史年表・地図	亀井高孝：三上次男	吉川弘文館	201804	1,400	1	人文科学
589	世界史大年表	青山吉信：石橋秀雄	山川出版社（千代田区）	201804	30,000	1	人文科学
590	世界戦争事典	ジョージ・C. コーン：鈴木主税	河出書房新社	201409	12,800	1	人文科学
591	教養としての「世界史」の読み方	本村凌二	PHPエディターズ・グループ(発売：PHP研究所)	201701	1,800	1	人文科学
592	教養のグローバル・ヒストリー：大人のための世界史入門	北村厚	ミネルヴァ書房	201805	2,500	1	人文科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
593	ビッグヒストリー大図鑑：宇宙と人類138億年の物語	デイヴィッド・クリスチャン：ビッグヒストリー・インスティテュート	河出書房新社	201711	8,800	1	人文科学
594	もういちど読む山川世界史用語事典	「世界史用語事典」編集委員会	山川出版社（千代田区）	201504	1,500	1	人文科学
595	サピエンス全史：文明の構造と人類の幸福．下	ユヴァル・ノア・ハラリ：柴田裕之	河出書房新社	201609	1,900	1	人文科学
596	サピエンス全史：文明の構造と人類の幸福．上	ユヴァル・ノア・ハラリ：柴田裕之	河出書房新社	201609	1,900	1	人文科学
597	1493〈入門世界史〉：コロンブスからはじまるグローバル社会	チャールズ・C・マン：レベッカ・ステフォフ	あすなろ書房	201706	1,600	1	人文科学
598	日本文化史講義	大隅和雄	吉川弘文館	201711	2,400	1	人文科学
599	歴史好きのための古文書入門	高尾善希	柏書房	201504	1,800	1	人文科学
600	日本史年表	歴史学研究会	岩波書店	201710	3,100	1	人文科学
601	日本史年表・地図	児玉幸多	吉川弘文館	201804	1,300	1	人文科学
602	日本史年表	東京学芸大学	東京堂出版	201403	2,700	1	人文科学
603	山川日本史小辞典	日本史広辞典編集委員会	山川出版社（千代田区）	201608	3,000	1	人文科学
604	大学の日本史：教養から考える歴史へ．1		山川出版社（千代田区）	201602	1,800	1	人文科学
605	大学の日本史：教養から考える歴史へ．2		山川出版社（千代田区）	201602	1,800	1	人文科学
606	大学の日本史：教養から考える歴史へ．3		山川出版社（千代田区）	201603	1,800	1	人文科学
607	大学の日本史：教養から考える歴史へ．4		山川出版社（千代田区）	201603	1,800	1	人文科学
608	近世城郭の考古学入門	中井均：加藤理文	高志書院	201703	3,000	1	人文科学
609	入門者のための考古学教室	山岸良二	同成社	201405	1,900	1	人文科学
610	英字新聞が語る日本史：幕末から東京オリンピックまで	デイビッド・セイン	秀和システム	201703	2,300	1	人文科学
611	決定版日本という国	小熊英二	新曜社	201805	1,400	1	人文科学
612	歴史問題ハンドブック	東郷和彦：波多野澄雄	岩波書店	201506	2,400	1	人文科学
613	戦後日本史の考え方・学び方：歴史って何だろう？	成田龍一	河出書房新社	201308	1,200	1	人文科学
614	アイヌの歴史：日本の先住民族を理解するための160話	平山裕人	明石書店	201405	3,000	1	人文科学
615	京のまちなみ史：平安京への道　京都のあゆみ	丸山俊明	昭和堂（京都）	201805	2,300	1	人文科学
616	中央ユーラシア史研究入門	小松久男：荒川正晴	山川出版社（千代田区）	201804	3,000	1	人文科学
617	東アジアの歴史：韓国高等学校歴史教科書	アンビョンウ：キムヒョンジョン	明石書店	201509	3,800	1	人文科学
618	北東アジアの地域交流：古代から現代、そして未来へ	飯田泰三	国際書院	201507	3,800	1	人文科学
619	中国文化55のキーワード	武田雅哉：加部勇一郎	ミネルヴァ書房	201604	2,500	1	人文科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
620	台湾史小事典	遠流台湾館：呉密察	中国書店	201611	2,800	1	人文科学
621	東南アジア地域研究入門．１	山本信人	慶応義塾大学出版会	201702	3,600	1	人文科学
622	東南アジア地域研究入門．２	山本信人	慶応義塾大学出版会	201702	3,600	1	人文科学
623	東南アジア地域研究入門．３	山本信人	慶応義塾大学出版会	201702	3,600	1	人文科学
624	日本／フィリピン歴史対話の試み：グローバル化時代のなかで	永野善子	御茶の水書房	201603	2,600	1	人文科学
625	イスラーム世界歴史地図	デヴィッド・ニコル：清水和裕	明石書店	201403	15,000	1	人文科学
626	ぼくの村は壁で囲まれた：パレスチナに生きる子どもたち	高橋真樹	現代書館	201704	1,500	1	人文科学
627	地図で読むケルト世界の歴史	イアン・バーンズ：桜内篤子	創元社（大阪）	201305	8,000	1	人文科学
628	イギリスの歴史を知るための50章：ヒストリー	川成洋	明石書店	201612	2,000	1	人文科学
629	よくわかるイギリス近現代史	君塚直隆	ミネルヴァ書房	201806	2,400	1	人文科学
630	ロンドン歴史図鑑	キャシー・ロス：ジョン・クラーク	原書房	201510	8,000	1	人文科学
631	ドイツの歴史を知るための50章：ヒストリー	森井裕一	明石書店	201610	2,000	1	人文科学
632	教養のドイツ現代史	田野大輔：柳原伸洋	ミネルヴァ書房	201606	3,000	1	人文科学
633	街角の遺物・遺構から見たパリ歴史図鑑	ドミニク・レスブロ：蔵持不三也	原書房	201504	3,800	1	人文科学
634	よくわかるフランス近現代史	剣持久木	ミネルヴァ書房	201805	2,600	1	人文科学
635	スペイン文化入門	佐々木孝：碇順治	彩流社	201505	1,800	1	人文科学
636	はじめて学ぶイタリアの歴史と文化	藤内哲也	ミネルヴァ書房	201605	3,200	1	人文科学
637	イタリアの歴史を知るための50章：ヒストリー	高橋進：村上義和	明石書店	201712	2,000	1	人文科学
638	教養のイタリア近現代史	土肥秀行：山手昌樹	ミネルヴァ書房	201705	3,000	1	人文科学
639	ロシア近現代と国際関係：歴史を学び、政治を読み解く	小田健	ミネルヴァ書房	201709	4,000	1	人文科学
640	アフリカ学事典	日本アフリカ学会	昭和堂（京都）	201406	16,000	1	人文科学
641	アメリカの歴史を知るための63章	富田虎男：鵜月裕典	明石書店	201503	2,000	1	人文科学
642	アメリカ文化年表：文化・歴史・政治・経済	亀井俊介：杉山直子	南雲堂	201807	3,500	1	人文科学
643	岩波世界人名大辞典	岩波書店	岩波書店	201310	28,000	1	人文科学
644	自分史の書き方	立花隆	講談社	201312	1,600	1	人文科学
645	世界の国旗・国章歴史大図鑑	苅安望	山川出版社（千代田区）	201708	12,000	1	人文科学
646	人文地理学への招待	竹中克行	ミネルヴァ書房	201504	3,000	1	人文科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
647	地域分析：データ入手・解析・評価	村山祐司：駒木伸比古	古今書院	201309	2,800	1	人文科学
648	地理エクスカーション：地理を学ぼう	伊藤徹哉：鈴木重雄	朝倉書店	201505	2,200	1	人文科学
649	現代人文地理学	佐藤廉也：宮澤仁	放送大学教育振興会(発売：NHK出版)	201803	3,400	1	人文科学
650	史跡・遺跡レファレンス事典外国篇	日外アソシエーツ	日外アソシエーツ(発売：紀伊國屋書店日外アソ)	201707	39,000	1	人文科学
651	世界地名大事典．２	竹内啓一：熊谷圭知	朝倉書店	201711	43,000	1	人文科学
652	世界地名大事典．１	竹内啓一：熊谷圭知	朝倉書店	201711	43,000	1	人文科学
653	世界地名大事典．３	竹内啓一：熊谷圭知	朝倉書店	201211	32,000	1	人文科学
654	世界地名大事典．４	竹内啓一：熊谷圭知	朝倉書店	201603	43,000	1	人文科学
655	世界地名大事典．５	竹内啓一：熊谷圭知	朝倉書店	201603	43,000	1	人文科学
656	世界地名大事典．６	竹内啓一：熊谷圭知	朝倉書店	201603	43,000	1	人文科学
657	世界地名大事典．７	竹内啓一：熊谷圭知	朝倉書店	201311	32,000	1	人文科学
658	世界地名大事典．８	竹内啓一：熊谷圭知	朝倉書店	201311	32,000	1	人文科学
659	世界地名大事典．９	竹内啓一：熊谷圭知	朝倉書店	201411	48,000	1	人文科学
660	人文地理学事典	人文地理学会	丸善出版	201310	20,000	1	人文科学
661	世界各国ハンドブック：ニュースがわかる	世界各国ハンドブック編集委員会	山川出版社（千代田区）	201310	1,800	1	人文科学
662	ベーシックアトラス世界地図帳	平凡社	平凡社	201801	1,200	1	人文科学
663	日本をまなぶ西日本編	上野和彦：本木弘悌	古今書院	201710	2,800	1	人文科学
664	日本をまなぶ東日本編	上野和彦：本木弘悌	古今書院	201710	2,800	1	人文科学
665	事典・日本の地域遺産：自然・産業・文化遺産	日外アソシエーツ	日外アソシエーツ(発売：紀伊國屋書店日外アソ)	201301	12,000	1	人文科学
666	プレミアムアトラス日本地図帳	平凡社	平凡社	201707	1,500	1	人文科学
667	ベーシックアトラス日本地図帳	平凡社	平凡社	201801	1,200	1	人文科学
668	インドを知る事典	山下博司：岡光信子	東京堂出版	201608	2,900	1	人文科学
669	ギリシャ美術史入門	中村るい：加藤公太	三元社（文京区）	201711	1,800	1	人文科学
670	かわいいジャポニスム	沼田英子	東京美術	201710	1,800	1	人文科学
671	現代アート10講	田中正之：田中正之	武蔵野美術大学出版局	201703	2,400	1	人文科学
672	仏教美術を学ぶ	中野玄三：加須屋誠	思文閣出版	201312	3,000	1	人文科学
673	英国美術の英国らしさ：芸術地理学の試み	ニコラウス・ペヴスナー：蛭川久康	研究社	201408	3,800	1	人文科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
674	芸術の都ロンドン大図鑑：英国文化遺産と建築・インテリア・デザイン	フィリップ・デイヴィース：デレク・ケンダル	西村書店（新潟）	201706	6,500	1	人文科学
675	日本美術全集. 索引	辻惟雄：泉武夫	小学館	201606	8,000	1	人文科学
676	日本美術全集. 第10巻（桃山時代）	辻惟雄：泉武夫	小学館	201306	15,000	1	人文科学
677	日本美術全集. 第11巻（テーマ巻　2）	辻惟雄：泉武夫	小学館	201510	15,000	1	人文科学
678	日本美術全集. 第12巻（江戸時代　1）	辻惟雄：泉武夫	小学館	201404	15,000	1	人文科学
679	日本美術全集. 第13巻（江戸時代　2）	辻惟雄：泉武夫	小学館	201304	15,000	1	人文科学
680	日本美術全集. 第14巻（江戸時代　3）	辻惟雄：泉武夫	小学館	201302	15,000	1	人文科学
681	日本美術全集. 第15巻（江戸時代　4）	辻惟雄：泉武夫	小学館	201408	15,000	1	人文科学
682	日本美術全集. 第16巻（幕末から明治時代前期	辻惟雄：泉武夫	小学館	201310	15,000	1	人文科学
683	日本美術全集. 第17巻（明治時代後期～大正時	辻惟雄：泉武夫	小学館	201406	15,000	1	人文科学
684	日本美術全集. 第18巻（戦前・戦中）	辻惟雄：泉武夫	小学館	201504	15,000	1	人文科学
685	日本美術全集. 第19巻（戦後～1995）	辻惟雄：泉武夫	小学館	201508	15,000	1	人文科学
686	日本美術全集. 第1巻（縄文・弥生・古墳時代）	辻惟雄：泉武夫	小学館	201512	15,000	1	人文科学
687	日本美術全集. 第20巻（1996～現在）	辻惟雄：泉武夫	小学館	201603	15,000	1	人文科学
688	日本美術全集. 第2巻（飛鳥・奈良時代　1）	辻惟雄：泉武夫	小学館	201212	15,000	1	人文科学
689	日本美術全集. 第3巻（奈良時代　2）	辻惟雄：泉武夫	小学館	201309	15,000	1	人文科学
690	日本美術全集. 第4巻（平安時代　1）	辻惟雄：泉武夫	小学館	201412	15,000	1	人文科学
691	日本美術全集. 第5巻（平安時代　2）	辻惟雄：泉武夫	小学館	201403	15,000	1	人文科学
692	日本美術全集. 第6巻（テーマ巻　1）	辻惟雄：泉武夫	小学館	201503	15,000	1	人文科学
693	日本美術全集. 第7巻（鎌倉・南北朝時代　1）	辻惟雄：泉武夫	小学館	201312	15,000	1	人文科学
694	日本美術全集. 第8巻（鎌倉・南北朝時代　2）	辻惟雄：泉武夫	小学館	201506	15,000	1	人文科学
695	日本美術全集. 第9巻（室町時代）	辻惟雄：泉武夫	小学館	201410	15,000	1	人文科学
696	世界文化遺産の思想	西村幸夫：本中眞	東京大学出版会	201708	2,800	1	人文科学
697	47都道府県・国宝／重要文化財百科	森本和男	丸善出版	201805	3,800	1	人文科学
698	アジアの文化遺産：過去・現在・未来	鈴木正崇	慶應義塾大学東アジア研究所（発売：慶応義塾大学出版会）	201508	2,000	1	人文科学
699	芸術家の愛した家：巨匠のルーツから読み解く美術入門	池上英洋	エクスナレッジ	201612	1,600	1	人文科学
700	屏風をひらくとき：どこからでも読める日本絵画史入門	奥平俊六	大阪大学出版会	201403	2,100	1	人文科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
701	絵師別江戸絵画入門	安村敏信	東京美術	201507	2,000	1	人文科学
702	ようこそ浮世絵の世界へ：英訳付	日野原健司：太田記念美術館	東京美術	201508	2,000	1	人文科学
703	マンガ文化55のキーワード	竹内オサム：西原麻里	ミネルヴァ書房	201602	2,600	1	人文科学
704	マンガ研究13講	小山昌宏：玉川博章	水声社	201608	3,000	1	人文科学
705	マンガ・アニメにみる日本文化：国際共同研究	加藤佐和子：アイシェヌール・テキメン	文京学院大学総合研究所(発売：冨山房インターナショ)	201606	2,500	1	人文科学
706	世界の服飾文様図鑑	文化学園服飾博物館	河出書房新社	201707	2,400	1	人文科学
707	かたち・色・レイアウト：手で学ぶデザインリテラシー	白石学：小西俊也	武蔵野美術大学出版局	201609	2,800	1	人文科学
708	暮らしの中の色彩学入門：色と人間の感性	宮田久美子	新曜社	201406	2,200	1	人文科学
709	民族音楽学12の視点	増野亜子：徳丸吉彦	音楽之友社	201604	2,500	1	人文科学
710	〈裏〉日本音楽史：異形の近代	齋藤桂	春秋社	201504	2,400	1	人文科学
711	西洋音楽史再入門：4つの視点で読み解く音楽と社会	村田千尋	春秋社	201607	2,900	1	人文科学
712	ロックフェスの社会学：個人化社会における祝祭をめぐって	永井純一	ミネルヴァ書房	201610	3,500	1	人文科学
713	オペラ事典	戸口幸策：森田学	東京堂出版	201309	4,600	1	人文科学
714	世界史でたどる名作オペラ	西原稔	東京堂出版	201302	3,500	1	人文科学
715	J－POP文化論	宮入恭平	彩流社	201506	1,800	1	人文科学
716	雅楽を知る事典	遠藤徹	東京堂出版	201303	3,500	1	人文科学
717	世界演劇辞典	石沢秀二	東京堂出版	201511	6,800	1	人文科学
718	能舞台の世界：カラー百科見る・知る・読む	小林保治：表きよし	勉誠出版	201803	3,200	1	人文科学
719	大学生のための動画制作入門：言いたいことを映像で表現する技術	黒岩亜純：宮徹	慶応義塾大学出版会	201704	1,800	1	人文科学
720	ハイジが生まれた日：テレビアニメの金字塔を築いた人々	ちばかおり	岩波書店	201701	1,800	1	人文科学
721	アニメ研究入門：アニメを究める9つのツボ	小山昌宏：須川亜紀子	現代書館	201409	2,300	1	人文科学
722	スポーツの思想	菊本智之：前林清和	晃洋書房	201804	2,200	1	人文科学
723	よくわかるスポーツとジェンダー	飯田貴子：熊安貴美江	ミネルヴァ書房	201805	2,500	1	人文科学
724	よくわかるスポーツ人類学	寒川恒夫	ミネルヴァ書房	201704	2,500	1	人文科学
725	スポーツ・運動・パフォーマンスの心理学	高見和至：葦原摩耶子	化学同人	201603	2,800	1	人文科学
726	はじめて学ぶスポーツ心理学12講	楠本恭久	福村出版	201501	2,300	1	人文科学
727	もっとなっとく使えるスポーツサイエンス	征矢英昭：本山貢	講談社	201704	2,000	1	人文科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
728	スポーツの世界を学ぶ：スポーツ健康科学入門	「スポーツの世界を学ぶ」編集委員会	流通経済大学出版会	201704	1,400	1	人文科学
729	多角化視点で学ぶオリンピック・パラリンピック	相原正道	晃洋書房	201706	2,500	1	人文科学
730	スポーツトレーニングの基本と新理論：オールカラー	佐久間和彦	マイナビ出版	201709	1,580	1	人文科学
731	相撲大事典	金指基：日本相撲協会	現代書館	201501	5,500	1	人文科学
732	相撲	土屋喜敬	法政大学出版局	201704	2,700	1	人文科学
733	茶の本	岡倉天心：田中秀隆	淡交社	201309	1,200	1	人文科学
734	講座日本茶の湯全史．第1巻（中世）	茶の湯文化学会	思文閣出版	201306	2,500	1	人文科学
735	講座日本茶の湯全史．第2巻（近世）	茶の湯文化学会	思文閣出版	201406	2,500	1	人文科学
736	講座日本茶の湯全史．第3巻（近代）	茶の湯文化学会	思文閣出版	201307	2,500	1	人文科学
737	ポケモンGOからの問い：拡張される世界のリアリティ	神田孝治：遠藤英樹	新曜社	201801	2,600	1	人文科学
738	かるた	江橋崇	法政大学出版局	201511	3,500	1	人文科学
739	会話分析の基礎	高木智世：細田由利	ひつじ書房	201612	3,500	1	人文科学
740	歴史社会言語学入門：社会から読み解くことばの移り変わり	高田博行：渋谷勝己	大修館書店	201503	2,300	1	人文科学
741	言語コミュニケーションのこれから	伊藤達也：松倉信幸	朝日出版社	201604	2,250	1	人文科学
742	会話分析入門	串田秀也：平本毅	勁草書房	201707	3,200	1	人文科学
743	よくわかる翻訳通訳学	鳥飼玖美子	ミネルヴァ書房	201312	2,400	1	人文科学
744	ことばとフィールドワーク	久保進：久保裕愛	晃洋書房	201712	2,800	1	人文科学
745	日米ボディートーク：身ぶり・表情・しぐさの辞典	東山安子：ローラ・フォード	三省堂	201606	1,800	1	人文科学
746	インタビュー実践！：レポート・プレゼン・就業力	亜細亜大学	翰林書房	201503	1,500	1	人文科学
747	日本論：文字と言葉がつくった国	石川九楊	講談社	201710	1,500	1	人文科学
748	体育・スポーツ系学生のための日本語表現法：学士力の基礎をつくる初年次教育	吉田重和：古阪肇	東信堂	201611	1,500	1	人文科学
749	現代日本語学入門	荻野綱男	明治書院	201803	2,100	1	人文科学
750	実践日本語表現：短大生・大学1年生のためのハンドブック	松浦照子	ナカニシヤ出版	201705	2,000	1	人文科学
751	日本語教育学入門	姫野伴子：小森和子	研究社	201508	2,300	1	人文科学
752	新しい国語表記ハンドブック	三省堂編修所	三省堂	201803	800	1	人文科学
753	広辞苑机上版	新村出	岩波書店	201801	13,000	1	人文科学
754	広辞苑普通版	新村出	岩波書店	201801	8,500	1	人文科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
755	角川新字源	小川環樹：西田太一郎	KADOKAWA	201710	3,000	1	人文科学
756	基礎からわかる日本語表現法	森口稔：中山詢子	くろしお出版	201505	1,300	1	人文科学
757	大学一年生の文章作法	山本幸司	岩波書店	201412	2,200	1	人文科学
758	文章添削の教科書	渡辺知明	芸術新聞社	201511	1,800	1	人文科学
759	シカゴ・スタイルに学ぶ論理的に考え、書く技術：世界で通用する20の普遍的メソッド	吉岡友治	草思社	201501	1,600	1	人文科学
760	3行しか書けない人のための文章教室	前田安正	朝日新聞出版	201706	1,300	1	人文科学
761	大学への文章学：コミュニケーション手段としてのレポート・小論文	渡辺哲司	学術出版会（発売：日本図書センター）	201305	1,600	1	人文科学
762	レポート・論文の書き方入門	河野哲也	慶応義塾大学出版会	201807	1,000	1	人文科学
763	アカデミック・ライティングの基礎：資料を活用して論理的な文章を書く	西川真理子：橋本信子	晃洋書房	201704	1,700	1	人文科学
764	小論文書き方と考え方	大堀精一	講談社	201805	1,500	1	人文科学
765	コピペと言われないレポートの書き方教室：3つのステップ	山口裕之	新曜社	201307	1,200	1	人文科学
766	はじめて学ぶ方言学：ことばの多様性をとらえる28章	井上史雄：木部暢子	ミネルヴァ書房	201603	2,800	1	人文科学
767	新日本言語地図：分布図で見渡す方言の世界	大西拓一郎：新井小枝子	朝倉書店	201612	6,000	1	人文科学
768	関西弁事典	真田信治	ひつじ書房	201803	6,200	1	人文科学
769	中国語の世界	矯学真：姜波	大学教育出版	201304	2,200	1	人文科学
770	中国語のしくみ	池田巧	白水社	201404	1,500	1	人文科学
771	北東アジアのことばと人々	樋口謙一郎	大学教育出版	201310	2,200	1	人文科学
772	論理的に話す・書くための英語変換術：CD付き	鈴木瑛子	三修社	201708	2,400	1	人文科学
773	日本人として英語を学び・英語を使う：グローバル時代を生きる若者たちへ	田中浩司	新評論	201701	1,800	1	人文科学
774	はじめての英語学	長谷川瑞穂：大井恭子	研究社	201410	2,500	1	人文科学
775	英語の学び方	大津由紀雄：嶋田珠巳	ひつじ書房	201603	1,500	1	人文科学
776	耳から学ぶ英語：CD付	大橋理枝：佐藤良明	放送大学教育振興会（発売：NHK出版）	201803	2,600	1	人文科学
777	日英ことわざ文化事典	山田雅重：亀田尚己	丸善出版	201706	3,800	1	人文科学
778	必携最小限の語彙力で英語を読み、聴く方法：基礎語からの類推	後藤寛	松柏社	201605	2,200	1	人文科学
779	感じのよい英語感じのよい日本語：日英比較コミュニケーションの文法	水谷信子	くろしお出版	201503	1,200	1	人文科学
780	アウトプットに必要な基本英文法	ジェームズ・M. ヴァーダマン：安藤文人	研究社	201501	1,500	1	人文科学
781	江川泰一郎英文法の基礎	江川泰一郎	研究社	201404	1,800	1	人文科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格（本体）	冊数	備考
782	英文ライティング「冠詞」自由自在	原田豊太郎	日刊工業新聞社	201612	1,800	1	人文科学
783	イメージでつかむ英語基本動詞100	政村秀実	くろしお出版	201612	1,400	1	人文科学
784	大学生のためのアカデミック英文ライティング：検定試験対策から英文論文執筆まで	中谷安男	大修館書店	201605	1,700	1	人文科学
785	日本人のための英語ライティング講座：日本語発想の転換から英語の書き方をやさしく学ぶ	柏木哲也	南雲堂	201803	1,991	1	人文科学
786	アカデミックライティング入門：英語論文作成法	吉田友子	慶応義塾大学出版会	201504	2,000	1	人文科学
787	英語アカデミック・ライティングの基礎	一橋大学	研究社	201503	1,100	1	人文科学
788	「星の王子さま」を英語で読もう	アントアーヌ・ド・サン・テグジュペリ：キャサリン・ウッズ	研究社	201707	1,500	1	人文科学
789	多文化理解のためのアメリカ文化入門：社会・地域・伝承	ウェルズ恵子：リサ・ギャバート	丸善出版	201704	2,600	1	人文科学
790	日本人が知りたいイギリス人の当たり前：英語リーディング	唐澤一友：モート、セーラ	三修社	201708	2,200	1	人文科学
791	日本伝統文化の英語表現事典	亀田尚己：三宮優子	丸善出版	201806	3,800	1	人文科学
792	これなら話せる！セルフトークで英会話	水嶋いづみ	研究社	201509	1,400	1	人文科学
793	英語のプレゼンテーションスキルアップ術	田中真紀子	研究社	201412	1,800	1	人文科学
794	特派員直伝とらべる英会話	読売新聞国際部：TheJapanNews	研究社	201703	1,300	1	人文科学
795	現代詩入門	吉野弘	青土社	201403	1,200	1	人文科学
796	テクスト分析入門：小説を分析的に読むための実践ガイド	松本和也（国文学）	ひつじ書房	201610	2,000	1	人文科学
797	日本近代小説史	安藤宏	中央公論新社	201501	2,000	1	人文科学
798	日本名詩選．1（明治・大正篇）	西原大輔	笠間書院	201506	1,600	1	人文科学
799	日本名詩選．2（昭和戦前篇）	西原大輔	笠間書院	201506	1,600	1	人文科学
800	日本名詩選．3（昭和戦後篇）	西原大輔	笠間書院	201506	1,600	1	人文科学
801	女子大で『源氏物語』を読む：古典を自由に読む方法	木村朗子	青土社	201602	2,200	1	人文科学
802	イギリス文学入門	石塚久郎：大久保譲	三修社	201406	3,500	1	人文科学
803	アメリカ文学入門	諏訪部浩一：稲垣伸一	三修社	201311	3,500	1	人文科学
804	北海道の歴史	田端宏：桑原真人	山川出版社（千代田区）	201011	2,400	1	人文科学
805	青森県の歴史	長谷川成一：村越潔	山川出版社	201211	2,400	1	人文科学
806	新潟県の歴史	田中圭一（日本史）：桑原正史	山川出版社	200912	2,400	1	人文科学
807	宮城県の歴史	渡辺信夫（東北史）：今泉隆雄	山川出版社	201001	2,400	1	人文科学
808	秋田県の歴史	塩谷順耳：富樫泰時	山川出版社	201011	2,400	1	人文科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格(本体)	冊数	備考
809	山形県の歴史	横山昭男:誉田慶信	山川出版社	201112	2,400	1	人文科学
810	福島県の歴史	丸井佳寿子:工藤雅樹	山川出版社	200912	2,400	1	人文科学
811	茨城県の歴史	長谷川伸三:糸賀茂男	山川出版社	201112	2,400	1	人文科学
812	岩手県の歴史	細井計:伊藤博幸	山川出版社	200912	2,400	1	人文科学
813	栃木県の歴史	阿部昭:橋本澄朗	山川出版社	201112	2,400	1	人文科学
814	群馬県の歴史	西垣晴次:山本隆志	山川出版社	201311	2,400	1	人文科学
815	埼玉県の歴史	田代脩:塩野博	山川出版社	201011	2,400	1	人文科学
816	千葉県の歴史	石井進(歴史学):宇野俊一	山川出版社	201202	2,400	1	人文科学
817	東京都の歴史	竹内誠:古泉弘	山川出版社	201011	2,400	1	人文科学
818	神奈川県の歴史	神崎彰利:大貫英明	山川出版社	201312	2,400	1	人文科学
819	新潟県の歴史	田中圭一(日本史):桑原正史	山川出版社	200912	2,400	1	人文科学
820	富山県の歴史	深井甚三:本郷真紹	山川出版社	201009	2,400	1	人文科学
821	石川県の歴史	高沢裕一:河村好光	山川出版社	201312	2,400	1	人文科学
822	福井県の歴史	隼田嘉彦:白崎昭一郎	山川出版社	201312	2,400	1	人文科学
823	山梨県の歴史	飯田文弥:秋山敬	山川出版社	201003	2,400	1	人文科学
824	長野県の歴史	古川貞雄:福島正樹	山川出版社	201012	2,400	1	人文科学
825	岐阜県の歴史	松田之利:谷口和人	山川出版社	201201	2,400	1	人文科学
826	静岡県の歴史	本多隆成:荒木敏夫	山川出版社	201501	2,400	1	人文科学
827	愛知県の歴史	三鬼清一郎	山川出版社	201501	2,400	1	人文科学
828	三重県の歴史	稲本紀昭:駒田利治	山川出版社	201501	2,400	1	人文科学
829	滋賀県の歴史	畑中誠治:井戸庄三	山川出版社	201011	2,400	1	人文科学
830	京都府の歴史	朝尾直弘:吉川真司	山川出版社	201010	2,400	1	人文科学
831	大阪府の歴史	藤本篤:前田豊邦	山川出版社	201501	2,400	1	人文科学
832	兵庫県の歴史	今井修平:小林基伸	山川出版社	201108	2,400	1	人文科学
833	奈良県の歴史	和田萃:安田次郎	山川出版社	201011	2,400	1	人文科学
834	和歌山県の歴史	小山靖憲:武内雅人	山川出版社	201501	2,400	1	人文科学
835	鳥取県の歴史	内藤正中:真田廣幸	山川出版社	201501	2,400	1	人文科学

No.	書名	著者名	出版社	出版年月	価格(本体)	冊数	備考
836	島根県の歴史	松尾寿:田中義昭	山川出版社	201001	2,400	1	人文科学
837	岡山県の歴史	藤井学:狩野久	山川出版社	201203	2,400	1	人文科学
838	広島県の歴史	岸田裕之	山川出版社	201208	2,400	1	人文科学
839	山口県の歴史	小川国治	山川出版社	201207	2,400	1	人文科学
840	徳島県の歴史	石躍胤央:北條芳隆	山川出版社	201501	2,400	1	人文科学
841	香川県の歴史	木原溥幸:丹羽佑一	山川出版社	201111	2,400	1	人文科学
842	愛媛県の歴史	内田九州男:寺内浩	山川出版社	201002	2,400	1	人文科学
843	高知県の歴史	荻慎一郎:森公章	山川出版社	201212	2,400	1	人文科学
844	福岡県の歴史	川添昭二:武末純一	山川出版社	201011	2,400	1	人文科学
845	佐賀県の歴史	杉谷昭:佐田茂	山川出版社	201312	2,400	1	人文科学
846	長崎県の歴史	瀬野精一郎:新川登亀男	山川出版社	201212	2,400	1	人文科学
847	熊本県の歴史	松本寿三郎:板楠和子	山川出版社	201203	2,400	1	人文科学
848	大分県の歴史	豊田寛三:後藤宗俊	山川出版社	201103	2,400	1	人文科学
849	宮崎県の歴史	坂上康俊:長津宗重	山川出版社	201501	2,400	1	人文科学
850	沖縄県の歴史	安里進:高良倉吉	山川出版社	201011	2,400	1	人文科学
			人文科学の小計		**1,665,602**	**348**	
			一般教養合計		**3,380,532**	**850**	

国内雑誌

No.	区分	タイトル	出版社	刊行頻度	2020年年間価格（本体）
1	学術雑誌	観光文化	日本交通公社	季刊	4,800
2	学術雑誌	観光とまちづくり	日本観光協会	季刊	5,600
3	学術雑誌	観光学評論	観光学術学会	年2回	10,000
4	学術雑誌	歴史学研究	績文堂出版	月刊	10,700
5	学術雑誌	社会学評論	有斐閣	季刊	6,500
6	学術雑誌	週刊ホテルレストラン	㈱オータパブリケイションズ	年48回	62,000
7	学術雑誌	交通史研究	交通史学会	年3回	5,400
8	学術雑誌	社会文化研究	社会文化学会	年1回	2,000
9	学術雑誌	人文地理	一般社団法人人文地理学会	年1回	11,800
10	学術雑誌	地理学評論	日本地理学会	年6回	19,500
11	学術雑誌	地図情報	一般財団法人地図情報センター	年4回	7,700
12	学術雑誌	文化人類学	日本学術研究支援協会	年4回	14,300
13	学術雑誌	日本民俗学	日本民俗学会	年4回	10,000
14	学術雑誌	アジア遊学	勉誠出版	年12回	40,800
15	学術雑誌	都市計画	日本都市計画学会	年6回	16,600
16	学術雑誌	地域開発	日本地域開発センター	年4回	4,000
17	学術雑誌	地理科学	地理科学学会	年4回	10,000
18	学術雑誌	ＡＩＲ　ＳＴＡＧＥ	イカロス出版	月刊	18,000
19	学術雑誌	ＡＩＲＬＩＮＥ	イカロス出版	月刊	19,200
20	学術雑誌	ＤＩＳＣＯＶＥＲ　ＪＡＰＡＮ	エイ出版社	月刊	15,800
21	学術雑誌	月刊ホテル旅館	フード・ビジネス	月刊	26,000
22	学術雑誌	月刊事業構想	日本ビジネス出版	月刊	16,800
23	学術雑誌	航空旅行	イカロス出版	季刊	6,600
24	学術雑誌	ナショナル　ジオグラフィック日本版	日経ＢＰマーケティング	月刊	11,400
25	学術雑誌	地域学研究	日本地域学会	年2回	10,000

国内雑誌

No.	区分	タイトル	出版社	刊行頻度	2020年年間価格（本体）
26	学術雑誌	旅と鉄道	山と渓谷社	隔月刊	6,800
27	学術雑誌	日本歴史	吉川弘文館	月刊	11,300
28	学術雑誌	思想	岩波書店	月刊	24,600
29	学術雑誌	現代思想	青土社	月刊	19,200
30	学術雑誌	社会経済史学	有斐閣	季刊	10,200
			国内雑誌合計		**437,600**
		別途購入分			
20	学術雑誌	観光ホスピタリティ教育	日本観光ホスピタリティ教育学会	年1回	3,000
21	学術雑誌	日本観光学会誌	日本観光学会	年1回	2,500
22	学術雑誌	観光研究	日本観光研究学会	年2回	6,000
23	学術雑誌	日本国際観光学会論文集	日本国際観光学会	年1回	2,000
24	学術雑誌	地域地理研究	地域地理科学会	年2回	6,000
25	学術雑誌	文学と環境	文学・環境学会	年1回	5,000

外国雑誌

No.	タイトル	国	出版社	巻号	刊行頻度	購読形態	2020年年間価格（本体）
1	Annals of Tourism Research	NL	Elsevier Science	VOL.68#1-73#1	6N	PR	285,000
2	Tourism Management - Research, Policies, Practice	NL	Elsevier Science	VOL.64#1-69#1	6N	PR	482,000
					外国雑誌合計		**767,000**

データベース

No.	タイトル	提供元	年間購読価格（本体）	備考
1	聞蔵II　ビジュアル	朝日新聞社	312,000	同時アクセス１
2	東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー	東洋経済新報社	480,000	同時アクセス数無制限
		データベース合計	**792,000**	

No.	タイトル	発売元（販売元）	価格(本体)	数量
1	四国八十八ケ所へんろ道を歩く １	ネオノーツ	6,667	1
2	四国八十八ケ所へんろ道を歩く ２	ネオノーツ	6,667	1
3	四国遍路　同行二人00　はじめてのお遍路	ジブトリマーズ	16,000	1
4	四国遍路　同行二人　１　発心の道場　徳島	ジブトリマーズ	16,000	1
5	四国遍路　同行二人　２　修業の道場　高知	ジブトリマーズ	16,000	1
6	四国遍路　同行二人　３　菩薩の道場　愛媛	ジブトリマーズ	16,000	1
7	四国遍路　同行二人　４　涅槃の道場　香川	ジブトリマーズ	16,000	1
8	新シリーズ　街道をゆく　DVD－BOX1　全6巻	NHKエンタープライズ	22,800	6
9	新シリーズ　街道をゆく　DVD－BOX2　全6巻	NHKエンタープライズ	22,800	6
10	世界遺産日本編　屋久島	ソニーミュージック	15,000	1
11	世界遺産日本編　紀伊山地の霊場と参拝道	ソニーミュージック	15,000	1
12	世界遺産日本編　厳島神社、日光の社寺	ソニーミュージック	15,000	1
13	世界遺産日本編　古都京都の文化財　全2巻	ソニーミュージック	30,000	2
14	世界遺産日本編　古都奈良の文化財	ソニーミュージック	15,000	1
15	世界遺産日本編　広島平和記念碑（原爆ドーム）、岩見銀山とその	ソニーミュージック	15,000	1
16	世界遺産日本編　知床	ソニーミュージック	15,000	1
17	世界遺産日本編　白神山地、白川郷、五箇山の合掌造り集落	ソニーミュージック	15,000	1
18	世界遺産日本編　姫路城、琉球王国のグスクおよび関連遺産群	ソニーミュージック	15,000	1
19	未来に残したい日本の風景大全集（後編）西日本（中部編中国四国編九州沖縄編）	NHKエンタープライズ	3,800	1
20	未来に残したい日本の風景大全集（前編）東日本（北海道編東北編関東編）	NHKエンタープライズ	3,800	1
		視聴覚教材合計	**296,534**	**31**

資料46 学術雑誌の購入計画一覧

No.	タイトル	出版社（団体）	刊行頻度
1	観光文化	日本交通公社	年4回
2	観光とまちづくり	公益社団法人　日本観光振興協会	年4回
3	観光学評論	観光学術学会	年2回
4	歴史学研究	績文堂出版	年12回
5	社会学評論	日本社会学会	年4回
6	週刊ホテルレストラン	㈱オータパブリケイションズ	年48回
7	交通史研究	交通史学会	年3回
8	社会文化研究	社会文化学会	年1回
9	人文地理	一般社団法人人文地理学会	年1回
10	地理学評論	日本地理学会	年6回
11	地図情報	一般財団法人地図情報センター	年4回
12	文化人類学	日本学術研究支援協会	年4回
13	日本民俗学	日本民俗学会	年4回
14	アジア遊学	勉誠出版	年12回
15	都市計画	日本都市計画学会	年6回
16	地域開発	日本地域開発センター	年4回
17	地理科学	地理科学学会	年4回
18	AIR STAGE	イカロス出版	年12回
19	AIRLINE	イカロス出版	年12回
20	DISCOVER　ＪＡＰＡＮ	エイ出版社	年12回
21	月刊ホテル旅館	フード・ビジネス	年12回
22	月刊事業構想	日本ビジネス出版	年12回
23	航空旅行	イカロス出版	年4回
24	ナショナル　ジオグラフィック日本版	日経ＢＰマーケティング	年12回
25	地域学研究	日本地域学会	年2回
26	旅と鉄道	山と渓谷社	年6回
27	日本歴史	吉川弘文館	年12回
28	思想	岩波文庫	年12回
29	現代思想	青土社	年12回
30	社会経済史学	有斐閣	年4回
31	観光ホスピタリティ教育	日本観光ホスピタリティ教育学会	年1回
32	日本観光学会誌	日本観光学会	年1回
33	観光研究	日本観光研究学会	年2回
34	日本国際観光学会論文集	日本国際観光学会	年1回
35	地域地理研究	地域地理科学会	年2回
36	文学と環境	文学・環境学会	年1回
37	Annals of Tourism Research	ELSEVIER	年6回
38	Tourism Management	ELSEVIER	年6回

資料47　　臨地実務実習関係科目カリキュラムマップ

区分	教育課程																			
	授業科目	履修区分	履修単位	1年次					2年次								3年次	
				第２クォーター	第３クォーター		第４クォーター		第１クォーター		第２クォーター		第３クォーター		第４クォーター		第１クォーター	
事前学修科目	ホスピタリティ実務実習Ａ	選択必修	1	ホスピタリティ実務実習A														
	ホスピタリティ実務実習Ｂ		1	ホスピタリティ実務実習B														
臨地実務実習Ⅰ	観光支援ビジネス実務基礎論	必修	1		観光支援ビジネス実務基礎論													
	臨地実務実習Ⅰ	必修	4			臨地実務実習Ⅰ												
	観光支援ビジネス実務発展論	必修	1				観光支援ビジネス実務発展論											
臨地実務実習Ⅱ	観光実務基礎論（航空クラス） 観光実務基礎論（鉄道クラス） 観光実務基礎論（宿泊クラス） 観光実務基礎論（観光地域創生クラス）	必修	1							観光実務基礎論								
	臨地実務実習Ⅱ（航空クラス） 臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス） 臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス） 臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）	必修	8								臨地実務実習Ⅱ							
	観光実務発展論（航空クラス） 観光実務発展論（鉄道クラス） 観光実務発展論（宿泊クラス） 観光実務発展論（観光地域創生クラス）	必修	1										観光実務発展論					
臨地実務実習Ⅲ	観光実務応用論（航空クラス） 観光実務応用論（鉄道クラス） 観光実務応用論（宿泊クラス） 観光実務応用論（観光地域創生クラス）	必修	1											観光実務応用論				
	臨地実務実習Ⅲ（航空クラス） 臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス） 臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス） 臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス）	必修	8												臨地実務実習Ⅲ			
	観光実務マネジメント論（航空クラス） 観光実務マネジメント論（鉄道クラス） 観光実務マネジメント論（宿泊クラス） 観光実務マネジメント論（観光地域創生クラス）	必修	1														観光実務マネジメント論	

資料48　臨地実務実習Ⅰクラス編成一覧

臨地実務実習Ⅰクラス編成一覧

エリア	エリア別 担当教員		受け入れ 人数	実習巡回 指導担当
高松・東讃エリア	堀田　明美	栗林公園観光事務所	3	堀田
		かがわ物産館　栗林庵	3	
		史跡高松城跡　玉藻公園	5	
		スカイファーム	2	
		瀬戸内こえびネットワーク	10	
		高松市美術館	2	
		高松丸亀町商店街振興組合	2	
		道の駅源平の里むれ	2	
		クアパーク津田	6	阿部
		日本ドルフィンセンター	4	
		道の駅香南楽湯	2	
		道の駅しおのえ	2	
		石丸製麺株式会社	2	
		高松空港株式会社	4	
		セカンドステージ	4	
直島エリア	阿部　有香	直島町観光協会	6	
中讃エリア	小島　英夫	琴参閣	5	小島
		Kotori	2	
		敷島館	5	
		中野屋	2	
		にしきや	2	
		讃岐まんのう公園	2	
		株式会社レオマユニティー	6	
		丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	2	安本
		丸亀市観光協会	2	
西讃エリア	安本　幸博	東邦レオ（父母ヶ浜を受け継ぐ会）	2	
		株式会社Ｄｒａｗｏｒｔｈ	3	
		三豊市観光交流局	1	
		三豊鶴	10	
小豆島エリア	石床　渉	井上誠耕園	10	石床
		ＭｅｉＰＡＭ	6	
		寒霞渓ロープウェイ	2	
		小豆島オリーブ園	2	
		小豆島観光協会	2	
		土庄港観光センター	3	
		二十四の瞳映画村	4	
		道の駅小豆島オリーブ公園	4	

資料49　臨地実務実習施設一覧

【臨地実務実習Ⅰ】

エリア		実習施設名	所在地	受け入れ人数	本学から実習施設までの所要時間
高松・東讃	1	石丸製麺株式会社	香川県高松市香南町岡701	2	45分
	2	かがわ物産館　栗林庵	香川県高松市栗林町1丁目20-16	3	30分
	3	クアパーク津田	香川県さぬき市津田町松原地内	6	60分
	4	スカイファーム	香川県高松市飯田町656-1	2	40分
	5	セカンドステージ	香川県高松市塩江町上西乙1118-8	4	100分
	6	瀬戸内こえびネットワーク	香川県高松市サンポート1番1号	10	20分
	7	高松空港株式会社	香川県高松市香南町岡1312-7	4	60分
	8	高松市美術館	香川県高松市紺屋町10-4	2	30分
	9	高松丸亀町商店街振興組合	香川県高松市丸亀町13-2	2	40分
	10	史跡高松城跡　玉藻公園	香川県高松市玉藻町2-1	5	20分
	11	日本ドルフィンセンター	香川県さぬき市津田町鶴羽1520-130	4	40分
	12	道の駅源平の里むれ	香川県高松市牟礼町原631-7	2	30分
	13	道の駅香南楽湯	香川県高松市香南町横井997-2	2	40分
	14	道の駅しおのえ	香川県高松市塩江町安原上東390-21	2	60分
	15	栗林公園観光事務所	香川県高松市栗林町1-20-16	3	40分
中讃	16	琴参閣	香川県仲多度郡琴平町685-11	5	80分
	17	Kotori	香川県仲多度郡琴平町725	2	80分
	18	讃岐まんのう公園	香川県仲多度郡まんのう町吉野4243-12	2	90分
	19	敷島館	香川県仲多度郡琴平町川西713-1	5	80分
	20	中野屋	香川県仲多度郡琴平町796	2	80分
	21	にしきや	香川県仲多度郡琴平町696	2	80分
	22	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	香川県丸亀市浜町80-1	2	40分
	23	丸亀市観光協会	香川県丸亀市新町6番地2	2	60分
	24	株式会社レオマユニティー	香川県丸亀市綾歌町栗熊西40-1	6	50分
西讃	25	父母ヶ浜海水浴場施設（父母ヶ浜ポート）	香川県三豊市仁尾町仁尾乙203-3	2	80分
	26	株式会社Ｄｒａｗｏｒｔｈ	香川県三豊市三野町大見甲5092	3	70分
	27	三豊市観光交流局	香川県三豊市詫間町松崎1642-2	1	80分
	28	三豊鶴	香川県三豊市詫間町詫間字須田5437	10	80分
小豆島	29	井上誠耕園	香川県小豆郡小豆島町池田2352	10	90分
	30	寒霞渓ロープウェイ	香川県小豆郡小豆島町神懸通高瀬乙168	2	95分
	31	小豆島オリーブ園	香川県小豆郡小豆島町西村甲2171	2	90分
	32	小豆島観光協会	香川県小豆郡小豆島町西村甲1896-1	2	100分
	33	土庄港観光センター	香川県小豆郡土庄町甲6149-10	3	80分
	34	二十四の瞳映画村	香川県小豆郡小豆島町田浦甲931	4	130分
	35	道の駅小豆島オリーブ公園	香川県小豆郡小豆島町西村甲1941-1	4	110分
	36	ＭｅｉＰＡＭ	香川県小豆郡土庄町甲405	6	120分
直島	37	直島町観光協会	香川県香川郡直島町2249-40	6	80分
受け入れ人数合計				136	

資料49　臨地実務実習施設一覧

【臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）】

実習施設名		所在地	受け入れ人数	本学から実習施設までの所要時間
1	ANA沖縄空港株式会社 （那覇空港旅客ターミナルビル）	沖縄県那覇市鏡水150番地	12	180分
2	ANA福岡空港株式会社 （福岡空港旅客ターミナルビル）	福岡県福岡市博多区下臼井778-1	6	180分
3	株式会社エスエーエス福岡空港事務所 （福岡空港旅客ターミナル）	福岡県福岡市博多区下臼井767-1	3	180分
4	株式会社エスエーエス小牧空港事務所 （名古屋空港ターミナルビル）	愛知県西春日井郡豊山町 名古屋空港ターミナルビル1階	3	190分
5	株式会社エスエーエス富士山静岡空港事務所 （富士山静岡空港旅客ターミナル）	静岡県牧之原市坂口3520-11	3	300分
6	株式会社Kスカイ （関西国際空港旅客ターミナル）	大阪府泉南郡田尻町泉州空港中1	10	210分
7	空港ターミナルサービス株式会社 （成田国際空港）	千葉県成田市古込字古込1-1	10	150分
8	JALスカイエアポート沖縄株式会社 （那覇空港旅客ターミナルビル）	沖縄県那覇市鏡水150番地	5	180分
9	ジェットスター・ジャパン株式会社成田空港支店 （成田国際空港第3ターミナル）	千葉県成田市成田国際空港 第3ターミナル	10	150分
10	四国航空株式会社（高松空港旅客ターミナル）	香川県高松市香南町岡1312-7	10	60分
受け入れ人数合計			72	

【臨地実務実習Ⅲ（航空クラス）】

実習施設名		所在地	受け入れ人数	本学から実習施設までの所要時間
1	ANA沖縄空港株式会社 （那覇空港旅客ターミナルビル）	沖縄県那覇市鏡水150番地	12	180分
2	ANA福岡空港株式会社 （福岡空港旅客ターミナルビル）	福岡県福岡市博多区下臼井778-1	6	180分
3	株式会社Kスカイ （関西国際空港旅客ターミナル）	大阪府泉南郡田尻町泉州空港中1	10	210分
4	空港ターミナルサービス株式会社 （成田国際空港）	千葉県成田市古込字古込1-1	10	150分
5	JALスカイエアポート沖縄株式会社 （那覇空港旅客ターミナルビル）	沖縄県那覇市鏡水150番地	5	180分
6	ジェットスター・ジャパン株式会社成田空港支店 （成田国際空港第3ターミナル）	千葉県成田市成田国際空港 第3ターミナル	10	150分
受け入れ人数合計			53	

資料49　臨地実務実習施設一覧

【臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス）】

実習施設名		所在地	受け入れ人数	本学から実習施設までの所要時間
1	高松琴平電気鉄道株式会社（高松築港駅）	香川県高松市玉藻町97-2	5	20分
2	高松琴平電気鉄道株式会社（瓦町駅）	香川県高松市常磐町1丁目3-1	（5）	30分
3	高松琴平電気鉄道株式会社（運転営業所）	香川県高松市塩上町1丁目1-25	（5）	30分
4	高松琴平電気鉄道株式会社（栗林本社）	香川県高松市栗林町2丁目19-20	（5）	30分
5	高松琴平電気鉄道株式会社（コトデン瓦町ビル）	香川県高松市常磐町1丁目3-1	（5）	30分
6	ことでんバス株式会社（高松空港バス乗降場）	香川県高松市香南町岡1312-7	（5）	60分
7	ことでんバス株式会社（高松駅バスターミナル）	香川県高松市浜ノ町1-16	（5）	20分
受け入れ人数合計			5	

【臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス）】

実習施設名		所在地	受け入れ人数	本学から実習施設までの所要時間
1	四国旅客鉄道株式会社（高松駅）	香川県高松市浜ノ町１-２０	5	20分
2	四国旅客鉄道株式会社（研修センター）	香川県高松市西町32-16	（5）	40分
3	四国旅客鉄道株式会社（本社）	香川県高松市浜ノ町8-33	（5）	30分
4	四国キヨスク株式会社 丸亀駅店	香川県丸亀市新町6-3-50	（2）	50分
5	四国キヨスク株式会社 坂出駅店	香川県坂出市本町1丁目1-1	（2）	40分
6	四国キヨスク株式会社 宇多津駅店	香川県綾歌郡宇多津町浜5番丁49	（2）	45分
受け入れ人数合計			5	

資料49　臨地実務実習施設一覧

【臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（宿泊クラス）】

実習施設名		所在地	受け入れ人数	本学から実習施設までの所要時間
1	加賀屋姉妹館　あえの風	石川県七尾市和倉町和歌崎8-1	5	300分
2	アオアヲナルトリゾート	徳島県鳴門市鳴門町土佐泊浦字大毛16-45	5	90分
3	淡路夢泉景	兵庫県洲本市小路谷1052-2	4	150分
4	ウェスティンホテル淡路	兵庫県淡路市夢舞台2	3	170分
5	ウェスティンホテル大阪	大阪府大阪市北区大淀中1-1-20	2	140分
6	海のホテル島花	兵庫県洲本市小路谷1277-5	3	160分
7	加賀屋	石川県七尾市和倉町ヨ部80	5	300分
8	喜代美山荘花樹海	香川県高松市西宝町3丁目5-10	5	40分
9	琴参閣	香川県仲多度郡琴平町685-11	5	80分
10	琴平花壇	香川県仲多度郡琴平町1241-5	3	80分
11	琴平グランドホテル　桜の抄	香川県仲多度郡琴平町977-1	3	80分
12	こんぴら温泉湯元八千代	香川県仲多度郡琴平町611	5	80分
13	敷島館	香川県仲多度郡琴平町川西713-1	5	80分
14	ＪＲホテルクレメント高松	香川県高松市浜ノ町1-1	4	20分
15	小豆島国際ホテル	香川県小豆郡土庄町甲24-67	3	100分
16	シェラトン都ホテル大阪	大阪府大阪市天王寺区上本町6丁目1-55	3	150分
17	高松国際ホテル	香川県高松市木太町2191-1	6	20分
18	チサングランド高松	香川県高松市福田町11-1	2	30分
19	ハイアットリージェンシー大阪	大阪府大阪市住之江区南港北1-13-11	4	170分
20	ハイアットリージェンシー京都	京都府京都市東山区三十三間堂廻り664-2	2	150分
21	ベイリゾートホテル小豆島	香川県小豆郡小豆島町古江乙16-3	3	110分
22	ホテルニューアワジ	兵庫県洲本市小路谷20	6	150分
23	ホテルニューオータニ大阪	大阪府大阪市中央区城見1-4-1	5	150分
24	湯元こんぴら温泉　華の湯　紅梅亭	香川県仲多度郡琴平町556-1	3	80分
25	リーガホテルゼスト高松	香川県高松市古新町9-1	8	30分
26	リゾートホテルオリビアン小豆島	香川県小豆郡土庄町屋形崎甲63-1	5	100分
27	ロイヤルパークホテル高松	香川県高松市瓦町1丁目3-11	4	30分
受け入れ人数合計			111	

資料49　臨地実務実習施設一覧

【臨地実務実習Ⅱ・Ⅲ（観光地域創生クラス）】

	実習施設名	所在地	受け入れ人数	本学から実習施設までの所要時間
1	穴吹トラベル	香川県高松市磨屋町2-8	2	20分
2	イーストとくしま観光推進機構	徳島県徳島市寺島本町西1丁目61	4	60分
3	そらの郷	徳島県三好市池田町サラダ1893番地1	3	100分
4	井上誠耕園	香川県小豆郡小豆島町池田2352	10	90分
5	金沢市経済局営業戦略部観光政策課（金沢市観光協会）	石川県金沢市広坂1丁目1-1	1	330分
6	琴平バス株式会社高松営業所	香川県高松市朝日町5-4-18	2	15分
7	セカンドステージ	香川県高松市塩江町上西乙1118-8	4	100分
8	せとうち観光推進機構	広島県広島市中区基町10-3	4	150分
9	高松空港株式会社	香川県高松市香南町岡1312-7	2	60分
10	直島町観光協会	香川県香川郡直島町2249-40	6	80分
11	三豊鶴	香川県三豊市詫間町詫間字須田5437	5	80分
12	ＭｅｉＰＡＭ	香川県小豆郡土庄町甲405	6	120分
受け入れ人数合計			49	

資料 50　臨地実務実習施設の選定基準

臨地実務実習施設の選定基準

企業・施設の選定の基準	本学がめざす観光振興専門職業人教育に適応しうる実績と経営理念等を有する企業・施設であり、同時に本学の専門職短期大学としての教育理念と教育課程の趣旨を十二分に理解し賛同したうえで、本学との間で実習の趣旨と方法等について周到に議論を重ね、実習の受入体制を確実に整えられる企業・施設であること。
実習指導者選定の基準	本学教育課程における臨地実務実習の目的と意義を理解したうえで、実習目的の実務に精通し、大学専門職業教育としての臨地実務実習を真摯に担当できる人材であること。 （大学実務担当者は選定にあたって、実習指導者が実務に精通する基本的な前提条件として３年以上の実務経験を有することを確認したうえで、当該指導者が臨時実務教育の意味を理解し教育に対する適正な能力や姿勢等を具えているかを確認する）
実習の内容	本学ディプロマポリシー４「観光実務の知識と技能の修得」を主たる目的として、観光実務の知識と技能を体験的に修得する内容であり、学生が観光関連事業の現場でなければ体得できない、実践力、協働力、思考力を総合的に育成する内容でもある。
遠隔地での実習について学生負担の配慮	学生の実習期間中における生活状況を全面的に支援することとし、学生の相談に適宜応じる担当者を配置して、総合的なサポート体制を設置する。また、実習期間中の宿泊等については、大学がアパートや学生寮等を確保し、学生に負担のないように配慮する。

【臨地実務実習Ⅰ】

〇観光支援ビジネス関係

香川県内の本学が設定した５つのエリア（高松・東讃、中讃、西讃、小豆島、直島）において観光事業を牽引しながら、地域連携と地域創生に取り組み、地域色（歴史、風土、気候等）を反映させた商品やサービス、体験等を提供する企業・施設（38 施設）を選定した。

【臨地実務実習ⅡおよびⅢ】

〇航空・鉄道関係

関連業界の中で経営規模が比較的大きく、革新的な経営努力をつづけ、地域社会において観光振興・地域創生に貢献している企業・施設を選択した。

- 航空については、事業領域がグローバルであり、ホスピタリティ品質が国際的に定評のある３社（JAL、ANA、ジェットスター）とその基幹３空港（成田空港、関西空港、福岡空港）、及び地域に密接な関わりを持つ４空港（高松空港、那覇空港、名古屋空港、静岡空港）を選定した。
- 鉄道は地域の経済や雇用に大きく貢献している鉄道会社２社（ＪＲ四国、ことでん）と

資料 50　臨地実務実習施設の選定基準

その関連会社を含む主要な事業所を選定した。

〇宿泊関係

多様な顧客層やインバウンド観光に対応できる宿泊業務やホスピタリティマネジメントを学ぶという観点から、リゾートホテル（6 施設）、シティホテル（10 施設）、旅館（11 施設）を選択した。

・洗練された「情緒的サービス」（個別的・具体的な提供の仕方）と高度な「機能的サービス」（マニュアル化可能な便益の供与）を提供するシティホテルを運営する企業の中から、高松を中心に、経営実績があり関連業界における評価の高い施設を選定した。また、グローバル・レベルの最高級なホスピタリティを提供するラグジュアリー・クラスのホテル実務やマネジメントを体験できる施設として、大阪と京都のホテルを選定した。
・リゾートホテルを運営する企業から、小豆島、淡路島、鳴門といった瀬戸内地域に立地し、実績があり、関連業界から評価の高い、インバウンド観光にも対応できるホテルを選定した。
・旅館からは、温泉地である琴平を中心に規模が比較的大きく、情緒的サービスと高度な機能的サービスがともに評価の高い、香川県を代表する老舗旅館を選定した。また、ハイクラスの旅館として、「最高のもてなし」を提供すると全国的に評価の高い加賀屋グループ旅館を選定した。

〇観光地域創生関係

観光振興による地域創生事業によって、特色のある地域活性化に取り組み、高い社会的評価を受けたり、あるいは国際的に高く評価されたりしている、知名度の高い事業体や施設を選択した。選択された DMO や観光協会は、観光庁より日本版 DMO として登録されている団体である。

・瀬戸内地域において地域ブランディング戦略や観光マーケティング戦略に積極的な取組みを推進して、地域資源を活用した新規事業の地域観光振興を展開している企業・施設（11 施設）を選定した。
・金沢市と本学が所在する高松市が文化・観光交流都市として連携協定を結んでいる関係から、今後の観光振興・地域創生について産官学連携を展開し推進するために、金沢版 DMO として社会的評価がきわめて高い金沢市観光協会を実習先として選定した。

資料51　せとうち観光専門職短期大学　　臨地実務実習　実施スケジュール

		企業・団体名	第2クォーター									夏季休暇	第3クォーター								第4クォーター											
			6月2週	6月3週	6月4週	7月1週	7月2週	7月3週	7月4週	8月1週	8月2週		10月1週	10月2週	10月3週	10月4週	11月1週	11月2週	11月3週	11月4週	12月1週	12月2週	12月3週	12月4週	1月1週	1月2週	1月3週	1月4週	1月5週	2月1週	2月2週	2月3週
観光支援ビジネス	高松・東讃	栗林公園観光事務所															臨地実務実習Ⅰ 担当教員：堀田 施設数：８か所															
		かがわ物産館　栗林庵																													
		史跡高松城跡　玉藻公園																													
		スカイファーム																													
		瀬戸内こえびネットワーク																													
		高松市美術館																													
		高松丸亀町商店街振興組合																													
		道の駅源平の里むれ																													
		クアパーク津田															臨地実務実習Ⅰ 担当教員：阿部 施設数：８か所															
		日本ドルフィンセンター																													
		道の駅香南楽湯																													
		道の駅しおのえ																													
		石丸製麺株式会社																													
		高松空港株式会社		臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス） 担当教員：古川　施設数：３か所																	臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス） 担当教員：古川　施設数：３か所											
		セカンドステージ																													
	直島	直島町観光協会																													
	中讃	琴参閣															臨地実務実習Ⅰ 担当教員：小島 施設数：７か所															
		Kotori																													
		敷島館																													
		中野屋																													
		にしきや																													
		讃岐まんのう公園																													
		株式会社レオマユニティー																													
		丸亀市猪熊弦一郎現代美術館																													
		丸亀市観光協会															臨地実務実習Ⅰ 担当教員：安本 施設数：６か所															
	西讃	東邦レオ（父母ヶ浜を受け継ぐ会）																													
		株式会社Ｄｒａｗｏｒｔｈ																													
		三豊市観光交流局																													
		三豊鶴		臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス） 担当教員：古川　施設数：３か所																	臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス） 担当教員：古川　施設数：３か所											
	小豆島	井上誠耕園															臨地実務実習Ⅰ 担当教員：石床 施設数：８か所															
		ＭｅｉＰＡＭ																													
		寒霞渓ロープウェイ																													
		小豆島オリーブ園																													
		小豆島観光協会																													
		土庄港観光センター																													
		二十四の瞳映画村																													
		道の駅小豆島オリーブ公園																													
航空クラス		ANA沖縄空港株式会社 （那覇空港旅客ターミナルビル）		臨地実務実習Ⅱ 担当教員：安本 施設数：４か所																	臨地実務実習Ⅲ 担当教員：安本 施設数：３か所											
		JALスカイエアポート沖縄株式会社 （那覇空港旅客ターミナルビル）																													
		ANA福岡空港株式会社 （福岡空港旅客ターミナルビル）																													
		株式会社エスエーエス福岡空港事務所 （福岡空港旅客ターミナル）																													
		株式会社エスエーエス小牧空港事務所 （名古屋空港ターミナルビル）		臨地実務実習Ⅱ 担当教員：堀田 施設数：３か所																												
		株式会社エスエーエス富士山静岡空港事務所 （富士山静岡空港旅客ターミナル）																													
		株式会社Ｋスカイ （関西国際空港旅客ターミナル）																													
		空港ターミナルサービス株式会社 （成田国際空港）		臨地実務実習Ⅱ 担当教員：青木 施設数：３か所																	臨地実務実習Ⅲ 担当教員：堀田 施設数：３か所											
		ジェットスター・ジャパン株式会社成田空港支店 （成田国際空港第3ターミナル）																													
		四国航空株式会社 （高松空港旅客ターミナル）																													
鉄道クラス		高松琴平電気鉄道株式会社 （高松築港駅、瓦町駅、運転営業所、栗林本店、 コトデン瓦町ビル） ことでんバス株式会社 （高松空港バス乗車場、高松駅バスターミナル）		臨地実務実習Ⅱ 担当教員：青木、安本、堀田 施設数：７か所																												
		四国旅客鉄道株式会社 （高松駅、研修センター、本社） 四国キヨスク株式会社 （おみやげどころ丸亀店、坂出駅店、宇多津駅店）																			臨地実務実習Ⅲ 担当教員：青木、安本、堀田 施設数：6か所											
宿泊クラス		琴参閣		臨地実務実習Ⅱ 担当教員：石床 施設数：９か所																	臨地実務実習Ⅲ 担当教員：石床 施設数：１２か所											
		敷島館																													
		湯元こんぴら温泉　華の湯　紅梅亭																													
		琴平グランドホテル　桜の抄																													
		こんぴら温泉湯元八千代																													
		琴平花壇																													
		小豆島国際ホテル																													
		ベイリゾートホテル小豆島																													
		リゾートホテルオリビアン小豆島																													
		チサングランド高松		臨地実務実習Ⅱ 担当教員：小島 施設数：１８か所																	臨地実務実習Ⅲ 担当教員：小島 施設数：１５か所											
		ＪＲホテルクレメント高松																													
		喜代美山荘花樹海																													
		ロイヤルパークホテル高松																													
		リーガホテルゼスト高松																													
		高松国際ホテル																													
		アオアヲナルトリゾート																													
		淡路夢泉景																													
		ホテルニューアワジ																													
		海のホテル島花																													
		ウェスティンホテル淡路																													
		ウェスティンホテル大阪																													
		シェラトン都ホテル大阪																													
		ハイアットリージェンシー大阪																													
		ホテルニューオータニ大阪																													
		ハイアットリージェンシー京都																													
		加賀屋																													
		加賀屋姉妹館　あえの風																													
観光地域創生クラス		穴吹トラベル		臨地実務実習Ⅱ 担当教員：阿部 施設数：６か所																	臨地実務実習Ⅲ 担当教員：阿部 施設数：６か所											
		琴平バス株式会社高松営業所																													
		イーストとくしま観光推進機構																													
		そらの郷																													
		金沢市経済局営業戦略部観光政策課（金沢市観光協会）																													
		せとうち観光推進機構																													

【臨地実務実習Ⅰ】

エリア名	担当教員	10/30 月	10/31 火	11/1 水	11/2 木	11/3 金	11/4 土	11/5 日	11/6 月	11/7 火	11/8 水	11/9 木	11/10 金	11/11 土	11/12 日	11/13 月	11/14 火	11/15 水	11/16 木	11/17 金	11/18 土	11/19 日	11/20 月	11/21 火	11/22 水	11/23 木	11/24 金
高松・東讃エリア直島エリア	堀田	授業		授業等	授業				授業		授業等	授業	高松 3か所			授業	高松 3か所	授業等	授業	高松 2か所			授業		授業等		
	阿部		AM 授業	授業等	AM 授業					AM 授業	授業等	AM 授業	高松 東讃 3か所			高松 3か所	AM 授業	授業等	AM 授業	高松 直島 2か所				AM 授業	授業等		
中讃エリア西讃エリア	安本		AM 授業	授業等	AM 授業					AM 授業	授業等	AM 授業	中讃 西讃 3か所			西讃 3か所	AM 授業	授業等	AM 授業					AM 授業	授業等		
	小島			授業等							授業等		中讃 2か所			中讃 3か所	中讃 2か所	授業等						授業等			
小豆島エリア	石床		AM 授業	授業等	AM 授業					AM 授業	授業等	AM 授業	小豆島 3か所			小豆島 3か所	AM 授業	授業等	AM 授業	小豆島 2か所				AM 授業	授業等		

【　臨地実務実習Ⅱ　（航空クラス）　】

担当教員	6/12 月	6/13 火	6/14 水	6/15 木	6/16 金	6/17 土	6/18 日	6/19 月	6/20 火	6/21 水	6/22 木	6/23 金	6/24 土	6/25 日	6/26 月	6/27 火	6/28 水	6/29 木	6/30 金	7/1 土	7/2 日	7/3 月	7/4 火	7/5 水	7/6 木	7/7 金	7/8 土	7/9 日	7/10 月	7/11 火	7/12 水
青木	ＰＭ授業		授業等	ＰＭ授業				ＰＭ授業	高松１ヶ所	授業等	ＰＭ授業	成田１か所	成田１か所		ＰＭ授業		授業等	ＰＭ授業				ＰＭ授業		授業等	ＰＭ授業				ＰＭ授業	高松１ヶ所	授業等
安本			授業等							授業等		那覇１か所	那覇１か所			授業等		福岡１か所	福岡１か所					授業等							授業等
堀田	授業		授業等	授業				授業		授業等	授業	静岡１ヶ所	名古屋１ヶ所		授業		授業等	授業	大阪１ヶ所			授業		授業等	授業				授業		授業等

担当教員	7/13 木	7/14 金	7/15 土	7/16 日	7/17 月	7/18 火	7/19 水	7/20 木	7/21 金	7/22 土	7/23 日	7/24 月	7/25 火	7/26 水	7/27 木	7/28 金	7/29 土	7/30 日	7/31 月	8/1 火	8/2 水	8/3 木	8/4 金	8/5 土	8/6 日	8/7 月	8/8 火	8/9 水	8/10 木	8/11 金	8/12 土
青木	ＰＭ授業	成田１か所	成田１か所				授業等	ＰＭ授業				ＰＭ授業		授業等	ＰＭ授業				ＰＭ授業		授業等	ＰＭ授業										
安本		那覇１か所	那覇１か所				授業等		福岡１か所	福岡１か所				授業等							授業等											
堀田	授業	静岡１ヶ所	名古屋１ヶ所				授業等	授業	大阪１ヶ所			授業		授業等	授業				授業		授業等	授業										

【　臨地実務実習Ⅲ　（航空クラス）　】

担当教員	12/6 水	12/7 木	12/8 金	12/9 土	12/10 日	12/11 月	12/12 火	12/13 水	12/14 木	12/15 金	12/16 土	12/17 日	12/18 月	12/19 火	12/20 水	12/21 木	12/22 金	12/23 土	12/24 日	12/25 月	12/26 火	12/27 水	12/28 木	12/29 金	12/30 土	12/31 日	1/1 月	1/2 火	1/3 水	1/4 木	1/5 金
青木	授業等							授業等							授業等							授業等									
安本	授業等		ＡＭ授業				ＡＭ授業	授業等		ＡＭ授業				ＡＭ授業	授業等		ＡＭ授業		那覇１か所	那覇１か所	ＡＭ授業	授業等								
堀田	授業等		ＡＭ授業				ＡＭ授業	授業等		ＡＭ授業				ＡＭ授業	授業等		ＡＭ授業		成田１か所	成田１か所	ＡＭ授業	授業等								

担当教員	1/6 土	1/7 日	1/8 月	1/9 火	1/10 水	1/11 木	1/12 金	1/13 土	1/14 日	1/15 月	1/16 火	1/17 水	1/18 木	1/19 金	1/20 土	1/21 日	1/22 月	1/23 火	1/24 水	1/25 木	1/26 金	1/27 土	1/28 日	1/29 月	1/30 火	1/31 水	2/1 木	2/2 金	2/3 土	2/4 日	2/5 月
青木					授業等							授業等							授業等							授業等					
安本				ＡＭ授業	授業等	福岡１か所	ＡＭ授業		那覇１か所	那覇１か所		授業等						福岡１か所	授業等							授業等					
堀田				ＡＭ授業	授業等	大阪１ヶ所	ＡＭ授業		成田１か所	成田１か所		授業等							授業等	大阪１ヶ所						授業等					

資料52　せとうち観光専門職短期大学　臨地実務実習　巡回指導計画　　**令和５年度(完成年度)**　　No.3

【　臨地実務実習Ⅱ　（鉄道クラス）　】

担当	6/12	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12
教員	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
青木	ＰＭ授業		授業等	ＰＭ授業				ＰＭ授業		授業等	ＰＭ授業				ＰＭ授業		授業等	ＰＭ授業				ＰＭ授業		授業等	ＰＭ授業				ＰＭ授業		授業等
安本		高松1ヶ所	授業等						高松1ヶ所	授業等						授業等								授業等						高松1ヶ所	授業等
堀田	授業		授業等	授業				授業		授業等	授業				授業	高松1ヶ所	授業等	授業				授業	高松1ヶ所	授業等	授業				授業		授業等

担当	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12
教員	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
青木	ＰＭ授業						授業等	ＰＭ授業				ＰＭ授業		授業等	ＰＭ授業				ＰＭ授業		授業等	ＰＭ授業										
安本							授業等							授業等							授業等										
堀田	授業					高松1ヶ所	授業等	授業				授業	高松1ヶ所	授業等	授業				授業		授業等	授業									

【　臨地実務実習Ⅲ　（鉄道クラス）　】

担当	12/6	12/7	12/8	12/9	12/10	12/11	12/12	12/13	12/14	12/15	12/16	12/17	12/18	12/19	12/20	12/21	12/22	12/23	12/24	12/25	12/26	12/27	12/28	12/29	12/30	12/31	1/1	1/2	1/3	1/4	1/5
教員	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
青木	授業等							授業等							授業等							授業等									
安本	授業等		ＡＭ授業				AM授業 高松1ヶ所	授業等		ＡＭ授業				AM授業 高松1ヶ所	授業等		ＡＭ授業				ＡＭ授業	授業等									
堀田	授業等		ＡＭ授業				ＡＭ授業	授業等		ＡＭ授業				ＡＭ授業	授業等		ＡＭ授業				AM授業 高松1ヶ所	授業等									

担当	1/6	1/7	1/8	1/9	1/10	1/11	1/12	1/13	1/14	1/15	1/16	1/17	1/18	1/19	1/20	1/21	1/22	1/23	1/24	1/25	1/26	1/27	1/28	1/29	1/30	1/31	2/1	2/2	2/3	2/4	2/5
教員	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
青木					授業等							授業等							授業等							授業等					
安本				ＡＭ授業	授業等		ＡＭ授業				高松1ヶ所	授業等							授業等							授業等					
堀田				AM授業 高松1ヶ所	授業等		ＡＭ授業					授業等						高松1ヶ所	授業等							授業等					

【　臨地実務実習Ⅱ　（宿泊クラス）　】

担当	6/12	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12
教員	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
石床	授業		授業等	授業				授業	琴平 3か所	授業等	授業	琴平 3か所			授業	小豆島 3か所	授業等	授業				授業		授業等	授業				授業	琴平 3か所	授業等
小島			授業等					高松 3か所	高松 3か所	授業等							授業等	大阪 3か所	大阪 京都 2か所	七尾 2か所		徳島 淡路 2か所	淡路 3か所	授業等					高松 3か所	高松 3か所	授業等

担当	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12
教員	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
石床	授業	琴平 3か所				小豆島 3か所	授業等	授業				授業		授業等	授業				授業		授業等	授業										
小島				大阪 3か所	大阪 京都 2か所	七尾 2か所	授業等					徳島 淡路 2か所	淡路 3か所	授業等							授業等											

【　臨地実務実習Ⅲ　（宿泊クラス）　】

担当	12/6	12/7	12/8	12/9	12/10	12/11	12/12	12/13	12/14	12/15	12/16	12/17	12/18	12/19	12/20	12/21	12/22	12/23	12/24	12/25	12/26	12/27	12/28	12/29	12/30	12/31	1/1	1/2	1/3	1/4	1/5
教員	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
石床	授業等		ＡＭ 授業				ＡＭ 授業	授業等		ＡＭ 授業			琴平 3か所	ＡＭ 授業	授業等	琴平 3か所	ＡＭ 授業			小豆島 3か所	ＡＭ 授業	授業等										
小島	授業等		ＡＭ 授業				ＡＭ 授業	授業等		ＡＭ 授業			高松 3か所	ＡＭ 授業	授業等	徳島 淡路 2か所	ＡＭ 授業		七尾 ２か所		ＡＭ 授業	授業等	大阪 3か所									

担当	1/6	1/7	1/8	1/9	1/10	1/11	1/12	1/13	1/14	1/15	1/16	1/17	1/18	1/19	1/20	1/21	1/22	1/23	1/24	1/25	1/26	1/27	1/28	1/29	1/30	1/31	2/1	2/2	2/3	2/4	2/5
教員	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
石床				ＡＭ 授業	授業等	高松 3か所	ＡＭ 授業			琴平 3か所		授業等	琴平 3か所				小豆島 3か所		授業等	高松 3か所							授業等					
小島			淡路 3か所	ＡＭ 授業	授業等	大阪 京都 2か所	ＡＭ 授業			高松 3か所		授業等	徳島 淡路 2か所				七尾 ２か所		授業等	大阪 3か所				淡路 3か所			授業等	大阪 京都 2か所				

資料52　せとうち観光専門職短期大学　臨地実務実習　巡回指導計画　　**令和５年度(完成年度)**　　No.5

【　臨地実務実習Ⅱ　（観光地域創生クラス）　】

担当	6/12	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12
教員	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
古川		ＰＭ授業	授業等		ＰＭ授業			高松西讃3か所	ＰＭ授業	授業等	直島1ヶ所	ＰＭ授業			小豆島2か所	ＰＭ授業	授業等		ＰＭ授業				ＰＭ授業	授業等		ＰＭ授業			高松西讃3か所	ＰＭ授業	授業等
阿部			授業等					金沢1ヶ所		授業等						広島1ヶ所	授業等	高松徳島4か所						授業等					金沢1ヶ所		授業等

担当	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12
教員	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
古川	直島1ヶ所	ＰＭ授業				ＰＭ授業	授業等	小豆島2か所	ＰＭ授業				ＰＭ授業	授業等		ＰＭ授業				ＰＭ授業	授業等		ＰＭ授業								
阿部						広島1ヶ所	授業等	高松徳島4か所						授業等							授業等										

【　臨地実務実習Ⅲ　（観光地域創生クラス）　】

担当	12/6	12/7	12/8	12/9	12/10	12/11	12/12	12/13	12/14	12/15	12/16	12/17	12/18	12/19	12/20	12/21	12/22	12/23	12/24	12/25	12/26	12/27	12/28	12/29	12/30	12/31	1/1	1/2	1/3	1/4	1/5
教員	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
古川	授業等							授業等					高松西讃3か所	直島1ヶ所	授業等					小豆島2か所		授業等										
阿部	授業等		ＡＭ授業				ＡＭ授業	授業等		ＡＭ授業			高松徳島4か所	ＡＭ授業	授業等	広島1ヶ所	ＡＭ授業		金沢1ヶ所		ＡＭ授業	授業等									

担当	1/6	1/7	1/8	1/9	1/10	1/11	1/12	1/13	1/14	1/15	1/16	1/17	1/18	1/19	1/20	1/21	1/22	1/23	1/24	1/25	1/26	1/27	1/28	1/29	1/30	1/31	2/1	2/2	2/3	2/4	2/5
教員	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
古川					授業等					高松西讃3か所	直島1ヶ所	授業等					小豆島2か所		授業等							授業等					
阿部				ＡＭ授業	授業等		ＡＭ授業			高松徳島4か所		授業等	広島1ヶ所				金沢1ヶ所		授業等							授業等					

資料53　臨地実務実習　活動日誌

臨地実務実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ　活動日誌

せとうち観光専門職短期大学

実習生学生番号：	実習生氏名：

期　日：　　月　　日（　　）

実習施設：	実習指導者：

実習の目標：

①

②

③

時間	職場環境	業務内容	職務活動状況	実習生の認知・察知・感知した事柄

時間	職場環境	業務内容	職務活動状況	実習生の認知・察知

総括・反省：	指導・助言：

資料54　臨地実務実習クラス別実習計画書

臨地実務実習Ⅰ　実習計画書

項目	内容
学校名	せとうち観光専門職短期大学
学科名	観光振興学科
科目名	臨地実務実習Ⅰ
臨地実務実習施設 (主たる実習場所)	香川県内の観光支援ビジネス事業所
(1)実習の概要	
実習の目的	観光学及び観光事業の基本知識やコミュニケーション能力等を事前に学修した後に、瀬戸内の観光の最前線における現場で実習を行い、今後のグローバルな時代に求められる地域社会の中核的な観光人材の役割を主体的に学び、考える態度を身に付け、同時に実践力を養う。特に、今後の地方の観光業界においては、地域資源の活用や観光のブランディング化を担う自治体、DMO等が起点となって、地域内外を結ぶ航空・鉄道やホテル、観光施設、地域の食文化や様々な産業を支える伝統産業を関連付けた観光事業や地域再生事業を行い、「観光地域づくり」を推進する必要がある。 そこで、「臨地実務実習Ⅰ」は、実習施設における業務やマネジメントを学修することはもちろん、実習施設を「エリア」（東讃、高松、中讃、西讃、小豆島、直島）に区分し、本実習を事前学修（観光支援ビジネス実務基礎論）ならびに事後学修（観光支援ビジネス実務発展論）と有機的に結びつけることで、実習エリア、香川、ひいては瀬戸内における観光を面的に捉え、総合的に瀬戸内の観光の現状と課題を確認する。地域振興のための創造力を磨き、地域の人々と共に活動することによって、広い視野で地域の活性化に貢献できる実践力を修得することを目的とする。
到達目標	本実習の実習施設は、香川県内の観光地において観光産業を牽引する、地域性（歴史、風土、気候等）を色濃く反映した、一流の商品やサービス、体験を提供し続ける企業・施設である。本実習では、以下の実習内容に沿った実習を遂行することで、実習施設における業務と業務遂行に必要な技能を十分理解し、実習施設が実習地において担う役割と、実習地における観光に関する現状と課題を的確に把握することを目指す。これは、観光人材に必要となる実践力と協働力、その土台となる思考力の涵養を目指すものである。 ①事前学修した理論や知見、状況把握・課題発見の手法を活用し、実習施設が所在する地域と当該地における観光産業の特徴や現状と課題を的確に理解し、それについて他者にわかりやすく伝えることができる。 ②実習施設業務の基本的な補助業務については単独で安全に遂行できる。 ③各施設での様々な仕事の流れの中で自身の与えられた役割を理解し、周囲の人からの指示や示唆を受け入れ、的確に目標を遂行できる。 ④提供されるオリジナル商品や観光サービスの製造工程ならびにそれを魅力ある商品・サービスとするための実行組織のあり方や役割分担について、実習によって体得し、説明することができる。 ⑤チームでのコミュニケーションを理解し、他者と協調・協働して行動できる。
実習の内容	**香川県内の観光（支援）事業に従事する施設での実習** **<u>●実務実習（1週目）：実習施設に関する基礎的理解、業務遂行に必要な能力の理解</u>** **（初日）** ・経営者ならびに実習指導者より施設の概要、経営理念について説明を受け、実習施設について理解を深める。実習参加学生は事前に同施設や同施設の事業について学修しているので、その情報との整合性を確認する。 ・この実習中の到達点のすり合わせを行い、そのためにどのような実習に取り組むのか実習指導者と参加学生双方で確認する。実習施設の確認もあわせて行う。 **（2日目以降）** 実習施設の業務に補助的立場で関わることで、当該施設における業務の大枠とその業務遂行に必要な能力を理解する。その際、製造・サービス業の基礎である服装，挨拶，礼儀正しい周囲への態度に留意する。チームワークや適切なコミュニケーションの手段・報連相（報告・連絡・相談）を意識的に実践する。 **<u>●実務実習2週目：業務遂行に必要な力の涵養、実習地における実習施設の役割・位置づけの理解、実習地に関する理解</u>** ・引き続き、実習施設の補助的業務に関わり、当該施設における業務遂行に必要な能力の基礎を学ぶ。 ・実習施設の実習地での役割について分析する。そのための手がかりとして、第2週前半で、経営者もしくは実習指導者より（指導者から見た）実習施設の実習地での役割について説明を受ける。このほか、実習生が経営者、実習指導者をはじめとする地域関係者に適宜インタビューを行ったり、業務遂行をしながら観察をし、分析に必要なデータを収集する。 ・実習地の特徴と課題把握のために、業務を遂行しながら、地域状況の観察も行う。可能な範囲で、自治体関係者より実習エリアに関するレクチャー（基礎情報、総合計画と現状、課題、観光施策等）を提供してもらい、現状把握を進める。

<table>
<tr><td>実習の内容</td><td colspan="2"><u>●実務実習3週目：業務遂行に必要な力の修得、実習地における実習施設の役割・位置づけと実習地の特徴分析</u>

・実習施設の補助的業務に関わり、当該施設における業務遂行に必要な能力の基礎を修得する。
・実習施設の実習地での役割と実習地の特徴や課題を自分なりに整理する。
・最終日の報告に向けたプレゼンテーション準備を行う。
（最終日：1～2時間程度）
・実習の振り返りを行う。初日に確認した到達点への到達状況の確認をするほか、実習生より、実習地における実習施設の役割・位置づけと実習地の特徴の分析結果をプレゼンテーションし、実習指導者ほか受け入れに関わってくださった方々と意見交換を行う。</td></tr>
<tr><td>実習施設指導者による評価項目</td><td colspan="2">実習の達成度は、実習施設指導者が別紙「臨地実務実習施設指導者評価書」に記載するA.1.実務知識技能、A.2.安全確保、A.3.ホスピタリティ、B.1.チームワーク、B.2.リーダーシップ、B.3.他者への共感・受容・気配り、C.1.変革・挑戦と新しい価値創造、C.2.職業倫理、C.3.経営の視点を基準として評価する。
また、上記の評価を踏まえ到達目標の達成度を評価する。</td></tr>
<tr><td>実習期間</td><td colspan="2">令和 ３年１０月１２日　～　令和 ３年１１月 １日（３週間）
※実習の実施は週５日間とし、一週間のうち２日間は休日とする。</td></tr>
<tr><td>1日当たりの実習時間</td><td colspan="2">８時間（休憩時間を除く）</td></tr>
<tr><td>受け入れる学生の数</td><td colspan="2">最大　　名</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実習指導者の配置</td><td>氏名</td><td>所属・職名</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">このほか、実習内容の合わせ実習補助者を配置する。</td></tr>
<tr><td>成績評価の基準及び方法</td><td colspan="2">実習指導者による審査は、別紙「臨地実務実習施設指導者評価書」により行う。
実習振り返りレポート（80%）、臨地実務実習施設指導者評価書（20%）の評価比率に基づき、担当教員が科目到達目標への
到達度等を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>担当教員による巡回指導等の実施</td><td colspan="2">担当教員は、実習2週目に１回の頻度で臨地実務実習施設を巡回し、学生との面談および指導、実習指導者と実習運営上の課題等の聞き取りなど情報交換して学生の実習状況を確認する。</td></tr>
<tr><td>学生の活動日誌による報告</td><td colspan="2">学生は実習期間中、別に定める様式により活動日誌を作成し、実習指導者等の確認を経て担当教員に報告する。</td></tr>
<tr><td>学生に対する報酬及び
交通費支給等の取扱い</td><td colspan="2">学生に対する報酬・交通費等の支給は原則行わない。ただし実習施設職員に同行して行う事業所外での実習に係る交通費については、
就業規則の定めに準じて実習施設が支払う。</td></tr>
<tr><td>実習中の災害補償及び
損害賠償責任</td><td colspan="2">①学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険に加入するものとする。
②実習中における学生の事故等については、実習施設の故意または重過失による場合を除き、①にて学生が加入するインターンシップ
保険をもって補償に充てる。
③実習中における学生による実習施設または第三者への損害については、学生の故意または重過失による場合を除き、①にて学生が
加入するインターンシップ保険をもって補償に充てる。</td></tr>
<tr><td>知的財産権の帰属等の取扱い</td><td colspan="2">①臨地実務実習の実施の過程で学生が創出した発明等に係る知的財産権は、実習施設に帰属するものとし、実習施設は、社内規定に
基づき、学生に対し応分の報奨を与える。
②大学または学生が、学会発表、論文発表その他の方法により学生が創出した発明等について第三者に公表・開示しようとする場合は、
事前に実習施設の同意を得るものとする。</td></tr>
</table>

資料54　臨地実務実習クラス別実習計画書

臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）　実習計画書

項目	内容
学校名	せとうち観光専門職短期大学
学科名	観光振興学科
科目名	臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）
臨地実務実習施設 （主たる実習場所）	航空事業所
(1)実習の概要	
実習の目的	現代観光の大きな特徴である「旅行の大衆化」を可能にした要因のうち、主要な一つが公共交通機関の発達である。本実習ではそのうち、現代国内の主要な高速交通機関となるとともに、ハブ空港に到来したインバウンド旅客の地方送客機能の中核となり各地域の観光振興にも大きな役割を果たしている国内線航空事業の実務を、その主要な事業舞台となる地方空港において修得する。 本実習の目的は、地方空港の国内線ハンドリングの現場において、実際の顧客に対するサービス業務により対人関係能力を体得しながら、国内旅客運送実務の基本的な流れとこれらを着実に実現するためのチームワーク・協調性の重要性を理解・修得すること、及びこのような旅客運送現場を円滑に管理運営するためのコミュニケーション能力やリーダーシップの手法を実地に学ぶことにあり、特にこれら事業の根幹であり且つ大前提となっている「安全」の確保に関わる考え方や仕組みについて理解し、自ら検証する姿勢を身に付けるとともに、地域連携に基づく観光振興に向けた航空会社の取り組みについて理解を深めることで、観光振興専門職として観光・地域振興の運営・管理に主体的に取り組む習慣と能力を涵養することを最優先の目的とする。同時に、あらゆる観光産業において普遍的に必要とされるホスピタリティを、極めて高いレベルで求められる航空会社のサービス専門担当者からの直接指導の下で経験することにより、高品質で実践的なレベルのホスピタリティを修得することを目指す。
到達目標	以下の各目標項目を達成することにより、「観光実務基礎論」等の事前学修による理論に裏付けられた実践力を身に付け、将来、観光関連の就職先等において、ビジネスのイノベーション、並びに新たな需要/マーケット開発を牽引し得る能力を涵養する。 ①空港における航空会社国内線旅客運送業務の専門知識を身に付けた上で、基本動作については単独で遂行するとともに問題解決の方向性について自分自身の考え方を説明することができる。 ②現場における基本動作の実践を通じ、航空事業の大前提となる”安全”の重要性を体得した上で、航空事業の根幹としての”安全”の意味をマネジメントの立場からも理解できる。 ③内外の多様な乗客に対面でのサービス実践を通して、将来他の観光産業分野においても通用し得るレベルのホスピタリティを体得した上で、地域観光振興の視点から、航空事業の存在意義や課題を自ら考察することができる。 ④空港における実務体験を通して、航空事業全体における空港現場の位置づけ、各現業実務の重要性等を、マネジメントの立場からも理解することができる。 ⑤安全・安心の確保、或いはハンディキャップを持つ乗客への対応、多国籍・多宗教の乗客への対応等、交通業の中でも特に航空業が高い水準で実現しているこれらの分野の仕組み、考え方、現業部門のモチベーション等の理解を現場で体得し、他の交通機関においても実践できる。 ⑥国内線航空事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等について、自らの固有のアイデアを発表することができる。
実習の内容	空港における実務実習①ー国内線ディパーチャー実務（実習の期間：計３週間） ●空港における国内線ディパーチャー実務体験準備（２日間） 空港国内線現場実習Ｉー国内線ディパーチャー実務に向けて、受け入れ企業側のトップマネジメント（支社長・支店長など）より、エアラインビジネス全体における国内線事業の重要性や位置づけ、空港国内線実務実習を行う上での心構え等についてトップマネジメントの生の声を聴き、経営の視点から見たエアラインビジネスの基本理念やフィロソフィーを直接学ぶ。また、受け入れ企業側の実務リーダーの案内に基づき空港の官庁組織や各関連施設／設備等の実際の役割・機能を、事前学修した理論と照らし合わせ確認しながら更に理解を深化させる。 ・国内線ディパーチャー実務の重要性や位置づけを、実務担当者のみならず経営者の立場からも理解できるよう、経営としての考え方やフィロソフィー等を学修する。 ・企業側の実務リーダーからの説明を、事前学修した理論に照らし合わせながら理解を深めるとともに、特に安全に関わる基本姿勢と注意事項を再確認する。 ・空港内国内線ディパーチャー関連施設設備の概要、各組織別担務、空港到着からセキュリティエリア通過までの旅客の流れ，特に国内線ディパーチャー業務で留意すべき顧客サービス、その他の専門知識について、受入れ企業側の実務リーダーから説明を受ける。 ・安全、安心に関わる事前実習として、非常時の緊急連絡、テロ/爆破予告等への対応、乗客の避難誘導、緊急看護、自己の身を守る技術等について、事前学修した理論に基づきながら実地訓練実習を実施する。また、日本語を解さない乗客、高齢者、ハンディキャップを持つ乗客等への対応をロールプレイ等も含めた実習で学修する。 ●空港における国内線ディパーチャー実務実習（実習の期間：３週間 ※前述の実務体験準備２日を含む） 国内線ディパーチャー業務の中の各実務アクションを、事前学修した理論にひとつひとつ実際に照らし合わせながら、その機能や意味合いの理解を更に深化させる。 ◎国内線ディパーチャー業務実務実習　（実習施設空港の国内線乗客到着から、チェックイン／出発案内／セキュリティエリア通過まで） ・空港に至る迄の旅客の流れ（営業→予約→航空券購入→空港）の基礎について、事前学修した理論に基づき国内線ディパーチャー現場での実習も交えながら実務を学修する。 ・国内線予約業務全般（予約クラスの違いと特色、各種運賃の特性、プライオリティゲスト、ファミリーサービス、プロトコール、予約システム操作、オンライン予約等）の国内線基礎実務をディパーチャー現場での実習も交えながら学修する。 ・航空券の種別、主な運賃体系、運賃種別毎の制限事項、旅行代理店への座席リリース、レベニューマネジメント、発券、受託・機内持ち込み手荷物の取り扱い、制限品・危険物の取り扱い、機種毎の航空機材特性等の国内線基礎実務をディパーチャー現場での実習も交えながら学修する。 ・空港における出発時のセキュリティ検査、及び関連法規の基礎実務について、国内線ディパーチャー現場での実習も交えながら学修する。

実習の内容	・チェックインシステムの操作方法、及び座席仕訳及び団体の取り扱い等に関わる基礎実務について、国内線ディパーチャー現場での実習も交えながら学修する。 ・実習施設実務指導者とともに、各自が国内線チェックインカウンターに立ち、旅客対応を含めたチェックインの実務を0JT方式で体験する。また、事前学修した理論を実際に乗客への対面サービスに活用し、ホスピタリティの実践能力を修得する。 ・実務実習経験を踏まえた国内線に関わる新規事業/新たな需要・マーケット開発、並びにＩＴ等を活用したイノベーション等について、実習施設指導者を交えたブレーンストーミング/意見交換会を実施する。 ・国内線ディパーチャー業務最終日：実務実習の振り返りと纏め 空港における実務実習②ー国内線トラフィック・アライバル実務（実習の期間：計３週間） ●空港における国内線トラフィック・アライバル実務体験準備（２日間） 空港現場実習ー国内線トラフィック・アライバル実務に向けて、受け入れ企業側のトップマネジメント（支社長・支店長など）より、国内線事業における地域振興への貢献、社会構造の変化を睨んだイノベーション、或いは経営の視点から見た国内線ビジネスの基本理念やフィロソフィー等を直接学び、事前学修した理論と照らし合わせ確認しながら更に理解を深化させる。 ・国内線トラフィック・アライバル実務の重要性や位置づけを、実務担当者のみならず経営者の立場からも理解できるよう、経営としての考え方やフィロソフィーを学修する。 ・受入れ企業側の実務リーダーからの説明を、事前学修した理論に照らし合わせながら理解を深めるとともに、特に安全に関わる基本姿勢と注意事項を再確認する。 ・国内線に関わる空港内トラフィック・アライバル関連施設設備の概要、各組織別担務、国内線出発セキュリティ検査場通過から航空機搭乗、及び航空機降機から、受託手荷物の引き渡し、空港離脱までの乗客の流れ，特に国内線トラフィック・アライバル業務で留意すべき顧客サービス、その他の専門知識について、受入れ企業側の実務リーダーから説明を受ける。 ・安全、安心に関わる実習前準備として、非常時の緊急連絡、テロ/爆破予告等への対応、乗客の避難誘導、緊急看護、自己の身を守る技術等について、事前学修した理論に基づきながら実地訓練実習を実施する。また、日本語を解さない乗客、高齢者、ハンディキャップを持つ乗客等への対応をロールプレイ等も含めた実習で学修する。 ●空港における国内線トラフィック・アライバル実務実習（実習の期間：３週間 ※前述の実務体験準備の２日と後述の実務体験後報告会１日間を含む） 国内線トラフィック・アライバル業務の中の各実務アクションを、事前学修した理論にひとつひとつ実際に照らし合わせながら、その機能や意味合いの理解を更に深化させる。 ◎国内線トラフィック業務実務実習（実習空港の国内線セキュリティー検査場通過後から航空機搭乗まで） ・国内線トラフィック業務の主な活動領域となるエリア（上述）における留意事項等について、事前学修した理論を踏まえながら、トラフィック現場での実習を通して実践的に学修する。 ・乗客の動線上国内線トラフィック業務の次行程となる航空機内（＝客室）の基礎実務について、トラフィック現場での実習を交えながら学修する。 ・実務指導者とともに、実際の乗客対応を含めた国内線トラフィック実務を0JT形式で経験することで、ホスピタリティの実践能力を体得する。 ・国内線トラフィック業務最終日：実務実習の振り返りと纏め ◎国内線アライバル業務実務実習　（実習施設空港の国内線航空機到着から、受託手荷物引き渡しエリア、到着案内、手荷物事故対応エリア、乗客の空港離脱までのエリアまで） ・空港における国内線到着時の諸手続き、及び関連法規の基礎実務について、事前学修した理論を再確認しながら、アライバル現場での実習も交え学修する。 ・受託手荷物の引き渡し、ダメージ・ロスト受託荷物の取り扱いの基礎実務について、国内線アライバル現場での実習も交えながら学修する。 ・実務指導者とともに、実際の乗客対応を含めた国内線アライバル実務を0JT形式で経験することで、ホスピタリティの実践能力を体得する。 ・国内線到着旅客に対するゼネラルインフォメーション（観光案内、交通案内他、滞在中に必要な諸情報）提供を通して、事前学修した理論に照らしながらホスピタリティの実践を修得する。 ・実務経験を踏まえた国内線トラフィック・アライバルの両業務に関わる新規事業/新たな需要・マーケット開発、並びにＩＴ等を活用したビジネスイノベーション等について、実習施設指導者を交えたブレーンストーミング/意見交換会を実施する。 ・国内線アライバル業務最終日：実務実習の振り返りと纏め ●空港国内線における実務体験後報告会（1日間） 空港国内線実務実習最終日：経験した各実務の意義，課題，反省点などについて報告会を行う。この報告会には，実習施設実務担当者を配置して，適宜助言や指導を実施する。また、受入れ企業の現場トップ（支店長、支社長等）からの訓話を受け、マネジメントとしての哲学、理念、考え方を学ぶ。

<table>
<tr><td>実習施設指導者による評価項目</td><td colspan="2">実習の達成度は、実習施設指導者が別紙「臨地実務実習施設指導者評価書」に記載するA.1.実務知識技能、A.2.安全確保、A.3.ホスピタリティ、B.1.チームワーク、B.2.リーダーシップ、B.3.他者への共感・受容・気配り、C.1.職業倫理を基準として評価する。
また、上記の評価を踏まえ到達目標の達成度を評価する。</td></tr>
<tr><td>実習期間</td><td colspan="2">令和　4年　6月　8日　　～　　平成　4年　8月　2日（6週間）
※実習の実施は週５日間とし、一週間のうち２日間は休日とする。</td></tr>
<tr><td>1日当たりの実習時間</td><td colspan="2">８時間（休憩時間を除く）</td></tr>
<tr><td>受け入れる学生の数</td><td colspan="2">最大　　名</td></tr>
<tr><td rowspan="4">実習指導者の配置</td><td>氏名</td><td>所属・職名</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">このほか、実習内容の合わせ実習補助者を配置する。</td></tr>
<tr><td>成績評価の基準及び方法</td><td colspan="2">実習指導者による審査は、別紙「臨地実務実習施設指導者評価書」により行う。
実習振り返りレポート（80%）、臨地実務実習施設指導者評価書（20%）の評価比率に基づき、担当教員が科目到達目標への
到達度等を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>担当教員による巡回指導等の実施</td><td colspan="2">担当教員は、実習期間中に３週間に１回の頻度で臨地実務実習施設を巡回し、学生との面談および指導、実習指導者と実習運営上の課題等の聞き取りなど情報交換して学生の実習状況を確認する。</td></tr>
<tr><td>学生の活動日誌による報告</td><td colspan="2">学生は実習期間中、別に定める様式により活動日誌を作成し、実習指導者等の確認を経て担当教員に報告する。</td></tr>
<tr><td>学生に対する報酬及び
交通費支給等の取扱い</td><td colspan="2">学生に対する報酬・交通費等の支給は原則行わない。ただし実習施設職員に同行して行う事業所外での実習に係る交通費については、就業規則の定めに準じて実習施設が支払う。</td></tr>
<tr><td>実習中の災害補償及び
損害賠償責任</td><td colspan="2">①学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険に加入するものとする。
②実習中における学生の事故等については、実習施設の故意または重過失による場合を除き、①にて学生が加入するインターンシップ保険をもって補償に充てる。
③実習中における学生による実習施設または第三者への損害については、学生の故意または重過失による場合を除き、①にて学生が　加入するインターンシップ保険をもって補償に充てる。</td></tr>
<tr><td>知的財産権の帰属等の取扱い</td><td colspan="2">①臨地実務実習の実施の過程で学生が創出した発明等に係る知的財産権は、実習施設に帰属するものとし、実習施設は、社内規定に
基づき、学生に対し応分の報奨を与える。
②大学または学生が、学会発表、論文発表その他の方法により学生が創出した発明等について第三者に公表・開示しようとする場合は、事前に実習施設の同意を得るものとする。</td></tr>
</table>

資料54　臨地実務実習クラス別実習計画書

臨地実務実習Ⅲ（航空クラス）　実習計画書

項目	内容
学校名	せとうち観光専門職短期大学
学科名	観光振興学科
科目名	臨地実務実習Ⅲ（航空クラス）
臨地実務実習施設 （主たる実習場所）	航空事業所
(1)実習の概要	
実習の目的	本実習では現代の海外旅行交通の中核となり、インバウンド需要喚起等を通じて地方の観光振興にも大きな役割を果たしている国際線航空事業の実務を、その主要な事業舞台となる空港の国際線現場において修得する。 本実習の目的は、空港の国際線ハンドリングの現場において、実際の顧客に対するサービス業務により対人関係能力を体得しながら、旅客運送実務の基本的な流れとこれらを着実に実現するためのチームワーク・協調性の重要性を理解・修得すること、及びこのような旅客運送現場を円滑に管理運営するためのコミュニケーション能力やリーダーシップの手法を実地に学ぶことにあり、特にこれら事業の根幹となっている「安全」の確保に関わる考え方や仕組みについて理解し、自ら検証する姿勢を身に付けるとともに、地域連携に基づく観光振興に向けた航空会社の取り組みについて理解を深めることで、観光振興専門職として観光・地域振興の運営・管理に主体的に取り組む習慣と能力を涵養することを最優先の目的とする。同時に、あらゆる観光産業において普遍的に必要とされるホスピタリティを、グローバル スタンダード レベルで常に求められる航空会社のサービス専門担当者から直接指導の下で経験することにより、インバウンド旅客対応を含めた高品質で実践的なホスピタリティの修得を目指す。 また、最先端の技術と国境を越えた新しいマーケット開拓を求められる航空会社という”場”での実習経験を最大限活用して、社会のニーズを利用者視点で見極め、イノベーションを実現する能力の涵養を目指す。
到達目標	以下の各目標項目を達成することにより、「観光実務応用論」等の事前学修による理論に裏付けられた実践力を身に付け、将来、観光関連の就職先等において、ビジネスのイノベーション、並びに新たな需要/マーケット開発を牽引し得る能力を涵養する。 ①空港における航空会社国際線旅客運送業務の専門知識を身に付けた上で、基本動作については単独で遂行するとともに問題解決方法について自分自身の考え方を説明することができる。 ②現場における基本動作の実践を通じ、航空事業の大前提となる”安全”の重要性を体得した上で、航空事業の根幹としての”安全”の意味をマネジメントの立場からも理解し、自ら行動することができる。 ③インバウンド旅客を含めた多様な乗客への対面でのサービス実践を通して、他のいかなる観光産業分野においても通用するレベルのホスピタリティを体得した上で、広域観光振興の視点から、航空事業の存在意義や課題を自ら考察し説明することができる。 ④空港における実務体験を通して、航空事業全体における空港現場の位置づけ、各現業実務の重要性等を、マネジメントの立場からも理解し、自分の言葉で説明することができる。 ⑤安全・安心の確保、或いはハンディキャップを持つ乗客への対応、特に多国籍/多宗教の乗客への対応等、交通業の中でも特に航空業が高い水準で実現している分野の仕組み、考え方、現業部門のモチベーション等を現場で実践し、他の交通機関においても実践できる。 ⑥国際線航空事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等について、自らの固有のアイデアを発表することができる。
実習の内容	空港における実務実習①ー国際線ディパーチャー実務（実習の期間：計３週間） ●空港における国際線ディパーチャー実務体験準備（２日間） 空港国際線現場研修Ｉー国際線ディパーチャー実務に向けて、受け入れ企業側のトップマネジメント（支社長・支店長など）より、エアラインビジネス全体における国際線事業の重要性や位置づけ、空港国際線実務実習を行う上での心構え等についてトップマネジメントの生の声を聴き、経営の視点から見たエアラインビジネスの基本理念やフィロソフィーを直接学ぶ。また、受け入れ企業側の実務リーダーの案内に基づき国際空港のＣＩＱ（税関・出入国管理・検疫）組織や各関連施設／設備等の実際の役割・機能を、事前学修した理論と照らし合わせ確認しながら更に理解を深化させる。 ・国際線ディパーチャー実務の重要性や位置づけを、実務担当者のみならず経営者の立場からも理解できるよう、経営としての考え方やフィロソフィー等を学修する。 ・企業側の実務リーダーからの説明を、事前学修した理論に照らし合わせながら理解を深めるとともに、特に安全に関わる基本姿勢と注意事項を再確認する。 ・空港内国際線ディパーチャー関連施設設備の概要、各組織別担務、空港到着からセキュリティ検査場／出国ＣＩＱ通過までの旅客の流れ，特に国際線ディパーチャー業務で留意すべき顧客サービス、その他の専門知識について、受入れ企業側の実務リーダーから説明を受ける。 ・安全・安心に関わる事前実習として、非常時の緊急連絡、テロ/爆破予告等への対応、乗客の避難誘導、緊急看護、自己の身を守る技術等について、事前学修した理論に基づきながら実地訓練実習を実施する。また、日本語を解さない乗客、異なる文化を持つ乗客、高齢者、ハンディキャップを持つ乗客等への対応をロールプレイ等も含めた実習で学修する。 ●空港における国際線ディパーチャー実務実習（実習の期間：３週間　※前述の実務体験準備２日を含む ） 国際線ディパーチャー業務の中の各実務アクションを、事前学修した理論にひとつひとつ実際に照らし合わせながら、その機能や意味合いの理解を更に深化させる。 ◎国際線ディパーチャー業務実務実習　（実習施設空港の乗客到着から、チェックイン／旅券・査証等の有効性確認／出国手続き案内／セキュリティ検査場／出国ＣＩＱ通過まで） ・空港に至る迄の旅客の流れ（営業→予約→航空券購入→空港）について、事前学修した理論に基づき国際線ディパーチャー現場での実習も交えながら実践面を学修する。 ・国際線予約業務全般（予約クラス・クラス別機内サービスの違いと特色、各種運賃の特性、プライオリティゲスト、宗教・主義・健康上の制限等に配慮した特別機内食オーダー、ファミリーサービス、プロトコール、アライアンス・予約システム操作、オンライン予約等）の国際線基礎実務をディパーチャー現場での実習も交えながら学修する。

実習の内容	・航空券の種別、主な運賃体系、運賃種別毎の制限事項、旅行代理店への座席リリース、レベニューマネジメント、発券、受託・機内持ち込み手荷物の取り扱い、制限品・危険物の取り扱い、機種毎の航空機材特性等の国際基礎実務をディパーチャー現場での実習も交えながら学修する。 ・空港における国際線出発時のセキュリティ検査、及び出国に関わるＣＩＱ（税関・出国管理業務）、関連法規の基礎実務について、ディパーチャー現場での実習も交えながら学修する。 ・搭乗旅客の旅券、国籍に応じた渡航先査証等の有効性を確認する。保有航空券と予約の整合性、特別機内食の有無、車椅子等特別支援の要否を確認し、必要に応じ手配する。 ・乗継、途中降機、帰着等のスケジュールを確認し、必要に応じ座席・受託手荷物のスルーチェックを手配する。 ・機内持ち込み手荷物の制限、セキュリティチェック、出国審査、搭乗ゲート、搭乗時刻等について案内する。 ・チェックインシステムの操作方法、及び座席仕訳及び団体の取り扱い等に関わる基礎実務について、国際線ディパーチャー現場での実習も交えながら学修する。 ・各自0JT形式で実際の国際線チェックインカウンターに立ち、旅客対応を含めたチェックインの実務を0JT実務指導者とともに経験する。また、事前学修した理論を実際に乗客への対面サービスに活用し、ホスピタリティの実践能力を修得する。 ・実務実習経験を踏まえた国際線に関わる新規事業/新たな需要・マーケット開発、並びにＩＴ等を活用したイノベーション等について、実習施設指導者を交えたブレーンストーミング/意見交換会を実施する。 ・国際線ディパーチャー業務最終日：実務実習の振り返りと纏め 空港における実務実習②ー国際線トラフィック・アライバル実務実習（実習の期間：計３週間） <u>●空港における国際線トラフィック・アライバル実務実習準備（２日間）</u> 空港現場実習Ⅱー国際線トラフィック・アライバル実務に向けて、受け入れ企業側のトップマネジメント（支社長・支店長など）より、国際線事業における地域振興への貢献、社会構造の変化を睨んだイノベーション等について生の声を聴き、経営の視点から見た国際線ビジネスの基本理念やフィロソフィーを直接学び、事前学修した理論と照らし合わせ確認しながら更に理解を深化させる。 ・国際線トラフィック・アライバル実務の重要性や位置づけを、実務担当者のみならず経営者の立場からも理解できるよう学修する。 ・受入れ企業側の実務リーダーからの説明を、事前学修した理論に照らし合わせながら理解を深めるとともに、特に安全に関わる基本姿勢と注意事項を再確認する。 ・国際線に関わる空港内トラフィック・アライバル関連施設設備の概要、各組織別担務、出国セキュリティ検査場通過から航空機搭乗、及び航空機降機から空港離脱までの乗客の流れ，特に国際線トラフィック・アライバル業務で留意すべき顧客サービス、その他の専門知識について、受入れ企業側の実務リーダーから説明を受ける。 ・安全・安心に関わる事前準備として、非常時の緊急連絡、テロ/爆破予告等への対応、乗客の避難誘導、緊急看護、自己の身を守る技術等について、事前学修した理論に基づきながら実地訓練実習を実施する。また、インバウンド旅客を中心とする日本語を解さない乗客、高齢者、ハンディキャップを持つ乗客等への対応をロールプレイ等も含めた実習で学修する。 <u>●空港における国際線トラフィック・アライバル実務実習（実習の期間：３週間 ※前述の実務体験準備の２日と後述の実務体験後報告会１日間を含む）</u> 国際線トラフィック・アライバル業務の中の各実務アクションを、事前学修した理論にひとつひとつ実際に照らし合わせながら、その機能や意味合いの理解を更に深化させる。 ◎国際線トラフィック業務実務実習（空港の国際線セキュリティー検査場／ＣＩＱ通過後から航空機搭乗まで） ・国際線トラフィック業務の主な活動領域となるエリア（上述）における留意事項等について、事前学修した理論を踏まえながら、トラフィック現場での実習を通して実践的に学修する。 ・乗客の動線上国際線トラフィック業務の次行程となる航空機内（＝客室）の基礎実務について、トラフィック現場での実習を交えながら学修する。 ・実務指導者とともに、実際の乗客対応を含めた国際線トラフィック実務を0JT形式で経験することで、ホスピタリティの実践能力を体得する。 ・国際線トラフィック業務最終日：実務実習の振り返りと纏め ・国際線トラフィック業務最終日：実務実習の振り返りと纏め ◎国際線アライバル業務実務実習　（実習施設空港の国際線航空機到着から、入国ＣＩＱ通過、手荷物引き渡しエリア、到着案内、手荷物事故対応エリア、乗客の空港離脱までのエリアまで） ・空港における到着時のＣＩＱ（税関・入国管理・検疫・動植物検疫）業務、及び関連法規の基礎実務について、事前学修した理論を再確認しながら、国際線アライバル現場での実習も交え学修する。 ・受託手荷物の引き渡し、ダメージ・ロスト受託荷物の取り扱いの基礎実務について、国際線アライバル現場での実習も交えながら学修する。 ・実務指導者とともに、実際の乗客対応を含めた国際線アライバル実務を0JT形式で経験することで、ホスピタリティの実践能力を体得する。 ・国際線到着旅客に対するゼネラルインフォメーション（観光案内、交通案内他、滞在中に必要な諸情報）提供を通して、事前学修した理論に照らしながらホスピタリティの実践を修得する。 ・国際線におけるアライバルの両実務実習経験を踏まえた新規事業/新たな需要・マーケット開発、並びにＩＴ等を活用したイノベーション等について、実習施設指導者を交えたブレーンストーミング/意見交換会を実施する。 ・国際線アライバル業務最終日：実務実習の振り返りと纏め <u>●空港国際線における実務体験後報告会（1日間）</u> 　空港国際線実務実習最終日：経験した各実務の意義，課題，反省点などについて報告会を行う。この報告会には，実習施設実務担当者を配置して，適宜助言や指導を実施する。また、受入れ企業の現場トップ（支店長、支社長等）からの訓話を受け、マネジメントとしての哲学、理念、考え方を学ぶ。

<table>
<tr><td>実習施設指導者による評価項目</td><td colspan="2">実習の達成度は、実習施設指導者が別紙「臨地実務実習施設指導者評価書」に記載するA.1.実務知識技能、A.2.安全確保、A.3.ホスピタリティ、B.1.チームワーク、B.2.リーダーシップ、B.3.他者への共感・受容・気配り、C.1.変革・挑戦と新しい価値創造、C.2.職業倫理、C.3.経営の視点を基準として評価する。
また、上記の評価を踏まえ到達目標の達成度を評価する。</td></tr>
<tr><td>実習期間</td><td colspan="2">令和　4年１２月１２日　　～　　令和　5年　2月　3日（６週間）
※実習の実施は週５日間とし、一週間のうち２日間は休日とする。</td></tr>
<tr><td>1日当たりの実習時間</td><td colspan="2">８時間（休憩時間を除く）</td></tr>
<tr><td>受け入れる学生の数</td><td colspan="2">最大　　名</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実習指導者の配置</td><td>氏名</td><td>所属・職名</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">このほか、実習内容の合わせ実習補助者を配置する。</td></tr>
<tr><td>成績評価の基準及び方法</td><td colspan="2">実習指導者による審査は、別紙「臨地実務実習施設指導者評価書」により行う。
実習振り返りレポート（80%）、臨地実務実習施設指導者評価書（20%）の評価比率に基づき、担当教員が科目到達目標への
到達度等を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>担当教員による巡回指導等の実施</td><td colspan="2">担当教員は、実習期間中に３週間に１回の頻度で臨地実務実習施設を巡回し、学生との面談および指導、実習指導者と実習運営上の課題等の聞き取りなど情報交換して学生の実習状況を確認する。</td></tr>
<tr><td>学生の活動日誌による報告</td><td colspan="2">学生は実習期間中、別に定める様式により活動日誌を作成し、実習指導者等の確認を経て担当教員に報告する。</td></tr>
<tr><td>学生に対する報酬及び
交通費支給等の取扱い</td><td colspan="2">学生に対する報酬・交通費等の支給は原則行わない。ただし実習施設職員に同行して行う事業所外での実習に係る交通費については、就業規則の定めに準じて実習施設が支払う。</td></tr>
<tr><td>実習中の災害補償及び
損害賠償責任</td><td colspan="2">①学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険に加入するものとする。
②実習中における学生の事故等については、実習施設の故意または重過失による場合を除き、①にて学生が加入するインターンシップ保険をもって補償に充てる。
③実習中における学生による実習施設または第三者への損害については、学生の故意または重過失による場合を除き、①にて学生が加入するインターンシップ保険をもって補償に充てる。</td></tr>
<tr><td>知的財産権の帰属等の取扱い</td><td colspan="2">①臨地実務実習の実施の過程で学生が創出した発明等に係る知的財産権は、実習施設に帰属するものとし、実習施設は、社内規定に基づき、学生に対し応分の報奨を与える。
②大学または学生が、学会発表、論文発表その他の方法により学生が創出した発明等について第三者に公表・開示しようとする場合は、事前に実習施設の同意を得るものとする。</td></tr>
</table>

資料54　臨地実務実習クラス別実習計画書

臨地実務実習Ⅱ　（鉄道クラス）　実習計画書

項目	内容
学校名	せとうち観光専門職短期大学
学科名	観光振興学科
科目名	臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス）
臨地実務実習施設 (主たる実習場所)	鉄道事業所
(1)実習の概要	
実習の目的	本実習では国内旅行交通の中核となっている鉄道事業のうち、地域に密着し、観光振興を通じた地域創生の要となっている地方民営鉄道事業の実務を、その主要な事業舞台となる駅や関連施設において修得する。 本実習の目的は、鉄道駅等の現場において、実際の顧客に対するサービス業務により対人関係能力を体得しながら、旅客運送実務の基本的な流れとこれらを着実に実現するためのチームワーク・協調性の重要性を理解・修得すること、及びこのような旅客運送現場を円滑に管理運営するためのコミュニケーション能力やリーダーシップの手法を実地に学ぶことにあり、特にこれら事業の根幹となっている「安全」の確保に関わる考え方や仕組みについて理解し、自ら検証する姿勢を身に付けるとともに、地域連携に基づく観光振興に向けた鉄道会社の取り組みについて理解を深めることで、観光振興専門職として観光・地域振興の運営・管理に主体的に取り組む習慣と能力を涵養することを最優先の目的とする。同時に、あらゆる観光産業において普遍的に必要とされるホスピタリティを、同社のサービス専門担当者からの直接指導の下で経験することにより実践的なホスピタリティの修得を目指す。
到達目標	以下の各目標項目を達成することにより、「観光実務基礎論」等の事前学修による理論に裏付けられた実践力を身に付け、将来、観光関連の就職先等において、ビジネスのイノベーション、並びに新たな需要/マーケット開発を牽引し、業界の中核となる能力を涵養する。 ①鉄道駅における旅客運送業務の専門知識を身に付けた上で、駅業務における基本動作については単独で遂行するとともに問題解決の方向性について自分自身の考え方を説明することができる。 ②現場における基本動作の実践を通じ、鉄道事業の大前提となる”安全”の重要性を体得した上で、鉄道事業の根幹としての”安全”の意味をマネジメントの立場からも理解できる。 ③他の観光業現場でも通用するレベルのホスピタリティを体得した上で、地域の観光振興の視点から、鉄道事業の存在意義や課題を自ら考察することができる。 ④駅における実務体験を通して、鉄道事業全体における駅の位置づけ、各現業実務の重要性等を、マネジメントの立場からも理解できる。 ⑤国内交通産業において最も主要な役割を担う鉄道業において、安全・安心の確保、或いはハンディキャップを持つ乗客への対応、多国籍/多宗教のインバウンド乗客への対応等を事前学修した理論に照らしながら現場で実践し、他の交通機関においても実践できる。 ⑥鉄道事業の新規需要/マーケット開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等について、自己のアイデアを発表することができる。
実習の内容	高松琴平電気鉄道（以下、ことでんと表記する）における実務実習（実習の期間：計６週間　） ●実務体験準備（実習の期間：２日間　　主たる実習場所：栗林本社） ・駅現場実習に向けて，実務研修の意義や心得，鉄道ビジネス全体における駅業務の位置づけ等を理解させるとともに，特に安全に関わる基本姿勢と注意事項を中心に，駅施設設備の概要，駅内の各組織，旅客の流れ，顧客サービスに関する考え方，その他の専門知識について，実務を担当する実習施設の担当者から説明を受ける。 ・安全・安心に関わる事前準備として、非常時の緊急連絡、テロ/爆破予告等への対応、乗客の避難誘導、緊急看護、自己の身を守る技術等に関わる実地訓練実習を、事前学修した理論を踏まえながら、実践学修する。また、日本語を解さない乗客、高齢者、ハンディキャップを持つ乗客等への対応をロールプレイ等も含めた実習で学修する。 ●実務実習　（実習の期間：(高松築港駅)４日間、(瓦町駅)４日間　　主たる実習場所：ことでん高松築港駅／同瓦町駅） ・鉄道事業における駅機能の位置づけ、重要性を学修した上で、高松築港駅、並びに瓦町駅において，それぞれ駅における改札・放送・案内（観光案内、交通案内他、滞在中に必要な諸情報提供）等をはじめとする駅業務の基礎実務について、事前学修した理論を踏まえながら順次実務実習を実施する。また、実際に乗客への対面サービス実施を通じて、ホスピタリティの実践能力を修得する。この実務実習は、実習施設実務担当者の指導の下、0JT方式にて実施する。 ●運転営業所実習　（実習の期間：４日間　　主たる実習場所：運転営業所） ・鉄道事業における機動業務の位置づけ、重要性を学修した上で、実習施設実務担当者の指導の下、機動班に関わる業務，並びに無人駅等の管理，乗務員の管理，遺失物の管理等を研修する。また、これらの実務を通して顧客サービスの重要性を学修する。 ●本社管理業務実習（実習の期間：５日間　　主たる実習場所：栗林本社） ・鉄道事業における本社業務の役割、機能を事前学修した理論を再確認しながら、さらに深化させる観点で学修する。また栗林本社管理本部において，鉄道運行の統制、定時性確保への取り組み、乗客の安全性や利便性向上への取り組みなどについて、マネジメントの立場から理解出来るよう、実習施設実務担当者の指導に基づき学修する。

<table>
<tr><td>実習の内容</td><td>●駅ビル複合商業施設業務実習（実習の期間：５日間　　主たる実習場所：コトデン瓦町ビル）

・鉄道事業における関連事業の必要性・位置づけ、及び駅関連施設運営とのシナジー効果等について学修した上で、実習施設実務担当者の指導の下、駅施設を含むビル（コトデン瓦町ビル）の運営管理業務の実務を学修する。

●総合案内所業務・バス発着案内業務（実習の期間：５日間　　主たる実習場所：高松駅バスターミナル総合案内所・高松空港バス乗降場）

・前節で学修した鉄道事業における関連事業研修の第2弾として，実習施設実務担当者の指導の下，高松駅バスターミナル総合案内所もしくは高松空港バス乗降場にて，顧客に対する案内業務を研修するとともに、これら業務の意義及び鉄道事業とのシナジー効果について学修する。また、事前学修した理論を踏まえながら顧客への対面サービス実施等を通して、ホスピタリティの実践能力を修得する。

●実習後報告会（実習の期間：１日間　　主たる実習場所：栗林本社）
経験した各実務の意義，課題，反省点などについて報告会を行う。また、実務経験を踏まえたことでん事業に関わる新規事業/新たなマーケット開発、並びにＩＴ等を活用したイノベーション等について、ブレーンストーミング/意見交換会を実施する。この報告会/意見交換会には，実習施設実務担当者を配置して、適宜助言や指導を実施する。また、受入れ企業の現場トップ（駅長、支社長等）からの訓話を受け、トップマネジメントとしての哲学、理念、考え方を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>実習施設指導者による評価項目</td><td>実習の達成度は、実習施設指導者が別紙「臨地実務実習施設指導者評価書」に記載するA.1.実務知識技能、A.2.安全確保、A.3.ホスピタリティ、B.1.チームワーク、B.2.リーダーシップ、B.3.他者への共感・受容・気配り、C.1.職業倫理点を基準として評価する。
また、上記の評価を踏まえ到達目標の達成度を評価する。</td></tr>
<tr><td>実習期間</td><td>令和 ４年 ６月 ８日　　～　　令和 ４年８月２日
※実習の実施は週５日間とし、一週間のうち２日間は休日とする。</td></tr>
<tr><td>1日当たりの実習時間</td><td>８時間（休憩時間を除く）</td></tr>
<tr><td>受け入れる学生の数</td><td>最大　　名</td></tr>
<tr><td>実習指導者の配置</td><td><table><tr><th>氏名</th><th>所属・職名</th></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>このほか、実習内容の合わせ実習補助者を配置する。</td></tr>
<tr><td>成績評価の基準及び方法</td><td>実習指導者による審査は、別紙「臨地実務実習施設指導者評価書」により行う。
実習振り返りレポート（80%）、臨地実務実習施設指導者評価書（20%）の評価比率に基づき、担当教員が科目到達目標への到達度等を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>担当教員による巡回指導等の実施</td><td>担当教員は、実習期間中に実習施設ごと（約１週間に１回の頻度）に臨地実務実習施設を巡回し、学生との面談および指導、実習指導者と実習運営上の課題等の聞き取りなど情報交換して学生の実習状況を確認する。</td></tr>
<tr><td>学生の活動日誌による報告</td><td>学生は実習期間中、別に定める様式により活動日誌を作成し、実習指導者等の確認を経て担当教員に報告する。</td></tr>
<tr><td>学生に対する報酬及び交通費支給等の取扱い</td><td>学生に対する報酬・交通費等の支給は原則行わない。ただし実習施設職員に同行して行う事業所外での実習に係る交通費については、就業規則の定めに準じて実習施設が支払う。</td></tr>
<tr><td>実習中の災害補償及び損害賠償責任</td><td>①学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険に加入するものとする。
②実習中における学生の事故等については、実習施設の故意または重過失による場合を除き、①にて学生が加入するインターンシップ保険をもって補償に充てる。
③実習中における学生による実習施設または第三者への損害については、学生の故意または重過失による場合を除き、①にて学生が加入するインターンシップ保険をもって補償に充てる。</td></tr>
<tr><td>知的財産権の帰属等の取扱い</td><td>①臨地実務実習の実施の過程で学生が創出した発明等に係る知的財産権は、実習施設に帰属するものとし、実習施設は、社内規定に基づき、学生に対し応分の報奨を与える。
②大学または学生が、学会発表、論文発表その他の方法により学生が創出した発明等について第三者に公表・開示しようとする場合は、事前に実習施設の同意を得るものとする。</td></tr>
</table>

資料54　臨地実務実習クラス別実習計画書

臨地実務実習Ⅲ　（鉄道クラス）　実習計画書

項目	内容
学校名	せとうち観光専門職短期大学
学科名	観光振興学科
科目名	臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス）
臨地実務実習施設 （主たる実習場所）	鉄道事業所
(1)実習の概要	
実習の目的	本実習では国内旅行交通の中核となっている鉄道事業のうち、複数県に跨る広大な路線網を有し、広域連携観光振興を通じた地域創生の要となっている四国旅客鉄道株式会社の実務とその経営理念を、その主要な事業舞台となる駅や関連施設、及び本社部門において修得する。 本実習では、先ず鉄道駅等の現場において、実際の顧客に対するサービス業務によりインバウンド対応を含めた対人関係能力を体得しながら、旅客運送実務の基本的な流れとこれらを着実に実現するためのチームワーク・協調性の重要性を理解・修得し、併せてこのような旅客運送現場を円滑に管理運営するためのコミュニケーション能力やリーダーシップの手法を実地に学ぶ。また同社のトップマネジメント層から鉄道事業の運営とこれを通じた地域創生への貢献、社会構造の変化に対応するイノベーション、そして特にこれら事業全ての根幹となっている「安全」の確保に関わる考え方や企業理念を学び、自ら検証する姿勢を身に付けるとともに、地域連携に基づく観光振興に向けた鉄道会社の取り組みについて理解を深めることで、観光振興専門職として観光・地域振興の運営・管理に主体的に取り組む習慣と能力を涵養することを最優先の目的とする。さらに臨地実務実習Ⅱにおいて修得したホスピタリティを、同社のサービス専門担当者からの直接指導の下で実務を経験することにより磨きをかけ、インバウンド対応を含め他のいかなる観光産業においても通用し得るレベルのホスピタリティの修得を目指す。
到達目標	以下の各目標項目を達成することにより、「観光実務応用論」等の事前学修による理論に裏付けられた実践力を身に付け、将来、観光関連の就職先等において、インバウンド需要への的確な対応、社会構造の変化に対応するビジネスイノベーション、並びに新たな需要/マーケット開発を牽引し得る能力を涵養する。 ①鉄道駅における旅客運送業務の専門知識を身に付けた上で、駅業務におけるインバウンド対応を含めた基本動作については単独で遂行するとともに問題解決方法について自分自身の考え方を説明することができる。 ②現場における基本動作の実践を通じ、鉄道事業の大前提となる”安全”の重要性を体得した上で、鉄道事業の根幹としての”安全”の意味をマネジメントの立場からも理解し、自ら行動することができる。 ③他のいかなる観光業現場でも通用するレベルのホスピタリティを体得した上で、広域の地域観光振興の視点から、鉄道事業の存在意義や課題を自ら考察することができる。 ④駅における実務体験を通して、鉄道事業全体における駅の位置づけ、各現業実務の重要性等を、マネジメントの立場からも理解し、自分の言葉で説明することができる。 ⑤国内交通産業において最も主要な役割を担う鉄道業において、安全・安心の確保、或いはハンディキャップを持つ乗客への対応、多国籍/多宗教のインバウンド乗客への対応等を事前学修した理論に照らしながら現場で実践し、他の交通機関においても実践できる。 ⑥鉄道事業の新規需要/マーケット開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等について、自己のアイデアを発表することができる。
実習の内容	JR四国における実務実習（実習の期間：計６週間） <u>●実務体験準備（実習の期間：２日間　主たる実習場所：本社研修センター ）</u> ・駅現場研修に向けて、事前学修した理論を再確認しながら実務実習の意義や心得、鉄道ビジネスの地域社会における役割・位置づけ、観光振興を通じた地域発展への貢献等の理解を深化させるとともに、事前学修した理論を踏まえ特に安全に関わる基本姿勢と注意事項を中心に、駅施設設備の概要、駅内の各組織、乗客の流れ、顧客サービスに関する考え方、鉄道ビジネスにける本社の役割り等について、実務を担当する実習施設の担当者、及び同社のトップマネジメント層から説明を受ける。 ・安全、安心に関わる事前準備として、非常時の緊急連絡、テロ/爆破予告等への対応、乗客の避難誘導、緊急看護、自己の身を守る技術等に関わる実地訓練実習を、事前学修した理論を踏まえながら実践面を学修する。また、日本語を解さない乗客、高齢者、ハンディキャップを持つ乗客等への対応をロールプレイ等も含めた実習で学修する。 <u>●実務実習（実習の期間：１週間　　主たる実習場所：JR高松駅）</u> ・駅における改札、構内放送、案内（観光案内、交通案内他、滞在中に必要な諸情報提供）等の各業務をはじめとする駅業務の基礎、及び駅業務固有の留意事項等について、実務実習を実施する。また、実際に乗客への対面サービス実施を通じて、ホスピタリティの実践能力を修得する。この実務実習は、実習施設実務担当者の指導の下、0JT方式にて実施する。 <u>●JR四国本社における商品企画実務実習（実習の期間：１週間　　主たる実習場所：JR四国本社）</u> ・鉄道旅行商品の沿革と種別、旅行商品のトレンド等を踏まえた事業イノベーションの考え方を学修するとともに、実習先実務担当者による指導の下、鉄道旅行商品の模擬企画実習を実施する。また、マネジメントの立場から、商品企画の重要性、意義等について理解出来るよう、実習先実務担当者の指導に基づき学修する。 <u>●旅行会社における実務実習（実習の期間：１週間　　主たる実習場所：高松駅[ワープ高松]）</u> ・旅行業業務の概要について説明を受けた上で、旅行業務の種別、適用をうける法律、必要な資格等について学修する。また実習先実務担当者による0JT方式でカウンター業務実習を実施する。

<table>
<tr><td>実習の内容</td><td>●観光列車乗務実習（実習の期間：２日間　　主たる実習場所：高松駅[JR四国列車内　多度津～大歩危間]）

・実習施設実務担当者の指導の下，観光列車「四国まんなか千年ものがたり（多度津～大歩危間）」に乗務し，実際の旅客に対するサービス、並びにホスピタリティー実践を体験する。また観光列車の企画から運用までの計画業務の基礎、鉄道事業全体の中での位置づけ等についても学修する。

●メンテナンス業務実習（実習の期間：１週間　　主たる実習場所：研修センター[車両基地]）

・関連事業として，実習施設実務担当者の指導の下，車両清掃業務をはじめとするメンテナンス業務を体験する。また鉄道事業全体の中でのメンテナンス業務の必要性・重要性について学修する。

●キヨスク業務実習（実習の期間：１週間　主たる実習場所：四国キヨスク[高松銘品館、丸亀店、坂出店、宇多津店]）

・鉄道事業における関連事業の必要性・位置づけ・本業とのシナジー効果等を学修した上で、その一例として、駅構内での地元名産品販売を中心とするキヨスク業務を、実習施設実務担当者の指導の下、体験するとともに、新規商品の模擬企画実習を実施する。また、マネジメントの立場から、商品企画の重要性、意義等について理解出来るよう、実習先実務担当者の指導に基づき学修する。これにより、顧客への対面サービス実施等を通して、ホスピタリティの実践能力を修得し、ブランディングやマーケティングに対する理解を深める。

●実習後報告会（実習の期間：１日間　　主たる実習場所：本社研修センター）

経験した各実務の意義，課題，反省点などについて報告会を行う。また、実務経験を踏まえたＪＲ事業に関わる新規事業/新たなマーケット開発、並びにＩＴ等を活用したイノベーション等について、ブレーンストーミング/意見交換会を実施する。　　この報告会/意見交換会には，実習施設実務担当者を配置して，適宜助言や指導を実施する。また、受入れ企業の現場トップ（駅長、支社長等）からの訓話を受け、トップマネジメントとしての経営哲学、理念、考え方を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>実習施設指導者による評価項目</td><td>実習の達成度は、実習施設指導者が別紙「臨地実務実習施設指導者評価書」に記載するA.1.実務知識技能、A.2.安全確保、A.3.ホスピタリティ、B.1.チームワーク、B.2.リーダーシップ、B.3.他者への共感・受容・気配り、C.1.変革・挑戦と新しい価値創造、C.2.職業倫理、C.3.経営の視点を基準として評価する。
また、上記の評価を踏まえ到達目標の達成度を評価する。</td></tr>
<tr><td>実習期間</td><td>令和 ４年１２月１２日　　～　　令和 ５年 ２月 ３日（６週間）
※実習の実施は週５日間とし、一週間のうち２日間は休日とする。</td></tr>
<tr><td>1日当たりの実習時間</td><td>８時間（休憩時間を除く）</td></tr>
<tr><td>受け入れる学生の数</td><td>最大　　名</td></tr>
<tr><td>実習指導者の配置</td><td><table><tr><th>氏名</th><th>所属・職名</th></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>このほか、実習内容の合わせ実習補助者を配置する。</td></tr>
<tr><td>成績評価の基準及び方法</td><td>実習指導者による審査は、別紙「臨地実務実習施設指導者評価書」により行う。
実習振り返りレポート（80%）、臨地実務実習施設指導者評価書（20%）の評価比率に基づき、担当教員が科目到達目標への
到達度等を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>担当教員による巡回指導等の実施</td><td>担当教員は、実習期間中に実習施設ごと（約１週間に１回の頻度）に臨地実務実習施設を巡回し、学生との面談および指導、実習指導者と実習運営上の課題等の聞き取りなど情報交換して学生の実習状況を確認する。</td></tr>
<tr><td>学生の活動日誌による報告</td><td>学生は実習期間中、別に定める様式により活動日誌を作成し、実習指導者等の確認を経て担当教員に報告する。</td></tr>
<tr><td>学生に対する報酬及び
交通費支給等の取扱い</td><td>学生に対する報酬・交通費等の支給は原則行わない。ただし実習施設職員に同行して行う事業所外での実習に係る交通費については、就業規則の定めに準じて実習施設が支払う。</td></tr>
<tr><td>実習中の災害補償及び
損害賠償責任</td><td>①学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険に加入するものとする。
②実習中における学生の事故等については、実習施設の故意または重過失による場合を除き、①にて学生が加入するインターンシップ保険をもって補償に充てる。
③実習中における学生による実習施設または第三者への損害については、学生の故意または重過失による場合を除き、①にて学生が加入するインターンシップ保険をもって補償に充てる。</td></tr>
<tr><td>知的財産権の帰属等の取扱い</td><td>①臨地実務実習の実施の過程で学生が創出した発明等に係る知的財産権は、実習施設に帰属するものとし、実習施設は、社内規定に基づき、学生に対し応分の報奨を与える。
②大学または学生が、学会発表、論文発表その他の方法により学生が創出した発明等について第三者に公表・開示しようとする場合は、事前に実習施設の同意を得るものとする。</td></tr>
</table>

資料54　臨地実務実習クラス別実習計画書

臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス）　実習計画書

項目	内容
学校名	せとうち観光専門職短期大学
学科名	観光振興学科
科目名	臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス）
臨地実務実習施設 （主たる実習場所）	県内外の宿泊施設
(1)実習の概要	
実習の目的	宿泊事業においては、近年ますます進展する経済のグローバル化や、顧客ニーズの多様化などへの機動的な対応が求められている。本実習では、このような社会構造変化に柔軟に対応し、地域の観光振興にも貢献しているホテル・旅館等宿泊施設において、客室部門、料飲部門など各ライン部門の基本実務を実践的に経験することで、将来の主要な就職先候補となる事業分野において必要となる基本知識や技能を身に付けるとともに、宿泊施設が地域の観光振興に果たす役割の理解や、他の観光施設との連携・インバウンドを含む新規マーケットの開拓スキームなどの新しい動きについて、それぞれの現場で体験的に修得することにより、冒頭に述べたような事業特性にも十分対応し得る人材の養成を推進する。 また、実習に先立ち実習先宿泊施設のマネジメント層より、当該企業の経営理念や基本方針などの説明を受け、その理念や方針を学生が理解することにより、実習をさらに有益なものとする。
到達目標	以下の各目標項目を達成することにより、「観光実務基礎論」等の事前学修による理論に裏付けられた実践力を身に付け、就職後の各宿泊業界におけるビジネスのイノベーション、並びに新たな需要/マーケット開発を、将来牽引し得る能力を修得する。 ①宿泊施設における宿泊部門、料飲部門、顧客応対部門等の各業務の専門知識を身に付けた上で、各業務における基本動作については単独で遂行するとともに問題解決の方向性について自分自身の考え方を説明することができる。 ②基本動作の実践を通じ、宿泊事業の大前提となる”安全・安心の提供”の重要性を理解することができる。 ③他の観光業現場でも通用するレベルのホスピタリティを体得した上で、観光振興の視点から、宿泊事業の存在意義や課題を自ら考察することができる。 ④宿泊施設における実務体験を通して、宿泊ビジネス全体における各実務の位置づけ、重要性等を、マネジメントの立場からも理解することができる。 ⑤今後益々の多様化が予想される顧客ニーズ、社会構造の変化への対応等を事前学修した理論に照らしながら現場で実践し、他の観光産業においても応用可能な知見を身に付ける。 ⑥宿泊施設が立地する各地域ならではの地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等について、自らの固有のアイデアを発表することができる。
実習の内容	宿泊施設における宿泊事業実習（基礎） <u>●宿泊施設の実務体験準備（２日間）</u> ・宿泊施設現場実習に向けて、受け入れ企業側トップマネジメント（総支配人・運営会社社長など）より、宿泊ビジネス全般の中における実習先宿泊施設形態の位置づけや社会的機能（含む宿泊施設形態毎の特性理解）、あるいは経営の基本理念やフィロソフィー、更には新分野での需要/マーケット開発、異業種との協業やIT活用によるイノベーション等について、トップマネジメントから生の声を聴き、経営の視点から見た宿泊施設マネジメントを直に学ぶ。また、受け入れ宿泊施設側の実務リーダーから、宿泊専門職業人として基本となる立ち居振る舞いや心構え/職業倫理、サービスマナー等について学修するほか、宿泊施設の各組織や施設／設備等の実際の役割・機能を、事前学修した理論と照らし合わせ確認しながら、更に実践面での理解を深化させる。 ・宿泊事業の根幹となる”安全・安心の確保”については、事前学修した理論を踏まえながら、宿泊施設現場における実地研修として、火災、自然災害など非常時の緊急連絡、日本語を解さない顧客、高齢者、ハンディキャップを持つ顧客等特別な援助が必要な顧客を含めた避難誘導、緊急看護、スタッフ自身の身を守る技術等、ロールプレイを含めた実践的な実地訓練実習を実施する。 <u>●宿泊施設の実務実習　（6週間 ※前述の実務体験準備の2日と後述の実務体験後報告会1日間を含む）</u> 実習先宿泊施設形態の特性/労務マネジメント/基本実務（宿泊部門、料飲部門、顧客応対部門等の各業務）について、順次実務実習を実施する。この実務実習では、事前学修した理論を、実習施設実務担当者の指導の下ひとつひとつ確実に確認しながら、0JT方式にて実施する。 <u>◎宿泊部門フロント業務（2週間）</u> ・事前学修した理論のうち、特に宿泊部門のフロント（宿泊客受入れ登録手続き）業務に関わるホスピタリティに留意しながら、同部門での業務の基本について、実習施設指導者の指導に基づき実践的な実務実習を学修する。 ・宿泊部門の人員配置/勤怠管理/教育研修/モチベーション維持活動のための諸施策等に関わる基本業務について、実習施設の担当管理職から学修する。 ・当日の宿泊客受入れ登録/宿泊者出発や会議/コンベンション等の情報、或いはVIPやコンベンション参加者或いは特別なサービスを必要とする顧客等の諸情報をどのように収集し、これに基づく分析結果を自部門のみならず宿泊施設内全ての関係部門に如何に連絡/共有しているのかについて、現場での実習を中心に実践的に体験する。 ・ゲストリレーション（顧客対応）業務として、その地域の歴史/文化/風土、周辺の観光/文化/飲食施設情報に加え、特に各ビジネスシーンに応じた周辺の飲食施設の情報提供、館内のビジネスセンターに設置されたパソコンやFAXなどのOA機器情報提供等、通訳や会議室の手配等、顧客層毎のニーズに応じきめ細かく的確に提供する仕組みとスキルを、現場での実習を中心に実践的に学修する。 ・宿泊事業の根幹となる”安全の確保と安心の提供”業務に関しては、その機能理解を踏まえた館内の非常口/非常階段/AED/中央監視室/防災センター等セキュリティに関わる施設/設備、並びにプール/アクティビティ等の施設設備の安全面での把握/確認の上、非常時対応の想定実習を行い、現場での実習を中心に実践的に学修する。 ・館内各所のバリアフリー施設/設備については、その機能理解を踏まえた設置個所の現場確認に加え、ハンディキャップを持つ顧客への理解/尊重について、事前学修内容を再確認しながら、現場での実習を中心に実践的に学修する。 ・顧客とのファーストコンタクト機能を担うロビー・エントランス（顧客歓迎）業務については、ブランド認知過程上の重要性を再確認しながら、現場実習を実践学修する。 ・宿泊事業マネジメントにおける経理/出納業務の重要性について、事前学修した理論を復習しながら、キャッシャー業務を現場での実習を中心に実践学修する。 ・今後益々重要性が増すインバウンド顧客については、事前理論を再確認しながら、語学面のみならず、宗教/文化/習慣等あらゆる面に配慮したきめ細かいサービスを提供出来るよう、現場での実習を中心に実践学修する。

<table>
<tr><td>実習の内容</td><td>・その他、クローク（荷物預かり）/ドア、ベル（仲居）等の各業務についても、事前学修した理論を再確認しながら、現場での実習を中心に実践学修する。

・上顧客、支援を必要とする顧客等、特別な取り扱いが必要な顧客へのサービス対応を、実習も交えながら学修する。

・業務最終日：実務実習の振り返りと纏め

<u>◎料飲業務（2週間）</u>

・事前学修した理論のうち、特に料飲業務に関わるホスピタリティを再確認しながら、実習施設指導者の指導に基づき実践的な実務実習を学修する。

・宿泊部門の人員配置/勤怠管理/教育研修/モチベーション維持活動のための諸施策等に関わる基本業務について、実習施設の担当管理職から学修する。

・料飲の最重要課題である”安全の確保/安心の提供”の観点から、料飲現場の具体的な食品衛生管理手法を実践的に学修する。また、実習生自身の労働安全確保のため、実習施設の担当責任者より、高温の食器や用具、火気や刃物の取り扱いに関わる留意事項について良く説明を受け、労働災害発生の未然防止方法を学修する。

・当日の予約名簿や宿泊者名簿/催事計画等に基づき、喫食者数を想定するとともに、上顧客、並びに食材/料理法/アレルギー等を含め特別なサービスを必要とする顧客の把握とこれに基づく分析を行い、各顧客特性に応じた準備とサービスに関わる留意事項を各スタッフと共有する仕組みとスキルを、現場での実習を中心に実践的に学修する。

・レストラン（食堂）/カフェ（喫茶場）/宴会場/ルーム（客室料飲）サービスにて使用する器具備品/設備の特性や使用方法、並びにサービングスキル/プロトコール等について、事前学修した内容を再確認しながら、現場での実習を実践学修する。

・料飲業務最終日：実務実習の振り返りと纏め

<u>◎ハウスキーピング（客室清掃／寝具等準備）業務（2週間）</u>

・事前学修した理論のうち、特にハウスキーピング（客室清掃／寝具等備品準備）業務に関わるホスピタリティを再確認しながら、実習施設指導者の指導に基づき実践的な実務実習を学修する。

・ハウスキーピング（客室清掃／寝具等備品準備）部門の実務遂行にあたり、実習施設の担当責任者より適切な作業姿勢や換気等、労働安全衛生上の留意事項について良く説明を受け、労働災害発生の未然防止方法を学修する。

・宿泊者到着/出発の顧客名簿等から、客室清掃／寝具等準備の客室特定と優先順位付け、作業者のスキルに応じた業務分担等、効率的なハウスキーピング（客室清掃／寝具等備品準備）業務手法を現場での実習を通して実践学修する。

・効率的な客室清掃と寝具等備品準備、あるいはアメニティー配備に関わる具体的な手順/ノウハウ等について、事前学修した理論を再確認しながら、現場での実習を実践学修する。

・ハウスキーピング（客室清掃／寝具等備品準備）業務最終日：実務実習の振り返りと纏め

<u>●宿泊施設における実務体験後報告会（1日間）</u>

経験した各実務の意義，課題，反省点などについて実習施設において報告会を行う。また、実務経験を踏まえた宿泊事業に関わる新規事業/新たなマーケット開発、並びにＩＴ等を活用したイノベーション等について、ブレーンストーミング/意見交換会を実施する。この報告会/意見交換会には、実習施設実務担当者を配置して、適宜助言や指導を行う。</td></tr>
<tr><td>実習施設指導者による評価項目</td><td>実習の達成度は、実習施設指導者が別紙「臨地実務実習施設指導者評価書」に記載するA.1.実務知識技能、A.2.安全確保、A.3.ホスピタリティ、B.1.チームワーク、B.2.リーダーシップ、B.3.他者への共感・受容・気配り、C.1.職業倫理を基準として評価する。
また、上記の評価を踏まえ到達目標の達成度を評価する。</td></tr>
<tr><td>実習期間</td><td>令和 ４年 ６月 ８日　　～　　令和 ４年 ８月 ２日（６週間）
※実習の実施は週５日間とし、一週間のうち２日間は休日とする。</td></tr>
<tr><td>1日当たりの実習時間</td><td>８時間（休憩時間を除く）</td></tr>
<tr><td>受け入れる学生の数</td><td>最大　　名</td></tr>
<tr><td>実習指導者の配置</td><td><table><tr><th>氏名</th><th>所属・職名</th></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>このほか、実習内容の合わせ実習補助者を配置する。</td></tr>
<tr><td>成績評価の基準及び方法</td><td>実習指導者による審査は、別紙「臨地実務実習施設指導者評価書」により行う。
実習振り返りレポート（80%）、臨地実務実習施設指導者評価書（20%）の評価比率に基づき、担当教員が科目到達目標への
到達度等を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>担当教員による巡回指導等の実施</td><td>担当教員は、実習期間中に３週間に１回の頻度で臨地実務実習施設を巡回し、学生との面談および指導、実習指導者と実習運営上の課題等の聞き取りなど情報交換して学生の実習状況を確認する。</td></tr>
<tr><td>学生の活動日誌による報告</td><td>学生は実習期間中、別に定める様式により活動日誌を作成し、実習指導者等の確認を経て担当教員に報告する。</td></tr>
<tr><td>学生に対する報酬及び
交通費支給等の取扱い</td><td>学生に対する報酬・交通費等の支給は原則行わない。ただし実習施設職員に同行して行う事業所外での実習に係る交通費については、
就業規則の定めに準じて実習施設が支払う。</td></tr>
<tr><td>実習中の災害補償及び
損害賠償責任</td><td>①学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険に加入するものとする。
②実習中における学生の事故等については、実習施設の故意または重過失による場合を除き、①にて学生が加入するインターンシップ
保険をもって補償に充てる。
③実習中における学生による実習施設または第三者への損害については、学生の故意または重過失による場合を除き、①にて学生が
加入するインターンシップ保険をもって補償に充てる。</td></tr>
<tr><td>知的財産権の帰属等の取扱い</td><td>①臨地実務実習の実施の過程で学生が創出した発明等に係る知的財産権は、実習施設に帰属するものとし、実習施設は、社内規定に
基づき、学生に対し応分の報奨を与える。
②大学または学生が、学会発表、論文発表その他の方法により学生が創出した発明等について第三者に公表・開示しようとする場合は、
事前に実習施設の同意を得るものとする。</td></tr>
</table>

資料54　臨地実務実習クラス別実習計画書

臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス）　実習計画書

項目	内容
学校名	せとうち観光専門職短期大学
学科名	観光振興学科
科目名	臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス）
臨地実務実習施設 (主たる実習場所)	県内外の宿泊施設
(1)実習の概要	
実習の目的	本実習では、臨地実務実習Ⅱで修得した宿泊・料飲部門などライン部門における専門知識・技能を更に深化させると共に、実習先現場での業務遂行体制の効率性・採算性・安全性などの確保・向上策について、実習施設の経営層より直接話を聞き、その理念や方針を学生が理解した上で、自らもマネジメントの視点に立ちその改善策を案出してみる等の訓練を通じて、宿泊事業経営の一端を体得する契機とする。 また、特に地域の観光振興の観点からインバウンド需要の獲得に焦点を当てて、インバウンド集客拡大を目指す実習先施設の実践的マーケティングについて、自らもアイデアを提供しながら参加実践することにより、ボラティリティが高い海外新規マーケット開拓やニーズの掘り起こし、或いは社会構造の変化を睨んだイノベーティブな新商品開発等に向けたスキルやノウハウの修得を目指す。
到達目標	以下の各目標項目を達成することにより、「観光実務応用論」や他の事前学修による理論に裏付けられた専門技能を深化させ、宿泊事業をはじめとする観光の各分野におけるビジネスのイノベーション、並びに新たな需要/マーケット開発を、将来牽引し得る能力を修得する。 ①臨地実務実習Ⅱで身に付けた宿泊・料飲部門等の現業における専門知識・技能を、より高いレベルで修得するとともに、問題解決方法について自分自身の考え方を説明することができる。 ②基本動作の実践を通じ、宿泊事業の大前提となる”安全・安心の提供”の重要性を、マネジメントの観点からも理解し、自ら行動することができる。 ③他のいかなる観光業現場でも通用するレベルのホスピタリティを体得した上で、地域振興の一環としての観光振興の視点から、宿泊事業の存在意義や課題を自ら考察することができる。 ④実習先宿泊施設でのグッドプラクティス体験等を通して、ブランディングの実践と基本構造を修得し、他の観光産業や地域振興や問題解決にも活用することができる。 ⑤今後益々の進展が予想されるインバウンド観光/外国人材の国内活用等の社会情勢を踏まえ、多様で広範囲にわたる国籍/文化/宗教/習慣/価値観等を持つ外国籍顧客への対応等を事前学修した理論に照らしながら現場で実践し、地域の観光振興にも広く実践できるようになる。 ⑥宿泊事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、ＩＴ等を活用したイノベーション等について、自らの固有のアイデアを発表することができる。
実習の内容	宿泊施設における宿泊事業実習（応用・マネジメント） <u>●実務体験準備（２日間）</u> ・宿泊施設現場研修に向けて、受け入れ企業側トップマネジメント（総支配人・女将・運営会社社長など）より、観光産業全般の中における宿泊施設の位置づけや社会的機能(含む宿泊施設の運営形態による差異理解）、あるいは経営の基本理念やフィロソフィー、更には新分野での需要/マーケット開発、異業種との協業やIT活用によるビジネスイノベーション等について、トップマネジメントから生の声を聴き、経営の視点から見た宿泊施設マネジメントを直接学ぶ。また、受け入れ施設側の実務リーダーから、基本となる立ち居振る舞いや心構え/職業倫理、サービスマナー等について学修するほか、ホテルの各組織や施設／設備等の実際の役割・機能を、事前学修した理論と照らし合わせ確認しながら、更に実践面での理解を深化させる。 ・宿泊事業の根幹となる”安全・安心の確保”については、事前学修した理論を踏まえながら、宿泊現場における実地研修として、火災、自然災害など非常時の緊急連絡、日本語を解さない顧客、高齢者、ハンディキャップを持つ顧客等特別な援助が必要な顧客を含めた避難誘導、緊急看護、スタッフ自身の身を守る技術等、ロールプレイを含めた実践的な実地訓練実習を実施する。 <u>●宿泊施設実務実習　(6週間 ※前述の実務体験準備の2日と後述の実務体験後報告会1日間を含む)</u> 以下の各目標項目を達成することにより、臨地実務実習Ⅱや他の事前学修による理論に裏付けられた専門技能を深化させ、宿泊事業をはじめとする観光の各分野におけるビジネスのイノベーション、並びに新たな需要/マーケット開発を牽引し得る能力を修得する。 <u>◎宿泊部門業務（2週間）</u> ・事前学修した理論のうち、特に宿泊部門の実務に関わるホスピタリティを中心に当該施設のブランディングとの整合性についても再確認しながら、実習施設指導者の指導に基づき実践的な実務実習を学修する。 ・宿泊部門の人員配置/勤怠管理/教育研修/モチベーション維持活動のための諸施策等に関わるマネジメントの実務について、実習施設の担当管理職から学修する。 ・当日の宿泊客受入れ登録/宿泊者出発予定者リストや会議/コンベンション等の開催予定、更にはVIPやコンベンション参加者或いは特別なサービスを必要とする顧客等の諸情報を統合的に把握・分析し、これに基づいた機動的な要員配置と顧客特性毎の留意事項を自部門のみならず宿泊施設内全ての関係部門に共有するマネジメントの仕組みとスキルを、現場での実習を中心に実践的に学修する。 ・ゲストリレーション（顧客対応）業務として、その地域の歴史/文化/風土、周辺の観光/文化/飲食施設情報に加え、特に各ビジネスシーンに応じた周辺の飲食施設の情報提供、館内のビジネスセンターに設置されたパソコンやFAXなどのOA機器情報提供等、通訳や会議室の手配等、顧客層毎のニーズに応じきめ細かく的確に提供する仕組みとスキルを、現場での実習を中心に実践的に修得する。またこれらの機能が、特にインバウンド対応に重点を置いて、どのように強化されているのかを学修する。

実習の内容	・宿泊事業の根幹となる”安全の確保と安心の提供”業務に関しては、「臨地実務実習Ⅱ」で実践した館内の非常口/非常階段/AED/中央監視室/防災センター等セキュリティに関わる施設/設備、並びにプール/アクティビティ等の施設設備の安全面での把握、非常時対応の想定訓練結果等を再度確認するとともに、実習先企業の経営層が”安全の確保と安心の提供”に関して、どのような考え方を有し、具体的にどのような方策を講じているのかを直接聞き取る機会を設定し、マネジメントの視点からの”安全の確保と安心の提供”がどのように位置づけられているのかを学修する。 ・館内各所のバリアフリー施設/設備については、その機能理解を踏まえた設置個所の現場確認に加え、ハンディキャップを持つ顧客への理解/尊重という社会的要請の意味を再確認しながら、マネジメントの視点を含めて実践的に学修する。 ・顧客とのファーストコンタクト機能を担うロビー・エントランス（顧客歓迎）業務については、ブランド認知過程上の重要性を再確認しながら、現場実習を実践学修する。 ・宿泊事業マネジメントにおける経理/出納業務に加え、マネジメントの観点からレベニューマネジメントの重要性について、事前学修した理論を復習しながら実践学修する。 ・今後益々重要性が増すインバウンド顧客については、事前理論を再確認しながら、語学面のみならず、宗教/文化/習慣等あらゆる面に配慮したきめ細かいサービスの提供に向けて、マネジメントが具体的にどのような方策（例：研修／人材配置／ブランディング等）を執っているのかについて実践学修する。 ・その他、クローク（荷物預かり）/ドア、ベル（仲居）等の各業務については、宿泊サービス全体の中での位置づけ、ＣＳ（顧客満足）の観点からの役割り等について、マネジメントの立場から学修する。 ・国際儀礼（プロトコール）に基づいた国際的な儀礼やマナーなどの接遇対応を実習も交えながら学修する。 ・業務最終日：実務実習の振り返りと纏め <u>◎料飲業務（2週間）</u> ・事前学修した理論のうち、特に料飲部門の実務に関わるホスピタリティを中心に当該施設のブランディングとの整合性についても再確認しながら、実習施設指導者の指導に基づき実践的な実務実習を学修する。 ・料飲部門の人員配置/勤怠管理/教育研修/モチベーション維持活動のための諸施策等に関わるマネジメントの実務について、実習施設の担当管理職から学修する。 ・料飲の最重要課題である”安全の確保/安心の提供”について、マネジメントの観点から料飲現場要員の食品衛生管理教育／食品衛生管理施設設備管理／最新の食品衛生管理情報の収集と現場への徹底手法、並びに従業員の労働安全衛生確保に向けた各種方策を実践的に学修する。 ・当日の予約名簿や宿泊者名簿/催事計画等に基づき、喫食者数を想定するとともに、上顧客、並びに食材/料理法/アレルギー等を含め特別なサービスを必要とする顧客の把握とこれに基づく分析を行い、各顧客特性に応じた準備とサービスに関わる留意事項を各スタッフと共有する仕組みとスキル等を、現場での実務実習に加えて実践的に学修する。 ・料飲部門経営の観点から、料飲の原価管理/イールドマネジメント等、実際のメニュー構成や価格設定の考え方/食材の原価分析の手法について、現場で実習を実践学修する。 ・料飲業務最終日：実務実習の振り返りと纏め <u>◎ハウスキーピング（客室清掃／寝具等準備）業務（2週間）</u> ・事前学修した理論のうち、特にハウスキーピング（客室清掃）業務に関わるホスピタリティを再確認しながら、実習施設指導者の指導に基づき実践的な実務実習を学修する。 ・ハウスキーピング（客室清掃／寝具等準備）部門の安全衛生管理／人員配置/勤怠管理/教育研修/モチベーション維持活動のための諸施策等に関わるマネジメントの実務について、実習施設の担当マネジメントから学修する。 ・宿泊者到着/出発の顧客予約状況等を踏まえた客室清掃／寝具等準備の客室特定と優先順位付け、作業者のスキルに応じた業務分担に基づく月間勤務割の作成業務手法等を、マネジメントの視点を通して実践学修する。 ・客室の調度や寝具、アメニティー等の選定／配備方法を実践学修するとともに、これを契機に実習先のブランドマネジメント責任者の指導の下、宿泊ビジネスとブランディンの関係性について、事前学修したブランド理論等も再確認しながら考証する。 ・ハウスキーピング（客室清掃／寝具等準備）業務最終日：実務実習の振り返りと纏め <u>●宿泊施設における実務体験後報告会（1日間）</u> 経験した各部門の実務、マネジメントの意義、課題、反省点などについて実習施設において報告会を行う。また、実務経験やマネジメントの視点を踏まえた宿泊事業に関わる新規事業/新たなマーケット開発、並びにＩＴ等を活用したイノベーション等について、ブレーンストーミング/意見交換会を実施する。この報告会/意見交換会には、実習施設実務担当者を配置して、適宜助言や指導を行う。また、受入れ宿泊施設のトップマネジメント（総支配人・女将・運営会社社長など）からの訓話を受け、マネジメントとしての哲学、理念、考え方を学ぶ。
実習施設指導者による評価項目	実習の達成度は、実習施設指導者が別紙「臨地実務実習施設指導者評価書」に記載するA.1.実務知識技能、A.2.安全確保、A.3.ホスピタリティ、B.1.チームワーク、B.2.リーダーシップ、B.3.他者への共感・受容・気配り、C.1.変革・挑戦と新しい価値創造、C.2.職業倫理、C.3.経営の視点を基準として評価する。 また、上記の評価を踏まえ到達目標の達成度を評価する。
実習期間	令和 ４年１２月１２日　　～　　令和 ５年 ２月 ３日(６週間) ※実習の実施は週５日間とし、一週間のうち２日間は休日とする。
1日当たりの実習時間	８時間（休憩時間を除く）
受け入れる学生の数	最大　　名

実習指導者の配置	氏名	所属・職名
	このほか、実習内容の合わせ実習補助者を配置する。	

成績評価の基準及び方法	実習指導者による審査は、別紙「臨地実務実習施設指導者評価書」により行う。 実習振り返りレポート（80%）、臨地実務実習施設指導者評価書（20%）の評価比率に基づき、担当教員が科目到達目標への 到達度等を総合的に評価する。
担当教員による巡回指導等の実施	担当教員は、実習期間中に３週間に１回の頻度で臨地実務実習施設を巡回し、学生との面談および指導、実習指導者と実習運営上の課題等の聞き取りなど情報交換して学生の実習状況を確認する。
学生の活動日誌による報告	学生は実習期間中、別に定める様式により活動日誌を作成し、実習指導者等の確認を経て担当教員に報告する。
学生に対する報酬及び 交通費支給等の取扱い	学生に対する報酬・交通費等の支給は原則行わない。ただし実習施設職員に同行して行う事業所外での実習に係る交通費については、就業規則の定めに準じて実習施設が支払う。
実習中の災害補償及び 損害賠償責任	①学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険に加入するものとする。 ②実習中における学生の事故等については、実習施設の故意または重過失による場合を除き、①にて学生が加入するインターンシップ　保険をもって補償に充てる。 ③実習中における学生による実習施設または第三者への損害については、学生の故意または重過失による場合を除き、①にて学生が加入するインターンシップ保険をもって補償に充てる。
知的財産権の帰属等の取扱い	①臨地実務実習の実施の過程で学生が創出した発明等に係る知的財産権は、実習施設に帰属するものとし、実習施設は、社内規定に基づき、学生に対し応分の報奨を与える。 ②大学または学生が、学会発表、論文発表その他の方法により学生が創出した発明等について第三者に公表・開示しようとする場合は、事前に実習施設の同意を得るものとする。

資料54　臨地実務実習クラス別実習計画書

臨地実務実習Ⅱ　（観光地域創生クラス）　実習計画書

項目	内容
学校名	せとうち観光専門職短期大学
学科名	観光振興学科
科目名	臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）
臨地実務実習施設 (主たる実習場所)	観光地域創生事業者
(1)実習の概要	
実習の目的	このクラスでは、観光による地域創生の最前線である現場において、臨地実務実習Ⅰでの実務経験とその後の学修成果を活かし、業務遂行に必要な技能の体得、実習施設が実習地において担う役割、実習地における観光振興と地域創生に関する現状と課題の的確な把握はもとより、観光地経営や観光業の従事に際して必要不可欠となるマネジメントやマーケティングの基礎、新規の事業計画や実行組織の立ち上げ、進行管理等の基本的手法を理解することを目的とする。これらの知識・技能の修得とマネジメント等の手法の理解とは、このあとにつづく臨地実務実習Ⅲの前段階の学修であり、さらには卒業後に地域創生に取り組む観光振興専門職として現場で活躍する際に必須となる思考力、実践力、協働力の土台構築にあたるものである。
到達目標	本実習では、臨地実務実習Ⅰで掲げた到達目標の達成をふまえ、これよりも一段上の到達目標を設定する。 ①実習施設が所在する地域と当該地における観光事業の特徴を的確に理解し、それを他者に説明できる。 ②「リスク・マネジメント」の考え方を身につけ、観光振興・地域振興過程の潜在的リスクの洗いだしと回避を実践できる。 ③実習施設の当該地における役割、実習施設が提供する観光サービスや商品の特徴を的確に理解し、それについて他者にわかりやすく伝えることができる。 ④実習施設業務の専門理論と基礎的技量を理解し、基本的な補助業務については単独で安全に遂行できる。 ⑤観光振興・地域創生の過程と成果における“安全・安心”の考え方と技法を理解し、それらを実践できる。 ⑥各施設での様々な仕事の流れの中で自身の与えられた役割を理解し、周囲の人からの指示や示唆を受け入れ、的確に目標を遂行できる。
実習の内容	**地域創生にかかる実習施設での実習（基礎）** **<u>●実務実習（1週目）：実習施設に関する基礎的理解、業務遂行に必要な能力の理解</u>** **（初日）** ・経営者ならびに実習指導者より施設の概要、経営理念について説明を受け、実習施設について理解を深める。実習参加学生は事前に同施設や同施設の事業について学修しているので、その情報との整合性を確認する。 ・この実習中の到達点のすり合わせを行い、そのためにどのような実習に取り組むのか実習指導者と参加学生双方で確認する。実習施設の確認もあわせて行う。 **（2日目以降）** 実習施設の業務に関わることで、当該施設における業務内容とその業務遂行に必要な能力を理解する。その際、製造・サービス業の基礎である服装，挨拶，礼儀正しい周囲への態度に留意する。チームワークや適切なコミュニケーションの手段・報連相（報告・連絡・相談）を意識的に実践する。 **<u>●実務実習2～3週目：業務遂行に必要な力の涵養、実習地における実習施設の役割・位置づけの理解、実習地に関する理解</u>** ・引き続き、実習施設の業務に従事し、当該施設における業務遂行に必要な能力の基礎を修得する。 ・実習施設の実習地での役割について分析する。そのための手がかりとして、第2週前半で、経営者もしくは実習指導者より（指導者から見た）実習施設の実習地での役割について説明を受ける。このほか、可能な範囲で、実習生が経営者、実習指導者をはじめとする地域関係者に適宜インタビューを行い、また、業務遂行をしながら観察をし、分析に必要なデータを収集する。 ・実習地の特徴と課題把握のために、業務を遂行しながら、地域状況の観察も行う。可能な範囲で、自治体関係者、行政機関より実習エリアに関する情報（基礎情報、総合計画と現状、課題、観光施策等）を提供してもらい、現状把握を進める。 **<u>●実務実習4～5週目：業務遂行に必要な力の涵養、マネジメント・ブランディング・マーケティング戦略の基礎に関する理解</u>** ・前週まで取り組んできた業務遂行に必要な能力の基礎修得、実習施設の実習地での役割と実習地の特徴に関する情報収集を継続して行う。 ・実習施設のマネジメント、ブランディング、マーケティングなどの基本的な考え方について理解する。そのために、第4週目の前半で、実習指導者より、実習施設におけるこれらの戦略について説明を受けたのち、実務体験を通じて、情報収集を行い、実践状況と課題について検証を行う準備をすすめる。 **<u>●実務実習6週目：業務遂行に必要な力の修得、リサーチ課題のまとめ・アウトプット</u>** ・実習施設の業務に関わり、当該施設における業務遂行に必要な能力の基礎を修得する。 ・実習施設の実習地での役割と実習地の特徴や課題を自分なりに整理する。 ・マネジメント、ブランディグ、マーケティング戦略の実践状況と課題に関する検証を行う。 ・最終日の報告に向けたプレゼンテーション準備を行う。 **（最終日）** ・実習の振り返りを行う。初日に確認した到達点への到達状況の確認をするほか、実習生より、実習地における実習施設の役割・位置づけと実習地の特徴の分析結果、マネジメント、ブランディング、マーケティング戦略の実践状況と課題に関する検証をプレゼンテーションし、実習指導者ほか受け入れに関わってくださった方々と意見交換を行う。

<table>
<tr><td>実習施設指導者による評価項目</td><td>実習の達成度は、実習施設指導者が別紙「臨地実務実習施設指導者評価書」に記載するA.1.実務知識技能、A.2.安全確保、A.3.ホスピタリティ、B.1.チームワーク、B.2.リーダーシップ、B.3.他者への共感・受容・気配り、C.1.職業倫理を基準として評価する。
また、上記の評価を踏まえ到達目標の達成度を評価する。</td></tr>
<tr><td>実習期間</td><td>令和 ４年 ６月 ８日　　～　　令和 ４年 ８月 ２日（６週間）
※実習の実施は週５日間とし、一週間のうち２日間は休日とする。</td></tr>
<tr><td>1日当たりの実習時間</td><td>８時間（休憩時間を除く）</td></tr>
<tr><td>受け入れる学生の数</td><td>最大　　名</td></tr>
<tr><td>実習指導者の配置</td><td><table><tr><th>氏名</th><th>所属・職名</th></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>このほか、実習内容の合わせ実習補助者を配置する。</td></tr>
<tr><td>成績評価の基準及び方法</td><td>実習指導者による審査は、別紙「臨地実務実習施設指導者評価書」により行う。
実習振り返りレポート（80%）、臨地実務実習施設指導者評価書（20%）の評価比率に基づき、担当教員が科目到達目標への
到達度等を総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>担当教員による巡回指導等の実施</td><td>担当教員は、実習期間中に３週間に１回の頻度で臨地実務実習施設を巡回し、学生との面談および指導、実習指導者と実習運営上の課題等の聞き取りなど情報交換して学生の実習状況を確認する。</td></tr>
<tr><td>学生の活動日誌による報告</td><td>学生は実習期間中、別に定める様式により活動日誌を作成し、実習指導者等の確認を経て担当教員に報告する。</td></tr>
<tr><td>学生に対する報酬及び交通費支給等の取扱い</td><td>学生に対する報酬・交通費等の支給は原則行わない。ただし実習施設職員に同行して行う事業所外での実習に係る交通費については、
就業規則の定めに準じて実習施設が支払う。</td></tr>
<tr><td>実習中の災害補償及び損害賠償責任</td><td>①学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険に加入するものとする。
②実習中における学生の事故等については、実習施設の故意または重過失による場合を除き、①にて学生が加入するインターンシップ保険をもって補償に充てる。
③実習中における学生による実習施設または第三者への損害については、学生の故意または重過失による場合を除き、①にて学生が加入するインターンシップ保険をもって補償に充てる。</td></tr>
<tr><td>知的財産権の帰属等の取扱い</td><td>①臨地実務実習の実施の過程で学生が創出した発明等に係る知的財産権は、実習施設に帰属するものとし、実習施設は、社内規定に基づき、学生に対し応分の報奨を与える。
②大学または学生が、学会発表、論文発表その他の方法により学生が創出した発明等について第三者に公表・開示しようとする場合は、事前に実習施設の同意を得るものとする。</td></tr>
</table>

資料54　臨地実務実習クラス別実習計画書

臨地実務実習Ⅲ　（観光地域創生クラス）　実習計画書

項目	内容
学校名	せとうち観光専門職短期大学
学科名	観光振興学科
科目名	臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス）
臨地実務実習施設 (主たる実習場所)	観光地域創生事業者
(1)実習の概要	
実習の目的	このクラスは、臨地実務実習ⅠおよびⅡでの実務経験とその後の学修成果を活かし、業務遂行に必要な高度な技能の修得とすることをめざす。本実習では、臨地実務実習Ⅱで基礎を築いた観光地経営とマネジメントやマーケティングに関わる知見や思考法を活用し、新規の事業計画や実行組織の立ち上げに実践的に挑戦することで、地域創生に関わる観光振興専門職として現場で活躍するのに必要不可欠な思考力、実践力、協働力を養う。また、インバウンド観光客にも焦点をあて、応対に関する技術修得と、受入にあたっての課題把握と解決法などを実践的に学ぶ。
到達目標	本実習では、実習終了時に、以下の到達目標に達成することを目指す。 ①実習施設業務の専門理論と基礎的技量を身につけ、主要業務について単独で安全に遂行でき、問題を確実に解決できる。 ②「リスク・マネジメント」の考え方と技法を身につけ、それを基本動作と、観光振興・地域振興の過程及び地域創生の目標において実践できる。 ③インバウンド観光に対応できる能力を養い、その能力を実践で活用できる。 ④提供される商品・サービスを「ブランディング」、「マーケティング」、「マネジメント」の観点から理解し評価できる。 ⑤ユニバーサルデザインなどの考え方や技法を身につけ、適正なホスピタリティ・マネジメントや観光振興・地域再生デザインを実践できる。 ⑥統計データ等のエビデンスに基づいた計画・企画を通して新規事業や新規実行組織の立ち上げ提案を作成し、それを表現できる。
実習の内容	**地域創生にかかる実習施設での実習（応用・マネジメント）** **●実務実習（1週目）：企画提案** ・この実習中の到達点のすり合わせを行い、そのためにどのような実習に取り組むのか実習指導者と参加学生双方で確認する。 ・臨地実務実習Ⅰ、Ⅱの実践経験も活かし、当該施設における業務遂行に必要な高度な技能を修得するべく業務に従事する。その際、インバウンド観光客への応対にも積極的に関与し、必要な技能修得に努める。 ・実習期間中に実施する企画提案の準備を行う。その際、施設の経営理念やマネジメント戦略に配慮した上で、統計データ等のエビデンスに基づいて、実現可能性と実施効果を勘案した提案を行うこととする。 ・実習指導者をはじめとする施設関係者に企画を提案し、意見交換する。 **●実務実習2,3週目：業務遂行に必要な高度な技能の涵養、提案事業実施に向けた準備** ・引き続き、当該施設における業務遂行に必要な高度な技能を修得するべく業務に従事する。 ・提案事業の実施に向けた準備を行う。その際、チームワークや適切なコミュニケーションの手段・報連相（報告・連絡・相談）にも配慮する。 ・3週目後半で、ある程度の時間を割いて、実習指導者など実習施設関係者と、事業実施のための準備の進捗状況や課題の洗い出し、解決策の検討を行う。 **●実務実習4,5週目：業務遂行に必要な高度な技能の涵養、提案事業実施に向けた準備** ・引き続き、当該施設における業務遂行に必要な高度な技能を修得するべく業務に従事する。 ・提案事業の実施に向けた最終準備を行う。その際、チームワークや適切なコミュニケーションの手段・報連相（報告・連絡・相談）にも配慮する。 **●実務実習6週目：業務遂行に必要な高度な技能の涵養、提案事業の実施、事業の振り返り** ・当該施設における業務遂行に必要な高度な技能を修得するべく業務に従事する。 ・提案事業を実施する。 ・実施事業の成果と課題を振り返り、実習責任者をはじめとする施設関係者と意見交換を行う。
実習施設指導者による評価項目	実習の達成度は、実習施設指導者が別紙「臨地実務実習施設指導者評価書」に記載するA.1.実務知識技能、A.2.安全確保、A.3.ホスピタリティ、B.1.チームワーク、B.2.リーダーシップ、B.3.他者への共感・受容・気配り、C.1.変革・挑戦と新しい価値創造、C.2.職業倫理、C.3.経営の視点を基準として評価する。 また、上記の評価を踏まえ到達目標の達成度を評価する。
実習期間	令和　４年１２月１２日　　～　　令和　５年　２月　３日（６週間） ※実習の実施は週５日間とし、一週間のうち２日間は休日とする。
1日当たりの実習時間	８時間（休憩時間を除く）
受け入れる学生の数	最大　　名
実習指導者の配置	氏名 / 所属・職名 （　　） / （　　） （　　） / （　　） （　　） / （　　） このほか、実習内容の合わせ実習補助者を配置する。

成績評価の基準及び方法	実習指導者による審査は、別紙「臨地実務実習施設指導者評価書」により行う。 実習振り返りレポート（80%）、臨地実務実習施設指導者評価書（20%）の評価比率に基づき、担当教員が科目到達目標への 到達度等を総合的に評価する。
担当教員による巡回指導等の実施	担当教員は、実習期間中に３週間に１回の頻度で臨地実務実習施設を巡回し、学生との面談および指導、実習指導者と実習運営上の課題等の聞き取りなど情報交換して学生の実習状況を確認する。
学生の活動日誌による報告	学生は実習期間中、別に定める様式により活動日誌を作成し、実習指導者等の確認を経て担当教員に報告する。
学生に対する報酬及び交通費支給等の取扱い	学生に対する報酬・交通費等の支給は原則行わない。ただし実習施設職員に同行して行う事業所外での実習に係る交通費については、 就業規則の定めに準じて実習施設が支払う。
実習中の災害補償及び損害賠償責任	①学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険に加入するものとする。 ②実習中における学生の事故等については、実習施設の故意または重過失による場合を除き、①にて学生が加入するインターンシップ保険をもって補償に充てる。 ③実習中における学生による実習施設または第三者への損害については、学生の故意または重過失による場合を除き、①にて学生が加入するインターンシップ保険をもって補償に充てる。
知的財産権の帰属等の取扱い	①臨地実務実習の実施の過程で学生が創出した発明等に係る知的財産権は、実習施設に帰属するものとし、実習施設は、社内規定に基づき、学生に対し応分の報奨を与える。 ②大学または学生が、学会発表、論文発表その他の方法により学生が創出した発明等について第三者に公表・開示しようとする場合は、事前に実習施設の同意を得るものとする。

臨地実務実習施設指導者評価書【臨地実務実習Ⅰ】

せとうち観光専門職短期大学

実習事業所名

学籍番号

実習生氏名

実習期間 ： 平成　　年　　月　　日(　　) ～　　年　　月　　日(　　)

実習日数 ：　　日　欠 席 ： 病欠　　日　事故　　日　その他　　日／ 遅刻　　回　早退　　日

評価基準 ：【4】:十分できている【3】:おおむねできている【2】:支援があればできる【1】:不十分である【0】:該当しない

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
A.実践力	1.実務知識技能	接客技能	1) 各顧客特性に応じて業務を的確に実践できる。	4	3	2	1	0	
		実務知識	2)各実務に必要な基本的知識を修得し活用できる。	4	3	2	1	0	
		実務技能	3) 各実務の初歩的技能を修得し、これに基づいた適切なサービス提供をできる。	4	3	2	1	0	
	2.安全確保	自らの安全確保	4) 労働安全動作を遵守し、自分自身とスタッフ相互の安全確認を実践できる。	4	3	2	1	0	
		顧客の安全確保	5) 顧客自身の安全意識を確保できる。	4	3	2	1	0	
		配慮が必要な顧客の安全確保	6) 特別な配慮が必要な顧客特性の理解し、安全確保策を実践できる。	4	3	2	1	0	
			7) 日本語を解さない顧客特性を理解し、安全確保策等を実践できる。	4	3	2	1	0	
	3. ホスピタリティ	自己統制・即応力	8) 様々な場面・状況における顧客からの期待・要求などに対して、柔軟に臨機応変な対応ができる。	4	3	2	1	0	
		信頼感	9) 誰とでも信頼関係を築くことができる。	4	3	2	1	0	
			10) 顧客への適切な価値提供や双方向の信頼感を築いて、適正なサービスを提供できる。	4	3	2	1	0	
		配慮が必要な顧客へのホスピタリティ	11) 高齢者や妊婦、傷病や障がい等を持つ顧客の特性や心情を理解し、接遇できる。	4	3	2	1	0	
			12) 顧客の多様な特性や心情を理解し、その理解に基づくきめ細やかな対応を実践できる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
B.協働力	1. チームワーク	コミュニケーション能力	13) チームの目標達成に必要十分な報告、連絡、相談を適切な方法でタイムリーに実践できる。	4	3	2	1	0	
			14) 相手の多様な属性に応じて、柔軟で的確なコミュニケーションと相互理解を実践できる。	4	3	2	1	0	
B.協働力	1. チームワーク	協調性	15) 自己の欲求やストレスをコントロールし、チームの利益を優先して行動できる。	4	3	2	1	0	
			16) 必要に応じて他の担務を積極的にサポートできる。	4	3	2	1	0	
	2. リーダーシップ	率先垂範と判断力	17) 目標の達成に向け、責任感ある行動を率先垂範で実践できる。	4	3	2	1	0	
C. 思考力	1. 変革・新しい価値創造	改革	18)実習先の検討会や意見交換会などの場で、自ら考案した改革案を提示することができる。	4	3	2	1	0	
	2. 職業倫理	地域社会との共生	19)現行のサービスや事業内容が、地域社会に与える多様な影響について思考し、説明できる。	4	3	2	1	0	
	3. 経営の視点	理念の実現	20)実習先の経営の理念や目標ををマネジメントのモデルとして理解し説明できる。	4	3	2	1	0	

観光支援ビジネス 到達目標達成度

評価項目	実習指導者評価				担当教員評価
	十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	
1. 事前学修した理論や知見、状況把握・課題発見の手法を活用し、実習施設が所在する地域と当該地における観光産業の特徴や現状と課題を的確に理解し、それについて他者にわかりやすく伝えることができる。	4	3	2	1	
2. 実習施設業務の基本的な補助業務については単独で安全に遂行できる。	4	3	2	1	
3. 各施設での様々な仕事の流れの中で自身の与えられた役割を理解し、周囲の人からの指示や示唆を受け入れ、的確に目標を遂行できる。	4	3	2	1	
4. 提供されるオリジナル商品や観光サービスの製造工程ならびにそれを魅力ある商品・サービスとするための実行組織のあり方や役割分担について、実習によって体得し、説明することができる。	4	3	2	1	
5. チームでのコミュニケーションを理解し、他者と協調・協働して行動できる。	4	3	2	1	

実習先指導者適性評価 ：

A:最適である　　B:十分適性がある　　C:適性がある　D:さらなる努力が必要である

実習先指導者所見
実習先指導担当者氏名 ： 役職　　氏名

臨地実務実習施設指導者評価書 【臨地実務実習Ⅱ(航空クラス)】

せとうち観光専門職短期大学

実習事業所名

学籍番号

実習生氏名

実習期間 ： 平成　　年　　月　　日(　　) ～　　年　　月　　日(　　)

実習日数 ：　　日　欠 席 ： 病欠　　日　事故　　日　その他　　日／ 遅刻　　回 早退　　日

評価基準 ：【4】:十分できている【3】:おおむねできている【2】:支援があればできる【1】:不十分である【0】:該当しない

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
A.実践力	1.実務知識技能	接客技能	1) 各顧客特性に応じて業務を的確に実践できる。	4	3	2	1	0	
			2) 安全性とホスピタリティを両立させて業務を実践できる。	4	3	2	1	0	
		実務知識	3) 各実務に必要な基本的知識を修得し活用できる。	4	3	2	1	0	
		実務技能	4) 各実務の初歩的技能を修得し、これに基づいた適切なサービス提供をできる。	4	3	2	1	0	
	2.安全確保	自らの安全確保	5) 労働安全動作を遵守し、自分自身とスタッフ相互の安全確認を実践できる。	4	3	2	1	0	
			6) 職場環境の潜在的リスクの洗い出しとその除去によって、安全に関わる問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		顧客の安全確保	7) 顧客自身の安全意識を啓発し促進できる。	4	3	2	1	0	
			8) 顧客の動線や特性にひそむ潜在的リスクを除去することによって、顧客の安全問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		配慮が必要な顧客の安全確保	9) 特別な配慮が必要な顧客特性の理解し、安全確保策を実践できる。	4	3	2	1	0	
	3.ホスピタリティ	自己統制・即応力	10) 自己の感情を適切にコントロールし、どのような状況でも顧客の対応をできる。	4	3	2	1	0	
			11) 様々な場面・状況における顧客からの期待・要求などに対して、柔軟に臨機応変な対応ができる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
A.実践力	3.ホスピタリティ	信頼感	12）誰とでも信頼関係を築くことができる。	4	3	2	1	0	
			13）顧客への適切な価値提供や双方向の信頼感を築いて、適正なサービスを提供できる。	4	3	2	1	0	
		配慮が必要な顧客へのホスピタリティ	14）高齢者や妊婦、傷病や障がい等を持つ顧客の特性や心情を理解し、接遇できる。	4	3	2	1	0	
			15）顧客の多様な特性や心情を理解し、その理解に基づくきめ細やかな対応を実践できる。	4	3	2	1	0	
B.協働力	1. チームワーク	コミュニケーション能力	16）チームの目標達成に必要十分な報告、連絡、相談を適切な方法でタイムリーに実践できる。	4	3	2	1	0	
			17）相手の多様な属性に応じて、柔軟で的確なコミュニケーションと相互理解を実践できる。	4	3	2	1	0	
		協調性	18）自己の欲求やストレスをコントロールし、自己の利益よりチームの利益を優先して行動できる。	4	3	2	1	0	
			19）必要に応じて他の担務を積極的にサポートできる。	4	3	2	1	0	
	2. リーダーシップ	目標・優先順位の明示とタスク定義力	20）目指す理念やビジョンなどを、自らの言葉でわかりやすくチームに説明できる。	4	3	2	1	0	
			21）具体的な数値目標・目標の優先順位を、チーム全員に明示・浸透できる。	4	3	2	1	0	
		率先垂範と判断力	23）目標の達成に向け、責任感ある行動を率先垂範で実践できる。	4	3	2	1	0	
			24）修得した理論・知識・ノウハウによって、適切な判断で問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		統率力と育成力	25）チーム内での一体感醸成や適切な役割分担について留意し、チームを統率できる。	4	3	2	1	0	
	3. 他者への共感・受容・気配り	受容・傾聴	25）実習担当者や同僚の指導や意見を素直に受け入れ、積極的に業務改善に活かすことができる。	4	3	2	1	0	
			26）顧客からのクレームに耳を傾け、貴重な業務改善提案として対応できる。	4	3	2	1	0	
		気付きと気配り	27）周囲の状況や他者の心理に関心を持ち、気付きの感度・感性を高められる。	4	3	2	1	0	
			28）様々な状況・環境において、他者が必要とするモノやコトなどに気づくことができる。	4	3	2	1	0	
C. 思考力	1. 職業倫理	環境への配慮	29）事業内容が環境に与える多様な影響について、ESG経営の視点などから、多角的に思考ができる。	4	3	2	1	0	
			30）ESG経営の視点などから、持続可能な事業遂行について、関心をもち意見を主張できる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

航空クラス　到達目標達成度

評価項目	実習指導者評価				担当教員評価
	十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	
1. 空港における航空会社国内線旅客運送業務の専門知識を身に付けた上で、基本動作については単独で遂行するとともに問題解決の方向性について自分自身の考え方を説明することができる。	4	3	2	1	
2. 現場における基本動作の実践を通じ、航空事業の大前提となる”安全”の重要性を体得した上で、航空事業の根幹としての”安全”の意味をマネジメントの立場からも理解できる。	4	3	2	1	
3. 内外の多様な乗客に対面でのサービス実践を通して、将来他の観光産業分野においても通用し得るレベルのホスピタリティを体得した上で、地域観光振興の視点から、航空事業の存在意義や課題を自ら考察することができる。	4	3	2	1	
4. 空港における実務体験を通して、航空事業全体における空港現場の位置づけ、各現業実務の重要性等を、マネジメントの立場からも理解することができる。	4	3	2	1	
5. 安全・安心の確保、或いはハンディキャップを持つ乗客への対応、多国籍・多宗教の乗客への対応等、交通業の中でも特に航空業が高い水準で実現しているこれらの分野の仕組み、考え方、現業部門のモチベーション等の理解を現場で体得し、他の交通機関においても実践できる。	4	3	2	1	
6. 国内線航空事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、IT等を活用したイノベーション等について、自らの固有のアイデアを発表することができる。	4	3	2	1	

実習先指導者適性評価　：

A:最適である　　B:十分適性がある　　C:適性がある　D:さらなる努力が必要である

実習先指導者所見
実習先指導担当者氏名　：　役職　　氏名

臨地実務実習施設指導者評価書 【臨地実務実習Ⅱ(鉄道クラス)】

せとうち観光専門職短期大学

実習事業所名

学籍番号

実習生氏名

実習期間 ： 平成　　年　　月　　日(　　) ～　　年　　月　　日(　　)

実習日数 ：　　日　欠 席 ： 病欠　　日　事故　　日　その他　　日／ 遅刻　　回　早退　　日

評価基準 ：【4】:十分できている【3】:おおむねできている【2】:支援があればできる【1】:不十分である【0】:該当しない

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
A.実践力	1.実務知識技能	接客技能	1) 各顧客特性に応じて業務を的確に実践できる。	4	3	2	1	0	
			2) 安全性とホスピタリティを両立させて業務を実践できる。	4	3	2	1	0	
		実務知識	3) 各実務に必要な基本的知識を修得し活用できる。	4	3	2	1	0	
		実務技能	4) 各実務の初歩的技能を修得し、これに基づいた適切なサービス提供をできる。	4	3	2	1	0	
	2.安全確保	自らの安全確保	5) 労働安全動作を遵守し、自分自身とスタッフ相互の安全確認を実践できる。	4	3	2	1	0	
			6) 職場環境の潜在的リスクの洗い出しとその除去によって、安全に関わる問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		顧客の安全確保	7) 顧客自身の安全意識を啓発し促進できる。	4	3	2	1	0	
			8) 顧客の動線や特性にひそむ潜在的リスクを除去することによって、顧客の安全問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		配慮が必要な顧客の安全確保	9) 特別な配慮が必要な顧客特性の理解し、安全確保策を実践できる。	4	3	2	1	0	
	3.ホスピタリティ	自己統制・即応力	10) 自己の感情を適切にコントロールし、どのような状況でも顧客の対応をできる。	4	3	2	1	0	
			11) 様々な場面・状況における顧客からの期待・要求などに対して、柔軟に臨機応変な対応ができる。	4	3	2	1	0	
		信頼感	12) 誰とでも信頼関係を築くことができる。	4	3	2	1	0	
			13) 顧客への適切な価値提供や双方向の信頼感を築いて、適正なサービスを提供できる。	4	3	2	1	0	
		配慮が必要な顧客へのホスピタリティ	14) 高齢者や妊婦、傷病や障がい等を持つ顧客の特性や心情を理解し、接遇できる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
A.実践力	3.ホスピタリティ	配慮が必要な顧客へのホスピタリティ	15）顧客の多様な特性や心情を理解し、その理解に基づくきめ細やかな対応を実践できる。	4	3	2	1	0	
B.協働力	1. チームワーク	コミュニケーション能力	16）チームの目標達成に必要十分な報告、連絡、相談を適切な方法でタイムリーに実践できる。	4	3	2	1	0	
			17）相手の多様な属性に応じて、柔軟で的確なコミュニケーションと相互理解を実践できる。	4	3	2	1	0	
		協調性	18）自己の欲求やストレスをコントロールし、自己の利益よりチームの利益を優先して行動できる。	4	3	2	1	0	
			19）必要に応じて他の担務を積極的にサポートできる。	4	3	2	1	0	
	2. リーダーシップ	目標・優先順位の明示とタスク定義力	20）目指す理念やビジョンなどを、自らの言葉でわかりやすくチームに説明できる。	4	3	2	1	0	
			21）具体的な数値目標・目標の優先順位を、チーム全員に明示・浸透できる。	4	3	2	1	0	
		率先垂範と判断力	23）目標の達成に向け、責任感ある行動を率先垂範で実践できる。	4	3	2	1	0	
			24）修得した理論・知識・ノウハウによって、適切な判断で問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		統率力と育成力	25）チーム内での一体感醸成や適切な役割分担について留意し、チームを統率できる。	4	3	2	1	0	
	3. 他者への共感・受容・気配り	受容・傾聴	25）実習担当者や同僚の指導や意見を素直に受け入れ、積極的に業務改善に活かすことができる。	4	3	2	1	0	
			26）顧客からのクレームに耳を傾け、貴重な業務改善提案として対応できる。	4	3	2	1	0	
		気付きと気配り	27）周囲の状況や他者の心理に関心を持ち、気付きの感度・感性を高められる。	4	3	2	1	0	
			28）様々な状況・環境において、他者が必要とするモノやコトなどに気づくことができる。	4	3	2	1	0	
C. 思考力	1. 職業倫理	環境への配慮	29）事業内容が環境に与える多様な影響について、ESG経営の視点などから、多角的に思考ができる。	4	3	2	1	0	
			30）ESG経営の視点などから、持続可能な事業遂行について、関心をもち意見を主張できる。	4	3	2	1	0	

鉄道クラス　到達目標達成度

評価項目	実習指導者評価				担当教員評価
	十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	
1. 鉄道駅における旅客運送業務の専門知識を身に付けた上で、駅業務における基本動作については単独で遂行するとともに問題解決の方向性について自分自身の考え方を説明することができる。	4	3	2	1	
2. 現場における基本動作の実践を通じ、鉄道事業の大前提となる”安全”の重要性を体得した上で、鉄道事業の根幹としての”安全”の意味をマネジメントの立場からも理解できる。	4	3	2	1	
3. 他の観光業現場でも通用するレベルのホスピタリティを体得した上で、地域の観光振興の視点から、鉄道事業の存在意義や課題を自ら考察することができる。	4	3	2	1	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

評価項目	実習指導者評価				担当教員評価
	十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	
4. 駅における実務体験を通して、鉄道事業全体における駅の位置づけ、各現業実務の重要性等を、マネジメントの立場からも理解できる。	4	3	2	1	
5. 国内交通産業において最も主要な役割を担う鉄道業において、安全・安心の確保、或いはハンディキャップを持つ乗客への対応、多国籍/多宗教のインバウンド乗客への対応等を事前学修した理論に照らしながら現場で実践し、他の交通機関においても実践できる。	4	3	2	1	
6. 鉄道事業の新規需要/マーケット開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、IT等を活用したイノベーション等について、自己のアイデアを発表することができる。	4	3	2	1	

実習先指導者適性評価　：

A:最適である　　B:十分適性がある　　C:適性がある　D:さらなる努力が必要である

実習先指導者所見
実習先指導担当者氏名　：　役職　　氏名

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

臨地実務実習施設指導者評価書 【臨地実務実習Ⅱ(宿泊クラス)】

せとうち観光専門職短期大学

実習事業所名

学籍番号

実習生氏名

実習期間 ： 平成　　年　　月　　日(　　) ～　　年　　月　　日(　　)

実習日数 ：　　日　欠 席 ： 病欠　　日　事故　　日　その他　　日／ 遅刻　　回 早退　　日

評価基準 ：【4】:十分できている【3】:おおむねできている【2】:支援があればできる【1】:不十分である【0】:該当しない

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
A.実践力	1.実務知識技能	接客技能	1) 各顧客特性に応じて業務を的確に実践できる。	4	3	2	1	0	
			2) 安全性とホスピタリティを両立させて業務を実践できる。	4	3	2	1	0	
		実務知識	3) 各実務に必要な基本的知識を修得し活用できる。	4	3	2	1	0	
		実務技能	4) 各実務の初歩的技能を修得し、これに基づいた適切なサービス提供をできる。	4	3	2	1	0	
	2.安全確保	自らの安全確保	5) 労働安全動作を遵守し、自分自身とスタッフ相互の安全確認を実践できる。	4	3	2	1	0	
			6) 職場環境の潜在的リスクの洗い出しとその除去によって、安全に関わる問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		顧客の安全確保	7) 顧客自身の安全意識を啓発し促進できる。	4	3	2	1	0	
			8) 顧客の動線や特性にひそむ潜在的リスクを除去することによって、顧客の安全問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		配慮が必要な顧客の安全確保	9) 特別な配慮が必要な顧客特性の理解し、安全確保策を実践できる。	4	3	2	1	0	
	3.ホスピタリティ	自己統制・即応力	10) 自己の感情を適切にコントロールし、どのような状況でも顧客の対応をできる。	4	3	2	1	0	
			11) 様々な場面・状況における顧客からの期待・要求などに対して、柔軟に臨機応変な対応ができる。	4	3	2	1	0	
		信頼感	12) 誰とでも信頼関係を築くことができる。	4	3	2	1	0	
			13) 顧客への適切な価値提供や双方向の信頼感を築いて、適正なサービスを提供できる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
A.実践力	3.ホスピタリティ	配慮が必要な顧客へのホスピタリティ	14）高齢者や妊婦、傷病や障がい等を持つ顧客の特性や心情を理解し、接遇できる。	4	3	2	1	0	
			15）顧客の多様な特性や心情を理解し、その理解に基づくきめ細やかな対応を実践できる。	4	3	2	1	0	
B.協働力	1. チームワーク	コミュニケーション能力	16）チームの目標達成に必要十分な報告、連絡、相談を適切な方法でタイムリーに実践できる。	4	3	2	1	0	
			17）相手の多様な属性に応じて、柔軟で的確なコミュニケーションと相互理解を実践できる。	4	3	2	1	0	
		協調性	18）自己の欲求やストレスをコントロールし、自己の利益よりチームの利益を優先して行動できる。	4	3	2	1	0	
			19）必要に応じて他の担務を積極的にサポートできる。	4	3	2	1	0	
	2. リーダーシップ	目標・優先順位の明示とタスク定義力	20）目指す理念やビジョンなどを、自らの言葉でわかりやすくチームに説明できる。	4	3	2	1	0	
			21）具体的な数値目標・目標の優先順位を、チーム全員に明示・浸透できる。	4	3	2	1	0	
		率先垂範と判断力	23）目標の達成に向け、責任感ある行動を率先垂範で実践できる。	4	3	2	1	0	
			24）修得した理論・知識・ノウハウによって、適切な判断で問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		統率力と育成力	25）チーム内での一体感醸成や適切な役割分担について留意し、チームを統率できる。	4	3	2	1	0	
	3. 他者への共感・受容・気配り	受容・傾聴	25）実習担当者や同僚の指導や意見を素直に受け入れ、積極的に業務改善に活かすことができる。	4	3	2	1	0	
			26）顧客からのクレームに耳を傾け、貴重な業務改善提案として対応できる。	4	3	2	1	0	
		気付きと気配り	27）周囲の状況や他者の心理に関心を持ち、気付きの感度・感性を高められる。	4	3	2	1	0	
			28）様々な状況・環境において、他者が必要とするモノやコトなどに気づくことができる。	4	3	2	1	0	
C. 思考力	1. 職業倫理	環境への配慮	29）事業内容が環境に与える多様な影響について、ESG経営の視点などから、多角的に思考ができる。	4	3	2	1	0	
			30）ESG経営の視点などから、持続可能な事業遂行について、関心をもち意見を主張できる。	4	3	2	1	0	

宿泊クラス　到達目標達成度

評価項目	実習指導者評価				担当教員評価
	十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	
1. 宿泊施設における宿泊部門、料飲部門、顧客応対部門等の各業務の専門知識を身に付けた上で、各業務における基本動作については単独で遂行するとともに問題解決の方向性について自分自身の考え方を説明することができる。	4	3	2	1	
2. 基本動作の実践を通じ、宿泊事業の大前提となる“安全・安心の提供”の重要性を理解することができる。	4	3	2	1	
3. 他の観光業現場でも通用するレベルのホスピタリティを体得した上で、観光振興の視点から、宿泊事業の存在意義や課題を自ら考察することができる。	4	3	2	1	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

評価項目	実習指導者評価				担当教員評価
	十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	
4. 宿泊施設における実務体験を通して、宿泊ビジネス全体における各実務の位置づけ、重要性等を、マネジメントの立場からも理解することができる。	4	3	2	1	
5. 今後益々の多様化が予想される顧客ニーズ、社会構造の変化への対応等を事前学修した理論に照らしながら現場で実践し、他の観光産業においても応用可能な知見を身に付ける。	4	3	2	1	
6. 宿泊施設が立地する各地域ならではの地域資源を活用した新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、IT等を活用したイノベーション等について、自らの固有のアイデアを発表することができる。	4	3	2	1	

実習先指導者適性評価　：

A:最適である　　B:十分適性がある　　C:適性がある　D:さらなる努力が必要である

実習先指導者所見
実習先指導担当者氏名　：　役職　　氏名

臨地実務実習施設指導者評価書【臨地実務実習Ⅱ(観光地域創生クラス)】

せとうち観光専門職短期大学

実習事業所名

学籍番号

実習生氏名

実習期間 ： 平成　　年　　月　　日(　　) ～　　年　　月　　日(　　)

実習日数 ：　　日　欠 席 ： 病欠　　日　事故　　日　その他　　日／ 遅刻　　回 早退　　日

評価基準 ：【4】:十分できている【3】:おおむねできている【2】:支援があればできる【1】:不十分である【0】:該当しない

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
A.実践力	1.実務知識技能	接客技能	1) 各顧客特性に応じて業務を的確に実践できる。	4	3	2	1	0	
			2) 安全性とホスピタリティを両立させて業務を実践できる。	4	3	2	1	0	
		実務知識	3) 各実務に必要な基本的知識を修得し活用できる。	4	3	2	1	0	
		実務技能	4) 各実務の初歩的技能を修得し、これに基づいた適切なサービス提供をできる。	4	3	2	1	0	
	2.安全確保	自らの安全確保	5) 労働安全動作を遵守し、自分自身とスタッフ相互の安全確認を実践できる。	4	3	2	1	0	
			6) 職場環境の潜在的リスクの洗い出しとその除去によって、安全に関わる問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		顧客の安全確保	7) 顧客自身の安全意識を啓発し促進できる。	4	3	2	1	0	
			8) 顧客の動線や特性にひそむ潜在的リスクを除去することによって、顧客の安全問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		配慮が必要な顧客の安全確保	9) 特別な配慮が必要な顧客特性の理解し、安全確保策を実践できる。	4	3	2	1	0	
	3.ホスピタリティ	自己統制・即応力	10) 自己の感情を適切にコントロールし、どのような状況でも顧客の対応をできる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
A.実践力	3.ホスピタリティ	自己統制・即応力	11) 様々な場面・状況における顧客からの期待・要求などに対して、柔軟に臨機応変な対応ができる。	4	3	2	1	0	
		信頼感	12) 誰とでも信頼関係を築くことができる。	4	3	2	1	0	
			13) 顧客への適切な価値提供や双方向の信頼感を築いて、適正なサービスを提供できる。	4	3	2	1	0	
		配慮が必要な顧客へのホスピタリティ	14) 高齢者や妊婦、傷病や障がい等を持つ顧客の特性や心情を理解し、接遇できる。	4	3	2	1	0	
			15) 顧客の多様な特性や心情を理解し、その理解に基づくきめ細やかな対応を実践できる。	4	3	2	1	0	
B.協働力	1. チームワーク	コミュニケーション能力	16) チームの目標達成に必要十分な報告、連絡、相談を適切な方法でタイムリーに実践できる。	4	3	2	1	0	
			17) 相手の多様な属性に応じて、柔軟で的確なコミュニケーションと相互理解を実践できる。	4	3	2	1	0	
		協調性	18) 自己の欲求やストレスをコントロールし、自己の利益よりチームの利益を優先して行動できる。	4	3	2	1	0	
			19) 必要に応じて他の担務を積極的にサポートできる。	4	3	2	1	0	
	2. リーダーシップ	目標・優先順位の明示とタスク定義力	20) 目指す理念やビジョンなどを、自らの言葉でわかりやすくチームに説明できる。	4	3	2	1	0	
			21) 具体的な数値目標・目標の優先順位を、チーム全員に明示・浸透できる。	4	3	2	1	0	
		率先垂範と判断力	23) 目標の達成に向け、責任感ある行動を率先垂範で実践できる。	4	3	2	1	0	
			24) 修得した理論・知識・ノウハウによって、適切な判断で問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		統率力と育成力	25) チーム内での一体感醸成や適切な役割分担について留意し、チームを統率できる。	4	3	2	1	0	
	3. 他者への共感・受容・気配り	受容・傾聴	25) 実習担当者や同僚の指導や意見を素直に受け入れ、積極的に業務改善に活かすことができる。	4	3	2	1	0	
			26) 顧客からのクレームに耳を傾け、貴重な業務改善提案として対応できる。	4	3	2	1	0	
		気付きと気配り	27) 周囲の状況や他者の心理に関心を持ち、気付きの感度・感性を高められる。	4	3	2	1	0	
			28) 様々な状況・環境において、他者が必要とするモノやコトなどに気づくことができる。	4	3	2	1	0	
C. 思考力	1. 職業倫理	環境への配慮	29) 事業内容が環境に与える多様な影響について、ESG経営の視点などから、多角的に思考ができる。	4	3	2	1	0	
			30) ESG経営の視点などから、持続可能な事業遂行について、関心をもち意見を主張できる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

観光地域創生クラス　到達目標達成度

評価項目	実習指導者評価				担当教員評価
	十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	
1. 実習施設が所在する地域と当該地における観光事業の特徴を的確に理解し、それを他者に説明できる。	4	3	2	1	
2.「リスク・マネジメント」の考え方を身につけ、観光振興・地域振興過程の潜在的リスクの洗いだしと回避を実践できる。	4	3	2	1	
3. 実習施設の当該地における役割、実習施設が提供する観光サービスや商品の特徴を的確に理解し、それについて他者にわかりやすく伝えることができる。	4	3	2	1	
4. 実習施設業務の専門理論と基礎的技量を理解し、基本的な補助業務については単独で安全に遂行できる。	4	3	2	1	
5. 観光振興・地域創生の過程と成果における“安全・安心”の考え方と技法を理解し、それらを実践できる。	4	3	2	1	
6. 各施設での様々な仕事の流れの中で自身の与えられた役割を理解し、周囲の人からの指示や示唆を受け入れ、的確に目標を遂行できる。	4	3	2	1	

A:最適である　　B:十分適性がある　　C:適性がある　D:さらなる努力が必要である

実習先指導者所見
実習先指導担当者氏名　：　役職　　氏名

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

臨地実務実習施設指導者評価書【臨地実務実習Ⅲ(航空クラス)】

せとうち観光専門職短期大学

実習事業所名

学籍番号

実習生氏名

実習期間 ： 平成　　年　　月　　日(　　) ～　　年　　月　　日(　　)

実習日数 ：　　日　欠 席 ： 病欠　　日　事故　　日　その他　　日／ 遅刻　　回 早退　　日

評価基準 ：【4】:十分できている【3】:おおむねできている【2】:支援があればできる【1】:不十分である【0】:該当しない

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
A.実践力	1.実務知識技能	接客技能	1) 各顧客特性に応じて業務を的確に実践できる。	4	3	2	1	0	
			2) 安全性とホスピタリティを両立させて業務を実践できる。	4	3	2	1	0	
		実務専門知識	3) 各実務に必要な基本的知識を修得し活用できる。	4	3	2	1	0	
			4) より専門性のある知識・ノウハウ、新たな技術情報などを修得し、問題解決に活用できる。	4	3	2	1	0	
		実務専門技能	5) 各実務の初歩的技能を修得し、これに基づいた適切なサービス提供をできる。	4	3	2	1	0	
			6) 各実務の基本的技能から専門的技能までを修得し、問題解決に活用できる。	4	3	2	1	0	
	2.安全確保	自らの安全確保	7) 労働安全動作を遵守し、自分自身とスタッフ相互の安全確認を実践できる。	4	3	2	1	0	
			8) 職場環境の潜在的リスクの洗い出しとその除去によって、安全に関わる問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		顧客の安全確保	9) 顧客自身の安全意識を啓発し促進できる。	4	3	2	1	0	
			10) 顧客の動線や特性にひそむ潜在的リスクを除去することによって、顧客の安全問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		配慮が必要な顧客の安全確保	11) 特別な配慮が必要な顧客特性の理解し、安全確保策を実践できる。	4	3	2	1	0	
			12) 日本語を解さない顧客特性を理解し、安全確保策等を実践できる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
A.実践力	3.ホスピタリティ	自己統制力・即応力	13）自己の感情を適切にコントロールし、どのような状況でも顧客の対応をできる。	4	3	2	1	0	
			14）様々な場面・状況における顧客からの期待・要求などに対して、柔軟に臨機応変な対応ができる。	4	3	2	1	0	
		信頼感	15）誰とでも信頼関係を築くことができる。	4	3	2	1	0	
			16 顧客への適切な価値提供や双方向の信頼感を築いて、適正なサービスを提供できる。	4	3	2	1	0	
		配慮が必要な顧客へのホスピタリティ	17）高齢者や妊婦、傷病や障がい等を持つ顧客の特性や心情を理解し、接遇できる。	4	3	2	1	0	
			18）顧客の多様な特性や心情を理解し、その理解に基づくきめ細やかな対応を実践できる。	4	3	2	1	0	
B.協働力	1. チームワーク	コミュニケーション能力	19）チームの目標達成に必要十分な報告、連絡、相談を適切な方法でタイムリーに実践できる。	4	3	2	1	0	
			20）相手の多様な属性に応じて、柔軟で的確なコミュニケーションと相互理解を実践できる。	4	3	2	1	0	
		協調性	21）自己の欲求やストレスをコントロールし、自己の利益よりチームの利益を優先して行動できる。	4	3	2	1	0	
			22）協調性に関わる問題について、自ら考案した解決案を提示することができる。	4	3	2	1	0	
		トップマネジメントと現場スタッフを繋ぐ力	23）トップマネジメントの定めた方針を理解し、その理解に基づいた自己の役割りを着実に実践できる。	4	3	2	1	0	
			24）現場スタッフの視点と経営層の方針をともに理解した上で、自身の職務上の問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
	2. リーダーシップ	目標・優先順位の明示とタスク定義力	25）目指す理念やビジョンなどを、自らの言葉でわかりやすくチームに説明できる。	4	3	2	1	0	
			26）具体的な数値目標・目標の優先順位を、チーム全員に明示・浸透できる。	4	3	2	1	0	
		率先垂範と判断力	27）困難な状況であっても、周囲を鼓舞し、先頭に立ち、目標達成に向けて業務にあたることができる。	4	3	2	1	0	
			28）広い視野から、適切な判断で問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		統率力と育成力	29）チーム内での一体感醸成や適切な役割分担について留意し、チームを統率できる。	4	3	2	1	0	
			30）チーム全体のアウトプット最大化に向けて取り組み、その取組にチームメンバーを動員できる。	4	3	2	1	0	
	3. 他者への共感・受容・気配り	異文化・多様性への理解と配慮	31）外国人の心情や特性を積極的に理解し、共感をもって接することができる。	4	3	2	1	0	
			32）広範で多様な文化・宗教・習慣・価値観を理解し、積極的に受け容れられる。	4	3	2	1	0	
		受容・傾聴	33）実習担当者や同僚の指導や意見を素直に受け入れ、積極的に業務改善に活かすことができる。	4	3	2	1	0	
			34）顧客からのクレームに耳を傾け、貴重な業務改善提案として対応できる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
B.協働力	3. 他者への共感・受容・気配り	気付きと気配り	35) 周囲の状況や他者の心理に関心を持ち、気付きの感度・感性を高められる。	4	3	2	1	0	
			36) 様々な状況・環境において、他者が必要とするモノやコトなどに気づくことができる。	4	3	2	1	0	
C.思考力	1. 変革・挑戦と新しい価値創造	チャレンジ	37) 学修した技能や理論に基づき、新たな課題解決への挑戦を積極的に思考することができる。	4	3	2	1	0	
			38) 新しく柔軟な発想で、自ら考案したチャレンジ案を提示できる。	4	3	2	1	0	
		改革	39) 実習先職場の課題や問題点について、自分なりの改善・改革策を思考できる。	4	3	2	1	0	
			40) 実習先の検討会や意見交換会などの場で、自ら考案した改革案を提示することができる。	4	3	2	1	0	
		新たな価値創造	41) 他部門/他職種との協働において、多様で自由なアイデアを積極的に思考することができる。	4	3	2	1	0	
			42) 実習先の職場において、自ら考案した新たな価値創造案を提案できる。	4	3	2	1	0	
	2. 職業倫理	顧客期待と提供価値の最適化	43) 現行のサービス内容・水準が顧客のニーズに合致しているかを、過去の事例に捉われず思考できる。	4	3	2	1	0	
			44) 事前科目で学修した理論を実際の業務に照らして、自ら考案した解決案を提示することができる。	4	3	2	1	0	
		環境への配慮	45) 事業内容が環境に与える多様な影響について、ESG経営の視点などから、多角的に思考ができる。	4	3	2	1	0	
			46) ESG経営の視点などから、持続可能な事業遂行について、関心をもち意見を主張できる。	4	3	2	1	0	
		地域社会との共生	47) 現行のサービスや事業内容が、地域社会に与える多様な影響について思考し、説明できる。	4	3	2	1	0	
			48) 地域の持続可能な観光や地域創生について、自身の考え方をもち、その考え方を説明できる。	4	3	2	1	0	
	3. 経営の視点	理念の実現	49) 実習先の経営の理念や目標ををマネジメントのモデルとして理解し説明できる。	4	3	2	1	0	
			50) 経営者が、どのような考え方や仕組みで自部門のアウトプットを最大化しようとするのかを説明できる。	4	3	2	1	0	
		労務マネジメント	51) 仕事への動機づけ維持向上させる労務管理のマネジメントのモデルを理解できる。	4	3	2	1	0	
			52) 経営者の講話やヒアリングなどから労務管理のマネジメントのモデル学び説明できる。	4	3	2	1	0	
		コスト感覚	53) 事前学修で学んだベニューマネジメント理論を、実務実習を通して体験し説明できる。	4	3	2	1	0	
			54) 実習先のレベニューマネジメントなどの活用をマネジメントのモデルとして学び、説明できる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

航空クラス　到達目標達成度

評価項目	実習指導者評価				担当教員評価
	十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	
1. 空港における航空会社国際線旅客運送業務の専門知識を身に付けた上で、基本動作については単独で遂行するとともに問題解決方法について自分自身の考え方を説明することができる。	4	3	2	1	
2. 現場における基本動作の実践を通じ、航空事業の大前提となる”安全”の重要性を体得した上で、航空事業の根幹としての”安全”の意味をマネジメントの立場からも理解し、自ら行動することができる。	4	3	2	1	
3. インバウンド旅客を含めた多様な乗客への対面でのサービス実践を通して、他のいかなる観光産業分野においても通用するレベルのホスピタリティを体得した上で、広域観光振興の視点から、航空事業の存在意義や課題を自ら考察し説明することができる。	4	3	2	1	
4. 空港における実務体験を通して、航空事業全体における空港現場の位置づけ、各現業実務の重要性等を、マネジメントの立場からも理解し、自分の言葉で説明することができる。	4	3	2	1	
5. 安全・安心の確保、或いはハンディキャップを持つ乗客への対応、特に多国籍/多宗教の乗客への対応等、交通業の中でも特に航空業が高い水準で実現している分野の仕組み、考え方、現業部門のモチベーション等を現場で実践し、他の交通機関においても実践できる。	4	3	2	1	
6. 国際線航空事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、IT等を活用したイノベーション等について、自らの固有のアイデアを発表することができる。	4	3	2	1	

実習先指導者適性評価　：

A:最適である　　B:十分適性がある　　C:適性がある　D:さらなる努力が必要である

実習先指導者所見
実習先指導担当者氏名　：　役職　　氏名

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

臨地実務実習施設指導者評価書【臨地実務実習Ⅲ(鉄道クラス)】

せとうち観光専門職短期大学

実習事業所名

学籍番号

実習生氏名

実習期間 ： 平成　　年　　月　　日(　　) ～　　年　　月　　日(　　)

実習日数 ：　　日　欠 席 ： 病欠　　日　事故　　日　その他　　日／ 遅刻　　回 早退　　日

評価基準 ：【4】:十分できている【3】:おおむねできている【2】:支援があればできる【1】:不十分である【0】:該当しない

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
A.実践力	1.実務知識技能	接客技能	1）各顧客特性に応じて業務を的確に実践できる。	4	3	2	1	0	
			2）安全性とホスピタリティを両立させて業務を実践できる。	4	3	2	1	0	
		実務専門知識	3）各実務に必要な基本的知識を修得し活用できる。	4	3	2	1	0	
			4）より専門性のある知識・ノウハウ、新たな技術情報などを修得し、問題解決に活用できる。	4	3	2	1	0	
		実務専門技能	5）各実務の初歩的技能を修得し、これに基づいた適切なサービス提供をできる。	4	3	2	1	0	
			6）各実務の基本的技能から専門的技能までを修得し、問題解決に活用できる。	4	3	2	1	0	
	2.安全確保	自らの安全確保	7）労働安全動作を遵守し、自分自身とスタッフ相互の安全確認を実践できる。	4	3	2	1	0	
			8）職場環境の潜在的リスクの洗い出しとその除去によって、安全に関わる問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		顧客の安全確保	9）顧客自身の安全意識を啓発し促進できる。	4	3	2	1	0	
			10）顧客の動線や特性にひそむ潜在的リスクを除去することによって、顧客の安全問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
	2.安全確保	配慮が必要な顧客の安全確保	11）特別な配慮が必要な顧客特性の理解し、安全確保策を実践できる。	4	3	2	1	0	
			12）日本語を解さない顧客特性を理解し、安全確保策等を実践できる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
A.実践力	3.ホスピタリティ	自己統制力・即応力	13）自己の感情を適切にコントロールし、どのような状況でも顧客の対応をできる。	4	3	2	1	0	
			14）様々な場面・状況における顧客からの期待・要求などに対して、柔軟に臨機応変な対応ができる。	4	3	2	1	0	
		信頼感	15）誰とでも信頼関係を築くことができる。	4	3	2	1	0	
			16 顧客への適切な価値提供や双方向の信頼感を築いて、適正なサービスを提供できる。	4	3	2	1	0	
		配慮が必要な顧客へのホスピタリティ	17）高齢者や妊婦、傷病や障がい等を持つ顧客の特性や心情を理解し、接遇できる。	4	3	2	1	0	
			18）顧客の多様な特性や心情を理解し、その理解に基づくきめ細やかな対応を実践できる。	4	3	2	1	0	
B.協働力	1. チームワーク	コミュニケーション能力	19）チームの目標達成に必要十分な報告、連絡、相談を適切な方法でタイムリーに実践できる。	4	3	2	1	0	
			20）相手の多様な属性に応じて、柔軟で的確なコミュニケーションと相互理解を実践できる。	4	3	2	1	0	
		協調性	21）自己の欲求やストレスをコントロールし、自己の利益よりチームの利益を優先して行動できる。	4	3	2	1	0	
			22）協調性に関わる問題について、自ら考案した解決案を提示することができる。	4	3	2	1	0	
		トップマネジメントと現場スタッフを繋ぐ力	23）トップマネジメントの定めた方針を理解し、その理解に基づいた自己の役割りを着実に実践できる。	4	3	2	1	0	
			24）現場スタッフの視点と経営層の方針をともに理解した上で、自身の職務上の問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
	2. リーダーシップ	目標・優先順位の明示とタスク定義力	25）目指す理念やビジョンなどを、自らの言葉でわかりやすくチームに説明できる。	4	3	2	1	0	
			26）具体的な数値目標・目標の優先順位を、チーム全員に明示・浸透できる。	4	3	2	1	0	
		率先垂範と判断力	27）困難な状況であっても、周囲を鼓舞し、先頭に立ち、目標達成に向けて業務にあたることができる。	4	3	2	1	0	
			28）広い視野から、適切な判断で問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		統率力と育成力	29）チーム内での一体感醸成や適切な役割分担について留意し、チームを統率できる。	4	3	2	1	0	
			30）チーム全体のアウトプット最大化に向けて取り組み、その取組にチームメンバーを動員できる。	4	3	2	1	0	
	3. 他者への共感・受容・気配り	異文化・多様性への理解と配慮	31）外国人の心情や特性を積極的に理解し、共感をもって接することができる。	4	3	2	1	0	
			32）広範で多様な文化・宗教・習慣・価値観を理解し、積極的に受け容れられる。	4	3	2	1	0	
		受容・傾聴	33）実習担当者や同僚の指導や意見を素直に受け入れ、積極的に業務改善に活かすことができる。	4	3	2	1	0	
			34）顧客からのクレームに耳を傾け、貴重な業務改善提案として対応できる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
B.協働力	3. 他者への共感・受容・気配り	気付きと気配り	35) 周囲の状況や他者の心理に関心を持ち、気付きの感度・感性を高められる。	4	3	2	1	0	
			36) 様々な状況・環境において、他者が必要とするモノやコトなどに気づくことができる。	4	3	2	1	0	
C.思考力	1. 変革・挑戦と新しい価値創造	チャレンジ	37) 学修した技能や理論に基づき、新たな課題解決への挑戦を積極的に思考することができる。	4	3	2	1	0	
			38) 新しく柔軟な発想で、自ら考案したチャレンジ案を提示できる。	4	3	2	1	0	
		改革	39) 実習先職場の課題や問題点について、自分なりの改善・改革策を思考できる。	4	3	2	1	0	
			40) 実習先の検討会や意見交換会などの場で、自ら考案した改革案を提示することができる。	4	3	2	1	0	
		新たな価値創造	41) 他部門/他職種との協働において、多様で自由なアイデアを積極的に思考することができる。	4	3	2	1	0	
			42) 実習先の職場において、自ら考案した新たな価値創造案を提案できる。	4	3	2	1	0	
	2. 職業倫理	顧客期待と提供価値の最適化	43) 現行のサービス内容・水準が顧客のニーズに合致しているかを、過去の事例に捉われず思考できる。	4	3	2	1	0	
			44) 事前科目で学修した理論を実際の業務に照らして、自ら考案した解決案を提示することができる。	4	3	2	1	0	
		環境への配慮	45) 事業内容が環境に与える多様な影響について、ESG経営の視点などから、多角的に思考ができる。	4	3	2	1	0	
			46) ESG経営の視点などから、持続可能な事業遂行について、関心をもち意見を主張できる。	4	3	2	1	0	
		地域社会との共生	47) 現行のサービスや事業内容が、地域社会に与える多様な影響について思考し、説明できる。	4	3	2	1	0	
			48) 地域の持続可能な観光や地域創生について、自身の考え方をもち、その考え方を説明できる。	4	3	2	1	0	
	3. 経営の視点	理念の実現	49) 実習先の経営の理念や目標ををマネジメントのモデルとして理解し説明できる。	4	3	2	1	0	
			50) 経営者が、どのような考え方や仕組みで自部門のアウトプットを最大化しようとするのかを説明できる。	4	3	2	1	0	
		労務マネジメント	51) 仕事への動機づけ維持向上させる労務管理のマネジメントのモデルを理解できる。	4	3	2	1	0	
			52) 経営者の講話やヒアリングなどから労務管理のマネジメントのモデル学び説明できる。	4	3	2	1	0	
		コスト感覚	53) 事前学修で学んだベニューマネジメント理論を、実務実習を通して体験し説明できる。	4	3	2	1	0	
			54) 実習先のレベニューマネジメントなどの活用をマネジメントのモデルとして学び、説明できる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

鉄道クラス　到達目標達成度

評価項目	実習指導者評価				担当教員評価
	十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	
1. 鉄道駅における旅客運送業務の専門知識を身に付けた上で、駅業務におけるインバウンド対応を含めた基本動作については単独で遂行するとともに問題解決方法について自分自身の考え方を説明することができる。	4	3	2	1	
2. 現場における基本動作の実践を通じ、鉄道事業の大前提となる”安全”の重要性を体得した上で、鉄道事業の根幹としての”安全”の意味をマネジメントの立場からも理解し、自ら行動することができる。	4	3	2	1	
3. 他のいかなる観光業現場でも通用するレベルのホスピタリティを体得した上で、広域の地域観光振興の視点から、鉄道事業の存在意義や課題を自ら考察することができる。	4	3	2	1	
4. 駅における実務体験を通して、鉄道事業全体における駅の位置づけ、各現業実務の重要性等を、マネジメントの立場からも理解し、自分の言葉で説明することができる。	4	3	2	1	
5. 国内交通産業において最も主要な役割を担う鉄道業において、安全・安心の確保、或いはハンディキャップを持つ乗客への対応、多国籍/多宗教のインバウンド乗客への対応等を事前学修した理論に照らしながら現場で実践し、他の交通機関においても実践できる。	4	3	2	1	
6. 鉄道事業の新規需要/マーケット開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、IT等を活用したイノベーション等について、自己のアイデアを発表することができる。	4	3	2	1	

実習先指導者適性評価　：

A:最適である　　B:十分適性がある　　C:適性がある　D:さらなる努力が必要である

実習先指導者所見
実習先指導担当者氏名　：　役職　　氏名

臨地実務実習施設指導者評価書 【臨地実務実習Ⅲ(宿泊クラス)】

せとうち観光専門職短期大学

実習事業所名

学籍番号

実習生氏名

実習期間 ： 平成　　年　　月　　日(　　) ～　　年　　月　　日(　　)

実習日数 ：　　日　欠 席 ： 病欠　　日　事故　　日　その他　　日／ 遅刻　　回 早退　　日

評価基準 ：【4】:十分できている【3】:おおむねできている【2】:支援があればできる【1】:不十分である【0】:該当しない

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
A.実践力	1.実務知識技能	接客技能	1) 各顧客特性に応じて業務を的確に実践できる。	4	3	2	1	0	
			2) 安全性とホスピタリティを両立させて業務を実践できる。	4	3	2	1	0	
		実務専門知識	3) 各実務に必要な基本的知識を修得し活用できる。	4	3	2	1	0	
			4) より専門性のある知識・ノウハウ、新たな技術情報などを修得し、問題解決に活用できる。	4	3	2	1	0	
		実務専門技能	5) 各実務の初歩的技能を修得し、これに基づいた適切なサービス提供をできる。	4	3	2	1	0	
			6) 各実務の基本的技能から専門的技能までを修得し、問題解決に活用できる。	4	3	2	1	0	
	2.安全確保	自らの安全確保	7) 労働安全動作を遵守し、自分自身とスタッフ相互の安全確認を実践できる。	4	3	2	1	0	
			8) 職場環境の潜在的リスクの洗い出しとその除去によって、安全に関わる問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		顧客の安全確保	9) 顧客自身の安全意識を啓発し促進できる。	4	3	2	1	0	
			10) 顧客の動線や特性にひそむ潜在的リスクを除去することによって、顧客の安全問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		配慮が必要な顧客の安全確保	11) 特別な配慮が必要な顧客特性の理解し、安全確保策を実践できる。	4	3	2	1	0	
			12) 日本語を解さない顧客特性を理解し、安全確保策等を実践できる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
A.実践力	3.ホスピタリティ	自己統制力・即応力	13）自己の感情を適切にコントロールし、どのような状況でも顧客の対応をできる。	4	3	2	1	0	
			14）様々な場面・状況における顧客からの期待・要求などに対して、柔軟に臨機応変な対応ができる。	4	3	2	1	0	
		信頼感	15）誰とでも信頼関係を築くことができる。	4	3	2	1	0	
			16 顧客への適切な価値提供や双方向の信頼感を築いて、適正なサービスを提供できる。	4	3	2	1	0	
		配慮が必要な顧客へのホスピタリティ	17）高齢者や妊婦、傷病や障がい等を持つ顧客の特性や心情を理解し、接遇できる。	4	3	2	1	0	
			18）顧客の多様な特性や心情を理解し、その理解に基づくきめ細やかな対応を実践できる。	4	3	2	1	0	
B.協働力	1. チームワーク	コミュニケーション能力	19）チームの目標達成に必要十分な報告、連絡、相談を適切な方法でタイムリーに実践できる。	4	3	2	1	0	
			20）相手の多様な属性に応じて、柔軟で的確なコミュニケーションと相互理解を実践できる。	4	3	2	1	0	
		協調性	21）自己の欲求やストレスをコントロールし、自己の利益よりチームの利益を優先して行動できる。	4	3	2	1	0	
			22）協調性に関わる問題について、自ら考案した解決案を提示することができる。	4	3	2	1	0	
		トップマネジメントと現場スタッフを繋ぐ力	23）トップマネジメントの定めた方針を理解し、その理解に基づいた自己の役割りを着実に実践できる。	4	3	2	1	0	
			24）現場スタッフの視点と経営層の方針をともに理解した上で、自身の職務上の問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
	2. リーダーシップ	目標・優先順位の明示とタスク定義力	25）目指す理念やビジョンなどを、自らの言葉でわかりやすくチームに説明できる。	4	3	2	1	0	
			26）具体的な数値目標・目標の優先順位を、チーム全員に明示・浸透できる。	4	3	2	1	0	
		率先垂範と判断力	27）困難な状況であっても、周囲を鼓舞し、先頭に立ち、目標達成に向けて業務にあたることができる。	4	3	2	1	0	
			28）広い視野から、適切な判断で問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		統率力と育成力	29）チーム内での一体感醸成や適切な役割分担について留意し、チームを統率できる。	4	3	2	1	0	
			30）チーム全体のアウトプット最大化に向けて取り組み、その取組にチームメンバーを動員できる。	4	3	2	1	0	
	3. 他者への共感・受容・気配り	異文化・多様性への理解と配慮	31）外国人の心情や特性を積極的に理解し、共感をもって接することができる。	4	3	2	1	0	
			32）広範で多様な文化・宗教・習慣・価値観を理解し、積極的に受け容れられる。	4	3	2	1	0	
		受容・傾聴	33）実習担当者や同僚の指導や意見を素直に受け入れ、積極的に業務改善に活かすことができる。	4	3	2	1	0	
			34）顧客からのクレームに耳を傾け、貴重な業務改善提案として対応できる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
B.協働力	3. 他者への共感・受容・気配り	気付きと気配り	35) 周囲の状況や他者の心理に関心を持ち、気付きの感度・感性を高められる。	4	3	2	1	0	
			36) 様々な状況・環境において、他者が必要とするモノやコトなどに気づくことができる。	4	3	2	1	0	
C.思考力	1. 変革・挑戦と新しい価値創造	チャレンジ	37) 学修した技能や理論に基づき、新たな課題解決への挑戦を積極的に思考することができる。	4	3	2	1	0	
			38) 新しく柔軟な発想で、自ら考案したチャレンジ案を提示できる。	4	3	2	1	0	
		改革	39) 実習先職場の課題や問題点について、自分なりの改善・改革策を思考できる。	4	3	2	1	0	
			40) 実習先の検討会や意見交換会などの場で、自ら考案した改革案を提示することができる。	4	3	2	1	0	
		新たな価値創造	41) 他部門/他職種との協働において、多様で自由なアイデアを積極的に思考することができる。	4	3	2	1	0	
			42) 実習先の職場において、自ら考案した新たな価値創造案を提案できる。	4	3	2	1	0	
	2. 職業倫理	顧客期待と提供価値の最適化	43) 現行のサービス内容・水準が顧客のニーズに合致しているかを、過去の事例に捉われず思考できる。	4	3	2	1	0	
			44) 事前科目で学修した理論を実際の業務に照らして、自ら考案した解決案を提示することができる。	4	3	2	1	0	
		環境への配慮	45) 事業内容が環境に与える多様な影響について、ESG経営の視点などから、多角的に思考ができる。	4	3	2	1	0	
			46) ESG経営の視点などから、持続可能な事業遂行について、関心をもち意見を主張できる。	4	3	2	1	0	
		地域社会との共生	47) 現行のサービスや事業内容が、地域社会に与える多様な影響について思考し、説明できる。	4	3	2	1	0	
			48) 地域の持続可能な観光や地域創生について、自身の考え方をもち、その考え方を説明できる。	4	3	2	1	0	
	3. 経営の視点	理念の実現	49) 実習先の経営の理念や目標ををマネジメントのモデルとして理解し説明できる。	4	3	2	1	0	
			50) 経営者が、どのような考え方や仕組みで自部門のアウトプットを最大化しようとするのかを説明できる。	4	3	2	1	0	
		労務マネジメント	51) 仕事への動機づけ維持向上させる労務管理のマネジメントのモデルを理解できる。	4	3	2	1	0	
			52) 経営者の講話やヒアリングなどから労務管理のマネジメントのモデル学び説明できる。	4	3	2	1	0	
		コスト感覚	53) 事前学修で学んだベニューマネジメント理論を、実務実習を通して体験し説明できる。	4	3	2	1	0	
			54) 実習先のレベニューマネジメントなどの活用をマネジメントのモデルとして学び、説明できる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

宿泊クラス　到達目標達成度

評価項目	実習指導者評価				担当教員評価
	十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	
1. 臨地実務実習Ⅱで身に付けた宿泊・料飲部門等の現業における専門知識・技能を、より高いレベルで修得するとともに、問題解決方法について自分自身の考え方を説明することができる。	4	3	2	1	
2. 基本動作の実践を通じ、宿泊事業の大前提となる”安全・安心の提供”の重要性を、マネジメントの観点からも理解し、自ら行動することができる。	4	3	2	1	
3. 他のいかなる観光業現場でも通用するレベルのホスピタリティを体得した上で、地域振興の一環としての観光振興の視点から、宿泊事業の存在意義や課題を自ら考察することができる。	4	3	2	1	
4. 実習先宿泊施設でのグッドプラクティス体験等を通して、ブランディングの実践と基本構造を修得し、他の観光産業や地域振興や問題解決にも活用することができる。	4	3	2	1	
5. 今後益々の進展が予想されるインバウンド観光/外国人材の国内活用等の社会情勢を踏まえ、多様で広範囲にわたる国籍/文化/宗教/習慣/価値観等を持つ外国籍顧客への対応等を事前学修した理論に照らしながら現場で実践し、地域の観光振興にも広く実践できるようになる。	4	3	2	1	
6. 宿泊事業の新規需要やマーケットの開発、互いの知見や強みを活かした異業種との協業による新規分野への進出、IT等を活用したイノベーション等について、自らの固有のアイデアを発表することができる。	4	3	2	1	

実習先指導者適性評価　：

A:最適である　　B:十分適性がある　　C:適性がある　D:さらなる努力が必要である

実習先指導者所見
実習先指導担当者氏名　：　役職　　氏名

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

臨地実務実習施設指導者評価書【臨地実務実習Ⅲ(観光地域創生クラス)】

せとうち観光専門職短期大学

実習事業所名

学籍番号

実習生氏名

実習期間 ： 平成　　年　　月　　日(　　) ～　　年　　月　　日(　　)

実習日数 ：　　日　欠 席 ： 病欠　　日　事故　　日　その他　　日／ 遅刻　　回 早退　　日

評価基準 ：【4】:十分できている【3】:おおむねできている【2】:支援があればできる【1】:不十分である【0】:該当しない

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
A.実践力	1.実務知識技能	接客技能	1) 各顧客特性に応じて業務を的確に実践できる。	4	3	2	1	0	
			2) 安全性とホスピタリティを両立させて業務を実践できる。	4	3	2	1	0	
		実務専門知識	3) 各実務に必要な基本的知識を修得し活用できる。	4	3	2	1	0	
			4) より専門性のある知識・ノウハウ、新たな技術情報などを修得し、問題解決に活用できる。	4	3	2	1	0	
		実務専門技能	5) 各実務の初歩的技能を修得し、これに基づいた適切なサービス提供をできる。	4	3	2	1	0	
			6) 各実務の基本的技能から専門的技能までを修得し、問題解決に活用できる。	4	3	2	1	0	
	2.安全確保	自らの安全確保	7) 労働安全動作を遵守し、自分自身とスタッフ相互の安全確認を実践できる。	4	3	2	1	0	
			8) 職場環境の潜在的リスクの洗い出しとその除去によって、安全に関わる問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		顧客の安全確保	9) 顧客自身の安全意識を啓発し促進できる。	4	3	2	1	0	
			10) 顧客の動線や特性にひそむ潜在的リスクを除去することによって、顧客の安全問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		配慮が必要な顧客の安全確保	11) 特別な配慮が必要な顧客特性の理解し、安全確保策を実践できる。	4	3	2	1	0	
			12) 日本語を解さない顧客特性を理解し、安全確保策等を実践できる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
A.実践力	3.ホスピタリティ	自己統制力・即応力	13）自己の感情を適切にコントロールし、どのような状況でも顧客の対応をできる。	4	3	2	1	0	
			14）様々な場面・状況における顧客からの期待・要求などに対して、柔軟に臨機応変な対応ができる。	4	3	2	1	0	
		信頼感	15）誰とでも信頼関係を築くことができる。	4	3	2	1	0	
			16 顧客への適切な価値提供や双方向の信頼感を築いて、適正なサービスを提供できる。	4	3	2	1	0	
		配慮が必要な顧客へのホスピタリティ	17）高齢者や妊婦、傷病や障がい等を持つ顧客の特性や心情を理解し、接遇できる。	4	3	2	1	0	
			18）顧客の多様な特性や心情を理解し、その理解に基づくきめ細やかな対応を実践できる。	4	3	2	1	0	
B.協働力	1. チームワーク	コミュニケーション能力	19）チームの目標達成に必要十分な報告、連絡、相談を適切な方法でタイムリーに実践できる。	4	3	2	1	0	
			20）相手の多様な属性に応じて、柔軟で的確なコミュニケーションと相互理解を実践できる。	4	3	2	1	0	
		協調性	21）自己の欲求やストレスをコントロールし、自己の利益よりチームの利益を優先して行動できる。	4	3	2	1	0	
			22）協調性に関わる問題について、自ら考案した解決案を提示することができる。	4	3	2	1	0	
		トップマネジメントと現場スタッフを繋ぐ力	23）トップマネジメントの定めた方針を理解し、その理解に基づいた自己の役割りを着実に実践できる。	4	3	2	1	0	
			24）現場スタッフの視点と経営層の方針をともに理解した上で、自身の職務上の問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
	2. リーダーシップ	目標・優先順位の明示とタスク定義力	25）目指す理念やビジョンなどを、自らの言葉でわかりやすくチームに説明できる。	4	3	2	1	0	
			26）具体的な数値目標・目標の優先順位を、チーム全員に明示・浸透できる。	4	3	2	1	0	
		率先垂範と判断力	27）困難な状況であっても、周囲を鼓舞し、先頭に立ち、目標達成に向けて業務にあたることができる。	4	3	2	1	0	
			28）広い視野から、適切な判断で問題を解決できる。	4	3	2	1	0	
		統率力と育成力	29）チーム内での一体感醸成や適切な役割分担について留意し、チームを統率できる。	4	3	2	1	0	
			30）チーム全体のアウトプット最大化に向けて取り組み、その取組にチームメンバーを動員できる。	4	3	2	1	0	
	3. 他者への共感・受容・気配り	異文化・多様性への理解と配慮	31）外国人の心情や特性を積極的に理解し、共感をもって接することができる。	4	3	2	1	0	
			32）広範で多様な文化・宗教・習慣・価値観を理解し、積極的に受け容れられる。	4	3	2	1	0	
		受容・傾聴	33）実習担当者や同僚の指導や意見を素直に受け入れ、積極的に業務改善に活かすことができる。	4	3	2	1	0	
			34）顧客からのクレームに耳を傾け、貴重な業務改善提案として対応できる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

評価項目(第1分類)		評価項目(第2分類)		実習指導者評価					担当教員評価
				十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	該当しない	
B.協働力	3. 他者への共感・受容・気配り	気付きと気配り	35）周囲の状況や他者の心理に関心を持ち、気付きの感度・感性を高められる。	4	3	2	1	0	
			36）様々な状況・環境において、他者が必要とするモノやコトなどに気づくことができる。	4	3	2	1	0	
C.思考力	1. 変革・挑戦と新しい価値創造	チャレンジ	37）学修した技能や理論に基づき、新たな課題解決への挑戦を積極的に思考することができる。	4	3	2	1	0	
			38)新しく柔軟な発想で、自ら考案したチャレンジ案を提示できる。	4	3	2	1	0	
		改革	39）実習先職場の課題や問題点について、自分なりの改善・改革策を思考できる。	4	3	2	1	0	
			40）実習先の検討会や意見交換会などの場で、自ら考案した改革案を提示することができる。	4	3	2	1	0	
		新たな価値創造	41）他部門/他職種との協働において、多様で自由なアイデアを積極的に思考することができる。	4	3	2	1	0	
			42）実習先の職場において、自ら考案した新たな価値創造案を提案できる。	4	3	2	1	0	
	2. 職業倫理	顧客期待と提供価値の最適化	43）現行のサービス内容・水準が顧客のニーズに合致しているかを、過去の事例に捉われず思考できる。	4	3	2	1	0	
			44）事前科目で学修した理論を実際の業務に照らして、自ら考案した解決案を提示することができる。	4	3	2	1	0	
		環境への配慮	45）事業内容が環境に与える多様な影響について、ESG経営の視点などから、多角的に思考ができる。	4	3	2	1	0	
			46）ESG経営の視点などから、持続可能な事業遂行について、関心をもち意見を主張できる。	4	3	2	1	0	
		地域社会との共生	47）現行のサービスや事業内容が、地域社会に与える多様な影響について思考し、説明できる。	4	3	2	1	0	
			48）地域の持続可能な観光や地域創生について、自身の考え方をもち、その考え方を説明できる。	4	3	2	1	0	
	3. 経営の視点	理念の実現	49）実習先の経営の理念や目標ををマネジメントのモデルとして理解し説明できる。	4	3	2	1	0	
			50）経営者が、どのような考え方や仕組みで自部門のアウトプットを最大化しようとするのかを説明できる。	4	3	2	1	0	
		労務マネジメント	51）仕事への動機づけ維持向上させる労務管理のマネジメントのモデルを理解できる。	4	3	2	1	0	
			52）経営者の講話やヒアリングなどから労務管理のマネジメントのモデル学び説明できる。	4	3	2	1	0	
		コスト感覚	53）事前学修で学んだベニューマネジメント理論を、実務実習を通して体験し説明できる。	4	3	2	1	0	
			54）実習先のレベニューマネジメントなどの活用をマネジメントのモデルとして学び、説明できる。	4	3	2	1	0	

資料55　臨地実務実習施設指導者評価書

観光地域創生クラス　到達目標達成度

評価項目	実習指導者評価				担当教員評価
	十分できている	概ねできている	支援があればできる	不十分である	
1. 実習施設業務の専門理論と基礎的技量を身につけ、主要業務について単独で安全に遂行でき、問題を確実に解決できる。	4	3	2	1	
2.「リスク・マネジメント」の考え方と技法を身につけ、それを基本動作と、観光振興・地域振興の過程及び地域創生の目標において実践できる。	4	3	2	1	
3. インバウンド観光に対応できる能力を養い、その能力を実践で活用できる。	4	3	2	1	
4. 提供される商品・サービスを「ブランディング」、「マーケティング」、「マネジメント」の観点から理解し評価できる。	4	3	2	1	
5. ユニバーサルデザインなどの考え方や技法を身につけ、適正なホスピタリティ・マネジメントや観光振興・地方再生デザインを実践できる。	4	3	2	1	
6. 統計データ等のエビデンスに基づいた計画・企画を通して新規事業や新規実行組織の立ち上げ提案を作成し、それを表現できる。	4	3	2	1	

A:最適である　　B:十分適性がある　　C:適性がある　D:さらなる努力が必要である

実習先指導者所見
実習先指導担当者氏名　：　役職　　氏名

資料 56　臨地実務実習同意書

臨地実務実習　同意書

せとうち観光専門職短期大学観光振興学科の臨地実務実習にあたり、下記の期間、実習をさせていただきます。

なお、学生の臨地実務実習は以下の基本的な考え方で臨むことにしております。観光振興専門職養成の必要性をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

実習期間：令和　　年　　月　　日（　　曜日）～　　月　　日（　　曜日）

１．　学生は、自らの目標とする専門職の本質を見極め、自らの課題を把握するために真摯に学ぶことを心がけます。
２．　学生は、実習指導者の指示、指導を真摯に受け止め、活かします。
３．　学生は、報告、連絡、相談を欠かさず、業務に支障がないよう最大限配慮いたします。
４．　学生は、お客様に対し、「実習生」としてではなく、「社員」「スタッフ」の気概でホスピタリティを発揮しようと努めます。
５．　学生は、学んだことを活かし、主体性を発揮しつつ、本学の教育目標である、協働力や実践力を発揮しようと努めますので、フィードバックをお願いいたします。
６．　学生は臨地実務実習を通して知り得た情報を、決して他者に漏らしません。
　　そのことをお約束するため、実習生より「誓約書」を提出いたします。
７．　学生は、実習に参加するにあたり学生教育研究災害傷害保険ならびに学研災付帯賠償責任保険に加入しますが、学生に対する実習中の安全確保について、実習先にてご留意いただきますことをお願いいたします。

令和　　年　　月　　日

説明者

せとうち観光専門職短期大学　観光振興学科　　教員氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

臨地実務実習同意書

私は、せとうち観光専門職短期大学観光振興学科＿＿＿年生＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿が、臨地実務実習において学生の安全確保に最大限留意するとともに、業務指導を行うことについて上記により説明を受け、内容につき同意します。

令和　　年　　月　　日

実習施設名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　署名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

資料 57　臨地実務実習誓約書

臨地実務実習　誓約書

御中

私は、貴社に実習生として受け入れて頂くにあたり、次の事項を確実に遵守することを誓約いたします。

1．貴社の就業規則及び服務に関する諸規定等を尊重し、貴社臨地実務実習担当者の指導にそって誠実に実習に参加します。
2．貴社への提出書面に虚偽の記載を一切いたしません。
3．臨地実務実習期間中、住所の異動その他、身上に重大な変動があった場合は直ちに貴社へ届け出ます。
4．貴社施設への利用に際しては、次のことを遵守します。
　（1）貴社の定める立ち入り禁止区域に立ち入らないこと
　（2）貴社施設を臨地実務実習以外の目的に使用しないこと
　（3）貴社施設に第 3 者を立ち入らせないこと
　（4）その他、貴社諸規程及び責任者の指示に服すること
5．臨地実務実習期間中に知り得たいかなる事項について、臨地実務実習が終了した後を含め、貴社の書面による許可なく、第 3 者に開示・漏洩し、若しくは不正使用しません。特に貴社において臨地実務実習期間中取り扱う書類、ノート、磁気ディスク、その他これに類する資料及びその写しなど企業秘密資料の保管・管理については、次のことを遵守します。
　（1）貴社の諸規程・命令・指示に従うこと
　（2）貴社の書面による許可なく第 3 者に譲渡・貸与し、若しくは自ら不正使用しないこと
　（3）臨地実務実習終了後は直ちに貴社に返還すること
6．臨地実務実習期間中取り扱うパソコン（企業秘密資料が保管されているもの。貴社支給・私物問わず）には、責任者の指示がない限り、ファイル共有ソフト等、情報漏洩の危険性があるソフトのインストールおよびネットワーク接続を一切いたしません。
7．臨地実務実習期間中に発生した著作権及び工業所有者等の成果物の所有権の一切は、貴社に原始的に帰属します。
8．臨地実務実習条件確認書を承諾したことを確認し、貴社に一切迷惑をかけません。
9．本誓約書に定めなき事項については、責任者の指示を仰ぎ、その指示に従います。
10．万一、上記事項のいずれか一つにでも違反した場合、或いは貴社において私が実習生として不適当であると判断された場合には、臨地実務実習期間（令和　　年　　月　　日から令和　　年　　月　　日まで）中といえども即時臨地実務実習を中止されても異議を唱えません。また、その場合は、法的措置（損害賠償、差止請求）等に服します。
11．上記に関する紛争についての管轄は【貴社所在地所管の地方裁判所の名前】とします。
12．本誓約書および臨地実務実習条件確認書については、5．の秘密保持規程を除き、上記臨地実務実習期間中において有効とします。
13．本誓約に定めのない事項及び本誓約書の運用、解釈に疑義が生じた場合は、法令または慣習に従い協議の上、誠意をもって解決します。　　以上

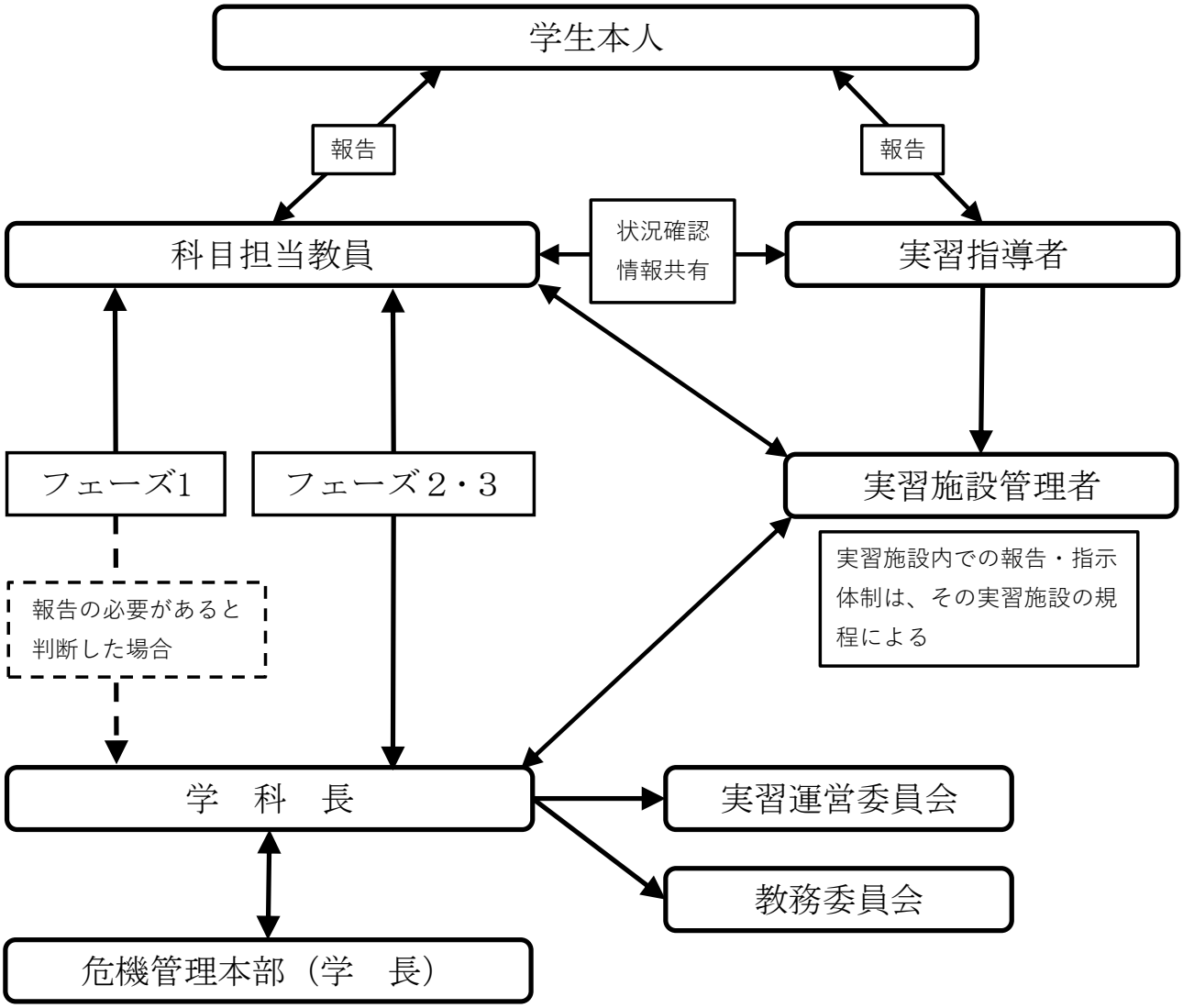
実習生氏名　　**印**

※20 歳未満の実習生は、次の欄も記入　　実習生との関係

保護者住所：　　保護者氏名（自署）：　　印

（原本は企業が保管、コピー一部を実習生が保管）

資料58　実習中の事故発生時の緊急連絡体制



資料 59　臨地実務実習危機管理マニュアル

せとうち観光専門職短期大学 臨地実務実習 危機管理マニュアル

臨地実務実習実施前あるいは実施中、科目担当教員は臨地実務実習施設の実習指導者と連携して安全管理に最善を尽くす。万が一、臨地実務実習実施前、あるいは実施中に学生に傷害／疾病／事故等が生じた場合、科目担当教員は以下に従って問題に対処する。

1. 科目担当教員、及び臨地実務実習施設実習指導者の行うべきアクション

危機が生じた場合には、下表のフェーズで対応する。

なお、科目担当教員が複数名の場合には、主責任者である引率者の指示の下、対応する。

フェーズ	危　機	対　処
フェーズ 1（軽度の事態）	・ 常備薬での処置が可能な傷害／疾病 ・ 現場のみで解決可能な小さな事故／トラブル（ex.軽度の打撲、擦過傷を負った等々） ・ 口頭での謝罪で対応可能な顧客や関係者への迷惑行為、サービスの不完全履行等 ・ 軽度の自然災害	・ 臨地実務実習施設実習指導者が手当て等必要な対処を行った上で、可及的速やかに科目担当教員宛報告を行う ・ 科目担当教員が報告の必要があると判断した場合のみ、危機管理本部に報告を行う
フェーズ 2（中度の事態）	・ 医療機関での処置が必要な傷害／疾病（但し、入院・手術等の特別な処置は不要） ・ 書面、もしくは本学の責任者の謝罪が必要な顧客や関係者への迷惑行為、サービスの不完全履行、軽度の物損等（広報対応等は不要な範囲） ・ 中度の自然災害	・ 臨地実務実習施設実習指導者が、対象者の応急治療や医療機関への搬送など必要な措置を直ちに実施するとともに、速やかに科目担当教員宛連絡を行う ・ 臨地実務実習施設指導者より速やかに、科目担当教員へ報告 ・ 科目担当教員は、危機管理本部に報告の上、必要に応じ現地に赴く
フェーズ 3（重度の事態）	・ 入院・手術等の特別な処置を伴う医療機関での処置が必要な傷害／疾病 ・ 法的な責任を伴う顧客や関係者への不法行為 ・ 個人情報の漏洩、重大なコンプライアンス違反	・ 臨地実務実習施設実習指導者は、直ちに救急車を要請の上、対象者を医療機関へ救急搬送するとともに、直ちに科目担当教員宛緊急連絡を行う ・ 科目担当教員は、直ちに危機

	・ その他、広報対応や弁護士など専門家対応、本学からの救援が必要な事態 ・ 重度の自然災害	管理本部に報告の上、自らを含め現地への救急支援人員派遣や広報対応・弁護士など専門家対応等の要否を諮る。

2. 連絡の方法

フェーズ 2、フェーズ 3 の事態が惹起された場合、科目担当教員は、直ちに学科長（危機管理本部）に報告し、学科長は危機管理規定に基づき直ちに必要な連絡を行う。

3. 臨地実務実習施設組織管理者より科目担当教員への連絡項目の内容（最低限、確認しなければならない項目）

(1)　対象学生の氏名・性別・学籍番号
(2)　当該案件関係者の氏名、年齢、性別、勤務先等
(3)　傷害・疾病・加害・損害の程度
(4)　臨地実務実習施設組織管理者の対処や措置内容
(5)　当該事象の発生日時・場所
(6)　現場の状況
(7)　当該情報源、入手先等
(8)　現地への支援・応援人員/物資送付の要否

4. 確実な情報収集と伝達

確実な情報収集と正確な伝達のために記録様式（次項参照）を定める。
情報の確実性を担保するために臨地実務実習施設実習指導者からの情報の一元化を図る。（原則として、現場と連絡が取れない場合を除き、学生には直接問い合わせない。ただし、特別な場合は学科長の指示に基づき対応する。）
個人情報の保護に留意し、マスコミ取材に安易に応じないよう教職員に徹底する。

5. 記録様式

(1)　外部対応カード（対象者家族用、対外部者用）
- 受付日時
- 受付者
- 受付方法
- 照会者、対象者との関係
- 照会内容
- 重要度、緊急度
- 対応日時

- 対応者
- 対応内容
- 継続対応　要・不要

(2)　被災者情報集約カード

- 被災者氏名、学科等所属、携帯番号、メールアドレス
- 被災状況（時系列で記入）
- 治療状況（時系列で記入）
- 保証人氏名、携帯番号、メールアドレス
- 引率者氏名、携帯番号

(3)　データの保管方法

手書きカードを集約し、危機管理本部担当が上記項目ごとにエクセルに記入する。

6. 危機対策

(1)　保険手続き

科目担当教員は、予め参加学生全員に学生教育研究災害傷害保険（学研災）ならびに学研災付帯賠償責任保険（学研賠）に加入するよう指導し、臨地実務実習前に最終確認を実施する。

臨地実務実習中に、傷害／疾病等が発生した場合には、可及的速やかに学生本人が保険会社に連絡するよう予め指導を徹底する（学生本人からの連絡が難しい場合は、科目担当教員がこれを速やかに代行する）。

(2)　連絡先の確認（科目担当教員・臨地実務実習参加学生）

科目担当教員は、予め臨地実務実習施設実習指導者と連携の上、臨地実務実習実施地域の医療機関や官憲の所在地・電話番号を把握の上、これらの情報を臨地実務実習参加学生にも周知しておく。

科目担当教員は、臨地実務実習中の参加学生との連絡手段（ex.携帯電話番号、メールアドレス等）を事前に把握しておく。

以　上

資料 60 教授会規程

せとうち観光専門職短期大学　教授会規程

（趣旨）

第 1 条　この規程は、せとうち観光専門職短期大学（以下「本学」という。）学則第 39 条第 2 項の規定に基づき、本学の教授会（以下「教授会」という。）の組織及び運営その他必要な事項について定める。

（組織）

第 2 条　教授会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

（1）学長

（2）学科長

（3）専任教員

（4）事務局長

（5）その他学長が指名した者

（審議事項）

第 3 条　教授会は、学長が諮問する次の各号に掲げる本学の運営に関する重要事項について審議する。

（1）入学試験の合否判定に関する事項

（2）学生の入学（転入学及び再入学を含む。）、卒業に関する事項

（3）学生の進級、休学、復学及び願い出による退学に関する事項

（4）学位の授与に関する事項

（5）教育課程の編成に関する事項

（6）学生の除籍に関する事項

（7）学生の賞罰に関する事項

（8）教員の採用及び昇任に係る教育研究業績の審査に関する事項

（9）その他学長が教授会の意見を求める事項

（議長等）

第 4 条　学長は教授会を招集し、その議長となる。ただし、あらかじめ学長が指名した者は、議長を代行できる。

（議案の提出）

第 5 条　教授会の議案の提出は、学長が行う。

（定足数）

第 6 条　教授会は、構成員の過半数の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

資料 60 教授会規程

（議決）
第 7 条　教授会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（教授会の開催請求）
第 8 条　教授会の構成員は、その 2 分の 1 以上の連署をもって教授会の開催を請求することができる。
2　前項の請求は、代表者からの議案及び理由を付した文書を学長に提出することにより行う。

（構成員以外の出席）
第 9 条　議長は、必要があると認めるときは、関係教職員を出席させ意見を聴くことができる。

（改廃）
第 10 条　この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が理事会に上申し、理事会が定める。

附則
1.この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

資料 61　運営協議会規程

せとうち観光専門職短期大学　運営協議会規程

（目的）

第１条　この規程は、本学に置く運営協議会の組織、任務、運営等について必要な事項を定めることを目的とする。

（任務）

第２条　運営協議会は、次に掲げる事項について審議する。

（１） 大学運営に関する重要な事項

（２） 法人から付託された事項

（３） 各委員会から付託された事項

（４） その他、学長が必要と認める事項

（組織）

第３条　運営協議会は、次の各号に掲げる構成員をもって組織する。

（１） 学長

（２） 学科長

（３） 事務局長

（４） 事務局管理職

（５） その他

（議長）

第４条　運営協議会に議長を置く。

２　議長は、学長をもってこれに充てる。

３　議長は、運営協議会の会務を総理する。

４　議長に事故があるときは、あらかじめ議長の指名する者がその職務を代理する。

（会議）

第５条　運営協議会は、議長が招集する。

２　運営協議会は、構成員の３分の２以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

３　運営協議会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（構成員以外の者の出席）

第６条　運営協議会議は、必要があると認めるときは、構成員でない者を会議に出席させ、

説明を求め、又は意見を聞くことができる。

附　則

1.この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

資料 62　各委員会規程

せとうち観光専門職短期大学　自己点検・評価委員会規程

（目的）

第１条　本学の教育研究水準の向上に努め、教育研究活動の活性化を図るとともに、その社会的責務を果たしていくために、教育研究活動及び管理運営について、自己点検・評価を行う。

２ 自己点検・評価は、「計画・実施及び運用・点検・改善」のいわゆるＰＤＣＡサイクルに基づき、実施する。

（実施体制）

第２条　前条の目的を達成するため、学長のもとに自己点検・評価委員会を置く。

（審議事項）

第３条　自己点検・評価委員会は次の事項を審議する。

（１）　点検・評価項目に関すること。

（２）　自己点検の実施及びその結果の公表に関すること。

（３）　文部科学大臣の認証を受けた者による評価（以下「認証評価」という。）の申請及び評価結果に関すること。

（４）　各前号のほか、委員長が必要と認めた事項

（委員長）

第４条　自己点検・評価委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

（委員会の構成）

第５条　自己点検・評価委員会は次の委員をもって組織する。

（１）　学長

（２）　学科長

（３）　専任教員から選出された者

（４）　事務局管理職

（５）　その他学長が必要と認めた教職員

（委員の任期）

第６条　委員の任期は２年とする。ただし、再任を妨げない。

２ 中途の欠員補充、交替は前任者の残任期間とする。

（定足数及び議決）

第７条　自己点検・評価委員会は、第５条に定める委員の３分の２以上の出席をもって成

立し、出席委員の過半数をもって議決する。

（自己点検・評価結果の公開）

第８条　自己点検・評価委員会は、自己点検の結果に基づき、「自己点検報告書」を作成しホームページにおいて公開する。

２ 自己点検・評価委員会は、自己点検・評価を実施した結果、改善が必要である事項について、遅滞なく必要な措置を講ずるものとする。

（事務局）

第９条　自己点検・評価委員会の事務は、事務局が担当する。

付　則

1. この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

資料 62　各委員会規程

せとうち観光専門職短期大学　入試・広報委員会規程

（趣旨）

第１条　せとうち観光専門職短期大学（以下「本学」という。）に、せとうち観光専門職短期大学入試・広報委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、本学の学生募集及び広報に関する基本方針に基づき、次に掲げる事項の審議及び実施運営に当たる。

（１）　入試の実施、入試判定に関する事項
（２）　学生募集及び広報に関する事項
（３）　入試説明会等に関する事項
（４）　学生募集に係る学校訪問に関する事項
（５）　その他、入試及び広報に関し必要な事項

（組 織）

第３条　委員会は、次に掲げる者で組織する。

（１）　学　長
（２）　学科長
（３）　学科長から推薦された専任教員
（４）　事務局長
（５）　入試・広報担当の課長

２ 前項第４号及び第５号の委員の任期は２年とし、再任を妨げない。

３ 欠員が生じたときに補充する委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第４条 委員会に委員長を置き、第３条第１項第１号の委員をもって充てる。

２ 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

（開会）

第５条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、委員会を開くことができない。

（議決）

第６条 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第７条 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

（事務）

第８条 委員会の事務は、事務局において処理する。

附 則

1. この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

資料 62　各委員会規程

せとうち観光専門職短期大学　教務委員会規程

（趣旨）

第１条 本学の教育理念、教育目標を尊重し、その実現を図ることを目的として、せとうち観光専門職短期大学教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

（１）　本学の教育の理念及び教育方針に関すること。

（２）　教育課程及び授業科目に関すること。

（３）　学生のコース選択及び決定に関すること。

（４）　その他教務に関する重要事項。

（組織）

第３条　委員会は、次の各号の委員をもって組織する。

（１）　学科長

（２）　学科から選出された教員　２名

（３）　職員　２名

（４）　その他委員会が必要と認めた者

２　任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、任期中欠員が生じ、これを補充した場合の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第４条 委員会に委員長を置き、第３条第１項第１号の委員をもって充てる。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

（開会）

第５条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、委員会を開くことができない。

（議決）

第６条 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第７条 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

資料 62　各委員会規程

（事務）

第８条 委員会の事務は、事務局において処理する。

附 則

1. この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

資料 62　各委員会規程

せとうち観光専門職短期大学　学生委員会規程

（趣旨）

第１条　せとうち観光専門職短期大学に、せとうち観光専門職短期大学学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

（１）　奨学金並びに入学料及び授業料免除に関すること。

（２）　就職に関すること。

（３）　保健衛生に関すること。

（４）　障害のある学生の支援に関すること。

（５）　学生生活の実態調査に関すること。

（６）　学生の表彰・懲戒に関すること。

（７）　その他、学生生活に必要な事項に関すること。

（組織）

第３条　委員会は、次の各号の委員をもって組織する。

（１）　学科長

（２）　学科から選出された教員　２名

（３）　職員　２名

（４）　その他委員会が必要と認めた者

２　任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、任期中欠員が生じ、これを補充した場合の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き、第３条第１項第１号の委員をもって充てる。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

（開会）

第５条　委員会は、委員の過半数が出席しなければ、委員会を開くことができない。

（議決）

第６条　委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）
第７条 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

（事務）
第８条 委員会の事務は、事務局において処理する。

附 則
1. この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

資料 62　各委員会規程

せとうち観光専門職短期大学　ハラスメント防止委員会規程

（趣旨）

第１条　せとうち観光専門職短期大学（以下「本学」という。）の構成員及び関係者の教育、研究、就業及び修学に関する権利その他の人権を保障することを目的として、ハラスメント、二次加害行為等（以下「ハラスメント等」という。）の防止、被害の救済その他問題への対応するために、ハラスメント防止委員会（以下、「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

（１）ハラスメント等の相談体制に関すること。

（２）ハラスメント等に対する救済制度及び手続に関すること

（３）ハラスメント等に対する救済申立てに基づく調停、事実調査に基づく救済勧告、緊急対応等に関すること。

（４）ハラスメント等の防止のための広報及び研修に関すること。

（５）その他ハラスメント等の防止対策に関すること。

（組織）

第３条　委員会は、次の各号の委員をもって組織する。

（１）　学長

（２）　学科長

（３）　専任教員

（４）　事務局長

（５）　その他、学長が必要と認めた者

２　任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、任期中欠員が生じ、これを補充した場合の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第４条 委員会に委員長を置き、第３条第１項第１号の委員をもって充てる。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

（開会）

第５条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、委員会を開くことができない。

（議決）

第６条 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

資料 62　各委員会規程

（委員以外の者の出席）
第７条 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

（事務）
第８条 委員会の事務は、事務局において処理する。

附　則
1. この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

資料63　ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、教育課程の対比表

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	教育課程															
		授業科目	履修区分	履修単位	1年次クォーター				2年次クォーター				3年次クォーター				
					①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	
DP１(自学自修の態度形成)	CP１ 基礎科目群（自学自修）																
「自学自修の態度」を養い、理論や実務を学ぶために重要な基礎技能を身に付け、生涯に渡り充実した日常生活と有意義なキャリアデベロップメントを実現することができる。	「自学自修の態度」を養い、理論や実務を学ぶために重要な基礎知識や技能を修得するための授業科目として、「基礎科目群（自学自修）」に「基礎演習」及び「キャリアデザイン論」を配置し、講義及び演習形式で授業を行う。	基礎演習	必修	2	4	4											
		キャリアデザイン論	必修	2					B		A						
DP２(思考法の修得)	CP２ 基礎科目群（思考法）																
基礎科目における学術科目によって「思考力」を養い、基礎的な思考法を身に付けて、現実を的確に捉えることができる。	「思考力」を養い、基礎的な思考法を修得するための授業科目として、「基礎科目（思考法）」に「文化論」「地理学」「企業の社会的責任」「法と社会」「ビジネスコミュニケーション」「信仰の歴史」「異文化理解」「災害と防災の科学」「介助実務実習」を配置し、講義及び実習形式により、授業を行う。	文化論	必修	2	A	B											
		地理学	必修	2	B	A											
		企業の社会的責任	3科目必修選択	2				※									
		法と社会		2				※									
		ビジネスコミュニケーション		2					※								
		信仰の歴史		2					※								
		異文化理解		2					※								
		災害と防災の科学		2				※									
		介助実務実習	必修	1				A/B									
DP３(観光の理論と知識の理解)	CP３ 職業専門科目群（学術）																
観光学の理論と観光に関連する知識を身に付け、観光振興専門職としての「思考力」を磨き上げながら、観光事象の実態とその変化を学ぶことによって、社会現象としての観光の現実を捉えることができる。	観光学の理論と観光に関連する知識を身に付け、観光振興専門職としての「思考力」を磨き上げながら、観光事象の実態とその変化を学ぶための授業科目として、「職業専門科目群（学術）」に観光の理論と知識を学ぶ学術科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。																
	①観光学入門科目																
	観光振興専門職の基礎知識として身につけるべき主要な観光事象と、それらの事象を捉える理論や方法を修得するための授業科目として「観光学概論」を配置し、講義形式により授業を行う。	観光学概論	必修	2	A/B												
	②地域観光論入門科目群																
	「地域資源」や「地域社会」に関する理解を深め、課題の発見や解決の方策の必要な思考法や調査手法を修得するために必要な授業科目として、「地域資源論」を講義形式により、「地域観光基礎実習」を実習形式により配置する。	地域資源論	必修	2	A/B												
		地域観光基礎実習	必修	1		4											
	③観光基礎理論科目群																
	観光学術理論の基礎的理論について考察し、観光研究に関する理論と方法論を修得することにより、観光学術理論の基盤を形成するための講義科目として「観光社会文化論」「観光振興・地域創生論」「観光行動論」「観光政策論」を配置し、講義形式により授業を行う。	観光社会文化論	必修	2		A		B									
		観光振興・地域創生論	必修	2		B		A									
		観光行動論	必修	2					A		B						
		観光政策論	必修	2					B		A						
	④観光応用理論科目群																
	観光学術理論の応用的理論について考察し、観光振興専門職としての飛躍を図るために必要な能力を修得するための授業科目として「国際観光論」「観光文化施設論」「観光メディア論」を配置し、講義形式により授業を行う。	国際観光論	選択	2							※						
		観光文化施設論	選択	2					※								
		観光メディア論	選択	2					※								
		観光データ整理実習	必修	1					A		B						
		エコツーリズム実習	必修	1							A/B						
	⑤せとうち観光研究科目群																
	瀬戸内地域における観光の現実や課題、観光振興及び観光による地域振興に対する理解を深め、地域における観光振興の方法論と課題解決方策の発見等に必要な能力を修得するため「せとうち観光アート論」「せとうち観光資源論」「四国巡礼研究」「四国観光史」を配置し、講義形式により授業を行う。	せとうち観光アート論	2科目選択必修	2									※				
		せとうち観光資源論		2										※			
		四国巡礼研究		2											※		
		四国観光史		2													※
DP４(観光実務の知識と技能の修得)	CP４ 職業専門科目群（実務）																
観光産業や観光による地域創生事業の実務に関連する理論・知識を学んだうえで、観光実務を体験的に学び、「思考力」を土台として、「実践力」と「協働力」を身に付けることによって、観光振興専門職として職場の状況や問題を分析でき、チームワークで問題を解決できる。	観光産業や観光による地域創生事業の実務に関連する理論及び知識を修得するとともに、観光実務を体験的に学び、「思考力」を土台として、「実践力」と「協働力」を修得するための授業科目として「職業専門科目群（実務）」に観光実務の理論と技能を学ぶ実務科目群を配置し、授業科目の目的と難易度に応じて、科目区分を以下のとおり細分化する。																
	①観光実務理論科目群																
	観光事業において重要な経営施策であり、また観光振興専門職にとっても不可欠な能力・技能であるホスピタリティ及びリスクマネジメントに関する能力を修得するための講義科目として、「ホスピタリティマネジメント論」「観光リスクマネジメント」を配置し、講義形式により授業を行う。	ホスピタリティマネジメント論	必修	2	A	B											
		観光リスクマネジメント	必修	2	B	A											
	②観光事業論科目群																
	観光実務の実践のための基盤となる能力を修得するとともに、臨地実務実習後の観光実務に関する理論と知識の総まとめと定着を図るための授業科目として、「観光事業論」「交通産業論」「宿泊産業論」「地域創生事業論」を配置し、講義形式により授業を行う。	観光事業論	必修	2	A	B											
		交通産業論	実習関連1科目選択必修	2										※			
		宿泊産業論		2										※			
		地域創生事業論		2										※			
	③臨地実務実習事前学修科目群																
	ホスピタリティ業務に関わる「技能訓練」の基礎を修得するための授業科目として「ホスピタリティ実務実習Ａ・Ｂ」を配置し、学内における実習形式により授業を行う。また、臨地実務実習における実習の目的、内容、日程、留意事項などを体系的に指導し、学生が臨地実務実習で効果的な学修成果を達成するために必要な授業科目として、「観光支援ビジネス実務基礎論」「観光実務基礎論」「観光実務応用論」を配置し、演習形態を含む講義形式により授業を行う。	ホスピタリティ実務実習A	実習関連1科目選択必修	1		※											
		ホスピタリティ実務実習B		1		※											
		観光支援ビジネス実務基礎論	必修	1			5										
		観光実務基礎論（航空クラス）	必修	1					※								
		観光実務基礎論（鉄道クラス）							※								
		観光実務基礎論（宿泊クラス）							※								
		観光実務基礎論（観光地域創生クラス）							※								
		観光実務応用論（航空クラス）	必修	1							※						
		観光実務応用論（鉄道クラス）									※						
		観光実務応用論（宿泊クラス）									※						
		観光実務応用論（観光地域創生クラス）									※						
	④臨地実務実習科目群																
	観光実務の基礎から応用、マネジメントに至るまでのスキルを修得するとともに、観光振興、観光による地域創生の観点から観光事業を企画・立案・運営するために必要な能力を修得するための授業科目として「臨地実務実習Ⅰ」「臨地実務実習Ⅱ」「臨地実務実習Ⅲ」を配置し、学外における実習形式により授業を行う。	臨地実務実習Ⅰ	必修	4			※										
		臨地実務実習Ⅱ（航空クラス）	必修	8						※							
		臨地実務実習Ⅱ（鉄道クラス）															
		臨地実務実習Ⅱ（宿泊クラス）															
		臨地実務実習Ⅱ（観光地域創生クラス）															
		臨地実務実習Ⅲ（航空クラス）	必修	8								※					
		臨地実務実習Ⅲ（鉄道クラス）															
		臨地実務実習Ⅲ（宿泊クラス）															
		臨地実務実習Ⅲ（観光地域創生クラス）															
	⑤臨地実務実習事後学修科目群																
	臨地実務実習の実践的学修の成果を振り返り、それらを理論的に整理しながら、今後の学修に有機的につなげることを目的として、「観光支援ビジネス実務発展論」「観光実務発展論」「観光実務マネジメント論」を配置し、演習形態を含む講義形式により授業を行う。	観光支援ビジネス実務発展論	必修	1				5									
		観光実務発展論（航空クラス）	必修	1							※						
		観光実務発展論（鉄道クラス）									※						
		観光実務発展論（宿泊クラス）									※						
		観光実務発展論（観光地域創生クラス）									※						
		観光実務マネジメント論（航空クラス）	必修	1									※				
		観光実務マネジメント論（鉄道クラス）											※				
		観光実務マネジメント論（宿泊クラス）											※				
		観光実務マネジメント論（観光地域創生クラス）											※				
DP５(観光英語力の修得)	CP５ 職業専門科目群（観光英語）																
観光英語力を身に付けることによって、インバウンド観光の多様な状況に対応できる。	インバウンド観光の多様な状況に対応するための観光英語力を修得するための授業科目として、初級から応用へと段階的に「観光基礎英語Ⅰ～Ⅱ」「観光英語Ⅰ～Ⅳ」を配置し、演習形式により授業を行う。	観光基礎英語Ⅰ	必修	1	A/B												
		観光基礎英語Ⅱ	必修	1		A/B											
		観光英語Ⅰ	選択	1				※									
		観光英語Ⅱ	選択	1					※								
		観光英語Ⅲ	選択	1							※						
		観光英語Ⅳ	選択	1									※				
DP６(他分野の応用的な能力の修得)	CP６ 展開科目群																
観光関係以外の異分野から、次のような「応用的な能力」を身に付けて、観光振興専門職として実践的かつ創造的な職務に積極的に取り組むことができる。 ① 企業やＮＰＯ法人、地域社会等における組織及び事業運営能力（マネジメント力） ② 事業イノベーションや地域社会の魅力を創出するための情報力や創造力（情報力・創造力）	観光関係以外の異分野から、「①企業やＮＰＯ法人、地域社会等における組織及び事業運営能力（マネジメント力）」及び「②事業イノベーションや地域社会の魅力を創出するための情報力や創造力（情報力・創造力）」に関する応用的な能力を修得するための授業科目として、「経営学」「中小企業論」「コミュニティデザイン論」「マーケティング論」「起業論」「ICTとIoT」「人工知能概論」を配置し、講義形式により授業を行うとともに、「ファシリテーション実習」「ICT実習」「人工知能プログラミング実習」「マップデザイン実習」「メディアコンテンツ実習」を配置し、実習形式により授業を行う。	経営学	必修	2				A		B						
		中小企業論	2科目選択必修	2									※				
		コミュニティデザイン論		2										※			
		マーケティング論		2											※		
		起業論		2													※
		ファシリテーション実習	必修	1										A/B			
		ＩＣＴとＩｏＴ	必修	2									A	B			
		人工知能概論	必修	2									B	A			
		ＩＣＴ実習	必修	1											A	B	
		人工知能プログラミング実習	必修	1											B	A	
		マップデザイン実習	必修	1									A	B			
		メディアコンテンツ実習	必修	1									B	A			
DP７(観光振興専門職としての総合力の育成)	CP７ 総合科目																
3年間で学修した全教科の成果を統括する専門演習において、他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、観光振興専門職としての総合力と課題解決力を身に付けて、観光振興と地域社会の発展のための課題に果敢に挑戦することができる。	3年間で学修した全教科の成果を統括し、他の学生との協働で「観光地研究」を実践することにより、観光振興専門職としての総合力と課題解決力を修得するため、「専門演習」を通年で配置し、演習形式により授業を行う。	専門演習	必修	4									※	※	※	※	

実習科目

１年次３Ｑ，２年次２Ｑ，４Ｑは臨地実務実習

教員採用の見通し

（年齢：歳）

専門分野等	番号	区分	職　位	氏　名	開設時年齢（１年目）	完成年度（３年目）	完成翌年度（４年目）	6年目	9年目	12年目	15年目	18年目	21年目	24年目
観光学社会学	1	専	教　授		66	68	69	71						
	3	専	准教授		48	50	51	53						
	3	専	教　授						56	59	62	65		
	4	専	助　教		34	36	37							
	4	専	講　師					39	42					
	4	専	准教授							45	48			
	4	専	教　授									51	54	57
	採用1	専	講　師	○○○○			37	39	42					
	採用1	専	准教授	○○○○						45	48	51		
	採用1	専	教　授	○○○○									54	57
	採用2	専	講　師	○×●×									37	40
地理学	2	専	准教授		51	53	54							
	2	専	教　授					57	60	63				
	4	専	助　教		31	33	34							
	4	専	講　師					36	39	42				
	4	専	准教授								45	48		
	4	専	教　授										51	54
	採用3	専	講　師	○●△▲			37	39	42					
	採用3	専	准教授	○●△▲						45	48	51		
	採用3	専	教　授	○●△▲									54	57
実務・交通	6	実専	教　授		61	63	64	65						
	採用4	実専	准教授、講師等	◎◎▽▽			40	42	45	48				
	採用4	実専	教　授	◎◎▽▽							51	54	57	60
	採用5	実専	准教授	◎▼▽▽					45	48	51	54		
	採用5	実専	教　授	◎▼▽▽									57	60
実務・宿泊	7	実専	准教授		68	70								
	採用6	実専	准教授、講師等	×◎▽▽			40	42	45	48				
	採用6	実専	教　授	×◎▽▽							51	54	57	60
	8	実専	准教授		51	53	54							
	8	実専	教　授					56	59	62	65			
	採用7	実専	准教授	×◎▽○							40	43	46	49
実・研	9	実(研)	教　授		72	74								
	採用8	実(研)	准教授、講師等	◎◎○▼			40	42	45	48				
	採用8	実(研)	**教授**	◎◎○▼							51	54	57	60
	採用9	実(研)	准教授	△◎○▼									46	49
	10	実(研)	教　授		72	74								
	採用10	実(研)	教　授	◎××▼			50	52	55	58	61	64		
	採用11	実(研)	準教授	△◎×▼									46	49
	11	実(研)	准教授		65	67	68							
	11	実(研)	教　授					70						
	採用12	実(研)	教　授	○●◎▲					53	56	59	62	65	
	採用13	実(研)	教　授	◎●×▲										53
実み・観光地域創生	12	実み	教　授		64	66								
	採用14	実み	准教授、講師等	◎◎◎◎			42	44	47	50				
	採用14	実み	教　授	◎◎◎◎							53	56	59	62
	13	実み	講　師		51	53	54							
	13	実み	准教授					56	59	62				
	採用15	実み	准教授	△▽▼▲							45	48	51	
	採用15	実み	教　授	△▽▼▲										54
教員合計					13	13	16	16	15	15	15	14	**15**	**15**

は臨地実務実習担当教員

資料65　専任教員年代別分布グラフ

専任教員の年代別分布グラフ

	年齢	学術系教員	実務系教員
開設時年齢	30～39	2	0
	40～49	1	0
	50～59	1	2
	60～69	1	4
	70～	0	2

	年齢	学術系教員	実務系教員
完成年度	30～39	2	0
	40～49	0	0
	50～59	2	2
	60～69	1	3
	70～	0	3

	年齢	学術系教員	実務系教員
完成年度翌年度	30～39	4	0
	40～49	0	4
	50～59	2	3
	60～69	1	2
	70～	0	0

	年齢	学術系教員	実務系教員
6年目	30～39	4	0
	40～49	0	4
	50～59	2	3
	60～69	0	1
	70～	1	1

	年齢	学術系教員	実務系教員
9年目	30～39	1	0
	40～49	3	5
	50～59	1	4
	60～69	1	0
	70～	0	0

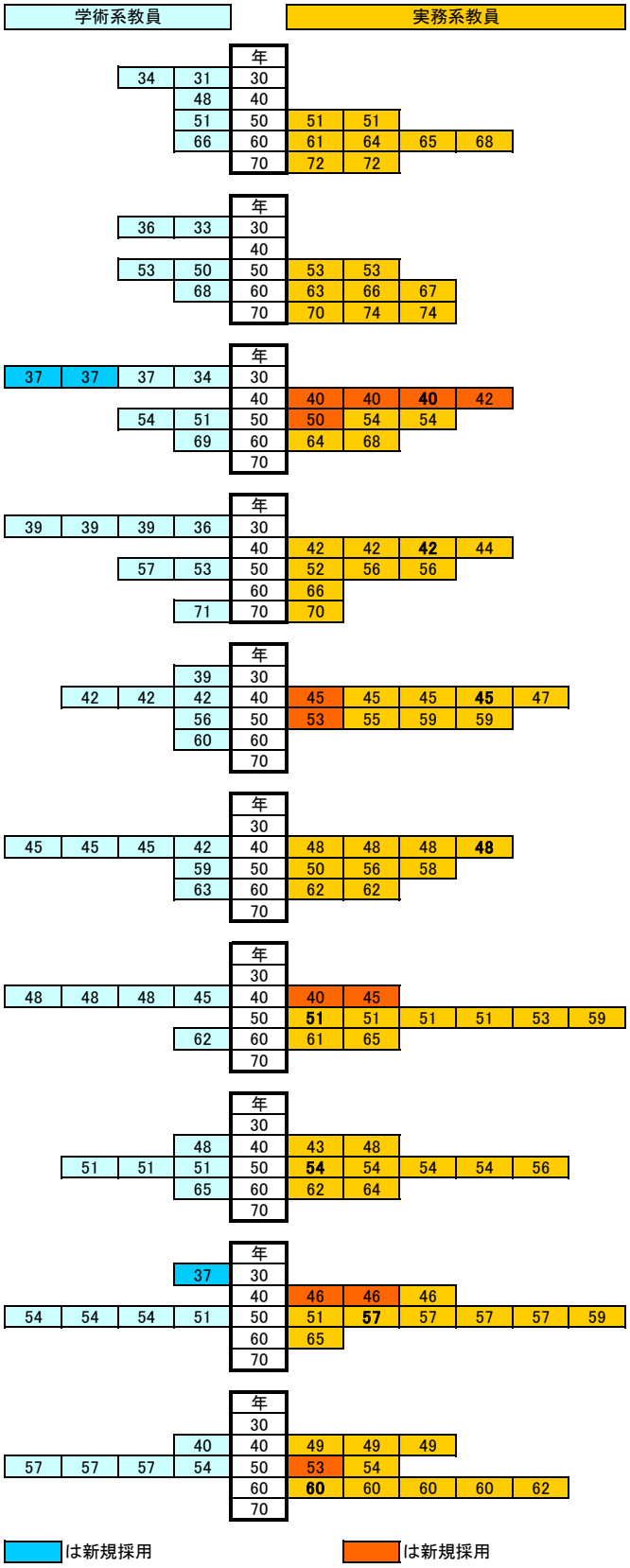
	年齢	学術系教員	実務系教員
12年目	30～39	0	0
	40～49	4	4
	50～59	1	3
	60～69	1	2
	70～	0	0

	年齢	学術系教員	実務系教員
15年目	30～39	0	0
	40～49	4	2
	50～59	0	6
	60～69	1	2
	70～	0	0

	年齢	学術系教員	実務系教員
18年目	30～39	0	0
	40～49	1	2
	50～59	3	5
	60～69	1	2
	70～	0	0

	年齢	学術系教員	実務系教員
21年目	30～39	1	0
	40～49	0	3
	50～59	4	6
	60～69	0	1
	70～	0	0

	年齢	学術系教員	実務系教員
24年目	30～39	0	0
	40～49	1	3
	50～59	4	2
	60～69	0	5
	70～	0	0



学　術　系　教　員

資料66　専任教員個人別時間割（1 教授　安村克己）

第１クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次		文化論Ａ①			
	２年次					
	３年次					
火	１年次		観光学概論Ａ①			
	２年次			観光行動論Ａ①		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次		文化論Ａ②			
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光学概論Ａ②			
	２年次			観光行動論Ａ②		
	３年次					

第１クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次		文化論Ａ③			
	２年次					
	３年次					
火	１年次		観光学概論Ａ③			
	２年次			観光行動論Ａ③		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次		文化論Ａ④			
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光学概論Ａ④			
	２年次			観光行動論Ａ④		
	３年次					

第１クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次		文化論Ａ⑤			
	２年次					
	３年次					
火	１年次		観光学概論Ａ⑤			
	２年次			観光行動論Ａ⑤		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次		文化論Ａ⑥			
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光学概論Ａ⑥			
	２年次			観光行動論Ａ⑥		
	３年次					

第１クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次		文化論Ａ⑦			
	２年次					
	３年次					
火	１年次		観光学概論Ａ⑦			
	２年次			観光行動論Ａ⑦		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次		文化論Ａ⑧			
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光学概論Ａ⑧			
	２年次			観光行動論Ａ⑧		
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第１クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次		文化論Ａ⑨			
	２年次					
	３年次					
火	１年次		観光学概論Ａ⑨			
	２年次			観光行動論Ａ⑨		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次		文化論Ａ⑩			
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光学概論Ａ⑩			
	２年次			観光行動論Ａ⑩		
	３年次					

第１クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次		文化論Ａ⑪			
	２年次					
	３年次					
火	１年次		観光学概論Ａ⑪			
	２年次			観光行動論Ａ⑪		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次		文化論Ａ⑫			
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光学概論Ａ⑫			
	２年次			観光行動論Ａ⑫		
	３年次					

第１クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次		文化論Ａ⑬			
	２年次					
	３年次					
火	１年次		観光学概論Ａ⑬			
	２年次			観光行動論Ａ⑬		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次		文化論Ａ⑭			
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光学概論Ａ⑭			
	２年次			観光行動論Ａ⑭		
	３年次					

第１クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次		文化論Ａ⑮			
	２年次					
	３年次					
火	１年次		観光学概論Ａ⑮			
	２年次			観光行動論Ａ⑮		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（1 教授　安村克己）

第２クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	1限 ９：００～１０：３０	2限 １０：４０～１２：１０	3限 １３：００～１４：３０	4限 １４：４０～１６：１０	5限 １６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次				観光社会文化論Ａ①	観光振興・地域創生論Ｂ①
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次				観光社会文化論Ａ②	観光振興・地域創生論Ｂ②
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	1限 ９：００～１０：３０	2限 １０：４０～１２：１０	3限 １３：００～１４：３０	4限 １４：４０～１６：１０	5限 １６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次				観光社会文化論Ａ③	観光振興・地域創生論Ｂ③
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次				観光社会文化論Ａ④	観光振興・地域創生論Ｂ④
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	1限 ９：００～１０：３０	2限 １０：４０～１２：１０	3限 １３：００～１４：３０	4限 １４：４０～１６：１０	5限 １６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次				観光社会文化論Ａ⑤	観光振興・地域創生論Ｂ⑤
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次				観光社会文化論Ａ⑥	観光振興・地域創生論Ｂ⑥
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	1限 ９：００～１０：３０	2限 １０：４０～１２：１０	3限 １３：００～１４：３０	4限 １４：４０～１６：１０	5限 １６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次				観光社会文化論Ａ⑦	観光振興・地域創生論Ｂ⑦
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次				観光社会文化論Ａ⑧	観光振興・地域創生論Ｂ⑧
	２年次					
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第２クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次				観光社会文化論Ａ⑨	観光振興・地域創生論Ｂ⑨
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次				観光社会文化論Ａ⑩	観光振興・地域創生論Ｂ⑩
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次				観光社会文化論Ａ⑪	観光振興・地域創生論Ｂ⑪
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次				観光社会文化論Ａ⑫	観光振興・地域創生論Ｂ⑫
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次				観光社会文化論Ａ⑬	観光振興・地域創生論Ｂ⑬
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次				観光社会文化論Ａ⑭	観光振興・地域創生論Ｂ⑭
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次				観光社会文化論Ａ⑮	観光振興・地域創生論Ｂ⑮
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（1 教授　安村克己）

第３クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次			観光行動論Ｂ①	国際観光論①	
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次			観光行動論Ｂ②	国際観光論②	
	３年次					

第３クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次			観光行動論Ｂ③	国際観光論③	
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次			観光行動論Ｂ④	国際観光論④	
	３年次					

第３クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次			観光行動論Ｂ⑤	国際観光論⑤	
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次			観光行動論Ｂ⑥	国際観光論⑥	
	３年次					

第３クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次			観光行動論Ｂ⑦	国際観光論⑦	
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次			観光行動論Ｂ⑧	国際観光論⑧	
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第３クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次			観光行動論Ｂ⑨	国際観光論⑨	
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次			観光行動論Ｂ⑩	国際観光論⑩	
	３年次					

第３クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次			観光行動論Ｂ⑪	国際観光論⑪	
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次			観光行動論Ｂ⑫	国際観光論⑫	
	３年次					

第３クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次			観光行動論Ｂ⑬	国際観光論⑬	
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次			観光行動論Ｂ⑭	国際観光論⑭	
	３年次					

第３クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次			観光行動論Ｂ⑮	国際観光論⑮	
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（1 教授　安村克己）

第４クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光振興・地域創生論Ａ①
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					観光振興・地域創生論Ａ②
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光振興・地域創生論Ａ③
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					観光振興・地域創生論Ａ④
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光振興・地域創生論Ａ⑤
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					観光振興・地域創生論Ａ⑥
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光振興・地域創生論Ａ⑦
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					観光振興・地域創生論Ａ⑧
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第４クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光振興・地域創生論Ａ⑨
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					観光振興・地域創生論Ａ⑩
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光振興・地域創生論Ａ⑪
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					観光振興・地域創生論Ａ⑫
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光振興・地域創生論Ａ⑬
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					観光振興・地域創生論Ａ⑭
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光振興・地域創生論Ａ⑮
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（2 准教授　吉田雄介）

第１クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習①		地域資源論Ａ①		地域資源論Ｂ①
	２年次				異文化理解①	
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(1)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次			地域資源論Ａ②		地域資源論Ｂ②
	２年次				異文化理解②	
	３年次					

第１クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習②		地域資源論Ａ③		地域資源論Ｂ③
	２年次				異文化理解③	
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(2)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次			地域資源論Ａ④		地域資源論Ｂ④
	２年次				異文化理解④	
	３年次					

第１クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習③		地域資源論Ａ⑤		地域資源論Ｂ⑤
	２年次				異文化理解⑤	
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(3)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次			地域資源論Ａ⑥		地域資源論Ｂ⑥
	２年次				異文化理解⑥	
	３年次					

第１クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習④		地域資源論Ａ⑦		地域資源論Ｂ⑦
	２年次				異文化理解⑦	
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(4)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次			地域資源論Ａ⑧		地域資源論Ｂ⑧
	２年次				異文化理解⑧	
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第１クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑤		地域資源論Ａ⑨		地域資源論Ｂ⑨
	２年次				異文化理解⑨	
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(5)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次			地域資源論Ａ⑩		地域資源論Ｂ⑩
	２年次				異文化理解⑩	
	３年次					

第１クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑥		地域資源論Ａ⑪		地域資源論Ｂ⑪
	２年次				異文化理解⑪	
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(6)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次			地域資源論Ａ⑫		地域資源論Ｂ⑫
	２年次				異文化理解⑫	
	３年次					

第１クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑦		地域資源論Ａ⑬		地域資源論Ｂ⑬
	２年次				異文化理解⑬	
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(7)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次			地域資源論Ａ⑭		地域資源論Ｂ⑭
	２年次				異文化理解⑭	
	３年次					

第１クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑧		地域資源論Ａ⑮		地域資源論Ｂ⑮
	２年次				異文化理解⑮	
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(8)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（2 准教授　吉田雄介）

第２クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			地理学Ａ①		
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑨	地域観光基礎実習①			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(9)			
木	１年次			地理学Ａ②		
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習②			
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			地理学Ａ③		
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑩	地域観光基礎実習③			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(10)			
木	１年次			地理学Ａ④		
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習④			
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			地理学Ａ⑤		
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑪	地域観光基礎実習⑤			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(11)			
木	１年次			地理学Ａ⑥		
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習⑥			
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			地理学Ａ⑦		
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑫	地域観光基礎実習⑦			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(12)			
木	１年次			地理学Ａ⑧		
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習⑧			
	２年次					
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第２クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			地理学Ａ⑨		
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑬	地域観光基礎実習⑨			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(13)			
木	１年次			地理学Ａ⑩		
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習⑩			
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			地理学Ａ⑪		
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑭	地域観光基礎実習⑪			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(14)			
木	１年次			地理学Ａ⑫		
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習⑫			
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			地理学Ａ⑬		
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑮	地域観光基礎実習⑬			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(15)			
木	１年次			地理学Ａ⑭		
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習⑭			
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			地理学Ａ⑮		
	２年次					
	３年次					
火	１年次		地域観光基礎実習⑮			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(16)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（2 准教授　吉田雄介）

第３クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(17)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(18)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(19)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(20)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第３クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(21)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(22)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(23)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(24)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（2 准教授　吉田雄介）

第４クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(25)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(26)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(27)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(28)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第４クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(29)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(30)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（3 准教授　田保顕）

第１クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限 ９：００～１０：３０	２限 １０：４０～１２：１０	３限 １３：００～１４：３０	４限 １４：４０～１６：１０	５限 １６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習①				
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(1)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限 ９：００～１０：３０	２限 １０：４０～１２：１０	３限 １３：００～１４：３０	４限 １４：４０～１６：１０	５限 １６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習②				
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(2)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限 ９：００～１０：３０	２限 １０：４０～１２：１０	３限 １３：００～１４：３０	４限 １４：４０～１６：１０	５限 １６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習③				
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(3)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限 ９：００～１０：３０	２限 １０：４０～１２：１０	３限 １３：００～１４：３０	４限 １４：４０～１６：１０	５限 １６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習④				
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(4)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第１クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑤				
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(5)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑥				
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(6)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑦				
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(7)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑧				
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(8)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（3 准教授　田保顕）

第２クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次		文化論Ｂ①			
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑨	地域観光基礎実習①			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(9)			
木	１年次		文化論Ｂ②			
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習②			
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次		文化論Ｂ③			
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑩	地域観光基礎実習③			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(10)			
木	１年次		文化論Ｂ④			
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習④			
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次		文化論Ｂ⑤			
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑪	地域観光基礎実習⑤			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(11)			
木	１年次		文化論Ｂ⑥			
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習⑥			
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次		文化論Ｂ⑦			
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑫	地域観光基礎実習⑦			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(12)			
木	１年次		文化論Ｂ⑧			
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習⑧			
	２年次					
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第２クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次		文化論Ｂ⑨			
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑬	地域観光基礎実習⑨			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(13)			
木	１年次		文化論Ｂ⑩			
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習⑩			
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次		文化論Ｂ⑪			
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑭	地域観光基礎実習⑪			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(14)			
木	１年次		文化論Ｂ⑫			
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習⑫			
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次		文化論Ｂ⑬			
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑮	地域観光基礎実習⑬			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(15)			
木	１年次		文化論Ｂ⑭			
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習⑭			
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次		文化論Ｂ⑮			
	２年次					
	３年次					
火	１年次		地域観光基礎実習⑮			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(16)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（3 准教授　田保顕）

第３クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(17)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(18)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(19)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(20)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第３クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(21)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(22)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(23)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(24)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（3 准教授　田保顕）

第４クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					観光社会文化論Ｂ①
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(25)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					観光社会文化論Ｂ②
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					観光社会文化論Ｂ③
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(26)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					観光社会文化論Ｂ④
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					観光社会文化論Ｂ⑤
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(27)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					観光社会文化論Ｂ⑥
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					観光社会文化論Ｂ⑦
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(28)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					観光社会文化論Ｂ⑧
	２年次					
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第４クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					観光社会文化論Ｂ⑨
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(29)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					観光社会文化論Ｂ⑩
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					観光社会文化論Ｂ⑪
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(30)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					観光社会文化論Ｂ⑫
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					観光社会文化論Ｂ⑬
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					観光社会文化論Ｂ⑭
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					観光社会文化論Ｂ⑮
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（4 助教　平侑子）

第１クォーター　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	観光文化施設論①		観光メディア論①		
	３年次					
火	１年次	基礎演習①				
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ｂ①
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(1)			
木	１年次					
	２年次	観光文化施設論②		観光メディア論②		
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ｂ②

第１クォーター　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	観光文化施設論③		観光メディア論③		
	３年次					
火	１年次	基礎演習②				
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ｂ③
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(2)			
木	１年次					
	２年次	観光文化施設論④		観光メディア論④		
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ｂ④

第１クォーター　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	観光文化施設論⑤		観光メディア論⑤		
	３年次					
火	１年次	基礎演習③				
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ｂ⑤
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(3)			
木	１年次					
	２年次	観光文化施設論⑥		観光メディア論⑥		
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ｂ⑥

第１クォーター　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	観光文化施設論⑦		観光メディア論⑦		
	３年次					
火	１年次	基礎演習④				
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ｂ⑦
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(4)			
木	１年次					
	２年次	観光文化施設論⑧		観光メディア論⑧		
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ｂ⑧

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第１クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	観光文化施設論⑨		観光メディア論⑨		
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑤				
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ｂ⑨
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(5)			
木	１年次					
	２年次	観光文化施設論⑩		観光メディア論⑩		
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ｂ⑩

第１クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	観光文化施設論⑪		観光メディア論⑪		
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑥				
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ｂ⑪
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(6)			
木	１年次					
	２年次	観光文化施設論⑫		観光メディア論⑫		
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ｂ⑫

第１クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	観光文化施設論⑬		観光メディア論⑬		
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑦				
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ｂ⑬
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(7)			
木	１年次					
	２年次	観光文化施設論⑭		観光メディア論⑭		
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ｂ⑭

第１クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	観光文化施設論⑮		観光メディア論⑮		
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑧				
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ｂ⑮
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(8)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（4 助教　平侑子）

第２クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限 ９：００～１０：３０	２限 １０：４０～１２：１０	３限 １３：００～１４：３０	４限 １４：４０～１６：１０	５限 １６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑨	地域観光基礎実習①			
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ａ①
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(9)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習②			
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ａ②

第２クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限 ９：００～１０：３０	２限 １０：４０～１２：１０	３限 １３：００～１４：３０	４限 １４：４０～１６：１０	５限 １６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑩	地域観光基礎実習③			
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ａ③
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(10)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習④			
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ａ④

第２クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限 ９：００～１０：３０	２限 １０：４０～１２：１０	３限 １３：００～１４：３０	４限 １４：４０～１６：１０	５限 １６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑪	地域観光基礎実習⑤			
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ａ⑤
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(11)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習⑥			
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ａ⑥

第２クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限 ９：００～１０：３０	２限 １０：４０～１２：１０	３限 １３：００～１４：３０	４限 １４：４０～１６：１０	５限 １６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑫	地域観光基礎実習⑦			
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ａ⑦
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(12)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習⑧			
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ａ⑧

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第２クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑬	地域観光基礎実習⑨			
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ａ⑨
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(13)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習⑩			
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ａ⑩

第２クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑭	地域観光基礎実習⑪			
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ａ⑪
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(14)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習⑫			
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ａ⑫

第２クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑮	地域観光基礎実習⑬			
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ａ⑬
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(15)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		地域観光基礎実習⑭			
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ａ⑭

第２クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次		地域観光基礎実習⑮			
	２年次					
	３年次					メディアコンテンツ実習Ａ⑮
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(16)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（4 助教　平侑子）

第３クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(17)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(18)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(19)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(20)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第３クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(21)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(22)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(23)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(24)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（4 助教　平侑子）

第４クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(25)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(26)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(27)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(28)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第４クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(29)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(30)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（5 助教　谷﨑友紀）

第１クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			地理学Ｂ①		
	２年次				信仰の歴史①	
	３年次					
火	１年次	基礎演習①				
	２年次					
	３年次				マップデザイン実習Ａ①	
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(1)			
木	１年次			地理学Ｂ②		
	２年次				信仰の歴史②	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次				マップデザイン実習Ａ②	

第１クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			地理学Ｂ③		
	２年次				信仰の歴史③	
	３年次					
火	１年次	基礎演習②				
	２年次					
	３年次				マップデザイン実習Ａ③	
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(2)			
木	１年次			地理学Ｂ④		
	２年次				信仰の歴史④	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次				マップデザイン実習Ａ④	

第１クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			地理学Ｂ⑤		
	２年次				信仰の歴史⑤	
	３年次					
火	１年次	基礎演習③				
	２年次					
	３年次				マップデザイン実習Ａ⑤	
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(3)			
木	１年次			地理学Ｂ⑥		
	２年次				信仰の歴史⑥	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次				マップデザイン実習Ａ⑥	

第１クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			地理学Ｂ⑦		
	２年次				信仰の歴史⑦	
	３年次					
火	１年次	基礎演習④				
	２年次					
	３年次				マップデザイン実習Ａ⑦	
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(4)			
木	１年次			地理学Ｂ⑧		
	２年次				信仰の歴史⑧	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次				マップデザイン実習Ａ⑧	

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第１クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			地理学Ｂ⑨		
	２年次				信仰の歴史⑨	
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑤				
	２年次					
	３年次				マップデザイン実習Ａ⑨	
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(5)			
木	１年次			地理学Ｂ⑩		
	２年次				信仰の歴史⑩	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次				マップデザイン実習Ａ⑩	

第１クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			地理学Ｂ⑪		
	２年次				信仰の歴史⑪	
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑥				
	２年次					
	３年次				マップデザイン実習Ａ⑪	
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(6)			
木	１年次			地理学Ｂ⑫		
	２年次				信仰の歴史⑫	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次				マップデザイン実習Ａ⑫	

第１クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			地理学Ｂ⑬		
	２年次				信仰の歴史⑬	
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑦				
	２年次					
	３年次				マップデザイン実習Ａ⑬	
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(7)			
木	１年次			地理学Ｂ⑭		
	２年次				信仰の歴史⑭	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次				マップデザイン実習Ａ⑭	

第１クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			地理学Ｂ⑮		
	２年次				信仰の歴史⑮	
	３年次					
火	１年次	基礎演習⑧				
	２年次					
	３年次				マップデザイン実習Ａ⑮	
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(8)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（5 助教　谷﨑友紀）

第２クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次		マップデザイン実習Ｂ①			
火	１年次	基礎演習⑨	地域観光基礎実習①			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(9)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次		マップデザイン実習Ｂ②			
金	１年次		地域観光基礎実習②			
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次		マップデザイン実習Ｂ③			
火	１年次	基礎演習⑩	地域観光基礎実習③			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(10)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次		マップデザイン実習Ｂ④			
金	１年次		地域観光基礎実習④			
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次		マップデザイン実習Ｂ⑤			
火	１年次	基礎演習⑪	地域観光基礎実習⑤			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(11)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次		マップデザイン実習Ｂ⑥			
金	１年次		地域観光基礎実習⑥			
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次		マップデザイン実習Ｂ⑦			
火	１年次	基礎演習⑫	地域観光基礎実習⑦			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(12)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次		マップデザイン実習Ｂ⑧			
金	１年次		地域観光基礎実習⑧			
	２年次					
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第２クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次		マップデザイン実習Ｂ⑨			
火	１年次	基礎演習⑬	地域観光基礎実習⑨			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(13)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次		マップデザイン実習Ｂ⑩			
金	１年次		地域観光基礎実習⑩			
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次		マップデザイン実習Ｂ⑪			
火	１年次	基礎演習⑭	地域観光基礎実習⑪			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(14)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次		マップデザイン実習Ｂ⑫			
金	１年次		地域観光基礎実習⑫			
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次		マップデザイン実習Ｂ⑬			
火	１年次	基礎演習⑮	地域観光基礎実習⑬			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(15)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次		マップデザイン実習Ｂ⑭			
金	１年次		地域観光基礎実習⑭			
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次		マップデザイン実習Ｂ⑮			
火	１年次		地域観光基礎実習⑮			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(16)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（5 助教　谷﨑友紀）

第３クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(17)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(18)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(19)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(20)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第３クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(21)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(22)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(23)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(24)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（5 助教　谷﨑友紀）

第４クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(25)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(26)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(27)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(28)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第４クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(29)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(30)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

実　務　系　教　員

資料66　専任教員個人別時間割（6 教授　安本幸博）

第１クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光リスクマネジメントB①
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論①				
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(1)			
木	１年次					観光リスクマネジメントB②
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論②				

第１クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光リスクマネジメントB③
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論③				
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(2)			
木	１年次					観光リスクマネジメントB④
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論④				

第１クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光リスクマネジメントB⑤
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論⑤				
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(3)			
木	１年次					観光リスクマネジメントB⑥
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論⑥				

第１クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光リスクマネジメントB⑦
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論⑦				
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(4)			
木	１年次					観光リスクマネジメントB⑧
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論⑧				

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第１クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光リスクマネジメントB⑨
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					観光実務基礎論①
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(5)			
木	１年次					観光リスクマネジメントB⑩
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					観光実務基礎論②
	３年次					

第１クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光リスクマネジメントB⑪
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					観光実務基礎論③
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(6)			
木	１年次					観光リスクマネジメントB⑫
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					観光実務基礎論④
	３年次					

第１クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光リスクマネジメントB⑬
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					観光実務基礎論⑤
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(7)			
木	１年次					観光リスクマネジメントB⑭
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					観光実務基礎論⑥
	３年次					

第１クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光リスクマネジメントB⑮
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					観光実務基礎論⑦
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(8)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					観光実務基礎論⑧
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（6 教授　安本幸博）

第２クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(9)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）①		
	３年次					
火	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(10)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
土	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					

第２クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）②		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(11)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
土	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					

第２クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）③		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(12)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第２クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）④		
	３年次					
火	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(13)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
土	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					

第２クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）⑤		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(14)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
土	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					

第２クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）⑥		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(15)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(16)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（6 教授　安本幸博）

第３クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論①				
	２年次				観光実務発展論①	
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論②				
	２年次					
	３年次		専門演習(17)			
木	１年次					
	２年次				観光実務発展論②	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論③				
	２年次				観光実務発展論③	
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論④				
	２年次					
	３年次		専門演習(18)			
木	１年次					
	２年次				観光実務発展論④	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑤				
	２年次				観光実務発展論⑤	
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑥				
	２年次					
	３年次		専門演習(19)			
木	１年次					
	２年次				観光実務発展論⑥	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑦				
	２年次				観光実務発展論⑦	
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑧				
	２年次					
	３年次		専門演習(20)			
木	１年次					
	２年次				観光実務発展論⑧	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第３クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次		観光実務応用論①			
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(21)			
木	１年次					
	２年次		観光実務応用論②			
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			臨地実務実習Ⅰ（学内指導）①		
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次		観光実務応用論③			
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(22)			
木	１年次					
	２年次		観光実務応用論④			
	３年次					
金	１年次	臨地実務実習Ⅰ（巡回指導日）				
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	臨地実務実習Ⅰ（巡回指導日）				
	２年次					
	３年次					
火	１年次			臨地実務実習Ⅰ（学内指導）②		
	２年次		観光実務応用論⑤			
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(23)			
木	１年次					
	２年次		観光実務応用論⑥			
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			臨地実務実習Ⅰ（学内指導）③		
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次		観光実務応用論⑦			
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(24)			
木	１年次					
	２年次		観光実務応用論⑧			
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（6 教授　安本幸博）

第４クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論①			
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(25)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論②			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）①		
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論③			
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(26)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論④			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
日	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑤			
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）②		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(27)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑥			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑦			
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）③		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(28)			
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑧			
	２年次					
	３年次					

は必修科目　　は選択科目　　は臨地実務実習

第４クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
日	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）		
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）④		
	３年次		専門演習(29)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）⑤		
	３年次		専門演習(30)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）⑥		
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（7 准教授　小島英夫）

第１クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(1)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(2)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(3)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(4)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(5)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(6)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(7)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(8)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（7 准教授　小島英夫）

第２クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(9)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）①		
	３年次		専門演習(10)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）②		
	３年次		専門演習(11)			
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
土	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					

第２クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）③		
	３年次		専門演習(12)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）④		
	３年次		専門演習(13)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
日	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）⑤		
	３年次		専門演習(14)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）⑥		
	３年次		専門演習(15)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(16)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（7 准教授　小島英夫）

第３クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論①				
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論②				
	２年次					
	３年次		専門演習(17)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論③				
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論④				
	２年次					
	３年次		専門演習(18)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑤				
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑥				
	２年次					
	３年次		専門演習(19)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑦				
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑧				
	２年次					
	３年次		専門演習(20)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(21)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅰ（学内指導）①		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(22)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次	臨地実務実習Ⅰ（巡回指導日）				
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	臨地実務実習Ⅰ（巡回指導日）				
	２年次					
	３年次					
火	１年次	臨地実務実習Ⅰ（巡回指導日）				
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅰ（学内指導）②		
	３年次		専門演習(23)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			臨地実務実習Ⅰ（学内指導）③		
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(24)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（7 准教授　小島英夫）

第４クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論①			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(25)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論②			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論③			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）①		
	３年次		専門演習(26)			
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論④			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
日	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑤			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）②		
	３年次		専門演習(27)			
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑥			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑦			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）③		
	３年次		専門演習(28)			
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑧			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）④		
	３年次		専門演習(29)			
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）⑤		
	３年次		専門演習(30)			
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）⑥		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（8 准教授　石床渉）

第１クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論①				
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(1)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論②				

第１クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論③				
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(2)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論④				

第１クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論⑤				
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(3)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論⑥				

第１クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論⑦				
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(4)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論⑧				

第１クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					観光実務基礎論①
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(5)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					観光実務基礎論②
	３年次					

第１クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					観光実務基礎論③
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(6)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					観光実務基礎論④
	３年次					

第１クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					観光実務基礎論⑤
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(7)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					観光実務基礎論⑥
	３年次					

第１クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					観光実務基礎論⑦
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(8)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					観光実務基礎論⑧
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（8 准教授　石床渉）

第２クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	ホスピタリティ実務実習B①				
	２年次					
	３年次					宿泊産業論①
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(9)			
木	１年次	ホスピタリティ実務実習B②				
	２年次					
	３年次					宿泊産業論②
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	ホスピタリティ実務実習B③				
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）①		
	３年次					宿泊産業論③
火	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(10)			
木	１年次	ホスピタリティ実務実習B④				
	２年次					
	３年次					宿泊産業論④
金	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					

第２クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	ホスピタリティ実務実習B⑤				
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）②		
	３年次					宿泊産業論⑤
火	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(11)			
木	１年次	ホスピタリティ実務実習B⑥				
	２年次					
	３年次					宿泊産業論⑥
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	ホスピタリティ実務実習B⑦				
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）③		
	３年次					宿泊産業論⑦
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(12)			
木	１年次	ホスピタリティ実務実習B⑧				
	２年次					
	３年次					宿泊産業論⑧
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	ホスピタリティ実務実習B⑨				
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）④		
	３年次					宿泊産業論⑨
火	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(13)			
木	１年次	ホスピタリティ実務実習B⑩				
	２年次					
	３年次					宿泊産業論⑩
金	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					

第２クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	ホスピタリティ実務実習B⑪				
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）⑤		
	３年次					宿泊産業論⑪
火	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(14)			
木	１年次	ホスピタリティ実務実習B⑫				
	２年次					
	３年次					宿泊産業論⑫
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	ホスピタリティ実務実習B⑬				
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）⑥		
	３年次					宿泊産業論⑬
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(15)			
木	１年次	ホスピタリティ実務実習B⑭				
	２年次					
	３年次					宿泊産業論⑭
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	ホスピタリティ実務実習B⑮				
	２年次					
	３年次					宿泊産業論⑮
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(16)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（8 准教授　石床渉）

第３クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論①				
	２年次				観光実務発展論①	
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論②				
	２年次					
	３年次		専門演習(17)			
木	１年次					
	２年次				観光実務発展論②	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論③				
	２年次				観光実務発展論③	
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論④				
	２年次					
	３年次		専門演習(18)			
木	１年次					
	２年次				観光実務発展論④	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑤				
	２年次				観光実務発展論⑤	
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑥				
	２年次					
	３年次		専門演習(19)			
木	１年次					
	２年次				観光実務発展論⑥	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑦				
	２年次				観光実務発展論⑦	
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑧				
	２年次					
	３年次		専門演習(20)			
木	１年次					
	２年次				観光実務発展論⑧	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次		観光実務応用論①			
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(21)			
木	１年次					
	２年次		観光実務応用論②			
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			臨地実務実習Ⅰ（学内指導）①		
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次		観光実務応用論③			
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(22)			
木	１年次					
	２年次		観光実務応用論④			
	３年次					
金	１年次	臨地実務実習Ⅰ（巡回指導日）				
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	臨地実務実習Ⅰ（巡回指導日）				
	２年次					
	３年次					
火	１年次			臨地実務実習Ⅰ（学内指導）②		
	２年次		観光実務応用論⑤			
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(23)			
木	１年次					
	２年次		観光実務応用論⑥			
	３年次					
金	１年次	臨地実務実習Ⅰ（巡回指導日）				
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次			臨地実務実習Ⅰ（学内指導）③		
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次		観光実務応用論⑦			
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(24)			
木	１年次					
	２年次		観光実務応用論⑧			
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（8 准教授　石床渉）

第４クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論①			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(25)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論②			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論③			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）①		
	３年次		専門演習(26)			
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論④			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑤			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）②		
	３年次		専門演習(27)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑥			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑦			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）③		
	３年次		専門演習(28)			
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑧			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）④		
	３年次		専門演習(29)			
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）⑤		
	３年次		専門演習(30)			
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）⑥		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（9 教授　青木義英）

第１クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次				ホスピタリティマネジメント論A①	
	２年次		キャリアデザイン論B①			
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次				ホスピタリティマネジメント論A②	
	２年次		キャリアデザイン論B②			
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次				ホスピタリティマネジメント論A③	
	２年次		キャリアデザイン論B③			
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次				ホスピタリティマネジメント論A④	
	２年次		キャリアデザイン論B④			
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次				ホスピタリティマネジメント論A⑤	
	２年次		キャリアデザイン論B⑤			
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次				ホスピタリティマネジメント論A⑥	
	２年次		キャリアデザイン論B⑥			
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次				ホスピタリティマネジメント論A⑦	
	２年次		キャリアデザイン論B⑦			
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次				ホスピタリティマネジメント論A⑧	
	２年次		キャリアデザイン論B⑧			
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次				ホスピタリティマネジメント論A⑨	
	２年次		キャリアデザイン論B⑨			
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次				ホスピタリティマネジメント論A⑩	
	２年次		キャリアデザイン論B⑩			
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次				ホスピタリティマネジメント論A⑪	
	２年次		キャリアデザイン論B⑪			
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次				ホスピタリティマネジメント論A⑫	
	２年次		キャリアデザイン論B⑫			
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次				ホスピタリティマネジメント論A⑬	
	２年次		キャリアデザイン論B⑬			
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次				ホスピタリティマネジメント論A⑭	
	２年次		キャリアデザイン論B⑭			
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次				ホスピタリティマネジメント論A⑮	
	２年次		キャリアデザイン論B⑮			
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（9 教授　青木義英）

第２クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光リスクマネジメントA①
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					観光リスクマネジメントA②
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光リスクマネジメントA③
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）①		
	３年次					
火	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					観光リスクマネジメントA④
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
土	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					

第２クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光リスクマネジメントA⑤
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）②		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					観光リスクマネジメントA⑥
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光リスクマネジメントA⑦
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）③		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					観光リスクマネジメントA⑧
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光リスクマネジメントA⑨
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）④		
	３年次					
火	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					観光リスクマネジメントA⑩
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
土	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					

第２クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光リスクマネジメントA⑪
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）⑤		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					観光リスクマネジメントA⑫
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光リスクマネジメントA⑬
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）⑥		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					観光リスクマネジメントA⑭
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					観光リスクマネジメントA⑮
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（9 教授　青木義英）

第３クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			キャリアデザイン論Ａ①		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次			キャリアデザイン論Ａ②		
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			キャリアデザイン論Ａ③		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次			キャリアデザイン論Ａ④		
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			キャリアデザイン論Ａ⑤		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次			キャリアデザイン論Ａ⑥		
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			キャリアデザイン論Ａ⑦		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次			キャリアデザイン論Ａ⑧		
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			キャリアデザイン論Ａ⑨		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次			キャリアデザイン論Ａ⑩		
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			キャリアデザイン論Ａ⑪		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次			キャリアデザイン論Ａ⑫		
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			キャリアデザイン論Ａ⑬		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次			キャリアデザイン論Ａ⑭		
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			キャリアデザイン論Ａ⑮		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（9 教授　青木義英）

第４クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）①		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）②		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）③		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）④		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）⑤		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）⑥		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（10 教授　藤野公孝）

第１クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次				観光事業論Ａ①	
	２年次	観光政策論Ｂ①				
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(1)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次				観光事業論Ａ②	
	２年次	観光政策論Ｂ②				
	３年次					

第１クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次				観光事業論Ａ③	
	２年次	観光政策論Ｂ③				
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(2)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次				観光事業論Ａ④	
	２年次	観光政策論Ｂ④				
	３年次					

第１クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次				観光事業論Ａ⑤	
	２年次	観光政策論Ｂ⑤				
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(3)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次				観光事業論Ａ⑥	
	２年次	観光政策論Ｂ⑥				
	３年次					

第１クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次				観光事業論Ａ⑦	
	２年次	観光政策論Ｂ⑦				
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(4)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次				観光事業論Ａ⑧	
	２年次	観光政策論Ｂ⑧				
	３年次					

第１クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次				観光事業論Ａ⑨	
	２年次	観光政策論Ｂ⑨				
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(5)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次				観光事業論Ａ⑩	
	２年次	観光政策論Ｂ⑩				
	３年次					

第１クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次				観光事業論Ａ⑪	
	２年次	観光政策論Ｂ⑪				
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(6)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次				観光事業論Ａ⑫	
	２年次	観光政策論Ｂ⑫				
	３年次					

第１クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次				観光事業論Ａ⑬	
	２年次	観光政策論Ｂ⑬				
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(7)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次				観光事業論Ａ⑭	
	２年次	観光政策論Ｂ⑭				
	３年次					

第１クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次				観光事業論Ａ⑮	
	２年次	観光政策論Ｂ⑮				
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(8)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66 専任教員個人別時間割（10 教授　藤野公孝）

第２クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次			観光事業論Ｂ①		
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(9)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次			観光事業論Ｂ②		
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次			観光事業論Ｂ③		
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(10)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次			観光事業論Ｂ④		
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次			観光事業論Ｂ⑤		
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(11)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次			観光事業論Ｂ⑥		
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次			観光事業論Ｂ⑦		
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(12)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次			観光事業論Ｂ⑧		
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次			観光事業論Ｂ⑨		
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(13)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次			観光事業論Ｂ⑩		
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次			観光事業論Ｂ⑪		
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(14)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次			観光事業論Ｂ⑫		
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次			観光事業論Ｂ⑬		
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(15)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次			観光事業論Ｂ⑭		
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次			観光事業論Ｂ⑮		
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(16)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66 専任教員個人別時間割（10 教授　藤野公孝）

第３クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次		観光政策論Ａ①			
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(17)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次		観光政策論Ａ②			
	３年次					

第３クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次		観光政策論Ａ③			
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(18)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次		観光政策論Ａ④			
	３年次					

第３クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次		観光政策論Ａ⑤			
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(19)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次		観光政策論Ａ⑥			
	３年次					

第３クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次		観光政策論Ａ⑦			
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(20)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次		観光政策論Ａ⑧			
	３年次					

第３クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次		観光政策論Ａ⑨			
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(21)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次		観光政策論Ａ⑩			
	３年次					

第３クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次		観光政策論Ａ⑪			
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(22)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次		観光政策論Ａ⑫			
	３年次					

第３クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次		観光政策論Ａ⑬			
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(23)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次		観光政策論Ａ⑭			
	３年次					

第３クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次		観光政策論Ａ⑮			
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(24)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（10 教授　藤野公孝）

第４クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(25)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(26)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(27)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(28)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(29)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(30)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（11　准教授　堀田明美）

第１クォーター（第１週）

曜日	年次生	1限 ９：００～１０：３０	2限 １０：４０～１２：１０	3限 １３：００～１４：３０	4限 １４：４０～１６：１０	5限 １６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					ビジネスコミュニケーション①
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(1)			
木	１年次					
	２年次		キャリアデザイン論Ｂ②			ビジネスコミュニケーション②
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター（第２週）

曜日	年次生	1限 ９：００～１０：３０	2限 １０：４０～１２：１０	3限 １３：００～１４：３０	4限 １４：４０～１６：１０	5限 １６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					ビジネスコミュニケーション③
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(2)			
木	１年次					
	２年次					ビジネスコミュニケーション④
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター（第３週）

曜日	年次生	1限 ９：００～１０：３０	2限 １０：４０～１２：１０	3限 １３：００～１４：３０	4限 １４：４０～１６：１０	5限 １６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					ビジネスコミュニケーション⑤
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(3)			
木	１年次					
	２年次					ビジネスコミュニケーション⑥
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター（第４週）

曜日	年次生	1限 ９：００～１０：３０	2限 １０：４０～１２：１０	3限 １３：００～１４：３０	4限 １４：４０～１６：１０	5限 １６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					ビジネスコミュニケーション⑦
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(4)			
木	１年次					
	２年次		キャリアデザイン論Ｂ⑧			ビジネスコミュニケーション⑧
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					ビジネスコミュニケーション⑨
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(5)			
木	１年次					
	２年次					ビジネスコミュニケーション⑩
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					ビジネスコミュニケーション⑪
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(6)			
木	１年次					
	２年次					ビジネスコミュニケーション⑫
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					ビジネスコミュニケーション⑬
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(7)			
木	１年次					
	２年次					ビジネスコミュニケーション⑭
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次		キャリアデザイン論Ｂ⑮			ビジネスコミュニケーション⑮
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(8)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（11　准教授　堀田明美）

第２クォーター(第１週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	ホスピタリティ実務実習Ａ①			ホスピタリティマネジメント論Ｂ①	
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(9)			
木	１年次	ホスピタリティ実務実習Ａ②			ホスピタリティマネジメント論Ｂ②	
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター(第２週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	ホスピタリティ実務実習Ａ③			ホスピタリティマネジメント論Ｂ③	
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）①		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(10)			
木	１年次	ホスピタリティ実務実習Ａ④			ホスピタリティマネジメント論Ｂ④	
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
土	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					

第２クォーター(第３週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	ホスピタリティ実務実習Ａ⑤			ホスピタリティマネジメント論Ｂ⑤	
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）②		
	３年次					
火	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(11)			
木	１年次	ホスピタリティ実務実習Ａ⑥			ホスピタリティマネジメント論Ｂ⑥	
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					

第２クォーター(第４週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	ホスピタリティ実務実習Ａ⑦			ホスピタリティマネジメント論Ｂ⑦	
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）③		
	３年次					
火	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(12)			
木	１年次	ホスピタリティ実務実習Ａ⑧			ホスピタリティマネジメント論Ｂ⑧	
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター(第５週)

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	ホスピタリティ実務実習Ａ⑨			ホスピタリティマネジメント論Ｂ⑨	
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）④		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(13)			
木	１年次	ホスピタリティ実務実習Ａ⑩			ホスピタリティマネジメント論Ｂ⑩	
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
土	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					

第２クォーター(第６週)

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	ホスピタリティ実務実習Ａ⑪			ホスピタリティマネジメント論Ｂ⑪	
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）⑤		
	３年次					
火	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(14)			
木	１年次	ホスピタリティ実務実習Ａ⑫			ホスピタリティマネジメント論Ｂ⑫	
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					

第２クォーター(第７週)

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	ホスピタリティ実務実習Ａ⑬			ホスピタリティマネジメント論Ｂ⑬	
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）⑥		
	３年次					
火	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(15)			
木	１年次	ホスピタリティ実務実習Ａ⑭			ホスピタリティマネジメント論Ｂ⑭	
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター(第８週)

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	ホスピタリティ実務実習Ａ⑮			ホスピタリティマネジメント論Ｂ⑮	
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(16)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（11　准教授　堀田明美）

第３クォーター（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論①				
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論②				
	２年次					
	３年次		専門演習(17)			
木	１年次					
	２年次			キャリアデザイン論Ａ②		
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論③				
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論④				
	２年次					
	３年次		専門演習(18)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑤				
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑥				
	２年次					
	３年次		専門演習(19)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑦				
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑧				
	２年次					
	３年次		専門演習(20)			
木	１年次					
	２年次			キャリアデザイン論Ａ⑧		
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター（第５週）

曜日	年次生	１限 ９：００～１０：３０	２限 １０：４０～１２：１０	３限 １３：００～１４：３０	４限 １４：４０～１６：１０	５限 １６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(21)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					
土	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター（第６週）

曜日	年次生	１限 ９：００～１０：３０	２限 １０：４０～１２：１０	３限 １３：００～１４：３０	４限 １４：４０～１６：１０	５限 １６：２０～１７：５０
月	１年次				臨地実務実習Ⅰ（学内指導)①	
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(22)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次	臨地実務実習Ⅰ（巡回指導日）				
	２年次					
	３年次					

第３クォーター（第７週）

曜日	年次生	１限 ９：００～１０：３０	２限 １０：４０～１２：１０	３限 １３：００～１４：３０	４限 １４：４０～１６：１０	５限 １６：２０～１７：５０
月	１年次				臨地実務実習Ⅰ（学内指導）②	
	２年次					
	３年次					
火	１年次	臨地実務実習Ⅰ（巡回指導日）				
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(23)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次	臨地実務実習Ⅰ（巡回指導日）				
	２年次					
	３年次					

第３クォーター（第８週）

曜日	年次生	１限 ９：００～１０：３０	２限 １０：４０～１２：１０	３限 １３：００～１４：３０	４限 １４：４０～１６：１０	５限 １６：２０～１７：５０
月	１年次				臨地実務実習Ⅰ（学内指導）③	
	２年次			キャリアデザイン論A⑮		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(24)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（11　准教授　堀田明美）

第４クォーター(第１週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論①			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(25)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論②			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター(第２週)

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）①		
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論③			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(26)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論④			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター（第３週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
日	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑤			
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）		
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）②		
	３年次		専門演習(27)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑥			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター（第４週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑦			
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）		
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）③		
	３年次		専門演習(28)			
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑧			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
日	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）④		
	３年次		専門演習(29)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）⑤		
	３年次					
火	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）		
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(30)			
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）⑥		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（12　教授　古川康造）

第１クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第１クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（12　教授　古川康造）

第２クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次				地域創生事業論①	
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次				地域創生事業論②	

第２クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）①		
	３年次				地域創生事業論③	
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次				地域創生事業論④	

第２クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）②		
	３年次				地域創生事業論⑤	
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次				地域創生事業論⑥	

第２クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）③		
	３年次				地域創生事業論⑦	
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次				地域創生事業論⑧	

第２クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導日）④		
	３年次				地域創生事業論⑨	
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次				地域創生事業論⑩	

第２クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）⑤		
	３年次				地域創生事業論⑪	
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次				地域創生事業論⑫	

第２クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）⑥		
	３年次				地域創生事業論⑬	
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次				地域創生事業論⑭	

第２クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次				地域創生事業論⑮	
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（12　教授　古川康造）

第３クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（12　教授　古川康造）

第４クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）①		
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）②		
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）③		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）④		
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）⑤		
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）⑥		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（13 講師　阿部有香）

第１クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論①				
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(1)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論②				

第１クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論③				
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(2)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論④				

第１クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論⑤				
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(3)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論⑥				

第１クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論⑦				
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(4)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次	観光実務マネジメント論⑧				

第１クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					観光実務基礎論①
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(5)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					観光実務基礎論②
	３年次					

第１クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					観光実務基礎論③
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(6)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					観光実務基礎論④
	３年次					

第１クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					観光実務基礎論⑤
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(7)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					観光実務基礎論⑥
	３年次					

第１クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					観光実務基礎論⑦
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(8)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					観光実務基礎論⑧
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（13 講師　阿部有香）

第２クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	1限 9：00～10：30	2限 10：40～12：10	3限 13：00～14：30	4限 14：40～16：10	5限 16：20～17：50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次					
	3年次		専門演習(9)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第２クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	1限 9：00～10：30	2限 10：40～12：10	3限 13：00～14：30	4限 14：40～16：10	5限 16：20～17：50
月	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	3年次					
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）①		
	3年次		専門演習(10)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第２クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	1限 9：00～10：30	2限 10：40～12：10	3限 13：00～14：30	4限 14：40～16：10	5限 16：20～17：50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）②		
	3年次		専門演習(11)			
木	1年次					
	2年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第２クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	1限 9：00～10：30	2限 10：40～12：10	3限 13：00～14：30	4限 14：40～16：10	5限 16：20～17：50
月	1年次					
	2年次					
	3年次					
火	1年次					
	2年次					
	3年次					
水	1年次					
	2年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）③		
	3年次		専門演習(12)			
木	1年次					
	2年次					
	3年次					
金	1年次					
	2年次					
	3年次					

第２クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）④		
	３年次		専門演習(13)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）⑤		
	３年次		専門演習(14)			
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅱ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅱ（学内指導）⑥		
	３年次		専門演習(15)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第２クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(16)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（13 講師　阿部有香）

第３クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論①				
	２年次				観光実務発展論①	
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論②				
	２年次					
	３年次		専門演習(17)			
木	１年次					
	２年次				観光実務発展論②	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論③				
	２年次				観光実務発展論③	
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論④				
	２年次					
	３年次		専門演習(18)			
木	１年次					
	２年次				観光実務発展論④	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑤				
	２年次				観光実務発展論⑤	
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑥				
	２年次					
	３年次		専門演習(19)			
木	１年次					
	２年次				観光実務発展論⑥	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	1限	2限	3限	4限	5限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑦				
	２年次				観光実務発展論⑦	
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次	観光支援ビジネス実務基礎論⑧				
	２年次					
	３年次		専門演習(20)			
木	１年次					
	２年次				観光実務発展論⑧	
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次		観光実務応用論①			
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(21)			
木	１年次					
	２年次		観光実務応用論②			
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次		観光実務応用論③			
	３年次					
水	１年次			臨地実務実習Ⅰ（学内指導）①		
	２年次					
	３年次		専門演習(22)			
木	１年次					
	２年次		観光実務応用論④			
	３年次					
金	１年次	臨地実務実習Ⅰ（巡回指導日）				
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次	臨地実務実習Ⅰ（巡回指導日）				
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次		観光実務応用論⑤			
	３年次					
水	１年次			臨地実務実習Ⅰ（学内指導）②		
	２年次					
	３年次		専門演習(23)			
木	１年次					
	２年次		観光実務応用論⑥			
	３年次					
金	１年次	臨地実務実習Ⅰ（巡回指導日）				
	２年次					
	３年次					

第３クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次		観光実務応用論⑦			
	３年次					
水	１年次			臨地実務実習Ⅰ（学内指導）③		
	２年次					
	３年次		専門演習(24)			
木	１年次					
	２年次		観光実務応用論⑧			
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料66　専任教員個人別時間割（13 講師　阿部有香）

第４クォーター　　（第１週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論①			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次		専門演習(25)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論②			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第２週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論③			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）①		
	３年次		専門演習(26)			
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論④			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第３週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
日	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑤			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）②		
	３年次		専門演習(27)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑥			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第４週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑦			
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）③		
	３年次		専門演習(28)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次		観光支援ビジネス実務発展論⑧			
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第５週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）④		
	３年次		専門演習(29)			
木	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第６週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
火	１年次					
	２年次	臨地実務実習Ⅲ（巡回指導日）				
	３年次					
水	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）⑤		
	３年次		専門演習(30)			
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第７週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次			臨地実務実習Ⅲ（学内指導）⑥		
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

第４クォーター　　（第８週）

曜日	年次生	１限	２限	３限	４限	５限
		９：００～１０：３０	１０：４０～１２：１０	１３：００～１４：３０	１４：４０～１６：１０	１６：２０～１７：５０
月	１年次					
	２年次					
	３年次					
火	１年次					
	２年次					
	３年次					
水	１年次					
	２年次					
	３年次					
木	１年次					
	２年次					
	３年次					
金	１年次					
	２年次					
	３年次					

資料67専任教員の授業担当コマ数一覧

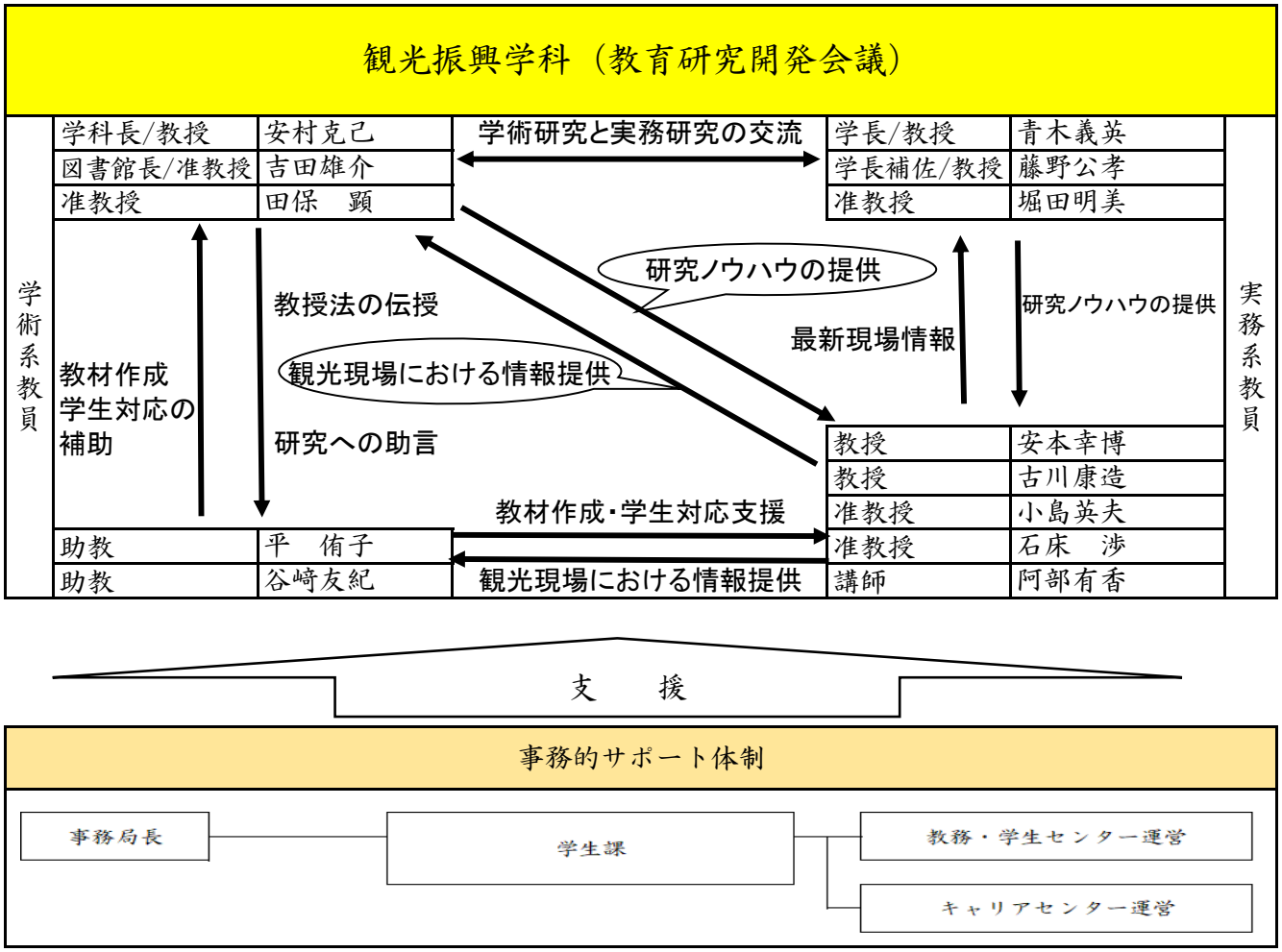
専任教員の授業担当コマ数一覧

※ は臨地実務実習期間で、巡回指導（移動時間を含む）及び学内指導を、授業担当コマ数に換算している。

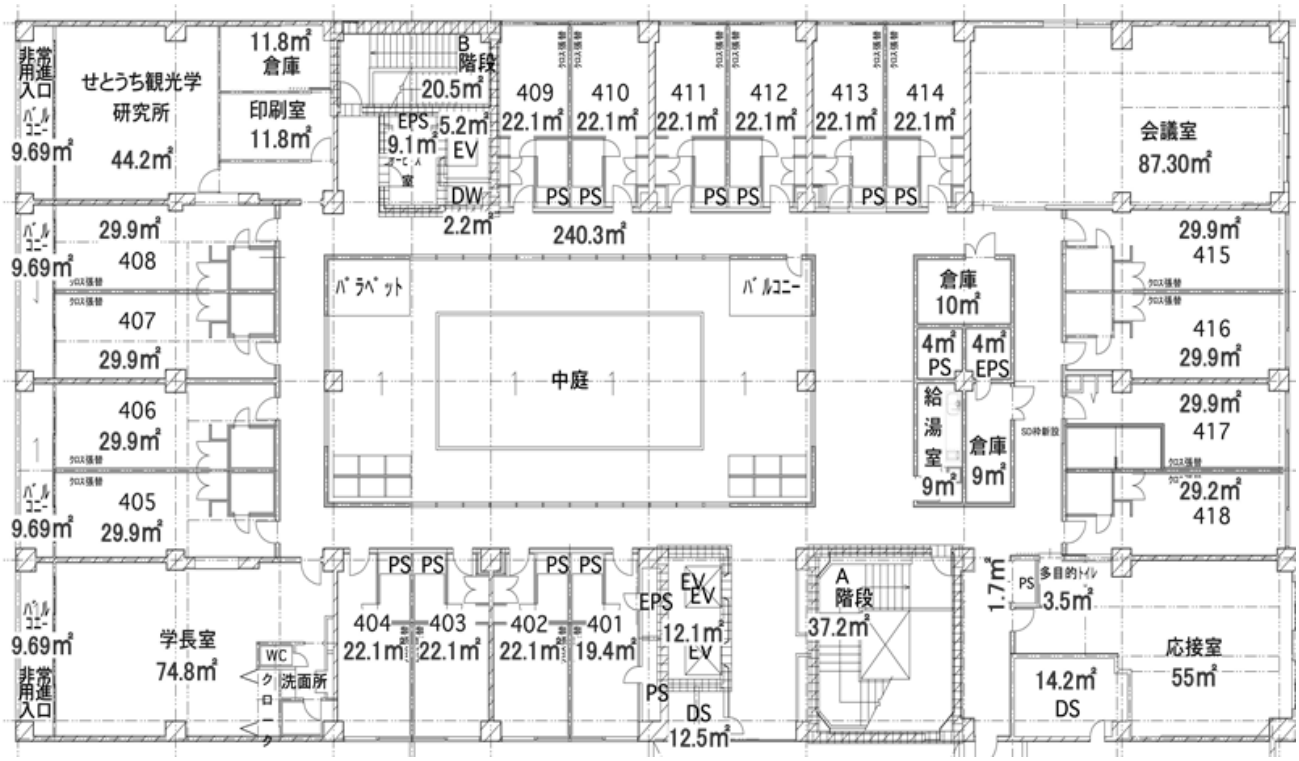
区分	クォーター		第1クォーター									第2クォーター									年間
	週		1	2	3	4	5	6	7	8	平均	1	2	3	4	5	6	7	8	平均	総コマ数
	専任教員氏名	年齢																			
学術系教員	安村克己		6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	4	4	4	4	4	4	4	2	3.8	120
	吉田雄介		8	8	8	8	8	8	8	5	7.6	6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	120
	田保　顕		2	2	2	2	2	2	2	2	2.0	6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	90
	平　侑子		8	8	8	8	8	8	8	5	7.6	6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	120
	谷﨑友紀		8	8	8	8	8	8	8	5	7.6	6	6	6	6	6	6	6	3	5.6	120
実務系教員	安本幸博		5	5	5	5	5	5	5	4	4.9	4	15	12	2	15	12	2	1	7.9	206
	小島英夫		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	1	12	17	12	12	17	12	1	10.5	216
	石床　渉		3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	5	16	11	6	16	11	6	3	9.3	208
	青木義英		4	4	4	4	4	4	4	2	3.8	2	18	3	3	18	3	3	1	6.4	102
	藤野公孝		5	5	5	5	5	5	5	3	4.8	3	3	3	3	3	3	3	2	2.9	90
	堀田明美		4	3	3	4	3	3	3	3	3.3	5	16	14	9	16	14	9	3	10.8	208
	古川康造		0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	2	13	8	3	13	8	3	1	6.4	87
	阿部有香		3	3	3	3	3	3	3	3	3.0	1	12	12	2	12	12	2	1	6.8	188

区分	クォーター		第3クォーター									第4クォーター									平均コマ数
	週		1	2	3	4	5	6	7	8	平均	1	2	3	4	5	6	7	8	平均	
	専任教員氏名	年齢																			
学術系教員	安村克己		4	4	4	4	4	4	4	2	3.8	2	2	2	2	2	2	2	1	1.9	3.8
	吉田雄介		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	1	1	1	1	1	1	0	0	0.8	3.8
	田保　顕		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	3	3	3	3	3	3	2	1	2.6	2.8
	平　侑子		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	1	1	1	1	1	1	0	0	0.8	3.8
	谷﨑友紀		1	1	1	1	1	1	1	1	1.0	1	1	1	1	1	1	0	0	0.8	3.8
実務系教員	安本幸博		5	5	5	5	3	9	9	4	5.6	6	7	14	9	15	7	1	0	7.4	6.4
	小島英夫		3	3	3	3	1	7	12	2	4.3	3	14	19	14	12	17	11	0	11.3	6.8
	石床　渉		5	5	5	5	3	9	14	4	6.3	3	14	9	9	12	12	1	0	7.5	6.5
	青木義英		2	2	2	2	2	2	2	1	1.9	0	1	1	1	1	1	1	0	0.8	3.2
	藤野公孝		3	3	3	3	3	3	3	2	2.9	1	1	1	1	1	1	0	0	0.8	2.8
	堀田明美		4	3	3	4	1	7	12	3	4.6	3	4	17	12	12	10	1	0	7.4	6.5
	古川康造		0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	11	6	1	11	6	1	0	4.5	2.7
	阿部有香		5	5	5	5	3	9	14	4	6.3	3	14	14	4	12	12	1	0	7.5	5.9

資料68 観光振興学科内の連携・協力体制

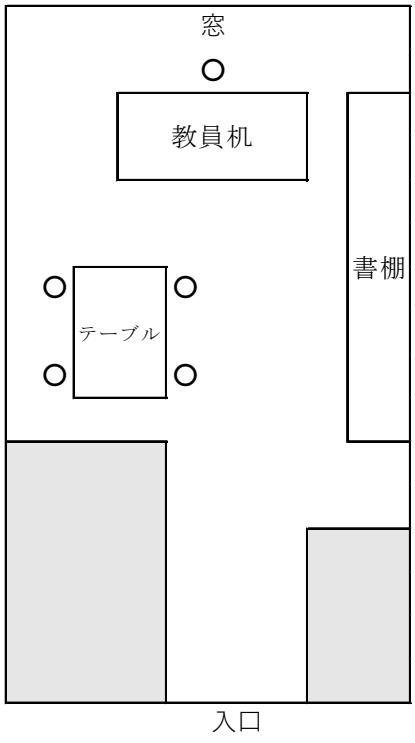


資料 69　校舎４階及び教員研究室内部レイアウト図



401	吉田研究室	405	藤野研究室	409	谷﨑研究室	413	阿部研究室
402	古川研究室	406	安村研究室	410	平研究室	414	小島研究室
403	堀田研究室	407	安本研究室	411	石床研究室	415・416	演習室
404	青木研究室	408	演習室	412	田保研究室	417・418	演習室

（教員研究室内部レイアウト）



資料70 臨地実務実習施設指導者の実務経験年数一覧

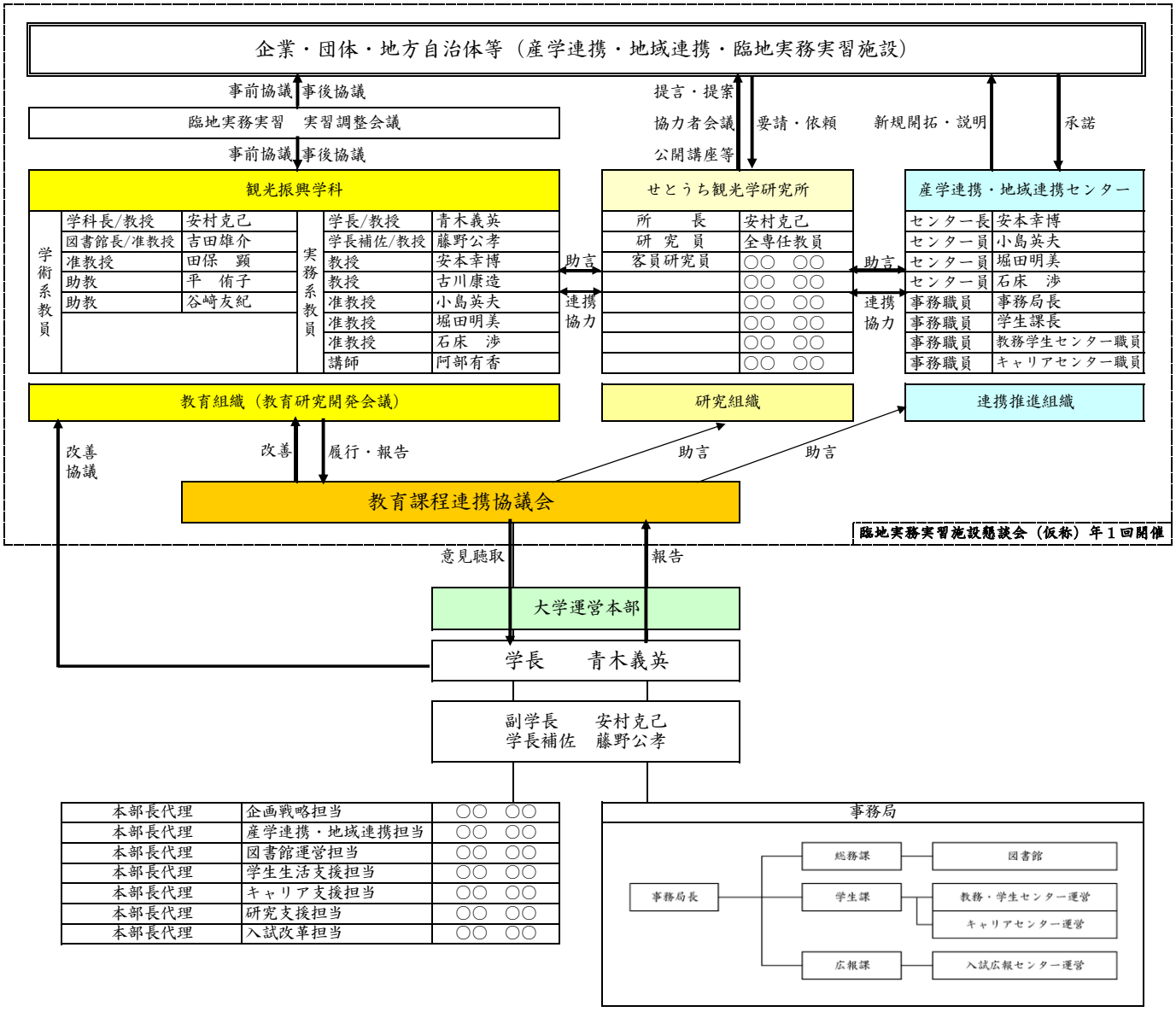
施設名	実務経験年数			
	指導者1	指導者2	指導者3	指導者4
石丸製麺株式会社	26年			
かがわ物産館　栗林庵	6年	6年	6年	4年
クアパーク津田	28年	27年	7年	
スカイファーム	6年	14年	23年	
セカンドステージ	11年	11年	8年	
瀬戸内こえびネットワーク	8年	6年	5年	
高松空港株式会社	20年	30年	20年	18年
高松市美術館	24年			
高松丸亀町商店街振興組合	20年			
史跡高松城跡　玉藻公園	13年	13年		
日本ドルフィンセンター	16年	11年	10年	
道の駅源平の里むれ	13年	13年	4年	
道の駅香南楽湯	15年	13年		
道の駅しおのえ	18年	15年	7年	
栗林公園観光事務所	33年	29年	36年	
琴参閣	40年	21年	10年	
Kotori	8年	4年		
讃岐まんのう公園	5年			
敷島館	5年	8年	4年	
中野屋	13年	36年	6年	
にしきや	23年			
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	6年			
丸亀市観光協会	11年	10年		
株式会社レオマユニティー	9年			
父母ヶ浜海水浴場施設（父母ヶ浜ポート）	24年	24年	15年	
株式会社Ｄｒａｗｏｒｔｈ	5年	15年	20年	
三豊市観光交流局	11年	9年		
三豊鶴	5年	5年	5年	
井上誠耕園	10年			
寒霞渓ロープウェイ	9年	15年		
小豆島オリーブ園	31年	28年	25年	
小豆島観光協会	5年			
土庄港観光センター	21年			
二十四の瞳映画村	16年	13年	13年	
道の駅小豆島オリーブ公園	13年			
ＭｅｉＰＡＭ	6年			
直島町観光協会	8年	26年		
ANA沖縄空港株式会社	8年	5年		
ANA福岡空港株式会社	20年	25年	23年	
株式会社エスエーエス福岡空港事務所	12年	9年		
株式会社エスエーエス小牧空港事務所	13年	9年		
株式会社エスエーエス富士山静岡空港事務所	10年	9年		
株式会社Ｋスカイ	21年			
空港ターミナルサービス株式会社	21年	19年		
JALスカイエアポート沖縄株式会社	15年			
ジェットスター・ジャパン株式会社成田空港支店	21年	8年		
四国航空株式会社	7年	14年		
高松琴平電気鉄道株式会社（高松築港駅）	30年	27年		
高松琴平電気鉄道株式会社（瓦町駅）	30年	27年		
高松琴平電気鉄道株式会社（運転営業所）	30年	27年		
高松琴平電気鉄道株式会社（栗林本社）	25年	13年		
高松琴平電気鉄道株式会社（コトデン瓦町ビル）	10年	6年		
ことでんバス株式会社（高松空港バス乗降場）	39年			
ことでんバス株式会社（高松駅バスターミナル）	39年			
四国旅客鉄道株式会社（高松駅）	42年	42年	18年	38年
四国旅客鉄道株式会社（研修センター）	23年	38年		
四国旅客鉄道株式会社（本社）	38年			
四国キヨスク株式会社 丸亀駅店	13年			
四国キヨスク株式会社 坂出駅店	5年	11年		
四国キヨスク株式会社 宇多津駅店	7年			
加賀屋姉妹館　あえの風	12年			
アオアヲナルトリゾート	19年			
淡路夢泉景	13年			
ウェスティンホテル淡路	37年	28年	19年	
ウェスティンホテル大阪	19年	13年	9年	
海のホテル島花	10年			
加賀屋	19年			
喜代美山荘花樹海	30年	10年	10年	
琴平花壇	9年	4年		
琴平グランドホテル　桜の抄	12年	14年		
こんぴら温泉湯元八千代	20年	13年		
ＪＲホテルクレメント高松	18年	18年		
小豆島国際ホテル	11年			

○経験年数分布

実務経験年数	人数
４年	5 名
５年～９年	41 名
10年～14年	45 名
15年～19年	21 名
20年～24年	26 名
25年～29年	16 名
30年以上	19 名

施設名	実務経験年数			
	指導者1	指導者2	指導者3	指導者4
シェラトン都ホテル大阪	21年			
高松国際ホテル	22年			
チサングランド高松	29年			
ハイアットリージェンシー大阪	10年			
ハイアットリージェンシー京都	23年	19年		
ベイリゾートホテル小豆島	15年			
ホテルニューアワジ	12年			
ホテルニューオータニ大阪	24年			
湯元こんぴら温泉　華の湯　紅梅亭	24年	10年		
リーガホテルゼスト高松	25年			
リゾートホテルオリビアン小豆島	21年	11年		
ロイヤルパークホテル高松	21年			
穴吹トラベル	13年	11年		
イーストとくしま観光推進機構	5年			
そらの郷	10年	15年	10年	
金沢市経済局営業戦略部観光政策課 （金沢市観光協会）	28年	23年		
琴平バス株式会社高松営業所	7年	6年		
せとうち観光推進機構	36年			

資料71　臨地実務実習等に関する組織体制図



資料 72　臨地実務実習に関する業務担当表

項目番号	役割・業務		実習運営委員会												臨地実務実習施設	
			学科長	実習担当教員（実務系専任教員）							学術系専任教員		事務職員		責任者	指導者
			安村	青木	安本	堀田	石床	小島	阿部	古川	平	谷﨑	A	B	ＳＫ	ＳＤ
①	実習運営委員会		委員長	運営、指導、成績評価							授業設計支援		諸手続			
②	実習調整会議（事前協議）		総括	○	○	○	○	○	○	○	実務家教員の補助業務		○	○	◎	◎
③	事前学修科目	ホスピタリティ実務実習A				１年２Ｑ					授業準備支援					
		ホスピタリティ実務実習B					１年２Ｑ				授業準備支援					
		観光支援ビジネス実務基礎論			１年３Ｑ	１年３Ｑ	１年３Ｑ	１年３Ｑ	１年３Ｑ		授業準備支援					
		観光実務基礎論			２年１Ｑ		２年１Ｑ		２年１Ｑ		授業準備支援					
		観光実務応用論			２年３Ｑ		２年３Ｑ		２年３Ｑ		授業準備支援					
④	実習指導（実習施設）														○	◎
⑤	臨地実務実習活動報告	臨地実務実習Ⅰ			１年３Ｑ	１年３Ｑ	１年３Ｑ	１年３Ｑ	１年３Ｑ		学生の生活面の支援		報告書整理・確認補助			確認
		臨地実務実習Ⅱ		２年２Ｑ	２年２Ｑ	２年２Ｑ	２年２Ｑ	２年２Ｑ	２年２Ｑ	２年２Ｑ	学生の生活面の支援		報告書整理・確認補助			
		臨地実務実習Ⅲ		２年４Ｑ	２年４Ｑ	２年４Ｑ	２年４Ｑ	２年４Ｑ	２年４Ｑ	２年４Ｑ	学生の生活面の支援		報告書整理・確認補助			
⑥	臨地実務実習巡回指導	臨地実務実習Ⅰ			１年３Ｑ	１年３Ｑ	１年３Ｑ	１年３Ｑ	１年３Ｑ							◎
		臨地実務実習Ⅱ		２年２Ｑ	２年２Ｑ	２年２Ｑ	２年２Ｑ	２年２Ｑ	２年２Ｑ	２年２Ｑ						
		臨地実務実習Ⅲ		２年４Ｑ	２年４Ｑ	２年４Ｑ	２年４Ｑ	２年４Ｑ	２年４Ｑ	２年４Ｑ						
⑦	成績評価（実習施設）															◎
⑧	成績評価（本学）			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎						
⑨	実習中の連絡		有事対応	○	○	○	○	○	○	○	有事対応	有事対応	連絡支援	連絡支援	○	○
⑩	事後学修科目	観光支援ビジネス実務発展論			１年４Ｑ	１年４Ｑ	１年４Ｑ	１年４Ｑ	１年４Ｑ		授業準備支援		報告書整理・確認補助			
		観光実務発展論			２年３Ｑ		２年３Ｑ		２年３Ｑ		授業準備支援		報告書整理・確認補助			
		観光実務マネジメント論			３年１Ｑ		３年１Ｑ		３年１Ｑ		授業準備支援		報告書整理・確認補助			
⑪	実習調整会議（事後協議）		総括	○	○	○	○	○	○	○	実務科教員の補助業務		○	○	◎	◎
開設時の年齢			66	72	61	65	51	68	51	64	34	31				

◎は本人が参加しなければない会議・役割、○は分担して参加する会議・役割

※この他、事務局学生課（教務学生センター、キャリアセンター）が業務全般のサポート業務を行う。

1. 設置の趣旨等を記載した書類

資料 73　立教大学 大学基礎データ 2016 年度（抄）

2. 出典

大学基礎データ（2016 年度作成）　（表３８）専任教員の担当授業時間（学部）

3. https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/evaluation/qo9edr0000007zn5-att/38.pdf

資料 74　教員の１週間の平均担当授業時間数の比較表

区　分	せとうち観光専門職短期大学観光振興学科			立教大学観光学部	
	職位	氏名	1週間の平均担当授業時間数	職位別平均時間数	全体平均時間数
臨地実務実習担当実務家教員	教授	安本幸博	12.8	14.5	13.7
	准教授	小島英夫	13.6	17.3	13.7
	准教授	石床　渉	13.0	17.3	13.7
	教授	青木義英	6.4	14.5	13.7
	准教授	堀田明美	13.0	17.3	13.7
	教授	古川康造	5.4	14.5	13.7
	講師	阿部有香	11.8	13.0	13.7
学術系教員	教授	安村克己	7.6	14.5	13.7
	准教授	吉田雄介	7.6	17.3	13.7
	准教授	田保　顕	5.6	17.3	13.7
	助教	平　侑子	7.6	10.0	13.7
	助教	谷﨑友紀	7.6	10.0	13.7
実務家教員(非実習)	教授	藤野公孝	5.6	14.5	13.7

資料 75 臨地実務実習における実習調整会議等のプロセス

